サクがシュートな宣戦布告！ 渦中の田村潔司を独占直撃!!

MMA & PRO-WRESTLING MAGAZINE

880 yen

紙のプロレス RADICAL

WANIMAGAZINE MOOK

2·20『PRIDE.29』徹底特集

PRIDE王座奪取へもう止まらない！
独占インタビュー
ミルコ・クロコップ

ヘビー級戦線に嵐を呼ぶ男！
セルゲイ・ハリトーノフ

ミルコ家に住む柔術世界王者とは何者か!?
ファブリシオ・ヴェウドゥム

"大会場プロレス"の概念を変える！
3·18ハッスル両国総力特集!!

"しょっぱいチキン"返上なるか？
キャプテン、どん底からの咆哮！
小川直也
川田利明

"土俵入り"待ったなし！ 対談
ハッスルRIKISHI × KONISHIKI

"皇帝"の首を狙うのはミルコだけじゃない！
ついにこの男もPRIDE王座に名乗り!!

ロシア人（ヒョードル）はロシア人（ハリトーノフ）が始末する!!

起爆剤か、時限爆弾か？
語ろう！ 前田日明復活、
37P大特集!!
浅草キッド／上井文彦
坂田亘／滑川康仁
武内愬（日本空手道環名館代表師範）

WWE TVショー日本初上陸特集
トリプルH
レイ・ミステリオ
特別寄稿"HBK"草野仁

蘇れ！ ジャイアント馬場伝説座談会
和田京平 × ターザン山本！ × 市瀬英俊

84
2005

紙のプロレスRADICAL NO. 84
3·18ハッスル両国発進!!

発売元：（株）ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：（株）ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュノ2F 電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価：本体838円＋税

PRIDE 2005開幕早々

因縁ボッ発三昧!!



ミルコ完勝！改めてヒョードル戦をアピール!!

ハリトーノフもヘビー級王座へ名乗り！

柔道金メダリスト・ナツラPRIDE参戦！

サク、田村にシュートな宣戦布告!!

シウバ、GP1回戦の相手に吉田を指名!!

ショーグンvsランペイジ怪物対決実現へ——

誰が一番強いか決めたらええんや!



PRIDE王座挑戦への〃最終関門〃マーク・コールマン撃破!!

もう俺はヒョードルを逃がさない!

MIRKO CRO COP



ミルコ・クロコップ

**覇王ミルコがPRIDE制圧へついに王手！
PRIDEヘビー級王座を求め、これまで生き急ぐかのように驚異的なペースで試合をこなしきたミルコが、“最終関門”コールマンをKO。いよいよ、念願のヒョードル戦を手中にした。あとはヒョードルの返答を待つばかり。心技体が充実したミルコの咆哮を聞け！**

聞き手／堀江ガンツ　撮影／乾晋也　designed by hisa（Two Three）

2.20 PRIDE.29 さいたまスーパーアリーナ
◯ミルコ・クロコップ［1R3分42秒／KO］マーク・コールマン×
［チーム・クロコップ］　［ハンマーハウス］

ヒョードルには早く決めろと言いたい。ボクシングなら王座剥奪ものだ

――ミルコさん、一昨日は、コールマン戦勝利おめでとうございます！　完勝だと思いますが、ご自身の満足度はどのくらいでしょうか？

ミルコ　戦略通りの試合展開だった。とても満足しているよ。

――あのコールマンから一度もテイクダウンを奪わせなかったわけですけど、やはりタックル対策には自信がありましたか？

ミルコ　もちろん。スプロール（タックルを切る技術）はこれまで気が遠くなるほど磨いてきた。ただ今回、彼のタックルを完璧に防げたのは、切る技術だけじゃない。テークダウンを取られたとしても、それならグラウンドで勝負してやろうという心の余裕が、完全に彼のタックルを見切る間合いにつながったと思っている。

――寝技になったら、逆にサブミッションでタップを奪ってやろうと思っていたわけですか？

ミルコ　ああ。だから結果的にパンチでKO勝ちとなったが、本当は俺はグラウンドに行く展開を望んでいたし、グラウンドで極めたかった。俺はサブミッションでも勝てるところを見せたかったんだ。

――ヒョードルが昨年の『PRIDE・GP』1回戦で、コールマンからテイクダウンを奪われながらも、下からの腕十字で逆転勝ちましたよね。やはり、それを意識したわけですか？

ミルコ　してないと言ったらウソになるかな。コールマンと闘えば、嫌でもヒョードル戦と比較されるだろうとは思っていた。そして、ヒョードルは大振りのパンチを振り回して、コールマンにテイクダウンを許し、バックまで奪われた。それに対し、俺はどうだったか。まぁ、俺とヒョードルが試合をしたときの展開をファンが想像するには、格好の材料になったんじゃないか？（ニヤリ）

――コールマン戦のヒョードルより、今日のミルコ選手が上回っていたのは、ご自身ではどこだと思いますか？

ミルコ　スピードだろう。お互い試合時間は短かったが、それだけはわかったんじゃないのか。あとは、直接ヒョードルと闘ったときにわかることだ。

――そのヒョードルとのタイトルマッチですけど、ヒョードル側の契約がまとまらないのか、なかなか正式決定しませんが、それに対するイラダチはありませんか？



実に落ち着いていたこの日のミルコ。序盤からKOを急ぐことなく、間合いをキープ。コールマンのタックルを実に6度も切ってみせた。そしてコールマンに鵜打つ手がなくなったところに、シャープな左ストレートからアッパーでKO！　まさに完勝だった。



ミルコ　メディアからも、彼に言ってくれ。早く決めろ……と。

――もしヒョードルが6月のタイトル戦に難色をしめしたら、ヒョードルの希望する期日まで、待つつもりはありますか？

ミルコ　ないね。『PRIDE』だって、プロモーターとしての名に懸けて、決めてくれると思う。ボクシングの世界なら、タイトル剥奪だってありうることだからね。

――そうですよね。挑戦者のミルコさんに前哨戦を何試合やらせるんだって話ですからね（笑）。そもそも、もうタイトル挑戦の資格は得ているんだから、今回もリスクを背負ってコールマンとやる必要もなかったように思うんですけど、ミルコ選手にとってコールマン戦の最大のテーマはなんだったんですか？

ミルコ　何回も言っている通り、俺にとっての04年4月25日のKO負け（ケビン・ランデルマン戦）は、これから何十勝しようとも、その積み上げられる勝ち星と同じくらい重たい屈辱的な負けなんだ。その汚名を晴らすには……、あの左フックがラッキーパンチだったということを証明するには、ケビンにリベンジするだけではまだ8合目。俺に対する作戦をケビンに授けたと高らかに豪語したマークまで、きっちりと叩きのめしてやっと完結したということ。執念と意地で、10ヶ月かかってやっと、本当に借りを返したんだ。マークの「左ハイキックだけに注意すれば、ミルコは怖くない」という言葉があったからこそ、今回、俺は意地でも左ハイキックは、出さないと決めていたしね。

――試合前、コールマンとは、舌戦が展開されていましたが、闘い終わったいま、彼をどのように評価していますか？

ミルコ　コールマンとは、これからはいい友人になれるのではないかな。これから『PRIDE』もアメリカに進出していくわけだし、彼のような存在は、『PRIDE』にとって貴重だと思う。それから、あの力の強さは、まだまだ様々な相手に通用すると思うし、初代GP王者という称号は永久に残るわけだから、気持ちを切らずに頑張って欲しいと思う。

――コールマンも試合後、ミルコ選手の実力を認めると同時に、まだまだ闘い続けることを宣言していました。盟友ランデルマンはミルコ選手との再々戦を要求しているようですが？

ミルコ　それはもっと先の話でいいだろう。ハンマーハウスとの因縁は、一応これで幕を下ろすことになるだろうね。ただ、ケビ

MIRKO CRO COP

PRIDE 2005 開幕
誰が一番強いか決めたらええんや!



コールマンに完勝したミルコはこの日もマイクを握り叫んだ。「エメリヤーエンコ・ヒョードル、ユーアー、ネクスト！」。ヘビー級タイトルマッチまで、もう待ったなしだ。

ンとマークがいるジムなのであれば、またとんでもない化け物のような若いファイターが出てきて、俺やファブリシオに挑戦をしてくるなんてことにつながるのではないか？　それがまた、『ＰＲＩＤＥ』の発展のためにもいいことだと思うし。

——そのファブリシオですが、ＰＲＩＤＥデビュー戦でいきなり強豪トム・エリクソンに快勝しました。あの試合について、ミルコさんの感想を聞かせてください。点数をつけるとどのくらいですか？

ミルコ　勝ってくれて、とりあえずほっとしてるよ。ファブリシオの実力は俺自身が一番よく知っているが、実はあいつは試合前にケガをしてしまったんだ。

——え!?　どこをケガしたんですか？

ミルコ　昨年8月の俺と同じように、最後の調整の時点、10日前くらいかな……、スパーリング中に右膝の内側靭帯と十字を怪我したんだ、やつは。試合前のドクターチェックで、ドクターから触診でもう、水が溜まって、皿がゆるくなっていたのを指摘されるくらいの怪我だった。それを乗り越えたんだから、デビュー戦としては、満点じゃないか？

——はぁ〜、それほどのケガでエリクソンに勝つとは、ホント凄いですねぇ。ファブリシオに続いて、近々『ＰＲＩＤＥ』デビューができそうな選手はまだ、クロコップ・チームにいるんですか？

ミルコ　もう準備はできているよ。いきなりトップどころというのは難しいと思うが、やつらを『ＰＲＩＤＥ武士道』でデビューさせてやってほしい。試合でしかできない経験というものは多いのだからね。実は俺とファブリシオ以外にも、3人のメンバーがこの間、試合をやったんだ。

——どこで試合をしたんですか？

ミルコ　クロアチアの隣国スロベニアのプロモーターが、自分のところの一番強いやつ3人と、俺のチームの3人で対抗戦をやろうと挑戦してきたんだ。

——チーム・クロコップとの3vs3対抗戦ですか！

ミルコ　ずいぶん無茶なやつだなとは思ったけど、どんな試合も経験になるのだから、受けてやった。（不敵に笑う）

——結果はどうだったんですか？

ミルコ　ウチのイゴール、ドマゴイ、サシャの3人とも、1ラウンド30秒ぐらいで、相手をボコボコにして、安いながらファイトマネーをもらってザグレブに帰ってきたよ。俺も会場には行ったんだが、意外にも1500人くらいお客さんが入っていたのに、あまりの早さに全員シーンとなってしまって、少し笑いそうになったね(笑)。

——それにしても全員秒殺勝利ですか。それは一刻も早く『ＰＲＩＤＥ』で見たいですねぇ。

ミルコ　まぁ、秒殺と言っても相手はバウンサーに毛が生えたようなヤツもいたし、本来なら毎日厳しいトレーニングを積んでいる我々と闘うような相手じゃなかったからな。俺も早く『ＰＲＩＤＥ』のようなハイレベルな舞台で闘わせてやりたいとは思っているよ。

——チーム・クロコップは今後さらにメンバーが増える予定はありますか？

ミルコ　もちろんだ。門戸は開いている。「俺は強い！」と思うやつは、いつでも来てくれ。

——では、ミルコ選手の今後の予定を聞かせていただきたいのですが、4月に試合をする可能性はあるのでしょうか？

ミルコ　すべてヒョードルの返答次第だ。予定通り6月にヒョードル戦なら、試合はしない。じっくりと調整する。

——一部で「4月にＵＦＣ出場へ——」という報道がされましたが、その可能性はありますか？

ミルコ　報道されたのか？　知らなかったな。ただ、参戦の可能性についてはノーコメントとしておこう。ＵＦＣに対する興味は否定しないけどね。

——なぜＵＦＣに興味を持ったんですか？

ミルコ　ＵＦＣには以前から興味があったよ。俺がもっともほしいのはＰＲＩＤＥのベルトだが、自分の世界最強を証明するのに、ＰＲＩＤＥのベルトをとった後で、「でもＵＦＣのチャンピオンとやったらどうなんだ？」と言われてしまうのでは、何の意味もないからな。ただ、「ＰＲＩＤＥ最強」＝「世界最強」だと自分は信じているけどね……。

——じゃあ、いまはＰＲＩＤＥのベルト奪取が最優先と。今後、ヒョードル戦に向けて、なにか特別な練習をする予定はありますか？

ミルコ　ないね。もう何をしなくてはいけないのか、はっきり分かっているから。

——ちなみにヘビー級トップクラスのひとり、ハリトーノフの試合をごらんになった感想はなにかありますか？

ミルコ　今回の試合は、ちょっと相手がかわいそうだったな。

——ハリトーノフもヘビー級王座挑戦を口にして、ミルコ選手との対戦も辞さない構えのようですが？

ミルコ　その気持ちだけはリスペクトしよう。たとえ無謀であっても、やってみなければ、何もわからないのだから……。やつは俺と闘ったとき、初めていろいろなことに気付くだろうな。

【05年2月22日／横浜市内・ＣＭ撮影現場にて収録】



セルゲイ・ハリトーノフ

TONOV

この男こそリアル“怖いプロレスラー”
ついにPRIDEヘビー級王座に名乗り!

「ヒョードル、ミルコ、ノゲイラ、誰でもいい。ベルトを持っている奴を倒したいんだ」



盤石の強さを誇る“ヘビー級3強”に割り込む最右翼、
“殺人落下傘”ハリトーノフがついにヘビー級王座戦線に名乗りを挙げた!
半年ぶりの参戦となった2・20『PRIDE・29』では、
“不沈韓”チェ・ム・ベを撃沈。周囲のPRIDEファイターまでもが恐れる
“リアル・怖いプロレスラー”ハリトーノフ、2005年大ブレイク必至だ。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　撮影／乾晋也　designed by hisa (Two Three)

SERGEY KHARI

僕が人を殺しそうだって？ リング上では殺したくないよ

——セルゲイ選手、前回のノゲイラ戦の模様が掲載された雑誌をまだ渡してなかったんで、今日は持ってきました！

ハリトーノフ　スバシーバ！（ハリトーノフTシャツの広告が掲載された『紙プロ』の裏表紙を見て）いや〜、すごくいい表紙だね！

——いや、前も言ったと思うんですけど、それは表紙じゃなくて……。

ハリトーノフ　（聞かずに）やっぱり表紙になると、もっと頑張らなきゃいけないって気合いが入るよ！

——そ、それは何よりです（笑）。それにしても、昨日はパーフェクトな勝利でしたね。

ハリトーノフ　うん、試合には満足しているよ。でも、パーフェクトだったかと聞かれたら、満足いかない点もいくつかあったね。

——あの試合のどこに納得がいかなかったんですか？

ハリトーノフ　もっと試合時間が長くなると見込んで練習してきたんだけど、思ったより相手が早く倒れてしまった。それがちょっと意外だったね。ホントはもっといろんなことを試してみたかったんだけど。

——チェ・ム・ベ選手は打たれ強くてなかなか倒れないことで有名ですけど、それは感じましたか？

ハリトーノフ　打たれ強いのは知ってたし、実際彼は打たれ強かった。でもパンチを当てるべき箇所に当てることができたから、問題はなかったよ。

——昨日のセルゲイ選手からは非常に余裕が感じられたんですが。

ハリトーノフ　まあね。わずか3分ぐらいだったから、残念ながら試合というものを感じる前に終ってしまったんだ。ちょっと不完全燃焼だね（微笑）。

——完勝なのに不完全燃焼ですか！　やはりその余裕はこの半年間のトレーニングから生まれてきたものですか？

ハリトーノフ　そうだね。自分のトレーニングの成果だとお思う。重要なのはよくトレーニングをして、試合中にポイントを掴むことなんだ。

——試合前に相手を睨みつけるのも、ゴング前から精神的に上回るためなんですか？

ハリトーノフ　いやぁ、別に。普通のことだよ（笑）。

——セルゲイ選手は他のファイターから怖がられてる部分があるので、さらにビビらせるためにやってるのかと思ったんですけどね（笑）。周りから「怖い」とか、「人を殺しそう」と言われてるのはご存知ですか？



自称・"優しい顔をした善良なトゥーラ市民"ことハリトーノフ。確かに闘いから離れるとこんな笑顔もみせる。ちなみにハリトーノフが着ているTシャツは紙プロ通販で絶賛発売中！

ハリトーノフ　そんなこと言われてるのかい？　初めて聞いたよ。こんなに優しそうな顔をしてるのに（笑）、理解できない！　ボクは北の国ロシアに住んでいる善良なトゥーラ市民だよ！

——いや、普段のセルゲイ選手はともかく、対戦相手の顔面……というか目に容赦なく鉄槌を振り下ろす姿を見ると、ホントに怖いですよ（笑）。

ハリトーノフ　やはり闘いだから、勝つためにはしょうがないことなんだ。でも、もちろん人は殺したくないし、正直言って相手の選手を殴りたくないときもあるが、僕も負けるわけにはいかないんだ。

——もちろん本当に殺すつもりはないんでしょうけど、試合中に「殺してやる」ぐらいの気持ちで闘うことはないんですか？

ハリトーノフ　リング上では人を殺したくないな。

——「リング上では」ですか（笑）。周りから恐れられてるセルゲイ選手ですけど、セルゲイ選手から見て怖いなと思う選手っていますか？

ハリトーノフ　怖いと思う選手はいないね。試合前、控室にいるとき不安はあるけど。

——試合に勝った後、その不安から解放されるわけですか？

ハリトーノフ　試合後というより、不安は試合が始まると同時に消えるんだ。リング上に立つと、試合のことしか頭になくなるからね。

——そういう精神面も鍛錬してるわけですか？

ハリトーノフ　ボクの場合はやはり、軍隊での様々な任務が精神面の訓練になっているんだと思う。

——でも、その内容は？

ハリトーノ　シークレットだ。

——やっぱり（笑）。では、これは内緒にしないで教えてほしいんですが、昨年8月のGP決勝大会から半年間、一体どのように過ごしていたんですか？

ハリトーノフ　小さなケガをしてしまったので、その治療をしながら、ロシアの小さな大会に出場していたよ。

——その小さな大会というのは、具体的にどのような大会なんですか？

ハリトーノフ　ちょっとした総合格闘技の大会だよ。『PRIDE』のような大きな試合に出るための準備をする試合、自分の実力を試すための試合と言ったらいいかな。

——それは何試合ぐらいされたんですか？

ハリトーノフ　10回ぐらいかな。

——10回も！　もちろん全勝ですか？

ハリトーノフ　もちろん（キッパリ）。

——ロシアには『カジノ・ファイト』というアンダーグラウンドな格闘技大会があると思うんですけど、出場したのはそれとは違うんですか？

ハリトーノフ　『アルバート』のことだね（アルバートというカジノで行われる大会らしい。会場はまさに"地下プロレス"の雰囲気）。その大会は知ってるけど、ボクは出たことはない。あれはファイターとしての第一歩を踏み出したばかりの選手たちが出場する大会なんだ。たしかロシアン・トップチームでは、（ヴォルク・）アターエフがデビューしたばかりのころに出ているはずだよ。

（※かつてインタビューしたヴォルク・ハンによると、後ろ回し蹴りで相手の頭蓋骨

を折ってしまったとのこと）

――『カジノ・ファイト』はアンダーグラウンドというか、凄く危険な雰囲気がする大会ですよね？

ハリトーノフ　それほどアンダーグラウンドというわけじゃないよ。100人ぐらいしか入れないホントに小さな会場でやるんだけど、2000ルーブルぐらいのファイトマネーは出るらしいから、このレベルの大会にしては悪くない。

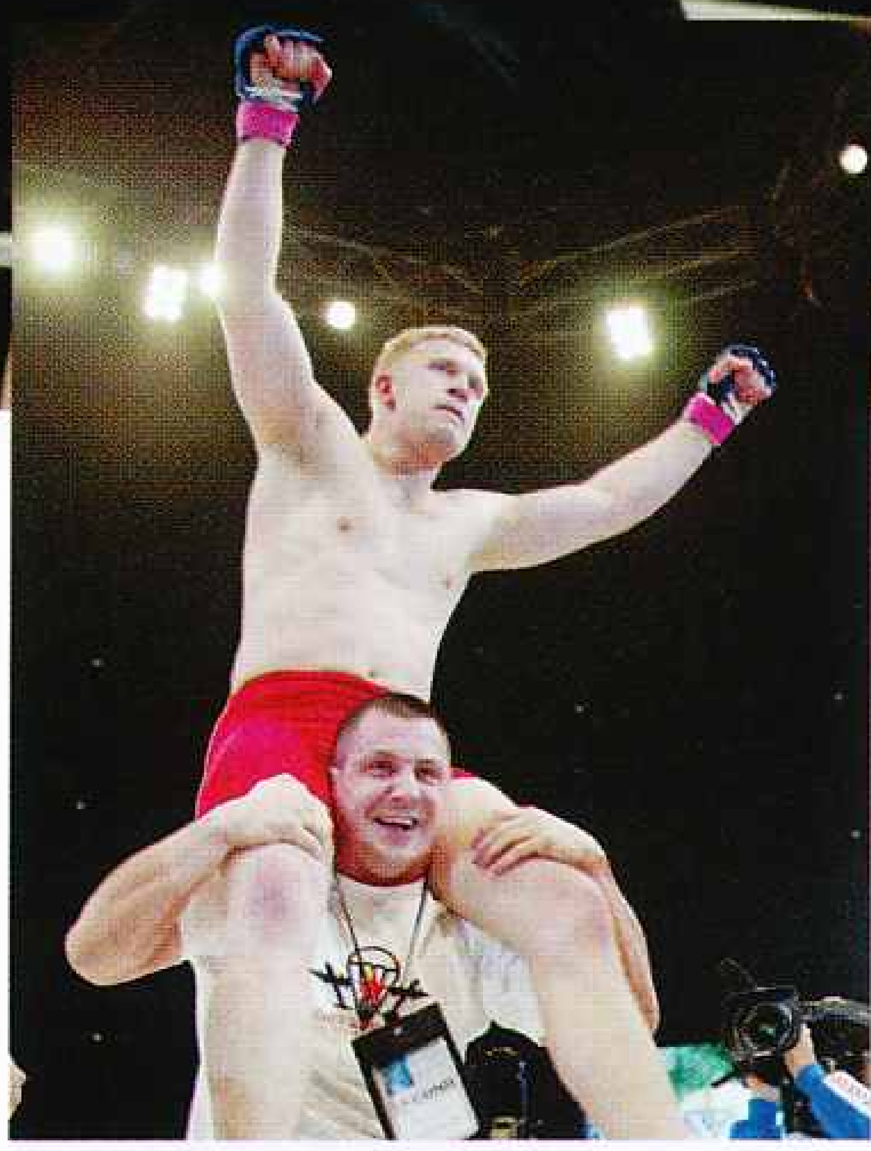
――モスクワには、セルゲイ選手が出るようなレベルの大会が他にあるわけですか？

ハリトーノフ　大きな大会は年に1～2回しかないけど、少しレベルの低い大会はたくさんあるし、コマンドサンボの大会もあるから、自分の技術を試すにはいい機会なんだ。

――今度、セルゲイ選手が出る小さな大会があれば、ゼヒ取材させてほしいですね。

ハリトーノフ　去年は空白の期間があったから自分の実力を試すような試合に出てたけど、今年はもっとたくさん『PRIDE』で試合をするつもりだから、小さな大会に出る機会はないかもしれないな。できるだけたくさん『PRIDE』でキャリアを積みたいんだ。





2.20 PRIDE.29 さいたまスーパーアリーナ

◯セルゲイ・ハリトーノフ［1R3分23秒／KO］チェ・ム・ベ×
［ロシアントップチーム］　［チーム・タックル］

誰でも倒してしまうパンチを持つ男と、どんなパンチを食らっても倒れない男が闘ったらどうなるか？　そんな盾と矛の話のようなこの一戦。勝ったのはハリトーノフの“矛”だった。序盤から積極的にパンチを打ってくるムベ様に対し、ハリは闘牛士のようにひらりと交わしながらカウンターを当てて行く。顔がみるみる腫れ上がりながらもムベ様は奮闘するが、ロープを背負わされての連打を食らうとついに昇天！　見事な完勝をおさめたハリは、試合後ついにPRIDEヘビー級王座取りを宣言した！

SERGEY KHARITONOV

実はこの半年で10試合やってるんだ 今年は『PRIDE』にフル出場したい

――やはりその先には、昨日の試合後に宣言していたPRIDEヘビー級王座獲りがあるわけですか？

ハリトーノフ　もちろん。

――となると、昨日の発言はヒョードルへの挑戦状であると。

ハリトーノフ　ヒョードルに対してというよりも、チャンピオンに対してのものだね。チャンピオンであれば、相手がミルコでも、もちろん挑戦したい。

――ヴォルク・ハンは「ロシア人のチャンピオンは、ロシア人が始末する」と言ってましたが、そういう気持ちはありますか？

ハリトーノフ　ボク自身はあまり気にしていない。もしかしたらミルコがヒョードルを倒すかもしれないし、再びノゲイラが挑戦するかもしれない。もしヒョードルがチャンピオンの間に挑戦できれば、そのときにロシア人同士の対決になる、それだけのことだよ。

――ミルコ・クロコップについては、どのように評価していますか？

ハリトーノフ　非常にいいファイターだと思う。常に自分の得意なパターンに試合を持ち込みつつ、試合をするたびに弱点がなくなっていく。その試合やトレーニングのい挑む姿勢が素晴らしい。ベストファイターの一人といっていいでしょう。

――セルゲイ選手もパンチが得意ですが、ミルコ選手も昨日の試合はパンチでKOしました。彼のパンチをどう思いますか？

ハリトーノフ　ミルコの打撃は本当に素晴らしいが、どちらの打撃がより優れているかは、闘ったときにハッキリするでしょう。

パコージン（RTT総監督）　では、そろそろインタビューを終了してもいいかな。我々はこれから大事な用事があるんだ。

――もしかして買い物ですか？（笑）。

パコージン　……よくわかってるじゃないか（笑）。

――さすが〝アキバ系〟格闘技集団ですね（笑）。じゃあ、パコージンさんにも一つだけ聞いておきたいんですけど、先日、前田日明さんが活動を再開したのはご存知ですか？

パコージン　それについて少しだけ聞いたが、詳しくは知らないんだ。

――プロレスのイベントに協力するようなんですけど、ロシアの選手を出場させたいようです。今後、パコージンさんが前田さんに協力することはありえますか？

パコージン　ないとは言い切れないが、我々はいま『PRIDE』とビジネスをしているので、そういう話は届いていない。もちろん友人としてマエダには成功してもらいたいがね。

――わかりました。では、ごゆっくり、買い物してきてください！

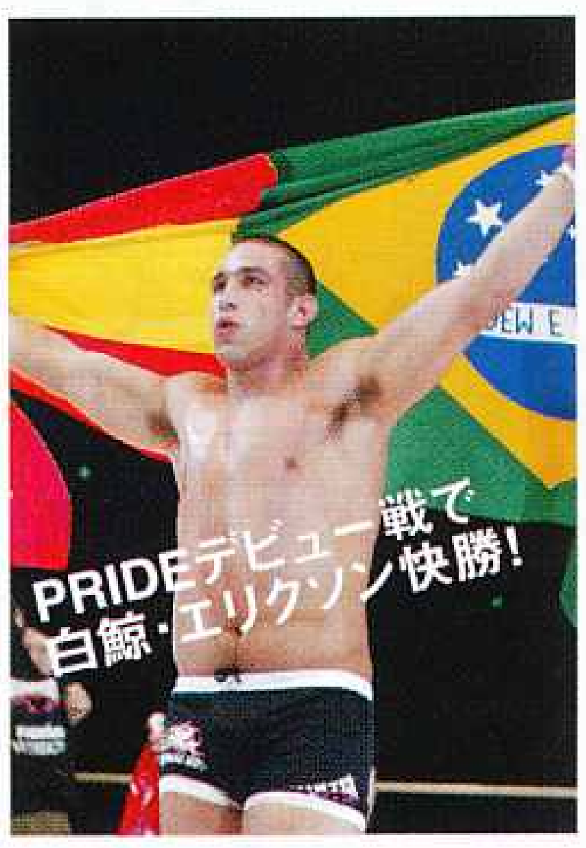
【05年2月21日／都内・某ホテルにて収録】

FABRICIO WERDUM

ファブリシオ・ヴェウドゥム

噂の“NEXTノゲイラ”、遂にPRIDE登場！
ミルコの柔術の先生はとんでもない凄玉だ!!

「ボクは来年、PRIDEの頂点に立つ!」


PRIDEデビュー戦で 白鯨・エリクソン快勝!

聞き手／橋本宗洋　撮影／黒田史夫　designed by hisa (Two Three)

ミドル級GPの話題に沸くPRIDE戦線だが、一方でエメリヤーエンコ・ヒョードルを中心としたヘビー級も激しさを増している。ミルコ・クロコップがついにタイトルに王手をかけ、アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラもヒョードルへの復讐へ牙を研ぐ。さらにセルゲイ・ハリトーノフが虎視眈々とチャンスをうかがい、ヘビー級GPが終わっても“ヒョードル包囲網”は解かれそうにない。

そんな中、2・20『PRIDE・29』でヘビー級の新星が登場した。ミルコの寝技コーチを務め、自身はミルコから打撃を授かったファブリシオ・ヴェウドゥムである。柔術歴はわずかに7年強。学び始めて2年で柔術世界大会・青帯の部を2階級制覇し、さらに黒帯の部でも2度優勝した天才柔術家だ。

PRIDEデビュー戦では“白鯨”トム・エリクソンから見事な一本勝ち。エリクソンの巨体を巧みに引き込んで十字、オモプラッタをアグレッシブに狙い、スタンドではパンチの連打でグラつかせた。そしてフィニッシュは鮮やかなスリーパー。エリクソンの良さをほどんど出させなかったのだから末恐ろしい。しかもファブリシオは、これがバーリ・トゥード6戦目でしかないのだ。今後『PRIDE』のメインストリームに割って入ること確実のスーパールーキーに、PRIDEでの野望とチーム・クロコップの実態を語ってもらった。

――トム・エリクソンという強豪から一本勝ちという見事なデビューでしたが、『PRIDE』初参戦、初勝利のご感想はいかがですか。

ファブリシオ　『PRIDE』で闘うというのは自分にとって大きな夢だったので、本当に嬉しいです。自分の人生の中でも、最高の瞬間だったと言っていいと思います。柔術の大会のときとはまた違った喜びがありました。

――『PRIDE』初出場だけに、いつも以上の緊張はありませんでしたか？

ファブリシオ　確かに序盤は硬さがありましたね。でもクロアチアでハードな練習を積んできたので、すぐに思った通りの展開に持ち込むことができました。

――パンチの連打を決める場面もあったのには驚きました。

ファブリシオ　あれはうまくいったと思いますね。でも、それ以上に重要だったのは、下からの蹴りですね。ベーリンギ柔術の護身術テクニックなんですが、あれで大きなダメージを与えることができた。

――フィニッシュは裸絞めだったんですが、両手でクラッチしていなかったですよね。あれはどういう状態だったんですか？

ファブリシオ　特に変わった技をやろうとしたわけではないんですよ。ごく基本的なマタレオン（裸絞め）なんですが、右腕で首をフックして、左手はこれから、という段階だったんですが、そこでエリクソン選手がタップしたんです。

――ということは、右腕だけでもかなり強力に絞まっていたということですね。

ファブリシオ　あの時点で、かなりエリクソン選手は疲れていましたからね。それと右手をエリクソン選手の左肩にひっかけるようにしていたので、かなり深く、しっかり入っていたのは間違いないです。

――ファブリシオ選手は“基本技の完成度が高い選手”と聞いていたんですが、まさにその通りでしたね。試合後にはブラジルと同時にスペインの国旗も掲げてましたけど、チーム・クロコップ入りする前には


HUN

以前はミルコと一緒に住んでましたが、彼は付き合いやすい人間ですよ

スペインに住んでいたんですよね？

ファブリシオ　はい。母親が20年スペインにいて、ボクも7年くらい過ごしましたから、第二の故郷といえるぐらい愛着は深いですね。

——そもそも、柔術を始めたきっかけは何だったんですか？

ファブリシオ　当時、付き合っていた彼女の元カレが、嫉妬してボクにケンカを売ってきたんですよ（笑）。で、その元カレが柔術を習っていて、ボクは負けてしまった。それで「オレも柔術をやらなきゃ」と（笑）。

——三角関係が元で柔術を始めた人っていうのも珍しいですよね（笑）。

ファブリシオ　ボクもそう思います（笑）。

——その後、雪辱は果たしたんですか？

ファブリシオ　いや、いい友だちになりました（笑）。それに彼はいま茶帯なんですけど、ボクは黒帯で世界王者になったんで、リベンジというのも変ですよね（笑）。

——あ、いま着てるのはファブリシオ選手のオリジナルTシャツですか？　その馬のマークは……？

ファブリシオ　これはボクのトレードマークなんですよ。ファイターとしてのボクのニックネームは〝バイ・カヴァーロ〟というんです。英語でいうと〝GO　HORSE〟ですね。

——ミノタウロとかマカコみたいなもんですよね。どうしてその名がついたんですか？

ファブリシオ　ボクが柔術の試合で、技を仕掛けるときにいつも〝バイ・カヴァーロ！〟ってかけ声をあげてたんです。

——馬を操るときのかけ声みたいなもんなんですね。

ファブリシオ　それで、セコンドや仲間もボクの試合では〝バイ・カヴァーロ〟って声をかけるようになって。それがニックネームになりました。

——なるほど、じゃあ日本のファンも〝バイ・カヴァーロ！〟って声をかけた方がいいですね。〝ヴェウドゥム〟だと言いにくいし（笑）。

ファブリシオ　ゼヒそうしてください（笑）。

——これまで、ファブリシオ選手は帯の取得でも大会で結果を出すという点でも、非常にスピード出世でしたよね。これからは『PRIDE』のヘビー級の頂点を目指すわけですが、頂点到達まではどのくらいの時間が必要だと思いますか？

ファブリシオ　まず、今年はできるだけ『PRIDE』に出場して経験を積みたいと思います。そして来年、ミルコと一緒にヘビー級GPに出て、頂点を奪いたいですね。

——来年！　ということは、『PRIDE』のトップを取るには1年あれば充分だと。また早いですねぇ（笑）。

ファブリシオ　でも、不可能なことでは決してないと思いますよ。これまで学んできた柔術のテクニックを出せば、現在のトップファイターたちと互角に闘えるでしょうし、それに加えていまのボクは打撃の練習も積んでいる。それも、ミルコ・クロコップという素晴らしい先生のもとでね。これで強くなれないはずがないでしょう。

——ファブリシオ選手は去年の夏にチーム・クロコップ入りしてミルコ選手に寝技を教えているわけですが、チーム・クロコップに誘われたときはどんな気持ちでした？　ストライカーで、ましてブラジル人でもないミルコ選手は、いってみれば〝敵側〟ですよね。

ファブリシオ　チーム・クロコップからのオファーは、素直に嬉しかったですね。ボクがミルコに打撃を教え、ミルコがボクに打撃を教えるというレベルの高い練習ができるのは魅力だし、なによりボク自身がミルコという選手を大好きなんですよ。前から一緒に練習してみたいと思っていたし、練習するなら長期的な方がいい。だからすぐにクロアチア行きを決めました。

——クロアチアでは、ミルコ選手の家に一緒に住んでいるんですよね？

ファブリシオ　最初、しばらくはそうでしたね。いまは彼が新しい家を建てたんで、別々に住んでいるんですが。

——ミルコ選手は、我々には凄く気難しい人という印象があるんですよ。生活スタイルにも独自のものがあるようですし。そういう人と一緒に暮らすのは大変じゃなか







初の大舞台と思えないほど落ち着いた表情で、赤い柔術着を身にまとい入場してきたファブリシオ。試合はレスリングの怪物エリクソンをテイクダウンさせるのに、やや手こずったが、寝技に持ち込むと流れるようにバックマウントを奪い、5分41秒、チョークで一本勝ちを奪った。

ったですか（笑）。

ファブリシオ　その点に関しては、まったく問題なかったですね。さっきも言ったように、ボクがミルコのファンですから（笑）。関係はとても良好ですよ。

——一緒に住めたら、むしろ嬉しいと（笑）。

ファブリシオ　それに、ミルコはボクたちのボスであり、リーダーですからね。彼のペースに合わせるのは当然のことです。もし何かあったとしても、普段からジョークを言い合っているような関係なんで、まったく問題にはならないですしね。とてもフランクで、ミルコはとても付き合いやすい人間ですよ（笑）。

——では、生徒としてのミルコ選手についてはいかがですか？

ファブリシオ　まず、ボクが学んできたベーリンギ柔術にはとても優れたコーチング・システムがあるので、それが大きな助けになっていますね。ミルコとの練習は、最初はお互い手探りの状況だったので思うようにいかないこともあったんですが、すぐに中身の濃い練習ができるようになりました。ミルコはグラップラーとしてもかなり才能があると思いますね。しかも、彼はバーリ・トゥードの闘いにおいて柔術がどれだけ重要なのかということをしっかり理解しています。それだけに熱意があるし、習得するのも早い。

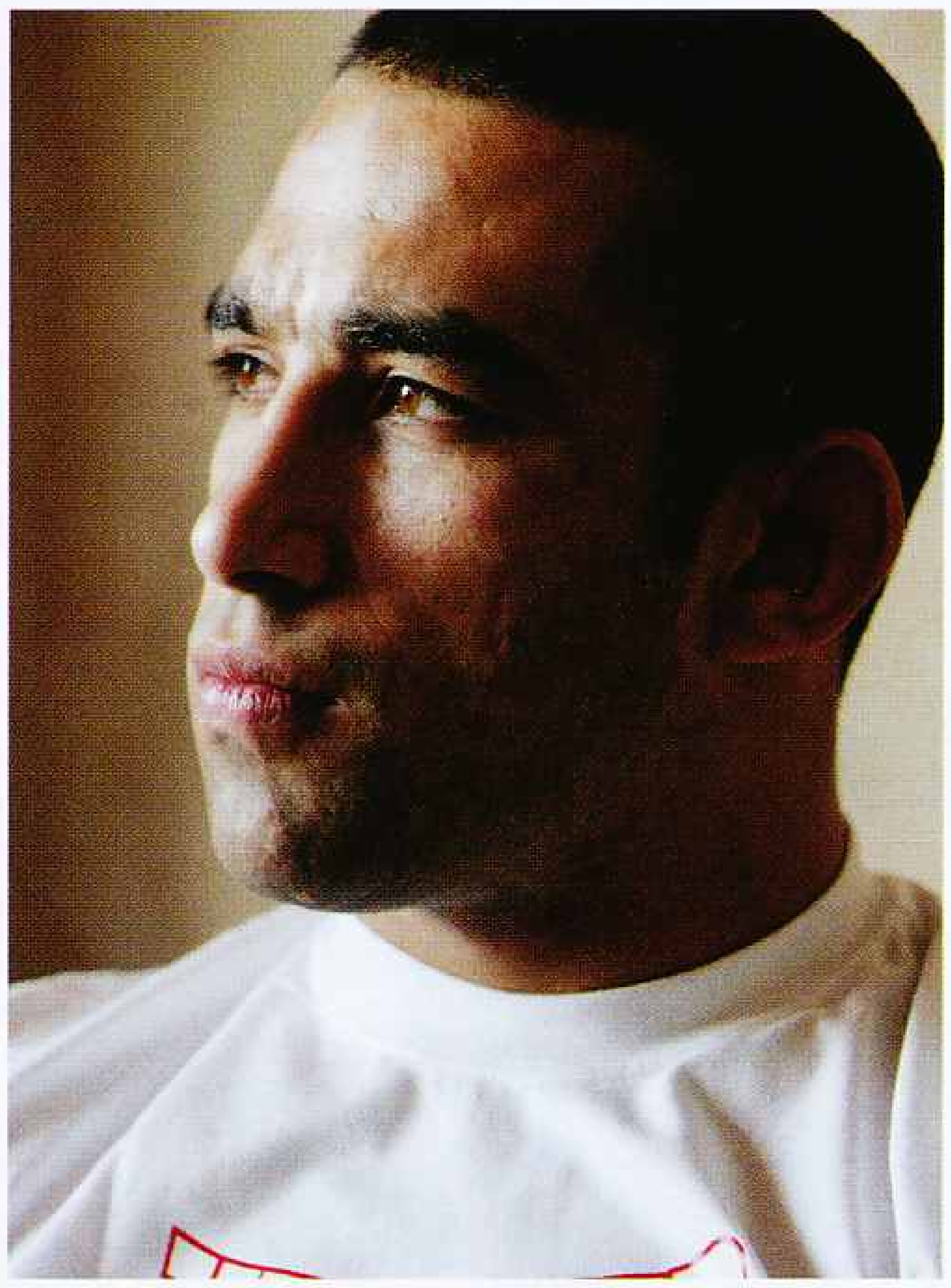
——それから、チーム・クロコップにはさらに柔術家が加入するという話を聞いたんですが。

ファブリシオ　その通り。今回もセコンドについてくれたボクの師匠マウリシオ・ベーリンギは2週間ほど前からクロアチア入りしています。マウリシオが来てくれたおかげで、今回の試合に向けて寝技の練習も充分に積むことができました。来月はベーリンギ柔術の兄弟子マーシオ・コレータもチーム・クロコップ入りしますよ。2メートル、120キロもある大きな選手で、柔術の世界チャンピオンに2度なっている強豪です。

——柔術の練習環境がレベルアップするということですね。

ファブリシオ　やはり専門家が3人いる方が、いい練習ができますからね。ミルコに教えるだけじゃなく、ボク自身の柔術のスキルも磨いていかなければいけないですから。もちろん、ミルコにとってもいいことだと思いますし。

——しかし柔術世界王者が2人もいるチーム・クロコップって凄いですよね（笑）。



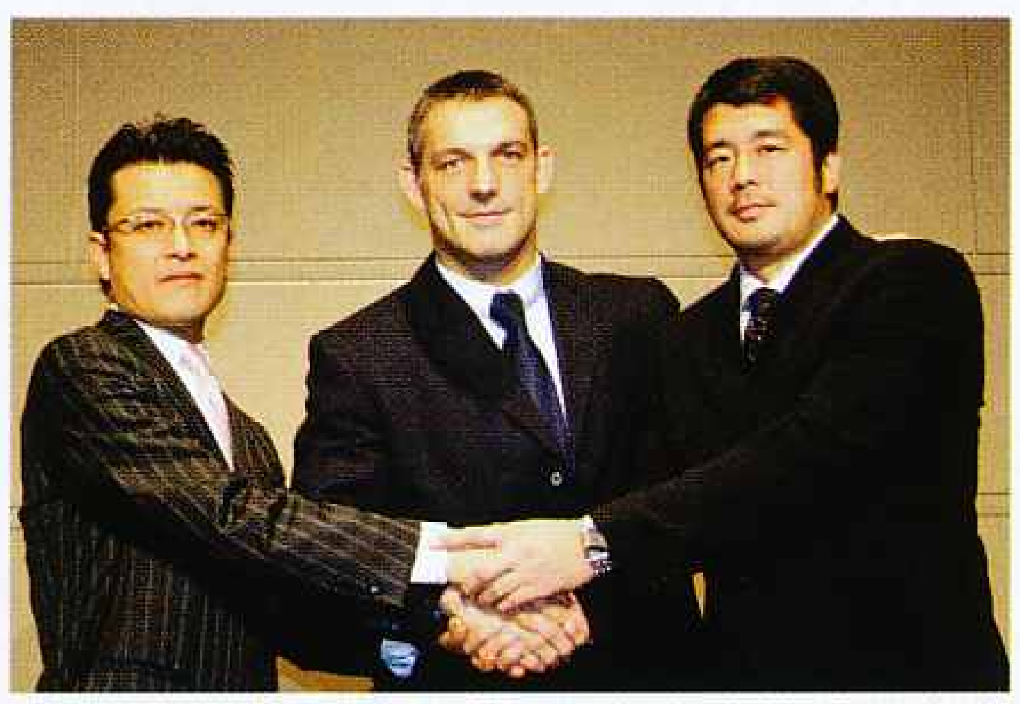
Fablicio Werdum■1977年8月24日、ブラジル出身。03年アブダビコンバットでは準優勝。B柔術世界選手権では、03年、04年と2年連続優勝をはたしている寝技の達人。ミルコの柔術コーチも努める。193cm、107kg。

FABRICIO WERDUM

ファブリシオ　ミルコのタイトル獲得をバックアップしていくのはもちろんですが、ボクやマーシオも選手としてどんどん活躍していこうと思ってます。そう遠くないうちに、チーム・クロコップが他のどのジムにも負けない強いチームなんだって思われるようになるでしょうね。

ファブリシオの加入によって、チーム・クロコップは大きく変わろうとしている。これまではミルコをサポートするチームというイメージが強かったのだが、ファブリシオ、さらにマーシオ・コレータという2人の柔術世界王者が加わったチーム・クロコップは、まさに世界屈指の精鋭集団といっていい。国籍こそ違えど〝強さ〟という共通の言語で結ばれたチーム・クロコップが、ブラジリアン・トップチームやシュート・ボクセと並ぶ一大勢力を築く日がやがて訪れるのかもしれない。もちろん、そのカギを握っているのはファブリシオに他ならない。

プ、プ、プ、プライドニュース!!



アトランタ五輪 柔道金メダリスト パウエル・ナツラ PRIDE参戦表明!!

『PRIDE.29』の前日、2月19日にDSEは4人目の金メダリスト参戦を発表した。その男の名はパウエル・ナツラ。1970年、ポーランド出身の34歳だ。約25年間におよぶ柔道のキャリアの中で、96年アトランタ五輪95キロ以下級で金メダルを獲得。その他にも世界選手権やヨーロッパ選手権を制し、ポーランド選手権では11連覇という偉業を成し遂げた。また4年近くに渡って勝ち続け公式記録に312連勝という記録を残しており、これには髙田延彦PRIDE統括本部長も「ヒクソン・グレイシーの非公式な400戦無敗とは比較のしようもない。私は（ナツラに）リアル・ヒクソンというイメージを持っています」と感嘆。95年、97年にはポーランド・スポーツ大賞を受賞しており、すでにポーランドではスーパースターとなっている。今回、ナツラは髙田本部長の友人を通じて参戦を申し入れ、髙田道場所属として6月26日（ナツラ35回目の誕生日！）にPRIDEのリングで総合格闘技デビューを果たすことになった。20日、『PRIDE.29』のリングに立ったナツラは「ヨロシクオネガイシマス。ガンバリタイデス。チャンピオンに……ナ、ナリタ……マス」と日本語で挨拶すると、さっそく翌日には髙田道場で公開練習を行い、桜庭和志から足関節や打撃のデフェンス方法のコーチを受けて熱心に聞き入った。対戦相手にヒョードル、ノゲイラ、ミルコ、吉田を希望するナツラは「打撃の練習も必要だが、出来ることなら25年間培った柔道の技で倒したい」と意気込みを語った。



日本では髙田道場で練習することとなったナツラ。柔道家のナツラにとって、レスリングとサブミッションが強い髙田道場は、総合を覚えるのには最適の練習環境と言える。



2・20PRIDE.29で事件発生!
緊急座談会
田村かDSEか? 罠にハマッたのはどっちだ!?

ターザン山本!
×堀江ガンツ(本誌)

2・20『PRIDE・29』で事件発生! 実に1年2ヶ月ぶりに『PRIDE』マットに登場した田村潔司だったが、対戦相手の“FILAからの刺客”アリエフ・マックモドが途中、金的蹴りにより戦意喪失! なんとも後味の悪いTKO勝ちとなってしまった。そして、そこへ追い打ちをかけるかのように桜庭和志がマイクを握り、シュートな宣戦布告! この異常事態に大会終了後、ターザンを招いて緊急座談会を開催。桜庭vs田村戦の行方について語りまくった!



金的にヒザ蹴りを浴びたあと、長いインターバルを取って試合を再開させたマックモドだったが、もはや戦意はなく、しまいには座り込んでしまう始末。結局、セコンドからのタオル投入で、1R5分4秒、TKO負けとなった。

――山本さん! 田村潔司が久々に『PRIDE』出場したと思ったら、とんでもないことになりましたね!

ターザン 面白いね～。これは一言で言えるよォ!

――ほう、一言で。なんですか?

ターザン 策士、策に溺れるですよォォ!

――策士、策に溺れる!

ターザン つまり、田村という策士が、自分の策に溺れたというか、逆にハメられたというか、作戦に失敗したんだよね。田村が策を練っていたというのは、今日の興行に出て来たことでもわかるじゃない?

――大晦日やGPを避けて、あえて〝谷間〟の興行に出てきた感はありますよね。

ターザン だって今日なんか、『PRIDE』の2005年の顔見せ興行というか、特急列車が通過する駅みたいな興行だよ?

――通過駅の興行(笑)。

ターザン GPが新幹線の新大阪駅だったら、今日は掛川とか熱海とか岐阜羽島みたいなモンですよォォ! そこに田村が出てきたということは、彼は何がおいしくて、何がおいしくないかを熟慮して出てくる人なんだから、自分が「点」で輝く男だということを知ってるってことだよね。

――「点」で輝く男ですか?

ターザン そう! 田村が輝くときは、その興行の中で差別化された「点」じゃないといけないんですよ。でも、GPはトーナメントだし、あまりにも巨大なイベントなので、流れと言うか「線」になってる興行なんだよね。田村はその「線」では自

桜庭のマイクはキラーを超えている！「真剣勝負して下さい」の〝失礼〟を通り越して〝無礼〟ですよォォォ！

分が活きないことを知っているから、『PRIDE・29』という「点」に出て試合に勝って、さも「GPに出るぞ」という雰囲気を見せようとしたんですよォォォ！

——気配だけを見せると（笑）。

ターザン　あとは出るか出ないかで勝手に盛り上がってくれと。で、最終的には出ないという選択をするのが一番田村らしいんですよ。そうすることで、ある意味差別化された田村の頑固者のイメージが、さらに大きく過剰になる予定だったんだけども、まあ見事に裏切られたというか、騙されたというか、一杯食わされたと言うか、ホントに見事にしてやられたわけですよォォォ!!

——あそこまで煮ても焼いても食えない、とんだ食わせ者が出て来るとは思いませんでしたよね（笑）。

ターザン　未知な選手とやるということは、もの凄い強いか、もの凄いヘタッピの素人かわからないわけですよ。海のモノなのか山のモノなのかわからないけど、試合前の紹介映像見たら凄い強そうなんだよね。首だけで身体を支えて回転したり、パンチも凄いから、見せかけは強そうだったと。ところが動きを見たらド素人ですよォォォ！

——ド素人（笑）。

ターザン　技はないし、息はすぐ上がるし。それに付き合わせられた田村は、その時点で失敗だったんだよね。あんなジャンプして、技を仕掛けるわけでもなくて、ただ跳んでくるだけの攻撃、いままで見たことないですよォ！

——見事なリアル・ドンキーコングっぷりでしたよね（笑）。

ターザン　あんなもの攻撃でも作戦でも技術でもない！　何をやるために跳んだの、アレ？　そりゃ田村も足が出ますよォ！　それで金的に当たってイエローカードだろ？　はた迷惑ですよォォ！

——しかも、金的蹴られたあと、なかなか復活しないんですよね。

ターザン　普通はさ、金的をもらったら立つか椅子に座るかして回復を待つんだよね。ところが、アイツは寝転んだんですよ。だからファイターがどうあるべきかっていう常識すら知らないし、礼儀作法すら知らないし、あの場をどう収めたらいいのかがわからない。それに田村がニュートラルコーナーで待たされてたけど、あのとき田村はどんだけこの試合を受けたことを悔やんだか。あそこに立ってる田村がメチャクチャ魅力的だったんだよねえ。

——ニュートラルコーナーで絶賛後悔中の田村に魅力を感じましたか（笑）。

ターザン　色気があるんだよなあ。あのとき一番孤独で惨めだったのは彼ですよォ！　金的受けたヤツじゃなくて、田村がさらし者になったわけですよォォ!!

——しかも、ようやく復活したと思ったら、リック・フレアーばりに「NO！　NO！」って言いながらコーナーに下がってましたからね（笑）。

ターザン　アイツは要するに金的を受けたときの処理能力がデータにないんですよ。だから、もうやりたくないのに仕方なしにやってたわけ。結局、タオル投入になったけど、中断して再開してタオル投入までの時間というのは、田村にとって思い出したくない屈辱の時間だったと。ハッキリ言って地獄ですよォォ！

——そして、そこに追い打ちを掛けるかのように、サクのマイクがつきさされるわけですよね。

ターザン　あれはビックリしたねぇ。普通、田村がああいう形でさらし者になったら、相手の気持ちを考えてマイクパフォーマンスなんかしませんよォ！　あんな無神経な桜庭、見たことない!!

——「こういう試合をやっててもつまらないでしょうから、田村さん、僕と試合して下さい」と。キラーでしたねえ。

ターザン　それを言ってしまったわけでしょ？　敵であっても同じファイター同士なんだから、田村の気持ちを考えたら言えませんよォ！　それを桜庭としたらアングルかどうか知らないけど言ってしまったと。無神経とデリカシーのなさが爆発ですよォォ！　追い打ちをかけるように斬りつけたんだから！

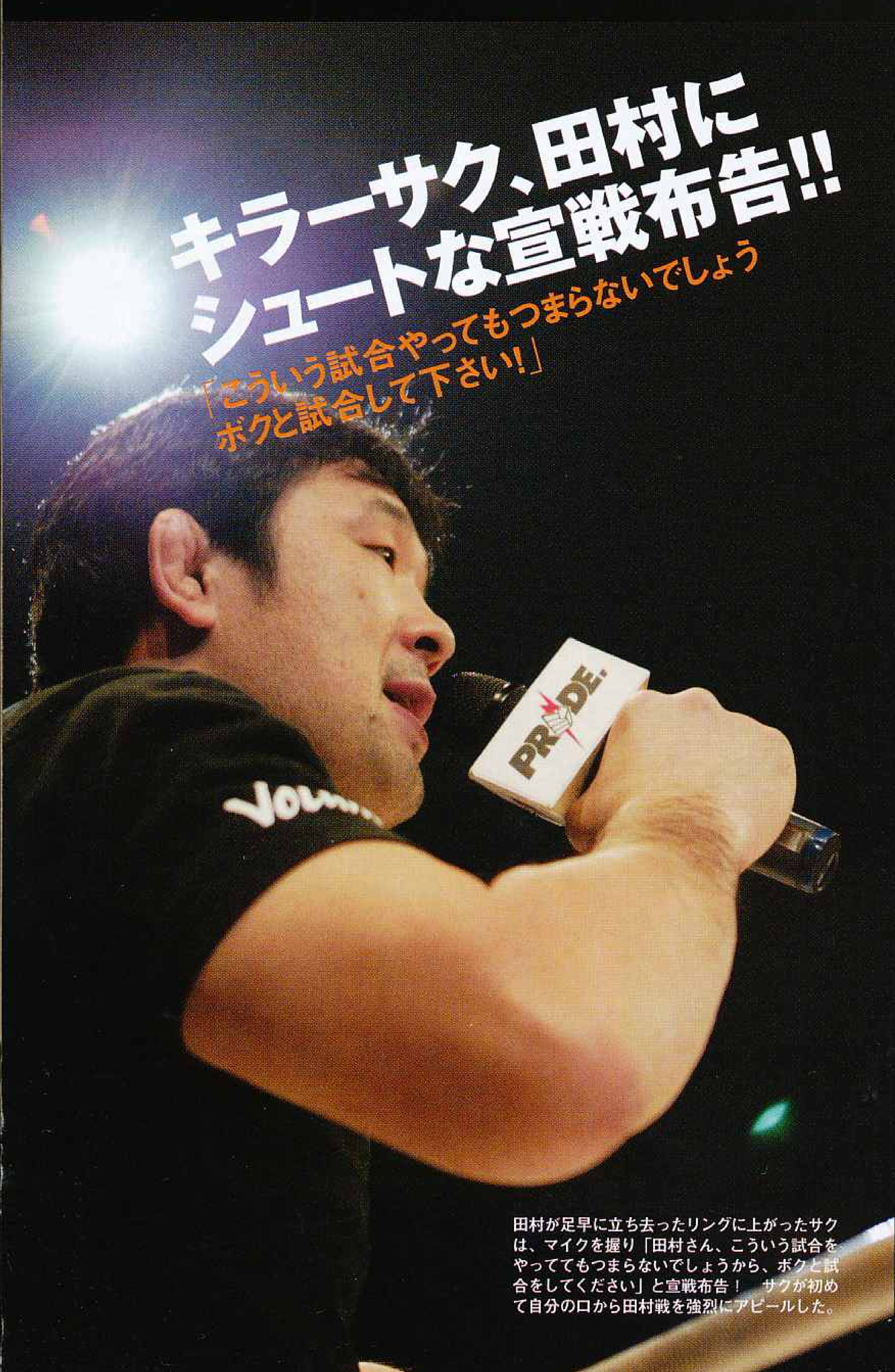
——ホント、花道を帰る田村の背中に斬りつけた感じですよね。

ターザン　あのとき、田村が試合が終わった瞬間にサッサとリングを降りて行って、グローブを取る後ろ姿は、また凄く色気があって、俺はメチャクチャ田村が好きになったよォ！　彼がリングを背にして帰って行くその時の気持ちが100％伝わって来たもんなぁ。そのやるせない気持ちが痛いほどわかるのに、そこに無神経な桜庭の言葉があったから、余計にね！

——一番田村が言われたくないことを、一番言われたくないタイミング

キラーサク、田村にシュートな宣戦布告!!

「こういう試合やってもつまらないでしょう ボクと試合して下さい！」



田村が足早に立ち去ったリングに上がったサクは、マイクを握り「田村さん、こういう試合をやっててもつまらないでしょうから、ボクと試合をしてください」と宣戦布告！　サクが初めて自分の口から田村戦を強烈にアピールした。







田村の左ミドルを嫌がったマックモドは、間合いをつめるため(?)、ジャンピング体当たり！ そこへ田村のヒザが入ってしまい悶絶。試合再開後は相手に背を向ける始末。

で言われちゃったわけですからね。
ターザン　あんなキラーな桜庭は……いや、キラーを越えた発言ですよォ。むかし田村がＮＫホールで髙田延彦に「僕と真剣勝負をして下さい」と言ったから、その伏線があって桜庭は言ったと思うんだけど、それにしちゃあ無神経だよ。そこでアレを言うなと言いたい！
――ある意味、「真剣勝負をして下さい」を越えた失礼な発言ですよね(笑)。
ターザン　「真剣勝負をして下さい」はまだ青年の純な気持ちから発せられた言葉だけども、桜庭に関しては「失礼」を通り越して「無礼」ですよ、無礼！　無礼極まりない!!
――「礼」を失ったのではなく、最初から無い(笑)。
ターザン　いまごろ田村は「もう桜庭とはやりたくない」って心を頑に閉ざしているはずですよ。桜庭にとって田村戦はおいしいかもしれないけど、田村は「こっちは全然おいしくねえ。勝手にさらせ。そんなことやらせてたまるか！」って、そういう気持ちになってるはずですよォ！　僕が田村だったらそう思うもん！
――その桜庭vs田村のやるやらないの神経戦は、去年の年末から凄いですよねえ。
ターザン　田村は自分の価値観に従って、ワンマッチで差別化された一番いいタイミングと一番いい形で、一つの大きな興行の中で自分が際立つような「点」の光、それが見えないとやらないんだから。
――だから、サクは田村潔司的生き方、田村潔司的格闘技界サバイバル方法を知ってて、あえて、それをシュートした気がしましたね。
ターザン　計算してやったのか、素でやったのか、これは事件だねえ。
――桜庭のホントの怖さを見たなっていう気がしますね。
ターザン　桜庭はドライか無神経か、わけわからん人だねえ。それに比べて田村はデリケートなんだよねえ。デリカシーを武器にしてる男だから。
――サクは、恐らくその田村的な闘い方、武器の使い方が許せないんじゃないでしょうかね？
ターザン　許せないから一回かましてやれってね。田村的な生き方というかワガママが公認されている、田村のイメージが一人歩きして支持されているという、それに対して積もり積もったモノがあったんだろうね。
――田村はＵインター時代から、そうやって自分の価値を高めてきたわけですからね。
ターザン　周りは腫れ物に触るみたいな感じで、ご機嫌を取りながらだもんねえ。だから桜庭は言っちゃいけないことを、初めて言ったよ。田村にしてみれば、痛烈なシッペ返しでもあったね。でも僕からしたら騙し討ちですよォ！
――田村はハメられたと。あれだけの公衆の面前でズバリ言われたら、逃げ道を塞がれたのと一緒ですからね。
ターザン　そう、既成事実になるから！
――実はいままで桜庭は田村戦をアピールしたことがなかったんですよね。「ファンが望むならやってもいい」とか「色で言うと〝赤〟」って言うぐらいで。今回初めて「そんな試合じゃつまらないでしょう。４月に勝負して下さい」ってハッキリ言いましたからね。
ターザン　ドスを突きつけたと同じですよォ！　田村はこの問題を処理してくんだろうねえ。
――田村潔司は試合後、コメントルームに姿を現さなかったみたいですね。「病院に直行したためノーコメント」っていうことなんですけど、あの試合のどこでケガするんだろうって(笑)。
ターザン　ああ、そう。面白いねえ！
――だからホント田村にとっては、行きはよいよい帰りは怖い試合でしたねえ。
ターザン　今日のこの興行に出撃するっていうことは、ある種ヤバい予感はあったんだよね。無風状態だったから。ちょっと彼の勘が鈍ったのかもしんないなあ。まったく色合いのない興行の中にスーッと入っていってしまった彼の判断ミスもあるよね。ハメられたというか、自滅した部分もあるから、そういう部分ではしゃあないかなあと。
――要はサクにつけ込む隙を与えたわけですからね。
ターザン　そうそう！「田村さん、今回のこのこ出て来たのは甘かったでしょ？」って思えたから、言ってしまえと。今回の田村には甘さがあったんですよォ！
――田村の方も若干相手をなめて、ある意味、気楽に出て来てしまった部分はあるでしょうからね。
ターザン　そういうガードの甘さというか、油断というか、判断の甘さを桜庭が見透かしたんだよね。
――サクは、今回、田村がどんな〝策〟を練って来たかわかっていた

試合中断からタオル投入までの時間は
田村にとって屈辱の時間。
ハッキリ言って地獄ですよォオオ！



ミドル級ＧＰ出場を目標に身体をだいぶ絞ってきた横井は、先制パンチでスペーヒーの左額をカットする。しかし試合中、足を負傷し失速。相当数のヒザを喰らいレフェリーが試合を止めた。

○マリオ・スペーヒー
［1R 9:08 レフェリーストップ］
×横井宏考



『武士道』3連勝のショーグンの勢いの前に、金原はなす術のないままサッカーボールキックやジャンピングストンピングの餌食に。タイ修行の成果を見せることなく敗れ去った。

○マウリシオ・ショーグン
［1R 1:04 KO］
×金原弘光



高橋のセコンドには藤田和之の姿が。スタンドで距離を測る両者だったが、ボブチャンチンの右フックが高橋のアゴに炸裂。秒殺勝利で古豪ボブチャンチンでミドル級戦線に名乗りを挙げた。

○イゴール・ボブチャンチン
［1R 1:10 KO］
×高橋義生

あの桜庭のマイクにより桜庭vs田村は“夢のカード”から、巨大な因縁のカードになりましたよォオオ！

ということでしょうね。

ターザン　その心理戦争で、今回は田村敗れたりですよォ！

——田村としては今回勝ったあとに、トーナメントに出るか出ないかでサイコロジーの勝負をしようと思ってた。しかし、その手前で失敗して桜庭に一瞬の隙を突かれたと。

ターザン　彼の判断ミスがもたらしたんだから自業自得ですよォ。でもこれで彼はもの凄く反省したと思うよ。

——きっと今頃は後悔と怒りと恥ずかしさとやるせなさで悶々としてるはずですよね（笑）。

ターザン　その中でも一番デカいのは自分に対する腹立たしさだよね。自分の考える田村潔司像を作れなかったわけだから。

——そりゃコメントルームにも出てこれませんよねえ（笑）。

ターザン　誰にも会いたくないですよォ！　いままでＤＳＥとかマスコミを手こずらせた人だし、持て余さしてきた訳だから、そのツケがイッキにきたねえ。でも僕はその持て余すとこが田村らしいというか、そこが好きなんだよ。

——桜庭の発言にはホントに興奮したんですけど、今後の展開が見物じゃないですか？

ターザン　あの男は恐ろしいねえ。あのマイクで桜庭vs田村戦は夢のカードから、巨大な因縁のカードになりましたよォ！　だからこのカードをトーナメントでやるなんて、もったいない!!　やらせることないですよォォ！

——ただでさえ黄金カードなのに、さらに鈍いギラギラした光を放ち始めましたよね。

ターザン　その部分では桜庭の功績は大きいよ。俺たちをこれだけ興奮させるんだから！

——こういうシュートなやりとりは久々ですねえ。

ターザン　でも僕はどちらかと言うと田村側の視点で振り返るからさあ、桜庭が初めて憎たらしく見えたよ！　別に田村に同情してる訳じゃないけど、なんか腹立ってきたよォ！

——自分が言われたみたいな感じですか？（笑）。

ターザン　そうですよォ！　彼の心理がわかりすぎちゃって、ウワーってなるんだよなあ。死に馬を蹴ったようなもんだよ。追い打ちをかけたんだから。ああいうのを見ると、桜庭はＤＳＥの人間なんだなって思ったね。興行を背負った人間の強さを感じたんですよ。「俺はここで言うべきなんだ」という、選手として一皮剥けてるというか、もう選手とは違う目を持ってるよね。

——やっぱり『ＰＲＩＤＥ』のエースですよね。

ターザン　あれは、いままで『ＰＲＩＤＥ』というものをずっと背負って来た人間だから言えるんですよ。普通言えませんよォ、あんなもん！

——田村はいままでＤＳＥから厚くもてなされてきましたけど、やっぱりアウェイだったんだなあと感じましたよね。

ターザン　完全にアウェイだし、外様ですよ。それで桜庭は譜代で、そのカラーがくっきりと出たね。おいしいところを取ろうとする外様の人間と、譜代の人間の闘いですよォ！

——ホントこの展開は今後大注目ですよね。発せられる一言一句聞き逃せないというか。

ターザン　今年はミドル級は桜庭一本の人気じゃなくて日本人が多いじゃない。外国人もスター選手がいっぱいいて話題に事欠かないし、テーマがいっぱいあるし、てんこ盛りみたいな領域に達してるでしょ？

——捨てカードはないですよね、きっと。

ターザン　もうイベント自体が安全パイですよ。でもその中で、別個の形で桜庭vs田村というドラマができたということは『ＰＲＩＤＥ』にとってラッキーだよね。たとえ実現しなかったとしても、ＧＰやってるうちに、この二人のドラマが平行してあるわけだから。やろうがやるまいがね。

——黙ってても闘ってるっていう感じがしますよね。

ターザン　例え絡まなかったとしても、その二人が視線を集めるんですよォ！　そういうドラマを創るのが本当のプロですよォォ!!　ミドル級ＧＰという大筋のロードに入っていくだけでなく、別個のドラマや伏線を演出できるのがプロなんだよね。プロには物語がないとダメなんですよォォォ!!

——そういうことも含めて、桜庭vs田村はやはり究極のカードですね。じゃ、山本さん、そろそろ閉店みたいなんで終わりましょう。

ターザン　ハイ〜〜！

【05年2月20日／水道橋『ニューヨーカーズカフェ』にて収録】

PRIDE今後のスケジュール

武士道シリーズ

4月3日（日）神奈川・横浜アリーナ

PRIDE GP 2005 ミドル級トーナメント

［開幕戦］
4月23日（土）大阪・大阪ドーム

［2nd ROUND］
6月26日（日）埼玉・さいたまスーパーアリーナ

［決勝戦］
8月28日（日）埼玉・さいたまスーパーアリーナ

チケット発売に関して

［PRIDE GP 2005 ミドル級トーナメント開幕戦］
一斉発売:3月20日（日）10時〜
特別先行電話予約:3月6日（日）10〜18時
特電番号:03-5749-9909

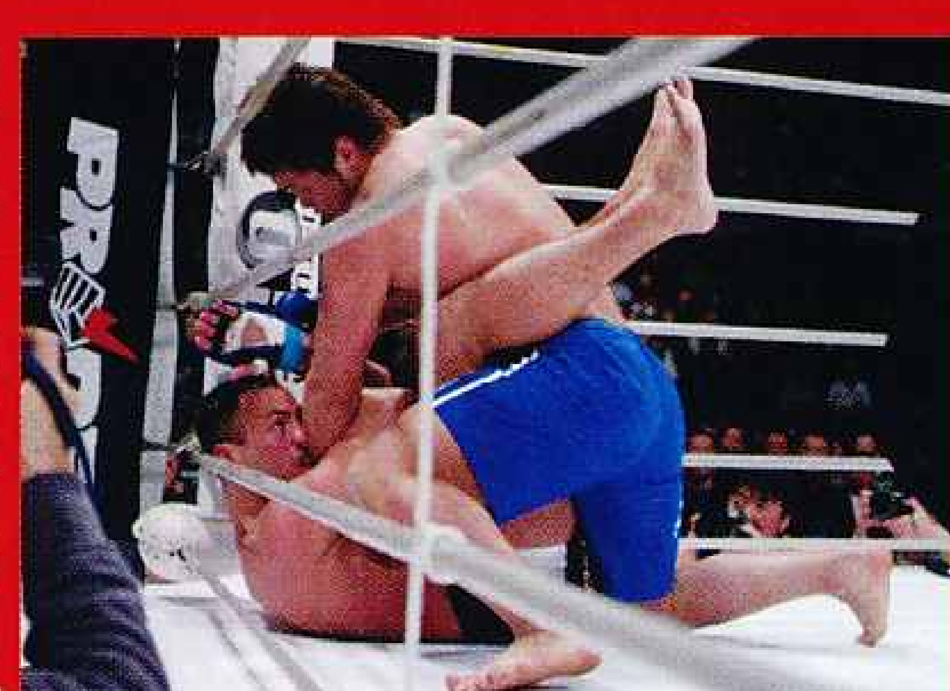
VIP ¥100000／RRS ¥30000／スタンドS ¥17000／スタンドA ¥7000

［3大会セットチケット（開幕戦・2nd・決勝戦）］
VIP ¥240000／RRS ¥75000／スタンドS ¥45000／スタンドA ¥18000

［2大会セットチケット（開幕戦・決勝戦）］
VIP ¥170000／RRS ¥55000／スタンドS ¥31000／スタンドA ¥13000

［PRIDE武士道-其の六-］
一斉発売:3月13日（日）10時〜
特別先行電話予約:2月27日（日）10〜18時
特電番号:03-5749-9229

VIP ¥50000／RRS ¥23000／スタンドS ¥13000／スタンドA ¥6000



ハイアンにドタキャンされたカズが、レコを全く寄せ付けずパウンドで秒殺勝利。試合後カズはマイクを握り、ミドル級GP出場と、ハイアン戦をアピールした。

○中村和裕
［1R 0:55 レフェリーストップ］
×ステファン・レコ



スタンドでは互角に殴り合う両者だが、グラウンドでの技術はホジェリオが一枚も二枚も上手。文句なしの判定勝利でホジェリオが、今後のミドル級戦線を占う重要な一戦を制した。

○アントニオ・ホジェリオ・ノゲイラ
［判定3-0］
×アリスター・オーフレイム



攻守が入れ替わる互角の展開が続いたが、ジャクソンが途中でカズ欠。無尽蔵のスタミナを誇るニンジャの前に防戦一方となるが、判定勝利でミドル級ナンバー2の座を死守した。

○クイントン“ランペイジ”ジャクソン
［判定2-1］
×ムリーロ・ニンジャ



PRIDE 2005 開幕
誰が一番強いか決めたらええんや!

潔司

“頑固者”沈黙を破る!
早くも始まった、DSEとの心理戦!!

「俺はPRIDE所属じゃないし現時点でミドル級GPはまったく頭にないから!」

昨年末から頑にインタビューを拒否していた田村が、ついに沈黙を破った。
“SADAME”の桜庭戦はなぜ実現しなかったのか？　そしてミドル級GP出場の可能性は？
それを確認すべく、『紙プロ』は『PRIDE・29』の一週間前に“頑固者”をキャッチ。
いつもながらノラリクラリと答える田村の言葉の奥にある真意を読み取れ！

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　試合写真／乾晋也　designed by hisa（Two Three）

――田村さん、久しぶりですねぇ！

田村　はい、久しぶり。

――いきなりですけど、最近なにしてたんですか？

田村　なんもやってないよ。

――何もやってないってことはないでしょう（笑）。『男祭り』にも出ず年末年始は何をやってたのかなと思ってたんですけど。

田村　ホントなにもやってない。家とジムの往復で。あと風邪ひいたからずっと寝てて。で、その後は……なにやってたかな？　あ、思い出した！　なんかいろいろやってた。

――そのいろいろが聞きたいんですけど（笑）。年末は田村潔司雲隠れ説とか流れてたましたよね？

田村　そう？　ただ連絡が取れないだけでしょ。

――それはいつものことですか（笑）。

田村　うん。だってジムには顔出してるもん。

――でも、ウチの雑誌でも3ヶ月ぐらい連続で田村さんに取材申請してたんですけど、ことごとく断られましたよね。あれはなぜなんですか？

田村　あのねぇ……鬱状態になって。

――ホントですかぁ!?

田村　うん、おたくの編集長と同じ心境だから（笑）。

――年末になると毎年引きこもっちゃう（笑）。

田村　俺は毎年だけど、そっちの編集長は毎月でしょ？（笑）。

――いや、隔月ぐらいだと思います（笑）。そんなことはどうでもいいんですけど、田村さんの場合は、年末はそれぐらい自分に対するプレッシャーというか、なんらかの圧力がかかったということですか？

田村　そう……なのかな？　違うことを考えてたような気がする。

――なんで違うこと考えちゃうんですか！（笑）。

田村　年末に向けての話もあったんだけど……そういや、なんか俺に関してすごい噂が出てるらしいね？

――どんな噂ですか？

田村　（DSEの）榊原さんとの話し合いの最中、俺が怒って部屋を出て行ったとか。

――ホントにそんなことがあったんですか!?

田村　いや、だからただの噂だから（笑）。榊原さんとは年末には直接会ってもいないから。で、なんだかんだあって一度話がなくなったんだけど、大会の3日前にまた試合オファーが来て。

――『男祭り』の3日前ですか？

田村　そう、12月28日に。桜庭が怪我したからって。

――ああ。もしかしたらヴァンダレイ・シウバ戦のオファーですか？

田村　そう！

――ダハハハハ！　ホントに田村さんにも行ってたんですね（笑）。

田村　でもさぁ、3日前にシウバ戦ってムチャでしょ。

――ボクはもっと前にオファーは出したと、聞いてますけどね。でも、ムチャだからこそ、そこで出たらすごかったですけどね。一瞬心が動いたりしませんでした？


田 村

田村潔司

（桜庭が）「赤い人」って言ってたのは雑誌で見たけど、現実味がなくて自分のこととは捉えてなかった

田村　……いや、自分のためはないけどね。そこは偽善者って言われるかもしれないけど、その穴を埋めたいなっていうのは、あったかな。でもそんなこと言ったら、一昨年もなにげに『PRIDE』には貢献はしてるつもりなのよ。一昨年も26日ぐらいに決まったでしょ？

――そうですね。ギリギリまで引っ張って、「田村vs桜庭戦やるべし！」みたいな巻頭特集組んだ『紙プロ』が発売したその日にロニー・セフォー戦が発表されました（笑）。

田村　あれはね、（格闘技を放映した）3局がお互いガッチリスクラム組んでなくて引き抜き合いでしょ。選手も可哀想だったけど、主催者も可哀想だよね（笑）。

――変な話、『PRIDE』以外からお話が来たりとかあったんですか？

田村　全部あったよ。

――全部ありましたか！　K-1からも『猪木祭り』からも。

田村　遠回しにね。俺は直接会ってないけど。そのへんはドリーム（DSE）にお世話になってるっていうのがあるから、席には着かなかったけど、そういう話が来てるっていうのは聞いた。去年もそうだよ。K-1から話は来てたみたいだから。

――そうだったんですか！　具体的に相手は誰とかは？

田村　それは内緒（笑）。

――まさかボビーじゃないですよね？

田村　ハハハハハ！　ボビーいいね、ボビーにしとこうか。

――ま、ボビーの話はともかく、今回は昨年11月1日の『男祭り』最初の記者会見で、桜庭選手が「SADAMEを感じる人は？」と聞かれて「色に例えると赤」みたいな発言をしたわけですけど。それを聞いたとき田村さんはどう思いました？

田村　あんまよくわかんなかったね。結構現実離れしてる感じで……雑誌を見て「赤い人」って言われてても、「ああ、赤い人か」って。自分のこととしてはあんまり捉えてなかった感じかな。

――あれだけ騒がれたのに、現実感がなかったのはなぜなんですかね？

田村　『PRIDE』っていう舞台は選ばれた人しか出れないから、毎回話が来るっていう保証もないし、オファーがあってから、その時点で考える話だから。

――実際に正式なオファーが来るまでは実感がわかないと。

田村　そうね。俺は別に『PRIDE』に所属してるわけでもないし、『PRIDE』に出れる保証もないし。で、こういう扱いにくい人間だから、『PRIDE』側が「もうあいついいや」ってなる場合もあるわけですよ。だからホントにオファーを受けて、その時点で選手としては「使ってもらえるんだ」って確信する部分だから。それに向こう（桜庭）だって言わされた部分もあるんでしょ？

――「SADAMEを感じる相手は誰ですか？」って質問があって、「じゃあ色で言うと赤ですか？」っていうような流れでしたね。

田村　そういう流れだよね。だから本人としてはマスコミの誘導尋問でそういうふうに言わされたって部分もあるだろうし、そこをマスコミはつまんで大きく書くわけでしょ。だから実際のところ、目の前にたまたま赤いテーブルが見えたから「赤」とか言ってる心境かもしれないし（笑）。それはわからんからね。

――では、実際に桜庭戦のオファーをもらったときはどう思いました？

田村　いや、別にそういう具体的なオファーをいただいたわけじゃないから。

――え!?　具体的はオファーはされてないんですか？

田村　うん、話はしたけど、そういった話まで行かなかったから。

――聞いてる話と違うなぁ（笑）。田村さん的には出場オファーはあったけど、具体的に桜庭戦云々まで話を詰める前に決裂してしまったと。

田村　『PRIDE』の方と話をしたときに、年末に関しては出たいっていうか、やりたいなって気持ちにならなかった。そんな感じ。

――でも周りには、「やるのか？　やらないのか？」、「田村、またやんねえのか？」とかそういう声がいろいろあったじゃないですか。そういう状況下で田村さんはどうだったんですか？

田村　だから周りがそうやって騒いでるだけであって、俺としては別に、やるのかやらないのかって俺本人が決める話だから。で、今回はできなかったけど、次どういう展開になってくのか、それはドリームが考える部分もあるだろうし。その流れに選手が乗っていくかどうかの話だし。だからまあ、先はわからない。ただね、すごい周りが騒いでるだけであって、ドリームとか向こうがね、ホントにやりたいのかってわかんないから。周りが煽ってるだけかもしれないから。

――でも、やっぱり今回は実現してほしかったですけどね。これだけの黄金カードですから、どうせならお互いが最前線にいるうちに見たいっていうのがあるんですよ。格闘技の世界ですから、いつどちらかが大怪我しちゃうかもしれないし。

田村　でも、そうなったらそうなったでしょうがないんじゃない？

――それもSADAMEだ、と。

田村　そうそう。やれたとしても、それもSADAMEだし、やれなかったとしてもそれがSADAMEだし。毎回言ってるけど、「やりたいやりたい」って言っても、やりたくない人との試合はできたり。言わなくなったらできたりの繰り返しなんで。だからまあ、やるときが来ればやるだろうし、やらないときはまったくやらないだろうし。

――じゃあ、今回は田村さん的に「やるとき」じゃなかったと。

田村　さっきも言ったように、具体的なオファーをもらったわけじゃないからそれはわからないけど、結果的にはそうなんだろうね。

――では、桜庭戦は別としても、大晦日決戦のような格闘技界で一番の晴れ舞台に出たいという気持ちはないんですか？

田村　なんか非常に複雑だよね。すごい出たいって気持ちもあるし。出なかったら出なかったでやっぱり肩の荷が下りるから。でも現役として



一昨年の『ミドル級ＧＰ』では、最後の最後に出場を決定。１回戦で吉田秀彦と対戦した田村は、結果的に敗れたものの試合をほぼ支配。強烈な存在感を見せつけた。今年、田村の出場はあるのか!?



「ミドル級ＧＰ出場は（マックモド戦が）終わらないとわからない」と言っていた田村だったが、試合は相手の戦意喪失という予想外の結果に。この試合で田村は拳を負傷したとの情報もあり、“頑固者”が今後どんな決断をするか注目だ。

やってるうちには、やっぱり出てていいとは思う。去年は出なかったけど、いま思うと出ててもよかったかなって思うんですよ。そのときは肩の荷が下りたけど。

――大晦日はテレビかなんかでご覧になりました？

田村　ちょっとだけ『紅白』を。

――なんで紅白見てるんですか！（笑）。

田村　寝込んでたのよ。寝込んでたから、『ＰＲＩＤＥ』は吉田選手の試合しか見てない。

――感想は？

田村　特にないね。

――見ていて、自分がこういう盛り上がってる舞台に出ていない悔しさみたいなものはありませんでした？

田村　まあ、それは正直あるよ。だけどうまい具合にバランスは取れてたでしょ。いいときもあれば悪いときもあるし。いいことがありすぎると悪いことがあるから、いいことがありすぎるっていうのは怖いから。

――田村さんって去年、驚くほど派手な動きがなかったですよね。

田村　そう？

――『ＰＲＩＤＥ』出場は1戦もなかったし、『Ｕ-ＳＴＹＬＥ』のベルトを取ったっていうのはありますけど。非常に静かな1年という感じがするんですけど。

田村　う～ん……そうだね、まあそれを基準にした方がいいね。

――そうなんですか（笑）。じゃあ、去年は1年間『ＰＲＩＤＥ』に出なかったのが、年が明けていきなり予想もしてないところで『ＰＲＩＤＥ』出場が決まったのは、なにか心境の変化があったんですか？

田村　う～ん……そのときの流れかな。俺が出たいからって出れるわけじゃないし。「なんで出たんですか？」って言われても困るんだよ。相手もあっての話だから。主催者側のこともあるし。俺はただ単にオファーが来て、それに対して最終的に出場するって気持ちになったから、それだけ。

――その出場しようと思った理由はなんですか？

田村　理由はまったくない。現時点では、ミドル級に合わせたとかそういうのもまったくないし。グランプリ（以下、ＧＰ）に合わせてるとかもないし。それはそれであって、特には。

――でも、試合に出場する“決め手”というのはあるんじゃないですか？

田村　それは全体的なこともあるんだよね。田村潔司個人だったら好き勝手やるけど、俺はＵ・ＦＩＬＥの代表でもあるから。

――それは自分と一緒に他の若い選手も契約してほしいとか？

田村　それもひとつあるよ。ただ、田村潔司個人がミドル級ＧＰに向けて動き出したとか、現時点ではそういう気持ちはまったくない。

――そうやって現時点で田村さんが否定してもですね、今回出るとその流れで4月からのトーナメント、誰もが期待すると思うんですよ。

田村　うん。だからそれはオファーがあった時点で。試合終わって次の段階になったら話するから。先のこと聞かれるの、もう疲れた！　だから勝手にその部分は書いといて。

――勝手に（笑）。

田村　だってミドル級ＧＰについてはさ、今回の出来もあるでしょ。その次の話だからさ。終わってからまた取材して。

――でも、田村さんが上がるリングとして一番期待されている舞台が『ＰＲＩＤＥミドル級ＧＰ』だと思いますけど。

田村　だから「出たくない」って気持ちはまったくないけど。あくまでもフリーだし。フリーってことは契約してない選手だから、怪我で出られない場合もあるし、「こいつダメだ」って使ってくれない場合もあるから、みんなは簡単に思うけど、そういう立場でもなんでもないのよ。だから「ＧＰはどうなんですか？」とか確かに聞かれるけど、俺としては現時点ではまったくそういう心境にない。

吉田選手に借りは返したいけど
こっちから言う権利もないし
オファーが来てからの話だよね

――じゃあＧＰっていうのは抜きにして、吉田選手に借りを返したいとか、そういうのはありますか？

田村　それもだから、試合やりたいやりたいって言っても周囲の事情があるから。「なんでできないの？」ってこっちが言う権利もないし。オファーが来たとき、イエスかノーかの話だよね。

――まったくの興味でいいんですけど、同じ金メダリストの瀧本戦とかは興味ありますか？

田村　瀧本選手って……大晦日に出た人？　興味なくはないけど、まったく情報がないから。試合見たら興味持つかもしれないね。いまは周りから聞く話だけだから。まあ、周りがそうやって言うってことはそれなりの選手だってことだとは思うから、魅力を感じる選手じゃないのかなとは思うけど。

――やっぱりそういう異種格闘技的な闘いっていうのは、田村さん本人的にもやり甲斐がありますか？

田村　俺的にって言うか、俺が主催者側だったら、たぶんそういうチョイスをするよね。一昨年も柔道vsＵＷＦっていうのをやったように、確

田村潔司

かにそれは図式としては面白いと思うから。ただ、それはマッチメイクする側であって、いざ試合をやる側になると、それに対して気持ちを向けなきゃいけないから。選手としてはメンタル面で気持ちを盛り上げてく作業ってあるでしょ？ 簡単に「興味あります、はい」っていうのはちょっと言えないよね。

——いま現在、試合（2・20『PRIDE・29』アリエフ・マックモド戦）まで1週間ですけど、いま気持ちは盛り上がってますか？

田村 いま気持ちは……まあ、心地よい緊張感を保ちつつ、高めていっている状態。

——試合に向けての調整はバッチリできてるんですか？

田村 いや、バッチリではないけど。なるべくバッチリに近いような状態までもっていくつもり。

——対戦相手についてはどうですか？ まったく知らない人だと思うんですけど。

田村 はい。

——相手について知ってることは？

田村 身長、体重、レスリングやってて、力が強い。それぐらい。

——そういう相手と闘う、今回の一番のテーマはなんですか？

田村 ない!!

——ない（笑）。じゃあ、なにを見て欲しいですか？

田村 見て欲しいっていうのもないね。試合をやってその結果、なんかついてくればいいかな。そんな感じかな、『PRIDE』に関しては。

——いや、『PRIDE』の話を聞きに来たんですけど（笑）。なんか『U-STYLE』で話しておきたいこととかあるんですか？

田村 いや、特に話しておきたいということじゃないけど、『U-STYLE』も前向きに話を進めないといけない部分があって、若い選手とか賛同してくれる人で建て直しはしていきたいとは思う。でも、いまは今回の試合のこととか他でやることが重なって小休止って感じで。

——じゃあ、ひとつ違う話を。今春旗揚げが予定されている〝上井プロデュース〟のイベントで、田村さんが出場候補選手のひとりみたいな感じで噂されてたんですけど、それはご存知ですか？

田村 載ってたんだよね。それは誌面を通して見ました。

——実際にお話とかは？

田村 俺は直にはしてない。そういう話は来てるかもしれないけど。ただ、まだどういうプロレスかっていうのがわかんないから。まあ、〝喧嘩プロレス〟だったら『U-STYLE』と絡んでも面白いだろうし、こっちが向こうに出たり、向こうの選手がこっちに出るっていうのもできるかもしれないけど。

——『U-STYLE』の選手が新日本出身の選手とやるのは面白いかもしれないですね。

田村 うん。柴田（勝頼）とウチの佐々木（恭介）とか面白いと思うけどね。向こうの格付けがかなり上だから難しいかもしれないけど。

——田村さん自身は興味ないですか？

田村 興味なくはないけど、まだ何に興味を持てばいいのかわかんないから。試合も見てないし、誰が出るかなんかわかんないし。でも、1回見てみたいよね。

——前田さんが上井さんのアドバイザーという形でマット界に復帰しましたけど、それについてどう思いますか？

田村 上井さんのとこと関わってるわけだから、まずそれを見てみたいよね。上井さんもこだわりがあるし、（前田さんも）僕らの次元じゃないこだわりがある人だから、選手が出てくればいいかな、と。でも……まあ出て来ないと思う。まず出て来ないと思う。

——まぁ、難しいですよね。だから旗揚げ戦でいきなりボロクソ言う可能性もあるんじゃないですか？

田村 かなり高い確率であるだろうね（笑）。

——ありますか（笑）。

田村 とにかくハードル高いから。『紙プロ』は取材できるの？

——大会は問題ないと思いますよ。ただ、前田さんについては、前田さん周辺の方々からは非常に好意的にしていただいているんですけど、いかんせん本人は「歳をとって怒りが倍増してる」らしいですから、ちょっと今は難しいかと（笑）。

田村 『紙プロ』と俺は取材拒否じゃない？ 踏み入れられないもん。でも客として見たいよね。どんなもんなのか。俺、金払ってでも見たい（笑）。

——試合云々より、なにが起こるのかっていうのは楽しみですよどね。鈴木（みのる）さんも上がるって話があるんで、いろんな人間関係が複雑にからみ合いそうで（笑）。

田村 だったら面白いね。ただ……2回目はないな。

——ダハハハハ！ ないですか（笑）。

田村 長続きさせるのは相当難しいと思うよ。数回はやったとしても。

——まあ、しないでもないです（笑）。でも爆弾を抱えてるからこそ、もし噛み合わせがうまく行っちゃったら、ものすごいパワーが出るかもしれないですけどね。

田村 いや～、なさそうだな～。

——あ～あ、せっかくフォローしたのに（笑）。

田村 だから、ちゃんとチケット買って客として見に行きます。

——じゃあ、ボクはそこを取材させていただいていいですか？

田村 それなら『紙プロ』がチケット買って隣にいてよ。

——そんな数千円ケチることないじゃないですか！ でも、そうしたら、田村さんに本誌専属・上井プロレス解説員になっていただきますよ（笑）。

田村 また俺を悪者にしようとしてる？

——いえいえいえ（笑）。


田村 なんか『紙プロ』ってさ、人に言わせてその人を悪者にしようとしてるよね。もうその手はバレバレだよ！

——ダハハハハ！ まぁ、とにかくよろしくお願いします（笑）。

【05年2月12日／神奈川県登戸・U-FILE近くのカラオケボックスにて収録】



上井さんのイベントは客として見てみたいね。どんなもんなのか金払ってでも見てみたい



PRIDEの源流〜Uインターを巡る旅

金原弘光 タイ・チョーワッタナジム修行記

2·20『PRIDE.29』では、“ファイターが選ぶ闘いたくない相手ナンバー1”マウリシオ・ショーグン戦へ果敢に挑むも、残念ながら敗れてしまった金ちゃん。試合時間はわずか1分40秒だったが、この試合を迎える裏には、過酷なタイ修行など、多くのドラマがあったのだ。今回は試合前、Uインター時代から幾度となく訪れたタイ、チョーワッタナジムでの思い出を綴ってもらった。

文／金原弘光 構成・撮影／堀江ガンツ

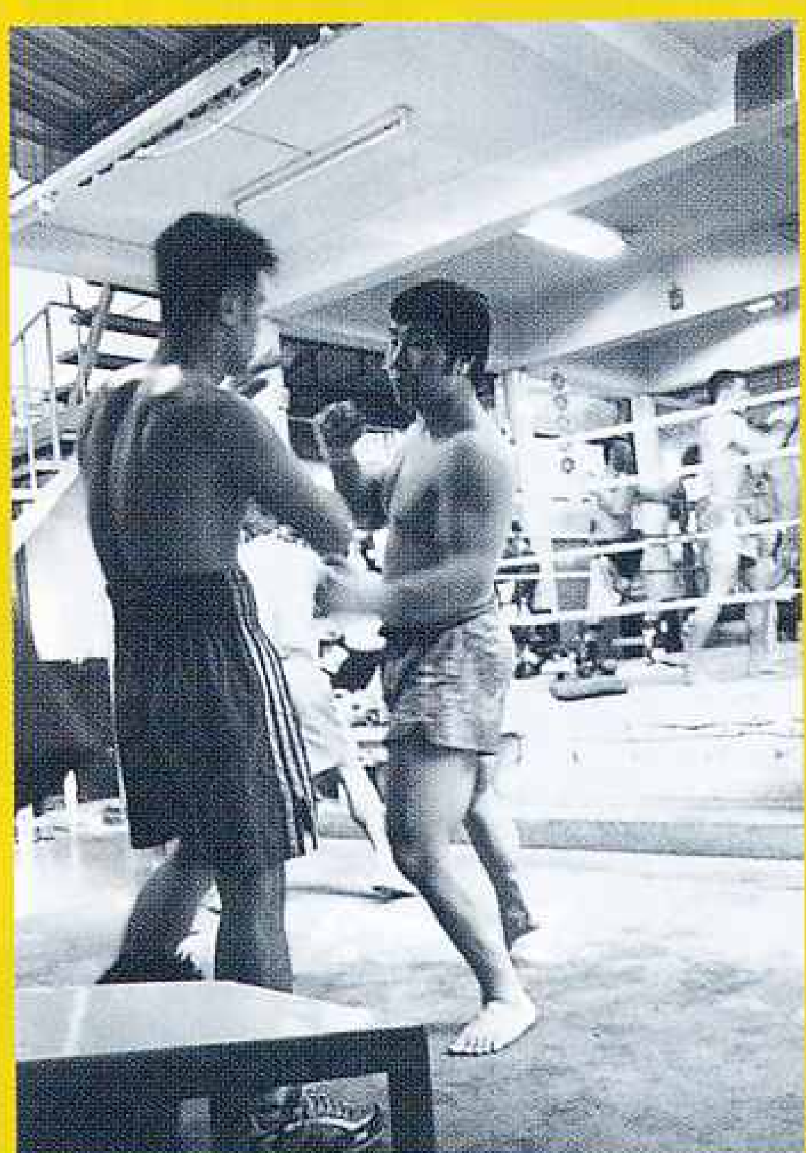
designed by hisa (Two Three)

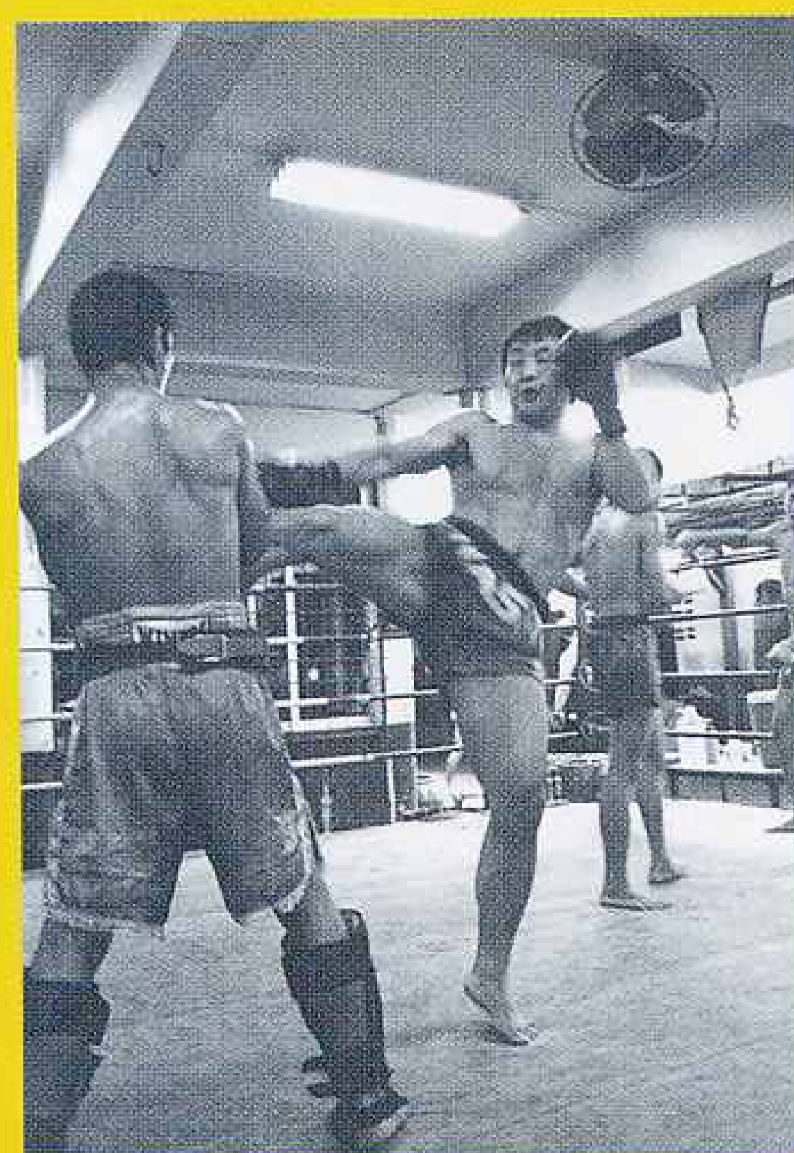
金ちゃんのMONTHLY BOYA-KING COLUMN
ドンとやってみよう！
特別版

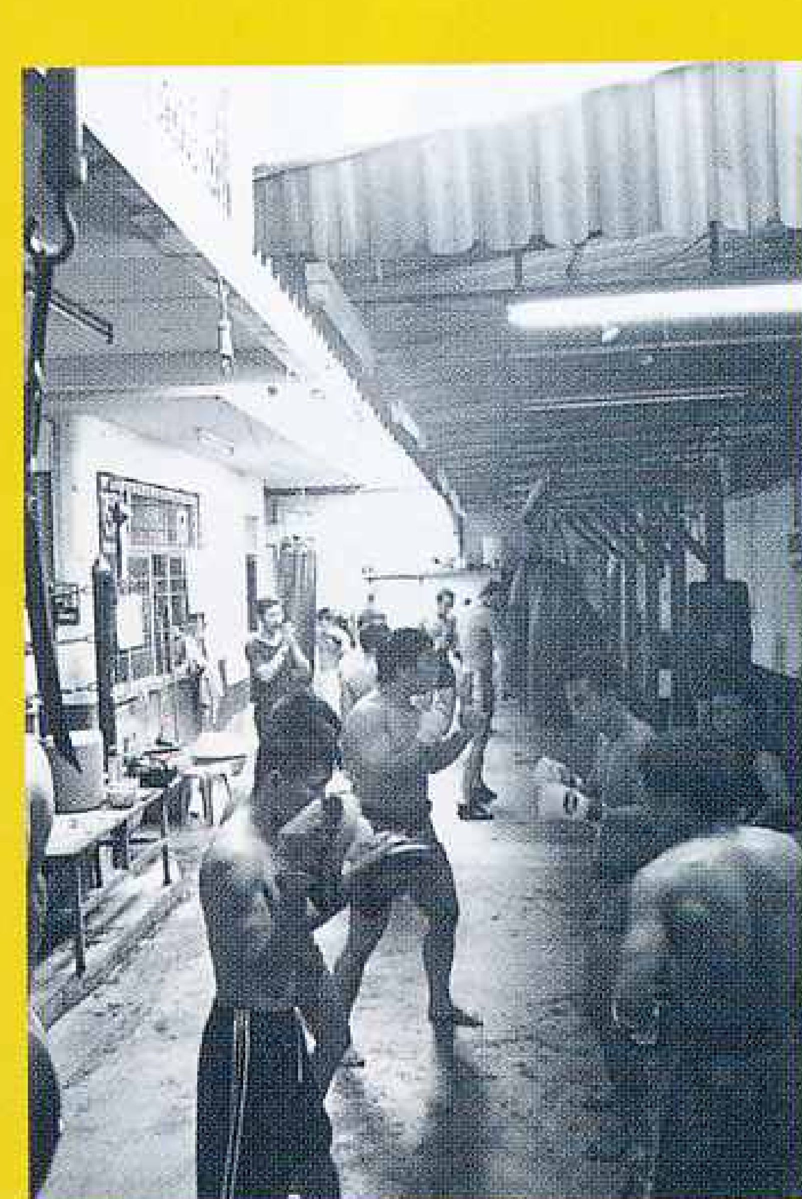
これが雑誌に載る頃にはもう終わっていると思うけど、いま2・20『PRIDE・29』のマウリシオ・ショーグン戦を前に、自分の立ち技をもう一度磨き直すためにタイに来ています。やっぱり前回、アリスター・オーフレイム戦でだらしない試合をしてしまったんで、奮起しないとダメだと思ってね。1からまた辛い思いして鍛えなおそうと思ってタイまで来たんだよ。でもやっぱり、タイ修行なんてキャリア10何年でやることじゃないよ～。ホントに自分が初めてタイに来た23～24歳ぐらいのときと同じ感じでやってるから、死ぬほどキツいけど、それぐらい辛い思いしないと強くなれないからね。

いまは毎日6時に起きて、ホテルの近くにある公園で4㎞のランニング。それからスクワット、腕立て、腹筋など午前中はフィジカルトレーニングをして、食事と昼寝をしたあと3時からはジムで練習スタート。縄跳び30分に始まり、シャドー、サンドバック、首相撲、ヒザ、それからミット打ちを5～10Rやって、懸垂と腹筋で締める感じかな。それプラス月・水・金はスパーリング。PRIDEグローブも持って来てるから、いい練習はできてると思うよ。

練習しているジムはUインターのころからお世話になっているチョーワッタナ・ジム。ここはもともとボーウィー・チョーワイクンがいたジムで、高田さんを始め、桜庭や田村さんなんかもみんなここで練習した、いわば〝タイのUインター道場〟だね。俺はここに来るのはもう7度目なんだけど、最初に来たのはまだデビュー2年目ぐらいのころで、Uインターは当時、他のプロレス団体同様「海外武者修行」っていう制度があったから、俺もその流れでタイに行ったたんだよね。ただ、他の団体と違うのは、海外に行ってもプロレスの試合をやるわけじゃなくて、一定期間、海外のジムで集中トレーニングを受けるっていう形で、若い選手は順番でビル・ロビンソンさんやルー・テーズさんのところに行ってたんだけど、そのころオレはムエタイの強さにハマッてたから、自分から志願してボーウィーのいるタイのチョーワッタナ・ジムに一ヶ月行くことになったんだよね。







Uインター時代は極限まで 練習してたつもりだったけど タイ人の練習はもっと凄かった

でもさぁ、いま思えば俺もあのときタイじゃなくて、ロビンソンさんのところに行ってたら未来も変わってたかなと思うんだけどね。やっぱり、ロビンソンさんとかルー・テーズさんのところに行くのが、Uインターの出世コースだったからさ(笑)。田村さんとか垣原さんとか高山君は、みんなロビンソンさんのところに行ってるもんな～。

それでも俺があえてタイに行ったっていうのは、当時Uインターの道場にいたボーウィーがとにかく強かったからなんだよね。それから大江(慎)さんとか俺より前にタイに行った田村さんとかからも、「タイの練習は凄いよ～」とか聞いてたから、一回体験してみたいと思ってさ。それで宮戸さんにお願いして、一ヶ月間タイに修行に行けることになったんだよ。

それで初めてタイに行ったんだけど、ちょうど当時、チョーワッタナ・ジムにはチャンピオンがいてさ、他にもレベルの高い選手がいっぱいいたの。もうミット打ち見てるだけでため息が出るくらい凄くてさ、「こりゃあ、日本人のキックボクサー勝てねぇな」と思ったよね。技術も凄いしさ、練習に対する意欲も凄いし。ジムの2階が宿舎だからさ、早朝からトレーナーが付きっきりで一日中監視されてるからね。ホント闘うための環境が出来てるんだよ。だから初めてタイに来たとき、「いままでの自分は甘かったな」と思ったよね。Uインターの道場で極限まで練習してるつもりだったけど、もっと凄いヤツがいたってね。

タイはそもそも格闘技とか選手に対する考え方が日本と全然違うんだよね。ムエタイっていうのはギャンブルだからさ、選手はアスリートというより〝馬〟なんだよね。そしてジムのオーナーが〝馬主〟で、コーチは〝調教師〟。だから選手はもう闘うためだけにいる感じなんだよ。それでタイは5歳ぐらいから公式戦に出てるからね。K-1MAXのチャンピオン、ブアカーオも21歳ぐらいなのに100試合以上経験してるでしょ？　やっぱり凄いよね。しかも安いファイトマネーでやってさ。だってチャンピオンになっても、住んでるところはジムの2階なんだから、ハングリー精神はハンパじゃないよ。

そんな中で俺も一ヶ月練習してたんだけど、やっぱりそれだけ練習してると自分の力を試したくなって、試合に出てみたいって思ったんだよね。でも、俺はムエタイをやるには身体が大きすぎて試合が組まれないって言われてたんだけど、一つだけ試合できるところがあるって聞いたんだよ。それはパタヤビーチの酒場でムエタイのショ



金原弘光 タイ・チョーワッタナジム修行記

ーをやっていて、そいつらが道場破りみたいな形でいつでも真剣勝負で相手してくれるっていう話で、そこだったら試合ができるって言われてさ。昔のカーニバル・レスリングみたいなもんだよね。

それで帰国前に実際にパタヤビーチに行って試合したんだけど、試合前に相手の名前を聞いたらさ、セコンドついてくれたタイ人がビックリして「カネハラ、大変だよ。相手は昔、ルンピニースタジアムで活躍してた凄く強い選手だよ」とか言われてさ(笑)。「え〜〜⁉」って思いながら闘って、まぁ、結局判定負けだったんだけど、自分の中では凄く充実感があってさ。それで火がついて、半年後ぐらいに今度は自費でタイに渡ったんだよね。そしてまたパタヤで試合したんだけど、そのときは引き分け。

引き分けだからまぁよしとしようと思ったんだけど、やっぱり真剣勝負とは言え、ショーのリングだから賭けの対象でもないし、ヒジも禁止だったから、なんかムエタイやった気がしなかったんだよね。そしたら、今度はオムノーイ・スタジアムっていう、タイのラジャダムナン、ルンピニーの次に大きなスタジアムで試合を組んでくれることになってさ、そのために80キロまで減量して初めてムエタイの公式戦をやって、勝つことができたんだよ。そういう経験があったから、Uインター後期にチャンプア・ゲッソンリットとキックルールで試合ができたし、『PRIDE』でミルコ戦の急なオファーが来ても対応できたんだよ。だから、若いころムエタイやったのは俺の財産だよね。

ただ、タイは旅行はともかく、練習ではもう2度と行きたくないって毎回思うんだよね。練習はキツいし、お腹は壊すし、トイレは汚いし、タイ式だから紙はないしさ。でも、タイに7回も来てるから、俺のことタイ好きだと思ってる人が結構多くて「金原さんタイ好きなんですよね？　今度タイ料理食べに行きましょう」とか言ってくれる人もいるんだけど、ホントは俺、タイ大嫌いなんだよね(笑)。自分をいじめるため、追い込むために来てるだけでさ、好き好んで来たい場所じゃないよ。精神と時の部屋みたいなもんだよね。

でも、その中でも今回ほど日本に帰りたくなったことはないよね。それぐらい毎日がキツいよ。今回、前田（日明）さんからもらったプロテインバーを日数分もって来たんだけど、毎日一本食べてさ、「あと○本。これがゼロになったら日本に帰れる」って、それを励みに日々を送ってるくらいだからね(笑)。

前田さんと言えば、俺がタイに来てる間に、ようやく前田さんが重い腰を上げたって聞いて嬉しかったよね。俺はいままでもよく前田さんと話をするんだけど、前田さんは前から「第2次リングスみたいなことやりたい」って言ってたんだけど、なかなか進まなかったからさ。ようやく表舞台に出

てくれて、ほっとしてる部分もあるし、何をやるのかわからないけど、うまくいってほしいよね。

俺自身はいま『PRIDE』と契約してるし、とにかく『PRIDE』で結果を出したいということで頭がいっぱいだから、直接的にお手伝いするというのは難しいかもしれないけど、状況が許す範囲で前田さんには協力したいよね。やっぱり前田さんには恩があるからさ。キングダムがつぶれたとき、俺を拾ってくれたのが前田さんだから、その恩には応えたいよね。タイから帰って、試合が終わったらゆっくり電話するよ。その前に俺には大仕事があるからね。

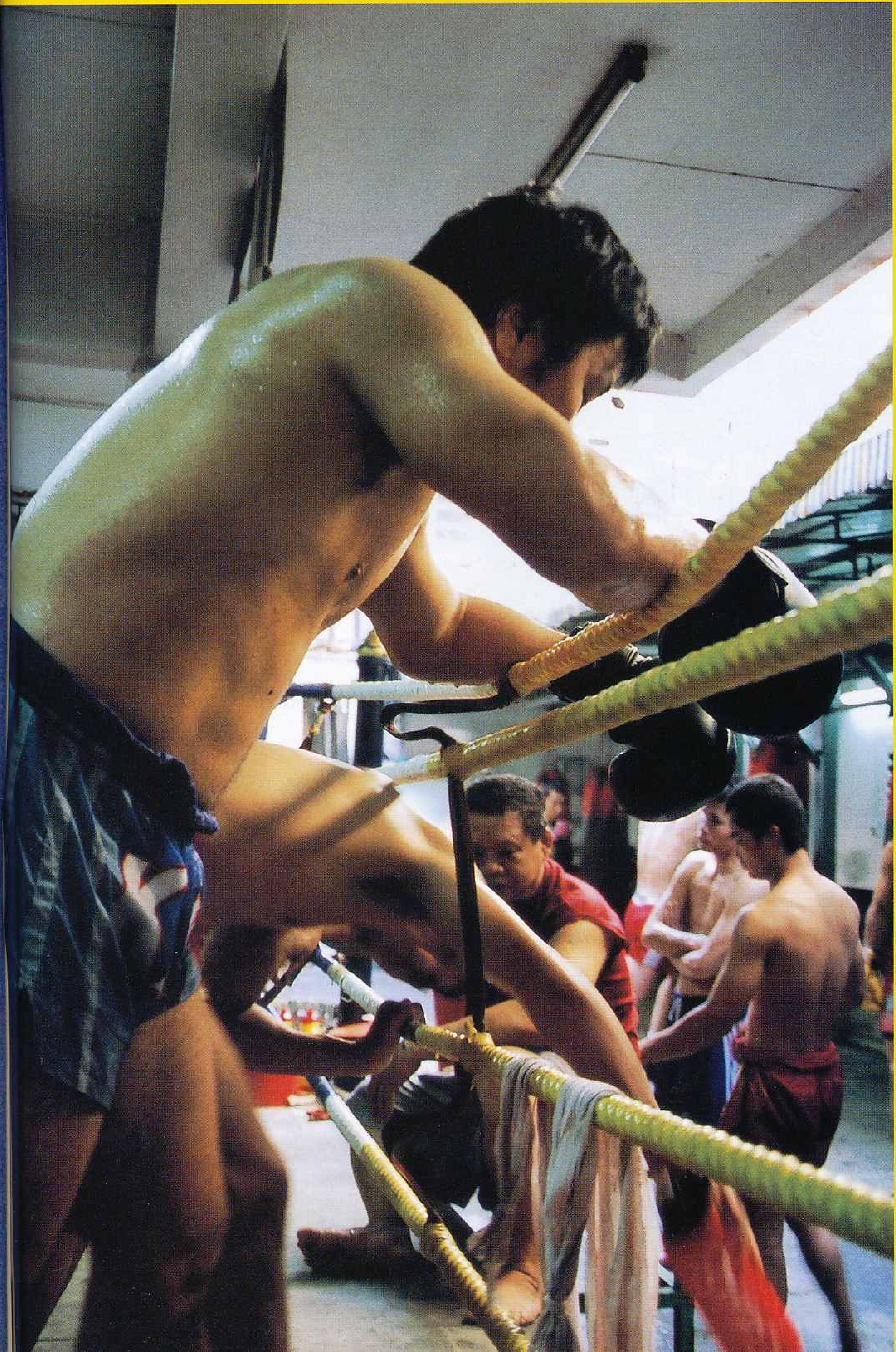
でもなぁ、今回は相手がやりがいあり過ぎだよ！　だって究極の選択でしょう。「ニンジャがいいですか、ショーグンがいいですか?」なんてさ、「うんこ味のカレーを食べるか、カレー味のうんこを食べるか?」みたいなもんでしょう（苦笑）。シュートボクセで3ヶ月修行してた高田道場の高橋（渉）君なんかも「ショーグンはヤバい」って言ってたもんね。俺はニンジャが一番ヤバいと思ってて、彼が帰ってきたとき「どうだった？　ニンジャ凄かった?」って聞いたらさ、「ニンジャよりヴァンダレイより、ショーグンがヤバいですよ」って言ってたんだよ。それを聞いてただけにさ、「ショーグンだけは絶対に嫌だ」と思ってたら、DSEから究極の選択を突きつけられて、「考える時間ください」って言ったら、次はショーグンだけになってたからね（苦笑）。

今回は瀧本選手とできるかな〜と思って「瀧本選手とできませんか?」って一応交渉もしてみたんだけど、「今回、瀧本選手は出ません」ってアッサリ言われちゃってね。せっかく対戦機運をもりあげようと思って『紙プロ』で挑発的なこと書いたのに、意味がなかったよ(笑)。

まぁ、でも逆に言えばショーグンに勝ったら凄い自信になるよね。ショーグンは滑川とか小路君とか郷野選手とか、日本人の中でもしぶとさには定評がある選手がみんな1ラウンドでKOされてるわけでしょ？　技術云々より体力が怖いよね。ミドル級の中でも体力はズバ抜けてると思うよ。


これが出るころには試合も終わってるけど、いい結果出ればいいけどね。自分を信じてやるしかないよね。まぁ今回、久しぶりにタイで修行して、若いころのひたすら「強くなりたい、勝ちたい」と思ってた気持ちが蘇って来たからさ。そういった初心を忘れずにこれからも頑張っていきます！

（金原弘光）



金原弘光 タイ・チョーワッタナジム修行記

かねはら・ひろみつ■1970年10月5日、愛知県出身。Uインター、キングダム、リングスと渡り歩いた生粋のU戦士。その実力とは裏腹に、なかなかいい思いをしないことをボヤくことから、"ボヤキング"の異名を持つ。今年こそ、『PRIDE』で本来の実力を発揮することに期待！　178cm、92kg。
http://www.hiromitsu-kanehara.com/



起爆剤か それとも 時限爆弾か？

特集

前田日明 復活

大地を揺るがしながら前田日明復活！　2002年2月リングス活動休止以来、釣りをする以外、ほとんど目立った活動をしてこなかった前田が、今春、新プロレスイベントを旗揚げする上井文彦氏のスーパーバイザーとして、まさかのプロレス界復帰。はたして前田日明はプロレス界にとって起爆剤となるのか、それとも時限爆弾なのか!?　なぜか前田と疎遠になってる『紙プロ』も37ページに渡って、前田日明という"存在"を掘り下げます！　徹底的にやりますよ、テッテイテキに!!（前田風）

浅草キッド

今回のプロレス復帰はまさに『春来る鬼』
俺たちのアキラはホントに小林旭になったよ！

いやぁ『血と骨』だよ、『血と骨』！
金俊平がこん棒持って帰ってきたよ!!





語ろう！
アキラのズンドコ大復活!!

我らが前田日明、待望の活動再開に、“前田の兵隊”であるファンの血も逆流&沸騰する今日この頃。“アキラのズンドコ応援団”こと、浅草キッドももちろん大炎上！『紙プロ』の“元リングス番”堀江ガンツと共に、前田信者にとっての“いざ、鎌倉”、「前田日明復活とは何か？」を語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　designed by hisa（Two Three）

――さて、今日はついに表舞台に復活した前田日明について大いに語っていただこうと思うんですけど……。

玉袋 いや～、ついに来たな!（と言って鞄から、前田が表紙の『週プロ』と『ゴング』を取り出す）

――あ、やっぱり買いましたか（笑）。

博士 そりゃ買うでしょう! この表紙だよ! 我らがご神体が登場してんだから。

玉袋 今朝、『ゴング』買おうと思ってコンビニ行ったら、4件回っても置いてなかったからね。売り切れたのか、最近売れてなくて置かなくなったのかはわかんねぇけどな（笑）。

――ボクも水曜日に中央線に乗ってたら、隣に座ってた人が一生懸命、『週プロ』の前田インタビューを読んでるんですよ。「やっぱり熱心なファンがいるんだなあ」って思って、その人の顔をよく見てみたらユリオカ超特Qさんでした（笑）。

玉袋 俺なんか、『ゴング』が急に巻頭大特集なんかやるから、前田が死んじゃったのかと思ったよ!

――ダハハハ! だから今回の「前田復活」はかつてプロレスに熱狂した人たちの眠っていた記憶を、一時的にせよ呼び起こすものがありますよね。

玉袋 ただ、こういう狼煙は、当然『紙プロ』で上げるもんだと思ってたんだけどなぁ。

――そうだと良かったんですけどねぇ。なぜか『紙プロ』出てこない（笑）。

博士 やっぱりさ、かつては「産業再生機構行き」って言われてた、この『紙プロ』がだね（笑）、これだけ広くてきれいな新事務所に移転して、我々を招き、見渡すと立派な社長室は設置されたが吉田豪のデスクはないと……（笑）。集合離散は世の常、流れは速いよ～。プロレス界もマスコミも一寸先は闇ですよ! その中でも前田復帰は寝耳に水、衝撃的なことだよ。

玉袋 第一、俺たちが『週プロ』『ゴング』を買ってまで読もうと思うのは、ホント久々だから。

博士 昔は新中野のデイリーストアで早売りの水曜日に契約して取り置きしてもらってたんだけどね。俺たちがラジオで「あそこのデイリーは早売りしてる」って言ったから、一時期はプロレスファンで凄く賑わって『週プロ』『ゴング』が売れまくってたから。

玉袋 ある意味、あそこのデイリーはプロレスファンの聖地だったからな。地下鉄丸の内沿線のヤツらは水道橋に行く必要ないんだから。でもさ、俺『週プロ』買わなくなってから、そこを訪ねたことがあったんだけど、俺たちが行かなくなってからパタッと売り上げが止まって、（発売日前日の）水曜日に入れるのはやめたって言ってたよ。

――ターザン退陣以降、わざわざ早売りの『週プロ』を買うなんてことはなくなりましたからね。じゃあ今回は、その頃の思いというか、寝た子を起こされたっていう感じですか?

博士 業界的にも「起こしちゃダメだ」っていう人を起こしちゃったよね。長き眠りから、巨神兵が目覚めたぞ!と（笑）

――大変な人を起こしてしまったわけですね（笑）。

博士 でも、誤解を招くかもしれないけど、ここ数年、前田が"寝ていた"っていう状況だったわけだけど、俺たちの前田的なるものの涸渇感を、十分、代替してるものがあったじゃない。

玉袋 あったあった、『PRIDE』は十分、俺たちの欲求を満たしてるからね。

俺たちは普通の社会にいない人が見たい。前田日明は小林旭でありショーケンなんだよ!（博士）

『ゴング』が急に大特集組むからこっちは前田が死んじゃったのかと思ったよ!（玉袋）

博士 だから、正直言って俺たちの中でも、もう「前田がいないと物足りない」っていう意識は消えかけてたんだよね。

玉袋 だから今回の突然の復帰は「えッ?」っていうのもあったよな。

博士 だから、マット界の起爆剤であると同時に時限爆弾が発動した感じがするんだよ。でもその時限爆破の瞬間は見たいからね。

――いつ爆発するのかハッキリ言って目が離せないですよね（笑）。

玉袋 見てみぃ! この表紙! 何が起きるかわからないよ。俺、この『ゴング』の表紙見たら、『血と骨』のポスターかと思ったもん。

――親父が家に帰ってきたと思ったら、そこら中のものを破壊しまくりそうですよね（笑）。

博士 以前、俺たちが『アキラのズンドコ応援団』っていうリングス支援コラムの連載を『フロムA』で長々とやってたけど、タイトルは、小林旭の「ズンドコ節」と、前田日明をかけてんだけど、最近、ホント前田日明は小林旭になってんだよ。

――「昔の名前で出ています」って感じですか?（笑）。

博士 違うよ!（笑）。"最後の銀幕スター"って言う、前時代的な圧倒的な存在感だよ。今回のことなんて、まるっきり『渡り鳥故郷に帰る』だしさ、『さすらい』（小林旭の自叙伝）なんか読むとホント同じだよ。そして、時限爆破の「マイトガイ」だし（笑）。だって、よく見たら顔まで同じなんだから（笑）。

玉袋 そうそう、身体つきも顔つきも小林旭なんだよな!（笑）。

博士 しかもプロレス界に復帰なんて、小林旭が自費を投じて映画を作るみたいな感じじゃない。かっての『春来る鬼』と同じで「オイオイオイ、成功できるのか?」っていう。前田の顔つきみてると、まさに鬼だし、丁度、季節は春だし、『春来る鬼』って表紙のコピーでもいいくらいだよ（笑）。

玉袋 俺も『さすらい』読んだけどさ、小林旭はまだ映画の黄金時代に凄い夢があって、思い出が汚されたくないって言ってて、「私がいま映画に復帰できるんだったら、レインボーブリッジの下をジャンボジェット機にくぐらせる」って言ってんだよ。それ実際のハイジャッカーがやらせようとしたことなのに、「それを映画化してみせる」なんて言ってるからね（笑）。

――そういう話を聞くのは凄く楽しいんですけどね（笑）。

玉袋 楽しい! でもこう言っちゃアレかもしれないけど、いまやプロレス界自体が"浅草"じゃない。かっての興行街の面影すらない、衰退しちゃってる浅草に、浅草がいい時代だった頃を知ってる芸人が帰ってきて「浅草をもう一回復興させる。いい時代の浅草に戻す」って言ってるのと同じだと思うんだけど、これは大変な作業だなって思うよ。だっていまの浅草に元気を取り戻すのは大変だぜ。そりゃ若者はディズニーランドとか、お台場とか六本木ヒルズに行っちゃうぜ。

博士 六本木ヒルズのIT長者みたく、実は前田がすでに、ロシアンマネーで『PRIDE』ごと買ってた、DSEごと資本支配してましたって言うなら話は別だけどな。

玉袋 そう、巨大スポンサーが出来た





ド迫力前田日明が表紙を飾った『ゴング』と『週プロ』。両誌ともに前田ロングインタビューが掲載されており、久々にプロレス週刊誌を買ったというかつてのプロレスファンも多かったことだろう。

今の上井さんはUWFを立ち上げたときの新間寿。俺は万里の長城が見えたよ！（博士）

語ろう！ アキラのズンドコ大復活!!

って協力じゃないもんな。

博士　堀江は堀江でも目の前にいる、前田信者のホリエモンは、いまだに一文無しだし（笑）。

——無力ですいません（笑）。そうですよね。たとえビートたけしが浅草に戻っても浅草が復活するとは思えないですもんね。だから僕らみたいな前田信者から見ても、前田の力を持ってしてもプロレス界は変わらないだろうなっていう諦めはあるんですよね。

博士　上井さんの情熱や考えっていうのは共感するし、応援したい気持ちはもちろんあるけどね。上井さんって、この間『サムライ』の『海賊男』で初めて対談したんだけど、その前に上井さんは「浅草キッドはもうプロレス側の人間じゃないから、対談したくない」って言って嫌がってたんだって。

——あ、一度断られてたんですか。

博士　でも上井さんの部下の方が「我々と同じ思いでプロレスを見てますよ」って説得してくれて、いざ、話してみたら、お互い意気投合したんだよ。だって「見たいものは何か？」っていう話をしたときの合致ぶりたるやなかったんだから。

——「理想のプロレス」が一致したわけですか。

博士　そう。上井さんのリングにはパンクラスの鈴木みのるが上がるわけでしょ？　今まで前田日明との確執もあったわけじゃない。「鈴木みのるが上がるリングに前田日明がいるってどうなんですか？」って聞いたら「それがプロレスじゃないですかァ！」だって（笑）その部分が一緒なんだよね。「いがみ合いだけで終りますか？　そこにリングがあるんですよ！」って。つまり、俺たちも諸手を挙げて万歳するのは、それが小林旭で言うところの「熱き心に」ですよ（笑）。

玉袋　でも、そりゃそれでわかるけど、無責任でもあるぜ（笑）。

——超・昭和ですよね（笑）。

博士　「アングルなんてね、机の上で考えるもんじゃないですよ！」とか言ってさ、俺たちが思ってることと一緒なんだよ。「長州力がいる、前田がいる、鈴木がいる。どう考えたって一緒にいちゃダメな者同士じゃないですか。だからリングがあるんですよ！」。こりゃあ、なるほどって思うよね。

——でも、そういう人たちが、つばぜり合いしてた80年代のプロレスって、前田も長州も若くて血気盛んだったからですよね。それを40代50代になってやれるかって言ったら……。

博士　ましてや上井さんが考えてる以上に、前田日明は絶対に、復帰と言う意味ではリングに立たないって思うじゃない。

玉袋　長州が「またげよ！」って言っても、またがないだろうな～（笑）。

博士　それなのに「猪木、長州、前田、鈴木、全員を同じリングの上に立たせる」って言ってる上井さんは、ホントUWFを立ち上げたときの新間寿だよ。俺、話聞きながら万里の長城が見えたもん！

——ダハハ！「私はプロレス界に万里の長城を築く！」ですね（笑）。上井さんのそういう夢にはボクらも凄く乗りたいんですけど、もういろんなモノを見て、いろんなことがわかっちゃったファンにとっては、「見果てぬ夢だ」って思っちゃいますよね。

玉袋　若々しくもあり、青い夢だよな！

博士　でも嫌じゃないよ。誰かが始めなきゃ。それは運動体ってわかんないから、リングに上がったときに何かが起きるかもしれないし、我々の夢としては旧リングス軍、もしくは前田軍として決起するっていう夢が常にあるじゃない。

——かつての前田道場勢やリングス・ネットワークの選手が「前田軍」として決起するのは、リングス活動停止からずっと望んでることですよね。

玉袋　ヴォルク・ハンと前田藩の御家再興だよ（笑）。

博士　上井プロレスが目指してる「プロレスと格闘技が両方できるヤツ」っていうのを一番体現してるのは、前田の弟子である横井（宏考）だと思うけど、横井は『ハッスル』もやってる手前、上井さんのとこには出れないんじゃない？　でもヴォルク・ハンの「我々は前田の兵隊だ」っていう言葉がある通り、前田日明が号令を掛ければ……っていう期待はあるじゃない。

——「いざ、鎌倉」で〝前田の兵隊〟が集結したら、これはシビレますよね（笑）。

博士　「オーシャンズ11」だか「12」だかより、この再結集はシビレますよ。そういう話を『SRS』の収録の合間に俺が横井としてたら、隣にいた長南（亮）が突然「ヴォルク・ハンって言うんだったら俺が出ますよ！」って身を乗り出してくるんだよね。そこには気持ちいい、男の夢があるじゃない。『週プロ』『ゴング』読んでても前田軍だ、柴田勝頼だ、長州だって、字面だけ見てたら一体いつの時代の話なんだって（笑）。戦国時代みたいで、血沸き肉踊るよ。この旗幟の下にダーーって兵隊が集う合戦のイメージが、『PRIDE』のリングまで雪崩れ込んで行くところまで思い浮かべると、たまんないよね。

玉袋　確かに「ウチからドンドン『PRIDE』に出していく！」って前田が言ってくれたら嬉しいけど、よく考えたら『PRIDE』にはUさん（元リングス社員で現ブラジリアン・トップチーム代理人のU女史）がいるからセコンドに付けねえし、会場にすら入れねえんじゃねえか⁉

——ダハハ！　そういえばそうですよね（笑）。

博士　じゃあ、『PRIDE』じゃなくても、『猪木祭り』みたいな形で『前田祭り』とか、そういう大イベントに旧リングス勢を集結させて、前田がマッチメイクするっていうのは見たいよね。上井さんは「ウチがやるのはあくまでプロレス」とか「マッチメイクは一切前田にやらせない」って言ってるんだけど。

——だからやっぱり第2次リングスですよね。前田ファンが望んでるのはそれですから。

玉袋　前田が帰ってきても、ただ単に懐かしさだけでファンや選手が集まる興行だったら、俺は物足りないんだよ。だって、前田日明が動くんですよ！　剛竜馬の興行じゃないんだから！（笑）

博士　この空前の格闘技ブームに、まぁその礎を作るのに、大きな役割を果たした前田日明なんだけど、そこで「プロレス回帰」じゃないだろうと、『プロレス内』というコップの中へじゃなくて、どういうアプローチでも格闘技ブームへ一石投じてもらいたいよね。

玉袋　そういう意味だと、上井さんの発言も「リングの上はあくまで『プロレス』をやります」じゃなくてね……。

博士　それだと、プロレスの定義を狭くしているでしょ。言い方一つだけど、「前田日明が帰ってきた『プロレス』では、『格闘技を凌駕したプロレス』です」であるとか、「ルールのない格闘技がプロレスです」とかね。

——この間、『紙プロHand』で「復活した前田に期待することは？」っていうアンケートを取ったんですよ。そしたらやっぱり「リングス復活」というのと「前田軍として『PRIDE』に乗り込んで欲しい」が多かったんですよ。まぁ、それ以上に多かったのが「前田の紙プロ復帰」っていう意見だったんですけどね（笑）。

博士　そりゃそうだよ。それはみんな前から言ってるし、前田ファンや『紙プロ』読者の誰もが望んでることだろうけど、いま山口編集長は〝ハッスル大統領〟ってオーちゃんから呼ばれるくらいDSEと結びつきが強い。

玉袋　オーちゃんズ11って言われてるからな（笑）。

博士　いろんな意味で時代は動いてるなあって気がするよね。

玉袋 週プロ＆ゴングに前田日明が登場しても、結局は過去の写真と記者の思い出話だけだからなぁ。今の前田日明言語の通訳者がいないのが困るよ。

博士 確かに前田日明って運動体であるし、その解説や翻訳者は必要だよ。

玉袋 戸田奈津子じゃできないしなぁ（笑）

博士 当たり前だよ！ でも『紙プロ』は、今まで見事な前田日明言語翻訳本だったんだけどなぁ。

——実際のところお二人は前田復帰に肯定的なんですか？

玉袋 見て見ぬ振りなんてできないよ！ でも、何もないんだけど、大変だっていうのはわかる。その大変さは最後まで見なきゃわかんないからさ。

博士 ただ今後、上井さんとの空中分裂もあり得ると思うよ。

玉袋 ミスター空中というよりミスター空中分裂！

——いまからそういう可能性はありますよね。前田が旗揚げ戦見たら、9割方ボロクソに言いそうだし（笑）。

博士 究極のダメ出し王だからね（笑）

玉袋 ダメ出しを受けたレスラーが「もう出ない」って言い出すかもしれねぇしな。

博士 それもややこしくなりそうだな。あとはアントニオ猪木にツバ吐く人っていないわけだから、ガ然そこが面白いし。猪木と前田の関係は小さん師匠と談志師匠の親子の争いみたいな感じがあるよね。芸談というか、イデオロギーを聞いてるだけでも見ものと言うか。

玉袋 プロレス週刊誌でも前田がずっと猪木を攻撃してくれたら面白いよ。だったら毎週買うよ。たまに猪木も何か反撃して、やり合うようになってきたら単純に読むだけで、試合よりそっちが面白れえよ。

博士 今回もインタビューで前田が「猪木さんの顔が悪相になった」って言ってたけど、「アンタもだよ！」って百人が百人つっこんだよね（笑）。

——ガハハハハ！ 確かに（笑）。

博士 まぁ悪相と言うより、顔から滲み出る、ド迫力なんだけどね。

玉袋 この『ゴング』の表紙なんてヤクザ雑誌だもん。必ず東スポに広告出す、竹書房の『月刊実話ドキュメント』～何代目組長襲名とかそういう記事に出てくる顔だよ。

——となると、これからは猪木vs前田の「仁義なき戦い」になっていくんでしょうかね（笑）。それと同時に前田vs髙田っていう図式も楽しみなんですけどね。ボクは前田がホントに一番意識してるのは髙田だと思うんですよ。絶対にジェラシーはあるはずですし。

玉袋 そりゃ『Drコトー診療所』に出てる船木に対してのジェラシーはねえだろうなあ（笑）。

——しかも髙田っていうのは、プロレスラーにとって究極の道である『PRIDE』っていうものに最初に踏み出して、いまはその本部長であると同時に、真逆の『ハッスル』でも〝総統〟に君臨してる。前田はその真ん中のプロレスっていうものを再びやろうとしてるわけですからね。

玉袋 髙田の方が振り幅が大きくなっちゃってるんだよな。

博士 でもそこはさ、前田日明っていう人は今まで、いろいろ設計図を書いてきたけど、その当初の設計図に当て込むリングを創ってきたかっていったら、そんなことはないじゃん。UWFにしたって、ルール的な設計図を書いたのは佐山聡だからね。前田日明は無軌道にリングを創るっていう形で言えば、上井さんの「プロレスをやります」っていう言葉はどこまで担保取れるかわかんないよ。だからその軌道が猪木とか髙田に向かったとき闘いの狼煙となって、旗幟鮮明に前田軍がダーッと駆け抜けるわけだよ。

玉袋 そして駆けつける途中にインリン様がいると（笑）

博士 ファイティングネットワーク・インリンが（笑）。

——そんな障害がありますか（笑）。

博士 イメージとしては戦国時代のホラ貝の音と共に決起だね。

——だから、どこまで前田が本気になるかだと思うんですよね。でも、そのためにはさっきの『春来る鬼』じゃないですけど、失敗したら負債を背負うっていうぐらいの方がいいのかなと思ったり。いまの前田の立場は、逃げ道があるというか、責任がない部分がちょっと物足りないという気がするんですよ。無責任な言い方ですけど。

博士 暗に「俺には責任がない」ってことは言ってるしね。でも、前田の場合はUWF時代は経営者がいなくなったときも意気に感じて身銭を切ってでも払っていく人だったわけじゃない。だから、そうならざるを得ない部分もあるかもしれないよ。だから今回は、リーマン・ブラザーズに株を預けたり、地獄の片道切符MSCBとか発行しないでいいわけだから前田は気楽だよ（笑）。いっそのこと、ホリエモンに前田日明を紹介したいくらいだよ。堀江ガンツじゃラチあかないだろ（笑）。

——無力ですいません（笑）。

玉袋 まあ、いずれにしても、前田が表に出てこなくて「水面下で前田は何やってんだろう？」っていうよりは、「また前田が始めたぞ！」っていう方が楽しいことは確かだよ。

博士 例え、『PRIDE』に絡んでいかないことになっても、今の「プロレス」が、竹刀でチャンバラごっこしているように見える時に、真剣をたずさえて、前田日明が鬼の形相で陣頭指揮でバシバシ鍛えるとすれば、そこから新たに生じるメンタリティーと言うか、武士道的精神性を持つ選手って、何かとてつもない型破りなものが生まれるはずでしょう。俺たちが言うところの「祭り」のなかでも、前田は「だんじり祭り」みたいに、次々と家が壊されていく様を見てるというか、そういう感じだよね。髙田延彦に比べて、前田の方は神輿の乗り方が悪くてさ、



その「熱き心で」ついに“眠れる獅子”前田日明を呼び起こした上井文彦氏。「毒薬を飲んだと思われてるでしょうけど、それでも本望！」という情熱と決意で、プロレスを蘇らせることはできるか？ まずは旗揚げ戦に注目だ！

こう言っちゃなんだけど〝浅草〟をもう一回復興させるってのは大変な作業だと思うよ。（玉袋）

何回も民家に突っ込んでは、おっこちやうんだけど、「だけど前田さんじゃないとダメだ」って、また神輿に乗せるという面倒な馬鹿を厭わない男気というか（笑）。

――ホント嫌でも周りに影響を与えますよね（笑）。だからボクなんかも最初に「前田復活」って聞いたとき、期待と不安が入り交じった妙な胸騒ぎがして、なんか台風が来る直前と同じ感覚、『台風クラブ』みたい妙にハイな気分になりましたからねぇ（笑）。

博士 俺も前田の「歳をとるたびに恨みが増す」っていう発言読んで、戦慄を覚えたよ。

玉袋 やっぱ、これは『血と骨』だよ（笑）。

博士 ホント、プロレスという実家に棍棒持った金俊平が帰ってきたって感じがする。

玉袋 そりゃ子供たちとか家族は「うわっ帰って来た！」ってなるよな。

博士 でも、前田日明に『血と骨』の話をしたら「俺の親父はもっと凄かった」って言ってたけどね（笑）。

――そこで張り合うのがさすが前田日明ですよね（笑）。そういえば、最初に上井さんとやった記者会見のとき、会見場に現れた前田は、席につくまでにカメラマンとか記者の顔を一人ずつ睨みつけてから座ったらしいんですよ。近来稀に見る緊張感に包まれた会見だったって（笑）。

玉袋 今回インタビューした『週プロ』の記者もどやされてたもんね。「頭悪い質問すんな！」って。

博士 でも俺たちはそういう前田も見たいもんなぁ（笑）だから俺たちが何で『サムライTV』で『海賊男』をやり始めたかっていうと、「消息不明の前田日明に会いたい」、「前田日明にインタビューする番組を創りたい」っていうコンセプトだからね。

――それで第一回目のゲストは前田日明だったんですか。

博士 やっぱりさ、ああいう普通の社会にいないような、いきり立っている人を見たいじゃない。だから前田日明って小林旭でもあり、ショーケンみたいでもあるんだよ！

――ダハハハ！ 前田もショーケンも「私的な事件簿」には事欠かないですからね（笑）。

玉袋 いまやショーケンも絶滅寸前だしなぁ。あびる優も活動休止だし。

博士 あびる優は関係ないだろ！（笑）。でも、前田にしてみれば、「PRIDE＝あびる優」だからな。選手を一人二人万引きされたならまだしも、ダンボールごとダースでもっていきやがって店（リングス）潰れたと。万引きの限度超えとるわ！許さん！と（笑）。

玉袋 あびる優の優はUWFのUじゃなかった（笑）。

博士 でも、プロレス雑誌の写真とか見てても、前田は動物園でいうところの肉食獣に見えるけど、飼いならされてる感じじゃなくて、ガルルルって飢えてる感じが凄いするもんね。

玉袋 もう「悪かった！」って謝りたくなるよ。

博士 完全な肉食獣だから。ライオンの迫力を持ってる人間だよね。

玉袋 まぁ、ライオンマークこそが新日本の象徴なわけだから、一番の新日本プロレスイズムの体現者でもあったんだけどな。

博士 そして上井さんの狂ってるところは、その前田日明がリングに立つ幻想を今も見ちゃってるとこなんだよね。やっぱり「狂ってこそ花」だよ。「何でこの人って業界で、こんなに評価が高いんだろう？」ってずっと思ってたけど、会ってみて理解できたよ、今や業界に失われた「熱き心」で、プロレスを担う気概の持ち主だよ。

――最近そういう夢の見方って忘れてましたもんね。

博士 なかなかできないよお！ あれだけ、リスクをとれない。

玉袋 だけどこの人が来たら夢は夢でも悪夢だよ。フレディだぜ。

――トラウマに残るような人ですよねえ（笑）。

玉袋 俺なんて実際、前田が坂田をボコボコにする裏ビデオ見てから、何度もそれが夢に出て来てるから！ あれ考えると、なかなか前田のいるリングに選手は上がってこないと思うんだけどなぁ〜。

博士 だから上井プロレスって構築感はないとは思うんだよ。じゃあ、どこに期待してるかって言ったら、破壊されるものが見たいというか、それは凄い事故現場を見たい感覚と一緒なんだよね。でも前田日明っていう人は設計図を書いても、そこを破壊して二次的な産物っていう部分でやってく人だから、そこを期待したいよ。この不協和音の中できっちり構築したものができるとは、とても思えないから。しかし、そのイビツな音色のメロディー、バックステージの勢力争いを含めて、そこに立ち上がるアナーキーな無秩序な闘いこそ、「プロレス」の原点だしね。

玉袋 ややこしくなってきたけど、ややこしいから面白いんだよな。とにかく上井プロレスの第一回目を見てみようっていう感じだよね。それしかねえだろ。

――ホントそうですよね。良きにせよ悪しきにせよ、旗揚げ前からこれだけ語れるイベントもないですからね。っていうか、旗揚げの日時や会場すら決まってない（笑）。

玉袋 あとは谷川（貞治）さんがどう接触してくるかが気になるな。上井＆谷川ラインで。先月号の『紙プロ』で「再会」なんていう日標立ててたけど、ありゃ意味深だよな。あの人だったら前田を上手く取り込みそうな気がするけど。

博士 そこに猪木がどう絡んでくるのか？ 上井さんの言うとおり、「本物のプロレスラーが揃えばアングルはいらないんですよ」って、その通りだよ！ 大事なのは、今、前田日明の名の下にリスクを恐れず賽を投げた、その「熱き心に」、心意気とロマンを持って集うことだよ！

玉袋 まぁ、どっちにせよ、今後が見逃せねぇや。

――では、『紙プロ』も少し離れたところから、今後の動向を見守っていきたいと思います（笑）。今日はありがとうございました！

【05年2月17日／紙プロ編集部にて収録】



語ろう！
アキラのズンドコ
大復活!!

特集 前田日明 復活



前田日明という“劇薬”を飲み込んだ 平成の仕掛け人とは何者か？

聞き手／ジャン斎藤
撮影／平工幸雄
designed by bun-chan (Two Three)

本誌初登場!!



新日本は眼中になし!! “上井プロレス”の目指す方向とは？

上井文彦

前田日明を担ぎ出した"平成の仕掛け人"とは何者か？　新日本プロレスの執行役員（いわゆるプロデューサー）時代、アルティメット・クラッシュの導入やＫ－１との交流等、格闘技路線に傾倒し、"強い新日本プロレス"の復興に力を入れていた上井文彦（うわい・ふみひこ）氏が、その燃え上がる野望を本誌に語ってくれた。上井氏は昨年10月、電撃的に新日本を退社。マット界に幅広い人脈を持つ氏だけにその後の動向が注目されていたが、有限会社ビックマウスを設立し、プロレスイベントを定期的に開催することに。そして、久しく表舞台から姿を消していた、あの前田日明をアドバイザーとして迎え入れるビッグサプライズをやってのけた！　上井氏は、はたしてどのような"プロレス"を確立しようとしているのか――？　タイガー戸口もビックリの、その"ビッグマウス"に耳を傾けてみよう！

――今日は、いよいよ発進間近に迫った"上井プロレス"はもちろんのこと、上井さんに協力を表明された前田日明さんについてもお伺いしたいと思っております。

上井　はい。

――まず初めに、上井さんが昨年の10月、新日本プロレスを辞められたことから聞かせてください。新日本の"プロデューサー"だった上井さんが、電撃的に辞表を出されたのはどういう理由があったんですか？

上井　それを喋ることはできないですね。一昨日、浅草キッドさんの『海賊男』という番組（サムライＴＶ）に出たんですけど、そこでも同じようなこと聞かれてね。辞表を出したことまでは喋りましたけど、辞めた理由を外に向けては言えないですよ。

――それは胸の中に秘めておくべきだという考えがあるわけですか？

上井　個人的な関係の仲では言いますよ。でも電波や紙面を使って言うべきことじゃない。そういうことを一切言わないのは自分の流儀ですよね。

――理由は言えないにしろ、上井さんが目指していたプロレスを新日本のリングではできくなくなったことが関係しているんでしょうか？

上井　その部分も聞いてほしくないですね。そこについても、ボクは言いたくない。

――では、新日本を辞める際に、そのあとのプランについて何かしら考えはあったんですか？　今回の前田さんのことを含めて。

上井　何もないですよ。だって勢いで辞めてるところもあるんだから（笑）。

――勢いで飛び出しましたか（笑）。

上井　だから何もしないで、ずっと頭空っぽにして過ごしてました。辞めてから会う人会う人に「表情が明るくなったね」「悲壮感がなくなりましたね」って言われたんだけど、辞めても何も決まってないんだから、いまのほうが悲壮感あるだろう！　って思ったんだけど（笑）。

――それだけ新日本時代に背負っていたものが大きかったということですよね。

上井　いや、そんなことないですよ。自分のポジションで言えば、当たり前の仕事だと思ってましたから。ボクはね、会社の社長というのは、一番働かないといけないと思ってるんですよ。ひょっとしたら、社長の右腕はそれ以上に働かないといけない。ボクは新日本の"プロデューサー"だったわけだから、当然働かないといけないわけじゃないですか。

――やって当たり前の世界だった。

上井　そう。ボクには働いた感覚はない。

――でも歴代の新日本のプロデューサーたちの時代と比べてマット界の状況は多様化しているし、その中で上井さんが手がけてきた仕事ってものすごく幅広いですよね。魔界倶楽部やフリーランサーの大規模投入、アルティメット・クラッシュ、Ｋ－１やパンクラスとの交流まで。

上井　みんな言いましたね。「上井は一人で仕事を抱えている」と。でもね、他の人ができることじゃないから。だって渉外という役割は、相手と会って初めて仕事が成立するわけですよ。ボクがこう言ってましたよって他の人が相手に伝えて、仕事が成り立つと思います？

――誤解が生まれてもおかしくないですね。

上井　だからボクは現場主義。実際に会って話をするし、そうやってある程度のかたちを作りあげていくわけですよ。それをね、「上井が一人で仕事を抱えてる」なんて言われても……できる人間が他にいないんだから！

――任せられる人間は、新日本にいなかったわけですか？

上井　現実にできるんだったら、いまできてるわけでしょ？　いま新日本のリングで動いていることは、全部ボクが風穴を開けたことばかりですよ。

――高山さんやみのるさん、天龍さんの活躍にしても、上井さんが手掛けた仕事ですね。長州さんの復帰も上井さんが動かれていたとか。

上井　長州さんのこと、新日本は上手く使いこなせてないでしょ。変な話、いまの新日本プロレスはボクがやってきたことの熱を冷ましてるだけなんじゃないんですか？　ボクのやり方に

上井は"毒"を飲んでもう死ぬと思われている
でもね、仮にそうなっても納得ですよ、俺は!!



携帯サイト『紙のプロレスＨａｎｄ』

前田日明アンケート

（DOCOMO au／TU-KA vodafone にて実施）

Q1 前田日明のプロレス界復帰について、どう思いますか？

①よく表舞台に戻ってきてくれた……32.4％（638票）
②嬉しいが、格闘技界にきてほしかった……24.8％（489票）
③前田日明のかかわるプロレスなら見たい……21.4％（422票）
④旧ＵＷＦ同士、上井さんと何をするか楽しみ……6.6％（130票）
⑤リングス以外で戻ってきてほしくなかった……5.6％（111票）
⑥戻ってくるなら現役復帰してほしかった……5％（99票）
⑦戻って来ずに、伝説化してほしかった……2.9％（57票）
⑧元新日本の上井さんに協力の形は残念……1.3％（24票）

Q2 前田日明＆上井文彦"タッグ"に、何を期待しますか？

●前田の復帰に感じるのは、今更帰って来たとしてもブレイクする可能性なし（ともひで）
●何も期待しない。何もファンの望み通りにならない日明兄さんが最高ッ！（もり）
●破天荒！　昔のレスラーが醸し出し

対して批判があったんだから、新しいことを大手を振ってやればいいと思いますよ。

——実際、上井さんは渉外担当として、あらゆる団体に顔を出して、どの会場でも熱心に試合を観てますよね。こんな団体の試合を第一試合から立ち見で！ という上井さんの姿をよく目撃してるんですけど。

上井 熱心に観てるというか、ボクからすると選手は財産なわけですよ。パッと観て、ダイヤの原石を見つけ出さないといけない。ボクはプロレスの本質はわからないですよ、プロレスラーじゃないから。ボクはあくまでも見る側の立場だけど、見る側の立場としてひらめくことも多いわけ。中邑真輔だって、俺、彼の練習を見たわけじゃないから。真輔は身体は大きいし、顔もいい。一瞬のひらめきですよ。

——ボクが一番ビックリしたのは、上井さんがU-STYLEのクラフターMを指して「円の動きが素晴らしい！」って絶賛したことなんですよ。当時の業界最大手団体のプロデューサーがまさかクラフターMを誉めるとは思わなくて（笑）。



1月23日の会見で久しぶりに表舞台に姿を現した前田日明。「輝きのあるプロレス、控室の選手、レフェリー、スタッフ、全員が緊張感を持ってリングを見守るような、そういう闘いに力を貸したい」「いまのプロレスはおちゃらけですね。上井さんが何を目指すかって聞いたら『ホントのストロングスタイルのレスラーを育ててやっていきたい。総合格闘技に出ても勝てる選手』と。そういう部分だったら協力しますっていうのを話し合った」とコメント。

上井 だってね、ボクは大阪プロレスをチケット買って観る人間ですよ。ただ単にプロレスが大好きで幅広く見ているところもある。つまりプロレスが趣味なんですよ（笑）。

——趣味が高じて前田日明を引っ張りだしちゃうわけですね。

上井 趣味でやってるような部分もあるから、つらいと思ったことはないんですよ。でも、昔のことをいえば、新日本プロレスが最高に調子いいときは——ボクがまだ営業部だったころ——四日間ゴルフして三日間麻雀三昧でOKだったんですよ。

——営業の人間がそれだけ何もしないでチケットが売れていたということですか？

上井 それもあるし、仕事をしたら文句を言われましたからね！

——仕事をすると文句を言われる会社（笑）。

上井 永島（勝司）さんや長州（力）さんに文句を言われるわけですよ。「オマエがマッチメイクに顔を出すな！」と。

——営業の立場からチケットが売れそうなカードの提案をすると、当時現場を仕切っていた長州さんたちに怒られたわけですね。

上井 だから（シリーズの）日程を組んでいれば良かったんですよ、俺。日程組むのなんか簡単にできますからね。一年の仕事をするのが1月と2月だけ。

——え？ 働くのは1月と2月だけですか!?

上井 そう。あとはゴルフだぁ、麻雀だぁって（笑）。

——はぁ〜、すごい会社ですね（笑）。

上井 昔はそれぐらい勢いがあったわけですよ、新日本プロレス。

——それが長州さんや永島さんが新日本を離れたことをきっかけに、上井さんが渉外担当として中枢を担うことになるわけですが、いきなりスイッチって入るもんですか？

上井 入りますよ。それはユニバーサル（第一次UWF）のときに、朝から晩まで働くのは当たり前なんだ、休みなんかない！ という経験をしてるからなんですよ。

——当時は給料も出なかったそうですね。

上井 出ない。ウソやない。ホントに出てないですからね。その経験があるから、2年3ヶ月のあいだ、新日本の渉外担当をやってこれたんですよ。

——渉外になられた当初は、どういうことを仕掛けていきたいと思ったんですか？

上井 よりたくさんの人たちと会って話さないといけないと思いましたね。そして、どんなカードをファンが見たいかと考えたときに、まずは高阪（剛）選手やエンセン井上さんを新日本で見てみたい！ という自分なりの願望を実現しようと思ったんです。滑川（康仁）君なんて絶対にクレージー・ドックスにしたかったんですよ。

——クレージー・ドックスというと、小原（道由）さんや後藤（達俊）さんたちのヒールユニットですね。

上井 ボクね、美濃輪（育久）選手と滑川君は、プロレスのリングに来たらすっごい人気出ると思う。これだけはハッキリ言いますよ！

——2人とも雰囲気がある選手ですよね。

上井 イケてるよ！ 誰が見たってね、素がプロレスラーだもん。滑川君なんて見るからに危ないもん。危ないよ！

——そういう意味でいうと、前田日明という存在もぜひ引っ張り出したい人間だったんですか？

上井 そう。まずこの業界で何をしようかなと考えたときにとにかくインパクトあることをやらないといけない。ボクにはプロレスがこのまじゃ危ないという危機感はあったわけですよ。いまはNOAHさんの一人勝ち状態だと言われるけれど、NOAHさんは日本武道館では入りますよ。で

特集 前田日明 復活

●……ていた殺気やオーラのある選手の発掘・育成、点ではなく、線となる刺激ある興行を！（小林大祐）

●プロレスならではの「闘い」を提供してほしい（ハブ恐怖症）

●何をしても歓迎（はなちゃん）

●UWFとは違う試合展開、選手の個性が見られる大会。ナメられない説得力のあるプロレス（スパークリングフラッシュ2005）

●帰って来てくれただけでも、感無量！（つちのこ）

●低迷したプロレス界の起爆剤になって欲しい（殲滅王）

●ガチンコプロレスの完成。いわば第二次UWFスタイルのガチンコ（ユウヒ）

●旧UWFのような新しいムーブメントの胎動を期待したい（ともえ）

●上井はどうでもいいから、とりあえずリングス復活がみたい（ヒサシッド）

●ハッスルでミスターXとして髙田総統ばりに登場してもらい、外敵軍団を束ね、ハッスル軍・モンスター軍と三つ巴の軍団抗争（猪木はダメでしょ）

●上井派を抜けて、新たな格闘技団体を設立して欲しい！（ケンジ584）

●強い外人と日本人レスラーのムチャなマッチメイク。「なんでこんな試合しなきゃいけないんだ！」位のハードなのを（エディ）

●このタッグに純プロレスフリー四天王を絡めて一体何を期待できよう

も地方巡業に関しては苦戦してるところもあるって聞いてます。プロレスが隆盛を誇ってる時代じゃないんです。ボクはこれまでプロレス業界にお世話になってるんで、これからは恩返しをしないといけない。プロレスへの恩返しをしたい。プロレスの復興をしたい。いまK－1や『PRIDE』が注目を浴びているけれど、プロレスにも注目を浴びせないといけない。そう考えたときに、これはもう前田日明しかないと思ったんですよ!! そしてボクしか前田さんを引っ張り出せる人間はいないと！

——プロレス復興のためには前田日明が必要だった、と。

上井　そうですね。ボクには三つやり残したことがある。前田日明を新日本に呼び戻すことができなかったこと。船木誠勝は引退したけど、船木優治（以前のリングネーム）は引退してないと思ってるから、ぜひ山田恵一（ライガー）とやらせたかった。

——船木vs山田！　掌底でバチバチやり合うわけですか。

上井　緑色のレガースをはいて、カニのようにシャカシャカシャカシャカ動く船木さんがボクは見たかった！　船木さん本人もその気になりかけたときもあったんだけど。もうひとつは田村潔司選手！　俺、田村選手と田中稔選手のカードが見たかったんだよ!!

——し、渋いカードですね、それは。で、やり残したことのひとつである前田さんの復帰をついに実現させた、と。

上井　ボクはね、前田日明とは2年間、縁が切れてたんですよ。前田日明と電話で言い合いになってしまってね。俺のこと、講演会でどーのこーのって言ったという話を聞いて、それで前田さんに電話して「俺は心にやましいことはない！」って言ったら、売り言葉に買い言葉。それでダメになった。

——何かしらの誤解だったわけですか？

上井　ボクはそう思ってますよ。誰かが彼にあらぬことを御注進したんじゃないですか。

——そんな関係だった前田さんをこのタイミングで表舞台に導いたのはホントに凄いことですよ！

上井　自分では凄いことをしたとは思っていないよ。

——いや、凄いことです（笑）。

上井　灯台元暗しなのかもしれないね。話を前後するけど、前田さんと横浜の中華料理屋で久しぶりに会って話をしてたら、彼、「上井さん、俺、昔は素直でしたよね」って言うんですよ。続けて「普通の人はね、年を取れば丸くなる。





上井氏の剛腕ぶりは、新日本初の純・総合格闘技アルティメット・クラッシュを導入したことでも知られ、「作り試合禁止」などの条文が盛り込まれたルールブックは大きな反響を呼んだ。また、上井氏の格闘技路線は、K-1、パンクラスとの交流にも表れている。

ボクは憎しみが倍増するんですよ」と。

——憎しみが倍増する前田日明!!

上井　前田さんがいま置かれた状況は、もちろん彼にも責任があるんだけど、周りに置かされてしまった状況もあると思うんです。そして、前田さんに誤解されてる人もいっぱいいると思う。ボクが知ってる人も嫌われてますからね。そういう状況の中で、前田さんが不幸な思いをしている。前田さんの周りの人たちも不幸な思いをしている。前田日明を引っ張り出した者の責任として、そのほつれた糸を解いて一本にしてあげて、やぁやぁやぁと握手できる状態にしないといけない。どうせ大半の人はね、上井と前田、きっと割れるよと思ってるはずでしょうけど、絶対に。

——多くのファンや関係者は、結局、喧嘩別れになるんじゃないかと危惧しているところはありますね。

上井　上井は〝毒〟を飲んだって思ってる。もうすぐ死ぬよって（笑）。でもね、仮にそうなっても納得ですよ、俺は!!

——それぐらいの覚悟があるってことですね。

上井　じゃなかったら、前田日明を引っ張り出した意味はないですよ。暴れ馬に乗っちゃったわけだから。

——暴れ馬！

上井　暴れ馬。ホント暴れ馬ですよ。いまの前田さんには、辺り周辺2メートルに圧迫感がある。本当に怖いよ！　前田さんが昔と比べて強

か。点は打てても線は引けない（いしかわはるひこ）

●もういい加減、プロ格なるジャンルを創造できると思うのはやめた方がいいと思う（ウィルソン）

●何を期待するかと聞かれても…何するかイマイチよくわからん。ただ赤ブレザー着て葉巻くわえてリングサイドに座っていて、ショボい試合した選手を無言でシバくだけでも良いかも（ゆかまろ）

●最初はうまくいくが仲間割れ（スーパークリングフラッシュ）

●編集長を顧問に迎えてほしい（殺し）

●ブライドに対抗できるようなイベント（ボス）

●二人にはハッスルしてほしい（だお）

●ワクワク出来て怖いプロレス。髙田総統と絡んじゃっても面白いと思うけど（亀野郎）

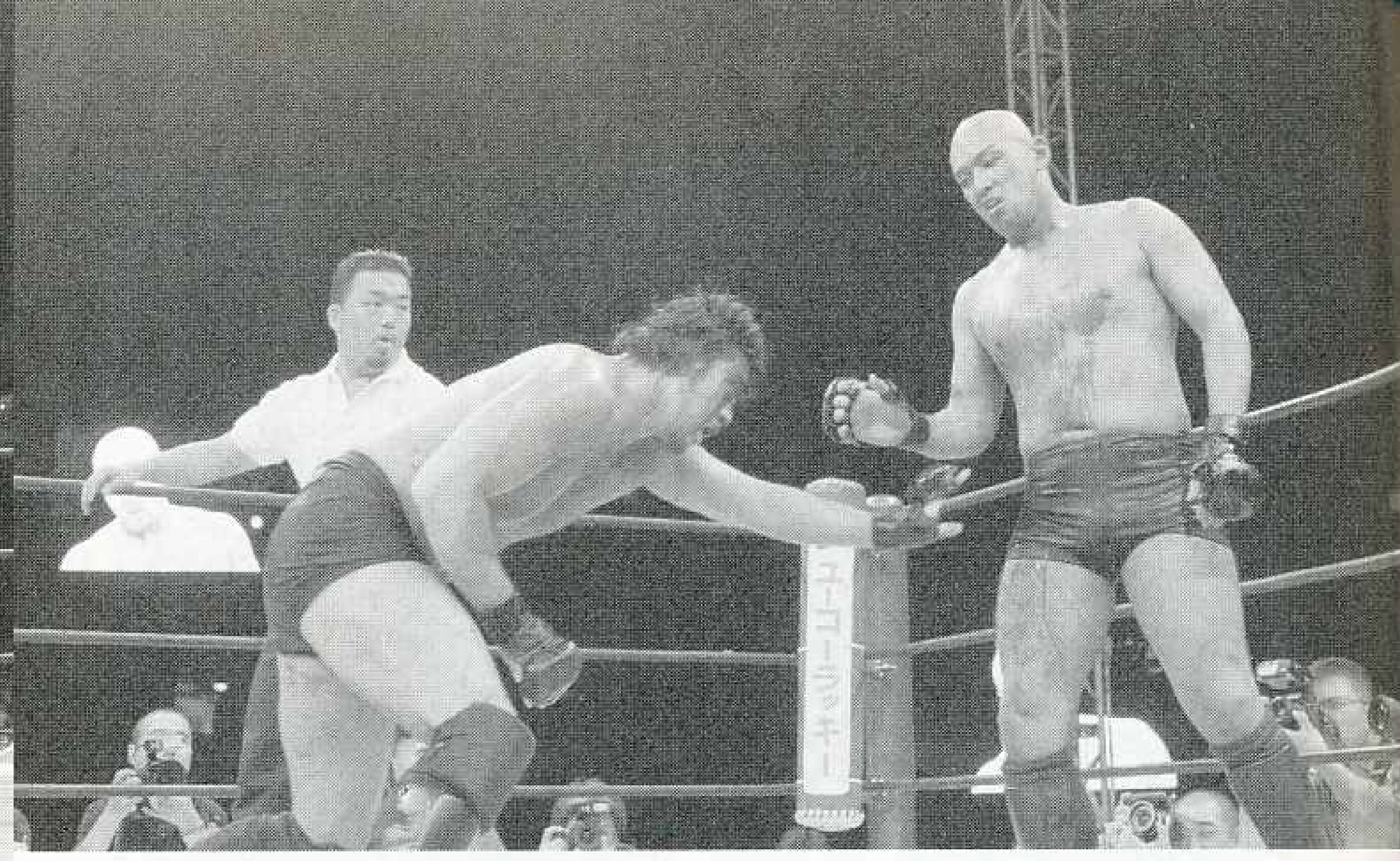
●正直期待はない。前田はプロレスの外から物を言う人間。今は中から変えないとダメ（マクル6）

●UWFが戻ってくるような気がする。しかし時代が総格全盛なので激しさはなかなか体現が難しそうだ。中途半端は止めたほうが良い（諸岡寿二）

●プロレスの復権。プロレスも総合も強く巧いメシアのようなスターの育成。強いプロフェッショナル・レスリングを（マサルンバ）

●真剣勝負。アルティメットクラッシュルールでも何でもいいんで。後はシュートか？　と思わせる様なプロレス（レッドキング39）





高山善廣、佐々木健介、鈴木みのる、天龍源一郎の“外敵四天王”や村上＆柴田など、4月に発進予定の“上井プロレス”に参戦が予定される選手たちは、新日本時代から上井氏が好んで起用していた選手たちばかりだ。K－1からルートからMMAファイターが参戦するという話も浮上している。

いま新日本のリングで動いていることは、全部ボクが風穴を開けたことばかりですよ

烈に変わったのはそこだね。ボクが知ってるころの前田日明には圧迫感がなかったもん。

――ユニバーサル時代に苦楽をともにされていたからこそ、前田さんが上井さんの話に応じた部分もあるわけですよね。

上井　それはあるでしょう。ユニバーサルのときね、ボクが誰かにお金を借りるときに、前田日明だけが一緒に付いてきてくれたんですよ。彼だけが一緒に頭を下げてくれた。リングスが後楽園ホールで興行をやるとき、営業を紹介したのは自分でしたし、昔からの信頼関係はあったと思いますよ。

――その前田さんは〝上井プロレス〟ではどのような位置付けになるんですか？

上井　イベントというか、ボク個人の位置付けだから。

――つまり、上井さんの相談役になるわけですか？

上井　そうなりますね。

――前田さんが〝上井プロレス〟のリングで格闘技興行をやるという話が一部で報道されていますが……。

上井　いまのところそういう話はまったくないですね。ボクはプロレスがやりたいんです。将来的にはアルティメット・クラッシュのような試合もやりたいと思ってますよ。それはいますぐにはできることじゃない。選手を育てないといけないし、『PRIDE』を見ればわかりますけど、（総合格闘技の）レベルはホント高くなってますよ。UFCなんか太刀打ちできないレベルにまで到達している。でも『PRIDE・1』の頃はまったくダメだったでしょ？　ボクらもコツコツやっていきますよ。

――それに前田さんが助言するかたちになるわけですか？

上井　彼が重い腰を動かしたのは、「総合格闘技に出て恥をかかないプロレスラーをつくりたいんだ」というボクの言葉なんです。これが殺し文句になったんだと思うんですよね。前田さんは「それだったら手伝うよ」と。初めは「上井さんがやるんだったらテレビの解説ぐらいやるよ」って言ったんですけど、次に会ったときに「やっぱりプロレスの解説はできない」と。俺、その気でいたからさ、「え〜〜〜っ！」ってなっちゃってね（笑）。たとえば「高阪とLYOTOの試合をなら解説できる」とは言うんですよ。

――総合格闘技関連なら協力できる。前田さんはあまりプロレスとは関わりたくないとか。

上井　関わりたくないというか、自分の心の中で何か崩したくないものがあるんじゃないですか？　頑固なまでに。で、ボクが「上井文彦が立ち上げるときに前田日明は何をしてくれるの？」って聞いたら、前田一流のプロレス論をバ〜〜っと、もう焼き肉も食わないで展開したわけですよ。その内容というのがね、斉藤さん、誰の話と一緒だと思います？

――アントニオ猪木、ですか？

上井　そう！　言うことがアントニオ猪木と一緒。それを前田日明に言ったら、彼は「当たり前でしょ。俺は猪木さんに言われた通りにやってきた。俺は変節してない。変節したのは猪木さんだ」と。前田さんは、会長（猪木）が滝沢秀典（ジャニーズ）と試合をしたことを本気で怒っていて、「どっかで見つけて喰らわしてやろうかと思った」って言ってたんだけど。「俺が一番、アントニオ猪木のことがわかってる」とも言ってました。全部が全部、アントニオ猪木を否定してるわけじゃないんですよ。ファンは全否定した前田日明が見たいでしょうけど（笑）。

――間違いないですね（笑）。前田さんが復帰したことで、マスコミやファンを含めていろんな妄想や憶測が駆けめぐってるんですよ。

上井　そういう意味では、ボクがひとつ成功したと思っているのは、前田日明を引っ張り出したことで、紙の媒体が売れたことですよ。いまはどこも売れてないでしょ？

――週刊専門誌はどこも大変らしいですね。

上井　プロレスは哲学ができますからね。だから紙で読んでも面白い。ボクはプロレスを読ませたいとも思って



●最近はPRIDEも試合の展開が見えるから、例えば「V・ハンVS天龍」みたいな何が起こるか想像するだけで楽しいマッチメークを希望（ポンック）

●基本的に前田がらみなら何でも。でもリングスが一番みたい（リングス前田派）

●びっくりするような選手をPRIDEに送りこんでほしい。最強を決める舞台はPRIDEとUFCで十分です（カツヤサン）

●コテコテのストロングスタイル。昭和のプロレスラーみたいな体のデカイ選手が集まったプロレスが見たい（キャプチュード）

●ハッスルとのVT対抗戦（ガチガリ君）

●新日本を消し去ってください（茂）

●上井氏のもとに集まるレスラーは全員純プロレスで生きるメンバー。果たして前田はどのように関わるのか。客寄せパンダになるのか。復帰場所を誤ったかもしれない（誉麿）

●緊張感ムンムンの殺気ある戦いを今のプロレスファン、そしてレスラーにわからせてほしい。それが出来るのは前田日明しかいない！（生涯一前田信者）

●猪木が作り出したプロレス最強説の続きをやってもらいたいです 前田は最強なんだから！（歯痛）

●「プロレスは最強の格闘技」という猪木の言葉を愚直に突き進むリングをつくってほしい 前田が動く以上、なんちゃって格闘技にはしないと思うが（樫の弓）

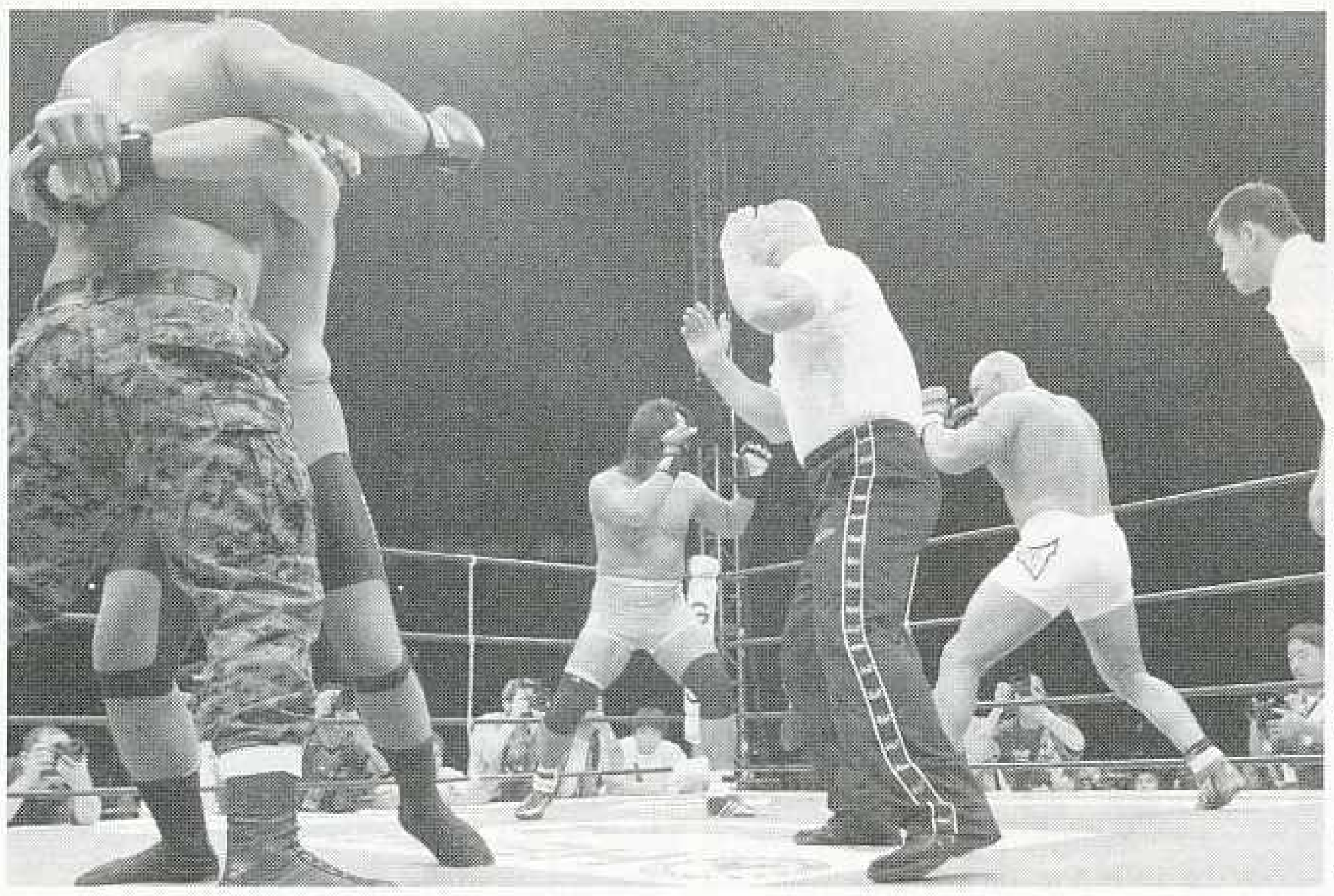
るんです。ボクのプロレス復興というのは、紙媒体の復興まで入っているし、そこまでやらないといけない。だからマスコミやファンの大反響があるのは嬉しいことですね。

――前田さんの名前が先行してることに不安はありませんか？

上井　何の問題もありませんよ!!　掴みはOKみたいなね（笑）。ボクはね、プロレスを社会現象にしたいんです。たとえば、このリングにアントニオ猪木や長州さんが来ることになったら、前田日明と何かあるかもしれない。そうなれば『FRIDAY』が取材に来るかもしれない。ワイドショーが来れば最高なんですよ！

――目指すのは〝対世間〟になるわけですか。

上井　そうですね。K-1や『PRIDE』は社会現象になっている。プロレスも社会現象になってほしいから、プロレスマスコミ以外の方々



1・4新日本プロレスで実施された史上最低の企画『アルティメット・ロワイヤル』!!　格闘技人気に便乗した茶番劇は、上井氏が導入したアルティメット・クラッシュの信用を粉々に打ち砕き、プロレスに自信が持てない新日本の体質を浮き彫りにさせた。懲りもせずもう一度実施されたらマニアは喜ぶかもしれないが……。もう一丁!?

アルティメット・ロワイヤルはコメントのしようがないですよ

もぜひ取材にきていただいて、そこで起こるナチュラルな〝何か〟を観ていただきたいですね。だから危ないメンバーばっかりで構成したいと。

――先ほどのお話では、前田さんは上井さんの個人的な相談役になるということですが、前田さんがイベントに手を加えることもあるんですか？

上井　前田さんは、マッチメイクの〝マ〟の字もしないですよ。一回目はサラの状態で見てもらう。それでボクのリングに手を加えてもらっても構わないし、もしかしたら〝上井、ふざけんな!!〟って言われて、空中分解するかもしれない（笑）。

――〝前田日明・査定大会〟といった趣があるわけですね

上井　たとえばの話をしましょうか？　ボクは、自分のリングに鈴木みのる、佐々木健介、天龍源一郎、高山善廣に上がってもらいたいと思ってるんですけど。鈴木みのるが上がるリングを前田日明が間近で観ているわけですよ。もしかしたら何か起こるかもしれない！

――2人は過去にいろいろありますからね。

上井　その光景を想像しただけでも……鳥肌がたつわけですよ、ボクは!!　そう思いません？

――前田さんはパンクラスと以前揉めたことがあるので、すんなり鈴木さんが参戦するのか？と思っちゃいますけど。

上井　いや、前田日明は「怖かったら来なくていい！」って言ってるんだから、来なかったら逃げたことになるじゃない。鈴木みのるの性格からすると、絶対に逃げるわけがないって！

――鈴木さんに参戦の意志があっても、パンクラスの尾崎社長は、鈴木さん以上に前田さんと確執がある関係ですよね。

上井　フロントとの問題については、ボクがほどかなアカンでしょ。

――K-1と前田さんの関係にしても。

上井　まずはね、とにかく前田日明の心を満たしてあげないと、周りに対する感覚だって変わらないでしょ。心の余裕が初めて前田日明にできたときに問題は解決すると思うし、いますぐすべてをどうにかしようとしてもダメだと思うんです。人生は長いんですから。それが1年になるか10年かかるかはわかりません。でも10年経ってボクが仲を取り持つことができたら、それでいいわけですよ。これはね、墓参りと一緒だと思ってるんですよ。お墓参りしても、お墓からは何も返ってこないけど、でも帰るときはすがすがしい気持ちになるわけじゃないですか。ボクが間に入って何か見返りを期待しているわけじゃないですよ。ボクはすがすがしい気持ちになりたい。前田さんも周りの人間も幸せになれる。ボクはそういう観点なんですよ。

――リング外の関係は上井さんがほどくとしても、リング上では、前田さんと選手絡みのドタバタは見たいんですよね？

上井　（すぐさま）見たい!!

――そこだけは野次馬根性というか（笑）。

上井　喧嘩みたいになるでしょ、みんな！　ボクはお膳立てはするけど、そこだけは一切手は掛けないですからね。

――リングの外から黙って見守ると。

上井　ホント、何が起こるかわかりませんよ。変な話、下手なプロレスラーの第一試合より、新宿のヤ●ザ同士が喧嘩してるほうが面白いでしょ？（笑）。誰もが危ないモノを観たいと思うんです。ヤ●ザ同士が交差点で喧嘩していたら、老略男女みんな見ると思いますし。

――それは喧嘩の事情を知らなくても楽しめますね（笑）。

上井　前田日明が出てきたことで、ボクのリングには危ないニオイがするって、マスコミやファンも先走っていますから。ボク、ウルティモ・ドラゴンを（旗揚げイベントに）出そうと思ってたんですけど……前田日明がこういうかたちで出てきたことで、ちょっと難しくなってきたんですよ（笑）。

――ああ、ウルティモさんは〝前田ワールド〟とは食い合わせが悪そうですね。

上井　ウルティモ・ドラゴンを出さないって言ってるわけじゃないですよ。ウルティモさんとはずっとお話をしているし、ボクのことを真剣に考えてくれてますけど、前田さんがこういうかたちで絡んだ以上、ちょっと考えないといけ

- ●高阪・田村・金原など元リングス勢を活かしてほしい（なぎゃた）
- ●あぶなっかしい昭和の新日本プロレス（ぼへ）
- ●帰ってきただけで文句なし!!（星一番号）

Q3 あなたが前田日明に一番やってほしいことは何ですか？

- ●DSEに口激攻撃（ペンネム）
- ●3、2、1、リングス！（みっぽん）
- ●アルティメット・ロワイヤルをやってほしい（永田ランデルマン）
- ●PRIDEや他団体と垣根を作らず、選手の取り合いをしない様、世界一の格闘家を決める場所を創造してほしい（JUN）
- ●勝訴（神田ラッキー）
- ●坂口会長の復帰が許されるプロレス会。誰が前田兄さんの復帰にノーと言えるのでしょうか？　ずばり復帰それしかないでしょ？（のぶ）
- ●前田リングス軍総統（ウシコ）
- ●あまり期待はしません。後でがっかりしたくない。やるなら新人育成（後ろだ！）
- ●アン・ジョーにリベンジ（NKホール）
- ●紙プロ復帰。山口日昇と電撃和解（最狂遺伝子）



ないじゃないですか。

——前田さんが一人いるだけで、いろんな化学反応が起きてるわけですね。そういう意味では、格闘技イベントの礎を築きながらも姿を消して、ここまで〝幻想〟が膨らんでいる前田日明という存在と、一方で、ドン底まで叩き落とされ〝現実〟に晒され生き抜いてきた髙田延彦という存在の邂逅も、いつか見てみたいですよね。

上井 でも、髙田さんと俺には何も接点がないから。それだって順序立ててやっていかないといけない。いまはね、髙田さんは黙って見てると思いますよ。（こっちが）目の上のコブになったら、髙田さんは出て来るんじゃないんですかね。でも、ファンの順番からいうと、一番・前田で二番・髙田と思うんですよ。だって、ヒョードルやノゲイラを日本に連れてきたのは前田ですからね。〝ホンモノはこっちじゃないの？〟という思いがファンの中にあるんじゃないかって思うんですよ。

——そういうファンの思いが熱を生んでると、上井さんは分析するわけですね。目指す方向は、〝リアル・ストロング・スタイル〟と伺ってますけど。

上井 いや、そんな言葉、ボクは一回も言ってないですよ。あれはマスコミが言ってるだけですね。ボクは新日本にいたときに、これからの新日本は〝スーパー・ストロング・スタイル〟か、〝ウルトラ・ストロング・スタイル〟か、〝オーバー・ストロング・スタイル〟じゃないとダメだとは、言ったことありますけど。

——とにかく〝ストロング・スタイル〟を超えないとダメ！

上井 だって〝ストロング・スタイル〟というのは、敵が馬場さんだった時代に通用したんですよ。

——かつての新日本は全日本プロレスを〝ショーマン・スタイル〟と呼ぶことでプロレスの違いを主張してましたね。

上井 で、いま拘るべきは〝キング・オブ・スポーツ〟ですよ。敵はサッカーであり野球であったり。変な話、サッカーのファンみたいに応援幕を持って、若い人が来てくれたりすれば嬉しいです。これからのプロレスは、ジャンルを超えて闘わないといけない。〝キング・オブ・スポーツ〟を目指していかないとダメです!!

——上井さんの目標としては、〝左のプロレス〟という言い方もされてましたね。

上井 うん。ボクは、馬場さんは〝右のプロレス〟だと思うんだけど、右、左、どっちでもいいですよ。

——要は一方に思い切り振り切りたいわけですよね。

上井 この業界を大きく見た場合、昔は新日本プロレスが一番、〝左〟でした。でもＵＷＦやリングスが出てきたり、どんどん〝左〟の団体ができてきて、もうここが一番端だろうと思っていたら、『ＰＲＩＤＥ』やＫ-１が出てきた。これらはプロレスではないけれど、〝左のプロレス〟の最もたるものじゃないですか。

——規模やクオリティーの点からいえば、『ＰＲＩＤＥ』やＫ-１以上の〝左〟は生まれなさそうですよね。

上井 その範疇でいうと、いまの新日本プロレスというのは曖昧な位置にいると思うんですよね。新日本プロレスの立場がハッキリしないから、ファンも思い入れを持てないと思うんですよ。ボクはやるんだったら、〝左〟の立ち位置でやりたい！

——そこで誤解しているファンが多いんですけど、上井さんってエンターテインメントを標榜するプロレスにも理解度はありますよね。

上井 否定したことはないですよ、ボク。それがプロレスじゃないですか。あのね、仕事としてプロレスをやる場合と、ファンの立場で見る場合は違うから。先ほども言いましたけど、大阪プロレスとかホント面白いです。それは自分がプロレスファンになって見てるから。ただし〝新日本プロレス〟というフォーカスで見た場合、これは許せないというプロレスもあるのはたしかですけど。

——見るだけじゃなくて、エンターテインメントの方向に針を振ってみたい気持ちはありませんか？　新日本の時代の上井さんには、それが垣間見えていたんですけど。

上井 〝右のプロレス〟をやれ！　と言われれば、やりますよ、俺。絶対にやれる！　でも、ボクはあくまで〝左のプロレス〟に拘りたいと

柴田戦決定！ 長州力が上井興行旗揚げ戦に出場!!

「あとはアントニオ猪木の獲得だけ!!（上井氏）」——ファンや関係者が大きな期待を抱いている“上井プロレス”。そのイベントの概要が徐々に明らかにされてきた！　長州力が白いギターを振り回して大暴れした『ハッスル7』から4日経った2月15日——リキプロ道場で上井文彦ビッグマウス代表と長州力が記者会見を行い、期日は未定ながらも上井興行旗揚げ戦での長州力vs柴田勝頼戦を発表！　同時にレフェリーをリキプロの保永昇男が務めることも併せて発表された。会見に同席した長州は「柴田に関しては、先輩の柴田（勝久／元レフェリー）さんの息子だというぐらいしかわからない。緊迫感を持って、気合いを入れて、この試合に挑みます。まあ、プロレス的に言えば『この若造!』ってことなんでしょうけど、そういったプロレス的な前フリは一切いらない」ここ最近、口癖となっている「前フリ」発言を交えながら意気込みを語った。上井代表によると、長州の参戦は単発ではなく、ビッグマウスが予定している年間15～20試合のすべてに出場する了承を得たとのこと。リキプロの若手たちも“怖いプロレス”にこぞって参戦することは決定的だ。また、前田日明について長州は「アキラに対しては何もないですよ。（上井代表が）アキラに目をつけるというのは玄人的考えですよね。僕もＷＪの時、同じようなことを自分でも考えて、アキラにコンタクトを取ろうとしたけど、その時は取れなかった」と語るだけだった。会見後の囲み取材で上井氏は「長州さんも決まって、3人のうち2人を手に入れた。あとはアントニオ猪木の獲得に全力を傾けます!」と“神”の担ぎ出しに意欲満々。旗揚げ戦の日時、会場ともに、いまだ未発表の“上井プロレス”。長州から「いつやるんだタコココラ!!」と言われたどうかは知らないが、2月下旬までには全貌が明らかにしたいと上井氏の弁。



●ヒョードルやノゲイラのような強豪の発掘（朝日登）

●リングスを復活させて、プライドにぎゃふんといわせてほしい（ヒサシット）

●こーいち前田道場復活。もう興業はいいので最強の選手を育てていろんな団体に送り出して欲しい。

●紙プロでインタビューが読みたい（なんとかならんか）

●ノゲイラやヒョードルに勝てるプロレスラーを育ててほしい（日明ファン）

●第一回大会前に喧嘩して仲間割れ（カト・クン）

●前田の遺伝子を受け継ぐ人間及び団体、選手の育成（ナッティー）

●現役復帰（ドラゴンX）

●髙田延彦（総統）との絡み（ハッスル）

●東スポの1面を飾る様な、豪快な揉め事（アルク・コーガン）

●第二次リングスを立ち上げ、ハンなどと共にプライド殴り込み。ハッスルでもいい。どちらにしろ物凄い化学反応が起きそうでハラハラします（オフィス友達の輪）

●おとなしくしてくれ。早く大人になって欲しい（リヒャルトつづく）

●ノゲイラやヒョードルの活躍を自分の手柄のように語るのはやめれ（ＤＡＮＫＩＣＨＩ）

●田村や紙プロと仲直りで（ゴキゲンさん）

●ボム技排除。スペースだかシャイニングだかの長い横文字技は死ぬほど

思ってるんですよ。その気持ちの現れが新日本時代、アルティメット・クラッシュをやったことですよ

——アルティメット・クラッシュは、もの凄い実験ではありましたよね。よくあそこまで大振りしたなっていう。

上井　いやいや、興行の本質は博打じゃないですか。こういう言い方はおかしいかもしれないけど、新日本プロレスも、どっかで目を覚まさないといけなかったし、新日本はこういうこともやるんだ！　ってことを満天下に知らしめるためにも、アルティメット・クラッシュは自然の流れだったと思いますけどね。

——興行は博打という観点からすると、右や左に関わらず、上井さんは常に何かしらのショックを与えたい！　という気持ちがあるわけですね。

上井　だって、ボクは新日本プロレス出身ですからね。新日本プロレスはサメと一緒なんです。サメは動きが止まったら死んでしまう。寝ている時でも泳いでいないと呼吸できないから。常に獲物を求めて、辺りの気配を探って、何にでもガブッ！　と食らいつかないといけないわけですから。

——そういう意味では、いまでも猪木さんって〝雑食主義〟ですよね。WWEのディーバの悪口を言っても、自分のところに近づいてくればかならず食いつきますし。

上井　NOAHさんや全日本は、アラスカやカルフォルニアの海を行ったり来たりするザトウクジラ。新日本は隙があればそのザトウクジラに食らいつくわけですよ。ボクは新日本を辞めましたが、その本質は変わらないです。上井文彦の本性はそこにある！

——柴田（勝頼）さんが新日本を辞められましたが、上井さんとしても彼はほしい選手なんですよね？（柴田参戦決定前に取材）

上井　もちろんですよ。柴田に関しては面白い話があってね、昨日、前田さんから電話があったんですよ。何かと思ったら、「上井さん、柴田辞めたで!!」って。柴田が新日本を辞めたのは一週間前なのに（笑）。

こっちが目の上のコブになったら、高田さんは出て来るんじゃないんですかね

——きっと週刊専門誌を読んで知ったんでしょうね（笑）。それだけ前田さんも柴田さんを気にしているってことですね。

上井　お父さん（柴田勝久・元レフェリー）が子どものころの柴田を何度か会場に連れてきたから、〝こんなに大きくなったのか！〟という思いもあるんでしょう。

——あと〝上井プロレス〟は、テレビ放映の面でも動かれているそうですね。

上井　どの団体だってテレビは付けたいじゃないですか。一応企画書は出しましたけど、ボクの会社名は「ビックマウス」ですからね。言うのはタダだし、そういう話が出れば、大きいことをやってると思われるから（笑）。期待は裏切らないと思いますけどね。

——旗揚げ時期といわれる3月下旬は、3・18『ハッスル8』、3・25新日本プロレスがあったり興行戦争の様相です。

上井　ボクは〝キング・オブ・スポーツ〟が目標なんだから。他の団体は関係ないですよ。ボクの古巣の団体はこっちに選手を貸さないとかいろいろ言ってますけど、こっちは頼んでもないですからね。

——対新日本という意識はやっぱりあるんですか？

上井　対『ハッスル』は頭にありますけどね。前から言ってるじゃないですか。ボクは『ハッスル』とは正反対でやりたいって。『ハッスル』は意識しますけど、新日本を意識しても仕方ないですから。

——新日本を意識しない理由とは？

上井　だって新日本は、さっきの左・右の話で言えば、中途半端な位置にいるわけですから。それにボクが風穴を空けた選手ばっか使って先が見えてこない。ロン・ウォーターマンもボクが声を掛けていた選手だし。

——ロン・ウォーターマンといえば、ウォーターマンが優勝したアルティメット・ロワイヤルはどうご覧になりました？

上井　どうって、『ゴング』（増刊号でアルティメット・ロワイヤルの試合レポートを担当）で書いたじゃないですか。

——いやいや、何か奥歯に物が挟まった内容で、あの記事がとても上井さんの本心だとは思えないんですよ。

上井　いやいや、アレにはコメントのしようがないですよ（笑）。

——ひとつだけ言えることは、上井さんが築いたアルティメット・クラッシュの信用が一気に崩れましたよね。

上井　……終わりましたねぇ。悲しかったなあ（しみじみと）。

——そうですよね（笑）。では、前田さんの動向を含めて、上井さんの新たな〝始まり〟を期待しています!!

【2月5日／六本木にて収録】



【うわい・ふみひこ】新日本プロレスからユニバーサルプロレス（旧UWF）へ、同団体活動停止後は新日本にUターン。敏腕営業部長として、栄華を極めた平成・新日本プロレスを側面からサポートする。その後、渉外担当に就任。中邑真輔を一躍スターダムにのし上げ、UFCから離れ彷徨うジョシュ・バーネットの獲得にも成功している。04年10月20日付けで新日本を退社。有限会社ビックマウスを設立。ブレーキの壊れたダンプカーのような行動力でプロレス復興を目論む。



ダサイよね。でもそんなことしたらプロレスファンはドン引きだろうな（かとうだいすけ）

●RINGS復興しかない!!（たりえるファン）

●ぜひともガチのプロレスにチャレンジしていただきたい（のぶゆきんぐ）

●ハッスル軍皇帝として髙田総統以下モンスター軍を蹴散らしてほし（papaia）

●馬の骨と呼ばれるくらい怪しくでも恐ろしく強い前田軍がプライドと対抗戦！　そして！　大将戦は田村vs桜庭…（サッキー）

●リングスネットワーク再構築して世界中から強い男を探し出してきてほしい（カツヤサン）

●リングス、あれだけのメンツを揃えていたのに……センスがない人間に何も期待はできません。（ら・ままん・ど）

●前田日明のキレるプロレスの世界を作ってほしい（生涯一前田信者）

●殺伐とした道場を復活させて欲しい（じゃん。）

●選手の発掘！　今の総合の中核は前田さんが連れてきた選手が多数。PRIDEを含め新たな選手を呼び込んでほしい（ロシアンルートで）



CONTENTS

紙のプロレス RADICAL

2004 NO.84

PRIDE



AKIRA MAEDA

WWE

PRO-WRESLING

HUSTLE

RADICAL SPECIAL

REPORT

Columns

※佐山皇帝の「右流タン探訪記」、WWEネタバレ通信、長谷川博一の「KISS MY ASS CLUB」、金ちゃんのドンとやってみよう! は特別編で大暴れしてますよ。

Another



証言 その1

上井さんが熱く語ってるような理想のプロレス団体はリングスだったなと思う

"いま、あらためて考える前田イズム"とは何か!?

坂田亘

今回の前田日明のプロレス界復帰について、愛弟子たちは何を思うのか?
そして"前田イズム"とは一体何なのかを考える、この企画。
まず最初に登場するのは、現役時代、前田の愛のムチを浴びまくった坂田亘だ。
現在は上井興行と正反対に位置する『ハッスル』を主戦場とする坂田が語る、
上井プロレスの可能性、そして師匠・前田日明!

聞き手＆撮影／松澤チョロ designed by Tani-Yan (Two three)

——坂田さん、今回はプロレス界に戻ってきた前田さんについて、いろいろとお話を聞かせていただければと思っております。

坂田　（すかさず）やだ！

——そう言うと思ってましたけど、話せる範囲でかまいませんので。

坂田　じゃあ、話せる範囲で話すよ。

——お願いします！　早速なんですが、今回、前田さんが上井さんに協力する形でプロレス界に復帰するという話を聞いてどう思いました？

坂田　プロレス界に復帰って言うけど、試合するわけじゃないんだろ？

——それはないでしょうね。前田さんも記者から、そういった質問が飛ぶ前に自ら「それはない」って釘を刺してましたから。

坂田　あ、そう。まあ、プロレス界は何が起こるかわからないって、よく言われるけど、前田さんに限って、それはないだろうね。

——でしょうね。で、上井さんとの会見があった週は専門誌はもちろん、いろんなところで大きく取り上げられてましたけど、これほど前田フィーバーになるとは思ってました？

坂田　そりゃフィーバーもするよ。だって、それ以上のネタがねえんだもん。もちろん、前田日明っていうのも大きいだろうけど。

——前から第二次リングスじゃないですけど、新たな道場とかジムを作るという話はありましたけど、今回のようにプロレス界に関わるというのは想像してました？

坂田　やっぱり、よく上井さんが前田さんの重い腰を上げさせたなっていうのは思ったよね。

——上井さんも言ってましたけど、前田さんとは、ここ数年、誤解もあってしばらく話をしてなかったみたいですからね。

坂田　へぇ～、そうなんだ。でも前田さんっていうのは話せばわかる人だから。……落ち着いてる時は（笑）。

——落ち着いてる時は（笑）。

坂田　どういう経緯かわかんないけど、やっぱり前田さんって、この業界にとって貴重な人物じゃない？

——それは間違いないです。

坂田　いまの新しいファンにはわからないと思うけど、俺だって、プロレスに憧れてっていうか、前田さんに憧れてこの世界に入った人間だからさ。そういう人っていっぱいいるだろうし、その名前だけで新聞の一面を飾ったり週刊誌の表紙になったりするのはわかるよ。ただな、上井さんは、まだ台本もできてないのに、前田さんを引っ張り出しただけなのかもしれないし、正直何をやろうとしてるのかわかんないんだよね。

——旗揚げ戦を実際観てみないことにはわからない部分も大きいですよね。実際、まだ旗揚げ戦の日にちすら出てないわけですし。

坂田　でしょ。観てみないと前田さんがどういう関わり方をするのかもわからないし語れない。

前田さんも実際、『ハッスル』を会場で肩の力抜いて観たら面白いって言うかもしれないよ

——坂田さんは、いまは純プロレスと言われる『ハッスル』で活躍……。

坂田　（遮って）違うだろ。『ハッスル』はファイティングオペラや！

——失礼しました（笑）。前田さんは会見で「いまのプロレスはおちゃらけてる」とか、『ハッスル』をさして言ってるのか「WWEはいいけど、日本でああいうことをすると老人クラブの学芸会になってしまう」という発言をしてたんですが。

坂田　そんなこと言ってたんだ。

——それで、上井さんは前田さんから、本当のストロングスタイルのレスラーを育てたいってどういうことかを聞かれて「総合の試合に出ても勝てるプロレスラーを育てたい」と答えたらしいんですけど。

坂田　それはちょっとどうかと思うよ。そういう考えでプロレス復興とか言っても難しいでしょ。でも、前田さんの言うことはよくわかるよ。実際、俺らの時も同じようなこと言ってたんだから。

——言ってることは何年も前から、そう変わってないですからね。

坂田　だから俺なんかは言わんとしてることは全然わかるけど、たぶん上井さんは理解できないことも多いと思うよ。やっぱり、上井さんは選手じゃないからね。

——選手とフロントの人間は分かり合えない部分があるって言いますからね。

坂田　そうそう。上井さんの大会って選手は誰が出るって言われてるの？

——いまのところ柴田、村上といった元魔界倶楽部勢や、フリーの健介、天龍、鈴木みのる、あと長州さんの名前が挙がってますね。

坂田　ふ～ん。さっきも言ったけど、前田さんがどういう関わりするかまだわかんないけど、完全に舵取りしたり重要なポジションなんだったら、まず誰も付いていけないだろうね。前田さんがやらせたいっていうことを理解できないと思うよ。

——理解できないっていうのは、いい意味でも悪い意味でもってことですかね。

坂田　そうそう。前田さんが言ってることが悪いって言ってるんじゃなくて、たぶん理解不能だと思うよ。

——現役で活躍中の坂田さんにとって「いまのプロレスはおちゃらけてる」と言われてどう思いますか。

坂田　いや、別に。それは前田さんの考えであって、俺の考えは違うから。名前は出さなくても、その「老人クラブの学芸会」っていうのがハッスルをさして言ってるんだったら……どうなんだろうね。『ハッスル』だって、まだ答えも出てないし、ゴールも見えてないわけだから。それに、前田さんだって、実際『ハッスル』の会場に来て肩の力抜いて観たら面白いって言うかもしれないし、それはわかんないよ。

——前田さんには一度生で高田総統やキャプテン・ハッスルを観てもらいたいですけどね（笑）。

坂田　無理だろうけど、実際観たら新しい発見があるかもしれないし。ただ、今の時点で前田さんがそう言ってることはわかるし前田さんらしいよね。それに高田さん……いや高田総統とか、じっくり見てなくても目には入ってきてると思うよ。何かしら生活してれば、必ず「ハッスル」っていうのは目に入ってくるだろうからな。

——小川さんのCMとか嫌でも目に入ってきますからね（笑）。話は変わりますが、専門誌等で新日本をやめた柴田選手が「前田イズム最後の継承者」みたいな書かれ方をしてることについては何かありますか？

坂田　そうなの？　全然知らん。

——知りませんか。柴田選手も「前田日明に興味がある」って言ってるんですよ。

坂田　その気になってんだったら、おバカさんやな。（柴田が表紙の『ゴング』を見て）へぇ～、「前田イズムの最後の継承者」とか書かれてるんだ。別に俺は嫌われたっていいから言うんだけど、雑誌を売り上げたいがためにそんなこと書いてるんだ

ったら、前田さんに対して失礼だよ。

―と言いますと？

坂田　そういう形で前田さんの名前を利用するのは失礼だと思うし、それに、そうやって持ち上げて勘違いさせてどうすんの。どうせ、ついて行けないんだから。アホかって。

―ついて行けないかどうかはまだわからないですけどね。

坂田　「前田イズム最後の継承者」とか、そんなこと言うんだったら俺は別に何とも思わないけど、滑川とかと対決してみたらええやん！　どんなもんかわかるよ。

―滑川vs柴田戦は単純に面白そうですね。でも、前田イズム最後の継承者というと横井さんや伊藤さんじゃなくて滑川さんになるんですか？

坂田　やっぱり、横井、伊藤ぐらいの時は前田さんはもう道場にあまり顔を見せなくなったからな。そういう意味では最後の前田イズムの継承者は滑川だと思うよ。滑川は前田さんと接する時間は少なかったかもしれないけど、多少は田村さんにも関わってるし。山本さん、成瀬さん、TKに俺でしょ。いろんなものを感じてると思うよ、身体でな。

―前田イズムが身体に染み込んでいるわけですね。

坂田　プロレスだったらわかんないけど、総合だったら滑川に勝てるわけがないよ。

―経験が違いますからね。あと永田選手が前田さんに「オレから言わせれば格闘技もプロレスも中途半端な人」と、かみついたんですよ。名指しで批判されたっていうのもあると思うんですが。

坂田　それは前田さんの真意がわかってないよ。名前を出したのは新日本の現状に甘んじている永田選手のために言ったんだと思うし、そんなのに腹を立てるのはお門違いでしょ。

―意味もなく名前を出して批判したわけじゃないと？

坂田　そりゃそうだよ。そんなこと言う永田選手にはプチがっかりや。

―プチがっかり（笑）。ちなみに、坂田さんは上井さんと接点はあるんですか？

坂田　まあ、会えば挨拶するぐらいだけどな。

―上井さんは、最近迷走気味の新日本の上を行く「リアル・ストロングスタイル」をやりたいということなんですよ。それって前田さんが言うところの「最低でも顔が腫れるような試合」に通じるところがあるのかなと。やる側としては、そういう試合ってどうなんでしょうか？

坂田　リアル・ストロングスタイルって言われてもピンと来ないけど、そういう格闘プロレスって、いまは総合があるから無理じゃん。

―やっぱり難しいですかね。

坂田　やる側がプロレスと格闘技を一緒にするなって言えば言うほど、客はそういうのと比べたがるし、実際そういう時代もあったじゃん。いまは、そういうのも通り過ぎて別もんというか、両方とも認知って言うのはおかしいけど、認められるような感じになってきてるでしょ。でもやっぱり総合がある以上、そういう試合をしたら客はゴッチャに観ちゃうと思うよ。

―それはありますよね。

坂田　それに、もし前田さんがホントにそういうプロレスが世間で通用すると思ってるんだったら自分で団体やってるよ。人の団体に関わって……どういう関わり方するのかわかんないけど、前田さんは経営には関わらないわけでしょ。

―そうみたいですね。上井さんの説明だと「私のスーパーバイザー」ってことらしいです（笑）。

坂田　あ、そう（笑）。だからこそ、自分の思想っていうかさ、そういうのが言えるわけだから。実際、前田さんが自分の持ち金で仕事として考えたら、まずやらないと思うよ。



主戦場としている『ハッスル』で「弱っちいハッスル軍にはいられねえ！」と、モンスター軍入りを表明した坂田。2・8＆9の『ハウス』、11日の『ハッスル7』でモンスター軍入り査定試合を行い、初日は軍鶏侍、二日目は反則ながらサスケを下した坂田は「そこの女！　どうだ、俺は強いだろ、男前だろ！」と、らしさ全開！

―プロレスでビジネスをしようとは思ってないでしょうからね。

坂田　思ってないと思うし、何て言ったらいいんだろう？　思ってたら自分でやってるよ。

―前田さんは以前から、新しい道場というかジムを設立したいという構想は語ってましたし、実際、多くのファンが望んでいるのは第二次リングスの始動なんですよね。

坂田　そうだろうな。でも、上井さんのところはメンツがメンツだから、そんなことできないじゃん。

―旗揚げ戦から前田さんが望むようなスタイルにはならないだろうというのは上井さんも言ってるんですけどね。

坂田　でも、ホントにそんなスタイルでビジネスになると思ってるのかなぁ。個人的にだけど、俺は難しいと思うよ。

―もう団体という形では、いまの時代では無理だっていうのは上井さんも言ってるんですよね。

坂田　プロモーションにしたって、いま名前が挙がってるレスラーがリアル・ストロングスタイルっていうのをできるの？って思うよ。

―あとは地上波をつけないと、というのはよく言ってますね。そして、とにかく強調してるのは「プロレスラーは強くなくてはいけない」と。

坂田　それは俺もそう思うよ。同じプロレスラーと名乗って欲しくないヤツなんてたくさんいるしな。

―いま、現役で活躍している山本選手や成瀬選手も前田さんの弟子ですけど、ある意味、一番、前田イズムを継承してるのは坂田さんなんじゃないかって、よく聞くんですよ。

坂田　なんで？　巨乳好きだから？

―もちろん、それもありますけど

前田イズムとは何か!?

田村さんはリングスにも、前田さんにも、すべてに対してプロレスをしてたと思うよ

ね（笑）。現ZERO-1MAXのジェットさんであったり、浪口さんであったり、所属しているわけでもないのに、若手の使い方が凄いらしいじゃないですか？ ある意味、前田イズムというか（笑）。

坂田 ハッハッハッハッハッハッ！

――ウチの鬼畜編集長・山口から聞いたんですけど、坂田さんが300メートルぐらい離れている浪口君を大声で呼びつけて、全力疾走で走ってきた浪口君に「靴片づけておけ！」って言ったらしいんですよ。山口は「自分で片づければいいじゃん」って言ってましたけどね（笑）。

坂田 いや、それは若手が片づけるのが当然だな。

――それは、坂田さん的には「それぐらい言われなくても気づけよ」ってことですか？

坂田 そうそう。

――普通、300メーター離れてたら気づかないと思いますけどね（笑）。いまのは、ほんの一例ですけど、そういう話を見たり聞いたりすると、坂田さんは、ある意味、前田イズムを一番体現してる選手じゃないかなって（笑）。

坂田 俺が？

――山口は「Uの遺伝子は、いま坂田亘にしかない」と言ってましたから（笑）。

坂田 あ、そう（笑）。まあでも影響は受けてるだろうね。

――思いっきり話は変わりますけど、いま、坂田さんは「リングスってプロレスだったんですか？ 格闘技だったんですか？」って聞かれたら何て答えます？

坂田 は!? なんだよ、いきなり（笑）。

――この際だから聞いておこうと思って。

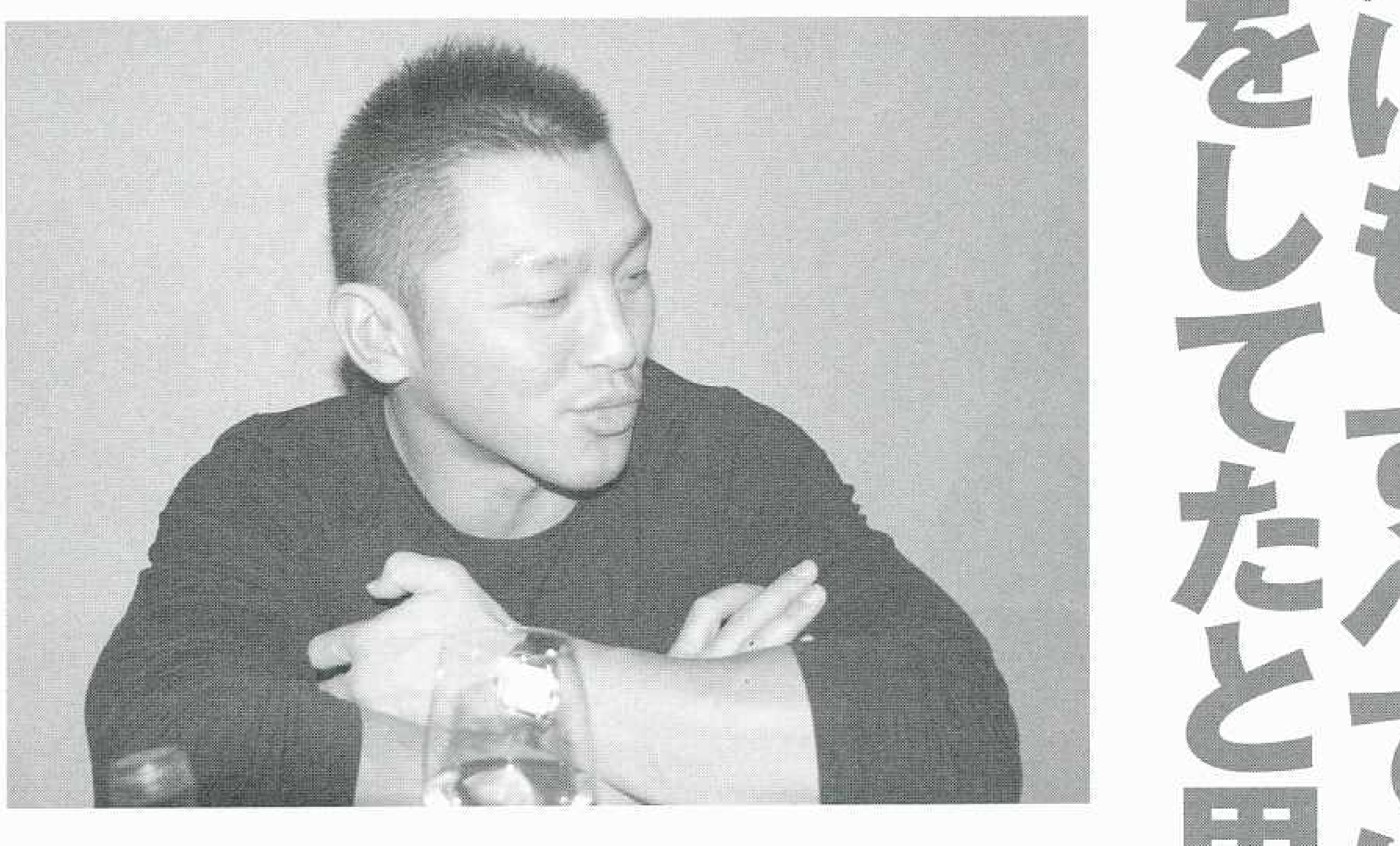
坂田 なんだろうなぁ？ やっぱり、前田さんは自分なりの思想とか哲学がある人だからね。だから、言い切ることはできないけど、実際動かしてみたり、自分が手探りでやってたことは、前田さんは絶対認めないと思うけど、ある意味プロレスであって、前田さんの考える思想とか向かってる方向は格闘技だったんだと思うよ。

――ほぉ。何となくわかるような気がします。

坂田 だから、いまの自分から観れば、リングスって上井さんが言ってるような理想のプロレス団体だったんだと思うよ。

――確かにそれは言えるでしょうね。

坂田 当時は俺らだってまだガキンチョだったから、前田さんが格闘技だと言えば格闘技だと思ってやってるし、自分たちもそれに誇りを持ってやってたから。だけど、いま思うと、前田さんや上井さんが熱く語ってるような理想のプロレス団体はリングスだったなと思うよ。……いま思うとだけどね。



――ある意味、リングスはリアル・ストロングスタイルって言ってもしっくり来るんじゃないですか。

坂田 いや、しっくりは来ないよ（笑）。でもね、言い方は難しいけど、当時は格闘技だと思ってやってたから。だけど、俺が思うのは、田村さんは入ってきた時からファンの目が届かないところでもプロレスをやってたなと思うよ。これも、いま振り返るとだけど。

――ファンの目の届かないところでもプロレスをやっていたというと？

坂田 この辺は曖昧に言うけどな、田村さんはリングスという会社に対しても、前田さんに対しても、すべてに対してプロレスをしてたと思うよ。発言にしてもしかりで。

――それは興味深いですねぇ。でも逆に言うと、プロレスをしていたのは田村さんだけだったというのもあるんですか？

坂田 だけだった……な。俺も田村さんと同じような考えで一緒に練習してたってわけじゃないけど、なんか惹かれるもんがあったから一緒に練習するようになったんだと思う。いま振り返ると。

――また、それですか（笑）。でも実際、第一次リングス後期の頃、坂田さんは前田道場より、田村さんと一緒に練習することが多かったんですよね。

坂田 そうだね。なんかね、イジイジイジイジやってるのが嫌だったんだよ、前田道場は。

――何がそんなにイジイジしてたんですか？

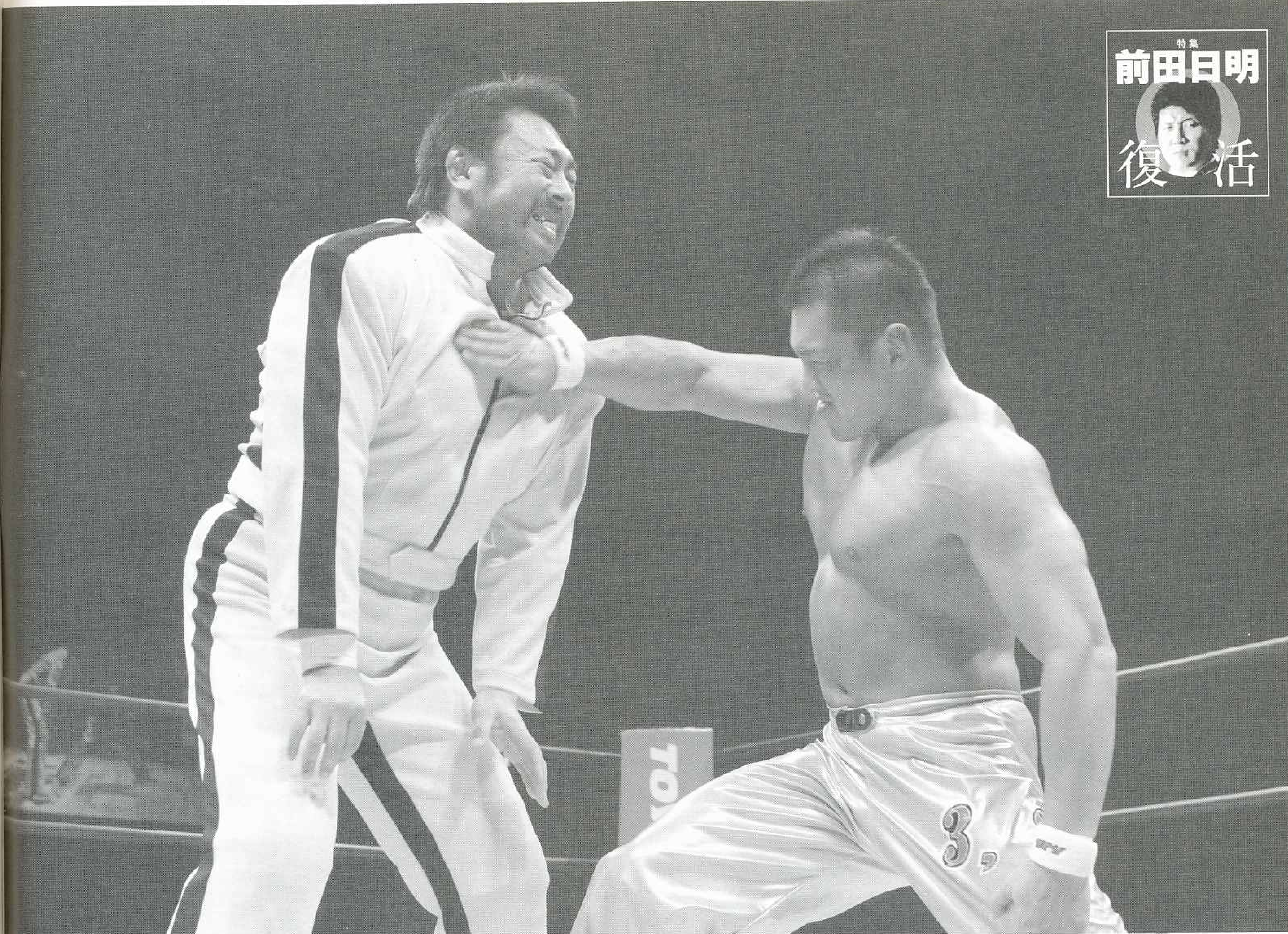
坂田 前田道場自体は良かったけど、前田さんが「格闘技格闘技」って言うから、変にいろんなところで堅くなって閉鎖的になっていったのが原因かもしれないし。まあそれはどうかわからんけど、俺はそういうのが嫌で田村さんの考えの方がいいかなって。そんな語り合ったわけではないけど、そういう方がいいやって思って、あんまり前田道場には行かなくなったんだよ。

――前にも聞いたことがあるんですけど、前田道場での練習っていうのは、前田さんが新日本出身っていうのもあったと思うんですが、ある部分は凄いプロレス的というか、トップロープから受け身を取らされたりもしてたんですよね（笑）。

坂田 そうそう（笑）。デッドリードライブもやってたよ。

――スクワット何千回とか、タックルの打ち込み何百回とか、最近、前田さんが言ってるような科学的なトレーニング云々とは正反対の非科学的なトレーニングもかなりやってたんですよね（笑）。

坂田 バリバリやってたよ（笑）。でもな、前田さんがそういうのを語る時って理想のことを言ってんだよ、いつも。こうあるべきだとか、俺ならこうしたいとか。だけど、実際、自分の身体を使って動かし始めたりとかすると、やっぱり新日本でやってたこととかの方が身体から出てきちゃうんだろうな。逆に言った



2月11日、名古屋で行われた『ハッスル7』。モンスター軍入りを狙う坂田は強敵ハッスルKと対戦。試合前には「あんな歯抜けの中年、目じゃねえよ！　ちょいちょいとつまんでやるよ」と宣言すると近くにいたマスクマンにタバコを押しつけ入場。試合は激しい打撃戦の応酬の末、ハッスルKが延髄キックで坂田から勝利。試合後「お前、やればハッスルできるじゃねえか!?」と叫ぶKを睨み返した坂田。どうなる？

いま、あらためて考える、前田日明とは何か!? 証言その1

ら、たぶんそれぐらい前田さんのいた頃の新日本プロレスの影響が大きいんだろうし、誇りに持ってたんだと思うよ。

——それはあるでしょうね。でも、そういった過酷な練習っていうのは坂田さんなりに納得してやってたんですか？

坂田　納得してっていうか、他の練習してないんだからやるしかねえだろ。でも、さすがにコーナーからデッドリードライブはちょっとはてなマークが付いたけどな（笑）。

——アハハハハ！

坂田　こんな投げ、誰が打つんだって思ったけどね（笑）。

——デッドリードライブならリック・フレアーに教わった方がいいでしょうしね（笑）。

坂田　いや、前田さんだったら、リック・フレアーにもいちゃもんつけるよ、たぶん（笑）。

——そうかもしれませんね（笑）。酔っぱらった勢いで聞きますけど、前田日明と坂田亘と言えば、デビュー当時のバックステージでの殴打事件が有名ですけども……。

坂田　（遮って）なんだ、お前！　酔ったフリしてそんなこと聞きやがって！

——いや、ホントに酔ってますよ！

坂田　アハハハハ！　なにムキになってんだよ（笑）。

——そんなこと言われても全然嬉しくないでしょうけど、一説には、あの裏ビデオは坂田亘のベストバウトという人もいるぐらいで。あれを見ると前田日明の怖さも、それを受ける坂田亘の凄さも伝わってきますからね。

坂田　そうなの？

——ああいうことは前田さんの世界では日常茶飯事なことなんですか？

坂田　まあまあ、日常茶飯事だな（笑）。

——先日、行われた某イベントでもその映像が流されて、それを見た柴田さんが「怖いッスね」と、素直な感想を語ってたんですけど、ぶっちゃけ、いまのプロレス界ではあそこまでの愛のムチを振るえる関係ってないと思うんですよ。

坂田　そりゃ、ないだろ（笑）。

——あそこまでボコボコにされても逃げ出さない師弟関係っていうのは、ある意味、凄いと思いますし、いまの時代に同じようなことが行われたら逃げてしまう人がほとんどだと思うんですよ。

坂田　だろうな。俺だって、あれだけ殴られて、そりゃムカつきはするけど、そこで逃げたら自分の負けじゃん。負けたくないんだったら踏ん張って見返すしかないだろ。

——おっしゃるとおりです。

坂田　そういう気持ちだけだよ。たとえば、お前が山口さんから「お前は仕事できないから、当分給料なし」とか言われたら、はたから見りゃ同じようなことだろ、残酷さでは。見る人が見たら、やめてもおかしくないって見るだろ。それと一緒だよ。

——それは違うような気もしますけど（笑）。でも、あれから、だいぶ時は経ってますけど、いま振り返ってみると、前田さんからの愛のムチは必要だったと思います？

坂田　必要っていうか、全然良かったと思うよ。俺だって、自分の考えの中でコイツはおかしいっていうヤツは殴ると思うし。実際、ゼロワンの若手でも、そう思ったヤツは何人もいるからな。

——これは殴った方がいいなって思

いまでも前田さんに会ったら直立不動だよ。しゃべってるだけでチ●コちっちゃくなる（笑）

ったら、ちゃんと殴るんですね、いまでも。

坂田 殴るよ。もちろん意味もなく殴りはしないし、大げさにやらないっていうのは、ちゃんとした所属の選手じゃなかったから、そこまではと思ってたけど。

―その辺の線引きはあるわけですね（笑）。

坂田 そうそう。ホントは、俺が言うより大谷選手とか高岩君がやった方がいいわけだし。

―ある意味、嫌われ役に徹してというか、そういう役割を……。

坂田 （遮って）そんなもん別に好かれる必要ないやん。後輩なんか。

―まぁ、そうなんでしょうけど（笑）。坂田さん的には、将来的に前田さんには、どういうことをやってもらいたいとかってあります？

坂田 俺は前田さんに憧れた人間で、実際、関わってきた人間だから、このまま消えて欲しくないとは思うよ。ただ、具体的に何をやって欲しいというのはないよ。

―第二次リングスというものを再び前田さんが始めるとなったら、ズバリ、坂田さんは協力するつもりはあるんでしょうか？

坂田 う～ん……いまは現実味のない話だから答えられん。声が掛かるかどうかもわかんないし（笑）。

―アハハハハ。でも、現時点ではそうとしか言えませんよね。あと、坂田さんといえば、ウチの鬼畜編集長とよく話すみたいですけど、前田さんと山口が関係修復する可能性ってあると思います？

坂田 いきなり、何を聞いてるんだよ（笑）。どう説明しよう？ まあ、一言で言うと、二度と交わることはないだろうな。

―やっぱり難しいんですかね。

坂田 人間的に挨拶するぐらいの仲になってもおかしくないけど、じゃあ、それがビジネスが絡んだりする関係にはならないだろうな。

―上井さんも言ってましたけど、普通は歳と共に丸くなるって言いますけど、前田さんの場合は歳と共に憎しみが倍増するみたいですからね。

坂田 でもそれはわかるなぁ。あ、ちょっと違うかな。でも、わかるな。

―どっちなんですか？（笑）。

坂田 俺も許せないヤツは何人かいるから。

―この業界でってことですか？

坂田 いや、人間的に。でも、この業界のヤツでも一人いるな。

―その人に対しては、どんなことがあっても許せない？

坂田 いや、そんなに意識もしない。コイツはダメだなって思うぐらいで。でも、基本的に前田さんは凄い寂しがり屋の人だから、関わりを持つ人間に対してはモノ凄い愛情持って接するんだよね。

―だから、今回、上井さんが熱い想いをぶつけてきたら、それに対して応えようとしてるんでしょうね。

坂田 そうそう。ただ、なんかあった時のちょっとした一言とかで、凄い傷になったりする人なのよ。でも個人的には上井さんと前田さんがくっついたっていうのは面白いと思うんだよね。ビジネスとしてはわからんけど、現象としてはな。

―もし声が掛かれば、上井さんの大会に出る可能性もあるんですか？

坂田 ない（キッパリ）。でも『ハッスル』のままで受け入れてくれるならいくらでもやるけどな。

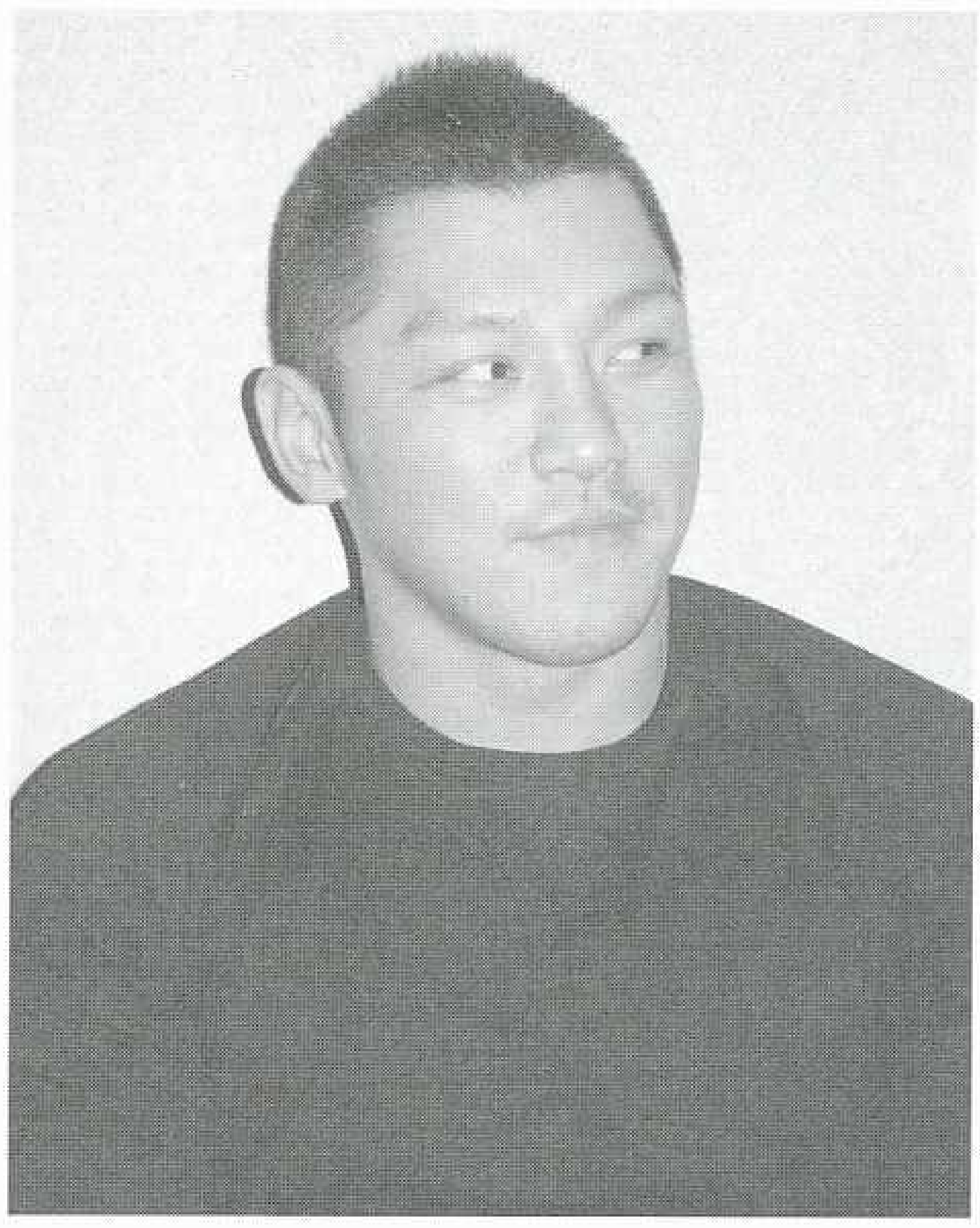
―まあ、その可能性は非常に低いでしょうけど。

坂田 俺だって、いまでも前田さんのことは慕ってるけど、離れてから自分なりにいろいろやってきたことがあるから、あーだこーだ言われてもできないもんはできないってハッキリ言うよ。

―確かに師匠と弟子の関係ではありますけど、師匠のためならどこへでも駆けつけるっていうのは状況的には難しくなってますからね。

坂田 そういうこと。その辺をないがしろにしながら付き合っていくのは前田さんに対して失礼だよ。だから、表面的な部分でしか付き合ってないヤツとか見てないヤツは前田さんのことを語れないんだよ。俺だって、いまでも前田さんに会ったら直立不動だよ。ホント、脂汗出るから。冗談じゃなく、しゃべってるだけでチ●コちっちゃくなるんだから（笑）。

―アハハハハ。下手したらチビってしまうぐらいの緊張感がありますからね（笑）。



最後の質問なんですが、最近の坂田さんは『ハッスル』に専念してますけど、総合は前から言ってるようにテーマのある相手じゃないとやるつもりはないんですか？

坂田 そんな大それた話でもないよ。

―でも、現実的に一昨年の『PRIDE男祭り』以来、総合はやってないじゃないですか？

坂田 付け入る隙がありません（キッパリ）。

―いまの『PRIDE』のレベルがってことですか？

坂田 そうそう。あと流れとかもそうだし。

―お呼びじゃないってことですか？（笑）。

坂田 いや、俺がそのステージまで行ってない。

―それは実力的にですか？ それともネームバリュー的に？

坂田 全部だよ！（笑）。

―そうなんですか。坂田さんらしくない実に謙虚な発言ですね（笑）。

坂田 そんなもん、いまに見返してやるっちゅーねん！

―いまの状況をひっくり返してやるってことですね？

坂田 ひっくり返る……だろう。おそらく。

―ひっくり返っちゃダメですよ（笑）。

坂田 あ、そうか（笑）。

―『ハッスル』はもちろん、総合の方でも活躍を期待してます。

【2月9日／東京・青山『季菜』にて収録】



証言 その2

“いつまでも女々しく“前田道場”とか“RINGS”って言葉に頼りたくないです

“いま、あらためて考える“前田イズム”とは何か!?

滑川康仁

前田日明、そしてリングスを語る上で外せないのが、この男・滑川康仁。
長きに渡る新弟子生活を経てデビューを果たしただけに、前田日明、そしてリングスには、
ただならぬ想いを持っている滑川。今回、滑川には、久しぶりに旧・前田道場まで足を運んでもらい、
師匠のプロレス界復帰騒動から前田道場での思い出まで、たっぷりと語ってもらった!

聞き手&撮影/松澤チョロ designed by Tani-Yan (Two three)

前田イズムを叩き込まれているのは、山本さん、成瀬さん、坂田さん、高阪さんの4人

—今回、前田さんがマット界に復活すると聞いて、滑川さん的にはどう思いました？

滑川　……なんて言ったらいいかわかんないッスよ（苦笑）。

—ファンの声としては、戻ってきてくれたことだけで嬉しいって声もありますし、第二次リングスをやってほしいという声も当然あるんですけどね。

滑川　ファンの方々が喜んでくれるんだったらいいんですけど……僕は複雑って言うか、なんて答えていいかわからない（苦笑）。

—それが正直なところでしょうね（笑）。多少は会見の内容とか読んだりはしてると思うんですけど、前田さんは新日本をやめた上井さんの新しい大会のスーパーバイザーみたいな役割に就くみたいなんですよ。

滑川　そうみたいですね。

—で、上井さんの方も、滑川選手のことを凄く評価してましたけど、以前から接点があるんですよね。

滑川　そうッスね。大分前から、フリーになってすぐくらいから高い評価をいただいているんで、上井さんは大好きですね。

—何度かお話もされたことがあるみたいで。

滑川　そうですね、偶然ファミレスでお会いしたこともあります。家が近いみたいで（笑）。

—上井さんは、田村さんを新日本に上げたかったとか、船木さんを上げたかったとか、格闘系の選手を凄い評価している方なんで、滑川さんもタイプ的に昔から興味はあたってことらしいですかね。

滑川　それは光栄な話ですよね。やっぱり気持ち的には、上井さんと前田さんがやるからには成功して欲しいです。

—前田さんはスーパーバイザー的にアドバイスをするっていう立場らしいんですけど、自分が関わるプロレスのイベントだったら、最低限、試合が終わったら、どっちかの顔面が腫れ上がってるくらいの試合をして欲しいとか言ってるんですよ。

滑川　……う～ん、最近取材慣れしてないから言葉が出ない（笑）。

—あと、いまのプロレス界はおちゃらけているとも言ってました。

滑川　僕はプロレス界のことはわからないんで。ただ、いまのプロレスがおちゃらけていうのは、僕はあんまりそうは思わないんですけどね。たまに夜中、TV神奈川でやってるNOAHとかを観ますけど、もの凄いッスよね。僕は敬意を持ってますね。もし、やらせてもらうんだったら、相当の準備をしないとできないと思ってるんで、そう簡単にやるとは言えないですね。

—滑川さんもリングス活動休止後は、今年のお宮の松戦であったりアレク戦で経験してますよね。

滑川　でもまぁ、自分がやってるのは従来のプロレスとは違いますしね。割合でいったら格闘技のスタイルがかなりをしめているんで、蹴って殴って、それこそ前田さんが言ってるような顔が変形するくらいのスタイルだと自分は思ってるんですけど。従来のプロレスの受け身の凄さっていうのは尊敬してます。

—でも、受け身っていう部分では、前田道場時代に、かなり練習させられてたんですよね。

滑川　僕は凄いやりましたね。高阪さんと坂田さんは器用なタイプの方なんで、もの凄い動きもスムーズでしたけど、僕はもう全てが不器用なんで、なかなか上達しなかったですけど（苦笑）。

—前田さんが元々新日本出身というのもあって、いま言った受け身とかスクワットとかの練習はかなりしてたみたいですけど。

滑川　でも、僕が教わった受け身っていうのは前回りと後ろ受け身だけで、前に倒れるヤツってあるじゃないですか？　あれはやってなかったんですよ。そういう受け身っていうのはUWFスタイルになって省かれていったのかなぁ。

—ある意味、いまの総合系の選手は受け身とか、そこまで練習している選手はいないと思うんですけど。

滑川　そうでしょうね。当時、前田さんは、SWSに片山（明）さんって方がいて、受け身を失敗してケガしたっていう話をされたりとか、あと、リングの着地ぎりぎりで回転する受け身が凄い大事だとか、受け身の重要性はよく言ってました。あともうひとつ言ってたのがグルジア人とかは持ち上げて頭から落としたりするんで、それぐらいの対処ができないと試合には出させないということで徹底して受け身とかはやらせてましたね。

—前田さんはプロレスラー出身だから、当時、自分たちがやっていた練習をさせていたわけじゃなくて、ちゃんと、その重要性を説明した上でやらせていたわけですね。

滑川　そうです、そうです。

—滑川さんもそうですけど、リングス出身の選手はもの凄く足が太いっていうイメージがあるんですけど、スクワットとかも、かなりやってたんですよね。

滑川　そうですね。やっぱり、リングスでの練習って前田さんの中では全部意味があってやらせてたと思うんですよ。リングスロシアとかグルジアもそうですけど、ああいう国の選手ってピラミッドだったら一番上の選手がリングスに来るわけじゃないですか。その点、僕らは……っていうか、僕なんか特に叩き上げじゃないですか。叩き上げでそういう世界レベルのヤッとやり合うには相当の訓練しないとダメだと思いますよ。そのために前田さんは基礎から徹底的に指導してくれていたと思うんですよ。

—ちなみに、いまでもスクワットとか前田道場時代と同じぐらいやっているんですか？

滑川　いまはあんまりやってないですね。スクワットを一番やったのは、リングスに入る前です。

—リングスに入る前というと浜口ジム時代ですか？

滑川　そうですね。あの頃は一日平均1000回ぐらいやってましたから。

—浜口ジムも凄そうですよね（笑）。

滑川　でも僕は異常でしたよ。好きな練習しかやらないから、スクワットしかやらなかったんで（笑）。

—スクワット好きだったんですか？（笑）。

滑川　大好きでしたね（笑）。

—で、坂田さんが言ってたんですけど、ホントの意味での前田イズムを叩き込まれた選手って、滑川さんが最後じゃないかって。

滑川　そんなこと言ってくださってるんですか。でも、僕から言わせてもらうと、やっぱり前田イズムを叩き込まれてるのは、山本さん、成瀬さん、坂田さん、高阪さん。その4人だと思います。僕は先輩方から「アイツは根性あった」って評価を聞いたこともあるんですけど、先

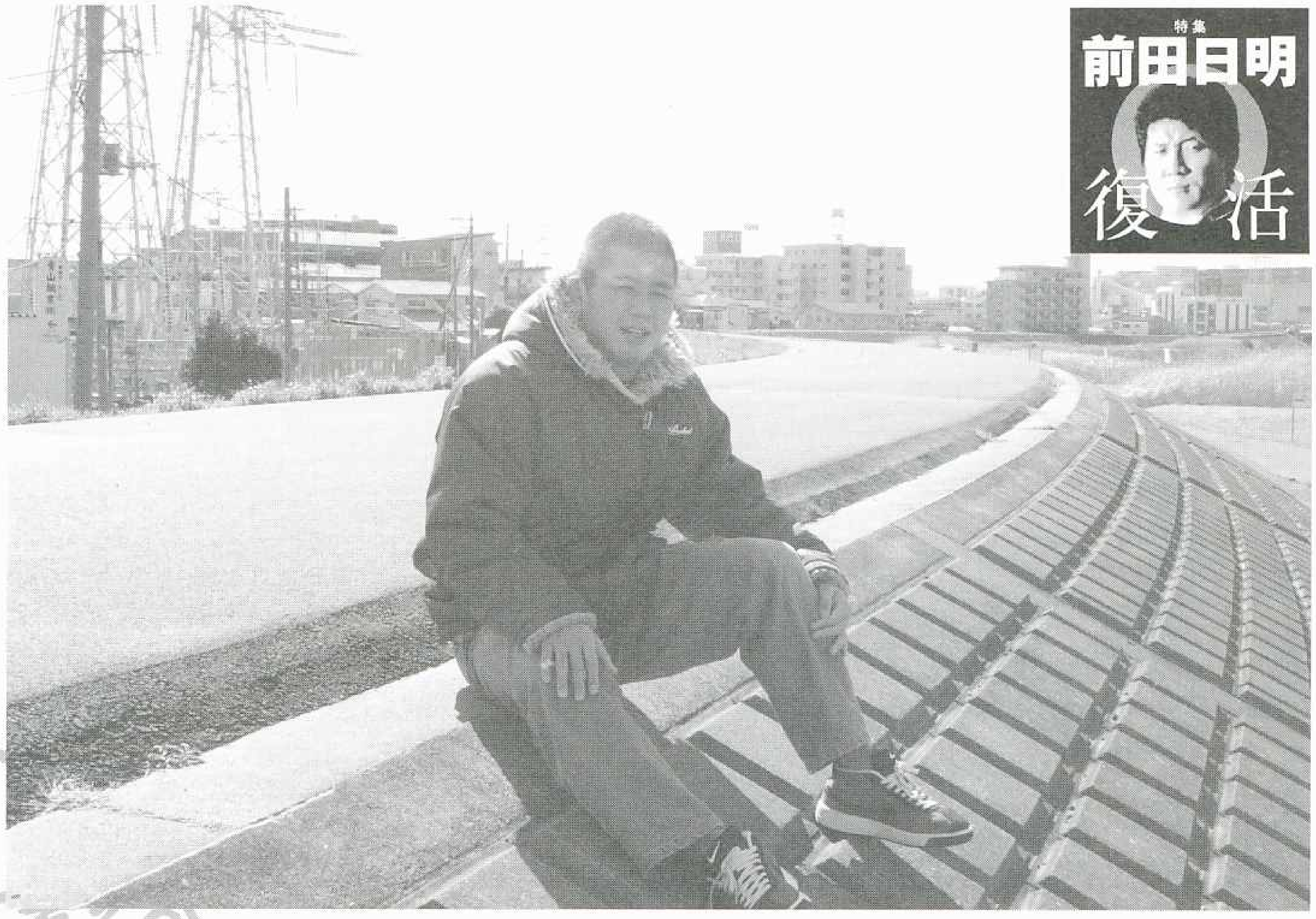
輩方から「俺らの時はこうだった」って話を聞いくと、自分は楽な方だなと。いろいろとキッツいエピソードとか聞いてると、上には上がいるんだなと思ってましたから。

—昔の新日本では、山本小鉄さんが道場に来ると、車の音がしただけでビビったとか、よく聞きますけど、前田道場でも同じように前田さんが来ると緊張感が違ったわけですよね。

滑川　そうですね。ランニングに行ったら、そのまま走って実家に帰りたかったですもんね（笑）。ちんたら走ってると怒られるし、だからといって早く走って道場に戻るのも嫌だったし（笑）。それに、やっぱり前田さんの練習は数が凄いんですよ。「俺がいない時は、タックル千回やっとけ」とか言われて「はい！」って。まぁ、あんまりやったことはなかったですけど（苦笑）。

—そうなんですか（笑）。失礼ながら、滑川さんて、その辺はあんまり要領よくないと思ってたんですけど、その辺はうまくやってたんですね。

滑川　そうですね。ちゃんこの時も、「ちゃんこ何杯食え」とか言われて、どんぶりが2種類あったんですよ。で、一つ柄が付いてる方がちっちゃ目だったんですけど、そっちを選んで、先輩とか前田さんとか目線が合うとバレちゃうんで、どんぶりの中身が見られない角度に持って、座った途端にかきこむというテクを身につけました（笑）。あと、腕立て100回、5セットとかってメチャクチャ、キツいじゃないですか？　しかも両足をベンチに乗っけってとか。そういう時は先輩とかがトイレに行ってる間に数を30ぐらい増やしたりとか（笑）。



—でも、先輩も一緒にトイレに行くわけじゃないんで、バレたりするんじゃないですか？

滑川　いや、デビュー前の頃は、前田道場って先輩がほとんど来なかったんで大丈夫でした（笑）。

—アハハハハ！

気が強いのが前田イズムだと僕は思う。ある意味、限界以上に強いっていうか（笑）

滑川　でも、前田さんにはデビューさせてもらった後で、コメントをいただいたんですけど、練習とか普段を見た感じでは大丈夫かなぁと思っていたそうで、「試合やらせてみると負けん気が強くて、ちょっと驚いた」みたいなことを言っていただいて嬉しかったですね。

—ちなみに、滑川さんは何人ぐらい前田道場から脱落していった人を見てるんですか？

滑川　そうですね、全部で10人ちょっとぐらいかな。

—そういう過酷な練習を耐えて、いま現役で残ってる選手って単純に凄いと思うんですよね。

滑川　みんな気が強いッスからね。気が強いのが前田イズムだと僕は思うし。限界以上に強いっていうか、ある意味、ラインを超えてるっていうか（笑）。

—それはあるでしょうね。でも滑川さんって前田さんから愛のムチを受けたりっていうのはあったんですか？

滑川　僕は一発もないですね。

—え、一発もないんですか？

滑川　ないです、ないです。で、僕の場合おかしくて、逆にしょっぱい試合したら前田さんに優しい言葉をかけていただいたりとかしてましたね（笑）。

—それも凄い話ですね（笑）。

滑川　だから、愛のムチとかは何にもなかったですね。やっぱり、高阪さん、成瀬さんとか前田さんの付き人で付いてて、凄い器用で気が利くんですよ。で、僕は気をつかえないんで、逆に前田さんが気をつかってくれたりとして。

—具体的に言うとどういうことですか？

滑川　何かこぼしたりしたら、パッとおしぼりとか取ってくれたりとか。

—大物ですねぇ（笑）。

滑川　だから、逆に僕みたいなタイプは新鮮だったのかなって（笑）。

—じゃあ、あまり怖い前田日明は見てないんですか？

滑川　いや、僕はブチ切れているところは何回も見てますけど、自分が的になったこと……的って言うと失礼なんですけど、そういう対象ではなかったですね。でも兄弟子の先輩方には相当殴られましたよ。それこそ顔が変形するくらいに。殴られるのは嫌ですけどボコボコに変形した顔を触るのは面白かったですね。シリコンが入ってるっていうか固形物が中にあるみたいになって（笑）。

—やっぱり凄いんですね、前田道場は（笑）。では、滑川さんにとって前田日明とはどういう存在になるんですか？

滑川　僕は古い人間なのかもわからないけど、リングスに入門を許可してもらって、厳しいのは当然わかってたんですけど、その後、なお、お金をかけて、プロデビューさせてもらったので、そのご恩は一生忘れないですし、前田さんに対する気持ちは死ぬまでというか、言葉が喋れるまでそれを伝えていこうと思ってますね。

—ヴォルク・ハンは「俺は前田日明の兵隊だ」って言ってましたけど、滑川さんも同じような気持ちは当然持っているわけですね。

滑川　やっぱり、前田さんが僕のことをプロにしてくださったわけじゃないですか。それで、プロというのは契約で動くものじゃないですか？　プロというのはちゃんとしなきゃならないって前田さんから教わりまし

たし、その教えを守るんであれば、その場その場でお世話になってる方々に全力で協力しろっていうのが前田さんの教えでもあると思うんですよ。

—でしょうね。

滑川　だから、僕は前田さんのことを、この業界の親だと思っていますが、いま僕はDEEPと契約をしているんで、いま、お世話になっている人を裏切ったらそれは前田イズムに反することになると思うんで。僕はそういう気持ちを持ってますね。だから、いまある環境で、プロとして契約している場所で精一杯結果を残すっていうのが、命を授けてくださった前田さんに対する恩返しだと思ってますね。

大好きな上井さんと前田さんのイベントなので、どういう大会になるか楽しみです！

—前田さんもそういった義理人情とか凄く大事にする人ですからね。そういう意味では、いま滑川さんは契約しているDEEPを盛り上げたいっていう気持ちが強いわけですね。

滑川　そうですね。いまはDEEPが一番ッスね。僕の財産って、それしかないと思うんですよ。リングス時代に貯金も作ってなかったし（笑）、いまの財産は人に信用してもらえるってことしかないんで。裏切られてもいいから人を裏切らないっていう気持ちはあります。

—ある意味、リングスのファンにとって、一番リングスラブを感じさせる選手って滑川さんだと思うんですけど、それについてはどう思います？

滑川　さっき撮影で前田道場に行ったじゃないですか。でも、いまは、いい意味でですけど、あまり行きたくないですもん。前田道場とかリングスっていう言葉に頼りたくないっていう気持ちもありますね。なんか嫌じゃないですか、フラれた女にいつまでも未練たらしくしてるみたいで（笑）。

—実際、そういうところもあるんですか？

滑川　少しあるかもしれないですね（笑）。

—アハハハハ！

滑川　最近自分でもわかってきたんですけど、まっすぐすぎるってよく言われるんですよ。

—それは何に対しても？

滑川　そうですね。それがわかってきて、一途なんですよ。好きになった女の子をとことん追いかけちゃうタイプで。でも、「強引で一途な人もいい」っていう人もいれば、一途な人が苦手な女の子もいるから気をつけて」って仲のいい女の子に言われて、そうかと思って。……僕、何を話してるんですかね（笑）。

—いまは一途になるものがプロのファイターとして、契約をしているDEEPというか。いい意味でのリングス離れの時期なのかもしれませんね。



リングス活動休止後はDEEPを中心に活躍中の滑川。1月の佐伯祭りでは、お笑い芸人のお宮の松という闘いづらい相手と好勝負を展開。滑川の次の試合は4・17「DEEP HERO 1」での秋山賢治戦だ！（詳細はP116参照）

滑川　そうですね。僕の気持ちの中では、いまでもリングスっていうのがかなり多くを占めてるんですよ。リングスジャパンっていうのが自分が初志貫徹して成し遂げた初めてのことだったっていうのもあるし。それに、高阪さんとか横井、伊藤もそうですけど、みんなそれぞれいろんな分野で実績持って入ってきてるじゃないですか？　僕は子供の時、病気に耐えたとか、そんなレベルの低い実績っていうか、そんなもんしかなくて、入ってきて初めてリングスジャパンっていうものを手に入れたんで、それは誇りに思ってますね。

—後輩の横井さんも柔道とかの実績がありましたし、伊藤さんも入門前に柔術とかやられてましたからね。

滑川　そうなんですよ。僕はラグビーぐらいで格闘技経験ゼロで入ってきたんで、リングスジャパンの一員になれたっていう重みとか人一倍感じてるし、一番嬉しく思ってますね。

—なんかいい話ですね。

滑川　あとですね、今回、前田さんは上井さんに協力してやられるということですけど、僕は、まだ新日本時代の上井さんと立ち話をさせてもらった時に、試合に臨む時は常に試合後の自分はないものだ、それぐらい僕は試合に命をかけているっていうことを話す機会があったんですよ。それを非常に感心してもらいましたね。

—それこそ、契約云々もあるでしょうし、現実的には難しいところもあるでしょうけど、単純に柴田さんや村上さんと滑川さんの試合は見てみたいっていうのはありますね。

滑川　総合だったら絶対負けるつもりはないし、プロレスだったら気持ちよく殴り合えるっていうか、そういうイメージはありますね。実際、実現するかどうかは別として（笑）、

—坂田さんも、「前田さんの名前を出すなら、柴田も滑川とやってみたらええんや。勝てるわけがない」ってことを言ってましたね。

滑川　絶対、僕には勝てないッスね！（キッパリ）。

—それは総合ルールだったらってことですか？

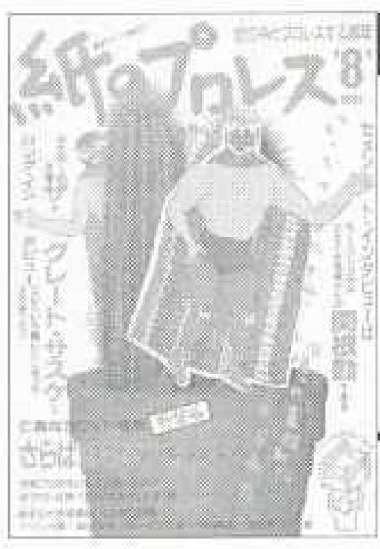
滑川　そうですね。プロレスルールだったらわかんないですけど（笑）。

—クルリと丸め込まれちゃうかもしれませんからね（笑）。

滑川　そうッスね。でも、僕も大好きな上井さんと前田さんのイベントなので、どういう大会になるか楽しみにしてます。

【2月14日／旧・前田道場近くのファミレスにて収録】

本誌 Back Number



no.08 '94.01

特集 **さらば新日本プロレス**

仁義なきワイド座談会「さらば新日本プロレス」／仰天企画・恐山旅行のついでにマスカラス＆天龍を見る／サスケが『紙プロ』初登場！　20ページにも及ぶ大特集！

700yen⇒350yen　50%OFF



no.15 '95.05

特集 **インディペンデントの逆襲**

あんた誰？　山口日昇試練のインディ・レスラー10番勝負！／Ｋーとは何か？　石井館長・ターザン山本・サダハルンバ谷川らのＫ－１三兄弟（当時）インタビュー

780yen⇒390yen　50%OFF



極真魂溢れる16人を直撃！　完売間近

極真とは何か？

松井章圭／磯部清次／Ｎ・ペタス／大山茂／大沢昇／ウイリー／フィリオ／村上竜司／中村誠／廬山初雄／佐藤勝昭／黒澤浩樹／竹山晴友／谷川貞治／山田英司／夢枕獏

1530yen⇒800yen　50%OFF

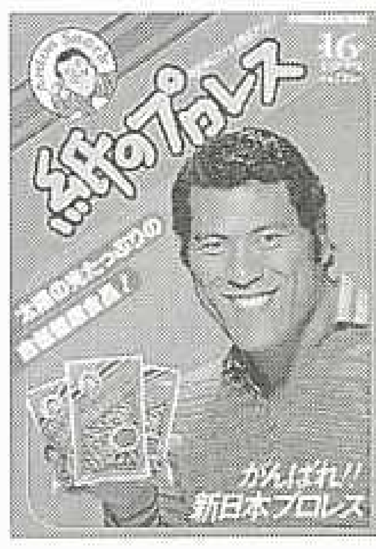


no.13 '95.03

特集 **道場破りとは何か？**

安生洋二が道場破りでヒクソンに返り討ち！　山本小鉄＆上田馬之助道場破りとは何か？インタビュー／『平成ファミコン・プロレス』馳浩・スペル・デルフィン・斉藤文彦

780yen⇒390yen　50%OFF



no.16 '96.06

特集 **新日本凸凹大学校**

『紙プロ』的・昭和新日本プロレス大検証！　マサ斉藤・キラーカン・田中リングアナ・破壊王・後藤達俊／ビックリ！　糸井重里vsサダハルンバ谷川の対談が実現！

780yen⇒390yen　50%OFF

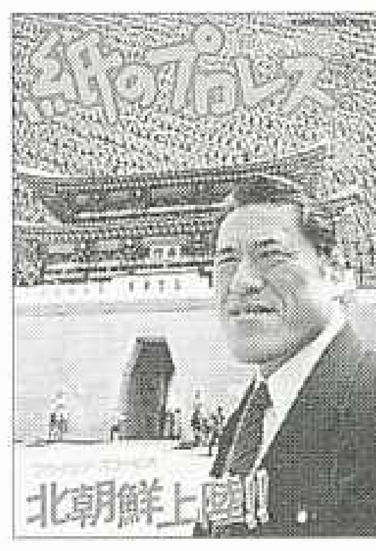


no.14 '95.04

特集 **神秘とは何か？**

佐山聡・大槻ケンヂ・プロボディガード清水白鳳・鈴木みのるたち格闘神秘を膨らます！／日本プロレス歴史の証人・遠藤幸吉セメントロングインタビュー

780yen⇒390yen　50%OFF



no.17 '95.07

特集 **実況パワフル北朝鮮**

あの北朝鮮での「平和の祭典」を語りまくる！　アントニオ猪木＆永島勝司・村松雄親・破壊王・ブル中野／バトの原点はここにある！「藤原組の逆襲」

780yen⇒390yen　50%OFF

通販申し込み方法

▼バックナンバーは書店で扱っておりません。
下記の通信販売をご利用ください。

①『紙プロHand』で注文
②電話注文　03-5368-1797
③メール注文　kapra@kamipro.com

※通販方法はすべて代引きとなります。手数料は315円です（代引き金額によって異なります）。
※送料は一律500円（何冊でも可。離島山間部は除く）となります。

ご注意　郵便振替は現在受け付けておりません。ご了承ください。

紙のプロレスRadical 常備店

- ■アイドール新宿店
- ■新宿ファイター
- ■大山アメリカン
- ■プロレスマニア館
- ■チャンピオン
- ■リングスパレス
- ■バディスラム
- ■タコシェ
- ■レッスル池袋
- ■書泉ブックマート
- ■書泉ブックタワー
- ■書泉グランデ
- ■グレートアントニオ
- ■東京イサミ

no.59 表紙 ヒョードル　'03.02／880yen

**吹けよ！呼べよ嵐!!
マット界新風景が見えてきた!!**

- ●いざノゲイラ戦!!　E・ヒョードル
- ●アメリカン・ドリーム　ダスティ・ローデス
- ●爆発!!　WJマグマ語録
- ●吉田道場の秘密兵器　中村和裕
- ●UWFの再興と再考　田村潔司

no.60 表紙 ヒョードル　'03.03／880yen

**英雄、変貌好む!!
『PRIDE』RE・BORN!!**

- ●ノゲイラ撃破!!　E・ヒョードル
- ●驚愕の格闘芸術対談!!　武藤敬司×須藤元気
- ●あのマーシーがすべてを告白!!　田代まさし
- ●全日本中継の真実!!　倉持隆夫

no.61 表紙 OH砲　'03.04／880yen

**5・2仁義ある闘い!!
やっちゃうぞバカヤロー!!**

- ●裏番組をブッ飛ばせ！　橋本真也×小川直也
- ●1年間の沈黙を破った!!　ヴォルク・ハン
- ●プロレス・格闘技クロスオーバー対談　エンセン井上×金原弘光
- ●リングス・リトアニア特集

no.62 表紙 ミルコ　'03.05／880yen

誰でもいいからミルコのクビをカッ斬ってみろ!!

- ●ヴァーと笑顔で初登場!!　佐々木健介
- ●現役復帰間近!?　船木誠勝
- ●藤田と新日を一刀両断!!　E・ヒョードル
- ●新日本バードを徹底検証!!

no.63 表紙 OH砲（イラスト）　'03.06／880yen

**吉田秀彦が大英断！
ミドル級GP出陣！**

- ●「お前は男だ」劇場炸裂！　高田延彦
- ●『PRIDE』REBORNを大総括!!
- ●憂国の虎　ザ・マスク・オブ・タイガー
- ●芸能界一の川田番　ダチョウ倶楽部

no.64 表紙 桜庭&田村　'03.07／900yen

**灼熱の
『PRIDEミドル級GP』直前号!!**

- ●“異次元格闘技戦戦”　田村潔司×吉田秀彦を大展望!!
- ●『PRIDEミドル級GP』　出場全選手インタビュー
- ●ミスター高橋の盟友が放つ“猪木の裏側”
- ●スマックガール・ビキニ特写!!

no.65 表紙 ミルコ　'03.08／880yen

**ヒョードル×ミルコ、
闘争本能世界一決定戦!!**

- ●“最後の皇帝”燃え上がる！　ヒョードル
- ●“反逆の妖刀”、遂に皇帝へ!!　ミルコ
- ●吉田秀彦戦の“謎”に迫る！　田村潔司
- ●闘魂ストーカーを捕獲！　イズマイウ

no.66 表紙 ミルコ　'03.09／880yen

**ミルコ、『武士道』電撃出陣！
もはや誰にも止められない!!**

- ●緊急独占インタビュー！　ミルコ
- ●マッハの野望を砕いた　“赤い暗殺者”登場!!　長南亮
- ●“天才空手少年”VT秒殺デビュー!!　中嶋勝彦
- ●『東スポ』とは何か？　柴田惣一

no.67 表紙 シウバ&吉田　'03.10／880yen

**吉田とシウバ、いざ激突!!
衣(ギ)は赤く染まるか!?**

- ●ノゲイラ戦に向けて緊急インタビュー！ミルコ
- ●“柔術超獣”復活へ!!　ノゲイラ
- ●『PRIDEミドル級GP』決勝戦出場　全選手インタビュー
- ●アントン“疑惑の時代”を知る男　加治将一

no.68 表紙 高田&桜庭&曙&猪木 他　'03.11／880yen

**人類史上稀にみる“大晦日・格闘技大戦”!!
白黒ハッキリ決めようやーッ!!**

- ●大晦日三つ巴決戦に出撃宣言！　高田延彦
- ●横綱がK-1に殴り込み 曙とは何者か!?
- ●一年ぶりの勝利で　ニコニコインタビュー　桜庭和志
- ●“野良犬”『紙プロ』初登場！　小林 聡

no.69 表紙 OH砲　'03.12／900yen

**大晦日・格闘技大戦&1・4プロレス戦争直前!!
年末年始もドゥ・ザ・ハッスル!!**

- ●出てこい！ 泣き虫!!　橋本真也&小川直也
- ●『泣き虫』著者登場！ 金子達仁
- ●大晦日直前インタビュー！　田村潔司
- ●アイ アム リアルプロレスラー　美濃輪育久

no.70 表紙 ミルコ　'04.01／880yen

**年末格闘技大戦&1・4プロレス戦争大総括!!
OH、ゴーバー登場！『ハッスル』とは何か!?**

- ●PRIDE征服宣言！　ミルコ
- ●シウバに宣戦布告！　近藤有己
- ●ド真ん中の真実を語る！　佐々木健介&北斗晶
- ●発表！　紙プロ大賞&マット界語録2003

no.71 表紙 OH砲&高田　'04.02／880yen

**プロレスよ、踊れ！
3・7『ハッスル2』は大フィーバー!!**

- ●『PRIDE GP』優勝宣言！　ミルコ&ノゲイラ
- ●待望の『紙プロ』初登場！　川田利明
- ●理想のプロレスを追い求める！ AKIRA
- ●スクープ！　幻の猪木vsアミン戦の真実!!

no.72 表紙 ミルコ&ヒョードル&ノゲイラ　'04.03／840yen

**最強への求道者たち全員集合!!
PRIDE・GPに格闘ロマンを見よ!!**

- ●GPの大本命をオランダでキャッチ!!　エメリヤーエンコ・ヒョードル
- ●第二のミルコとなるか!? ステファン・レコ
- ●K-1に暴力を持ち込んだ男　山本KID徳郁
- ●全て見せます!!『突撃！ 佐々木健介邸』

no.73 表紙 小川直也　'04.04／880yen

**暴走王が忘れたころにやってきた！
PRIDE・GPでハッスルするぞ!!**

- ●GP出場決定、緊急インタビュー！　小川直也
- ●PRIDE・GP出場全選手　パーフェクトガイド
- ●キックの名伯楽登場！　伊原信一
- ●魔界のニューリーダー　村上和成

no.74 表紙 小川直也　'04.05／880yen

**シュート？ ワーク？ くだらねえ、次元が違うよ！
いつ何時、どこでもハッスルするぞ!!**

- ●PRIDE・GPでハッスル成功！　小川直也
- ●リベンジロード発進!!　桜庭和志
- ●“ハードコアのカリスマ”　ミック・フォーリー本誌初登場！
- ●掣圏会館皇帝　佐山サトル激語り!!

no.75 表紙 小川&桜庭&吉田　'04.06／880yen

英雄、奇蹟の揃い踏み！ 小川、桜庭、吉田がPRIDE GP準決勝に集結!!

- ●シルバ戦直前に大ハッスル宣言！　小川直也with藤井軍鶏侍
- ●奇蹟の独占インタビュー！　高田総統
- ●インド狂虎登場！ タイガー・ジェット・シン
- ●年金未納からUFOまで　ザ・グレート・サスケ

no.76 表紙 小川直也　'04.07／880yen

**プロレス大爆発へ最後の挑戦！
ハッスルするなら今しかねえ!!**

- ●スクープ発言連発！　小川直也
- ●小川の“盟友”と“宿敵”が奇蹟の対談!!　破壊王×ノゲイラ
- ●厳しくも、飄々と戦路を進む！ 桜庭和志
- ●新連載『月刊PG談（仮）』　吉田豪×掟ポルシェ

no.77 表紙 小川直也　'04.08／880yen

**『PRIDE・GP決勝』直前濃密大特集！
小川、史上最大の査定試合へ!!**

- ●「相手がヒョードルだろうと俺はハッスルする!!」　小川直也
- ●狙うは皇帝の首ひとつ！　ミルコ
- ●サンボの神様降臨!!　ビクトル古賀
- ●ロシアで英雄と再会！　ヴォルク・ハン
- ●幻想大国ロシア・現地潜入徹底リポート

no.78 表紙 小川直也　'04.09／840yen

**『PRIDE・GP』徹底総括！
ハッスルとは出直しの連続なり!!**

- ●衝撃の敗戦直後、独占インタビュー！　小川直也
- ●小川の敗戦をどう見る!?　高田PRIDE統括本部長
- ●K-1のトップが小川を語る　谷川貞治
- ●壮絶インディー人生！　田中将斗

no.79 表紙 高田総統&小川直也　'04.09／840yen

**プロレス暗黒時代に魔王降臨！
高田総統の激白を独占スクープ!!**

- ●ハッスルキャプテンに休息なし！　小川直也
- ●特別付録・高田総統特製ピンナップ
- ●谷川さん推薦企画『曙は是か非か？』
- ●ビビッたか？ ボヤいたか!?　金原モンスター軍

no.80 表紙 ミルコ・クロコップ　'04.10／880yen

**『PRIDE.28』直前！
守護神ミルコ、外敵狩りへ――**

- ●独占ロングインタビュー　ミルコ
- ●ハッスル軍お家騒動を激白!!　小川直也
- ●新連載！ 佐山サトルの右流タン探訪紀
- ●袋とじ企画・女子プロ界の謎に迫る！　グリズリー岩本

no.81 表紙 桜庭和志　'04.10／880yen

**サク、4度目のシウバ戦決定！
大晦日格闘技戦争・濃密大特集号**

- ●ヒョードルの弱点を発見!?　ノゲイラ＆ノゲイラママ
- ●新日本でハッスル成功！　小川直也
- ●スーパーひとし君登場！　草野仁
- ●狂気の天才対談が実現!!　佐山サトル×船木誠勝

no.82 表紙 桜庭和志　'04.12／890yen

**大晦日大戦・超直前特集号！
男のSADAME、見に来いやーーッ!!**

- ●「ボクは絶対に諦めない」　桜庭和志ロングインタビュー!!
- ●“道場破り”の全てを激白！　安生洋二
- ●WJの秘密を大暴露！　永島勝司×ターザン山本！×吉田豪
- ●伝説の悪徳レフェリー降臨！　阿部四郎

no.83 表紙 ミルコ　'05.01／880yen

**打倒ヒョードルに向けミルコが激白！
PRIDEヘビー級王座への野望と渇望!!**

- ●『PRIDE 男祭り』怒濤の大総括！
- ●2005年ハッスル大進撃計画を発表!!　小川直也
- ●蘇る新日本黄金伝説!! 橋本真也×船木誠勝
- ●『シベ超5』公開記念SP対談！　水野晴郎×サスケ

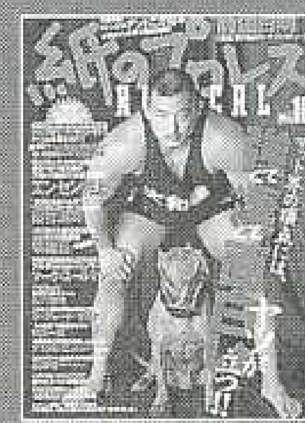
嵐を呼ぶプロレス界復帰！怒濤の前田日明特集!!



Radical Back Number

BACK NUMBER

『紙プロ』再登場はいつ？
前田日明インタビューはコチラのバックナンバーで!!



no.16 前田日明、引退後初のロングインタビュー！
「選手もマスコミも含めて、この業界は女々しい」

- UWFスタイル独占宣言!! 田村潔司
- 最強説健在！『語ろう、ジャンボ鶴田』
- マット界の環境問題を斬る！ アントニオ猪木
- 馬場さん追悼企画『BABA COLLECTION』

'99.03 / 780yen



no.32 前田日明がKOK、PRIDE、純プロを語る！
「WWFは凄い。マクマホンJr.は天才やで」

- 『PRIDE.11』直前！ 高田&桜庭の覚悟を読み解け!!
- 暴走王、『PRIDE.11』出陣決定！ 小川直也
- 紙プロ・スーパースター列伝 ラッシャー木村
- 迷走！悶絶！大爆笑!! 藤波語録

'00.10 / 840yen



no.36 KOK大成功！ 怒濤の前田節が炸裂!!
「プロレスラーはインテリジェンス・アスリート」

- 純プロレス復興の鍵を握る男 三沢光晴
- 純プロ座談会 ターザン山本!×吉田豪
- 面白すぎてカラー24ページブチ抜き！ KOK大特集
- "宿敵"シウバとの初対決5秒前！ 桜庭和志

'01.02 / 840yen



no.39 騒動だらけの前田日明が全てを激白!!
「太く生きたからって、人生が短いとは限らない」

- 戦慄の前田日明座談会！ 山口日昇×吉田豪×谷川貞治
- "道場長"金原弘光が語る「前田道場の真実」!!
- 前田の「山宣殴打事件」を語る！ 藤原敏男
- 紙プロ・スーパースター列伝 田上明

'01.04 / 840yen



no.43 前田日明が『PRIDE』、VTを斬る！
「本当のVTっていうのは素手だよ、素手」

- 新日本プロレス学校同窓生対談！ サスケ×金原弘光
- 野武士がU、プロレス、前田を語る！ 中野龍雄
- RINGS、コロシアム2000で大暴れ!! 須藤元気
- この男はプロレスの味方か？ 敵か？ 小川直也

'01.04 / 840yen

バックナンバーは電話で注文できます！！

03-5368-1797

【平日15:00～22:00（株）ダブルクロス】

---

no.15 表紙 小川直也 '99.02 / 780yen

リアル・アルティメット・クラッシュ!!
小川 vs 橋本"1・4事変"勃発!!

- あの"1・4事変"を徹底大検証!!
- "前田日明・最後の相手"
  アレキサンダー・カレリン
- 引退記念雑談会
  「語ろうマサ・サイトー！」
- S多重アリバイ 佐野雄飛

no.29 表紙 秋山準 '00.07 / 840yen

「格闘環境」は刻一刻と変化する！
ノア勢フルメンバーで登場!!

- 三沢、秋山『紙プロ』初登場!!
- プロレススーパースター列伝
  仲野信市
- 本誌独占ジャンボ鶴田夫人
  最愛の夫の真実を語る!!
- TKおかん

no.34 表紙 小川直也 '01.01 / 840yen

『猪木祭り』開幕ーッ!! プロレスは
「闘い」を忘れたときに老いていく！

- UFCミドル級王者 ティト・オーティズ
- プロレススーパースター列伝
  ミスターヒト
- 修斗から『猪木祭り』へ！ 宇野薫
- ボブチャンチン&オパチャンチン

no.35 表紙 サクマシン（イラスト） '01.02 / 840yen

「純プロレス」を考え倒せ！
500人アンケートも実施！ 徹底検証号

- ZERO-ONE本格始動 橋本真也
- プロレススーパースター列伝
  ジョー樋口
- "ノアの怪物"杉浦貴
- UFCの巨人 ランディ・クゥートアー

no.37 表紙 小川直也（イラスト） '01.04 / 840yen

小川と三沢が遂に絡んだ!!
純プロレス戦国絵巻

- 安田忠夫が借金から
  自殺未遂まですべてを語る！
- アブダビコンバット2001一大探検記！
- シュート活字×ファンタジー活字
- 他に比類なきプロレスが
  WWFにはある！

no.38 表紙 高田（イラスト） '01.05 / 840yen

小川と長州、どちらが
孤独だったのか!?

- 忘れ物の正体は──。高田延彦
- ヴォルク・ハンの最強の遺伝子
  E・ヒョードル
- プロレススーパースター列伝
  阿修羅原
- 死神降臨・ジェラルド・ゴルドー

no.40 表紙 アントン総帥 '01.07 / 880yen

猪木軍 vs K-1に見たいものは
"地上最強のプロレス"

- 蘇れ!Uインター&キングダム伝説！
  高山善廣×金原弘光
- 熱いこの叫びを聞け！ 大谷晋二郎
- プロレススーパースター列伝
  グラン浜田
- グラバカの核弾頭 郷野聡寛

no.41 表紙 ビンス・マクマホン '01.08 / 880yen

Can you カミングアウト？
"最後の黒船"WWF襲来！

- リングス10周年！
  ヴォルク・ハンが振り返る
- 真樹日佐夫×三池崇史
  巨頭対談が実現！
- W☆INGの真実・茨城清志
- 毒舌知能犯 秋山準語録

no.42 表紙 アントン総帥 '01.09 / 880yen

猪木なら何をやっても
許されるのか!?

- ドン荒川×橋本真也のトンパチ伝承対談
- "ヒャッホーの真実"辻よしなり
- 蘇れ!UWFインター伝説!!
  高山善廣×宮戸優光×金原弘光
- 誇り高きルチャ戦士
  カト・クン・リー

no.44 表紙 桜庭&シウバ '01.11 / 880yen

サクの連敗が『PRIDE』に
語りかけるものは何か？

- その修羅場の数々！
  シーザー武志
- 怪物伝承対談！
  高山善廣&杉浦貴
- ハンス・ナイマン&ディック・フライ
- 闘龍門大特集

no.45 表紙 アントン総帥 '01.12 / 880yen

「K-1 vs 猪木軍」命懸けの
エンターテイメント!!

- 悪魔の書、現る！ ミスター高橋
- ジェラルド・ゴルドー人生相談
- プロレススパースター列伝
  グレート小鹿
- 語録で振り返るマット界2001

no.47 表紙 ビンス・マクマホン '02.02 / 880yen

WWE日本侵攻5秒前！

- "天才"武藤敬司が
  『紙プロ』驚愕の初登場！
- 噂の馳浩が新日分裂から
  ミスター高橋本までを語る！
- 第一次リングス閉幕特集
- プロレススーパースター列伝
  ストロング金剛よ!!

no.48 表紙 桜庭和志 '02.03 / 880yen

見えてきたゾ、桜庭、満開の日!!

- 奇跡のメガトン対談！
  小川直也 vs ノゲイラ&スペーヒー
- 和田最強伝説が遂に現実に！
  語り部・金原弘光
- 伝説の男が笑撃の登場！
  ジョー・サン
- WWEを知る男 ウォーリー山口

no.49 表紙 ミルコ&ヒクソン& 小川&桜庭 '02.04 / 880yen

究極の格闘技大戦争勃発!!
マット界灼熱の噂！

- 和田さん快勝記念対談！ 高山&金原&和田
- アレクに怒りの火を付けた
  菊田早苗とは何者か!?
- 破壊王も火のヤリ特訓！
  小笠原和彦が火の輪くぐりを敢行！
- ビッシビシいくわよ!! 小畑千代

no.50 表紙 桜庭和志 '02.05 / 880yen

サクが笑えば、世界が笑う!!

- 「地方発世界」開始！
  小川直也&橋本真也
- リングスロシア軍団の軌跡
- パンクラス取材解禁！
  菊田、"尾崎の野郎"が登場！
- ギョ!?
  I編集長が新日本に三くだり半！

no.51 表紙 橋本真也 '02.06 / 880yen

ZERO-ONEに願いを！

- 両国国技館だよ、全員集合！
  橋本真也
- 『PRIDE』の魅力をマン開！
  小池栄子
- 天才が悩みに答える！
  武藤敬司人生相談
- 新・超獣 ザ・プレデター

no.52 表紙 OH砲 '02.07 / 880yen

見えない鎖を引きちぎれ！
小川直也リング外での暗闘!!

- 全身プロレスラー・高山善廣
- USAの渡世人ドン・フライ
- 『PRIDE』侵攻開始!!
  ロシアン・トップチーム
- 戦慄の『LEGEND』前夜！

売り切れ寸前!!

no.53 表紙 桜庭和志 '02.08 / 880yen

世紀のビックイベント
『Dynamite！』直前大解剖!!

- ノーフィアー×無謀美・対談!!
  高山善廣×美濃輪育久
- 独占肉弾スクープ！
  マット・ガファリ
- 爆裂！ 川村社長ガチンコ語録！
- 偽造王の知られざる半生！ 一宮章一

no.54 表紙 ノゲイラ '02.08 / 880yen

不平等の時代を克服した
英雄ノゲイラ!!

- "首の皮一枚"ホイス&エリオグレイシー
- "青い目のケンシロウ"ジョシュ・バーネット
- 純プロ頂上対談！
  武藤敬司×ウルティモ・ドラゴン
- 猪木とは何か？
  アントン実兄・猪木快守

売り切れ寸前!!

no.57 表紙 高山善廣 '02.11 / 840yen

一瞬の11・24!!
高田延彦引退試合を大総括!!

- サップと地球規模のタイマン勝負!!
  高山善廣
- 新たなる"U"が始動!! 田村潔司
- 悪魔の書、再び！ ミスター高橋×大槻ケンヂ
- "北尾戦・セメントマッチの真実"
  ジョン・テンタ

no.58 表紙 武藤&船木 '03.01 / 880yen

新春特大号!!「明日、また
生きるぞ！」な対談の大連発!!

- 夢幻のファンタジー対談
  武藤敬司×船木誠勝
- Uスタイル対談 田村潔司×高阪剛
- Uインター座談会 宮戸×安生×鈴木健
- カルガリー師弟対談
  ミスターヒト×ハシフ・カーン



ターザン山本!&吉田豪の『格闘二人祭』に柴田勝頼がガチ乱入!!

どさくさにまぎれてGK、『紙プロ』初登場!

ここ最近は入れない客も出るほどの大人気イベントとなっている『ターザン山本!と吉田豪の格闘二人祭』。今回のゲストは今春に新イベントをブッ放つビッグマウスの上井文彦代表と、GKこと金沢克彦氏のビッグ2。さらに、イベント第一部には観客のみならず司会者&ゲスト陣もビックリ! あの柴田勝頼がガチンコ乱入だーーッ!!

構成/松澤チョロ　designed by nogu (Two three)

【ターザンの『ファイト』での柴田原稿について、『あれは書きすぎ』などと壇上で語りあっていると、その張本人が客席から雪崩れ込み、場内は騒然!】

柴田 初めまして、ターザンさん! 新日を一発で退団できなかった柴田です!

【場内、大爆笑&大拍手】

山本 ……… (突然の出来事に思いっきり固まってしまうターザン)。

豪 山本さんとは初対面ですか?

柴田 一回、両国でスレ違ったことがあるんですよ。覚えてますかね?

山本 いや、覚えてない! (キッパリ)。

【場内、大爆笑】

柴田 僕、まだ新弟子の頃で、ターザンさんのこと大嫌いだったんで。

豪 お嫌いなんですか?

柴田 いや、いまは全然。今日は天国も地獄も見てきたターザンさんに人生とは何かということを教えてもらおうかと。

山本 いやぁ~、こんなことになるとは予想もしてなかったね。

豪 何かあったら金沢さんが止めてくれるんで大丈夫です (笑)。

山本 (慌てて) いや、豪ちゃん! 会ってないから、こっちはいろいろと書いたり言えたりするんだって。

柴田 僕に変に厳しかったですよね? (ニヤッ)。

山本 いや、みんながこっちの方向に行くでしょ? 誰かが反対のことも言わなきゃダメでしょ。

柴田 でも、僕は嬉しかったですよ、2週にも渡って『ファイト』で気にかけていただいて。本当に光栄です。

山本 いや、あれは井上編集長が「書けッ!」ってけしかけるんですよ。

豪 なに、人のせいにしてるんですか (笑)。はい、これが問題の『ファイト』ですね (スライドで観客にターザンが書いた原稿を見せながら)「柴田は大きく取り上げるほどの選手じゃない」だそうです (笑)。

【場内、大爆笑】

豪 「UWF時代の前田とは次元が違う!」とも書いてますね (笑)。

あの原稿は井上編集長が「書け！」ってけしかけるんですよ（山本！）

GK　昨日、『ゴング』で座談会やったんだけど「柴田が前田になる可能性はある？」って山本さんに聞いたら、「なれない！」っていうから「なんで？」って聞いたら、「身体の大きさが違う」って。

山本　全く知らない！（笑）。

柴田　いや、自分は前田日明にはなれないですよ、柴田は柴田ですから。

【場内、大拍手】

豪　山本さんは柴田さんのこと全く知らないんですか？

山本　いや、全然知らないねぇ。とりあえず、新三銃士になったってことは知ってるけど、あの世代のことってよくわかんないじゃない？

豪　わかんないで、どうしてここまでダメ出ししてるんですか？（笑）。「辞め方がしょっぱい」とか散々言ってたじゃないですか。

山本　どうなんだろう。もう書いてしまったことだからね（かわいらしく）。

【場内、爆笑】

柴田　でも、こんなに言葉に瞬発力がある人はいないと思います。

GK　瞬発力というか無責任さがわかったでしょ？

山本　それだったら、中邑選手や棚橋選手より上ですよぉぉ！

豪　いまさら褒めたって無駄ですよ（笑）。

柴田　でも、今日はたぶん誰も知らないと思うんです、僕が来るの。誰にも言わないで来ちゃったんで。

山本　ホント、ビックリしましたよ！「あ、来ちゃったなぁ」と思って。

柴田　僕、いまフリーター状態なんで、暇過ぎて午前中練習して、夜はどうしようかなって思ってて。

山本　でも普通ね、レスラーは、こういったマイナーなイベントには来ないんだよ。やっぱりそういった意味では柴田選手には新しい時代の風を感じるね。

【場内、大爆笑】

山本　だってこんなとこに来るなんて、いままでにないタイプだよ。

豪　金沢さんは柴田さんの辞め際のゴタゴタについて何か言いたいことはないんですか？

GK　新日本批判ではなくて、柴田vs草間だって言ってるところが良かった。

豪　『ゴング』に出てましたけど、「草間さんと話していて思ったことがあるんです。ホントに書きますか？」って言って、何かの目に似てると言ってましたよね？

柴田　詐欺師の目をしてる！

【場内、大爆笑&大拍手】

GK　あの時のインタビューって、口から出ること言葉「詐欺」ばっかなんだもん（笑）。「詐欺」が流行語になりますよ。でも、僕はねぇ、草間さんは詐欺師というよりも、ただのミーハーというかファンだと思うんですよね。

山本　まぁ、そうだよねぇ。

GK　この間、札幌で蝶野選手が藤波さんを勧誘するという事件があったわけですよ。「ミスター新日本プロレス、藤波、一緒にやろう！」って言って。試合後にね、藤波さんは会場の奥でジーッと試合を観てて、そこでピンスポットが当たったわけですよ。そしたら、その後ろで、ヘラヘラ笑ってる草間さんが映ったんですね。これはやっぱ見逃せないでしょ（笑）。

柴田　G1の決勝のとき寝てましたよ。

豪　山本さんみたいですね（笑）。


ファイト
柴田は大きく取り上げるほどの選手じゃない
ターザンの問答無用
プロレス専門紙（誌）の表紙に疑問
新日プロの社内問題にすぎない柴田の"主張"
UWF時代の前田とは次元が違う！
ジャンル自体を問い直す強い意志と情熱があった前田
私ならピンスを表紙に

これが柴田乱入のきっかけとなったターザンの『ファイト』連載コラムだ。ターザンは２週に渡り「私が編集長だったら柴田問題は１行で終わらせていたかも」など、柴田に対して辛辣な意見を書き立てていた。しかし、いざ柴田を目の前にしたターザンはいつものように……

山本　（無視して）柴田選手は猪木さんには、ご挨拶したんですか？

柴田　はい。

豪　何か言われました？

柴田　「頑張れよ」と。「せっかくいい旅したんだから、いまの新日本みたいに、小さくなるな」って。

山本　それは傑作ですよぉぉぉ！

豪　どうですか、山本さん？　柴田さんと接してみて。

山本　面白いよ。ちょうどいま確信を持ったね。僕が彼を扱った場合は、丸っきり違うアレになると思う。

豪　なんですか、アレって？　長州さんじゃないんですから（笑）。

山本　いや、売り出し方とか、誌面の展開の仕方とかパッと浮かんだんだよね。

豪　具体的に言うとどういう感じで？

山本　いま展開してる売り方より、３倍はいい売り方するね！

豪　具体的に方法を言ってくださいよ。具体的な倍数じゃなくて（笑）。

【場内、爆笑】

山本　具体的に言う前に、ちゃんと頭の中にあるの！　それが普通出てくるの！

豪　全く出てないですから！（笑）。

山本　いや、僕は天才だから。僕は彼の良さとか、人となりとか、広がりあるように、かわいい感じで……。

豪　（遮って）かわいい感じで売り出すんですか？

山本　そうですよぉ。時代に反抗した人は天龍さんにしろ長州さんにしろ、みんなかわいかったじゃない？　彼にも、どっかでそういう雰囲気があるわけですよ。

豪　よくわかんないです。天才の考えることは（笑）。

山本　（小声で）天才は理解されないんだよ。

豪　たぶん、みんな理解してないと思います（笑）。

GK　今日『東スポ』見たら、長州力とやりたいという言葉が出てたけど、本当にやりたいですか？

柴田　やりたいですね。なんだかんだ言って、やったことないし、関わったこともないんで、関わっときたいなと。

山本　これまで接点はなかったの？

柴田　一回誰かが（長州の）付き人やってる時にケガで休んだんですよ。代わりに一瞬だけ付き人やったんですよ。で、その前に、僕ちょっと名古屋の方で●●●●の人と問題を起こしてて。

豪　問題起こしたんですか。ブッ飛ばしちゃったとか？（笑）。

柴田　ブッ飛ばしたというか、まあそんな感じだったんですけど、（長州に）電話で凄い怒られてて、次の日、大阪だったんですよ。で、着替えを持って部屋に行く時、首のストレッチして殴られる覚悟で行ったんですけど、凄い普通だったんで。話し合いが終わってホテルで飯食ってる時にいきなり（長州口調で）「お前、オレとっつきにくいから」って言われて。

【場内、大爆笑&大拍手】

柴田　それで、僕も嘘つきたくなかったんで「はい。そうですね」って言ったんですよ。そしたら、（またもや長州口調で）「おっ、そっか」って（笑）。

【場内、大爆笑&大拍手】

柴田　（長州とは）そんぐらいッスかね。

豪　モノマネうまいですね（笑）。どうですか、山本さん。友達になれそうですか？

山本　僕は好きですよ、このキャラ。

豪　柴田さんはいかがです？

柴田　薄々、僕のこと好きなんじゃないかなと。じゃなきゃ、２週にも渡って書かないと思うんで。

豪　それに「柴田を、こんなに大きく扱うことない」って言いながら大きく扱ってるじゃないですか？（笑）。

柴田　それも愛情の裏返しだと思うんですよ（笑）。

山本　そうそう。豪ちゃん、やっぱり、それは嫉妬だよ。こういう時代に、新日本に対してガツンと言う選手が新しく出てきたわけでしょ。でも僕は関われないから。ホントは関わりたいって部分もあるけど。昔だったら、鈴木みのるとか船木とか支持したわけでしょ。そういった意味で、心情的に反対を押すっていうとこがあるからね。

GK　周りが持ち上げているから、逆を行くってことですね。

山本　そうそう。（突然）あ、いま柴田選手を見てわかったことがあるよ。

豪　え、何がわかったんですか？

山本　僕が頭の中に描いている、いろんなパターンの選手とか青年とか青春とか固定したイメージがあるわけですよ。それが彼はいままで見てきた、その中のパターンに入らない。ある意味、新種だよね。新しい。そこが凄く、いまいいなと思った。新種が誕生しているというね。

柴田　ありがとうございます！

山本　僕だったらそういう売り方をするけどね。



ヒョードル級、ノゲイラ級が送り込まれる？ 望むところです！（柴田）

豪 だから、具体的には？

山本 う～ん。それはね、喋っている言語の響きと抑揚とか……。

豪 ひ、響きと抑揚!?（笑）。

山本 （無視して）言葉の端々とか語尾とか、雰囲気全体とかが新種というかね。

豪 語尾と雰囲気が新種なんですか!?（笑）。

山本 これはハッキリ言ってアートだから（キッパリ）。



今回のイベントについて『ゴング』で原稿を書いていたターザン。「このイベントは告知はもちろん、あったことさえ専門誌では、何も取り上げられなかった」だって。そんなバカな！

【場内、大爆笑】

豪 全然わかんないんですけど、ホントにまともなこと言ってんだけどね。

山本 （真顔で）え、わかんない？ 俺、まともなこと言ってんだけどね。

GK 山本さん、柴田の試合って見たことあるんですか？

山本 武蔵さんとやったでしょ？

豪 それはみんな知ってますよ！（笑）。

山本 それ以外だったら……前座でやってるとこ見たよ。

豪 だから、いつの話してるんですか（笑）。

★

【ここで、デビュー当時の坂田亘がバックステージで前田日明にボコボコにされる有名裏ビデオを上映。その戦慄ぶりに場内は騒然】

豪 こういう感じで、柴田さんはこれから前田さんと一緒にやっていくことになりそうですけど、感想は？（笑）。

柴田 ……怖いッスね。

豪 新日本って、ああいうことはありました？

柴田 さすがに、あそこまでは……。

豪 上井さんの新組織で、前田さんがああいうモードで入ってきたらどうします？ それが柴田さんに向けられるか、他の選手に向けられるかはわかんないですけど（笑）。

柴田 いやでも確率高いんじゃないですか、僕（笑）。

【場内、大爆笑】

豪 それはそれで見たいですけどね（笑）。

柴田 いや、見せたくないですね（笑）。

【場内、大爆笑】

GK でも、前田さんはね、柴田選手のことすっごい買ってるというか、気に入っちゃってるみたいですよ。柴田選手が上井さんのところに上がるんであれば世界中から選手を探してくるって言ってましたから。

豪 ホントにとんでもない強敵を連れてきそうですね。

GK ヒョードル級、ノゲイラ級が次々と送り込まれるかもしれないですよ。

柴田 （胸を張って）望むところです！

【場内、大拍手】

GK あとね、柴田選手が新日本を退団した時に上井さんの携帯が鳴って、誰かと思ったら前田さんなんです。「上井さん、大変だ、柴田が辞めた！」って言ったらしんですよ。「知ってるよ！」って話なんだけど（笑）。

豪 当然知ってますよね（笑）。

GK そういう意味では、柴田選手は、完全に前田日明の眼中にしっかり入ってますよね。

山本 しかし、よく来てくれたよねぇ。今日のビックサプライズだよ！

柴田 あの～、WWEを観て、サプライズって大事だなぁと思って。

山本 いやぁ～、今日は僕の予想を遙かに超えてましたよ！

GK 山本さんは基本的に選手とあんまりお付き合いがないので、選手が来ると、はしゃいじゃうんですよね（笑）。

【場内、爆笑】

豪 急に下手な褒め方したりしますよね（笑）。

GK 柴田選手とかは、「今日、ゴングに行っていいですか？」とかってポッと来て、ボクらにとっては日常風景の中で柴田選手がいるわけであってね。山本さんの日常風景の中には、あんまり選手っていないですよね。だから選手が来るとハシャイじゃうっていうね。

山本 それは限定的な言い方で、この会ってないという飢餓感が想像力を高めるんだよね。その方がファンに言葉で届くわけですよぉぉ！

豪 届いてるのかなぁ？

【場内、爆笑】

山本 でも、今日会って感じた、いろいろなことで、要するに柴田選手に対する僕の中のイメージがね、ぼあ～ッと大きくなったんですよ。

豪 はい？ だから、もっと具体的に言ってくださいよ！（笑）。

山本 （逆ギレして）豪ちゃんは頭おかしいよぉぉぉ！

【場内、大爆笑&大拍手】

★

GK でもね、山本さんのいいとこは、柴田選手とは凄い年齢差あるでしょ。それでもさっき「柴田さん」って呼んだでしょ。昔、鈴木みのるが新日本辞めてUWF行った時、山本さんがインタビューしてね。その時「鈴木さん」って言ってるんですよね。そこにレスラーに対する尊敬があるというか。たぶん、柴田選手も感じてることだと思うけど、よく選手と仲良くなると呼び捨てにしたりとか、ああいう雰囲気、凄い嫌なの。やっぱり年下であっても、「何々選手」って言ってあげなきゃいけない。年上だったりキャリアが長い選手には「何々さん」って言ってあげなきゃいけない。

山本 僕、それは間違ったことない。

柴田 それは一番大事なところ、レスラーに対してのリスペクトがあると思う。

GK それがない人間にして、柴田選手は「カチ食らわすぞ！」ってなるわけですよ。社員であろうと誰であろうと。

豪 いままで相当、カチ食らわしてきたんですか？

柴田 いや、食らわしてきてなくても、食らわしたことになっちゃうんですよね。そういう噂が流れやすいから。殴ってないのに「殴るな」とか言われたり。



柴田が乱入しているとも知らずに、会場控室に現れた第二部のゲストビッグマウス代表の上井さん。モニターに映った柴田の姿を発見すると「なんで、柴田がいるの!?」と目を白黒。「なんか、壇上に上がる前に疲れちゃったよ」と言っていた上井さんだったが、アントンや前田日明のここだけの話を次々と披露してくれた

豪 でも、胸ぐら掴むくらいはしてるんですよね？

柴田 まあ、胸ぐらぐらいは。

【場内、爆笑&拍手】

豪 ホント、前田さんと気が合いそうですよね（笑）。合うと思いません？

柴田 合うと思います。

【場内、拍手】

豪 山本さん、どうですか、柴田さんは？

山本 もう言うことなしだよぉ！

豪 最後、柴田さんに具体的に何か言うことは？

山本 大好きになったよぉぉぉ！

豪 いままでは違ったんですね？

山本 いや、いままでは、好きになる機会がなかっただけでね（ニコッ）。

豪 ホント、二人にはこれから友情を築いていただきたいと思います。

山本 今日は、どうもありがとーッ！

【柴田とガッチリ握手】

『格闘二人祭』
2月9日
新宿
ロフトプラスワン

伝説
遂に



璞名館代表師範

武内 惣

Takeutchi Osamu

前田日明のプロレス界復帰のキーパーソンと言われているのが璞名館代表師範の武内惣氏である。今回、名古屋の璞名館を訪れ、武内氏に前田との関係から、教え子・中嶋勝彦、さらにはミスター高橋やターザンとの意外な交友関係まで語ってもらった。

聞き手＆撮影／松澤チョロ　designed by bun-chan（Two Three）

知られざる事実が続々発覚!!

前田日明、マット界復帰のキーパーソンを直撃！



特集 前田日明 復活

ヒョー…
込まれ…

豪　だから、

山本　う～ん

語の響きと抑

豪　ひ、響き

山本　（無視）

とか、雰囲気

豪　語尾と雰

（笑）。

山本　これは

ら（キッパリ



今回のイベントについて『ゴング』で原稿を書いていたターザン。「このイベントは告知はもちろん、あったことさえ専門誌では、何も取り上げられなかった」だって。そんなバカな！

——今回、上井さんと前田さんの仲介役となった武内館長に、いろいろとお話を聞かせていただければと思ってます。

武内　いや、僕はそんな大したことはしてないんですけどね（苦笑）。

——でも、上井さんと前田さんの関係は、ここ数年は行き違いがあって距離があったみたいですからね。

武内　そうみたいですね。その辺を順序だてて説明すると、去年の5月3日に新日のドーム大会がありましたよね？　勝彦がライガーさんとやったんですけど、その時に上井さんを紹介していただいて名刺交換をしたんですよ。その後に、ウチの道場に打撃志望、K－1志望の選手がいるので、その子の話をして、上井さんに相談に乗ってもらってたんですよ。

——上井さんは谷川さんと親交がありますからね。

武内　ですよね。その後に長州さんが両国に上がられましたよね。

——去年の10月9日ですね。

武内　で、「え～？　長州さん上がられたんだ」と思って驚いてたら、その後すぐ上井さんが辞められたと聞いたんですよ。

——長州さんを新日本に上げた責任を取ってというのもあるみたいですよね。

武内　それで連絡を入れて話をした時に、勝彦のことも「十年に1人の素材だ」とか、いろいろと褒めてもらって。その時に、たまたま前田さんの話が出たんですよ。「前田さんとも仲良くさせてもらってます」って話をしたら、「前田日明ほど純粋で、いい人間はいない」と。「いつでも日明のためだったら一肌脱ぐし、一緒にやりたいんだ」ということを仰ってたんです。

——それだったら一度、話す場を設けてみようと？

武内　そうですね。「いまの話、前田さんにしてもいいですか？」って言ったら上井さんは「是非、館長、言ってください」って。それで前田さんに上井さんの想いをぶつけていたら、前田さんも「いいですよ」っていう二つ返事で。

——スムーズに話は進んだわけですね。

武内　ボタンの掛け違いがあっただけなんでしょうね。やっぱり、旧UWFの頃に苦楽を共にしてきた仲間じゃないですか。実際、会ったら普通でしたからね。だから、ホントは自分が間に入ったらいけないんですよね。「仲介役」とか「橋渡し役」とかいろいろと書かれてますけど、そんな大したことはしてないですから、そんな話すこともないですよ（苦笑）。

——いやいや、中嶋君の師匠でもあり、前田さんとも接点がある武内館長ってどんな人なんだ？　と興味を持ってる人はたくさんいますからね。

武内　僕はミスター・ヒトさんとかみたいに強烈なネタとか全然ないですから（笑）。

——ヒトさんのような危ない話はなくてもオッケーですんで（笑）。もともと、武内館長は新日本プロレスに所属していたことがあるんですよね。

武内　そうですね。ホント僅かながらですけど（苦笑）。

——やっぱり、猪木さんに憧れて新日本を目指したっていう感じなんでしょうか？

武内　猪木さんに憧れてたのは高校1年ぐらいまでで。その後、維新軍になってからは長州力一本になって。で、86年になって、前田さんたちが新日本に戻ってきたじゃないですか。その頃から前田日明になりましたね。僕が好きになった日本人プロレスラーは、その3人だけです。

——まさに、ここ最近、上井さんが新しい大会に引っ張り出したい人として名前を挙げた3人ですね。

武内　他にも興味深い人はいますよ。だけど、自分の中で魂を揺さぶられたのは、その3人ですね。その中でも一番長いのが前田さんかな。二十歳からだから約19年。前田さんはマイ・ヒーローですね。

——そんな前田さんとも、いまは親しい武内館長ですが、プロレスラーになろうと思ったのはいつぐらいからなんですか？

武内　僕たち子供の時に劇画のタイガーマスクがあったじゃないですか？　それを観てプロレスラーになりたいなぁって思って。それから猪木さんの全盛期に入って、もうプロレスしかないなって。まあ、幸いにも小学校6年生で172センチぐらいありましたからね。足も中一で29センチぐらいの靴を履いてたんで、あ～、これはなるしかないなって思って。ただね、もっとね、2メーターぐらいになるかなと思ってたんですけどね（笑）。

——このまま順調に伸びていけば2メートルはいくだろうと（笑）。

武内　そうそうそう（笑）。結局、実寸で182で止まっちゃったけど。中二ぐらいから伸びなくなっちゃってね。

——実際に行動に移したのは高校卒業後ですか？

武内　高校二年生の時に旧UWFが旗揚げになったんですよ。それで新間寿さんの親戚で、例の学歴問題になった新間正次さんっていたじゃないですか？

——バラエティー番組とかにも出てましたよね（笑）。

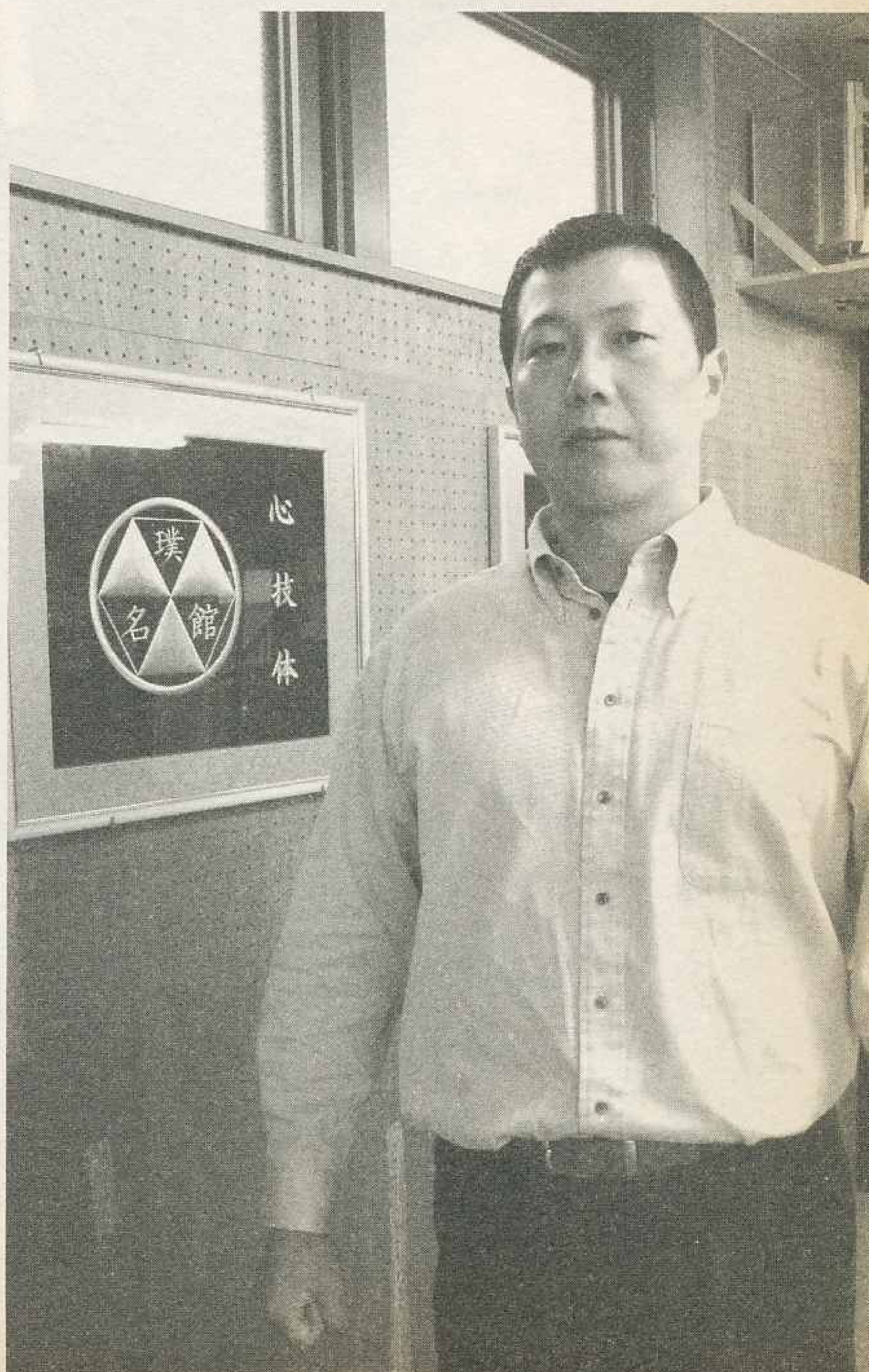
武内　あの方の後援をやってる方が地元に見えて、その方がねプロレスのみならず、お相撲の後援会の偉い人だったり、あと議員さんとのパイプもある方で。その方に間を取り持っていただいて、ホントは新日に行きたかったんですけど、新興のUWFっていう話が出て、そこに書類を送ったんだけど、なかなか梨の礫で。できたばかりの時って、例の猪木さんが来る来ないとかあって揉めたじゃないですか。ちょうど、そういう時期で、なかなかラチがあかなかったんですよ。それで、間を取り持っていただいた方に「これは新日本か全日本しかないぞ」って言われて、迷わず新日の方を選んだんです。

——学生時代は何か格闘技をやられていたんですか？

武内　まず、背を大きくしたくて、高一の時はバスケットをやって、二年から柔道をやって。ただ、柔道やってる時に鎖骨を折って、それからは筋力トレーニングをずっとやってましたね。まったく『1・2の三四郎』の世界ですよ（笑）。

——世代的にはそうなりますよね（笑）。それで高校を卒業して、あらためて新日本の入門試験を受けるわけですよね。

武内　当時はね、年間300人とか400人の書類選考があって、道場の中に入



【たけうち・おさむ】1966年、愛知県江南市出身。幼少時代からアントンに憧れ身体を鍛え始める。高校卒業後、新日本練習生に。その後、剛柔流空手道で弐段を会得、さらにフルコンタクト空手にて参段を会得し支部長に任命される。平成7年に独立し空手及び総合格闘技道場を設立。道場開設10周年を機に日本空手道璞名館へと進化させる。http://www.go-web.jp/hakumei/



昨年10月に新日本を退社し、有限会社ビッグマウスを設立し、今春のプロレスイベント開催に向け動いていた上井文彦氏が1月22日、都内ホテルで記者会見を行った。会見には上井氏曰く「ビッグなビジネスパートナー」前田日明と共に武内氏も登場。3人並んでの会見となった。



れるのって10人ぐらいだったんですよね。

——いまと違って、その当時はかなり倍率が高かったんですよね。

武内　多かったと思いますよ。僕は84年の6月に野毛の道場で、山本小鉄さんに一対一のマンツーマンで体力テストをやっていただいて合格したんですよ。

——それはビップ待遇ですね。

武内　特別でしたね。例の議員さんの関係の紹介で行きましたからね。ただ、向こうも見てみないとわからないから、ブリッジやったりスクワットやったり柔軟やったりとか、いろんなのを1時間ぐらいやったら、「よし！　高校卒業したら来い」って言っていただいて。だから、僕にとっては山本小鉄さんは恩人ですね。

——同期というと、どの辺になるんですか？

武内　SWSで怪我をされた片山（明）さん。プロレスのリング屋さんをやってらしたヒヅメさんという方もいましたね。あとは、インディーでやってる大矢（剛功）さん。新日本を辞めてジャパンプロレスに移っちゃった山本さんって方もいました。それと向山さん。

——向山さんって、もしかして……。

武内　いまのチョコボール向井ですね。彼も同期ですね。

——実際、新日本にはどれぐらいいたんですか？

武内　僕はね、1週間足らずで辞めました。

——また、早かったですね（笑）。ズバリ原因は何だったんですか？

武内　自分はその頃、相撲からもスカウトが来てたんだけど、ちょうどね、プロレスに行く一ヶ月ぐらい前から、いまの家内と付き合いだしたんですよ。ちょうどバレンタインデーぐらいの時に（笑）。

——チョコレートをもらったと（笑）。

武内　はい。そういうのもあって、当時、子供だったもんですから、情があるというかね、未練が残ってたんですよ。

猪木さん、長州さん、前田さん。僕が好きになった日本人プロレスラーはその3人だけ

——も、もしかして、彼女が原因で辞めちゃったわけですか？（笑）。

武内　そうなんですよ。いまコイツを放っておいて東京にいていいのかなっていうのをマジメに考えちゃいましたね。

——東京に連れて行くっていうのは考えなかったんですか？

武内　それはできなかったですね。もう短大に行くのが決まってたし。

——武内館長の方も寮生活だし、新弟子ってことで自由もないでしょうし。

武内　そうですね。ある程度、付き合う期間があったりとか、逆に付き合ってなかったら、続けてたかもしれないですけど、それは何とも言えないですね。

——辞められた後は名古屋に戻られたんですか？

武内　そうですね。実家に戻ってきて、今度はまた相撲からの強烈なラブコールがありまして。

——それは東京の相撲部屋からですか？

武内　いや、埼玉ですね。そこは二ヶ月ぐらいいましたね。

——え？　彼女のために新日を辞めたのに、今度は相撲部屋に行ったんですか？

武内　後援者の人の顔を立てなくちゃいけなかったんで、嫌々行ってきましたね。いまだから言えるんだけど（笑）。

——もちろん、当時はそんなことは言えないでしょうからね。

武内　時期が来て「辞めます」って言ったら、その時は親方に凄く怒られましたね。「みんながお膳立てしてくれたのに辞めるのか？」とか。まあ、当時はホント子供でしたからね。

——現在は空手の指導を中心にやられてるということですけど、相撲の後に空手を始める形になるんですか？

武内　いや、相撲の後は、それこそ道路工事のアルバイトやったりね、設備屋のアルバイトやったりして、空手っていうより格闘技からは一切足を洗おうかなと思ってたんだけど、やっぱり半年ぐらいすると、もう疼いてきちゃうんですよ。それで、たまたま地元で剛柔流系の空手の団体があって、いまでもお付き合いしていただいてる先生なんですけど、その先生のところがちょうど道場を立ち上げたばっかりだったんですよ。そこへ19歳の時に入ったんですよね。

——プロレス入り前は柔道をやられていたということでしたけど、その後で空手を始めたわけですね。

武内　そうですね。

——プロレス団体に入団して、プロレスが嫌いになって辞めていく人も多いみたいですけど、武内館長的には辞めた理由は違うとはいえ、辞めた後、興味が薄れてきた部分はなかったんですか？

武内　いや、なくなってないですよね。ちょうどその頃、前田さんがキックをボンボンボンやってたじゃないですか？84年～85年というのは旧UWFの頃でしたから。だから、それで僕は空手をやろうと思ったんですよ。

——そこも前田さんの影響でしたか？

武内　『空手バカ一代』から入る人って多いじゃないですか？　僕の場合は、空手を始めたきっかけは前田日明だったんですよ。で、プロレスが好きなのは『1・2の三四郎』の影響で。ある意味、前田さんがいなかったら僕は空手をやってないかもしれないです。

——では、前田さんのいるUWFに入りたいという気持ちもあったわけですか？

武内　そうですね。やっぱり25歳ぐらいまではありましたね。新生UWFなんかは地方でビデオ鑑賞会みたいなのがあったんですけど、ああいうのに付き合ってる時の家内と行ったり。僕はいつも前田さんのUWFTシャツ着てましたからね（笑）。

——そうなんですか（笑）。その頃は新日とかより格闘系のUWFの方に興味が移っていったんですね。

武内　そうですね。最初に空手を始めた時もね、プロレスが一番でという感じだったんですよ。だけど、空手をずっとやっていく上において、アスリートっていう

武内敬
Takeutchi Osamu

今回のイベントについて『ゴング』で原稿を書いていたターザン。「このイベントは告知はもちろん、あったことさえ専門誌では、何も取り上げられなかった」だって。そんなバカな！

のかな、格闘家というか。そういう動きに段々変わってきて。僕はね、外人で好きだったのはアンドレ・ザ・ジャイアントだったんですよ。アンドレはデカくて力があって有無を言わせなかったでしょ？　ハンセンにしてもそうだし。外人では、そういうパワー系のレスラーが好きだったんですよ。ただ、そういう格闘技をやればやるほど、ゴッチさんが前に言ってましたよね。一番得意技は何だって聞かれて「コンディションだ」って。

――有名ですよね。

武内　僕は格闘技をやって、それを聞いてハッと思ったんですよ。力だけじゃないんだって。ただ、一つ自分の中で残念だったのが21の時にバイクに乗ってて車に跳ねられたことがあって、それから腰がずっとダメなんですよ。滑り症と分離症とで、怪我した後も放っておいたんですよ。それで、しばらくは大丈夫だったんだけど、24の時に出てしまってね。

――そういうのもあって、コンディション的に現役として格闘技をやるのは難しいかなという感じだったんですか？

武内　ですね。ただ、25ぐらいまでは、正直ＵＷＦに入りたいなと思ってましたね。そうこうしてたら、何年か後に今度はＵＦＣが出てきたじゃないですか？　僕が27ぐらいの時かな。ＵＦＣとかも興味がありましたね。

――パンクラスとかも同じぐらいにできたわけですけど。

武内　パンクラスはね、僕はあんまり興味が沸かなかったんですよ。

――無意識で前田イズムが注入されてたんでしょうね（笑）。

武内　どうなんでしょうかねぇ。別に誰が嫌いとか云々はまったくないんですけどね。好みの問題なんでしょうけど。僕は新日系をずっと見てて、で、そういう流れの団体は見るけど、ＮＯＡＨとかは一回も見ないもんね。

――徹底してますね。『紙プロ』読者も昭和の新日本好きの人が多いですからね。

『紙プロ』でチューブの記事を読んで電話したらミスター高橋さんの弟が出たんです

武内　僕も『紙プロ』は創刊号から買ってますからね。もちろん、『前田日明とは何か？』とか『極真とは何か？』とかも全部持ってますし。

――ありがとうございます（笑）。その後は、空手の指導をされるわけですけど、プロレス界との接点が出てきたのは中嶋君が入ってきてからなんですか。

武内　最初の接点は勝彦ではなくて、2000年かな？　前田さんを少し知ってる空手の先生がいまして「前田日明に会いたいんですけど」って言ってたら「紹介してあげるよ」ってことで。それで挨拶してサインしてもらって。まあファンに毛の生えたようなもんですよね（笑）。

――まだその当時は、ファンとスターの関係だったんですね。

武内　ですよね。ただ、その頃から勝彦はリングスに送り込みたいと思ってたし、勝彦が入ってくる前は自分の子供をリングスに送り込みたいなと勝手に思ってたんですよ（笑）。

――自分が果たせなかった夢を子供たちに託そうと。

武内　それもありますよね。そしたら今度は2000年の同じ年にミスター高橋さんにお会いする機会があったんですよ。

――高橋さんとも会ってましたか？

武内　ミスター高橋さんってチューブトレーニングってやってるじゃないですか？

――ウチでも特集したことありますよ。

武内　見ました見ました。やっぱりね、重たい重量っていうのは腰に負担が掛かるからずっとできなかったんだけど、『紙プロ』さんでチューブトレーニングのことが出てて、欲しいなと思って電話をしたら、たまたまミスター高橋さんの弟さんが出たんですよ。

――ミスター高橋さんの弟が電話に（笑）。

武内　それで、「僕も昔、新日で」っていう話をしたら、ミスター高橋さんから折り返し電話をいただいたんですよ。それで話をして「一度会いたいですね」ってお話をいただいて、「是非お願いします！」って話をして、それから……前田さんと会った一ヶ月後ぐらいかな？　今度は高橋さんとお会いして、高橋さんとちょっと親しくなったんですよ。

――へぇ〜。チューブトレーニングが取り持つ縁なんですね。

武内　いわゆる●●本と言われる、あの本を書かれるずっと前ですよ（笑）。僕が、ちょっとだけ新日本にいて、いまは空手をやってるという話をしたら興味を持っていただいたんでしょうね。直接お電話をいただきましたから。

――最終的に中嶋君はＷＪに入ることになりましたけど、高橋さんが「凄い選手がいるから見てくれ」と中嶋君のことをいろんなところへ売り込んでるという噂がちょくちょく耳に入ってきてたんですよ。

武内　高橋さんには家に泊めていただいたりとか、こっちにも来ていただいたりして、いいお付き合いをさせていただいてて。で、勝彦もプロに行きたいと。その後、リングスがクローズしてしまったじゃないですか？　勝彦が入るのが決まってたんですけどね。

――前田さんからもオッケーが出てたんですよね。

武内　そうです。2001年に勝彦を前田さんのところに連れて行ったら前田さんがオッケーと言ってくださって。

――それは前もってビデオとかを見てもらってたりしたんですか？

武内　いや、見てないです。前田さんにはそれらしい話はしてたんだけど……僕はリングスがある度に行ってたんですよ。東京とかであっても。

――前田さんはどういう反応だったんですか？

武内　まだ勝彦は中学生だったんで、海のモノとも山のモノともわからないじゃないですか。でも、勝彦を実際に連れて行ったら、前田さんが見て「わかりました。入れます」って言ってくれたんですよ。そしたら2002年の2月にクローズしてしまって、連絡もなくて困ってたんですよ。で、2002年の3月にゼロワンの橋本さんと接点ができまして、「見たい」と。だけど、本人が見ずに大谷選手とか高岩選手が見て、テストをやると言われたものですから。やっぱり団体のトップに見てもらわないと思って断ったんですよ。僕は。

――団体のトップに見てもらった方が話も早いでしょうからね。

武内　ですよね。それでゼロワンも難しいなぁって思ってたら、今度は全日の話



意外や意外、なんと新日本プロレス練習生時代に同期だったという武内氏とチョコボール向井。さらに、現在、チョコさんと同じくIWA JAPANマットで活躍する大矢剛功も武内氏と同期になるという。VIVA同期！

も聞きたいなということで話をさせてもらったのが営業部長をやっていらっしゃる高橋英樹さん。あの方に言ったら気よく武藤さんをつないでいただいたんだけど、武藤さんは勝彦にまったく興味を示さない感じで。

——やっぱり身体が小さいからですかね。馬場さん的な考えで（笑）。

武内 そうですね。「ちっちゃいのは金儲からないよ」って言って。

——武藤さんらしいですね（笑）。

武内 だけど、見たいから決めた日に来てくれと言われたんですけど、それも蹴ったんです。自分としては十把一絡げにされるのが嫌だったから。

——武内館長的にも、それだけ中嶋君の素材を買っていたんですね。

武内 全然モノが違うでしょ。

——本人も家庭環境が複雑で、お母さんに楽をさせたいってことでプロになりたいっていう願望があったみたいですからね。

武内 そうなんですよね。そういう意味でプロ志向は最初っから強かったですよね。僕の方でだいぶ感化してきたのもあるんだけど（笑）。でもね、やっぱりちっちゃかったんですよ。中一の頃でも40キロぐらいだったんですよ。松井派で優勝した時も42キロぐらいで。それで、小学校6年生の時にも家庭内でいろいろあって、土日とかは家に呼んでご飯食べさせて、プロテイン飲ませて一年間で10キロずつデカくなって、中学校の夏休みで72キロまでいったんですよ。だから、2年半で30キロ太ったんですよ。一番良かったのは体脂肪5・8%でしたから。

——それは凄いですよね。無理矢理太らせたってわけじゃないんですね。

武内 もちろん。普通、身体もちっちゃくて、どうなるかわからない選手はそんなに手をかけないじゃないですか。でも、自分の自負として、海のモノとも山のモノともわからない状態から可能性を信じて育てて、ここまで大きくなってくれたっていうのは、やっぱり嬉しいですよね。

——中嶋君本人の希望もリングス入団だったんですか？

武内 勝彦も「リングスに入りたい」って言ってましたね。でも中一ぐらいの時は「K－1に行ってチャンピオンになりたい」って言ってたんですよ。身体的にはどうかなって思ってましたけど。

——まだ、いまみたいにK－1MAXはなかった時ですからね。

武内 だから、どうかなぁって思ったのと、あとは総合の方が向いてるんじゃないかなって思ったんですよね。だから、総合の方向へ連れて行った方がいいかなって思ってたら、いきなり長州さんからお声が掛かったんですよ。

——それは驚いたでしょうね。

武内 ええ。長州さんから話がある前は僕の感性で選択肢の中には二つがあって、ゼロワンさんか全日さんかどっちかだなっていうのがあったんですよ。あと、この業界はどうなるかわからないから、まず食べさせていくっていうことであれば、どっちかかなって思ったのと、自分の中で大きかったのは全日にはカシンさんがいたじゃないですか？ 石沢さんはシュートの力があるから、全日本で教えてもらうといいかなとかね。ゼロワン関係だったら、小川選手とか村上選手が上がってたじゃないですか？

——一時はUFOとしてゼロワンを主戦場にしてましたからね。

武内 横井選手とかも出てましたし。そういう頭が僕の中にちょっとあったんですよ。そう思ってたんですけどなかなかうまくいかなくて、そうこうしてたら長州さんの方から直接オファーがあったと。

——どういうルートでお話が来たんですか？

武内 まあ、いまだから言えるけど……。

——たしか、ミスター高橋さんが絡んでるんですよね。

武内 そうなんですよ。詳しい裏事情はあれなんだけど、まあ知ってる人と知ってる人が知り合い同士でっていう感じで。

——長州さんは一回見てみたいという話だったんですか？

武内 話をしてみたいとかじゃなくて、「欲しい」と。

——また単刀直入ですね（笑）。

武内 『ゴング』とかで言ってたじゃないですか？ 「凄いヤツがいる」って。

——入団会見の時もそうでしたけど、ベタ褒めでしたからね。

武内 あれはホントの話ですからね。僕は長州さんが新日をやめるとも思わなかったし、勝彦に「来ないか」って声をかけていただけるなんて思ってもいなかったから。だから自分で言うのもなんだけど、勝彦の育ての親が自分ならね、世の中に出してもらった恩人は長州さんですよ。

——残念ながらWJはなくなってしまいましたが、そういう部分では長州さんに感謝していると。

武内 こんな恩人いないと思いますよ。

——その後、中嶋君は、WJを離れて、健介ファミリーとして活躍して、結果的には昨年のプロレス大賞の新人賞を受賞したわけですけど、それぐらいはやって当然という感じですか？

武内 それに関してはコメントすることは、ただ頑張れということですね。

——では、今後の中嶋君にはどのような



リングス時代、年末の恒例行事となっていたのがファン参加で行われていた前田道場前での餅つき大会。都内近郊の興行だけでなく、餅つき大会にも名古屋から足を運んでいたという武内氏。角度のせいもあるが前田と並んでも遜色のない立派な体格である。

勝彦、全日はどうかなって思ったけど、武藤さんが「ちっちゃいのは金儲からないよ」って

武内惣
Takeuchi Osamu

今回のイベントについて『ゴング』で原稿を書いていたターザン。「このイベントは告知はもちろん、あったことさえ専門誌では、何も取り上げられなかった」だって！ そんなバカな！

活躍を期待してます？

武内　期待というより、ただ頑張れということですね。

――お気持ちは察しました（笑）。

武内　まあ自分が信じた道をいってるからいいんじゃないですかね。自分としては、あまり視野に入っていないというか。僕は昭和の新日で育ってきたし、猪木さんが言ってたとおりプロレスラーというのは最強だというイメージがありますんで。最強というのは、やっぱり最強の練習をして、最強の相手と闘って打ち勝っていくっていうことだから、当然セメントに強くなくちゃいけない。で、僕が好きになった選手は、やっぱりセメントが強い選手だと思うんですよね。

――猪木、長州、前田と、武内館長の好きな選手は、みんな強いと言われている選手ですよね。

武内　誰もが認める実力者じゃないですか？　だから、去年の6月に格闘術セミナーでウチの道場に前田さんに来ていただいた時にも、いまやらなきゃいけない練習は何なんだってことを盛んに勝彦にアドバイスしてくれてたんですよ。だから、僕の中ではそれがすべてなんですよ。いまやるべきこと、いまやるべき練習っていうのを考えた時に……、まあ自分から何も言うことはないですよ。

――わかりました。個人的には中嶋君の格闘技戦も後々見たいところですけど、北斗さんはプロレスに専念させたいって言ってますからね。

武内　だけど、それを本人が望んでるならいいんじゃないですか？　自分としては、それに対して何もコメントすることはありません。

――……。先ほども言ってましたけど、プロレスラーは最強でなきゃならないということでしたけど、その辺は上井さんの考えと共通する部分はあるんですね。

武内　やっぱり強い選手じゃないとリングに上がっちゃダメでしょう。上井さんはもちろん、この間、金沢（克彦）さんと話してても感じたんだけど、昭和の新日とかで育ってきた人って、ほとんど考えは一緒ですもんね。

――そうでしょうね。

武内　上井さんの考えてるプロレス観っていうのは自分も一緒ですよ。ただね、ゴールデンタイムからプロレス中継が消えたのは80年の後半ぐらいでしょ。それから僕は新日を見なくなったんですよ。それ以前はバチバチ、ビンタ入れ合ったりしてたじゃないですか？　ゼロワンで組長と荒川さんと栗栖さんとかの試合があったんですけど、もう60近い人たちがしばき合いをやってましたからね。

――組長なんかは、最近でもキレてるんじゃないかと思うような激しい試合をしますからね。

武内　ああいう試合が当時の新日本ってよくあったんですよね。だから、これは誰がいいとか誰が悪いではなくて、僕は昭和の新日でそれをすり込まれてるもんですから、頭の中で。で、タイガーマスクの佐山さんにしても実力があった上でやってたわけじゃないですか？

――荒川さんや組長も、いわゆるひょーきんプロレスと言われるような試合もしますけど、裏に回った時の強さっていうのは定評がありますからね。

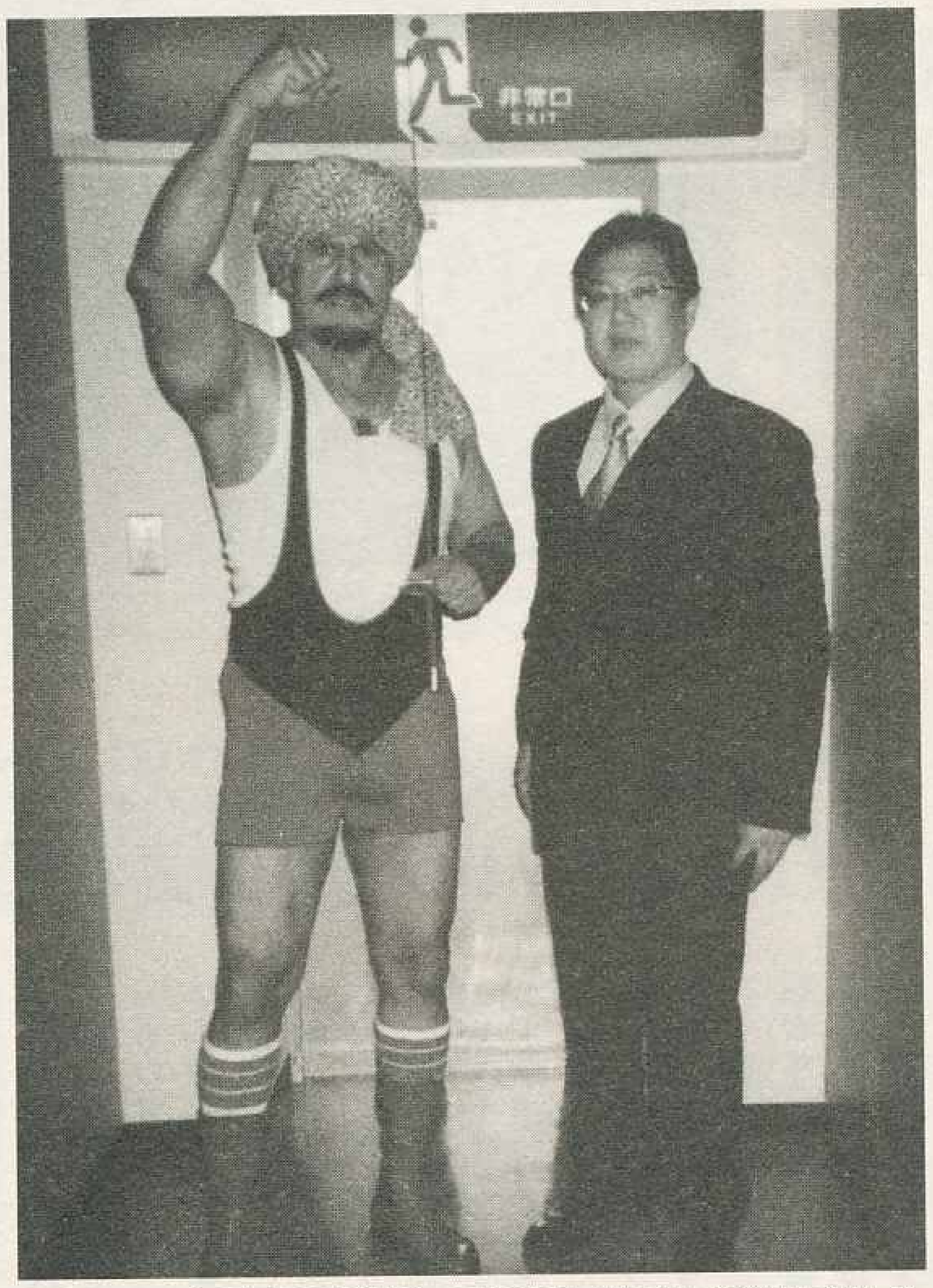
武内　そうですよ。ベンチ200何十キロ上げたり、常人ではできないじゃないですか？　ああいう人たちがセメントでゴツゴツと頭突きの打ち合いをやってるわけですよ。そういう選手たちは僕たちからすると雲の上の存在というか、「うわっ凄いなぁ」って単純に感じますよね。ただ、いまはレスラーでも身体がそんなに大きくなかったりしますよね。

――武内館長が実寸で182センチということですけど、それより大きいレスラーって意外と少ないですからね。

武内　182センチで100キロ近くある人間からすると、僕より大きいレスラーって何人いるのって話でしょ。自分が直接面識があるというか、お話をした中で大きいなって感じたのは、前田さんと武藤さん。あとはタイガー・ジェット・シン。

――昭和のレスラーは全体的に、ちゃんと大きいんですよね（笑）。

武内　上田馬之助さんとかタイガー戸口さんとかキラー・カンさんとか、ホントにデカいじゃないですか。坂口さんなんかは桁外れに大きいし。そういうデカいレスラー見て、僕たちはワクワクしたから、やっぱり俺の身長では務まらないんだろうなって思って、実際、入ったら僕よりちっちゃいから「エッ!?」っと思いましたね。


実寸で182センチの武内氏が実際に会ってみて「デカイ」と感じたのが前田、武藤、そして写真のシン様。ピーターが間に入っての撮影だけに狂虎シン様もおとなしめだ

自分が直接合った中で、大きいなって感じたのは前田さん、武藤さん、あとはシン

――それは観客も感じてるでしょうね。

武内　あのね、昔、リングスのバックステージに入れていただいたことがあって、ちょうど行った時にコピィロフ、あとダン・スバーン。あとヴァレンタイン・オーフレイムが同じ空間にいるんですよ。もうね、猛獣の檻に入ったような感じでしたね（笑）。もうね、オーラが違うんですよ。やっぱりリングスに来てる外人選手って怖かったじゃないですか。

――近寄りがたい選手が多かったですよね。前田さんもそうでしたけど（笑）。

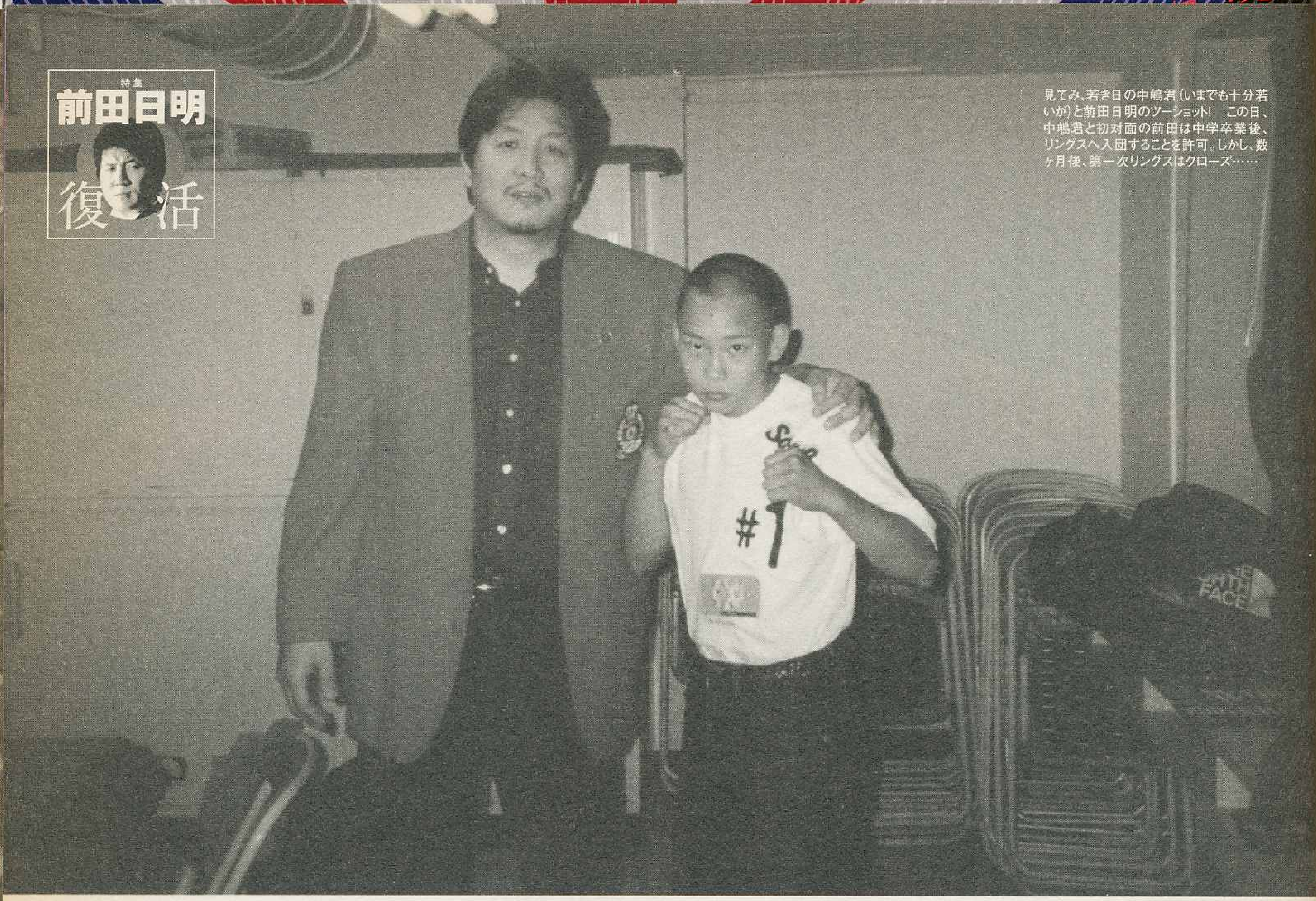
武内　で、日本の選手の中で近くに行った時に、「うわっ、凄いオーラだな」って思ったのは、やっぱり長州さん、前田さんですよ。そういうものを発散する選手がもっと欲しいですね。だから、上井プロレスでは、ああいう緊張感というか、怖い雰囲気を感じられるプロレスをしてもらいたいと思いますね。

――そういうプロレスなら見たいですね。そういえば、武内館長はターザン山本！さんとも接点があるんですよね？

武内　ターザン山本！さんをリングスの会場で見かけて「コイツなんで前田さんの悪口言ってたのにリングスに来てるのかな」って思って話しかけたら「お忍びで来てる」って言ってて、「格闘家の人？」って聞かれて「そうですよ」って話したのが接点ですね。

――お忍びで観戦中のターザンに話しかけたわけですか（笑）。

武内　それから何回かリングスの会場で話すようになって。まだ勝彦がどこにも手つかずで、前田さん以外は知らない状況の時にターザンさんがウチに遊びに来たんですよ。その時に、勝彦のことを見て「モノが違う」って思ったみたいですよ。



見てみ、若き日の中嶋君（いまでも十分若いが）と前田日明のツーショット！　この日、中嶋君と初対面の前田は中学卒業後、リングスへ入団することを許可。しかし、数ヶ月後、第一次リングスはクローズ……

――山本さんには中嶋君のマット界入りの相談とかもしてたんですか？

武内　いや、それはしてなかったですね。まあ、それこそ橋渡しとかパイプ役って一番できなさそうな人じゃないですか？（笑）。

――確かに（笑）。まとまるものもまとまらなくなりそうですよね。

武内　ただ、山本さんは影響力っていうか、歯に衣着せずというか、ファンを引きつける部分があるから、そういう面では、いろいろと勉強させてもらったりしましたよね。

――で、実際のところ、前田さんに近い武内さんから見て、山本さんと前田さんが和解する可能性はあるんですかね？　山本さんは、今回の前田さんの復活については、かなり大騒ぎしてますけど。

武内　結構、好意的にいろいろ書いてますよね。ただ、前田さんから見ると、いまでも山本さんのことは●●●●ですよ（笑）。

――あ、やっぱり（笑）。

武内　僕は話したんですよ。「ターザン山本！さんが前田さんのことを救世主だって言ってますよ」って。そしたら「何言ってんだ。寝言は寝て言え！」って言ってましたからね（笑）。

――出た！　前田語録（笑）。でも、山本さんの書いてることにも目を通したりしてるみたいですし、まったく無視してるわけじゃないんですよね。

武内　だと思いますよ。それに、プロレス界の情報なんかも、ある程度チェックしてるんじゃないですかね。もともとプロレスラー出身で格闘技に移っていった人ですけど、自分の故郷が悪くなっていって、それで「ザマアミロ！」って思ってる人なんかいないでしょ。やっぱり、なんとも思わないよと言いながらも、良くなって欲しいなっていうのは心の中であるでしょうね。それが今回、上井さんをサポートするというか、アドバイザーになった一つの要因じゃないですかね。

――逆にこのまま悪くなっていくのは見てられないからってことで、重い腰を上げたっていう部分もあるんでしょうね。

武内　まあ、その辺は本人ではないとわからないですけどね。

――最近、前田さんが言ってるのは科学的なトレーニングを取り入れたジムの設立に向けて動いていると。武内さんは何か聞いてます？

武内　それに関しては計画とかは全部できてるけど、なんて言ったってビッグプロジェクトだから、資金的なものもかかるわけだし、そういうものを一つずつ調整してる段階じゃないですかね。

――いまの武内館長と前田さんの関係性からいって、格闘技方面のことで動く場合は武内さんも具体的に何らかの形で協力したいとは思ってるんですよね。

武内　そうですね。ただ、自分は興行云々というのはおこがましくて考えてないんですよ。まあ、空手の大会とかね、アマチュアの参加料だけの大会はやっていきますよ。だけど、お客さんを集めて云々っていうのはやる気がないというか、まったく頭の中にないです。自分はフジマール会長みたいになりたいんですよ。

――シュート・ボクセの代表ですね。

武内　シウバとか素晴らしい選手を育てるっていう意味で、自分のところを虎の穴にしたいですよね。みんながやってないのに、小学生ぐらいから総合ができるベースを作ろうと思ってるんですよね。

――逆に小学生ぐらいからやらないと世界に通用する選手は作れないっていうのもあるんですか？

武内　前田さんは中学生ぐらいからやるのがベストだって言ってたんですけど、僕なんかはもっと早くやったらいいと思って、小学生からやってるんですよ。

――すでに実行に移してるわけですね。

武内　そうですね。もう10年近くやってますよね。やっぱり、日本人が外人に勝つためのキーワードがあって、それを徹底してやらせれば勝てると思いますよ。

――「それ」というと？

武内　いま、道場で子供たちに徹底して

Takeutchi Osamu

今回のイベントについて『ゴング』で原稿を書いていたターザン、「このイベントは告知はもちろん、あったことさえ専門誌では、何も取り上げられなかった」だって。そんなバカな!

特集 前田日明 復活

やらせてるんですけどね。前田さんが6月にウチの格闘術セミナーに来た時に「凄くいい練習してる」って褒めてくれたんですよ。それがキーワードですよ。それを続けていけば、おそらくロシア人とか欧米人に負けない選手が育つと思いますよ。

――具体的に、そのキーワードが何かはまだ言えないわけですね。

武内 まあ、簡単なことなんですけどね。それを徹底的にやるかどうかによって違ってくるんですよ。まだ表には出せないですけど。

――ここだけの話、ちょっと教えていただけませんでしょうか？（笑）。

武内 簡単な話ですけど、●●●●をやるかどうかなんですよ。やっぱりベースなんですよ。日本人ってどうしても技に走るでしょう。●●●●をいかにやっておくかなんですよ。だって、180センチで105キロの日本人っていったらいっぱいいるでしょ。

――まあ、いますよね。

武内 ヒョードル選手なんかでもベンチプレス300キロ上げるわけじゃないでしょ。ヴァンダレイ・シウバにしたってそうだけど、体格的には桁外れに大きいわけじゃないですよね。日本人でも十分対抗できる体格でしょ。で、何が違うかって言うと、根本的な●●●●が違うんですよ。それをウチは何年間もやってきてるんですよ。前田さんは、それを見てるから、この間ウチの新人交流戦に来ていただいた時も「武内さんのところの生徒は凄くバランスがいいね」って言ってくれて。「軸がぶれない」って褒めていただいたんですよ。ウチは●●●●を徹底的にやってますから。●●●●があれば、小手先の技術は要らないんです。オモプラッタがどうだとか、柔術にしかないような細かい技術を千持ってても、みんな駆使できないじゃないですか？

――実際、実戦で使う技なんて限られてますからね。

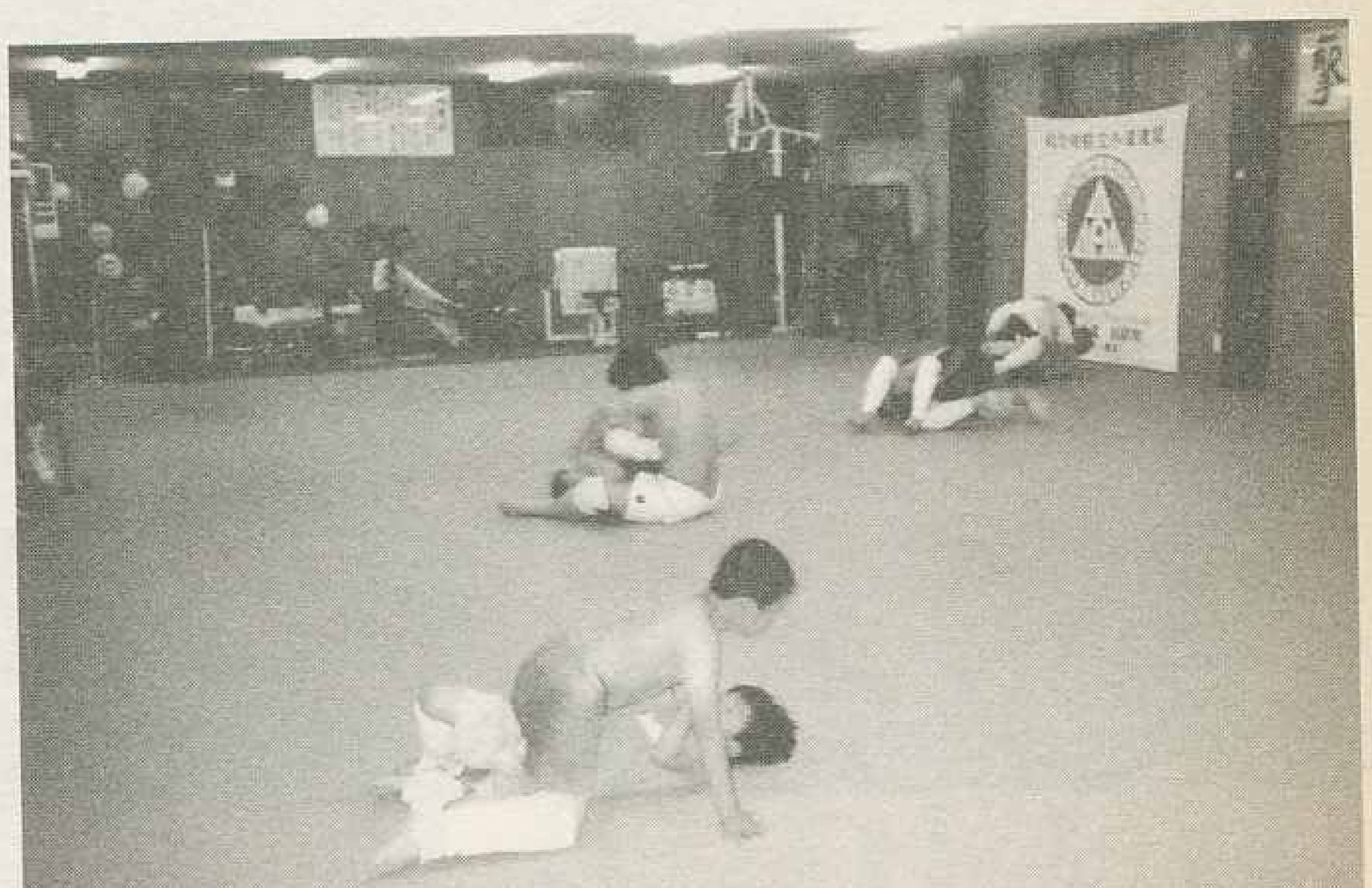
武内 そうなんですよ。だからウチでは●●●●をしっかりやってます。これって、まさしく新日でしょ？

――昭和の新日本では徹底してやってたみたいですからね。

武内 昭和のレスラーがやってきたことでしょ。道場をやるにあたって僕の頭にあったのは、新日でやった練習、相撲界でやらせてもらった練習、あと前田さんに教えていただいたこと、出稽古に行ったりして自分で研究したことっていうのをやることなんですよ。そういう部分で、フジマール会長みたいに、ああいう超一流の選手を育てられるような指導者になれたらいいなと思いますね。

――その結果、『PRIDE』であったり、K-1であったり、選手の特性によってはプロレスの方へも送り込んでみたいと考えているわけですね。

ウチが抱えている選手で
勝彦以上行くのは間違いなく2人います



こちらが璞名館での練習風景。下は小学生から●●●●を徹底的に練習し、未来の『PRIDE』、K-1戦士を目指しトレーニングに励んでいる。キミも第2の中嶋君を目指せ! ★本部道場 〒483-8042 愛知県江南市江森町東141番地 ★扶桑支部道場（扶桑町立総合体育館）〒480-0103 愛知県丹羽郡扶桑町大字柏森字平塚370【問い合わせ】TEL.0587-59-6448（本部道場）

武内 そうですね。『PRIDE』、K-1もそうですし、あとはやっぱり、上井さんのされる上井プロレスっていうんですかね。ストロング前田スタイルですかね？（笑）。

――それは緊張感ありそうですけど、やる方は大変でしょうね（笑）。

武内 だから、WWEに行きたい、K-1に行きたい、『PRIDE』に行きたい、プロレスをやりたい。そういうので、いろんな方向性を持つ選手を出したいなぁって思いますね。いまね、自分の一番親しい、空手と総合を岐阜の瑞浪市でやられている啓心館の鈴木館長のところに、柔道出身でメチャクチャ強い子がおるんです。いま高校二年生なんですけど、小型版イブラヒムみたいなんですよ。柔道は最高インターハイ5位だって言ってましたけど、彼はプロ志望で、本人はK-1に行きたいって言うんだけど、どう見ても総合向きなんですよ。

――K-1でも総合はやってますけど、K-1ルールがやりたいんですか？

武内 そうみたいですね。魔裟斗選手が好きみたいで。ある意味、隠し玉ですね。普通柔道の子ってずんぐりしてるじゃないですか。その子は80キロぐらいですけど、ホント、イブラヒムみたいな身体なんですよ。身長は180ないぐらいですけどメチャクチャカッコいいですよ。

――それは期待できそうですね。

武内 何年後かのミドル級の隠し玉になるんじゃないかなって。あとはストロング前田スタイルをやらせてもいいわけだから。ウチにも14歳から17歳ぐらいの子たちでいい選手がいるんですよ。だから、毎年1人とか、長くても2年に1人ずつ次期トップ候補を出していきますよ。いま当面は、ウチが抱えている選手で勝彦以上行くのは間違いなく2人いますから。

――えっ？すでに中嶋君以上の選手が2人もいるんですか!?

武内 そうですね。何年後かを楽しみにしててください。

――チラッと聞いたんですけど、武内館長の息子さんはWWE入りを狙っているとか（笑）。

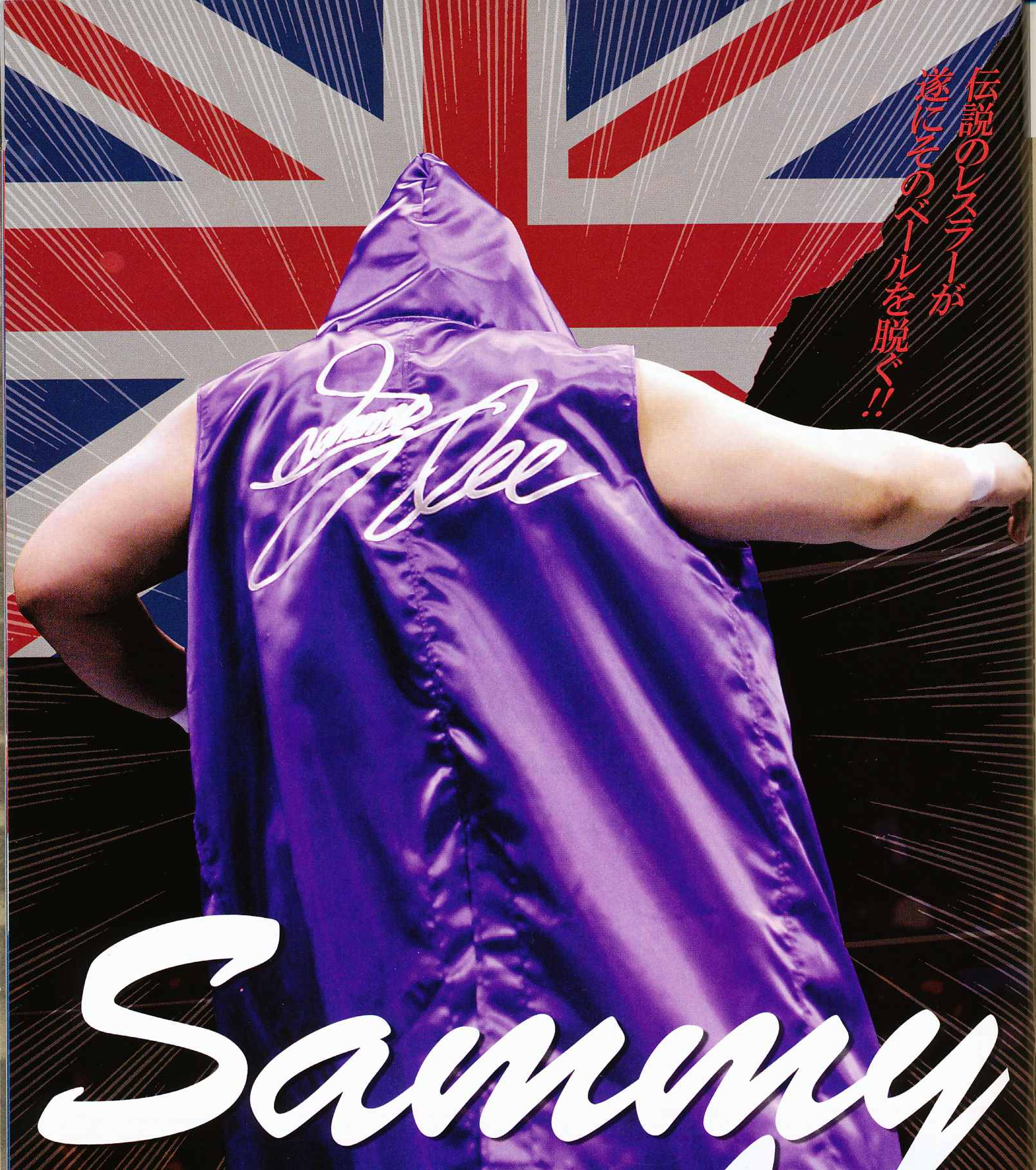
武内 ジョン・シナの大ファンなんですよ。この間の日本大会も見に行きましたしね。でもやっぱり、カート・アングルもオリンピックチャンピオンじゃないですか？ブロック・レスナーもそうだし、シュートも強くて、それで、しっかりしたパフォーマンスもできると。だから、上井さんからもアドバイスいただいてるし、前田さんからも言われてるんですけど、なんと言っても（シュートサインを作り）これが強くないと、エンターテインメントをやろうが、何をやろうがダメだってことですよ。腕立てとウエートトレーニングだけの練習をしてリングに上がるっていうのは失礼でしょ、やっぱり。

――それすらもできていない選手もリングに上がってる場合が多いですからね。

武内 ウチの道場なんか理想だと思いますよ。ウチより実績があったりとか、強いところもあるし、自分のところが一番だという気はサラサラないけど、ただ、やってる方向性っていうのは間違いじゃないなって思ってますから。前田さんからお墨付きもいただいてるし、あとは人とのつながりがあって、K-1に行きたいとか、ストロング前田プロレスがやりたいとか、WWEに行きたいとか、いろいろと幅が持てるじゃないですか？

――上井さん、前田さん、谷川さんとも接点があるわけですから、いろんな可能性があるでしょうね。武内館長の今後の活躍と秘密兵器の登場を楽しみにしてます！　今日はありがとうございました。

【2月16日／愛知県・『日本空手道璞名館』にて収録】



伝説のレスラーが遂にそのベールを脱ぐ!!

Sammy lee



※本人曰く、佐山聡皇帝とは別人です。

いまを去ること20数年前、イギリスでセンセーションを巻き起こした伝説の東洋人レスラーがいた。その名をサミー・リー。蝶のように舞い、蜂のように刺すその闘いぶりは、ヨーロッパのプロレス界で現在も神話として語り継がれている。わずか1年の活躍のあとその姿をくらましたサミーが、20数年の時を越え1・27『レジェンド・チャンピオンシップ』に突如降臨! 果たしてその知られざる過去とは? 本誌独占サミー・リーインタビュー、スタート!!

聞き手／中村カタブツ君（42歳） 構成／斎野もみじ 撮影／平工幸雄

design by さおとめの事務所

サミー・リー（イギリス）

――先日（1・27レジェンド・チャンピオンシップ）、ファン待望の日本デビューを果たしたばかりのサミー・リー選手を前にして胸が高鳴ってます！

サミー　そうなんですか？

――もちろんです！　なにしろ、イギリス・マット界のレジェンドであり、かねてから来日を熱望されていた方ですから。

サミー　あ、今日はそういうインタビューなんだ（笑）。では、イエス！　ミーは常に日本の市場を狙っていたわけですが、長年日本がどこだかわからなかったんですよォ。

――あ、〝ミー〟なんですね（笑）。

サミー　イエス！　サミーのミーね。ふふっ。

――変幻自在だなぁ（笑）。日本のことはサトル・サヤマ選手に聞いてはいなかったんですか？

サミー　え、次はサトル・サヤマぁ？　何か多重人格者扱いだなあ（苦笑）。いまのうちにサミー名義で手記でも書いておこうかなあ。「サトル・サヤマさん、こんにちわ」とかって（笑）。

――ぜひ、その手記は読みたいですね（笑）。まあ、ともかく新日本プロレスからメキシコに行ってサトル・サヤマとなり、その後、イギリスに渡ってサミー・リーが誕生したんですよね？

サミー　そう。ミーはメキシコに2年間いて、そのあとイギリスに1年間ぐらいいましたね。

――そのイギリス時代、サミー選手はパブの上に住んでたと聞いたんですが？

サミー　ウェイン・ブリッジっていう人がデッカいパブを持ってて、その3階に住んでたよね。1階がパブ、2階にはマットとちょっとしたウェイトの器具があって、個人的な練習場になっていたんですよ。

――随分と恵まれた環境だったんですね。

サミー　楽しかったなあ。平静というか、平穏でね。メキシコのときは凄く忙しくて、それは修行としてはいいんだろうけども、メキシコシティなんか騒音がひどいし、世界一殺人事件が多かったところだから危ないんだよね。あの頃、メキシコから生きて帰って来れるとは思わなかったから。だから、イギリスはホント天国だと思ったね。高速道路も凄くキレイで、人もいいし。それにもともとミーが使ってた英語がイギリス英語だったから、みんな丁寧な対応をしてくれたわけ。

――上品なサミー選手にはピッタリな土地だったと（笑）。

サミー　イエス！（笑）。

――確かイギリスはゴッチさんの紹介で行ったんですよね？

サミー　そう。日本でゴッチさんの付き人やってて凄く仲がよかったからね。ゴッチさんがメキシコに来たときに「お前はこんなとこにいちゃいけない。身体も壊してるし、一回俺のとこへ来い」って言われて、3ヶ月ぐらいゴッチさんのとこにいたんだよね。

――メキシコで激ヤセされたんですよね？

サミー　そうそう。だから、いまメキシコ行ったらちょうどいいよね（笑）。で、そのあとメキシコでお金貯めて、そこからピート・ロバーツとイギリスに行ったの。ゴッチさんもピートもホント恩人だよね。

――ではイギリスではピート・ロバーツさんと行動を共にしてたんですか？

サミー　うん。家族付き合いだったね。あとゴッチのボーイだっていうことで尊敬されて、どこに行っても通じたんだよ。

――ゴッチさんもそうですが、スネーク・ピットはやっぱり一目置かれてた存在だったんですか？

サミー　当時のスネーク・ピットはアマレスの道場になっちゃってたけど、その出身の人間はやっぱり全然違うよね。で、アメリカを発つときにゴッチさんがミーに〝リッキー・カワシ〟っていう名前までくれて。

――リッキー・カワシですか？（笑）。

サミー　〝リッキー〟はイギリス人が発音しやすくて、〝カワシ〟っていうレスラーが、

ファイトマネーも破格で、扱いはメイン級。ミーが出る会場はどこも満員だったよ。



昔イギリスにいたらしいんだよね。で、その名前をもってピートとプロモーターのところに行ったわけ。そしたらプロモーター側で用意してるはずのビザが、まったく用意されてなかったんだよ。

――ズサンですねえ。

サミー　そのお陰でヒースロー空港で2時間ぐらい待たされて、その間ピートが一生懸命掛け合ってるわけ。結局その日は観光ビザで何とかイギリスに入れたんだけど、もう少しで強制送還だったもんね（笑）。

――下手したらメキシコに逆戻りだったんですね（笑）。

サミー　次の日プロモーターのとこに行ったら、もの凄い剣幕でピートが怒ってるわけ。でもプロモーターは面倒臭そうな顔して「何でこんな日本人つれてくるんだよ」って感じなの。でもラッキーなことに事務所の隣が道場で、「何ができるか見せてみろよ」って言うから、サトル・サヤマのとき使ってたサマーソルト・キックとかバック・マーシャルとか見せてたら、急にプロモーターの目が変わりやがってさ！

――掌を返してきたと（笑）。

サミー　目をカッと見開いて、どもりながら「ちょちょ、ちょっと来てくれ」って、車でマーシャルアーツショップに連れて行かて、ブルース・リーが『死亡遊戯』で着てた黄色いトラックスーツと竹刀を持たされて、「これでリングにあがってくれ！」って（笑）。

――ビックリするぐらいゲンキンですねえ（笑）。

サミー　それで当時のファイトマネーとしては破格の契約で、いきなりメイン級になったんだから。試合も、向こうは5分5ラウンドの3本勝負なんだけど、1～2ラウンドで2本取ってお終いだったから、それも特別扱いだったよね。で、結局名前はサミー・リー（笑）。

――リッキー・カワシはどっかに行っちゃったと（笑）。

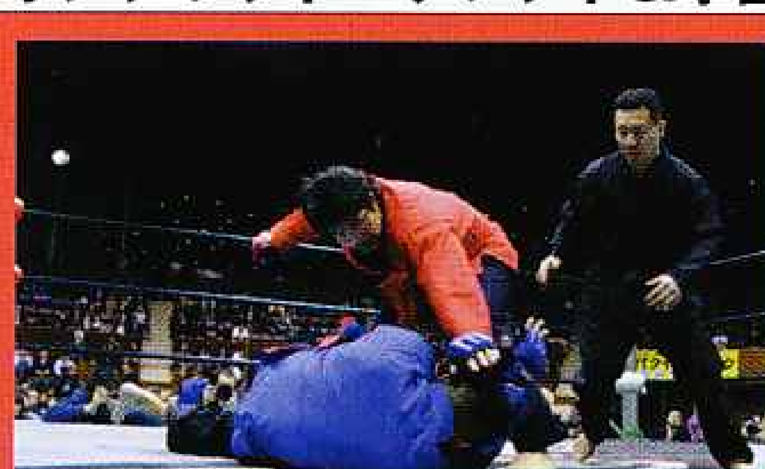
サミー　ねえ。怒っちゃってさあ、ゴッチさ

1・27『レジェンド・チャンピオンシップトーナメント＆掣圏真陰流市街地型護衛白兵戦トーナメント』（代々木第二体育館）



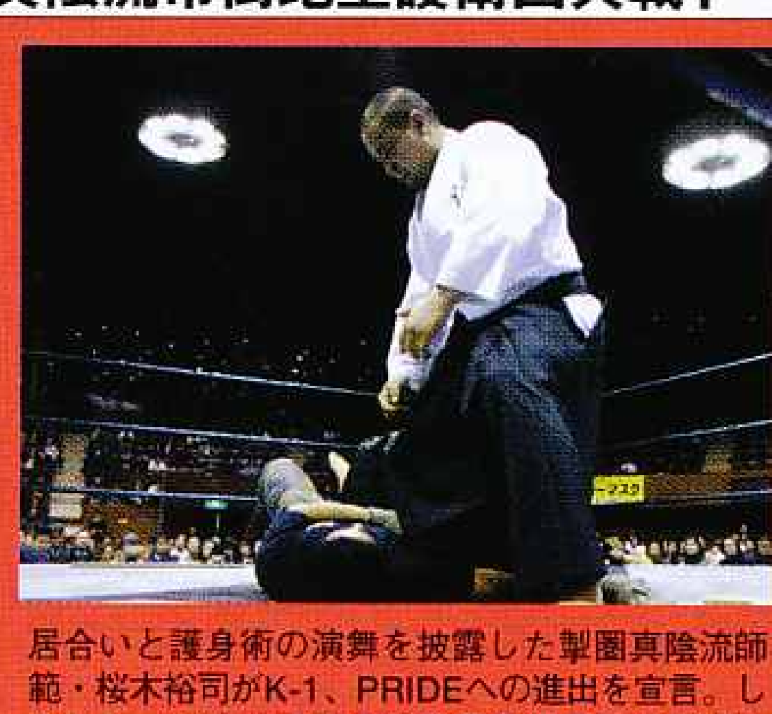
【エキシビジョンマッチ】
○二代目ザ・タイガー［9:18 片エビ固め］タナカジュンジ×

新日本を退団した佐山聡が、第1次UWFに登場した頃のタイガーマスク“ザ・タイガー”の二代目が登場！ コスチューム、体型、ムーブメントまでもが初代ザ・タイガーを完コピ！ しかし最後はウルティモ・ドラゴンの必殺技アサイDDTでフィニッシュ。果たしてその正体とは？

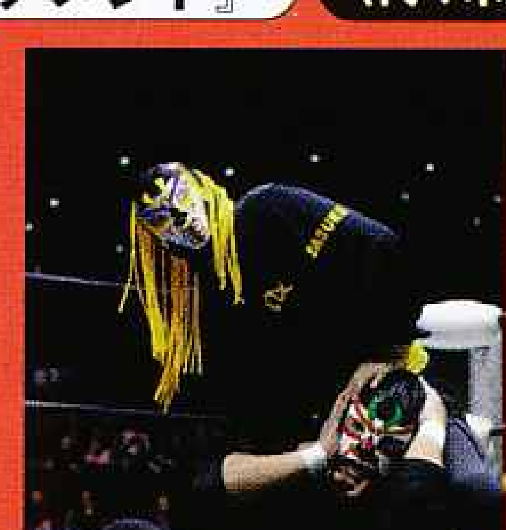


【掣圏真陰流市街地型護衛白兵戦トーナメント決勝戦】
○瓜田幸造［1:19 一本勝ち］崎浜秀剛×

1回戦を秒殺で勝ち上がった掣圏真陰流師範代・瓜田。決勝戦でも対戦相手に付け入る隙を与えず、ニー・オン・ザ・ベリーでのパンチラッシュで圧勝。第1回市街地型護衛白兵戦トーナメントに優勝した瓜田は、4月にロシアのVT大会『アブソリュート』への出場を報告した



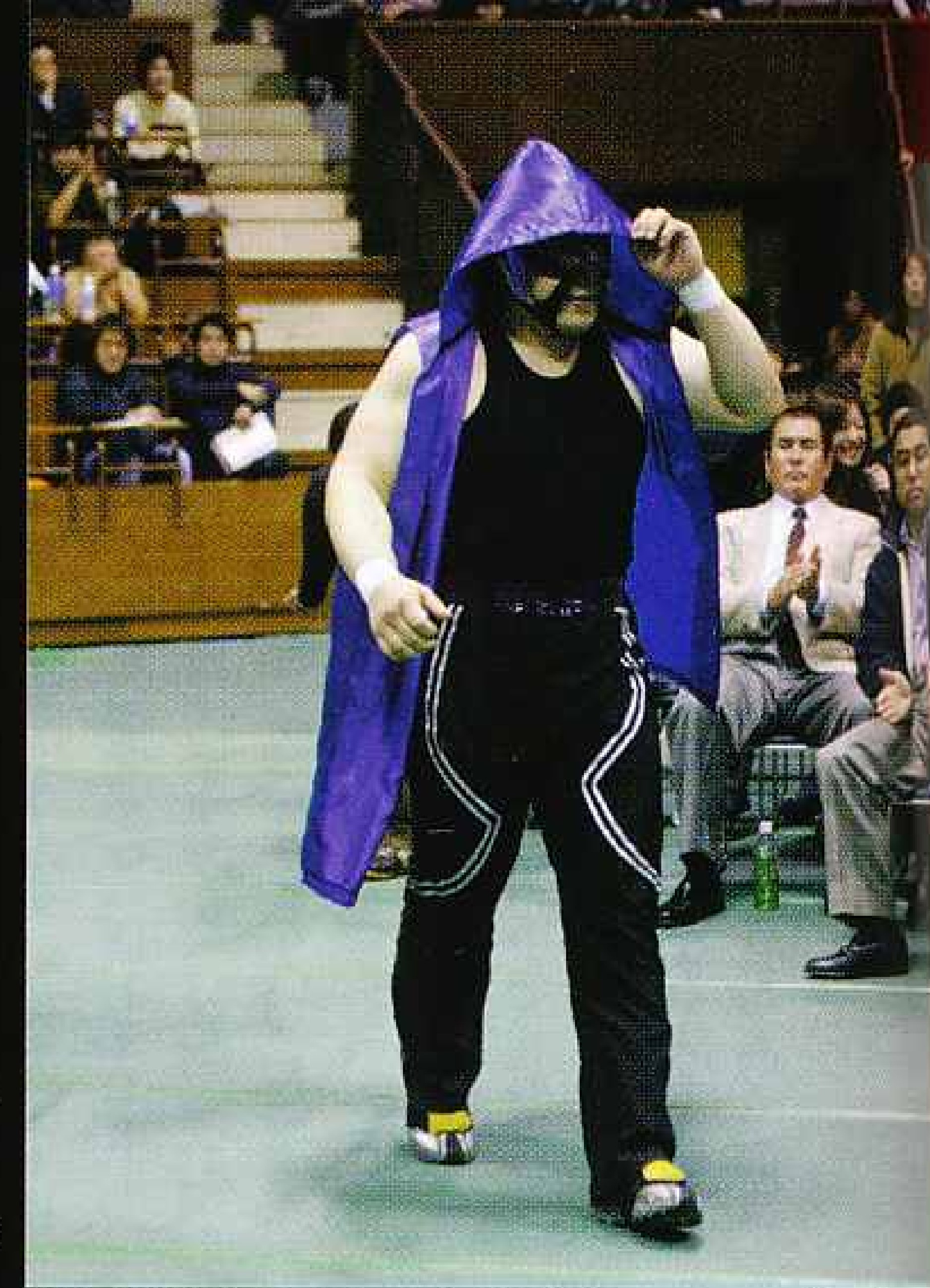
居合いと護身術の演舞を披露した掣圏真陰流師範・桜木裕司がK-1、PRIDEへの進出を宣言。しかし2・4パンクラスでは謙吾を相手に大苦戦を強いられた。次回3・6横浜大会で全日本キック王者・郷野聡寛とキックルールでの対戦が決定。桜木は謙吾戦の汚名を挽回できるか？



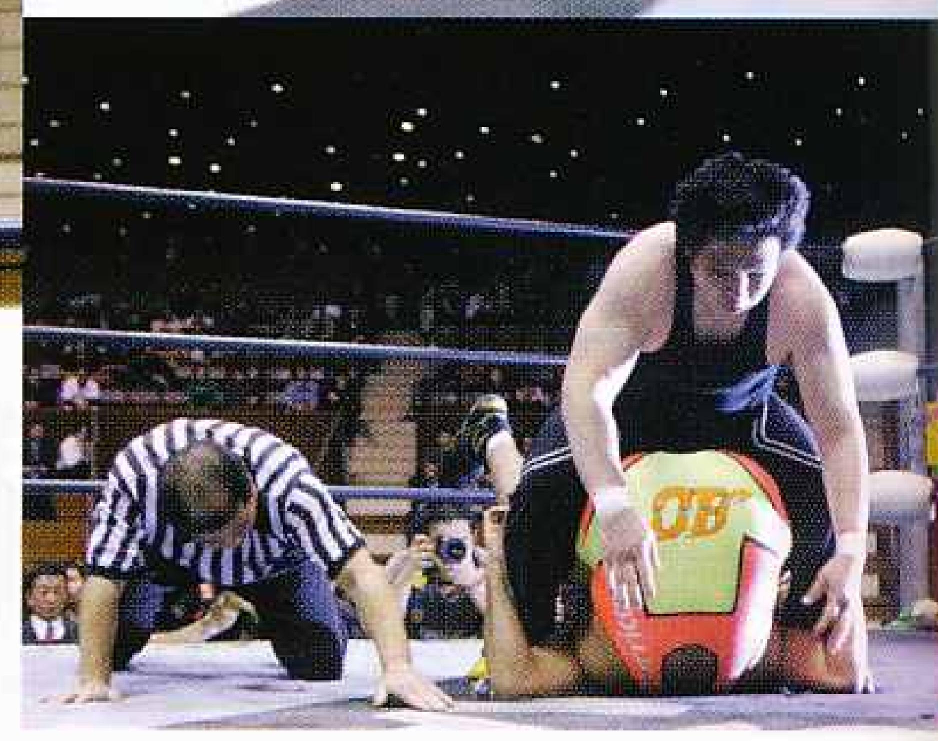
【レジェンド・チャンピオンシップ トーナメント1回戦】
○ザ・グレート・サスケ［10:07 反則勝ち］サスケ・ザ・グレート×

「おまえ折原だろ！」とドラゴンばりに正体を叫ぶサスケだったが、突如ホンモノの折原昌夫が登場！ グレートとの合体パイルドライバーでサスケを完全KOに。反則勝ちが宣言されたサスケだったが、首のダメージにより無念の決勝戦欠場となった。









【レジェンド・チャンピオンシップ トーナメント1回戦】
○サミー・リー ［9:57 後方回転エビ固め］ アレクサンダー大塚×

掣圏会館が新設したベルトの初代王者決定トーナメントで“伝説のレスラー”サミー・リーが本邦初登場! ベストの88キロには届かなかったものの、93キロまで絞ることに成功したサミーは、独特のステップをから繰り出す変幻自在のキックでアレクを寄せ付けない。最後はバックの取り合いからの飛びつき後方回転エビ固めで、サミーが一回戦を突破し、日本での初陣を勝利で飾った。

ん（笑）。でもあのプロモーターのゲンキンさは忘れられないねえ。

——それだけサミー選手が素晴らしかったんですよね。ところで、イギリスではトラックスーツのまま試合をしていたんですか?

サミー トラックスーツはリングに上がるときまで。

——試合になると黒のショートタイツに黒いリングシューズで、新日本の若手選手みたいだったようですね?

サミー もともとリッキー・カワシだったから、そのスタイルだったんじゃないかな?

——なるほど。入場まではサミー・リーで、リング上ではリッキー・カワシだったんですね（笑）。でもトラックスーツで闘って欲しかったなあ。

サミー やだよ。絶対ゴッチさんに怒られたもん。

——ちなみに、『プロレススーパースター列伝』の影響で、サミー・リーは目尻に化粧して、橋本（真也）さんみたいなパンタロンを履いていたと思い込んでたんですけど、全然違うんですね。

サミー でも代々木に登場したのは『スーパースター列伝』のサミーだったんだよ。

——え、そうだったんですか⁉

サミー うん、その本読んでないからわかんないけど（笑）。

——また、適当なことを（笑）。せっかくだから目尻に化粧してほしかったですね。

サミー やだよぉ、そんなの。でもホントにサミーは凄かったんだよ。ポスターにも〝センセーショナル〟サミー・リーっていう名前が載ったりね。毎週テレビ放送してたから、会場なんかどこも満員だったよ。

——すでに日本におけるタイガーマスクのような状態だったんですねえ。子供たちのアイドルだったんですか?

サミー 子供たちのアイドルっていうのはビッグ・ダディっていうパートナーがいたんだよ。お笑いみたいなレスラーで160キロもあるんだけどさ、それが子供に人気があった。ミーはおじいちゃんとおばあちゃんのアイドルということで（笑）。

——若い女性ファンもいたんじゃないんですか?（笑）。

サミー もう全然! イギリスじゃゴッチさんの名前が凄いからね。レスラーの間で「アイツには女がいる」って噂になっただけでも怖かったから。

——でも当時ゴッチさんはアメリカに住んでたんですよね?

サミー でも情報がすぐゴッチさんの耳に入るんだよね（苦笑）。ホント怖がられてたから、ゴッチさん。お年寄りのレスラーがいて「お前はゴッチのとこのボーイだろ。ゴッチの得意技を知ってるか?」って聞くわけ。で、ミーが「リストロックですか?」って聞くと、グー握って「これだ」って（笑）。

——パンチだったと（笑）。



折原&グレートを難なく退けた初代&ザ・タイガー。試合後、初代は「プロレスの黄金時代は、また必ずやってくる。力道山先生、猪木さんの意思を受け継いでいくためにも、6月には新しいプロレス団体を興します」と新団体設立をブチ上げ、ザ・タイガーは全面サポートを約束した。



○初代タイガーマスク 二代目ザ・タイガー ［5:37 猛虎原爆固め］ 折原昌夫 サスケ・ザ・グレート×

サミー・リー改め初代タイガーマスクがトーナメントの決勝に登場! サスケのドクターストップによりレジェンドチャンピオンシップの初代王者はタイガーに。これに異議を唱える折原&グレートがリングに乱入。初代を救うべく二代目ザ・タイガーが登場し、突如タッグマッチに突入した。

サミー　だから、そっちのほうは全然遊んでないですよぉ。遊びと言えば、買い物行ったり、毎週日曜日にはどっかのウチに招待されて、ディナーをいただいたりね。やっぱりイギリスだから、スーツ着て、静かなとこで、ソーサーごと持ってお茶飲んでたんだよ。こんな風に（とお上品な飲み方を実演）。

――あ、紳士ですね！

サミー　そうでしょう（優雅に微笑）。当時はアイスクリームにもフォークとスプーンが付いてて、両手でいただいていたわけです。ふっふふ。

――素敵ですねぇ。

サミー　会話にしても、「今日はお天気がいいですねえ」なんて和やかなに歓談してね。お陰で食事に行ったときはテーブルマナーが全部できてるから誉められますよ。

――はぁ？、サミー選手は、実はジェントルマンだったんですね？

サミー　〝実は〟って何だよォ！　〝やっぱりジェントルマン〟でしょう（笑）。当時に比べたら、いまフランス料理店に行っても全然苦痛にならない。女遊びもしないし、レディファーストも覚えたしね。

――カッコいいですねえ。ではイギリス時代はレスラー同士で飲みに行くとか、くだけた感じっていうのはあんまりなかったんですか？

サミー　あるよ。下がパブだったからね。イギリスは遊びっていってもパブだから。日本みたいにキャバクラなんかないからね。パブ行ってみんなでワイワイ飲んでね。俺は飲まないからジュースで。

――その当時、有名な選手に〝ローラーボール〟マーク・ロコ（初代ブラック・タイガー）とかがいましたけど、他にはどういった選手がいたんですか？

サミー　サイナイト・シュット・クーパーとかね。コイツがデビュー戦の相手で、悪役で小さかったけど、いい選手だったね。

――タイガー時代にライバルとなるスティーブ・ライトはいなかったんですか？

サミー　ライトはイギリス人だけど、ドイツに行ってたから。ダイナマイト・キッドはたまに来て一回タッグを組んだだけ。キッドはレスラーの間でも人気があって、やっぱり人間が凄くよかったよねえ。

――キッドは好きな人間にはいい人なんですけど、気に入らない人間はボコボコにしてたらしいですよね？

サミー　そうだったの？　そうは見えなかったけど。

――キッドの自伝を読むと、薬の副作用で気分のアップダウンが激しかったらしく、彼のいたずらは過剰だったらしいですよ。

サミー　それは知らなかったなあ。でも若手からベテランまで、キッドが帰って来ると暖かく迎えてたよね。

――やっぱり格が違ってたんですね。そんな中で、サミー選手も最初からイギリスマットでは一目置かれていたんですね。

サミー　ゴッチのボーイっていうのもあったし、ああいう動きをする選手はいなかったから。もうタイガーマスクと全然変わらなかったからね。サミー・リー初登場のテレビ放送はみんなビックリしたんじゃない？　ターンターンってステップ踏んで、パーンってバックマーシャルやるだけで、お客さんがウワーッてなるんだから。

――アッという間に心を掴んでしまったと。

サミー　そう。それに比べて日本でタイガーマスクが初登場したキッドとの試合は、自分ではもの凄くしょっぱい試合したと思ってるんだよね。

――え!?　あのデビュー戦がですか？

サミー　だってお客さんが沸かないから。イギリスじゃあお客さんの反応がもの凄かったのに、日本では「ハァ？」って。

――いや、当時、僕らはタイガーマスクにド胆を抜かれて、息を飲んで見てただけなんですよね。

サミー　そんなのわかんなかったからね。

――で、それぐらい人気があったサミー選手ですが、人気を妬んで試合や控え室で仕掛けてしてくる輩はいなかったんですか？

どんな情報でもゴッチさんの耳に入るから恐くて女の子と遊べないんだよね（苦笑）。



サミー　いないねえ。ひとり、コレ（シュートサイン）が好きなレイミーってヤツがいて、いざやったらミーがそいつをバンバン極めちゃって、みんなに「コイツ負けてやんの！」とか言われてたけど（笑）。その部分でも納得させてたし、しかもゴッチのボーイだしね。もうそれに関してはみんな触れかなったよ。ふふ。

――さすがですねえ。あと、当時あそこまで蹴りを多用するレスラーはいなかったと思うんですけど、相手のレスラーが受けるのを嫌がったりしませんでした？

サミー　そんなにバンバン蹴るわけじゃなくて、魅せて魅せてチョンと蹴ったりして。だから大丈夫だったと思うよ。まあ、相手には聞いてないけど（笑）。だってね、当時は登場するレスラーもヒドくて、60歳ぐらいのおじいちゃんが筋肉をアピールするんだよぉ、全然筋肉質じゃないのに（笑）。元アームレスリング王者の遠藤会長の方がよっぽど凄いよぉ。なのに、そのおじいちゃんがデカい相手をブッ飛ばしたりして、もう勘弁してっていうぐらいの内容だったからね。

――でも、毎週テレビ放送があったわけですから、プロレス人気は高かったんじゃないんですか？

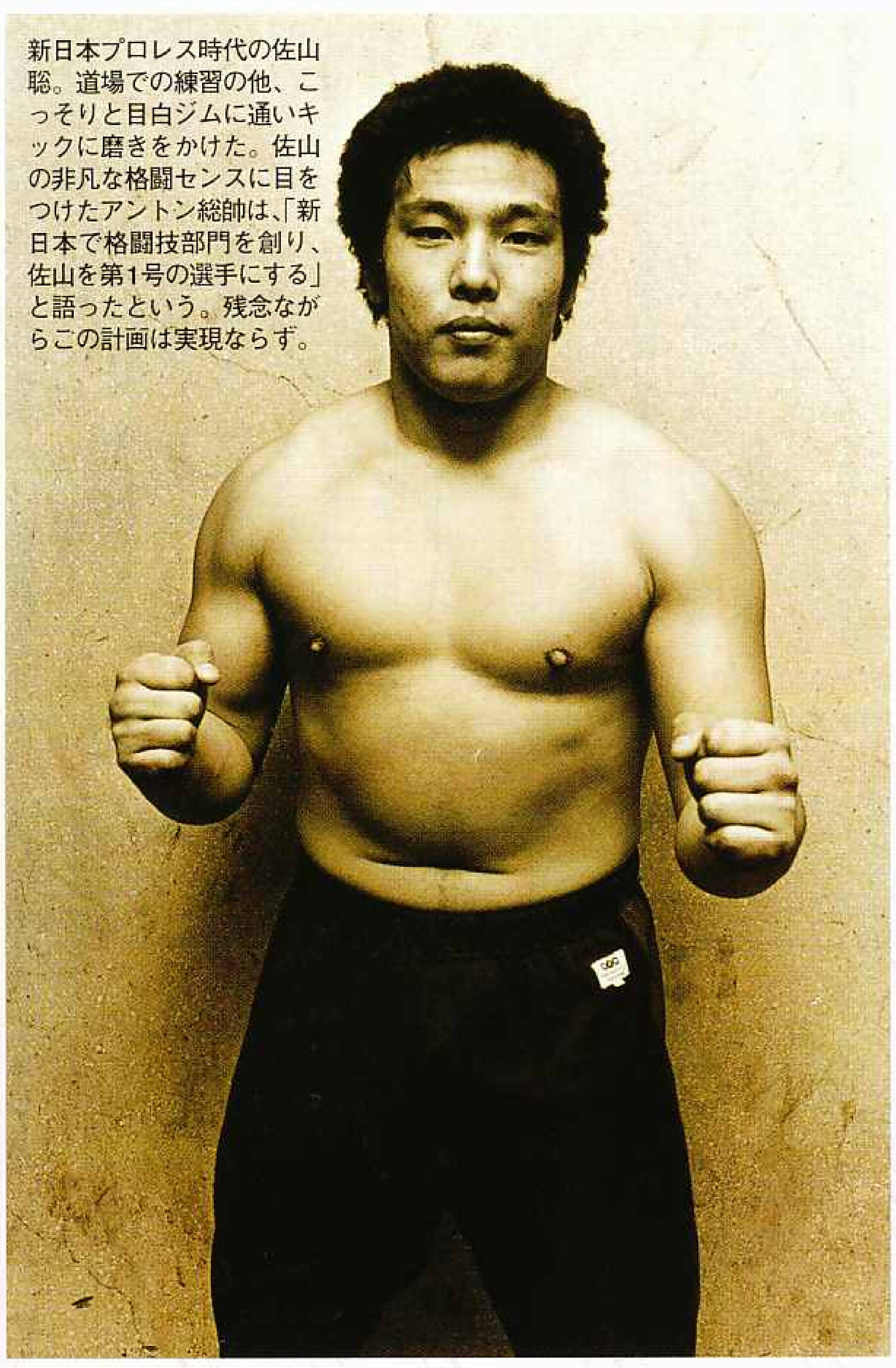
サミー　ビッグ・ダディが子供たちに人気があって、それで保ってるって感じだったんだと思うよ。

――そこにサミー選手が出てきて、さらに火が付いた形なんですねぇ。

サミー　でもミーにはよくわかんない。気にもしてなかったから。だって一週間のうち4～5日ぐらい試合してギャラも結構あったし、毎週ディナーに招待されるわけでしょ？　移動の高速道路もメキシコみたいにガタガタいわないしね。凄く楽しかったから。

――満ち足りた平和な生活だったんですね。じゃあ、タイガーマスクとして日本に呼ばれた時は、ハッキリ言って戻りたくなかったんじゃないんですか？

サミー　スターだし、生活は楽しいし。しかも当時マーク・ロコと抗争してたんだけど、それが盛り上がっちゃって、プロモーターが



新日本プロレス時代の佐山聡。道場での練習の他、こっそりと目白ジムに通いキックに磨きをかけた。佐山の非凡な格闘センスに目をつけたアントン総帥は、「新日本で格闘技部門を創り、佐山を第1号の選手にする」と語ったという。残念ながらこの計画は実現ならず。

ミーたちのために…っていうかミーのためだけど、新設のベルトを作ることにしてたんだよね。

―それは凄い！

サミー　ウェンブリ・アリーナっていうとこで、1万6千人ぐらい入る会場だったらしいけど、当時としては凄い規模だよね。そこまでプロモーターがタイトルマッチを決めた時に、日本からお呼びがかかったわけよ。

―猪木さんへの義理があるとは言え、それは帰りたくないですよねえ。

サミー　行きたくないし、普通は行けないんだよね。それでプロモーターにも相談したりしたんだけど、日本側から「もう一試合決めてあるし、猪木さんの顔を潰すことになるから」って言われて、プロモーターも渋々延期して。

―で、いざ日本に帰ってみたら、あんなペラペラのしょっぱいマスクとマントを用意されていて（笑）。

サミー　そうなんだよ。新間（寿）さんがマスクを見てさあ「いいじゃないか。素晴らしいよ！」とか言ってるわけ。でも、見たらシーツにマジックで書いたみたいな感じだったもん。

―マントを付けた状態で新聞さんが「凄くカッコいいよ！」って誉めてたのに、いざリングにあがったら「早くそんなの脱げ！」って言ってたらしいですね（笑）。

サミー　そうそう。お客さんに笑われてさあ。「俺は何やってんだろう」って悩んじゃったよ。でも2回目のマスクは凄かったよ。凹凸があって、凝り過ぎてて使えなかったけど。

―やり過ぎだったと（笑）。でも先程もいいましたけど、タイガーマスク初登場のインパクトは半端じゃなかったですよ。

サミー　キッドとは初めて試合をやったんだけど、バンバンくるから。アイツの動きはホント凄かったよねえ。

―素晴らしい試合でしたもんね。でもそのあと、またイギリスに戻ってるんですよね？

サミー　日本では「帰るな」って言われるし、イギリスのプロモーターは「帰ってきてくれ」って言うから、両方と話し合って、とりあえず3ヶ月間だけイギリスに帰ったんだよね。

―その間、マーク・ロコとの新設ベルト争奪戦をやったんですか？

サミー　その話は消滅しちゃった。

―ではサミー・リーはタイトル歴はないんですね？

サミー　ないない。メキシコ時代にサトル・サヤマでNWAミドル級はとったけどね。





写真左は極右・佐山聡皇帝。写真右は今年1月末に初来日を果たしたサミー・リー。ソックリなことこの上ないが「ミーは右翼じゃないから敬礼したりしないよォ、フフフ」とキッパリ否定。この二つの人格以外に、10数種の人格を持つサミーは、もはやプロレス界のビリー・ミリガン!?

ミーはベルトがなくても人気があったから。イギリス時代はホント楽しかったなあ。

―いい思い出しかないみたいですねえ。

サミー　食事に関して文句言うヤツはいたけどね。確かにローストビーフぐらいしか目立ったイギリス料理ってないんだけど、でも家庭料理は凄く美味しいんだよ。

―家庭料理は美味いし、ファイトマネーもいいし、テーブルマナーも身につけたしと。

サミー　日本人も日本のマナーだけじゃなくて、世界のマナーを学んだり、握手の仕方を覚えた方がいいよね。

―それは身だしなみとして必要ですよね。いやあ、『サミー・リーのテーブルマナー講座』がやりたいなあ。あのままイギリスにいたらホントにジェントルマンになれたんですねえ。

サミー　いまでもジェントルマン！（笑）。でも海外に行くと日本のよさがわかるんだよね。海外から帰ったヤツが愛国心に目覚めることってよくあるからね。

―向こうでは「日本の素晴らしさを見せてくれ」みたいなことは言われませんでした？

サミー　「日本と経済戦争してやる」とは言われたけど（笑）。

―そうですか（苦笑）。ともかくサミー・リーは優雅にかつ紳士として暮らしていたんですね。知らなかったぁ。もし彼女ができたら向こうで結婚っていう可能性もあったんですか？

サミー　そうかもね。でも彼女はいなかったけど……メキシコ時代がメチャクチャだったから。ダメダメ、こんな話しちゃ（笑）。

―自分から振ってくるもんなぁ（笑）。ま、それはあとで聞きますけれど、サミー選手のムーブはメキシコ時代に完成したものなんですか？

サミー　メキシコ時代の最後の方の動きをイギリスでやって、そのままタイガーマスクになったんだよね。

―そうすると原点はメキシコ時代のようなのでお尋ねしますが、メキシコにいた時はゴッチさんが自宅に連れて行くほど痩せてしまったということでしたけど、何か悪いものでも食べたんですか？

タイガーマスクのデビュー戦はもの凄くしょっぱかったよね。

サミー　メキシコに行って2週間ほどで赤痢性アメーバに当たっちゃったの。ガイドブックに「路上のタコスもオツなもんだ」って書いてあって、食ったらアメーバだったんだよね（笑）。

―「オツなもんだ」って（笑）。

サミー　そんなこと書いてあったら食べちゃうよねぇ。でも一回やられると免疫ができて強くなるんだよね。この前ある社長さんと食事したら、みんな当たっちゃったわけ。ミーは「何かお腹がおかしいな」って感じでトイレに行っただけで終っちゃって、「メキシコ時代を思い出すなあ」なんて思ってたら、社長は入院したからね（笑）。

―タコスで当たっておいた甲斐がありましたねえ（笑）。

サミー　身体だけじゃなくて精神の免疫もあるから。明治時代の人たちはそういう免疫を当たり前に持ってるわけ。それが〝普遍的無意識〟って言うんだよ。

―心身ともに鍛えられたんですね。メキシコはアメーバ以上に治安っていう部分でも非常に危険なところですけど、ホールドアップされたこととかなかったですか？

サミー　ホールドアップはない。

―じゃあホールドアップしたことは？（笑）。

サミー　ないよぉ。銃はあくまで護身用として持ってたけどね。

―危ない目には遭ってないんですか？

サミー　一回あったよ。当時、（グラン）浜田さんのとこに住んでたんだけど、浜田さんの家って豪邸なんだけど貧民街に近いわけ。で、家の近くで自転車がパンクしちゃって押してたら、若者が「タバコある？」って話しかけてきたんだよね。でも、ミーは「吸わないから」って言って去ろうとしたんだけど、いきなり後ろから首絞めてきたわけ。

——いきなりチョークですか！

サミー　でもキュッって片手で外して「なにすんだ、コラァ！」って睨んだの。そしたらそいつの仲間が2人出てきて、3 vs 1の状況になったんだよ。そのときは頭にきてるから強盗だって気付かなくて、脅かしてやろうと思ってバックマーシャル3連発をヒョイヒョイヒョイって見せてやったら、そいつら「ギャーッ！」って逃げていっちゃったんだよ（笑）。

——ケンカを売った相手が悪すぎますね（笑）。

サミー　相手はガキだったからね。で、帰ろうとしたらワーッてそいつらが戻ってきて、2人はナイフで、一人は拳銃持って現れたんだよ。でもすぐ拳銃が偽物だってわかったから、家が近くだったから戻って、本物の拳銃持って逆に追いかけて行ったの（笑）。

——恐ろしすぎますよ！

サミー　まだ若くて血気盛んだったからねえ。「ブッ殺してやる！」って拳銃持ったまま街中をずっと探し回ってたの。で、バスで生活してるヤツがいたから、そいつもビビっちゃって「3人組知らないか？」って聞いたら、場所教えてくれたんだよね。でも、そこに行ったら15～16人はいてさあ。ミーが持ってる拳銃は6連発だったからねぇ。

——16人相手にリボルバーは厳しいと（笑）。

サミー　そいつが「警察に行った方がいいよ」って言うんだよね。結局通報したら、日本人は金持ってるって思ってるせいか「大丈夫ですか、セニョール」とか言って、張り切っちゃってパトカー2台にショットガンまで持ってきちゃったんだよ。

——ちょっとした戦争みたいですねえ。

サミー　で、その15～16人のとこに一緒に行って、ミーが「コイツとコイツとコイツで間違いない」って指差したら、警官がその3人を無理矢理引っ張って行ったんだよ。で、取調室にでも連れて行くのかと思ったら、どこかの駐車場で、ショットガンの台座でその3人をメッタ打ち！

——警官もバイオレンスですねえ！

サミー　ガンガン殴られながら、もう泣き叫んじゃってね。ミーも怖くなっちゃって、名前を言ってなかったのを幸いに、うしろ足でスッと逃げてきちゃった（笑）。

——「セニョールのために頑張るから、あとでお金頂戴」ぐらいの気持ちだったのかもしれないですね（笑）。

サミー　絶対そうだって。怖いでしょう。

——「メキシコから生きて帰れない」って思われたのもうなずけますよねえ。

サミー　まあ、ミーだって拳銃は持ってたけどね。

——強盗も持ってるし、護身用としては持ちたいですよね。

サミー　ミーは射撃が凄く上手いんだよ。

——さすがシューティングの創始者ですね（笑）。ちなみに控え室ではどうでした？　メキシコの選手は気も荒いし、観客も怖いって聞きますけど。

サミー　全然ないなあ。リンピオだったし。

——他の日本人選手はどうだったんですか？

サミー　小沢（キラー・カン）さんは襲われたとかは聞いてないけど、小便かけられたりはしてたらしいよ。

——コップに入れて投げつけるんですよね？

サミー　そうそう。それだけ憎まれれば本望だよね。でも、小沢さんは女の子にも怖がれちゃってたから可哀想だったよね。

——では、パク・チューさんはどうでしたか？

サミー　（木村）健悟さんはモテたよぉ。凄くいい人。日本では先輩後輩ってあるけど、メキシコに行っちゃったら友達になっちゃうから。そういうときに本当の人間性がわかるよね。一緒にダンスにも行ったりしたし。向こうの人はパーティが好きだから、もう5歳ぐらいの子供でも凄く上手いんだよ。天性なんだろうね。ミーも「天性じゃない？」ってよく言われたよ。ふふふ。

——ちなみに健悟さんはダンスは上手かったですか、ランバダとか（笑）。

サミー　どうだろう？　でも歌がメチャクチャ上手いんだよねえ。

若かったから「ブッ殺してやる！」って拳銃持ったまま街中を探し回ってたよ

——サミーさんもお上手ですよね。

サミー　ミーはカラオケレベルだけど、あっちは歌手レベルだからね。

——メキシコ時代はカト・クン・リーとも仲良かったんですよね？

サミー　そう。あとクン・フーとはパレハ（パートナー）だったから。アイツらはもうメチャクチャだよぉ。ある日、カトの頭に一直線の細いハゲがあったの。「撃たれた」って（笑）。

——カトさんには弾丸を避けたっていう逸話がありますが……。

サミー　（遮って）避けたって、あんなのうしろから撃たれて、弾丸がハズれただけだよぉ（笑）。

——ただ、本人は避けたって言ってますからね（笑）。でもケンカは強かったって聞きますよ。バーリトゥードにも挑戦しましたし。

サミー　やらなくていいって（笑）。酔っぱらってて、いきなり向かっていくから強かったんじゃないの？

——もう亡くなっちゃいましたけど、クン・フーも強かったって聞くんですけど。

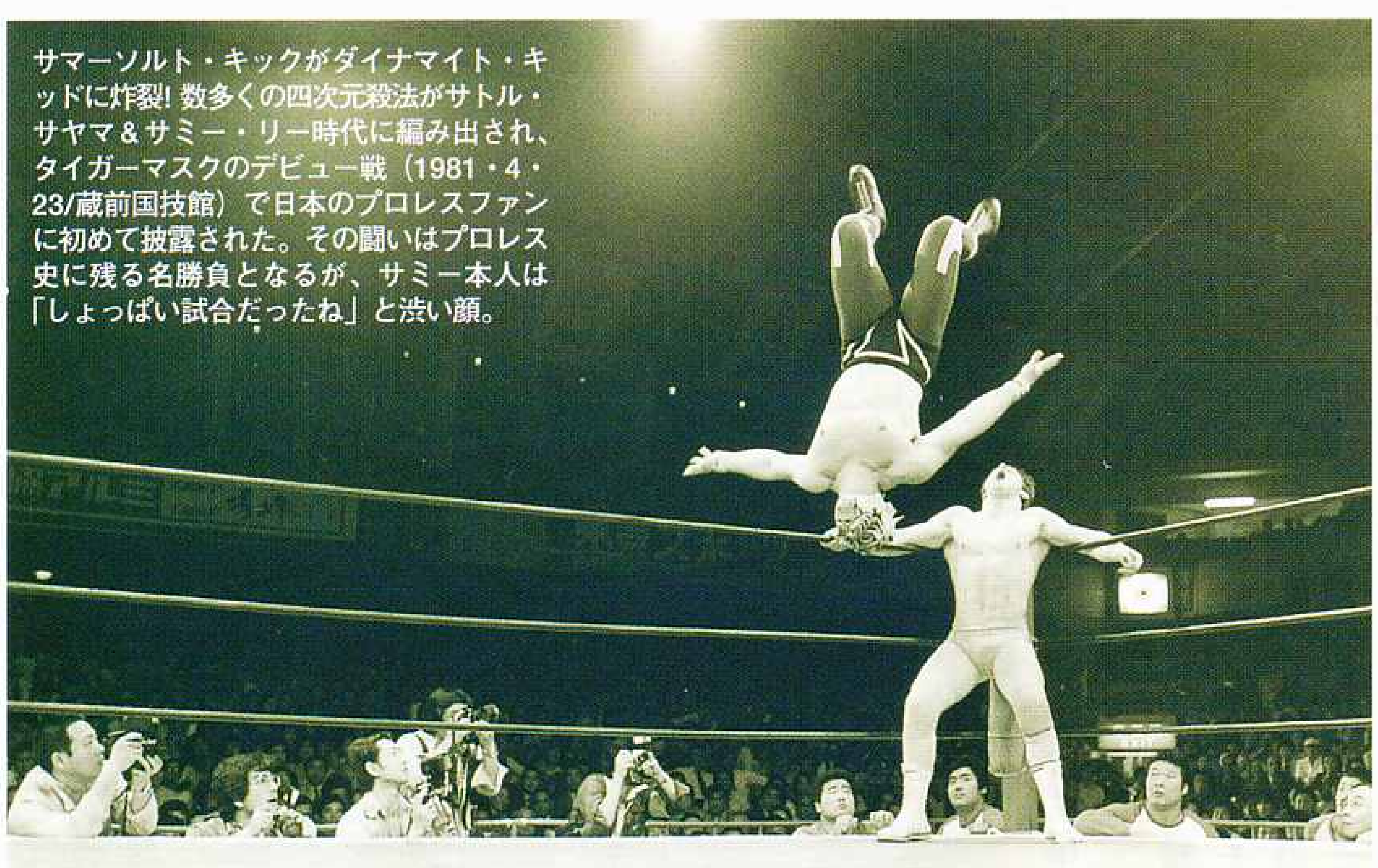
サミー　みんなケンカっぱやいんだよね。クン・フーも酒飲みでさあ、一方通行でも赤色灯つけて入って行っちゃうヤツらだから！「何やってんだ！」って怒られても、酔っぱらいながら「ファ～ック・ユー！」って（笑）。でもいい人間でしたよ、クン・フーもカトも。

——カトさんはサスケさんも親父と慕ってますからね。何だかんだ言って、メキシコ時代も楽しそうですよ。

サミー　いやいや、厳しかった。いいホテルもないし。便器に便座がほとんどないんだから。そこにペーパーを引いて用を足すのが常識だったからみんなトイレットペーパーを持ってたよ。

——先程、メキシコ時代の後半でサミー・リースタイルが完成したとおっしゃってましたけど、それまでは試行錯誤してた感じだったんですか？

サミー　日本のスタイルをやっていく中で、ルチャの飛び技を吸収していったんだろう



サマーソルト・キックがダイナマイト・キッドに炸裂！ 数多くの四次元殺法がサトル・サヤマ＆サミー・リー時代に編み出され、タイガーマスクのデビュー戦（1981・4・23/蔵前国技館）で日本のプロレスファンに初めて披露された。その闘いはプロレス史に残る名勝負となるが、サミー本人は「しょっぱい試合だったね」と渋い顔。

ね、習ったとかっていうんじゃなくて。ルチャの学校にもほとんど行ってなかったし、行った時もコレ（シュートサイン）ばっかりやってたから（笑）。

──そうだったんですか！

サミー 一番最初に行ったところで、若い連中がスパーリングやっててね。ミーはそれを見ながらあーだのこーだの言ってたら、「おまえがやってみろ」って言われて、そしたら100キロぐらいの一番デカいヤツが出てきてたんだよ。あとで知ったんだけど、そいつが一番強かったんだよね。でも首投げからアームロックで極めて、それからメキシコでも有名になったよ。

──メキシコのレスラーはライセンス制らしいですけど、いきなり極めてOKをもらったんですね。

サミー よくわからないけど、あれで合格しちゃったのかなあ、ふふ。

──そこからスタートして徐々にいまのスタイルに近づいていったと。ローリングソバットはメキシコで覚えたんですか？

サミー それはもう覚えてた。

──ではあの独特のステップは？

サミー あれはイギリスからだね。

──タイガーマスク時代のスペース・フライング・タイガー・アタックは日本で考案したんですよね？

サミー だって新聞さんが、何かやってくれって言うから（笑）。クロネコ（ブラック・キャット）立たせてやったんだけど、すぐできんだよ、あんなもん、ふふ。

──簡単に言い切りますね！

サミー 器用なほうだからね（笑）。

──ちなみに、サマーソルト・キックはメキシコなんですよね？

サミー そう。メキシコのホテルで、フッと閃いたの。下に響かないようにベッドのマットを下に敷いて、壁を使ってやってみたらできちゃった。

──またもや、簡単に言い切る（笑）。あれは衝撃的ですよね。いまでもメキシコでは、ティグレ・マスカラードから伝授された技を自慢げにしてる選手もいますからねえ。

サミー 2年間もいたら、いろいろ編み出したり、吸収したりするよね。

──で、最終的に「首投げ」も覚えました？

サミー 首投げ？ ああ、コッチの方？（かわいらしく）うん、いっぱい覚えた（笑）。でも、最初は真面目だったんだよ。それがある日、ファンのお姉ちゃんがホテルにバスタオル一枚で押し掛けてきたわけ。ビックリして「やめろ。そんなことしなくていいから」って言ったら、そのお姉ちゃんが本気で泣き出して、レスラーがみんな集まっちゃったの。で、お姉ちゃんを責めるかと思ったら、みんなミーに「おまえはオカマか⁉」って。そこで「ああ、こりゃヤんなきゃいけないんだ」って思って、そこから人生が変わったんだよ。

──オカマと言われちゃあ、日本男児としては引けないですよ。昔から日本では「据え膳食わずは男の恥」と言われてますもんね。

サミー そう。それを実行しただけ。あとは「郷に入りては郷に従え」って言うじゃない？（笑）。

──メキシコにサミー・リー・ジュニアがいたら面白いんですけどねえ。

サミー 怖いこといわないでよぉ！ 怖い怖い。

──ただ、実際サトル・サヤマやティグレ・マスカラードに憧れてルチャドールになった選手もいっぱいいますからね。

サミー そうなの？

──みちプロに来てたエル・パンテーラなんか、トリトンっていうキャラだったのに、昔から憧れていた佐山さんに握手してもらったのがキッカケで、豹のマスクのパンテーラに変身したって聞きましたよ。

サミー うれしいねえ、そういうの聞くと。

──イギリスでもプロレスファンの間では「いまサミー・リーは日本で何してるんだ？」って言われてるらしいですしね。

サミー 未だにイギリスに帰ると大変だもん。四代目タイガーはイギリスではサミー・リー・ジュニアだからねえ。

──向こうでも四代目の周りに子供たちがドッと集まってきてるようですから ね。イタリアとかでも人気ありますよねえ。

サミー イタリアは新日本の放送やってたから。タイガージムのとき、イタリアから「プロレスラーになりたい」って2人来ちゃったこともあったよねぇ（苦笑）。

──ともかく改めてサミー・リー&サトル・サヤマの凄さを確認できた感じですね。で、今後もサミー選手は登場する機会があるんでしょうか？

サミー う〜ん、分かんない！ でも、今度メキシコに行くからついでにイギリスにも行こうかなあ。

──アメーバ赤痢で痩せて帰ってくるかもしれないですね（笑）。

サミー それはいいなあ。でも帰国したらリバウンドが凄そう、ふふふ。

──本格的な団体の旗揚げは6月とのことですが、着々と準備が進んでいるんですよね？

サミー そうそう。ミスター佐山に聞いたところによると、団体名も決まってるようだよ（笑）。『大日本帝国陸海空軍プロレス』あるいは『メトロポリタン・プロフェッショナルレスリング・デパートメント』って言ってたかな。

──略してMPD（※Metropolitan Police Department）じゃないですか！（笑）。

サミー そう。カッコいいでしょ？（笑）。所属選手が全員手帳を持っててさあ。

──上の選手はSWAT部隊で。

サミー ああ、それもいいねえ。……って、いまのは全部冗談だからね！ ちゃんと書いておいてよぉ。ふふ。

──分かりました（笑）。では最後に、いまクイックキック・リーこと前田日明さんのプロレス界復帰が業界を賑わせてますが、それに関してはどう思われますか？

サミー 一生懸命やればいいじゃない。いまプロレス界は下火だから、盛り上げてくれたらいいよね。前田とか藤原さんとか長州さんとか、昔の猪木さんをわかってる人間は復活しなきゃダメだと思うよ。そして一から選手を育てていって、魂を見せるプロレスを復活していかないとね。

──初代タイガーマスクの本格復帰もあるし、今年のプロレス界は面白くなりそうな予感がありますからね。その中でサミー選手の再来日も期待してます！

サミー それは分からない！（笑）。

【05年2月5日／乃木坂の喫茶店にて収録】



さみー・りー■1957年11月27日、173cm、93kg。1980年2月、イギリスマット界に彗星の如く現れ、目にも止まらぬ素早い動きと、変幻自在のキックで、瞬く間にヨーロッパを代表するスーパースターに。約1年の活躍後、日本でタイガーマスクに変身。修斗の設立、掣圏真陰流の確立に奔走し、2005年1月、25年の時を経て遂に復活。再登場が期待される。



3・19K-1アジアGP一回戦で現役復帰の角田が曙と激突!!



「これは『レッスル1』じゃないですからね(ニコニコ)」
(by谷川貞治プロデューサー)

今年一発目のK—1WORLD GPシリーズで大注目の一戦、角田信朗vs曙が実現!

3月19日に昨年に続き韓国でアジアGPを開催するK—1。昨年のトーナメントは曙の敗戦、軽量級ガオグライの優勝と波乱三昧となった韓国大会。今年も大会前から何やら起こりそうな雰囲気がプンプン漂っている。

トーナメントでは一回戦から、約2年ぶりの復帰戦となる角田信朗が絶賛連敗中の曙と超異次元バトルを行う。角田と曙は身長差、約30センチ、体重差は約100キロ! この一戦を前に角田は「僕自身、空手を始めるにあたって影響を受けた『空手バカ一代』の劇画を地でいくような、大相撲の横綱と対戦するなんて夢にも思ってませんでした。予想していなかったこととはいえ、復帰戦の相手として本当に素晴らしい対戦相手に恵まれたことを誇りに思いますし、全力で立ち向かっていくことが最大の礼儀だと思います」と意気込みを語った。一方の曙は「角田さんという素晴らしい相手と試合ができるということで光栄です。去年は、皆さん、ご存知のように白星をあげることができませんでしたが、今年こそ全勝の気持ちで試合に臨みます!」と決意を表明。一回戦を勝ち上がるのは「これまでK—1で試合をしてきてベストなコンディションはいくつかありましたが、その時の5倍は強くなっているんじゃないかと思います」と自信満々に語った角田か? それとも「角田さんが白星をあげるつもりはないと言ってましたけど、僕ももらうつもりはない。一生懸命努力して白星を取り上げるつもりです」と初勝利へ向け気合い十分の曙か?

どちらが勝つにせよ、二回戦で待ち受けるのは韓国の大巨人チェ・ホンマンとX(2月23日現在)の勝者。もしホンマンが勝ち上がれば曙との元横綱対決、角田の巨人2連戦のどちらかが実現となる。どっちに転んでも興味津々の韓国大会。国歌斉唱は韓国人気NO1グループ「神話(SHINHWA)」が務めることも決定。韓流ブームついでに韓国で〝神話〟を目撃するのもいいかもしれない。



◆日時　2005年3月19日(土)　開場13:00(予定)開始15:00(予定)
◆会場　オリンピック第1体育館(オリンピック体操競技場)
◆イベント内容
☆ASIA GP(アジア各国の強豪8名によるワンデイトーナメント。優勝者は9月開催予定の「K−1 WORLD GP2005開幕戦」への出場権を獲得する)
☆スーパーファイト2試合予定 レミー・ボンヤスキー/ピーター・アーツ、他
◆入場料金
VIP席　1,100,000ウォン(¥100,000)、SRS席　275,000ウォン(¥30,000)、SS席　187,000ウォン(¥20,000)、S席　132,000ウォン(¥14,000)、A席　49,500ウォン(¥6,000)
◆チケット発売
K-1オフィシャルサイト　http://www.k-1.co.jp
FEGオフィシャルサイト　http://www.feg-jp.com
キョードー東京 TEL.03-3498-9999
◆お問い合わせ
●(株)FEG TEL.03-3796-5060
●FEGソウル事務局　TEL.82-2-589-2794

これがWWE!!



遂に日本初開催となるWWEテレビショー「RAW」&「SMACKDOWN!」がやってきた！　演出、音響、そして試合の質まで、すべてが今までの日本大会とは異なっていた。エンターテインメントの本場アメリカからやってきた、本物のプロフェッショナルが見せたプロレスの神髄に、本誌は他誌では不可能な部分まで深く、そして鋭く切り込んだ！　スペシャルな大特集16ページをご堪能あれ！

3·19K-1アジアGP一回戦で







2.4 2.5

スペシャル寄稿

WWE日本ツアー観戦記

文／HBK（ヒトシ・ボッシュート・クサノ） 草野仁

「HBK!」「HBK!」大会開始前、客席からわき起こった「HBK」コール。そこにいたのは“HBK”（ハート・ブレイク・キッド）ショーン・マイケルズ……ではない。我らの“HBK”（ヒトシ・ボッシュート・クサノ）こと草野仁さんだ。鋭い批評眼と熱いハートを持つ熱狂的WWEファンとして知られ、本誌81号でそのスーパーひとし君ぶりを語って頂いたのも記憶に新しい。我らの“HBK”が大会の観戦記を特別寄稿です！

photo／George Napolitano



さいたまSA（スーパーアリーナ）で「HBK」コール発生!!
あの草野仁さんが興奮と熱狂のWWE日本大会観戦記を特別寄稿!!

何とかスケジュールの遣り繰りをしてWWE「RAW」、「SMACKDOWN!」の日本公演を両日とも観戦することが出来た。

初めてのTVショーということもあり、これまでの来日公演とは些か異なる期待を胸に秘め、さいたまスーパーアリーナに足を運んだ。両日とも会場は超満員で言うまでもなく開演前からファンの熱気も凄まじかった。これこそがWWEだ。そう実感しながらショーの幕開けを待った。

初日の「RAW」公演。残念ながら怪我で来日が叶わなかったビンス・マクマホン代表の代理でホスト役を務めることになった息子シェインの登場はあの伝説の3・1横浜アリーナ公演を思い起こさせるものであった。今現在シェインがストーリー上に登場してこないのは大変寂しい気もするが、近いうちにあのダイブをまた見せてくれることを願って止まない。

「HEAT」枠のテーピング終了後、実況のジム・ロスとジェリー・ローラーが放送席にやって来た。彼らの日本公演参加は今回が初めて。二人ともTVで見る相変わらずの朗らかな表情で日本のファンの歓声に愛嬌良く応えていた。たまたまこの日は放送席に近いところに座っていたこともあって彼らの存在はとても近く感じたのだが、唯一残念だったのは彼らの肉声が聞けなかったこと。もちろん数週間後にはテレビで聞けるのだが。

「RAW」が始まり、クリス・ベノワとクリス・ジェリコのサブミッションマッチがオープニングとなって番組がスタート。タイタントロンに映し出される映像でストーリーの展開を確認しながら次々に開始される試合を楽しむという、これが初めて体験するTVショー。眼前のショーが全世界に映像となって配信されるものだと思うと更なる興奮が襲って来た。

「RAW」の個人的ベストマッチはやはり"HBK"ショーン・マイケルズと"ネイチ"リック・フレアーの一戦。さすがにベテランだけあって見る者に絶対的な安心感とレスリングの奥深さを伝えてくれる。実年齢を忘れさせるフレアーの動きにも脱帽。満足行く試合であった。他にも昨年とは違い数段貫禄を増して戻って来たランディ・オートンそしてバティスタの二人は抜群に印象的であった。近い将来が益々楽しみである。

ただし「RAW」の主役はやはりトリプルH。この人の存在なくして番組は成り立たないことを再認識させられた。レスリングの巧さはもちろんのことヒールとして、それもどこかコミカルな部分を匂わせながら大黒柱としての役回りを演じきっている、彼のパフォーマンスに心から拍手。

二日目の「SMACKDOWN!」も同じくTVショーとして終始楽しく観戦することが出来た。「RAW」に比べるとやや役者の少ないブランドのようにも思えるが、エディ・ゲレロやレイ・ミステリオのように日本人が親近感を覚える体格のトップ・スーパースターもいることで興味は尽きない。

そのエディ・ゲレロはケンゾー・スズキと対戦。WWEでは先輩のフナキやタジリにはまだまだ及ばないが一生懸命溶け込んで精進を重ねる彼の真摯な態度は見ていて大変心地が良い。

アンダーテイカーのサプライズ登場やJBLの馬鹿っぷり、更なる存在感を身に付けて来たジョン・シーナと、この番組も見所は満載であった。

しかしこの日一番の見せ場はやはりカート・アングルとレイ・ミステリオのメイン戦。何しろカートの受けは極めてレベルが高く、他のスーパースターの追随を許さないものがある。この人も自分はこの番組を背負って行く中心人物であることを十分自覚し、その責務を期待以上に全うする唯一無比のレスラーである。改めて本当に心の底からそのプロフェッショナリズムに感嘆させられた。

あっという間の二日間の公演であった。初めてのTVショーで大成功に終わり、当然また近いうちの日本公演を期待したいが、今度は是非PPVを日本で見てみたいという贅沢な気分にもさせられたのも事実である。

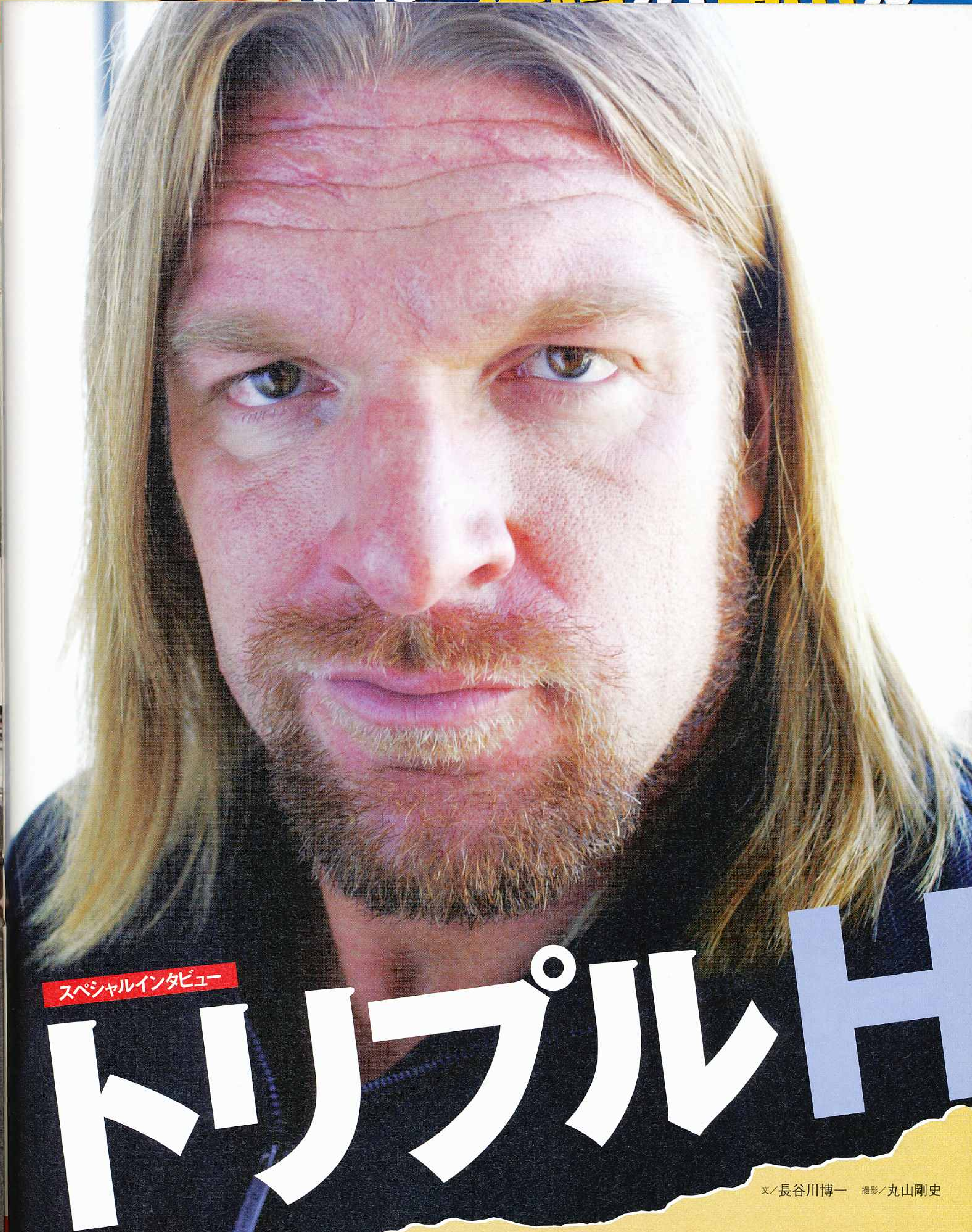
草野仁プロフィール

TVキャスター。昭和19年2月24日、長崎県生まれ。昭和42年3月東京大学文学部社会学部卒業後、同年4月にNHK鹿児島放送局に赴任。福岡・大阪を経て、昭和52年8月にNHK東京アナウンス室勤務。「ニュースセンター9：00」、「ニュースワイド」や様々なスポーツ実況を務める。昭和60年3月NHKを退社後フリーとなり、NTV「ザ・ワイド（月～金13：57～15：50）、TBS「日立世界ふしぎ発見！（毎週土曜21：00～21：54）」の司会などで活躍中。平成12年ベストファーザーイエローリボン賞受賞。熱烈なWWEファンとしても知られ、オフィスには映画『スコーピオン・キング』で来日したロック様にインタビューを敢行した際の記念写真が飾ってある。本誌81号に掲載したロングインタビューは大好評！！　プロレス・格闘技そしてWWEを厳しく、そして熱く見守る。





3·19K-1アジアGP一回戦で



スペシャルインタビュー

トリプルH

文／長谷川博一　撮影／丸山剛史

WWEは〝急げ〟の世界、ハリウッドも〝急げ〟の世界だけど…。

「ドゥ～ン！　ブゥ～ン！」

誰よりも大きな声を出して応酬する殴り合い。

14才からボディビルを始めて現在に至る、そのボディ。

大仁田厚より100万倍エレガントな水噴き。

悪役もコミカルも行ける、長回しの台詞も絶対に噛まない完璧な演技力。ザ・スター。スーパースターの中のスーパースター。トリプルH（エイチ）を評するなら、そう呼ぶしかない。

今回の「RAW」来日公演を翌日に控えた2月3日、トリプルHのインタビューが行われた。映画「ブレイド3」のPRを目的に日本ヘラルド映画（株）がセッティングしたもの。滞在先のホテルの一室にスポーツ各紙の記者が集まる共同記者会見となった。

ドレスコードのたしなみに倣い、スーツを着こなした彼。ストパーの髪が金と光る（確か妻も同じ）。取材開始の前に記者達とがっちり握手。ジェントルである。

「ハンターさん、アイ・リスペクト・ユー！」

筆者も何だかタジリ弁になってしまっている。醸し出す雰囲気はスターの威光そのもの。額には流血の跡の線がくっきり。いわゆるジュースの跡かもしれない。それはまるで血の色をした、ザ・ゲームの果汁のようにも思える。

まず最初は映画『ブレイド3』の感想を尋ねることにする。それが筋である。演技力なら勿論リング上でナンバー1。初出演の映画の演技も実に堂に入っていた。トリプルH扮するグリムウッドはバンパイア。かつてリング上では誘拐犯を演じたことはあったが、バンパイアは初めて。役作りの苦労は如何なものか。

「どうもね。バンパイアと言うと頭の中で色々イメージが広がるだろうが監督のデイヴィッド・S・ゴイヤーと一緒に考えていった。彼は僕に自由を与えてくれた。とにかくアグレッシブで、どんなにやられてもカムバックする。けっして止まらないバンパイア。そういうのを目指したね」

格闘シーンはお手の物。映画ラスト、密室のワンオンワンの闘いではパワースラムまで繰り出すアクションシーンに思わず拍手をしたくなる。主役のウエズリー・スナイプス、空手仕込みのソバットを多用するが、専門的に見れば足の伸びが今一つか。その辺を専門家の貴方はどう感じるだろうか。なんて多少レスリングに近寄った質問を送ってみる。

「ウハハ。彼は凄くユニークな男だったな。ファンが我々とのムーブの違いを見つけてくれるのは嬉しいけど、まあエンターテインメントとして楽しんでくれればいいよ。映画の中でウエズリー・スナイプスのソバットの正しさは、さして重要な要素でないからね」

映画に出演して感じた大変さは？これは他紙の記者の問い。

「WWEはライブ。現場はとにかく〝急げ！〟の世界なんだよ。ハリウッドだって〝急げ！〟なんだけど時には〝待て！〟の号令がかかる時がある。もうリハーサルも済んでるのに照明セットが整うまでに5～6時間も待ったりすることがある。長時間待たなくちゃいけないのが一番大変だったかな」



映画の話が一通り終わり、本職のレスリングの話に変わっていく。バトル面の記者陣も身を乗り出し始めた。00年2月の「ニューズウィーク」誌で、トリプルHはこう語っていた。

「冷戦が終わった今、恐れるべき対象がなくなった。普通の人にとっての敵とは自分のボスだ」

当時のリング上の最大のヒールはミスター・マクマホン。悪徳社長を蹴落とすためにレスラー達の数々のアングルが組まれていた。こういう彼の指摘に知性があるのだが時は変わり、今は04年。貴方にとっての敵は誰だろうか。

「俺は今、WWEヘビー級チャンピオンだからね。このベルトに向かってくる全ての奴らが敵だよ。明日、4日はエッジと防衛戦をやる。彼はビッグスターだけどスーパースターになれる直前に首を怪我して一度、退いてしまった。あいつに『ノー！』と告げるのが俺の役目だ。しかもエッジがもうすでにスーパースターだとしても、彼はザ・ゲームではないのさ（微笑）」

レスラートークにキャラを変えての回答が戻ってしまい、真意が上手く伝わらなかった気もしたが、相手を一度上げてから自分をさらに持ち上げるという口調は、まさしくアメリカン・プロレスの教科書通り。同様の

TRIPLE H

3·19K-1アジアGP一回戦で

いいかい、ファンは馬鹿じゃない 大切なのはファンに正直でいることだ

話法を武藤敬司もリック・フレアーから習ったそうだ。

「RAW」番組中でエボリューションが結成されたのは、折角WWEに復帰したフレアーが更に光る場所が欲しいというトリプルHの発案だった。二人は若手レスラーの中からスター候補生を探す。選ばれたのがバティスタとランディ・オートン。つまりエボリューションは3世代に渡るアメリカン・プロレスの王道継承教室なのである。そしてご存知のようにオートンは史上最年少のヘビー級王者に輝き、〝左腕の天使〟バティスタは現在、会場人気が全米で断トツ一位。どうやらリング上ではトリプルHと反目の関係になりそうなバティスタにしても「レスラーとして得難い経験は全てトリプルHから学んだ」と最近も語っている。

リング上のアングルの話を冗談半分に聞いてみる。あなたとステファニーの結婚を心から祝福します。しかもこれ、マクマホン家の将来を考えるにつけ実に興味深い。ビンスの跡目を争い、実の息子シェインと義理の息子のあなたがリング上で闘うようなアングルは将来考えられるでしょうか。

案外ツボにはまったらしい。トリプルHはプフゥ〜と鼻で笑い、鮮馬刺しのような赤みの増した顔で答え始める。

「ネバー・セイ・ネバー（ないとは

TRIPLE H



「RAW」日本大会のラストシーン。目線だけで王座への欲望をアピールするバティスタと、それに気づいて驚くトリプルH。セリフのない中、最高級のボディランゲージだけで観客を熱狂させた。
photo / 平工幸雄

言えない）、それがWWEさ。何だって可能なんだ。ビンスはまだまだ健在。でもいつか引退する時には彼の足跡をしっかり追って行かなくちゃいけないという意識が俺の中にもあるね。ステファニーもシェインも今は会社の重要な位置にある。しかし将来的には面白いんじゃないか？」

再び他誌の質問。日本のプロレスは不況が続いています。そこへ降って沸いたようなWWEの大人気を、ますます脅威に感じていると思います。あなたは日本のプロレスを見たことがありますか。

「日本のレスラーには、とても親しいつもりだよ。過去の日本のレスリングを、たくさんテープで見た。ババ、テンルー、リキ・チョーシュー、イノキ。ハンセン、ブロディ、ブッチャー（と指折り数える）。俺は日本のファンをエンターテインするために来ている。ファンは自分の見たいものに金を払うだろ。選ばれたのがWWEならば、俺は最高のものをお見せしたい。明日のRAW大会は、これまでに観たことのないものをお見せしよう」

日本のリングが話題に上り、面白そうな展開になってきた。筆者もここで一つ、ツッコミを入れることにする。90年代になってWWEは〝スポーツ・エンターテインメント〟を自称して更なる収益を上げ、株式上場も果たしました。私は貴方達のファイトを心からリスペクトしていますがいわゆるカミングアウトの効果は絶大でしたね。反対に日本のマット界は、プロレスとは何かについて玉虫色の説明にとどまっている気がします。あなたは日本のプロレス界も同じように何らかのカミングアウトをするべきと考えますか。

瞬時を置かずして、ザ・ゲームは語り始めた。

「シュア。いいかい、ファンは馬鹿じゃないよ。僕らが何なのか、何をやっているのか、良く分かっているさ。大切なのはファンに正直でいることなんだ。例えばこの映画『ブレイド3』をドキュメンタリーであるなんて誰も言わないだろ？　これは映画さ。エンターテインメントだ。10ドル払って楽しい時間が過ごせたら、それでいいのさ。WWEもエンターテインメントだ。アリーナに来ても、TVを観ても、PPVを購入してでも何でもいい。君は2〜3時間、自分自身を忘れることができる。グッドガイを応援し、バッドガイを憎み、エキサイトする。それがエンターテインメントなんだよ」

ファンはすでに知っている、ファンに正直でいるべき——先月号で紹介したビンスのコメントと殆ど瓜二つなのに驚く。義理の親子といえどもプロレス道は一子相伝なのかもしれない（危うしシェイン）。トリプルHの話は、まだまだ先へ続いた。

「スポーツ・エンターテインメントという用語とか区分けは、俺にとっては何でもいい。それは重要じゃない。どんな呼び方に変えようが、俺達のスポーツ性が損なわれるわけでもないし、娯楽性が失われるわけじゃない。ファンのリスペクトだって薄れはしない。自分達のやってることを何て呼ぶのか必死に考えるよりは、自分達のやってることをそのまま伝えた方がいいさ。でもそれが果たして面白いかどうか、そこが重要なのさ。だってアマチュア・レスリングは、とてもリアルだろ？　でもきっと、このテーブ

ルをただ見てるのと大して変わりはないだろ？　だったら誰もエンターテインしない。それは良くない。彼らが、自分達は娯楽性を持ってるなんて迂闊に言えやしないよね。ところで君はボクシングが好きかい？」

ええ、まあ。

「レノックス・ルイスは畏るべきファイターだ。しかし見てても面白くないから誰も関心を払わない。マイク・タイソンだったら、みんな彼を見たくて対価を払う。彼がいいボクサーであろうとなかろうと、そのパーソナリティが興味を持たれている。それは彼がエンターテインしてるからなんだよ。分かるかい？」

実に見事な答えである。解答があっという間に出てきたということは、あらかじめ考え抜かれたテーマであり、その答えが本人の哲学にもなっているからなのだろう。彼は自分の仕事を心得ている。トリプルHここにあり、と思えるような問答だったと思う。

筆者の質問は、けっして日本のプロレスを揶揄するような水かけ論ではない。むしろ普段、取材をして感じることは、日本のレスラーもその関係者も、みんな自分の仕事に誇りを持ちたがっているということ。しかし昨今の暴露本の出版以降に生まれた数々の偏見に未だ上手く答えることができず、どこか肩身を狭くしているような印象があるのだ。一足先に世間の偏見というトンネルを抜け、新たな尊敬を勝ち得たアメプロの達人に、その所を聞いてみたかった。

会見はここで終了。トリプルHは写真撮影の場に移動する。取材を終えた記者さんが部屋の外で「俺たちもカミングアウトしようかな…」なんて呟いていたのが印象的だった。

翌日、トリプルHはRAWのリングのメインに出場。スーパースターかもしれないがザ・ゲーム（ゲームを司る者）ではないエッジとの防衛戦を無事、乗り切った。彼が登場しただけでリング上の緊張感が変わるのが分かった。番組収録が終わった後は一人リングに残り、わずか人差し指を動かしただけで会場のあちこちから歓声を生み出していく。この物言わぬカリスマ性は、ただ者ではない。それまでRAWのリングに上がる選手の中でレジェンドと呼べるのはフレアーとHBKの2名だろうかと考えていたが、30代半ばにしてトリプルHもレジェンドの仲間入りを果たしている事実が確認できた。

最後に関係ない話ではあるが、筆者が購入した7千円の客席から見えたリングサイドの様子に一つ注進を添えたい。フジTVが用意した最前列に座る某プロレスラーの、あのマナーは何なのだろう。ファン意識丸出しで自前のカメラでリング上をカシャカシャ。仮にも多少は名を知られる日本のレスラーである。こんなことしてるから、日本のレスラーは世間に舐められるのだと悲しくなってしまった。さいたま初日の最前列に座る高山善廣は違った。観客が総立ちになっても座席から離れることがなかった。プロである。意地がある。安価な席からオペラグラスを通してリング上を眺めるファンの視界には、そんな回りの風景やマナーも映ってしまうことも、お忘れなく。



オーラを漂わせながら、静かな口調で的確に質問に対する答えを返すトリプルH。これが超一流の貫禄というものだ。

大人気『ブレイド』シリーズ最終章。人間とヴァンパイアの血を継ぐブレイド（スナイプス）とヴァンパイア一族の始祖ドレイク（ドミニク・パーセル）のファイナルバトルが展開される。子犬を抱いた冷血ヴァンパイア＝グリムウッドがトリプルHの役所。牙以外に特殊なメイクもなく割とまんまの姿で登場。予想通り上手い！　ちょっとセクシーなブレイドの助っ人、ジェシカ・ビールの好演も気になる。近未来を模した架空都市の情景やド派手な戦闘シーンは映画館で一見の価値あり。

『ブレイド3』／2004年アメリカ映画／監督ディヴィッド・S・ゴイヤー／主演ウェズリー・スナイプス、ジェシカ・ビール、ライアン・レイノルズ、トリプルHほか／2005年5月全国東宝洋画系にてロードショー

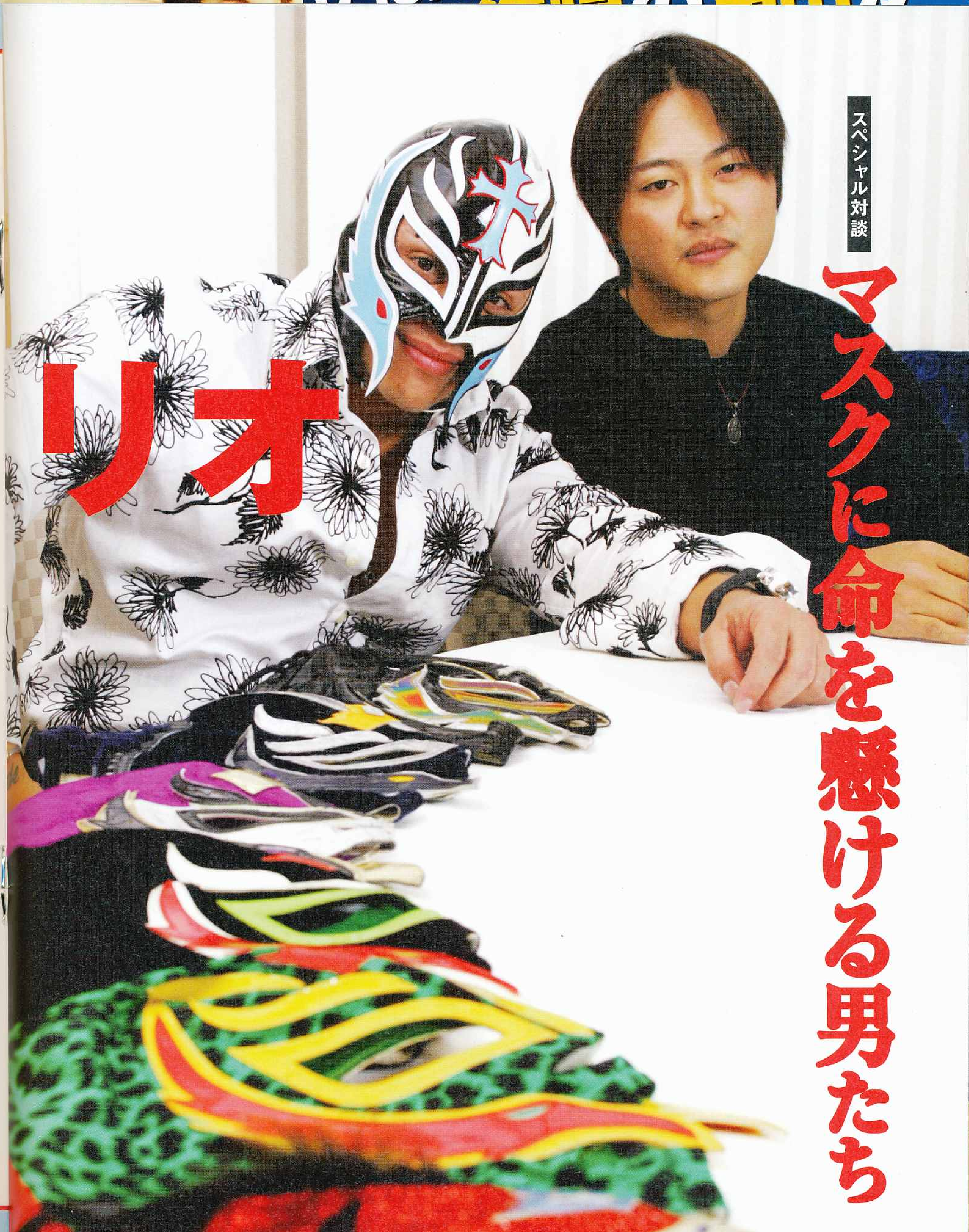


3·19K-1アジアGP一回戦で

スペシャル対談

マスクに命を懸ける男たち

リオ



レイ・ミステ Rey Mysterio × 林 雅弘（SOLLUNA代表）

聞き手／サトウナオコ
撮影／丸山剛史
写真提供／George Napolitano

アナタの好きなレスラーを思い浮かべてほしい。どうしてその選手を好きになったのか。理由はいろいろあれど〝カッコイイ〟という要素は、必ずどこかに含まれているのではないだろうか？　「あのムーブがとにかくカッコイイんだよ」「あのコスチュームが…」という具合に。

2月4、5日。海の向こうから稀代の洒落者軍団WWEが日本へやってきた。ズラリと居並ぶ綺羅星（スター）たちの中で、老若男女を問わずバツグンの人気を誇る男がいた。その男こそ、レイ・ミステリオ。バネ仕掛けのような華麗な空中技と、鮮やかなコスチュームで魅せる彼だが、実はそのコスチュームをとある日本人男性が手掛けていることをご存知だろうか？　コスチュームのデザイン・製作、AAA日本大会のプロモート、WWEグッズインターネット通販などを手がける「SOLLUNA」代表・林雅弘氏がその人物である。林氏がミステリオのためにコスチューム作りを始めて10年。WWE来日公演で顔を合わせた二人が、コスチュームへのこだわりを熱く語ってくれた。

――そもそも知りあったきっかけは？

ミステリオ　ボクが初めて日本に来た時だから、1995年のJ－Cupの時だね。ハヤシから声を掛けてくれたんだ。

林　元々中学生くらいから趣味でマスクを作ってたんですよ。高校生の時には、全日本プロレスの選手の衣装とか作るようになって。それで、ミステリオがJ－Cupで来日した時に、他の選手を通じて試合前日にあったんです。当時名前は知ってたんですけど、試合を見たらあまりの凄さにビックリ。感動しちゃって、2回目に来日した時に、自分で作ったマスクのサンプルを渡して「コスチュームを作らせてほしい」って頼んだんです。

ミステリオ　素晴らしい出来で、本当に驚いたんだよ！　感動さえ覚えたほど。それからコスチューム製作を頼むようになって、もう10年になるんだ。

林　当時、ミステリオはAAAに所属してたんですけど、知り合って一年後くらいにWCWへ移籍して。そうすると、毎週違ったコスチュームを着ているから、バックステージで他の選手が「誰が作ってるんだ？」って聞いてくるらしいんです。そこから、クリス・ジェリコ、クリス・ベノワ、エディ・ゲレロを紹介してもらい、本格的に仕事として成り立つようになったんですよ。AAA代表アントニオ・ペーニャとの交流もミステリオを通じてだし、WCW商品部を紹介してもらったからSOLLUNAができるようになったわけだし。ボクにとっては、本当に大切な人物ですね。

――ミステリオから交流の輪が広がったんですね。ところで、基本的な質問を一つ。ミステリオ選手はなぜマスクを被るようになったんですか？

ミステリオ　伝統だからね。メキシコでは約95％のレスラーがマスクを被っていると思うよ。マスクを被ることは名誉でもあるんだ。ボクの憧れでもある叔父さん（先代のレイ・ミステリオ）は17年間もマスクを被っていた。だから、ボクもマスクマンに！って、ずっと思ってたんだ。

――マスクには重要な意味があるんですね。

ミステリオ　とっても重要だよ。

林　ミステリオはWCWでマスクを一度脱いでるんですよ（1999年2月21日　対ケビン・ナッシュ戦）。その時、ボクはバックステージでミステリオの家族やジェリコと一緒に見てたんです。そしたら、シコシスがやってきて茶化すんですよ。「いよいよマスクを脱ぎよるぞ～」って。この時ばかりは、ミステリオの奥さんがマジ切れしてましたね（笑）。

ミステリオ　フフフ、当時のWCW幹部にはマスクの重要性がわかる人間なんていなかったんだ。マスクを被るっていうことは、ルチャ・リブレの歴史に加わるっていうことなのにね。マスクをかけた試合なんてクレイジーな提案をしたのはエリック・ビショフ（当時のWCW副社長）だ。幹部の命令を断れるわけないよね。試合に負けて仕方なくマスクを脱いでバックステージに戻った時は、さすがに涙が止まらなかった。本当に悲しかったんだ。

――でも、人気は落ちませんでした。

ミステリオ　なんだか変な気もしたんだけど、マスクを脱いだら、女性ファンが「見



これがミステリオお気に入りのコスチュームのひとつ、スパイダーマン仕様。スパイダーマンのポーズまで決めてるぞ！　この他にもマーヴェル・コミックスのキャラはほぼ網羅。本当に映画進出を狙ってるの？











て！　ミステリオってカワイイ〜！」なんて言い始めちゃって（笑）。結果としては、いい方に転がっちゃったんだ。でも、WWEでまたマスクが被れて本当にうれしいよ。

林　WWEでマスクを被るようになったのは、どうやらマーチャンダイズ的戦略が大きかったみたいですね。マスクって商品としても売れるでしょ。

——なるほど！

林　で、WWEに入る2〜3ヶ月くらい前ですかねぇ。ミステリオがまたマスクを被ることになって、「どうしようか？」って話し合って……。WCW時代は、いわゆるメキシカン・レスラーのスタイルだったから、今度は〝覆面〟じゃなくて、ゴムを使ったり、革を全面に出したマスクにしようって提案したんです。そこで、ゴム製と普通のマスクと試作品をいくつか作って、WWEデビュー前にミステリオがオフィスに持っていって幹部に相談したんですよ。そしたら、「昔のイメージが強いから、できるだけ昔に近い形で」って言われたそうなんです。

ミステリオ　ファンは〝レイ・ミステリオ＝マスクマン〟として認識しているからね。「WCW時代みたいにマスクを取ってくれよ」なんていうファンは一人もいない。みんな「レイ、またWWEでマスクを被ってくれてうれしいよ」って具合さ。一種スーパーヒーローみたいに思っているんだろうね。

林　実際マーベル・コミックに出てくるキャラクターものをアレンジしたコスチュームを何度も作ってるしね。スパイダーマン、デアデビル、スポーン、バットマン、ハルク…、やってないのは、キャプテン・アメリカくらいかなぁ？　多分、ミステリオは将来ヒーローものの映画出演か何か狙ってますよ（笑）。必ず映画公開の時期にあわせてますから。「あわよくば…」って考えてるはず（笑）。

ミステリオ　フフフ。

——ご本人の一番のお気に入りはどのコスチュームなんですか？

ミステリオ　WCW時代に1997年のハロウィン・ヘイヴォックで着たファントム風コスチュームだね。

林　あのエディ・ゲレロと闘った時の！

ミステリオ　そう、ボディスーツみたいなものにエアブラシで模様が描いてあったんだ。

林　あれは一番難しかったコスチュームですね。元々あるファントムっていうキャラクターのイメージを崩さずに、どうやってアレンジしようか相当悩んだんですよ。

ミステリオ　実はあのコスチュームには大事な意味があってね。エディとの試合が、その年の（ファン選出の）ベストマッチ・オブ・ジ・イヤーに選ばれたんだよ。今、そのコスチュームとマスクを額に入れて、トロフィーと一緒に自宅に飾ってあるんだ。ボクの家に遊びにくれば、いつでも見られるよ。

——おっと、いつかお邪魔しなくては（笑）。そもそもミステリオさんのマスクのデザインも林さんが考えられたんですか？

林　最初は元々被っていたデザインの線を整えました。配色と生地のコンビネーションを考えてから製作するのがボクの役目ですね。

——そうしたらバリエーションをつけるのは大変ですよね。

林　正直なところ、限界が来ますよね（笑）。しかも「毎週色を変えたい」とか言うし。何を言っとんねん！って話ですよ（笑）。しかもPPVに出たら、最低でも毎月5枚のマスクが必要になる。さすがに、それは厳しいので、今はボクとメキシコにあるBucioっていうメーカーと2ヶ所で作っています。できれば全部作りたいんですけどね。

ミステリオ　ハヤシが作るマスクとBucioのものでは結構違いがあるんだ。素材の質や肌ざわりが全然違う。しかも、ハヤシのコスチュームは、マスクに宝石のような石を散りばめてみたり、ラバーを張りつけてみたり、オリジナル性に溢れている。何よりも、ボクの趣味をバッチリ分かってくれているから、とってもやりやすいんだ。でも、ハ

ヤシは作るのに時間が掛かるんだよね（笑）。

——この10年で何枚くらい注文しました？

ミステリオ　God！　何枚くらいだろう？

林　100着……。

ミステリオ　それ以上だな。スゴイ数だね。

——林さんはどんな点を考慮しながら、コスチュームを作っているんですか？

林　アメリカの会場は広いから、色のコントラストには気を配りますね。模様と地の部分の色に反対色を使うか、同化させるか。例えば、白と黒を使うか、黒と黒にするか、みたいに。WWE入団当初は、できるだけマスクを浸透させるために、コントラストをはっきりさせた組み合わせを心がけていたんですけど、浸透した今はいろいろ遊べるようになりましたね。

——WWEには衣装部もあるとか。

林　そうなんですよ。『RAW』と『SMACKDOWN！』合わせて4人くらいで衣装を作っているんです。TVショーの時は、必ず舞台裏にいますよ。ボクも3年位前から2年近くの間、毎月一度アメリカまで通って、そこで勉強させてもらってことがあるんですよ。

——日本とアメリカでは大きな違いがありましたか？

林　違いますよ。日本は、プロレスもスポーツだから、コスチュームはまず動きやすさを考えるんです。確かにWWEのコスチュームも動きやすさは考えてあるんですけど、それよりも〝いかに舞台映えするか〟という限りなく舞台衣装に近い発想なんです。そして、カメラのアップに耐えられるように作られていますね。

——具体的には？

林　例えば、日の丸のマークを入れましょうってなったら、日本のメーカーは即プリントしますよ。最近の日本の主流はプリントものですからね。でも、それだと生地と模様が同化してしまって浮かび上がらない。弱いんですね。でも、WWEなら、日の丸の赤い部分には赤い生地を張りつけた上に、その赤の周りに銀色の縁取りとかつけますよ。雑誌の見出しの文字と一緒で、縁取りをつけると模様が浮き出て見えるんです。そんなことを衣装でもするんです。細かい刺繍をしてみたり、とかね。

——それはまた手が込んでますね〜。照明も完璧だから、それに耐えうる衣装じゃないとダメだってことですね。

林　とにかく見栄えとアップに耐えられるか。トリプルHのパンツなんてシンプルに見えますけど、あのお尻に入ってる模様もすべてキレイに生地だけで作られていて縁取りされてますからね。日本のコスチューム屋じゃできない技ですね。最初は「面倒くさいことしてるなぁ」って思ったんですけど、ホントいい勉強になりました。

——全員の衣装をWWE衣装部で作っているわけではないんですか？

林　順番待ちらしいですよ。入りたての選手とか、外に発注してるみたいですね。やっぱり違いは分かりますよ。この前、（レオナルド・）スパンキーが言ってましたけど、衣装部に頼んでも2ヶ月くらい掛かるって。ディーバの衣装で手一杯らしいですわ（笑）。

——最近はコスプレマッチも多いですからね（笑）。さて、4月には年間最大のPPV大会『WRESTLEMANIA21』が迫っていますが、何かコスチュームのアイディアはあるんですか？

ミステリオ　今回ちょうどハヤシとその打ち合わせをしたんだけど、ボクはダイヤモンドを使ったスペシャル・マスクを作りたいんだ。

林　えっ!?　ダイヤモンドなんて今、初めて聞いた（笑）。

——話し合ったんじゃなかったんですか？（笑）。

林　いや、「立体的なマスクを被りたい」とは言ってましたけど、ダイヤモンドは聞いてない（笑）。彼がイメージしているのは、以前ウルティモ・ドラゴンがWWEに復帰する時、新マスクを披露したじゃないですか？　あんな感じのマスクらしいんですけどね。それにしても、ダイヤモンドって。何気なく「つけておけよ」って言ってるんですかね？　その前にダイヤモンドを持ってきてくれ！（笑）

ミステリオ　フフフ、レッスルマニアは特別な大会だから、特別な衣装で出たいだけなんだよ（笑）。

林　恒例になってますからね。それにしても思い付きが多いなぁ（笑）。

——それ以外にも、少しだけ教えてください！

ミステリオ　ボクはかつて、ルイ・ヴィトン、グッチ模様のコスチュームを着たことがあるんだ。覚えてるかな？　それってレスリング界では見たことがないだろ？　だから、今度はフェンディとかブルガリにも挑戦してみたいね。

林　ヴィトンもグッチもどこからか生地を調達してきたんですよ。本物？って聞いたら、「本物だ」って（笑）。ぶっちゃけ横流しの生地だとは思うんですけどね。権利関係がどうなってるかなんて、ボクは知りませんよ（笑）。

ミステリオ　とにかくみんなの想像を超えることをしたいんだ。何か違ったことをね。ジョン・シナがヒップホップをレスリング界に取り入れたように、ボクはファッションブランドを取り入れて行きたいんだ。

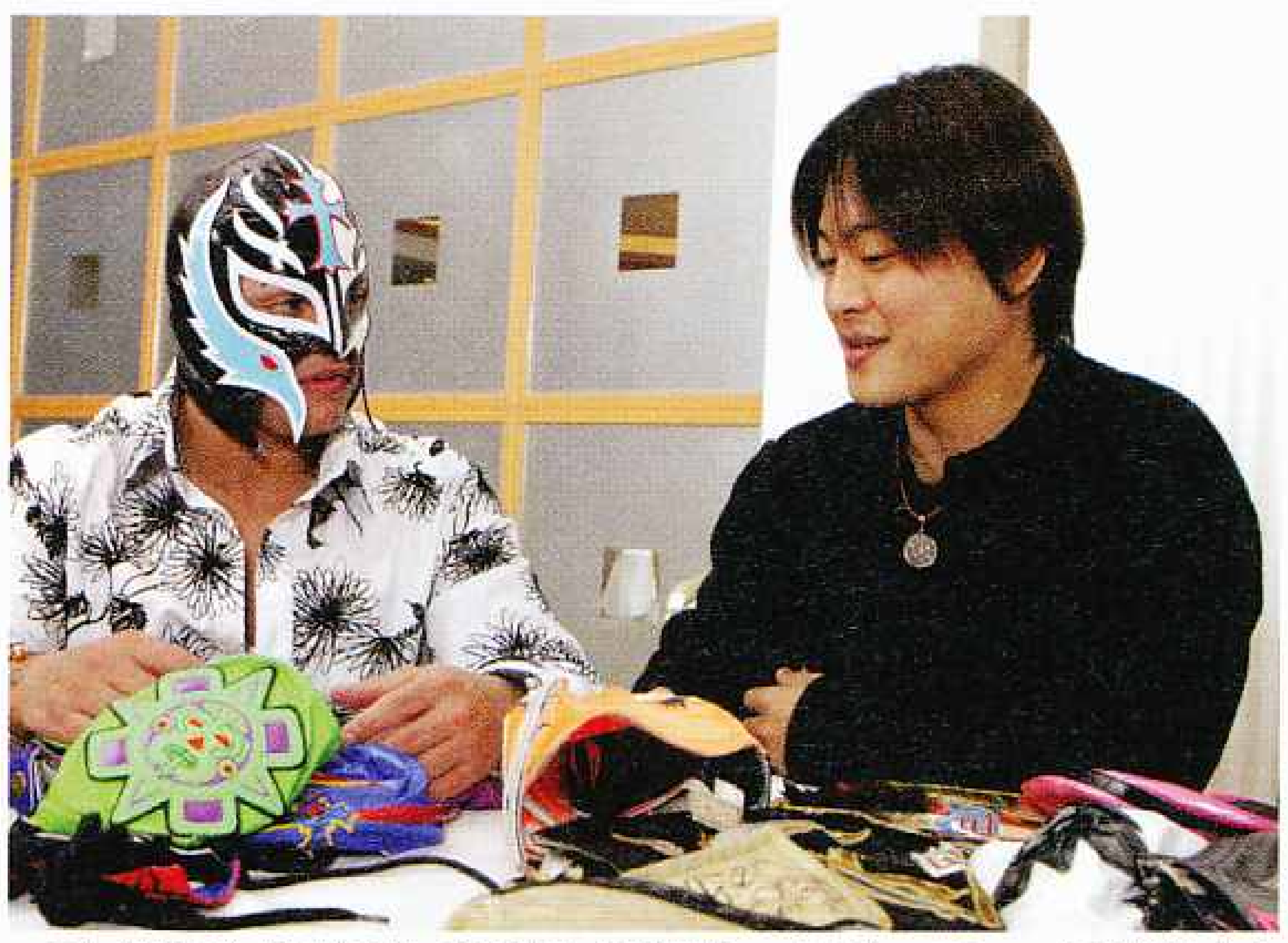
——新しい発想ですね。いいアイディアだと思いますよ。これからも楽しいコスチュームで私たちを驚かせてください！

ミステリオ　どうもありがとう。

マスクを製作する際、実は必ず2枚作っているという林氏。もちろん1枚はミステリオの試合用。そして、もう1枚は自らのコレクション用だ。今回の撮影にあたり、そのコレクションの一部を持参していただいたのだが、その仕事の細かさにはため息が漏れるほどだった。ミステリオもそれぞれのマスクに思い出があるようで、感慨深げにマスクを眺める場面も。

現在3台のミシンを駆使してコスチューム製作に勤しむ林氏は、ミステリオやWWEスーパースターのコスチュームだけではなく、坂田亘をはじめ、あのハッスル出場選手のコスチュームや人気コスプレバンドのサイコ・ル・シェイムの衣装も製作。そのほか、AAAの来日興行も一手に引き受けるなど、既存の〝プロレス〟という概念に当てはまらないイベントの影には、必ずや氏の姿があると言っても過言ではない。

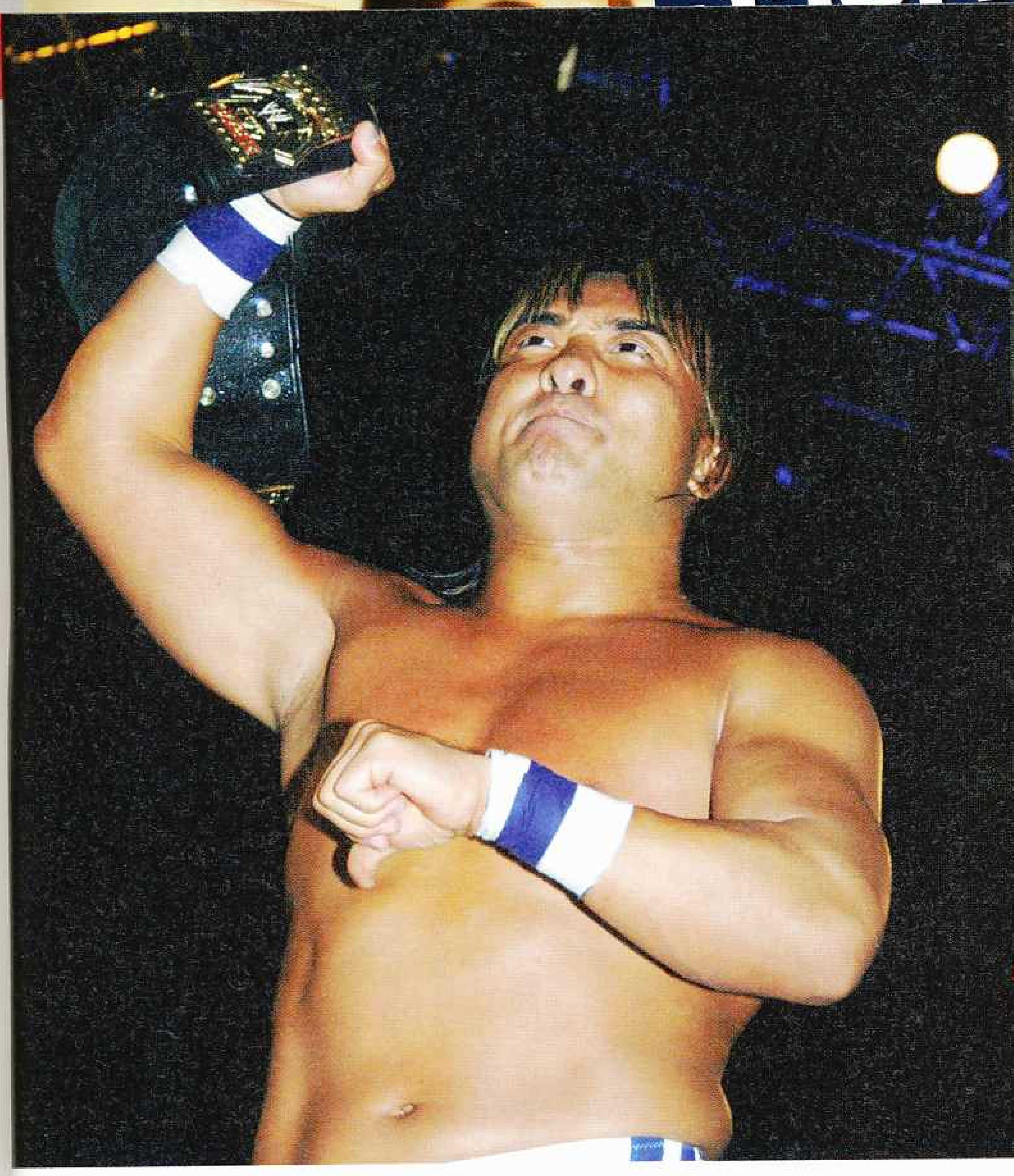
そんな林氏と世界中を魅了するミステリオ。コスチュームを通じて、二人が今後どんな〝仕掛け〟を見せてくれるのか、WWEファンならずとも要注目だ！



マスクを見れば、その時の思い出が蘇る。両者とも、マスクとコスチュームには並々ならぬ思い入れを込めているからこそ、話はヒートアップ！　右のページのようにズラリと並べたマスクを手に取り、ミステリオはいつのマスクかすべて言い当てた。この林氏が手がけるSOLLUNAのHPはhttp://www.sollunawwe.com/（PC）　http://www.sollunawwe.com/i/（携帯）コスチューム制作の依頼等はinfo@sollunawwe.comまで

〈サトウナオコ・プロフィール〉
シカゴ在住フリーライター／翻訳者。スポーツ、米サブカルチャーをカバー。ぴあ発行「月刊SKYPerfecTV！」で米スポーツ情報を連載中。好きなレスラーは天龍源一郎とエディ・ゲレロ。あっランディ・オートンも。

3·19K-1アジアGP一回戦で

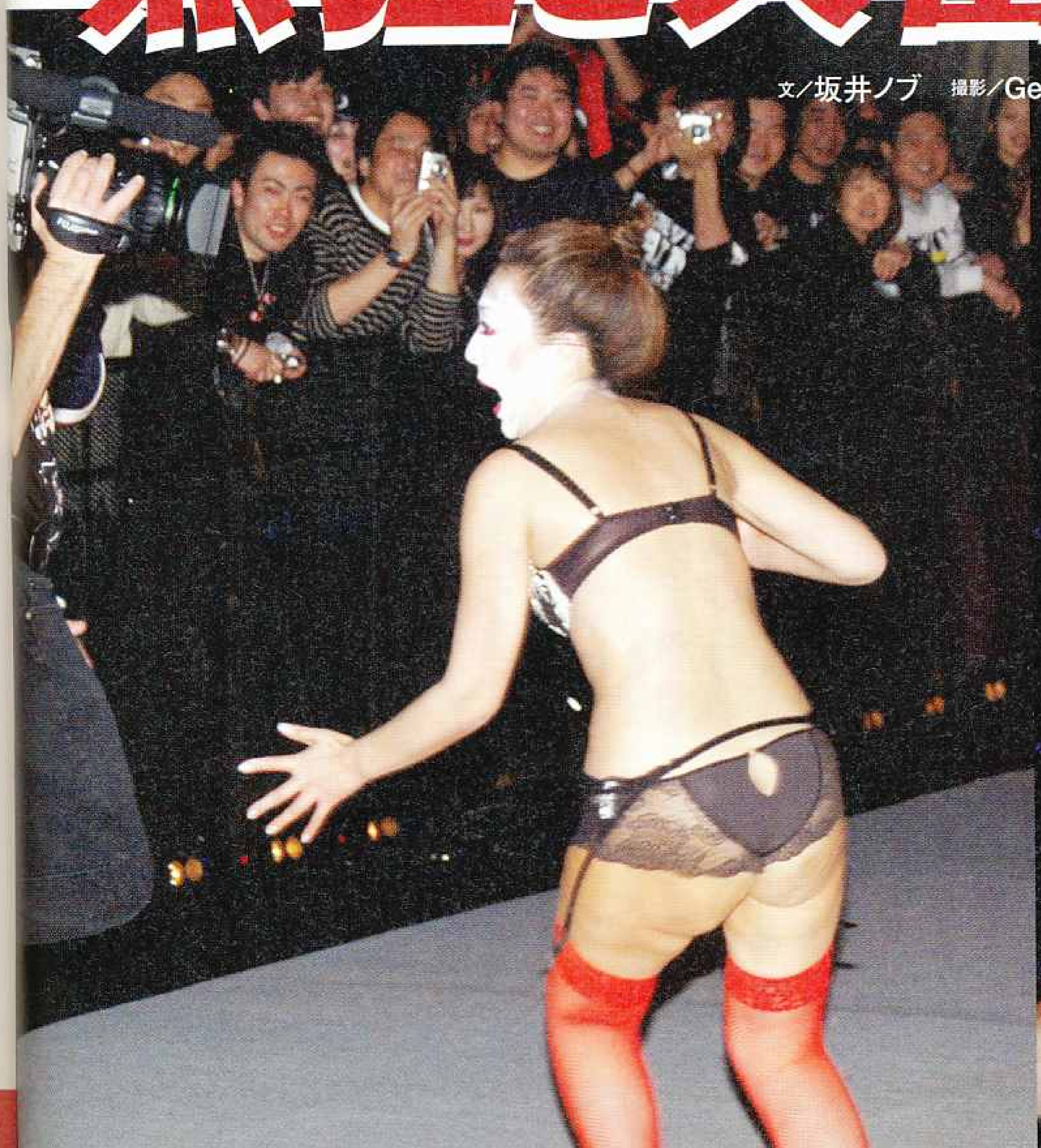


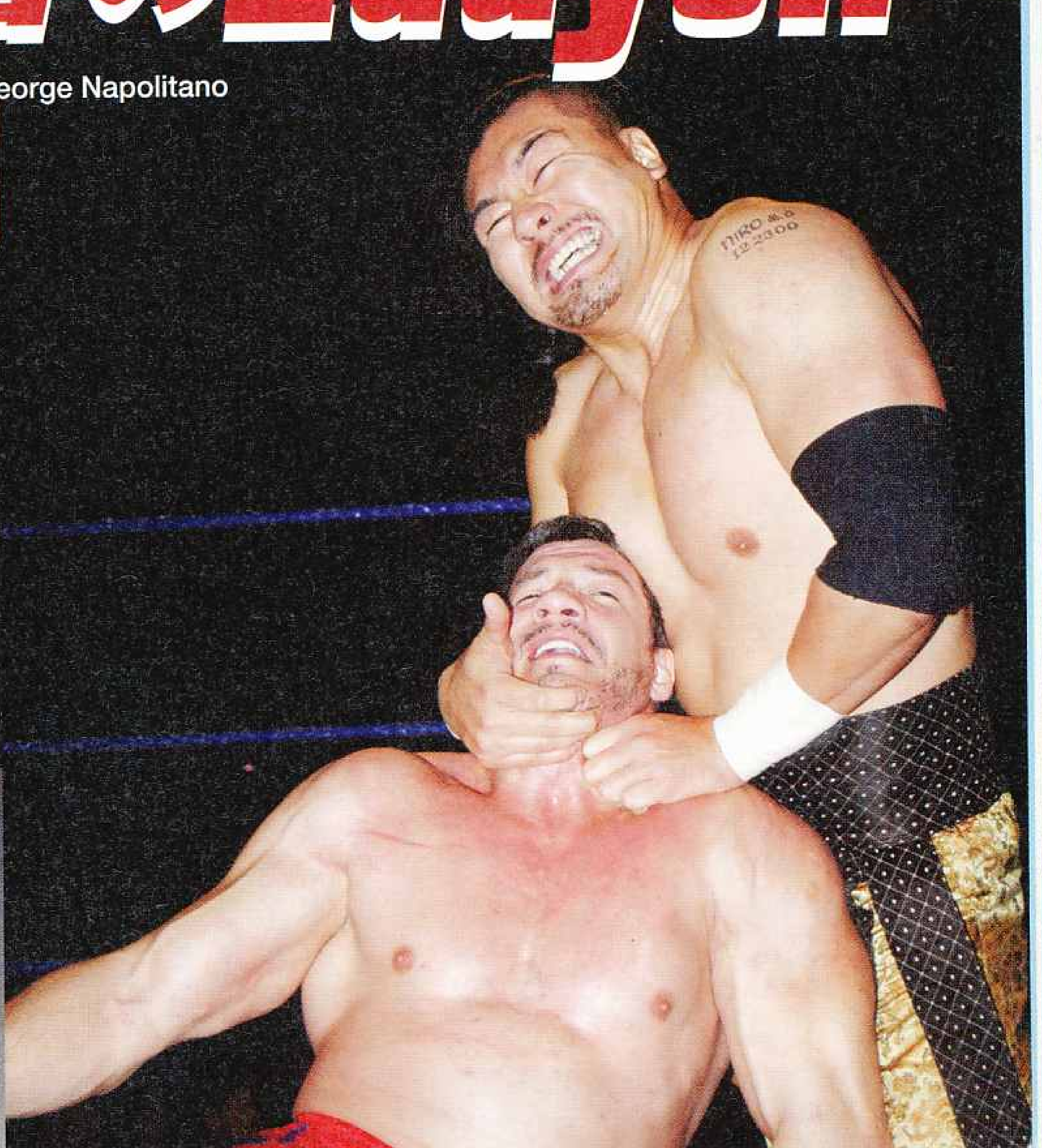


WWE初のTVショーは

熱狂と興奮の2days!!

文／坂井ノブ　撮影／George Napolitano







WWEスーパースターズの圧倒的な表現力に脱帽!

「日本の観客は難しい」

伝え聞いたところによると、今回の日本ツアーでそんなようなことをWWEのストーリーライターは言っていたらしい。たしかに、アメリカの観客のように沸きっぱなし、騒ぎっぱなしということはなく、日本の観客はリングの内外で起こることをじっくりと見つめていた。実際に昨年3月にMSGで見た時とは観客のリアクションはだいぶ違う。言葉の壁もある。だからこそ、今回の日本ツアーではWWEの真の実力を垣間見ることが出来た。

いままで日本の大会で行われてきたハウスショーだと、TVでは短時間しか見られない（あるいは試合は見られない）WWEスーパースターズの試合をじっくり見られるというメリットはあった。しかし、それはどこか日本という国に合わせたスタイルで、本場直輸入というわけにはいかなかったのも事実。

しかし、今回はストーリーラインがダイナミックに動くTVマッチだ。『WRESTLEMANIA』（以下、WM）を頂点とする年間ストーリーの1話が、ここ日本でも繰り広げられる。そして演出もアメリカそのまんまというわけではないが、今までの日本大会では最も豪華なものとなった。「うどん」「お食事処」「カレーライス」などと書かれたノボリに、ちょっと複雑な心境になりながらも、巨大なタイタントロンに心が躍った。

大会前、そのトロンに映し出されたのは過去の『WM』のフラッシュバック映像だ。ハルク・ホーガン対アンドレ・ザ・ジャイアント、ショーン・マイケルズ対レザー・ラモンのラダーマッチなど過去の名勝負からクリス・ベノワがトリプルHからタップを奪った感動の『WM20』まで一気に駆け抜ける。この映像がまるでWWEの世界へと繋がるトンネルのような役割となって、見終わると気分がグッと高揚する。映像だけでなく、パイロ（花火）や音響といった試合以外の部分から〝イベント作り〟は始まっているのだ。特にRAW開始前に炸裂したパイロは、消防法の関係上、アメリカほどの大きなモノではなかったにせよ観客の高揚感を大いにあおった。

ところが、オープニングでエリック・ビショフが挨拶をはじめると観客から不満のブーイングが発生する。それはビショフよりも一緒にリングに上がった通訳の男性に向けられていた。

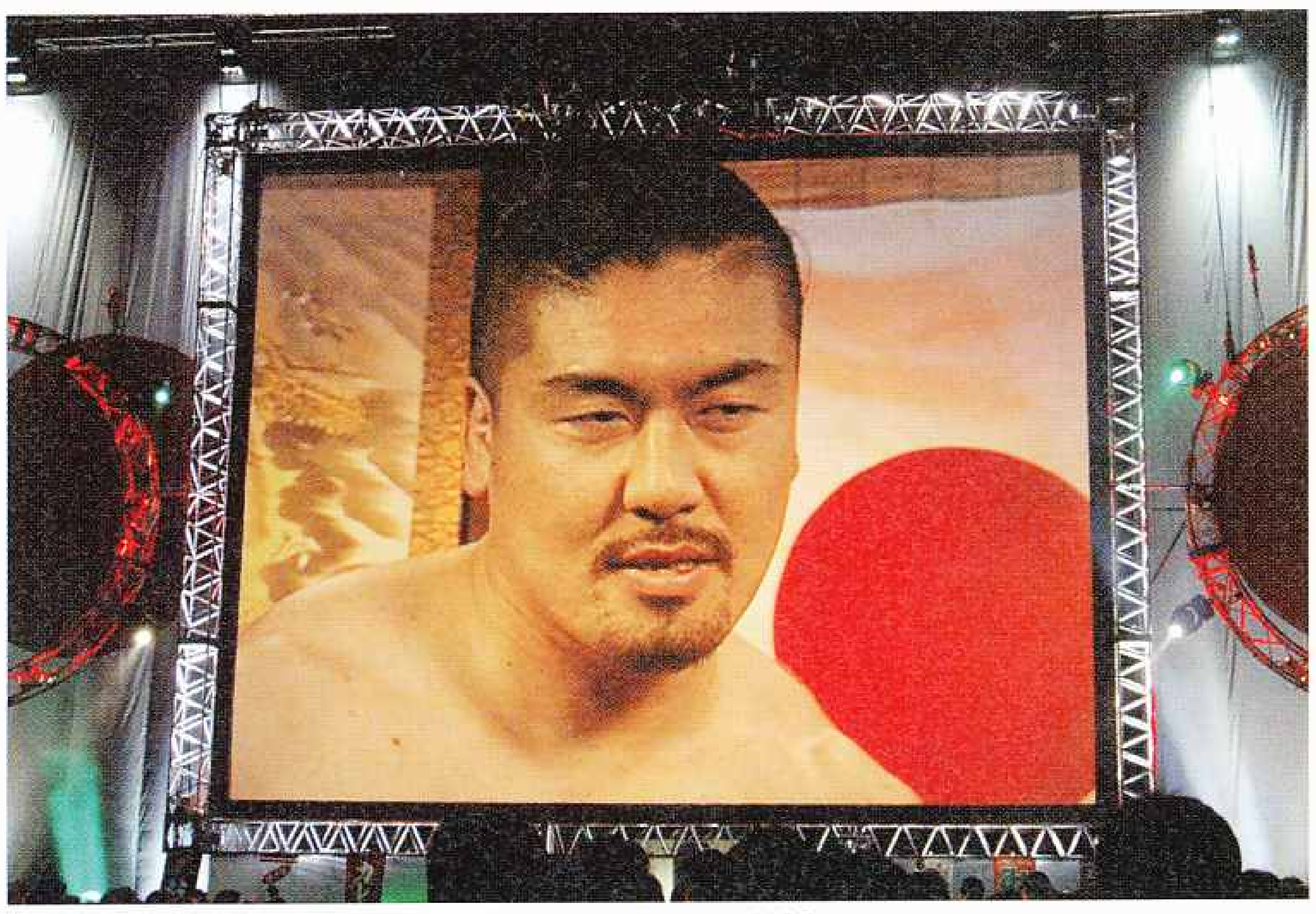
「俺たちは本物のWWEが見たいんだ！」

2001年3月の横浜アリーナ大会でシェイン・マクマホンの通訳としてリングに登場したウォーリー山口氏に浴びせられたブーイングと全く同種の徹底的なな拒否反応だった。つまりTVで見ているWWEと同じモノを見せろ！ということだ。まあ、これが下手をすればヒールのビショフが観客から声援を浴びかねない状況を回避するために仕組まれたモノだとすれば本当に大したものだが。

そんな観客も、日本人スーパースターの活躍には熱い声援とブーイングで後押しをする。『RAW』でタジリがウィリアム・リーガルとタッグ王座を奪取した時の盛り上がりは凄かった！ 翌日の『SMACKDOWN!』ではケンゾーが「ボクはスーパースターです。世界のスーパースターです。お前ら、頭悪いから松井のことをスーパースターだと思ってるんだろ？ お前らみたいにこんな小さな国におさまってるボクじゃないんだよねぇ。ゴッド・ブレス・アメリカ!!」とアメリカかぶれ＆ビッグスター気取りでビジョンから煽ると観客は大ブーイング。ただし、これは通訳に浴びせられたブーイングとは違う。ヒールとしてケンゾーが勝ち得たブーイングだった。また、クルーザー級王座として凱旋したフナキは実力者のチャボ・ゲレロと魅せる試合を繰り広げ、観客を唸らせた。ヒロコは日本では初めて観客の前で試合を行うということで、かなりナーバスになっていたようだが、見事な脱がされっぷり。「外人が思う日本人像を日本人の前で演じる日本人」という、かなり捻（ねじ）れたシチュエーションを見事なテンションでやり切った。

タジリ、ケンゾーが言葉でも観客にアピールする一方で、言葉の通じないWWEスーパースターズは体と試合ですべてを表現した。特にP78に掲載したトリプルHとバティスタの写真を見て頂きたい。トリプルHの持つ世界ヘビー級王座が欲しくて目線をベルトに向けるバティスタ、それにおののくトリプルHというこの構図。配下のバティスタがいつ自分に牙を剥くか戦々恐々としているトリプルH、そして徐々に自我があらわれてきたバティスタ、その人間模様が言葉の壁を簡単に越えて伝わってくる圧倒的な表現力！

「プロレスは1、2、3とギブアップさえ分かれば、どこでもできる」というシェイン・マクマホンの言葉は嘘ではなかった。この調子でまた7月に日本でのTVマッチ開催を希望したい。そして、『ROYAL RUMBLE』で足を負傷、手術をしていて来日不能となったビンス・マクマホンの登場を首を長くして待とうではないか！



じつにブーイングの飛ばし甲斐がある顔だ。ヒールの作法がじつに似合う。





3·19K-1アジアGP一回戦で

ネタバレ通信 Vol.21

ネタバレ情報密売団F・B・Iプレゼンツ

大フィーバー！ WWE来日の舞台裏

何時男　いやはや、日本初のＴＶショーも終わりました。初めてのことなんで舞台裏はかなりゴタゴタしてたみたいですね。

派乱暴　当初はブッカーTが来日予定選手リストに入ってて、なぜかファンクラブのイベントに出る予定だったんですよ。

叙似位　過去、日本で警察沙汰があったか何だかで、今までずっと入国できなかったんですけどね。

何時男　今回は相当気合い入れてきてるのかなと思ったら……。

派乱暴　やっぱり来なかったです！

叙似位　自分の結婚式は予定通りその週の日曜日にやったみたいですよ（笑）。

何時男　紙プロにも写真を提供してくれてるカメラマンのジョージ・ナポリターノさんが言ってましたけど、今回はスーパースターズのマネージャーがいつもとは違う人だったんですよね。

派乱暴　そうそう。いつもはナポリターノさんの親友のラファエルさんなんですけど、今回のプロモーションとマネージメント担当はブレット・ハートという人で……。

叙似位　それってまさか!?（笑）。

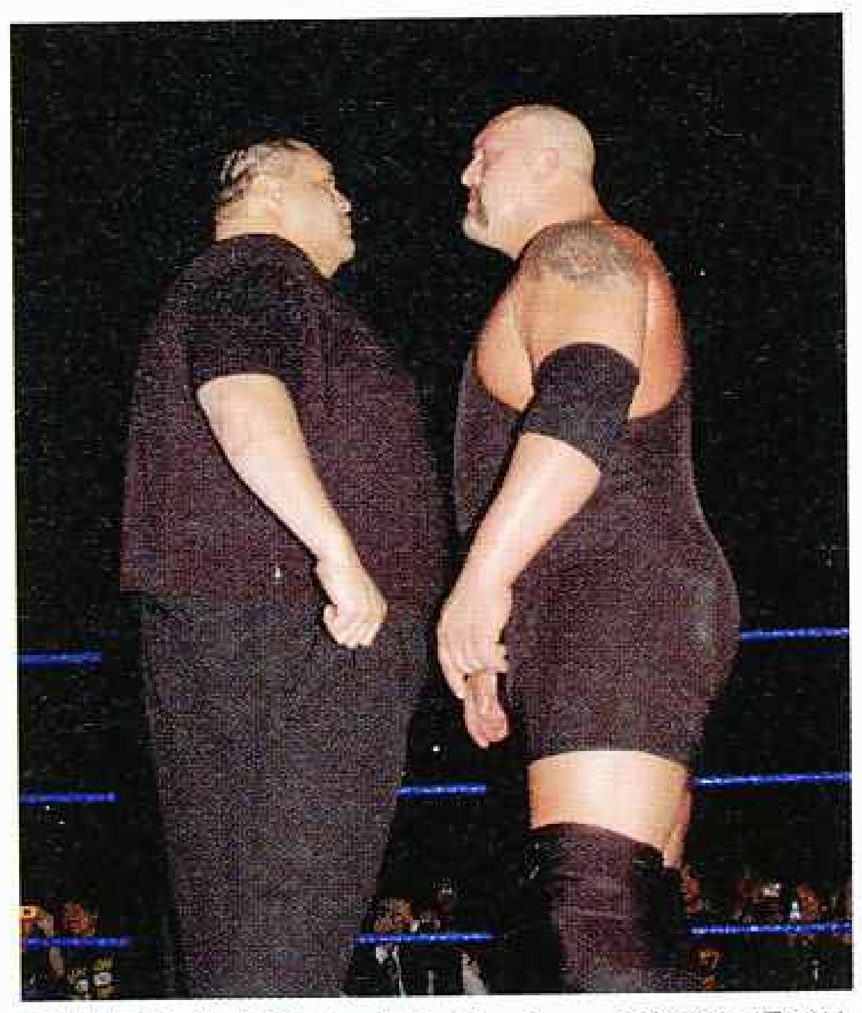
派乱暴　一瞬「ヒットマンか？」と思ったんですけど、同姓同名なだけで完全に別人でした（笑）。ラファエルさんはブッカーTが入国できないのを分かっていたけど、そのブレット・ハートさんは初めて日本の担当になって知らなかったんだと思います。

何時男　大会の演出はいかがでしたか？

叙似位　去年のマンチェスター大会でも巨大な旗とビジョンだけでしたから、ボクはあのレベルだろうなとは最初から思ってました。

何時男　あの「うどん」とか「お食事処」ってノボリをバックに、アンダーテイカーが片手を突き上げてるのを見たら、少し悲しくなってしまいましたけどね（笑）。

叙似位　そうですか？　ボクは好きでしたよ、あのノボリ。やっぱり日本なんだから、日本独自の演出がしてある方が雰囲気も出ると思うし。



曙を見下ろす大巨人！　ビッグ・ショーの挑発で曙がリングに上がった件をK－1谷川Pは「ガチンコですよ」「曙選手は契約違反」「こっちも（WWEから）引き抜く」と大憤慨した。　Photo/George Napolitano

何時男　内容はどうでしたか？

叙似位　「ＲＡＷ」の方が内容が良かったという声は多いですね。ただ、客席の雰囲気は「ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！」の方が良かったって声も多いし。両日とも大差はないと思いますよ。

何時男　まあ見た人それぞれだと思うんですけど、「ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！」のメイン、アンダーテイカー対ハイデンライクはキツかった！

派乱暴　あの試合、ＴＶ放映されないみたいですよ。ボーナストラック扱いですね。

何時男　だから延々とグラウンドやって、フィニッシュも唐突な関節技だったのか。

叙似位　まあ、やっぱりアメリカと比較するとキリがないんですよ。時差もあるし、距離だってあるし、細かい違いを数え上げればキリがないんですけど、それでも「ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！」は少し「アレ？」と思う場面が多かったですね（笑）。

何時男　そうでしょ？（笑）。

叙似位　「ＲＡＷ」は実況席のＪＲとキングが入場してきて、「あ、本当にＴＶマッチだ！」ってグッとテンションが上がったんですけど、それがなかったですからね。マイケル・コールとタズの声は後からかぶせるんで来日すらしていなかったという（笑）。手を抜かれちゃったのかなぁ……って印象ですね。

派乱暴　クリスマスのイラク大会もそうでしたよね。

叙似位　そんな中で2日間とも曙が登場してましたけど、あれは良かったですねぇ。特にサイモン・ディーンに「日本人はスモウレスラーみたいなデブばっかり」ってからかわれた時に、ガンガン柵を揺らす姿は最高！　曙の初勝利と言っても過言じゃないですね（笑）。

何時男　なぜか会場に来てた谷川貞治Ｋ・１プロデューサーが「聞いてない。ガチンコです」ってコメントしてましたけど（笑）。

叙似位　試合後にプレスのたまり場に顔を出して「ここがプレスルームなんだぁ～？」「テイカーかっこよかったよぉ」とかノンキに言ってたのに（笑）。

何時男　ナポリターノさんが『ファイト』で「リック・バスマンをバックステージで見た」って言ってたから、バスマンとＫ・１との繋がりで実現したんでしょうけどね。

叙似位　ジョニー・エースはかなり曙をお気に入りだったみたいです。『レッスルマニア21』で出したいって（笑）。

伝説の団体ECWがPPV大会で6月復活！

何時男　今回、日本ではトライアウトやったんですか？

叙似位　スペル・クレイジーがテストマッチを受けたみたいですよ。

今月の新作は3本！一気に大放出だ！

昨年の2大会がそれぞれＤＶＤに。日本ツアーをライブで見逃した人はＴＶで見る前に復習！『タブー・チューズデイ２００４』では〝レジェンド〟フレアーと〝レジェンド・キラー〟オートンがケージで激突！ ほか、トリプルＨとＨＢＫのライバル対決も収録。『サバイバーシリーズ２００４』ではシリーズ名物、軍団対抗戦が『ＲＡＷ』『ＳＭＡＣＫＤＯＷＮ！』両ブランドからラインナップ。

最後の一本は『ジョン・シナ　ワード・ライフ』。怒涛のラップとクールな外見で『ＳＭＡＣＫ～』のエースに躍り出た〝ワル学の帝王〟ジョン・シナの名場面集！ レスナー、テイカーに浴びせた痛烈ラップなどシナの魅力が爆発！ 3本とも絶賛発売中！

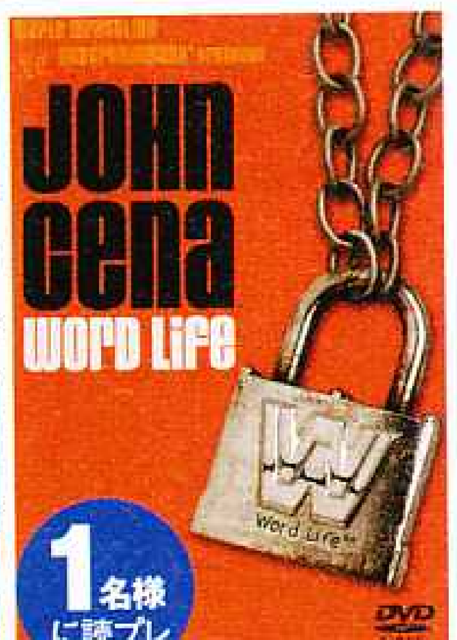
提供■ユークス



『タブー・チューズデイ２００４』（ＤＶＤ：￥３，９９０・税込）ディーバ7人のコスプレ・バトルロワイヤルは必見！



『サバイバーシリーズ２００４』（ＤＶＤ：￥３，９９０・税込）墓堀人絶体絶命!?



『ジョン・シナ　ワード・ライフ』（ＤＶＤ：￥３，９９０・税込）全米を沸かせたマシンガントークに酔いしれろ！



AAAの来日から1週間、世界最大のプロレス団体WWEが初のTVショーで上陸した。TVショーということで、例年のハウスショー以上に舞台裏は混乱した模様で様々な話が伝わってきた。そんな中で、曙という異物混入は予想以上の面白さ！（もちろん、サイモン・ディーンも最高）。谷川さんのコメントも含めて、K-1の抱えるタレント（谷川さん含む）はプロレスでこそ光るのでは？と思った次第です。

■F.B.I.とは「踏み込んだところまで・バラしちゃって・いいかな？（いいとも！）」の略。何時男（なんじお）はプロレス業界の末端に潜伏中、叙似位（じょにー）は桁外れのパワーで圧倒的な情報量を誇り、派乱暴（ぱらんぼ）は裏方さんとしてWWEに携わる。WWEとアメリカンプロレスを愛してやまないズッコケ3人組だ。

6月12日にWWEが開催するECWのPPVに向けて選手をかき集めてるみたいですよ。もうWWEが大会名である「One Night Stand」を商標登録して、ドメイン名まで取得してるみたいですから。トミー・ドリーマーやタジリら元ECWのメンバーが選手を集めているという噂です。

何時男　それは楽しみですねぇ～！　ニュー・ジャックも契約したとかいう噂ですよね。

叙似位　あと、初代シコシスにも声がかかって、ほぼ入団は決定的みたいです。日本に来る直前のサン・ホゼ大会で、タジリとダークマッチをやったらしいです。

派乱暴　具体的に動き始めてるんですね。

叙似位　ただ、ヘイマンは「やりたくない」ってゴネてるみたいです。ECWは反骨精神でやっていた団体だし、今の形態でPPVをやったところでWWEの中でしかない。そこでECWでやっても存在意義が揺らいでしまうし、7～8年間支持してくれたファンを裏切る形になる、というのがヘイマンの主張です。

派乱暴　でも、WWEが出したECWのDVDは売り上げが相当良かったんですよね？

叙似位　だから、やらざるを得ない状況なんでしょうけど。シェーン・ダグラスやレイヴェンとかサンドマンにも声はかかってるらしいですけど、選手たちもヘイマンと同じくECWへのこだわりが強いみたいで「今やってどうなるの？」って（笑）。彼らはなんでも、ECWPPV前日の6月11日に本家ECWアリーナで興行を行なうそうなんです！　WWEのECWは以前やってたWCWとECWのアライアンスみたいな、あういうメンツで落ち着いてしまう可能性はありますよね。まあ、まだ先の話なんでどうなるか分からないですけど。


日米に熱狂的なファンを持ち、いまだに根強い人気を誇るECW。その復活の目玉となるであろうTAJIRI。観客が熱狂した日本でのタッグ王座奪取も大きな弾みとなるに違いない！　Photo/GeorgeNapolitano

何時男　田中将斗にも出てほしいなぁ。

叙似位　ディック東郷とかbWoも見たいですよね！　特にブルー・ミーニーとか（笑）。激やせして、最近はいい男になっちゃったみたいですけど。サイモン・ディーンも、もともとノヴァってキャラでECWに出てたし。

何時男　それとは別口なんでしょうけど、ストーンコールドも契約したみたいですね？

叙似位　WWE.comでも写真とプロフィールが復活してました。そんな中、ザ・ロックとWWEの契約は切れたみたいです。ただ、この2人は『WRESTLEMANIA21』に欠かせないでしょうから、何らかの形で登場するんじゃないですか？

派乱暴　カードは決まってるんですかね。

叙似位　オースチン&ホーガンvsモハメド・ハッサン&デバリという超愛国的なカードが噂になってます。

何時男　アメリカの大観衆の中で見たら盛り上がりそうですねぇ～。日本人的には居心地悪そうだけど（笑）。

【05年2月某日、都内某所にて収録】

某国民的写真週刊誌
編集次長・仙波久幸

ペイントマン劇場
～六本木でサイン攻めの巻～

「今回、WWEの一行は2月3日に来日して、夜いつものごとく六本木の某店に繰り出したんだよ。そこに行ったら、いつものようにジェリコに『こっち来い！』って呼ばれてさ（笑）。また顔に落書きされたんだよね。ご存じのように来日するたびにKISSのメンバーのペイントを描かれてて、今回はどうなるのかな？と思ったら、以前にも描かれたポール・スタンレーのペイント





（笑）。KISS顔面ペイント4人制覇の野望はちょっと足踏み状態だったね。ステイシーは『Oh！　PAINTMAN！』って覚えてくれて、頬に♥マーク入りでサインしてくれたんだよ。ちなみに、以前は『PAINTBOY』って呼ばれてたんだけど、さすがに40歳過ぎの男は『BOY』じゃなくなってたよ（笑）。ステイシーは自分のデジカメを取り出して2ショット写真まで撮ってたから。ステイシーの日本の思い出写真の中には、ペイントマンが入ってるんですよ（自慢げに）。今度はミステリオが『俺にも描かせろ』って619のサインをしてくれたんだよ、顔に（笑）。でもさあ、今回はあんまりお酒が入ってなかったから、銀マジックで顔に描かれたからすごくヒリヒリするんだよねぇ。ただ、この後に大事な会合があったからペイントを落とさなくちゃいけなくて、友達にクレンジングを買ってきてもらって慌てて落としたんだけど（笑）。素顔になったら今度はシェインとテイカーが一緒に来たんだよね。たまたま、その日はWRESTLEMANIA 21のチケットを入手したばっかりだったから、シェインにチケットにサインしてもらったんだよね（自慢げに）。ペイントしたままシェインに会いたかったなって、少し残念だったけど。



このチケットで4月3日はWM21行きますよぉ！　会社を休めるかどうか、いま調整中。どうなることやら……」（談）



WWE公式FCからお得な情報です！

●WWE　FC限定イベント開催

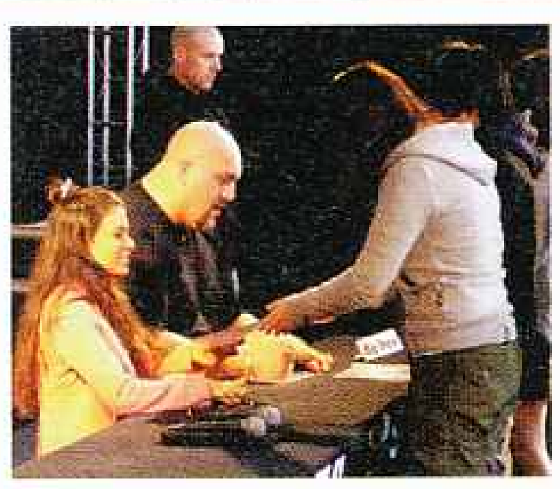
さいたまスーパーアリーナ公演時にWWEファンクラブ会員限定イベント「SKY PerfecTV! Presents SUPERSTARS MEETING」が行われ、抽選でチケットを手に入れた各日約350人のファンとWWEスーパースターは、サイン&握手会などの交流を楽しんだ。4日のイベントにはウィリアム・リーガル&ヴィクトリア&シェルトン・ベンジャミン、5日はビッグ・ショー&ジョイ&カリート・カリビアン・クール&レネ・デュプリが来場、相次ぐサプライズでファンを大いに驚かせた。

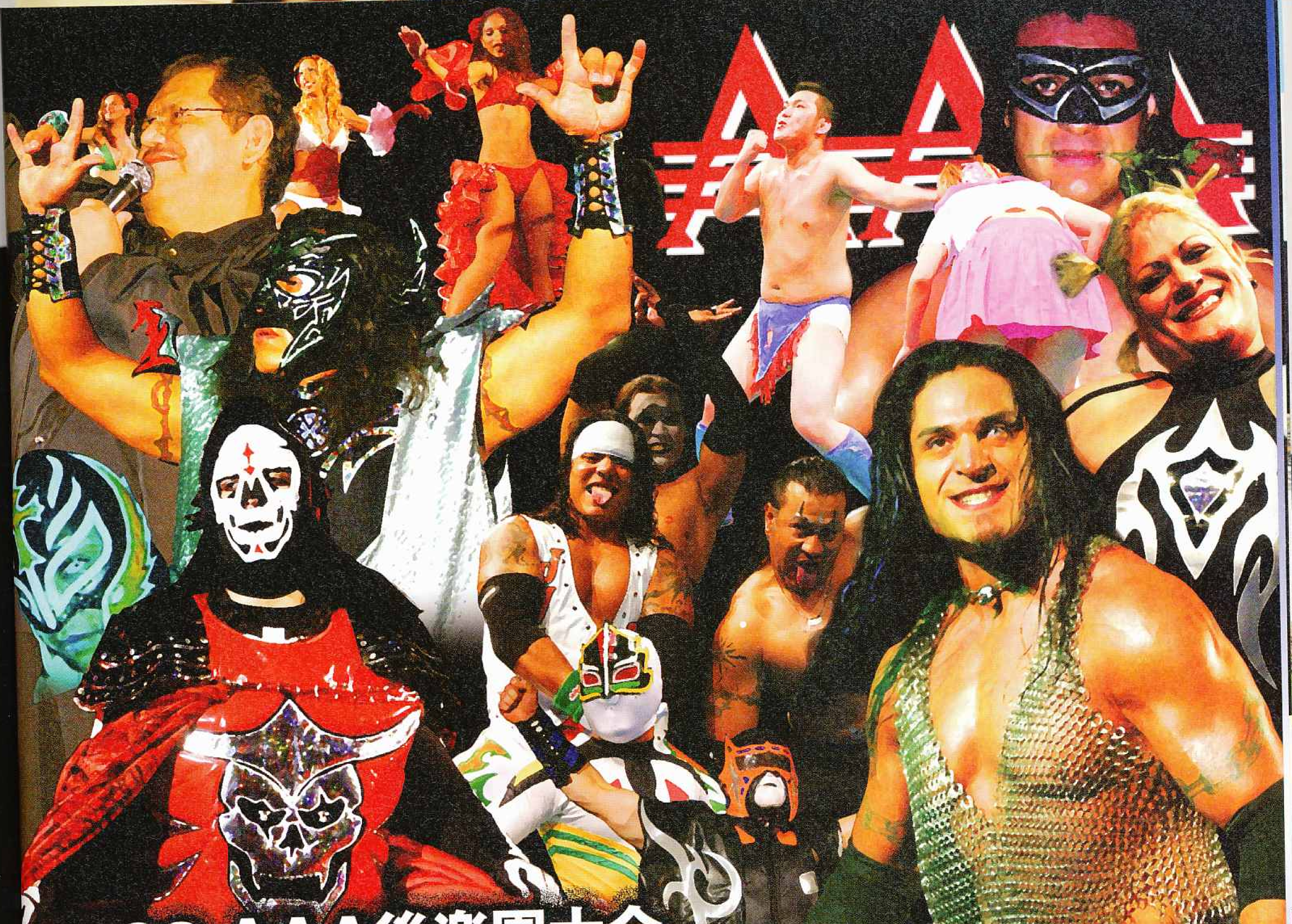
●2005年度WWE PPV放送情報

〈WWE PPVスペシャル視聴方法〉
☆WWE PPVスペシャルリングサイド2005（一括払い）15,750円（税込）
※WWE PPVイベントを年間最大で15大会ご視聴いただけます※2006年1月末日までのご契約となり、米国で2005年に開催された大会をご視聴できます。※途中解約はできませんのでご了承ください。
その他各大会ごとのPPV料金設定もしております。
（問）スカイパーフェクTV！カスタマーセンター　TEL:0570-039-888（受付10時～20時）

●WWEファンクラブ
:http://www.wwefanclub.ne.jp
会費を半年間￥4,000に改定。只今入会金無料キャンペーン中！


2月4日、ブッカーTはどこへ……!?　サイン会にはウィリアム・リーガルが登場した。こんな機会は滅多にない！


2日目の2月5日はビッグ・ショーとジョイが仲良く登場。しかしTVマッチ前の準備などで1時間で交代。



1·28 AAA後楽園大会

60億分の1なんか、どうでもいい…。

2004年、マット界の最大の感心事は、60億分の1を決める闘い『PRIDE・GP』に集中し、その結末となった大晦日の『男祭り』は大盛り上がりで幕を閉じた。空前の総合格闘技ブームの一方でプロレスは、最後の手段とも言えるIWGPと三冠ヘビーのタイトル統一戦に頼らざるを得ない状況まで追い込まれた。

隆盛を極める総合格闘技と、どん詰まりのプロレス。年末年始に改めてその明暗がクッキリと分かれた中、日本の裏側・情熱の国メキシコからAAAが日本に再上陸を果たした。我々を総合格闘技のヒリヒリとした緊張感から解き放ち、プロレス人気の低迷なんぞどこ吹く風の、まったくもってビバメヒコなエンターテインメント・ルチャ団体、それがAAAだ。

1年ぶりのAAA日本侵攻は、1日限りの興行にも関わらず、総勢21名という大所帯。全5試合中3試合がメヒコで現在進行中の抗争という、ありのままのAAAを輸入するあたり、日本公演に対する意気込みとソフトへの自信が現れている。更にそこへ日本6団体から7名の日本代表選手が花を添え、今回のAAAもやはり上を下への大騒ぎだった。

ディーバたちの幻想的なダンスで幕を開けたAAAのオープニングマッチは、昨年同様〝男&女&オカマ&ミニ〟の8人タッグ。〝オカマの中のオカマ〟ピンピネーラと、そのキャラに唯一対抗し得る男色ディーノが暴走し、色男スパンキーの存在が両者のリビドーに更なる火を点ける。そしてマスカリータ・サグラーダが超立体&大回転系の四次元殺法を連発し、見る者全てのド胆を抜きまくる。もうこの時点で我々の脳ミソはほどよくユルくなり、ビバメヒコなナチュラルハイ状態に。ヘビーメタル&エル・ソロ&イントカブレvsロス・バイパーズ、ラ・パルカvsシベルネティコなどメヒコでの抗争が直輸入される中、異彩を放ったのは第3試合のハポンvsメヒコの6人タッグ。TAKAみちのく&NOSAWA&タイガー・レジェンドvsミステル・アギラ&フベントゥ・ゲレーラ&チャーリー・マンソンの一戦は、ハポンチームに本場さながらのスペイン語による野次&ブーイングが飛ぶ展開に。そう、ここはAAAマニアたちにとって後楽園ホールではなく、ルチャの殿堂アレナ・メヒコなのだ。だから当然ハポンがルードで、メヒコがテクニコになってしまう。

60億分の1からもストロングスタイルからも解放され、空っぽになった頭に、スペル・エストレージャたちの高度なルチャと勧善懲悪のわかり易いエンターテインメントを流し込む。それが脳ミソが溶けるプロレスAAAなのだ。



〝総合格闘技の天才児〟と呼ばれた男がキック王者になるまで——

暴言実行男の〝格闘進化論〟。

全日本キックヘビー級王者

郷野聡寛

［パンクラスGURABAKA］

総合格闘技の世界でキャリア10年を誇る郷野聡寛、30歳。デビュー当時から“総合格闘技の天才児”と呼ばれ、修斗時代はライトヘビー級位まで上り詰め、パンクラスライトヘビー級で上位をキープしている郷野。しかし、この10年トップどころで活躍してきた郷野だったが、これまでタイトルとは無縁の格闘家人生。そんな郷野がキック2戦目にしてチャンピオンベルトを獲得！王者・郷野が過去・現在・未来を語ります！

“清原軍団ハゲ頭”

聞き手／橋本宗洋　構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史

designed by hisa（Two Three）

――というわけで今回は〝全日本キック・ヘビー級王者〟の郷野選手にインタビューをお願いします。
郷野　よろしくお願いします。
――キック2戦目にして見事なKOでタイトルを奪取されたわけですけど、勝った後の顔がもう、ホンットに嬉しそうでしたね。
郷野　そうですねぇ。やっぱりベルトを獲ったということ自体が嬉しかったですね。相手とかベルトの価値じゃなくね。勝ったことに対しては、当たり前のことだからそんな嬉しくはなかったですけど。
――どうですか、チャンピオンベルトというものを巻いてみた感想は。
郷野　巻いてみて……まあ遠目にはかんないんですけど、実はかなり年季の入ったベルトで（笑）。
――かなり古い物ですからね。皮の部分とかへゲへゲになって（笑）。
郷野　自腹でリフォーム出そうかと思いましたからね。〝ベルトの価値を上げる〟ってそういう意味なのかって（笑）。
――今回、郷野選手がいつも以上に嬉しそうな表情だったのは、やっぱり選手として初めて形になるモノを得たというのが大きかったわけですよね。それこそ苦節10年というか。
郷野　振り返ってみると、そうなりますねぇ。長かったなぁ……。うん、長かったですね。〝これに勝ったらパーンといくな〟って試合に2回負けて。自分の中でモヤモヤしたものもあったし。
――その2回の負けというのは、近藤戦とショーグン戦ですよね。
郷野　そうですね。で、今回、近藤やショーグンに比べたら1枚2枚、いや3枚くらい落ちる相手ではありますけど、まあ自分がやってきたことの証みたいなものはできたかなと。
――今回のタイトルマッチでボクが思ったのも、まさにそこで。これまで期待されながらも大事なところで壁を越えられなかった郷野さんが、ここで勝てるかどうかっていうのは非常に重要だったんじゃないかと。
郷野　はいはい。
――近藤戦とショーグン戦もありましたけど、それ以前っていうのも苦闘の歴史がありますからね。真武館の大会とか『トーナメント・オブ・J』で活躍して〝天才児〟〝総合格闘技の申し子〟みたいに言われながら、修斗時代も含めてなかなか大きな勲章がなくて。
郷野　ですねぇ。
――そういう歴史があった上での、タイトル獲得なんですよね。実力から考えて、今回の勝利を当然のこととして受け止めるファンも多いと思うんですけど、実は〝郷野ヒストリー〟の中でかなり重い意味がある試合だったと思うんですよね。
郷野　そうですねぇ。滅多なことでは負けないと思ってたんですけど、その滅多なことが今回に限って起きてしまったらっていう。〝またかよ〟ってなっちゃいますからね。
――シャレにならないですよね。よりによってこんなときにっていう。



郷野　それだけがプレッシャーでしたね、今回は。相手が怖いとか、キックルールだからとかっていうのは全然なくて。〝ここでまた負けたら〟っていうプレッシャー。
――やっぱり、勝ち運みたいなものを持ってない選手って確実にいると思うんですよ。で、今回〝もし自分がそうだったら〟と。
郷野　むしろ、これまでのオレは確実にそうでしたからね（笑）。結局、オレはこのまま壁を突きぬけられないで終わる選手なのかなって。それは頭をよぎりましたね。
――そういうプレッシャーがあったからか、リングに上がってからの表情はかなり固かったですし、1R前半の動きもあまりよくなかったように感じました。
郷野　1月の試合で、足の裏の皮がむけたんですよ。これが相当痛くて。

何か言って批判されても結果を残せば黙らせられる。やりがいのある世界です

前回は3Rだったんですけど、今回は5Rなんで、あんまり動くとまたむけちゃうかなと。それで序盤はあまり動かなかったんですよね。できるだけ足を使わないでいこうと。
――でも1Rの後半からは、本来の動きに戻ってましたよね。
郷野　自分でも動きがよくないってのは分かってたんで、このままいくと1R取られかねないなと思ったんですよ。で、せめてイーブンにしとこうと。
――そこからノッてきたっていうのはありますね。
――最後は右ストレートでのKOだったんですが、あれは狙った一発じゃないわけですよね。
郷野　そうですね。3Rまでは狙ってたんですけど、それだといい感じで当たらなくて。でもポイントは取ってたんで、〝このままいけば判定で勝てるからいいや〟って手を抜き始めたら倒せた（笑）。
――そのぐらいの感覚の方が倒せるもんなんですね（笑）。
郷野　やっぱりオレは〝判定上等〟の精神でいかないといい試合ができないんだなって（笑）。それをあらためて実感しましたね。
――これまでの選手生活の中で、いろんなリングに上がってきましたけど、大きな転機ってありましたか？
郷野　大きかったのは近藤に負けて、その後、渋谷とやった試合で記憶が

2･4パンクラス後楽園大会ダイジェスト



開始早々、倉持昌和にテイクダウンを許してしまった伊藤崇文だったが、冷静に対処し脱出するとスタンド勝負へ。キックライセンスを取得した伊藤はコンビネーションで倉持を圧倒し、最後は右ストレートでとどめを刺し勝利をモノにした。



1月30日のパンクラス主催プロアマオープンキャッチレスリング100kg未満級で優勝した佐藤光留だが、今大会では一転して打撃勝負。烏合会の小野谷澄雄に対しパンチのラッシュで攻めたてた光留はヒザを着いた小谷野をボコ殴りにすると小谷野陣営はタオルを投入！



女子格問題で前大会をボイコットしたヤノタクがパンクラスに登場。積極的に前に出る滝田Ｊ太郎の隙をつくとヤノタクは素早くアンクルホールドを極めタップを奪った。試合後、「パンクラス男祭りにようこそ」と絶妙なマイクアピール！









2月6日、郷野は全日本キック後楽園大会でヘビー級王座に挑戦。体格で勝る王者・西田和嗣を技術で完封し、4R、鮮やかな右ストレートで西田をKOした。試合後、ボビーらの祝福を受けた郷野。マイクを握ると「全日本キックヘビー級チャンピオンの郷野です。やっと1つ形を手に入れたので今度は近藤有己に照準を定めていきます。全日本キックのファンの皆さん、短い間でしたが、ありがとうございました。今度はパンクラスの会場で応援して下さい」と郷野節を炸裂させた

飛んだんですよ。

——大阪での試合で、ドローに終わった後で病院に直行しましたよね。

郷野　あの試合で、ディフェンスの重要性を実感したんですよ。

——当時の郷野さんって全体的にうまいし強いんだけど、特にこれっていう印象がなかったんですよ。じゃあ渋谷戦以降、いまの郷野スタイルが作られていった感じですか。

郷野　スタイルを作ろうっていうより、とにかくディフェンスをやらなきゃって感じでしたけどね。で、明確に〝これがオレのスタイルだ〟って自覚したのは、カストロに勝ったときですね。あんな怖いヤツとやっても、動き回ってディフェンスでさばいてポイントで勝てたっていう。

——それまでは自分の闘い方っていうのをどう捉えてたんですか？

郷野　もちろん一生懸命に練習してはいたんですけど、オレのスタイルは何かっていうことは分かってなかったですね。寝技も一生懸命、打撃も一生懸命なんだけど、どこに重きを置いていいかは分からないっていう。どういう考えで闘えばいいかも分かんない。いってみれば手探りですよね。

——そのスタイル構築のヒントになったのが、ボクサーのロイ・ジョーンズJrだったわけですよね。

郷野　まあ単に真似ですよね（笑）。ずっとボクシングを教わってるトレーナー、友達なんですけど、彼が凄いボクシングオタクなんですよ。で、たまたまロイ・ジョーンズのビデオを借りて見たら凄い衝撃的な動きをしてて。それこそもう、子供のときに〝ああいうプロ野球選手になりたい〟って憧れたみたいな気持ちになりましたね。カッコいいから真似して、後から理論に気づいたと（笑）。

——で、自分のスタイルに確信を持ち始めたときに「どこぞのキック団体のヘビー級王者には負けない」って発言があって、それが今回の王座奪取につながるわけですよね。選手として壁を越えて、形も残してと。

郷野　いや、壁を突き抜けたとまでは思ってないですよ。形は残ったけど、満足してるかっていったら、そんなことはないんで。

——なんか郷野さんって、自己評価にしても他者への評価にしても、凄く冷静というか的確ですよね。いろんなことがよく見えるっていうか。

郷野　いや、みんな見えてるんだけど、言わないだけでしょ。

——でも郷野さんは言っちゃいますよね。それって敵も作るだろうし、しんどさは感じないですか？

郷野聡寛

郷野　感じないですね。むしろオレにとっては言わない方がしんどいんですよ。

——ほぉ〜。

郷野　まず、独身なんで守るもんがない（笑）。で、言いたいこと言って批判されても、勝って結果を残せば黙らせることができるんですよ。結果を出せば認められるんで、こんなやりがいのある世界はないですよね。オレ、子供の頃からサラリーマンになりたくなくて、実際そうならなかったんで、もうそれをまっとうしようと。なんか言って批判されて、でも結果残して「ほらみろ」って言う自分が好きなんですよね（笑）。

——自分自身が、そういう郷野聡寛のファンというか。

郷野　行動を決める基準として、〝子供の頃のオレが見たらどう思うんだろう〟っていうのが大きいんですよね。憧れてたプロ野球選手になれなかった時点で、もう子供の頃のオレに申し訳なくて。少しでも子供の頃のオレに認められたいって。

——そこが行動の基準だと。次の試合はパンクラスのリングでキックルールの試合をすることになりましたけど、3ヶ月連続っていうのは凄いですよね。

郷野　大口に聞こえるかもしれないけど、キックは楽なんですよ。

——え、そうなんですか？

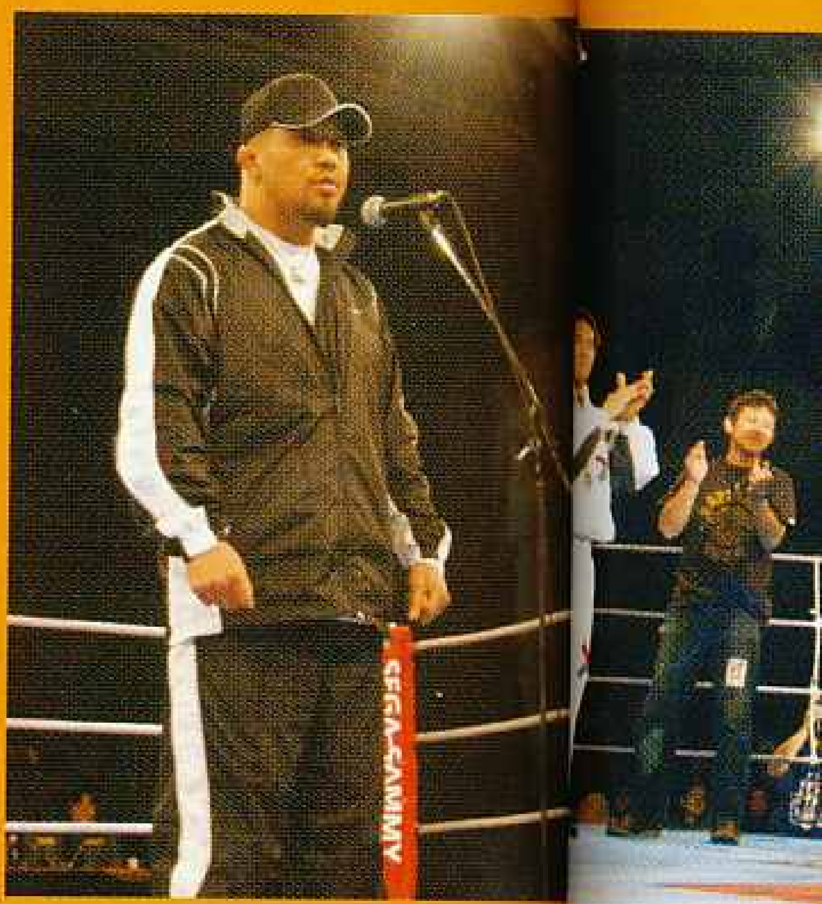
郷野　相手がK-1クラスだったら別ですけど、いまの相手のレベルだったら全然平気ですね。まず（攻撃を）もらわないから頭部へのダメージがないし。あと総合の試合でいっ



パンクラス2戦目の士道館のケステゥシャス・アルボーシャスは、グラバカ佐藤光芳に極めさせないばかりか、グラウンドでも才能を発揮。最後はバックから光芳を押し潰し顔面パンチで失神KO! 残り1秒での劇的な勝利を飾った



毎回レースクイーン風の女の子をエスコートして派手な入場を演出する竹内出だが、組み付いて倒すという地味な展開は相変わらず。立って勝負がしたい久松勇二を、竹内は強引に押さえ込んで勝利。今大会唯一の判定試合を制した



残念ながら2・20『PRIDE.29』でイゴール・ボブチャンチンにKO負けを喫した高橋義生だが、この日、謙吾、アライケンジとの新チーム結成を発表。「パンクラスをやめるということではないが、もう一度原点に戻ってやり直す」

郷野聡寛

桜木？　根性だけで当てられるほど、俺のディフェンスは甘くない

つもケガするのって拳なんですけど、キックだったらグローブも大きいし、きちんとバンデージ巻けるし。

——相手の桜木選手に関してはどんな印象がありますか？

郷野　そんな、印象とかはないですね。何回か試合見て、〝これは全然平気な相手だな〟と思ったからやることにしたってだけで。

——ファイトスタイルとしては、郷野さんとまったく逆ですよね。気合いを前面に押し出してくるタイプで。そういう選手っていうのはどうなんですか？　テクニックで封じればいいと思うのか、真逆なだけに分からない怖さがあるのか。

郷野　オレとしては、ある程度技術を無視してる選手っていうのは楽でしょうがないですね。根性だけで当てられるほど、オレのディフェンスは甘くないですよ。

——それから、今度の試合はメインなんですよね？

郷野　メインになりましたね。

——それも凄い話ですよねぇ。キックルールがパンクラスのメインって。

郷野　坂本常務に「何がメインなんですか」って聞いたら「誰に任せるか、いま考えてます」って言うわけですよ。「例えば、長谷川vs北岡も王座決定トーナメントだから可能性はあるかも」とか。

——はいはい（笑）。

郷野　最初は休憩前を希望してたんですよ。ウチの3人（山宮、佐々木、三崎）がブラジル人とやるんで、休憩明けはそのサポートに回りたいなと。だけど坂本常務から「メインでどう？」って打診がありまして。できれば休憩前がいいんですけど、もし長谷川vs北岡がメインになるくらいだったらオレがやろうと（笑）。



撃圏真陰流師範・桜木裕司が日本刀を携え入場。セコンドには格闘結社田中塾・田中健一塾長と瓜田幸造が。昨年5月、瓜田がグラバカの山宮恵一郎に敗れているだけに、流派の威信をかけて負けられない一戦となった。

——ダハハハハ！

郷野　〝あんなのメインにさせられねえ！〟って（笑）。

——またそんなことを（笑）。ブログでは、12月の大会のセミだった長谷川vs門馬戦も〝プロらしくない〟って思いっきり書いてましたけど。

郷野　だってプロらしくないじゃないですか。

——いや、まあね（笑）。郷野さんにとってプロの定義ってなんですか？

郷野　まずですね、客席の一角で明らかにその選手の友達だと思われる集団が騒いでるとメチャクチャ、アマチュア臭くなるんですよ（笑）。

——ホントによく分かってますね！（笑）。

郷野　あれはイヤですねぇ。

——技術とかキャラクターの部分ではどうですか？

郷野　これねぇ、言っていいのかなぁ。あの●●●クンですよね（笑）。

——出ましたね（笑）。

郷野　まあ知り合いだから言いやすいってのもあるんですけど。まずたたずまいが地味じゃないですか。だから入場を派手にしようとしてるんでしょうけど、周りが派手になればなるほど、本人の地味さが際立っちゃうんですよ（笑）。しかも膠着なんてされちゃった日にはねぇ。髪の毛染めて、女連れて入場すればいいっていうもんじゃないと思うんですよね。



桜木の打撃を警戒する謙吾は、低いタックルからトップポジションをキープ。落ち着いて細かいパンチやヒザを叩き込んで行く。桜木は何とか凌ぎ切るが、1～2Rは、ほとんど同じ様な展開が続き、謙吾が桜木を圧倒した。

——実力はあるんでしょうけどねぇ。明確なアピールポイントがほしいですよね。

郷野　なんか、自分の特性を活かす道があると思うんですよ。〝膠着上等〟とか言い切っちゃってもいいだろうし。「オレの膠着を崩せるヤツはいない」とか（笑）。

——取り立てて言いたいことはないのにマイク握っちゃう選手も多いですよね。

郷野　結局、みんな狭い範囲での自己満足が過ぎますよね。プロレスごっこやってるんじゃないんだから。まあ、オレは自分のスタイルを確立して、結果出してる途中だからなんでも言えるかなと（笑）。

——いや、実際その通りですよ。郷野さんだって闘っていく中で〝オレはこれだ〟ってのを見つけたんですから。しかも、単に〝派手な試合〟ってわけじゃない。ある種、通好みな闘い方なんだけど、結果で認めさせたっていう。



誰もが謙吾の勝利を予感した最終ラウンド、ファーストコンタクトで桜木が放った左ハイキックが謙吾の首筋にクリーンヒット！　3R開始6秒という奇跡の大逆転ファイトに後楽園は大歓声に包まれた。押忍！（敬礼）

郷野　まあ、もっと強い相手にいまのスタイルで勝てるようになりたいですけどね。そうなれば、自然に上がる舞台も大きくなるだろうし。

——舞台の大きさとかお金とか露出度とかって気にする方ですか？

郷野　そうでもないんですけど、現状そうしないとこの商売が成り立っていかないってのはありますからね。大きい大会に「どうしても出たい」っていうんじゃないですけど「これだったらオレが出た方がいいんじゃないの？」ってときはある（笑）。オレより技術がないヤツが目立ってると〝チッ〟てなりますからね。

——実際、郷野さんにはどんどん大きい舞台に出ていってほしいんですよね。いまの格闘技界って〝KO、一本至上主義〟じゃないですか。それになびかない〝判定上等〟な郷野さんは面白い存在なんじゃないかと。

郷野　倒せたらいいとは思うんですよ、自分も気持ちいいし。でもオレは倒し方にもこだわりがあって、開始1分とかで出会い頭みたいに倒すんじゃなくて、実力差をじっくり見せ付けた上で倒したいんですよ。出会い頭で倒しても、次またそうなるとは限らないじゃないですか。オレは〝100回やったら100回勝つ〟って感じる勝ち方が好きなんで。

——いま、パンクラスでは郷野さん



流派の威信を守った桜木だったが試合後は反省しきり。「田中先生にせっかく来てもらったのに、こんな内容では全然ダメ。でもこのリングに来た以上、徹底的に上を狙う」と宣言した桜木。3・6は郷野とキックルールだ！

のスタイルが認知されてますよね。だけど、例えば『PRIDE』に出たら「なんか地味だな。もっと打ち合えよ」って言われる可能性があるじゃないですか。

郷野　ああ、そうですねぇ。

——そういう価値観と闘っていこうって気持ちはありますか？

郷野　闘っていこうとまでは思わないですね。分かってくれればいいですけど、難しいですからね。ボクシングの試合で、いくら技術が詰まってても12R判定の試合は何回も見たくないじゃないですか。

——まあ一般のファンはそうですよね。

郷野　ところがオレはそれが見たいんですよ（笑）。だからお客さんとオレの感覚のズレっていうのは凄くあると思いますね。

——でも、郷野さんがブレイクしていけば、そのズレを埋めていけるんじゃないですか。テクニカルな判定勝ちも〝あり〟なんだって。みんながみんなそれじゃダメでしょうけど、逆になんでもかんでも〝判定はダメ〟っていうのも変な話ですから。

郷野　自分が選手やってるうちに少しでもそれに近づけられれば。

——パンクラスでは認められてるからやりやすいし気持ちいいでしょうけど、郷野さんにはそこまで踏み出してほしいんですよね。

郷野　ただそれには、技術を分かりやすく解説できる人が必要ですよね。いまの格闘技中継の解説って、選手あがりがほとんどいないじゃないですか。記者が解説してる時点で、この分野の未熟さが出てると思うし。やっぱり見てるだけじゃ気づかない部分も多いと思うんで。だから、オレの試合はオレが解説したいんですよ（笑）。

——あとは結果で分からせるってことでしょうね。武蔵選手だってそうだったじゃないですか。

郷野　いくら批判されても、結果を出せば評価は逆転しますからね。だから、自分でこれだと決めたことをやり続けることでしょうね。それは確かに闘いですね、うん。

——その闘いは続けていってほしいんですよね。〝分かられなくてもいいや〟を〝分からせてやろう〟に。

近藤の留守中は俺が守る。それがヤツと対戦する条件だと思うんで。



ごうの・あきひろ■1974年10月7日生、東京都東久留米市出身。176cm、87.8kg。パンクラスGRABAKA所属。1996年5月、修斗でプロデビューを果たし、ライトヘビー級1位まで登り詰める。2001年6月の渡辺大介戦からパンクラスへ参戦。2005年2月6日、西田和嗣をKOで破り全日本キックヘビー級王者に輝く。3月6日の横浜文体ではメインで桜木裕司とキックルールで激突。郷野のブログ『Gの文豪』は必読！■http://blog.livedoor.jp/gono/

郷野　まあ、分からせるくらいまでオレの力量を上げなきゃいけないってのがまずあるんですけどね。無謀なことはしたくないですし。勝てなさそうな相手と〝もしかしたら勝てるかも。勝てたらオイシイ〟みたいな感じでやりたくはない。

——ノーガードで特攻して負けて「よくやった」なんて言われても嬉しくないと。

郷野　むしろ悲しいですよ。〝オレがやってきたことはなんだったんだ？〟ってことになるじゃないですか。

——今後の展開としては、やはり近藤戦が目標になるわけですよね。

郷野　そのためには、（ミドル級ＧＰに出る）ヤツの留守を守ることでしょうね。それが対戦する条件だと思うし、それができるのはオレしかいないだろうって自覚もあるんで。

——近藤選手は「パンクラスルールとキックルールで1回ずつやるのも面白いかな」って言ってたらしいです。だからパンクラス同士で全日本ヘビー級タイトルマッチとか（笑）。

郷野　それ面白いですねぇ。

——K-1はどうですか？　角田vs曙戦があるアジアＧＰなんて、郷野さんが出たらいいとこまでいけるような気もしますけど。

郷野　K-1も夢としてありますね。自分の中で、ボクシングに例えると全日本キックが日本タイトルで、K-1ジャパンが東洋太平洋、ワールドＧＰが世界4大タイトルって感覚があるんですよ。

——パンクラスって、初期は立ち技にも挑戦してたじゃないですか。モーリス・スミスとやったり、トーワ杯ってトーナメントに出たり。で、結果を残せなかったんですけど、いまになって郷野さんがやってのけたっていうのが面白いですよね。

郷野　よりによって外様で嫌われてたオレが（笑）。確かにそのことは意識しましたね。やった相手のレベルは落ちますけど。

——じゃあ今後も、初期パンクラシストが達成できなかったことをやってやろう、みたいな気持ちで。

郷野　あ、それはないッスね。パンクラスのためにとか、パンクラスを背負ってとか、そういう七面倒くさいことはいいです。オレはオレのために、やりたいことをやりますよ。

——それが郷野さんの個性ですからね。

郷野　〝グラバカのために〟ってのはあるんですけどね。前は〝パンクラスのために〟って気持ちも強かったんですけど、最近は薄らいできましたね。他がしょうもないヤツがあまりにも多いんで（笑）。オレは特進コースでいきますよ。偏差値高いコースで。

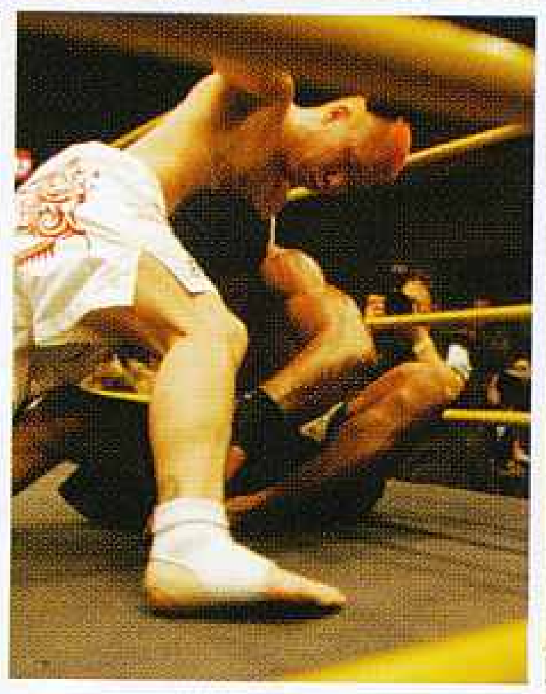
——奨学金もらう勢いで（笑）。〝パンクラス特進コース〟として期待してます！

【2月15日／グラバカ近くの『ロイヤルホスト』にて収録】

ルチャはなくとも『武士道』もいいけど、久々にDEEPらしさ全開！

長南凱旋！ 三島王座奪取！ 足関十段vs無敗男！ しなし女王様登場に超重量級対決!!

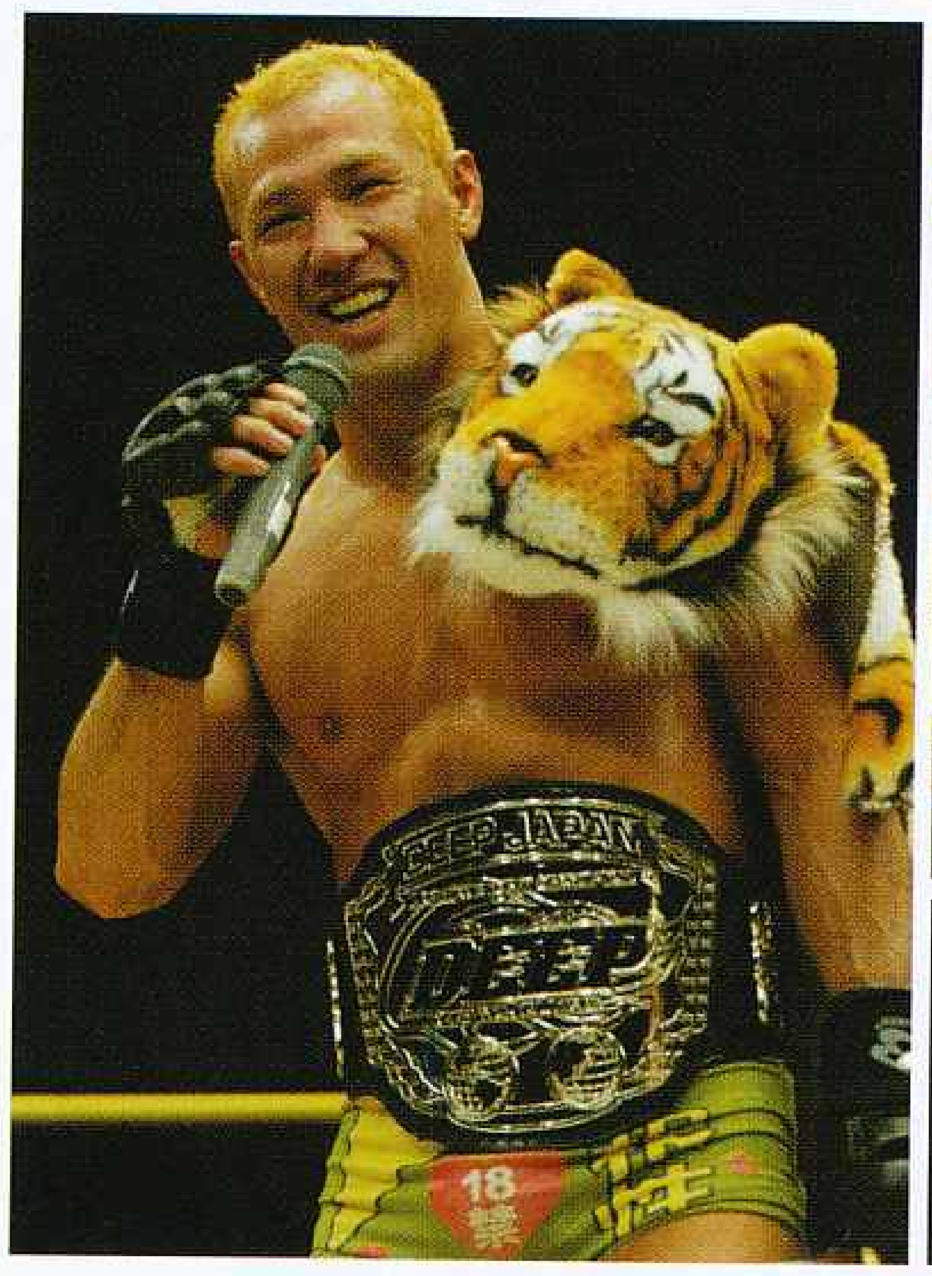


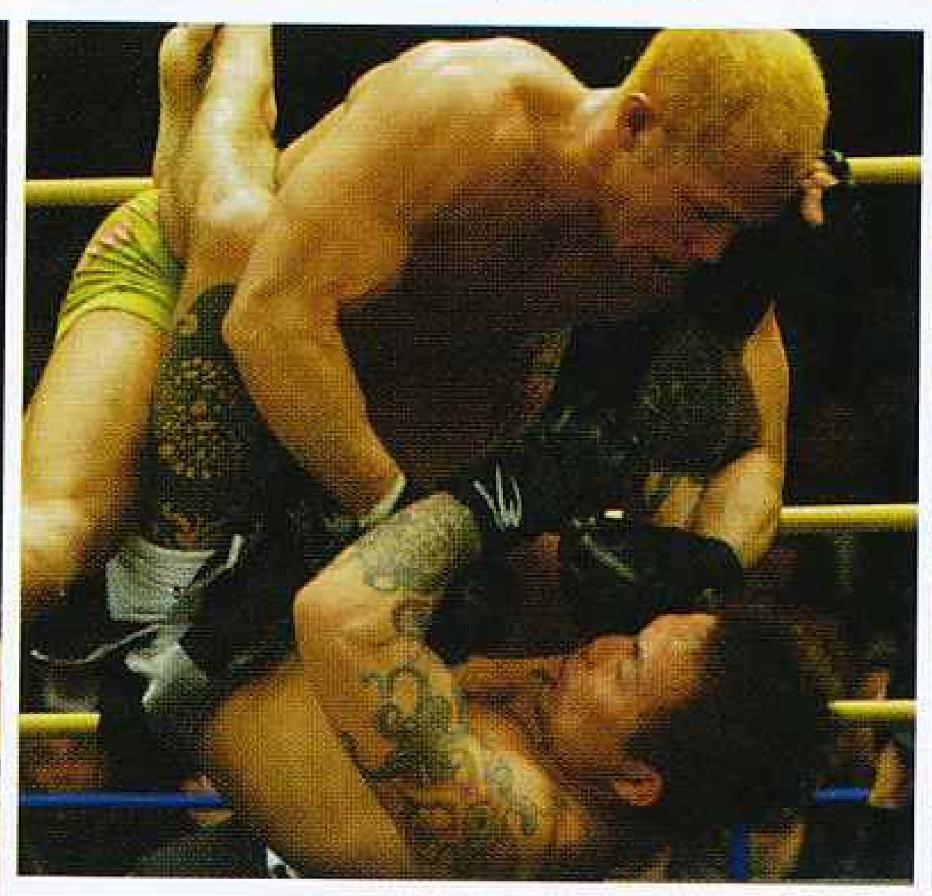






『武士道』や『男祭り』で快勝が続く長南亮が約1年ぶりにDEEPマットへ凱旋、BTTからの刺客ホアン・ジュカオン・カルネイロを迎え撃つ。ジュカオンはアローナばりの弾丸タックルで長南からテイクダウンを奪い付け入るスキを与えない。2Rにはロープ際で強烈なパウンドを浴び大ピンチの長南。しかし、最終R、長南はローから右ストレートをヒットさせバランスを崩すカルネイロにすかさず飛びヒザ一閃！　これが見事に顔面をとらえカルネイロは流血。すぐさまパウンドの速射砲を浴びせた長南が凱旋試合を大逆転勝利で飾った。場内からは割れんばかりの長南コールが発生!!







初代DEEPライト級王者決定戦として行なわれた三島☆ド根性ノ助vsTAISHO戦。相手がTAISHOということで三島はリュック&ランニングの山下清風コスプレで入場し会場は何とも言えない雰囲気に包まれる。試合は三島が終始、上のポジションからパンウド&鉄槌を振り落とす展開。本来、階級が下のTAISHOは苦しい状況でも諦めず下から極めを狙うも三島のガードは固くそのままゴング。三島が文句なしの判定勝ちで初代ライト級王者に輝いた。試合後「五味とやれ」との観客からの野次に「そっとしておいてください」と苦笑いを浮かべる三島であった

注目カードが数多くラインナップされ、大会前から、かなり期待値が高かった今大会だが、終わってみればその期待をさらに上回る充実度であった。前回の後楽園大会と同じく昼間に『笑点』の収録があったため進行が圧迫されるかと思いきや、なかなかスムーズに大会開始。前座の試合もテンポよく進む。

会場の熱気がいよいよ高まったのは第7試合の女子マッチ、しなしさとこvs金子真理。この実力者対決、実績ではしなしが上回っているのだが、1Rは十字やスピニングチョークを極めかけるなど金子が猛攻。しなしの無敗記録もここまでか、という場面に息を呑まされた。しかし2Rに入るとしなしが反撃して、判定はドローに。矢継ぎ早に技が繰り出されるスピーディな展開は、しなしのベストバウトといってもいいだろう。

休憩明けは大注目の前田吉朗vs今成正和。デビュー以来いまだ負けなしのストライカー・前田と足関十段の〝一撃必殺〟の武器を持つ者同士の闘いだけに、技の攻防自体は少なかったのだが、そのぶん緊張感がただごとではなかった。これぞ一芸に秀でた達人同士の斬り合いである。

セミのライト級初代王者決定戦は三島☆ド根性ノ助が判定で圧勝。TAISHOの打撃に一切付き合わず、テイクダウン→パウンドという攻めに徹した三島の戦法は予想外だったが、この男は〝ここぞ〟という勝負では常に非情なのである。どうしても入場その他のキャラ込みで語られがちな三島であるが、その根底にある〝キラー〟な部分を垣間見せたという意味で、この一戦は興味深かった。

と、ここまででも相当に面白い興行だったのだが、最後にトドメの一撃が待っていた。『PRIDE』でも評価が赤丸急上昇中の長南亮のDEEP凱旋マッチである。対戦相手はブラジリアン・トップチームのホアン・ジュカオン・カルネイ

DEEP 18th IMPACT

2・12後楽園ホール（2300人超満員札止め）

目指せ、欽ちゃん球団!!

文／橋本宗洋　構成／松澤チョロ　撮影／丸山剛史











日本人フェザー級屈指の好カード、今成正和vs前田吉朗が実現！　1R、打撃の前田と寝技の今成が間合いを測る展開。打撃をかいくぐり今成が前田を引き込むと腕十字、三角絞めと畳み掛けるが前田は何とか脱出。2R、前田は左右のロングフックを放つもののダメージは与えられず。猪木×アリ状態でグラウンドに誘おうとする今成に前田はローキック連打から飛び込んでパウンドを連射するもゴング。最終ラウンド、ローリングしてから足関を狙う今成だが前田は身体を捻り脱出。最後は前田が飛びヒザを繰り出したところで試合終了。足関十段vs 無敗男の対決は判定1-0のドローという結果に終わった



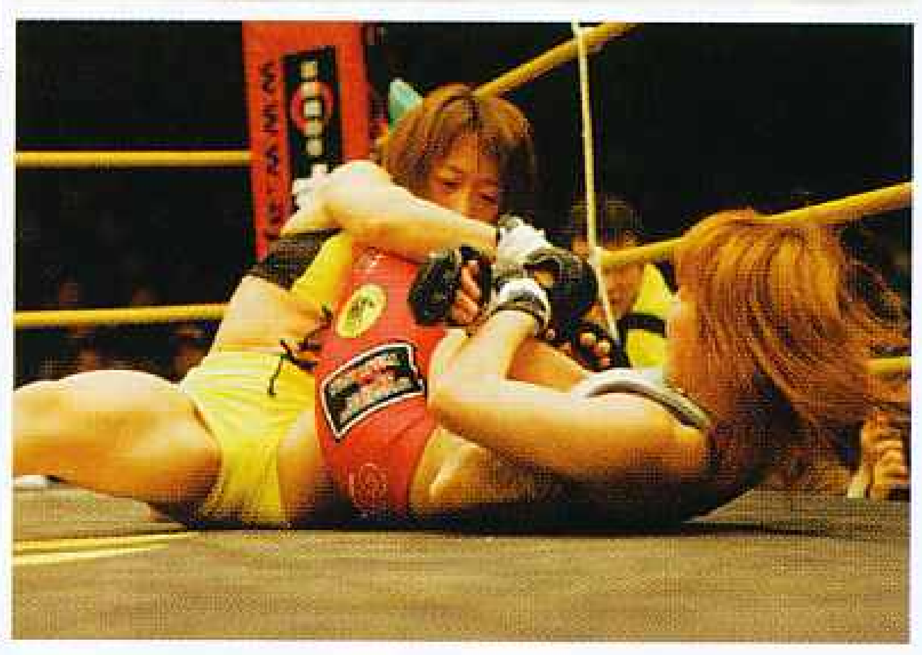
開始早々、石井淳のラッシュを凌いだ太子郎がメガトン級の右ストレート一閃。イッキに畳み掛けDEEPならではの巨漢対決を秒殺KOでモノにした



互いにマウントを奪い合う目まぐるしい展開となった白井祐矢vs 佐藤隆平。スタンド、ポジショニング共にやや有利だった白井に判定の軍配があがった







デビューから引き分けを1つはさみ18連勝中のしなしさとこが、軽量級の強豪・禅道会の金子真理と対戦。1R、金子の腕十字やスピニングチョークで、しなしが過去最大級のピンチに追い込まれ、しなしファンから悲鳴が上がるも、2Rは攻守が入れ替わり、しなしが得意の投げ技を連発！　グラウンドでも積極的に一本を狙いに行くも極めきれず、女子格軽量級のトップ同士の対決はドローという結果に。試合後、しなしは「金子さんは強かった。でも腕十字は極まってないです。抜けなかっただけ。引き分けは負けたような気分になるんですが、気持ちを切り替えて次にいかないと」と前向きコメント

チームのホアン・ジュカオン・カルネイロ。BTTのパリ支部を任されているというだけあって、カルネイロの実力は紛れもないワールドクラスだった。打撃の間合いを潰してのテイクダウンに長南は防戦一方。2Rが終わった時点では誰もが負けを覚悟していたはずだ。

ところが、3Rに衝撃のフィニッシュが訪れる。飛びヒザ一発での逆転KO。単に強いというだけじゃない。長南亮という選手は、特別な選手だけが持つ強力な運を持っているんじゃないかと思わされた試合だった（飛びヒザが当たったのが〝運がよかった〟という意味ではない）。そしてDEEPの佐伯代表もまた、プロモーターとして他の誰とも違う強力な何かを持っているんだろう、きっと。

最近はどうしても〝PRIDEの二軍〟というイメージがつきまとってしまっていたDEEP。しかし今大会を見てあらためて思ったのは、やはりDEEPはDEEPであって、二軍などではないということだ。前田vs今成、三島vsTAISHOといったカードは、かなりの求心力を持っているのだが、とはいっても『武士道』で組めるものじゃない。そこまで細かな〝マニア対応〟はできないのがメジャー団体というものである。と同時にDEEPは女子総合という非常に限定されたファン層のジャンルにも着目し、試合を組んでみせる。で、最後には『男祭り』にも出場した選手がスケールの大きな闘いをやってのけるわけで、やはりここには二軍というわけにはいかない味があるのだ。

ということはDEEPは四国独立リーグか。実力と意味では充分にメジャー級の選手も多いんだけど、まあデブもいれば女子もいることだし、何よりメジャーとマイナーという区分の中にはない、新しい価値観という意味で。これにルチャ勢という〝助っ人ガイジン〟が加われば鬼に金棒、もう文句なしである。



ZST・GP-2に優勝したレミギウス（左）と、最凶の打撃屋ダリウス。そして最強のZSTガールを含めたこの4人が、現在のZSTベストメンバーだ。

リトアニアがZST制！　今年ブレイクするのはこの2人だ!!

ZST-GP2

1・23 FINAL STAGE Zepp Tokyo

Photo & Text by Gunts Horie

リトアニアが『ZST』を完全制圧!!

本誌NO・82でも特集したヤバい打撃を持つリトアニア最凶コンビ、レミギウス・モリカビチュスとダリウス・スクリアウディスが、1・23『ZST』ZeppTokyo大会でその恐ろしさを嫌というほど見せつけた。

65kg以下最強を決める第2回『ZST・GP』トーナメントに出場したレミギウスは、準決勝、決勝とも嵐のような打撃で連続KO勝ちを収め見事優勝。一方、小谷直之とバーリ・トゥードルールで特別試合を行ったダリウスも、判定ナシのルールのため時間切れドローとなったが、内容では〝ZSTのエース〟を圧倒。リトアニア勢2人がまさに『ZST』マットを制圧した形となった。

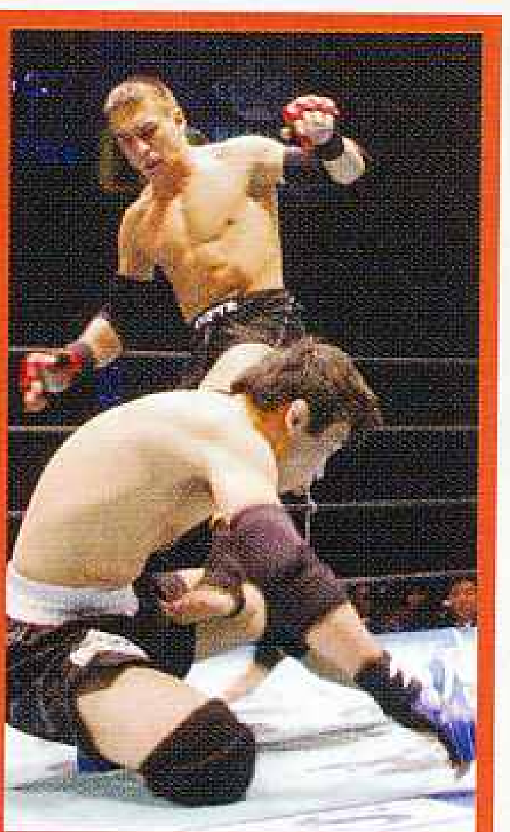
これまでリトアニア勢は、スタンドの強さこそ飛び抜けていたが、どうしても寝技に難が残るため逆転負けを喫するケースが多かった。しかし、リトアニア勢は、ここ1年でレスリング力と寝技のディフェンスを強化。テイクダウンされない、倒されても極められない技術を向上させたことで、ますます打撃を思い切り打てるようになり、いまや手が付けられない状態になっている。試合内容もエキサイティングかつスリリングで、まさに〝小さなミルコ〟と呼ぶに相応しい実力を身につけつつあるのだ。

こうなってくると見たくなるのが、レミギウス、ダリウスと他団体の強豪選手の対戦。65kgのレミギウスは階級が同じ前田吉郎（パンクラス稲垣組）と、軽量級屈指の打撃対決が実現すれば、これはマニア注目のカード。70kgのダリウスは『PRIDE武士道』で五味やジェンス・パルヴァーと闘っても面白いし、もともとムエタイ戦士だけに、『K-1 WORLD MAX』に出場しても面白い。「ダリウスならMAXでもかなり活躍できる」とは、多くの関係者の一致した見方だ。

ちょうどZSTの次回興行が5月と、少し間隔が開くだけに、軽量級総合格闘技をさらに盛り上げるためにも、このリトアニア勢他団体出撃はゼヒとも望みたいところ。〝エース〟小谷も積極的にアメリカのバーリ・トゥード大会に参戦しているだけに、リトアニア勢も「ZST代表」として、出陣するに問題はないはず。実現すれば必ず、格闘技界に新たな衝撃を与えるだろう。

レミギウス・モリカビチュス&ダリウス・スクリアウディス。今年ブレイクするのは間違いなく、この覚えにくい名前を持つ2人なのだ。







レミギウスは準決勝で宮川博孝を48秒、決勝で大石真丈を3分13秒で秒殺KO。まるで嵐のように優勝をさらっていった。小谷直之と闘ったダリウスは、小谷の寝技を警戒し深追いしなかかったため単発ながら強烈な打撃を叩き込み、ZST4戦目で早くもエースと互角以上に渡り合った。なお、ZST期待の所英男は準決勝で大石と熱戦を繰り広げるも、2-1僅差の判定で敗れ去った。されど昨年ZSTを引っ張った所には、今年さらなる活躍を期待したい。もちろん小谷の逆襲にも期待!



ジャイアント馬場7回忌追善企画
今こそ明かそう！

全身ごっつあん体質
ターザン山本!

元「週刊プロレス」
全日本担当
市瀬英俊

全日本プロレス
レフェリー
和田京平

我々だけが知っている
素顔のG馬場
inキャピトル東急ホテル コーヒーハウス『オリガミ』

99年1月31日にジャイアント馬場さんが亡くなってから早6年。馬場さんを知らないプロレスファンも増えて来た今日この頃、「いまこそ馬場伝説を語り継がねば！」と、素顔の馬場さんをもっともよく知る男たちが集結！　かつて生前の馬場さんと幾度となく食事を共にした思い出の『オリガミ』で、知られざる素顔のG・馬場を大いに語ってもらった。

聞き手／堀江ガンツ　撮影／平工幸雄　designed by Shiraki (TwoThree)



京平　いや〜、大先輩を待たせちゃってすみません。取材の日時を間違えちゃって（笑）。

ターザン　遅いよ、京平ちゃん！　でも、市瀬もまだ来てないんだよなぁ。遅れてくるようなヤツじゃないんだけど……。

――山本さん、市瀬さんに連絡はしていただけました？

ターザン　えっ!?　……連絡？

――山本さんが連絡してくれるっていう話でしたよね。

ターザン　市瀬とはこの間、後楽園で会ったんだよ。そのときに言って……ないな。すっかり忘れてたよォ！　ガンツ！　市瀬のケータイ番号知らないか!?

――いや、知らないから山本さんに連絡お願いしたんですけど（笑）。

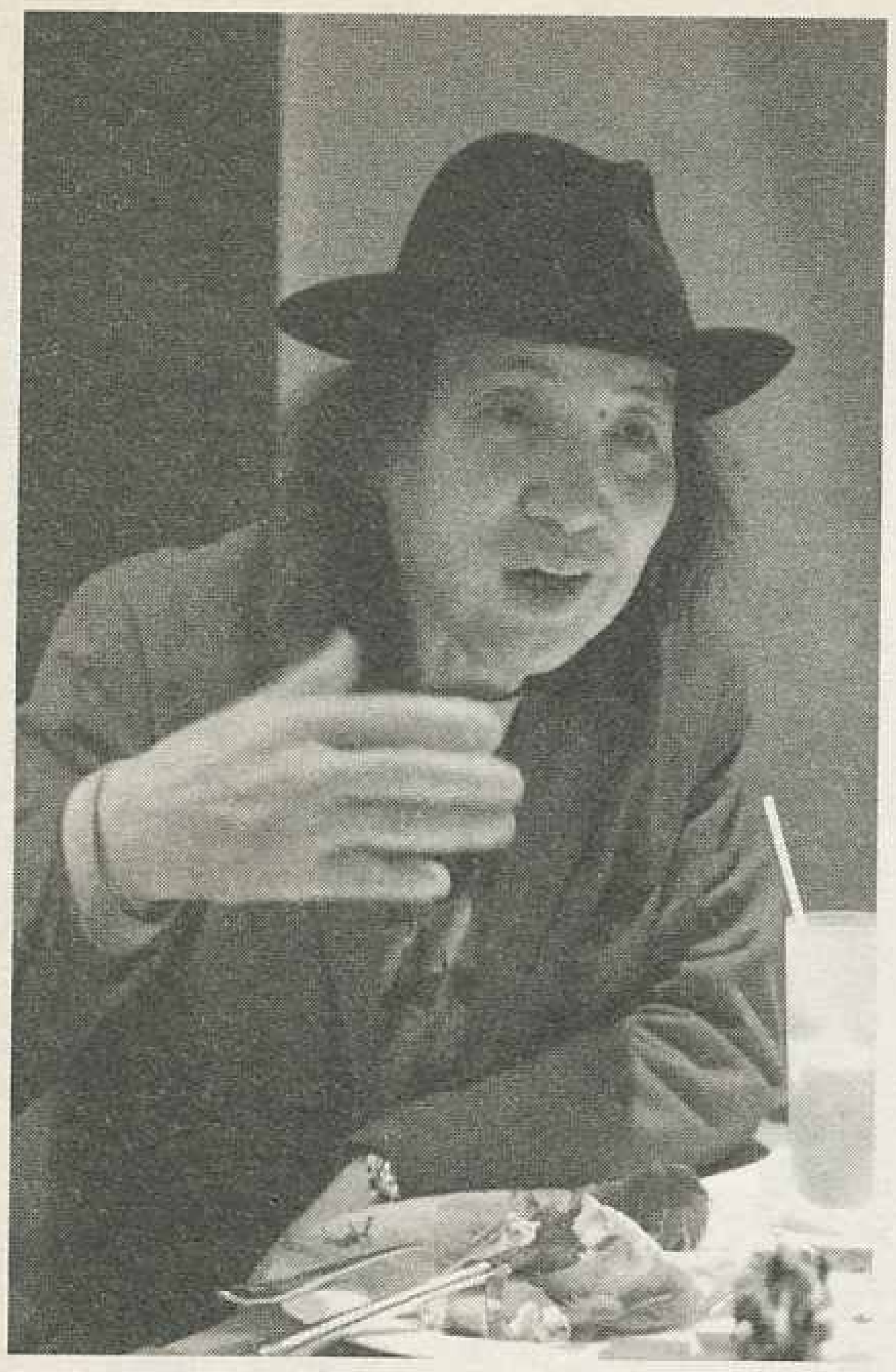
京平　（馬場）元子さんなら知ってるんじゃないですか（笑）。

ターザン　元子さんに聞くわけにいきませんよォ。こりゃヤバいなぁ！

――なんとかしてください！

※その後、ターザンが各方面に電話をかけてようやく市瀬記者のケータイ番号が判明。

ボクは元“新日派”だったからこそ馬場さんを独占したかったんだよ！



たーざん・やまもと■1946年山口県生まれ。『週刊プロレス』『格闘技通信』『プロ☆勝ち』の編集長、さらに『週刊ゴング』の（一日）編集長を努めた自称“編集の天才”。80年代末〜90年代にかけて、『週プロ』編集長として、馬場さんには幾度となく日本全国のおいしいものをごっつぁんになった。

ターザン　よし、市瀬に電話してすぐ来るように言うから。……「あ、市瀬クン？　京平ちゃんとの対談、今日だったんだよ！　いますぐタクシーに乗ってキャピトルまで来てくれ！」……よし、来るってさ。間一髪セーフですよォ！　俺の人生はいつでもドラマチックだよなぁ〜！

――無駄にドラマチックな気がしますけど（笑）。

ターザン　辻褄が合えばいいんですよォォォ！　よし、座談会先に始めてよう！

――わかりました（笑）。では、今日は知られざる素顔のジャイアント馬場さんを大いに語っていただきたいんですけど、京平さん、山本さん、市瀬さんのお三方は、80年代末から90年代にかけて、生前の馬場さんとここキャピトル東急ホテル『コーヒーハウス　オリガミ』で、頻繁に食事をされていたんですよね？

京平　そうですね。馬場さんは後楽園とか武道館で興行があったあとは必ずここに来て、いつも馬場さん、元子さんとボクら3人という5人のメンバーで決まってたんですよ。普通だったら馬場さんも「いい加減にしてくれよ」って言うかと思ったら、そういうことを一言も言わないんだよね。「来たいんだったらおいで……」っていう人だから。

ターザン　それって不思議だよねぇ。ボクなんか途中から元子さんに「今日行っていいですか？」っていう断りを入れなくなって、勝手に行ってたんだよね。

――当たり前のように勝手にごっちゃんになってましたか（笑）。

京平　もう山本さんが来るのが当たり前になっちゃってましたもんね。それで5人で食事をすると言っても、しゃべってるのは馬場さんと元子さんと山本さんの3人で、俺なんかはお地蔵さんで、質問も相づちさえもほとんどしなかったからね。市瀬クンも山本さんに「な、市瀬」ってふられた時だけうなづく感じで（笑）。

ターザン　市瀬はホントに微動だにしなかったよね。

京平　目だけがキョロキョロ動いて、チラチラ見てて、俺と目が合ったらうなづいて。あの時の話って、仕事の話より世間話の方が多かったですよねぇ。でも、仕事の話だと山本さんの助言で全日本が変わった部分もありましたから。

付き人として馬場さんと毎日行動を共にしても疲れるなんてなかった



わだ・きょうへい■1954年東京都生まれ。72年全日本にリング屋として参加、74年レフェリーデビュー、いまや誰もが認める日本一のレフェリー。また、馬場さんの付き人でもあり80年代末から99年に亡くなるまでの10年間、まさに公私ともに時をすごした。「キョーヘイ」コールは全日本の名物。初の著作本『人生は3つ数えてちょうどいい』も好評。

――例えばどんな部分ですか？

京平　地方の大会も事前にカードを発表するっていうのは、山本さんのアイデアですよね。昔は地方のカード発表なんかするもんじゃないっていう考えだったんだけど、山本さんが「それじゃダメですよ」って言ったら、馬場さんが「そうなの？」って意見を取り入れて。それから馬場さんが休みの間カードを考えて、シリーズが開幕する前に発表するようになったんですよ。

ターザン　馬場さんも面倒臭がり屋だから、ホントは休みの日にカードなんか考えるんだったら、家でのんびり『水戸黄門』のビデオでも観てた方がいいっていう感じなんだよね。どっちかって言うと馬場さんって遊び人でしょ？

京平　遊ぶときは徹底的でしたよ。ゴルフもしょっちゅうご一緒させてもらったし、亡くなる前の1〜2年というものは、ホント毎日麻雀してましたからね。自宅に全自動の雀卓を置いちゃったり、照明が悪いって変えちゃったりしたぐらいですから。何百万まではいってないにしろ、麻雀ひとつでもそこまでお金をかけるっていうのも馬場さんだからですよね。

ターザン　麻雀は誰とやってたの？

京平　まったくプロレスと関係ない人たちばっかりで、だから余計に楽しかったんじゃないかなって。麻雀だけの会話で、プロレスのこと一切話さないから。

ターザン　元子さんが雀荘のママみたいなことになってたらしいねぇ（笑）。

京平　焼き魚とか、お味噌汁とか、麻雀やってる4人のために一所懸命に手料理作ってましたね。で、作ったのはいいんだけど、「みなさん、ご飯ですよ〜」って呼んでも、みんな麻雀に熱くなってて、お客さんの誰かが「そんなもんは後だ！」って言ったら、元子さんが「私、もう作りません！」って怒っちゃって（笑）。

ターザン　アハハハハ！

京平　馬場さんが「お前、ウチの母ちゃん怒らせやがって」って。それから険悪な雰囲気になったって聞いたことありますよ。もう、しばらくその話題でもちきりだったもんねえ。

ターザン　馬場さんは、以前はそんなに麻雀やらなかったよね？

京平　ボクの知り合いが麻雀が上手いっていう、ちょっとした話から、馬場さんも負けん気が強いから「（ものまねで）馬鹿野郎。俺はダンモチだ」っていう話になって、やるようになったんですよ。実際やったらお互いに認め合ってましたね。

ターザン　馬場さんは遊びにおいても一回加速がつくと徹底的だもんね。遊ぶためにこの世に生まれてきたみたいな人ですよォ！

京平　遊ぶためなのか働くためなのかわからないですけど、遊びに関してはホント上手でしたよ。もちろん

仕事も上手でしたけどね。結局はウソをつかない人間性というか、そういうモノがそっくりそのまま遊びにも仕事にも出ちゃうんでしょうね。

ターザン でも、凄いのは、その馬場さんと京平ちゃんは1年中、24時間付き合ってたことだよ。

京平 24時間付き合わざるを得ないじゃないですか。

——京平さんは馬場さんの付き人をずっと努められてたんですよね？

ターザン だから24時間どころか365日ですよォ！ オールタイム、オールデイズ！ "オール"って"全部"って意味だからね！

——知ってますよ（笑）。

ターザン 馬場さんは、元子さんより京平ちゃんと会ってる時間の方が長いんだもん！

京平 そうかもしれないですね。大晦日には「今年はお世話になりました」って挨拶に行って、元旦に「今年もよろしくお願いします」って挨拶しに行ってるから、ホント会わない日はなかったですね。

ターザン 凄いことですよォ。アッ、来た来た！

※市瀬記者が到着

市瀬 どうもご無沙汰してます。

京平 お久しぶりです。

ターザン いま馬場さんと京平ちゃんが、いかに毎日会っていたかを話してたんだよ。京平ちゃん、そんなに一緒にいて疲れなかったの？

京平 いや、楽しかったですから、疲れるなんてことはなかったです。

——でも精神的に緊張したりしませんでしたか？

京平 緊張感はありますけど、馬場さんといると、自分の身になることが多かったからね。馬場さんの真似をするだけで大人になっているというか、得るモノがあったんですよ。こういうホテルでの食事のマナーひとつにしても、ホント教わることが多かったですから。

ターザン 京平ちゃんは、ボクが馬場さんと喋ってるとき、ずーっと行儀よく直立不動だったもんね。市瀬、お前はどうだったの？

市瀬 いや、ボクも直立不動でしたから。山本さんだけですよ、直立不動じゃなかったのは。

京平 そうそう。山本さんだけ直立不動どころか、「馬場さん、今日は氷小豆のアンコ少ないですねえ」とか言って、逆に馬場さんが気を使って、ウェイターに「アンコが少ないじゃないか」って言ってましたからね（笑）。

——ダハハハハ！ なぜが馬場さんの方が気を使ってましたか（笑）。

京平 スイカを食えば「馬場さん、コレ甘くないですねえ」って。ホントよく言えるなあって感心して、「この人になりたい！」って思いましたもん（笑）。

ターザン でも市瀬だって最後にはステーキとか野菜サラダとか、フルコース全部注文したんだよ！

京平 それは馬場さんが、遠慮してる市瀬さんに「ステーキ食いたいんだろ？」って言ってくれたからで、「ここのステーキじゃなくて、下の店からもって来い」って言ったのは山本さんぐらいですよ（笑）。

——ガハハハハ！ そんなことまで！（笑）。

京平 山本さんが「馬場さん、ステーキはやっぱり下の店の方がおいしいですよね？」って言うと、馬場さんが「いいよ。じゃあ俺も頼むから、それ頼んでやるよ」って下の階にある他の店から持って来てもらったんですよ。ホント特別だよね。普通の人間だったら怒るのかもしれないけど、逆に喜んでたんですよ。

——いままで馬場さんにそんな接し方する人はいなかったんでしょうね（笑）。

市瀬 キャピトルじゃなくて、一時期ホテル・オークラに行ってたこともありましたよね？

ターザン オークラはカキフライが美味いんですよォォ！

京平 そう、よく知ってますよねえ。食べ物に関してはホントかなわないなあ（笑）。馬場さんが言ってたのは、「オークラはビシッとしてるだろ？ 黒服も客も、みんな靴が光ってる。でもキャピトルは光ってない」って。でも居心地がいいのはキャピトルの方なんですよね。

ターザン 庭みたいなもんですよォ！ ここで散髪にも行くし、食事もするし。でも、向こうの奥には天ぷら屋とか寿司屋とかスキヤキ屋があって、いろいろ選べるんだよねぇ。ボクは全部制覇しちゃったよォ！

京平 全部行ってるのは山本さんぐらいなもんですよ（笑）。ボクだって天ぷら屋だけですよ。馬場さんに「お前にはここの寿司屋は合わない」って言われてね。何でかっていうと、そこの寿司屋が日本で一番高いから。あの馬場さんが「ここは高えぞ〜」って言うんだからね。イスに座ったことはあったんだけど、食べたことはないんですよ。それなのに山本さんは「馬場さんと同じものください！」だからね（笑）。

——ダハハハ！ どこまで図々しいんですか！（笑）。

ターザン 遠慮せずに食べた方が馬場さんは喜ぶんですよォォ！

——そんな山本さんは、いつから馬場さんを囲む"サロン"に参加するようになったんですか？

ターザン 一番最初の接点は、87年2月に全日本にいた長州が逃げたわけですよ。ジャパンプロレス勢がほとんど新日本に帰ってしまって、全日本がもぬけの殻になったとき富山で馬場さんにインタビューして、その馬場さんの長州批判の内容を3週間に渡って『週プロ』に載せたんだよね。

——ああ、ありましたね。

ターザン 馬場さんはアレを載せるとは思ってなかったんだよ。もし載せたら『週プロ』と長州さんがケンカすることになるし、勇気がいることだから。でも載せたことで、「コイツは思い切ったことするなあ」っていうことで、馬場さんと元子さんの間でボクの評価が上がったわけですよ。

市瀬 あと元子さんの「UWFって何？」っていう質問に、山本さんが一言でピタッと答えたんですよね？

ターザン そうそう！ 武道館で元子さんがボクのそばに寄ってきて「最近UWFって流行ってるみたいだけど、どういうこと？」って聞かれて、「こういうコンセプトで、こういう意味で、だからファンが付いて来てるんですよ。これは新しいプロレスのムーブメントなんですよ」って説明したら、元子さんが「こんなにわかりやすく説明してくれた人はいない」って、元子さんの中のボクのイメージが"頭のいい人"というモノに切り替わったわけですよォ！

市瀬 それがUWFの全盛の88年ですよね。

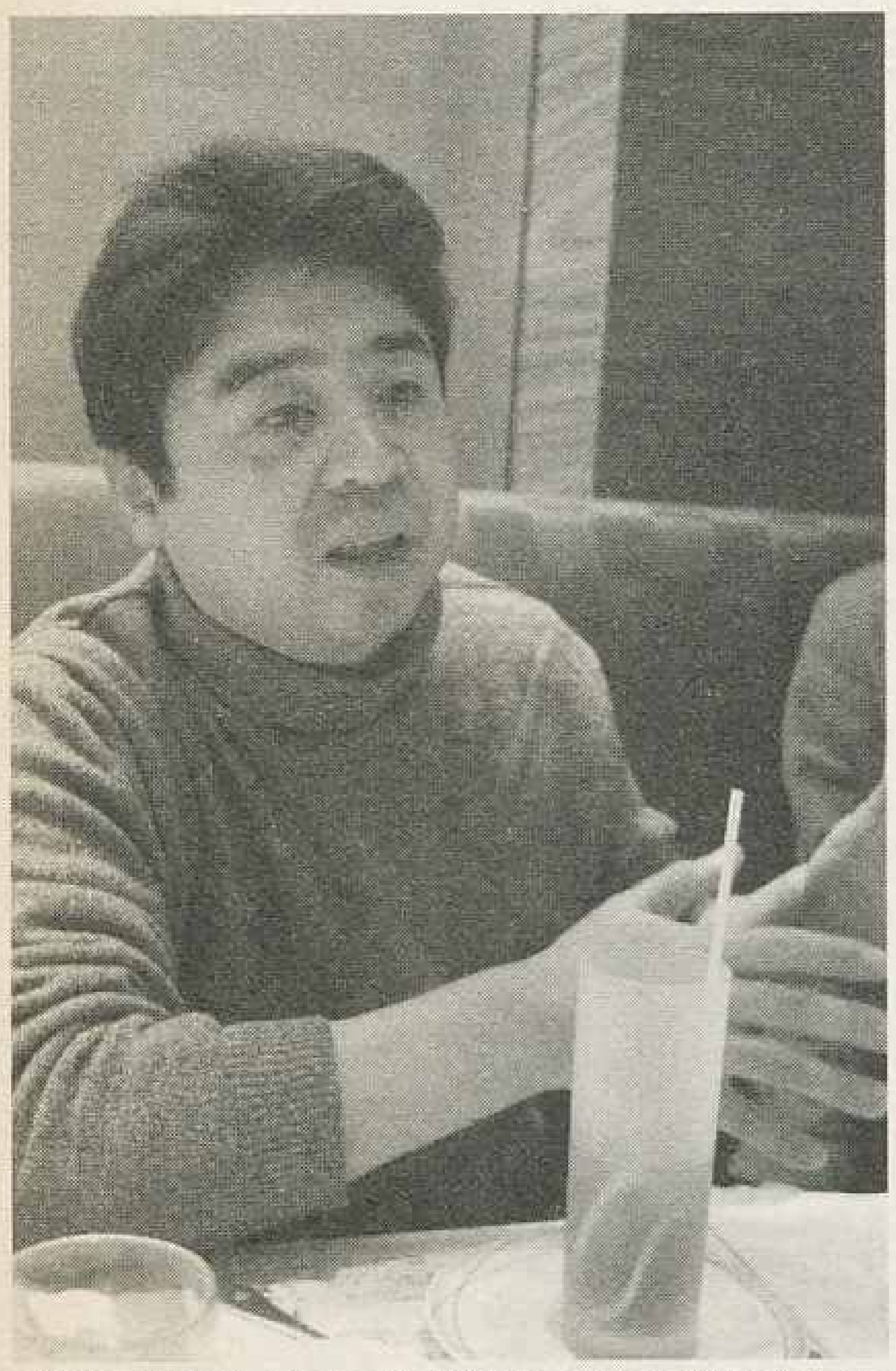
ターザン でも元子さんがボクにUWFのことを質問して、しかもそれを評価したっていうのが凄いよね。ハッキリ言って、ボクなんか『ケーフェイ』という本に関わったりしたんだから、元子さんとか馬場さんとか全日本にとって悪玉ウィルスみたいなモンですよォ。そういった偏見を方向転換して、ボクに対する評価を変えるっていうことは絶対にできないよ、普通！ ましてや元子さんも馬場さんも頑固な人だし、価値観が固まってる人だし、そういう部分は変えられないはずなんだけどねぇ。

——本来なら一番仲良くなりそうもないタイプですよねえ（笑）。

京平 一番仲良くなるなですよ、普通。まあ、遠慮なく来る山本さんが面白かったんじゃないの？ それに何にも言わない市瀬君がヒョコッと付いてくるのが楽しかったんだろうねえ。

ターザン そうそう、市瀬が非常にいい触媒になったというか、いいクッションになったんですよォ。ボクは『週プロ』の責任者で一応代表みたいなモンだし、馬場さんも代表だ

負けたレスラーを常に気遣うところが馬場さんの素晴らしさだと思いますね



いちのせ・ひでとし■1963年東京都生まれ。84年から『週刊プロレス』編集に関わり、最強の全日本プロレス番記者として、故ジャイアント馬場さんからも「いっきゅう」と呼ばれ、息子のようにかわいがられた。98年にベースボールマガジン社を退社。現在は野球を中心にフリーライターとして活躍中。先日は馬場本「ジャイアント馬場王道ミュージアム」（エンターブレイン）構成もつとめた。



素顔のG馬場

ホントは三沢たちも（追善興行）に出たいんですよ。馬場さんもわかってくれてるでしょう。（京平）

から、代表と代表じゃ話が堅くなるしさ、責任の取り合いみたいなことにもなるけど、市瀬がいたら世間話にもなるし、抜群のクッションだったよね。それを計算して彼を連れて行ってたんですよォォ！

京平　市瀬君は記者なんだけども、一般のプロレスが好きな少年の代表みたいな、そういう感じがしてたよね。

――そのころ、ここで食事しながら、どんな話をしていたんですか？

ターザン　例えば後楽園大会のあと、その日の大会に関してボクが気が付いたこと、感じたこと、考えたことを全部喋るんですよォ。洗いざらいすべて吐き出す。その中で新日本プロレスとか猪木さんの悪口なんかも言うわけですよォォ！

――それは馬場さんを喜ばせるサービスとして（笑）。

ターザン　やっぱり新日本が時代の中心軸だったし、いろんな話題を次々と提供するじゃない。その話題にはプラスもあるしマイナス面もあるけど、猪木さんとか新日本のやってることはいつも一番面白いんだよね。馬場さんと話をする上でそれをスパイスとして加えると、これが盛り上がるんですよォォ！　でも馬場さんは絶対に相づちを打たないんだから!!

京平　ただ聞いてるだけなんですよね。馬場さん独特の「フ〜ン。あっそう」で終わっちゃう。

――それを山本さんは喜んで貰えるという確信の下に話しまくってたわけですか？（笑）。

ターザン　絶対喜ばれてると思ってた。確信犯ですよ、ボクは！

――馬場さんが猪木さんのことを話すときってあったんですか？

ターザン　馬場さんからは何も言わなかったなあ。

京平　悪口も言わないし、猪木さんの名前を出すのは山本さんだけだったね。でも凄いよね、山本さんは。一方的に話してて会話が成り立つんだから（笑）。

ターザン　会話って普通はキャチボール形式になるはずなんだけど、馬場さんは沈黙しているんですよ。それでもボクと馬場さんは対話形式になってたんですよォ。つまり阿吽（あうん）の呼吸だったんですよォォ!!

市瀬　そういえば、ボクらがここで食事しているとき、（ユセフ・）トルコさんが来て「猪木さんの引退試合に、馬場ちゃん出てやりなよ」って一方的にしゃべって、馬場さんが凄く困った顔してたときありましたよね。

京平　困った顔っていうか、そのときも何にも返事しないし、相手が喋りっぱなしだったんだよね。

市瀬　トルコさんはいつも言うだけ言って、いなくなるんですよね（笑）。

京平　いなくなったあと、馬場さんは「何で俺がそんなことできるんだよ。無理に決まってんじゃねえか」ってポロッと言うんだよね（笑）。トルコさんは「俺がレフェリーやってやっから。馬場ちゃんじゃなきゃダ〜メだんだから！」ってまくしたてて、馬場さんは「フ〜ン」っていう反応なんだけど、トルコさんは「じゃあね、バァイ！」って帰っちゃう。アレもまた不思議な会話なんだけど、トルコさんからしてみれば「馬場さんと会話した。OKもらった」みたいな感じになっちゃうんだろうねえ。

――そう言えばトルコさんはウチのインタビューで「馬場は（猪木戦を）OKしたんだから！」って言ってましたよ（笑）。

京平　馬場さんは一言もウンとは言ってないんだけどねえ（笑）。

――当時の全日本と新日本って、それぐらい交流が困難でしたけど、90年2月10日の東京ドームに一度だけ全日本の選手が大挙して新日本に出ましたよね。あれは何で実現したんですか？

ターザン　その年にベルリンの壁が崩壊したんだけど、馬場さんと坂口さんがキャピトルで会ったんですよ。だからこれまでの馬場vs猪木っていう構造から、馬場さんと坂口さんっていう新しいプロレスの流れができたんだよね。

京平　前の年に坂口さんが新日本の社長になられたんで、そのお祝いみたいな意味もあったんでしょうね。

ターザン　一番の原因はその2月10日のドームに、発表してた目玉のリック・フレアーが来れなくなって、興行として目も当てられない状態になったんだよ。会社としてはエライことですよォ。で、新日本はとことん困って、馬場さんに頼るしかないっていうことになったんだよね。そのときボクは馬場さんに相談されたんだけど、すかさず「チャンスですよ。スティーブ・ウィリアムスを取りましょう！」って言ったんですよォォ！

京平　そんな話が行われてたんですか!?

ターザン　そうですよォ！　ボクはウィリアムスとテリー・ゴーディはメチャクチャ仲がいいって知ってたから、「ウィリアムスとゴーディが組めば目玉になりますよ。ウィリアムスの全日本移籍を交換条件にしましょう」って言ったんだよ。えげつないよねえ！

――そんな悪知恵を働かせてましたか（笑）。

ターザン　表向きは坂口さんの社長就任祝いで、馬場さんは新潟出身だから、上杉謙信みたいに敵に塩を送る形でジャンボとか天龍とかタイガーマスクを送り出して、ドーム大会が大ブレイクしたわけです。その裏にはもちろんビジネスがあるわけで、その仕掛人は全部ボクですよォォ！

京平　じゃあ、ウィリアムスからしてみれば、山本さん様々だね。あのまま新日本にいてもブレイクしなかっただろうしね。

ターザン　ウィリアムスはレスリングが堅いでしょ？　後楽園で、猪木さんをバックドロップで失神させてしまったんだから。そういう意味で新日本も嫌がってたから、このトレードは両方得するという、ハイレベルのいいトレードだったわけですよォ！

京平　全日本に来て、あんなに光りましたもんねえ。

ターザン　それはゴーディと組んだからだよね。気心の知れた仲間がいるとサーキットも気楽だし、能力も発揮できて気分もよくなるから。そのとき馬場さんは、スティーブ・ウィリアムスというレスラーを知らなかったんだけど、ボクみたいな単なる一介のマスコミの意見を受け入れたっていうのが凄いよねえ。馬場さんにしてみればウィリアムスなんかどこの馬の骨かわからないっていうのに。でも結果的にゴーディと組んでウィリアムスが生きたでしょ？

京平　あんな強くて絶妙なチームは他にないでしょ。あれはどっちかが欠けたら何の面白味もないチームですよね。

ターザン　スパイビーとゴーディだったらダメでしょ？　ビック・ボスマンでもダメだからね！　ゴーディの柔らかい感じと、ウィリアムスの堅い感じが絶妙で、剛柔がピッタリなんだよね。

京平　ムチャクチャ合ってますよ。ホントお見事としか言いようがない。

ターザン　ハンセンとブロディ以上に合ってるんだから！

京平　もしゴーディ＆ウィリアムスvsハンセン＆ブロディが実現してたら、こんな凄いカードはなかったよね。

ターザン　スーパーヘビー級のベストタッグ対決ですよォ！　いまだから言うけど京平さん、そのチームを作ったのはボクなんですよォォ！

京平　感謝しますよ。まあ、あのチームを裁いてた和田京平というレフエリーも凄いと思うけど（笑）。

ターザン　それは凄いですよォォ！　でも、もっと言わせてもらえば、カンナム・エキスプレスの組み合わせを考えたのもボクですよォ！

――カンナムもでしたか！（笑）。

市瀬　クロファットはもともと（第1次）UWFに来てたんですよね。

ターザン　ボクが馬場さんに「クロファットはいいレスラーですよ」って説明してね。あのチームもダグ・ファーナスの堅いレスリングと、クロファットの柔らかいレスリングの絶妙な組み合わせでしょ？

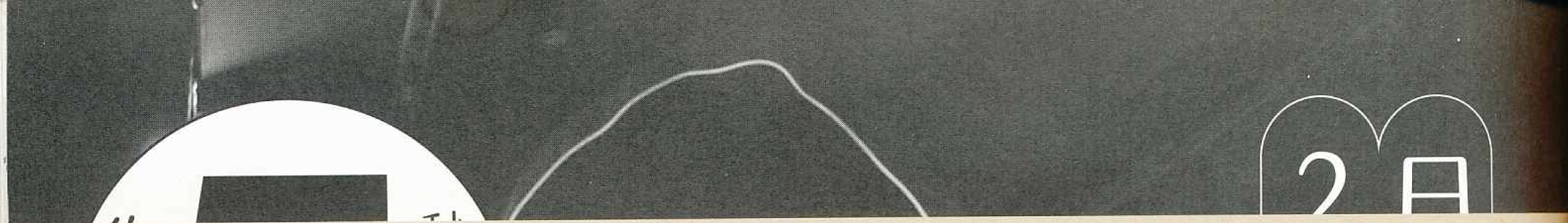
京平　クロファットはフザケたことばっかりやってるんだけど、ホント強いんだなあ、コレが。

ターザン　私生活は大の字がつくイタズラ好きで、どうしようもないガキ大将なんだけど、リングにあがると素晴らしいんだよね。

京平　もう余裕がありすぎて、リングの上で遊んじゃうんだよ。

ターザン　何でもできてたから。クロファットは天才的なレスリングセンスを持ってたね。

京平　だから当時『PRIDE』とかがあったら、全日本代表としてクロファットを出してみたかったよ



馬場さんに「菊地さんと闘ってください」って言ったら怒られましたね（笑）（市瀬）

ね。きっと「プロレスラーは何て強いんだ」って思わせるぐらいのことはやってくれたと思うよ。それぐらい当時は強かったから。

ターザン　飲みに行ってもアイツが大将なんだよね。

京平　でも、強すぎるがために落ちて行っちゃったっていうか、自信がありすぎたのかなあ。ただ、間違いなく言えるのは、ゴーディ&ウィリアムス、クロファット&ファーナスに揉まれて日本人選手はみんな強くなったってことだよね。

ターザン　もの凄い財産になったよね。しかもそのガイジンたちも、タッグを組んでからどんどんプロレスが上手くなるんだよ。スピードとパワーとテクニックに磨きがかかるというか、どんどん進化していくんですよォ！　それに耐えられなくなって「俺にはこのレスリングはできない」っていなくなったのがビッグ・ボスマンなんだよね。

京平　いつの間にかいなくなっちゃってたねえ。

ターザン　「こんな難しいパズルのようなプロレスはもうできない」と。そんな中で「俺はできる」と思って、ずっともがきながら、最後まで完成品にならなかったのがジョニー・エース！

――やっぱりエースでしたか（笑）。

ターザン　理屈が先に走ってて、馬場さんにゴマはするは、喋りは上手いはで世間的には長けてるんだけど、そんなヤツが三冠王者に届くわけがない。しょっぱい男でしたよォ！

京平　一度、馬場さんに「自分もゴーディやウィリアムスのようにファーストクラスにしてほしい」って直訴して、「この野郎、何がファーストクラスだ」って怒られてたことがあったよね（笑）。

ターザン　エースは、ギャラとかに



2·5『ジャイアント馬場七回忌追善興行』のメインは川田&モスマン（ケア）vs天龍&渕。選手大量離脱後に全日本を支えた4人が努めた。そして最後は、元子さんを交えて記念撮影。馬場さんの肖像の前では、あえて加わらないところが天龍らしかった。





素顔のG馬場

もし当時『PRIDE』があったら、全日本代表としてクロファットを出してみたかった！（京平）

関しては無神経にズバズバと馬場さんに言いに行くタイプだったから。

——そしていまではWWEの副社長ですもんねえ。

ターザン だからアイツはビジネスマンだったんだよね。ああいう妙に中途半端な男がいたっていうのもいいよね。あとダニー・スパイビー。

京平 スパイビーなんか悪くなかったんだけど、周りが良すぎちゃったから宙に浮いてポツンとなって、来づらくなっちゃった。可哀想なぐらい目立たなくなってましたからね。

ターザン 周りのレベルが高すぎてノイローゼみたいになっちゃったんだから。

市瀬 スパイビーは力が落ちたわけじゃなかったんですけど、周りがどんどん進化していくから、スパイビーが古くさく見えましたもんね。でもゴーディもウィリアムスも身体壊してダメになっちゃったじゃないですか。もうちょっと頑張ってくれてれば、また四天王プロレスも変わっていったと思うんですよね。

ターザン 2人とも、毎回ファーストクラスで、飛行機の中で酒飲み過ぎていたからねえ。成田に着いたときには、もう泥酔状態ですよ！

京平 もうベロンベロンだったもんねえ。馬場さんがよく言うのは「昔のNWAチャンピオンたちは、みんなスーツ着てビシッとしてたけど、いまはTシャツ・短パン・ビーチサンダル。なんじゃこりゃ？」って（笑）。

ターザン それをやり始めたのがハンセン＆ブロディで、彼らからTシャツとジーンズになっちゃったんだから。

京平 あとはテリー・ファンク。でもそこらへんから馬場さんもガミガミ言わなくなりましたよ。「もう流れがそうなんだったら、好きにしろや」って感じで。

ターザン いろんな面で柔軟になっていったよね。だって天下のジャイアント馬場がラッシャー木村さんのマイクに付き合ってんだから！

京平 最初は馬場さんも、何だって思ったんだろうけど、毎回やられたら馬場さんも逆に楽しみになっちゃってたみたいだもんね。でも、もっと凄いのは永源（遥）さんのツバだよね。お客さんにツバを飛ばすんだから。それをある日馬場さんが「京平、リングサイドのお客は、新聞まで用意して喜んでんだなあ」って。馬場さんが柔らかくなってきたっていうか、受け入れていったんですよね。

ターザン そしてボクらの意見も受け入れていってくれたんですよォ！

京平 でも、最初に市瀬クンが馬場さんに「今度、菊地（毅）さんと闘って下さい」って言ったら怒ったよなあ（笑）。

市瀬 怒られましたね（笑）。

京平 市瀬クンはファンの気持ちで、馬場さんと菊地がやったらどうなるんだろうって思って言ったんだけど、馬場さんは「そんなモン勝負になるか」って怒ったんだよね。でも市瀬くんは、その勝負にならない菊地が見てみたいし、菊地とも闘う馬場さんが見てみたいだけなんだよね。

——ファンとしてはそうですよね。

京平 だから昔はメインエベンターと前座っていうのはハッキリ分かれていたけど、いまは第一試合に出てた選手が、次の日はメインに上がってたりするからね。そういう自由なマッチメイクにしたのは市瀬クンたちの力じゃないの？ だって馬場＆三沢＆小橋組に対して、川田＆田上＆菊地組とかさ、馬場さんからしたら「何で俺が菊地とやらなきゃいけねえんだ？」ってなるよね。

ターザン 馬場さんは「俺はもうメインとかじゃなく、このポジションでいいだろ？ 今更メインに使うな」って言ってたんだよね。でも馬場さんはメインに出ると嬉しそうなんだよね。それが市瀬の最大の功績なんですよォ！ ボクらみたいな下々が馬場さんを動かしいたっていうことは、コレは凄いことですよォ！

京平 もちろんすんなりは受け入れてないんですよ。相手と自分の立場を考えて、文句言いながらも、「ファンが望むならやってもいいか」って受け入れてくれるんですよね。

ターザン そう。最初は否定するんだよ。「できるわけないじゃないか。何でいまさら俺が出て行くんだよ」とか、散々と拒否反応を示してやんわりと断るんだよ。でも、めげないで3回ぐらいお願いするとやってくれるんだよね。「お前らがそこまで言うんだったら」って。そのやりとりが、通常のビジネスでの関係ではあり得ない、ジャイアント馬場流のコミュニケーションのあり方だったんだよね。これが楽しかったんですよォ！

市瀬 でも、やっぱりボクらが言ってもダメな一線はあるんですよ。この前山本さんに話したら凄く感激された話があるんですけど、『チャンピオンカーニバル』って10何人選手が出て、総当たり戦をするじゃないですか。でも、会場に来たお客さんはいまどの選手が何勝何敗かってわからない。ボクらも毎日取材に行ってて不便に感じてたんで、ボクが元子さんに「会場の売店に星取り表を毎日貼りましょうよ」って言ったら、元子さんも「ああ、いいわね」って言ってくれて、一日張ったんですよ。でも次の日はずされてて、何でかなって思ったら、馬場さんが「黒星ばっかり並んだレスラーがどう思うか考えてみろ」って言ったらしくて、一日でボツになったんですよ。そこまで考えが及ばなかったですね。

——いい話ですねえ。

京平 そこまでいろんな細かいことまで気を使ってやってるのは、ホント凄いなあって思いましたね。普通、そこまでは考えられないじゃないですか。

ターザン 馬場さんは負けたレスラーに気を使うんだよね。

市瀬 そういうところが馬場さんの素晴らしさでもあるし、80年代までは負けるレスラーのことを考えていたからこそ、両リンとか反則負けとかいっぱいありましたもんね。

ターザン 『最強タッグ』なんか両リンだらけだったよね、京平ちゃん！

京平 ホントそうでしたよね。

市瀬 星取り表のときもそうでしたけど、馬場さんの中では負けは重いわけですよ。でも、ある日から完全決着みたいな形をやり始めたじゃないですか。そのときの馬場さんの決断ってやっぱり凄いことだと思うんですよ。

——ある日を境にガラリと変わりましたもんね。

ターザン 今の日本というか世の中ね、やれ変革とか改革とか言われてるじゃない。でも、みんな自分の利益を守ろうとするから変えることができない。変えたくても変えることができないんだよね。人間って刷り込まれた価値観っていうモノは変えられないのに、馬場さんほど晩年にすべてを変えた人はいないですよォ！ いまでも、よくマレンコ兄弟とか呼んだと思うもん。彼らなんか小さいし、UWFに来てた選手でしょ？ それまでの馬場さんの価値観だったら絶対に呼ばれてませんよォ！

京平 でも、意外に認めてましたよね。小さいけど技術的な部分でしっかりしてるから。

ターザン マレンコ兄弟は後楽園でキッド＆スミスとやって話題になったんだよなあ。

市瀬 89年1月。そのへんからですよね。全日本がワッときたのは。

京平 あのころ山本さんがよく「後楽園は聖地なんだから、手を抜いちゃダメですよ」って言ってたじゃないですか。

ターザン そうそう。後楽園を取りあえず満員にして、それを一つの神話にしていけば、地方のファンも後楽園ホールに行きたいなと思うし、後楽園大会をそのままのパッケージで地方でやるんですよ。そうしたら全日本が信頼を勝ち得て、その信頼が一番の財産となりますよと言ったんだよね。

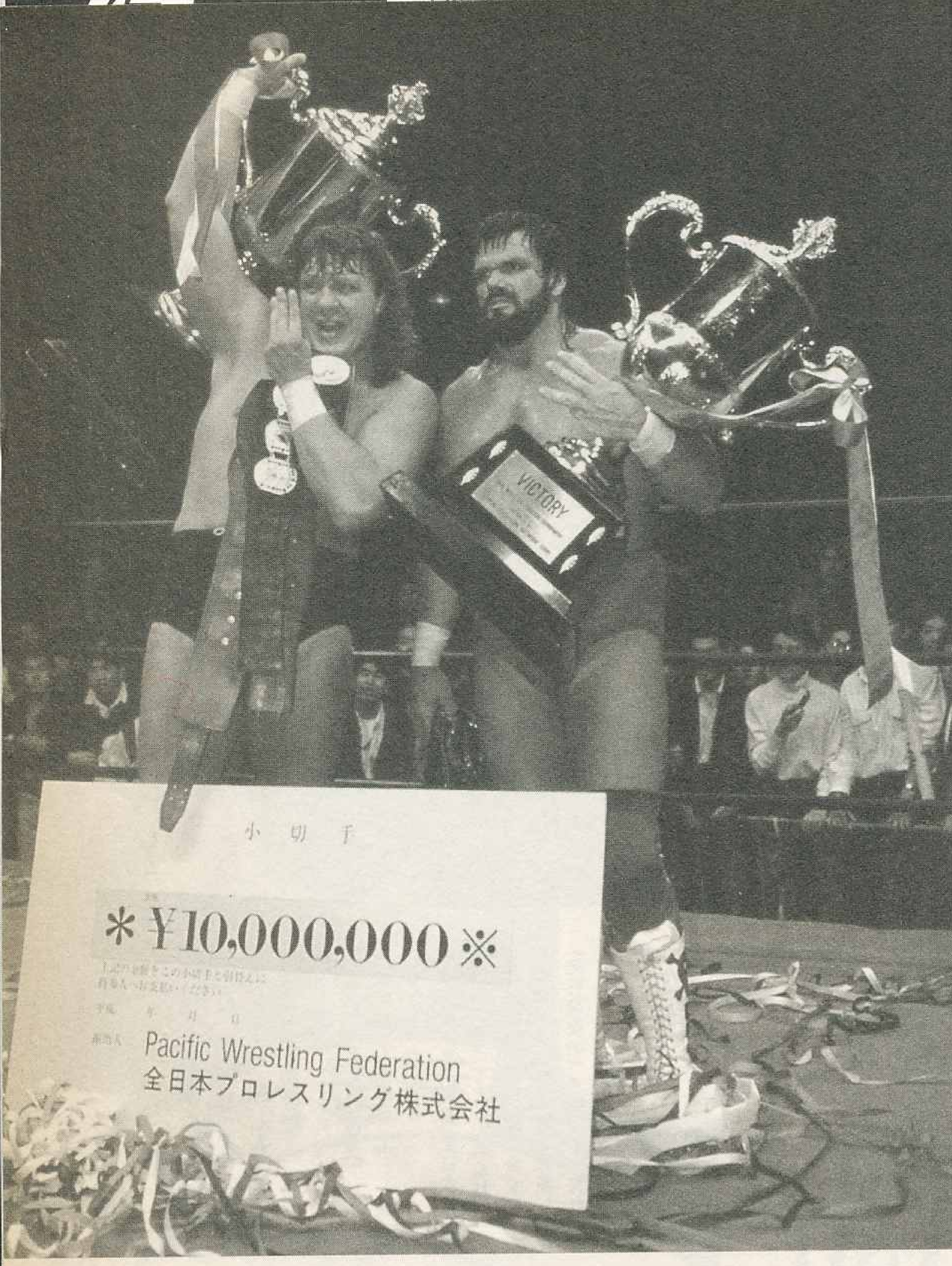
京平 実際、そうなりましたからね。後楽園が満員続きで、武道館も満員になって、そしたらそれが地方まで延びて行ったんですよ。

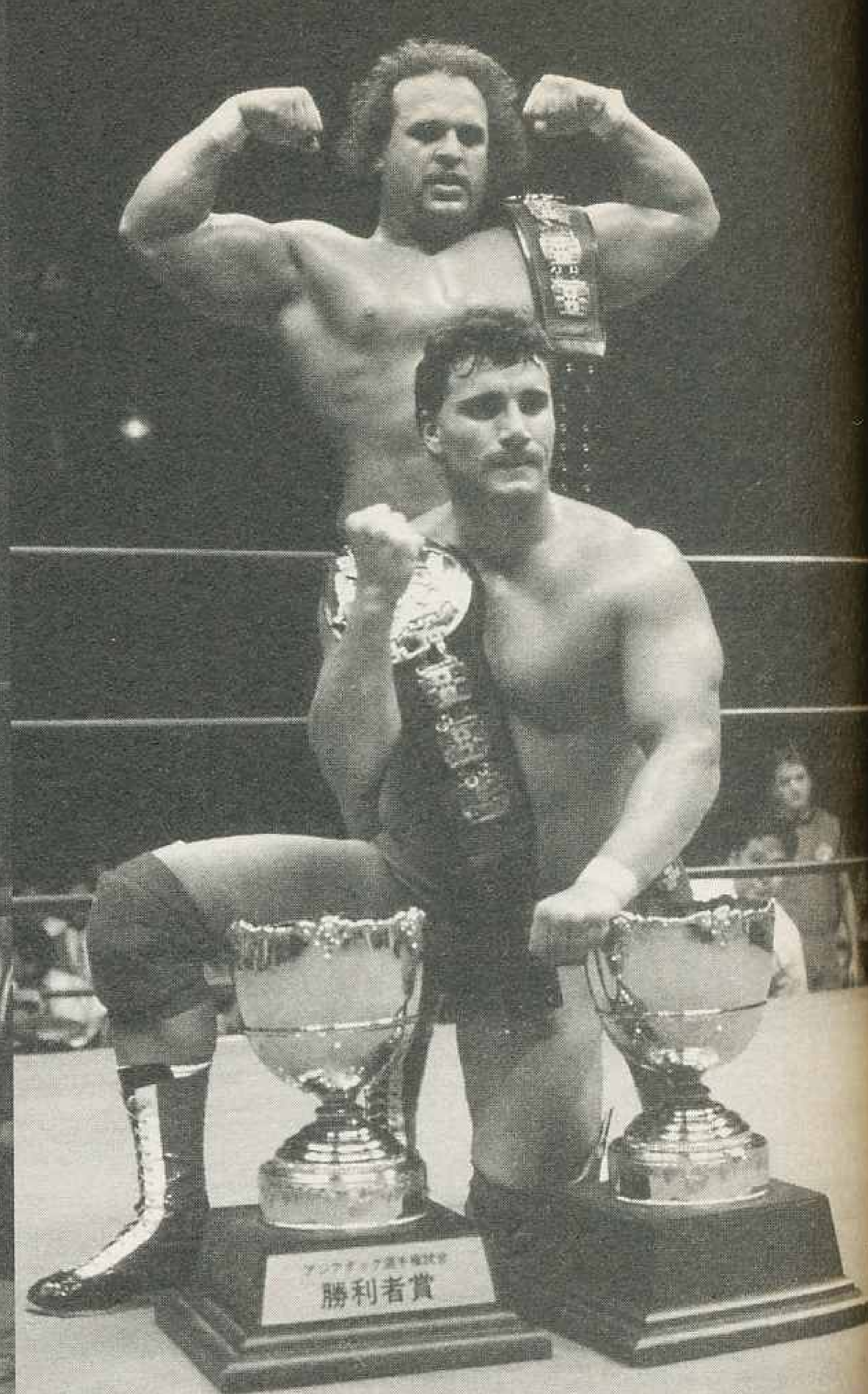
——そして90年代の四天王プロレス黄金期に繋がるわけですよね。

京平 そうですね。そのころ言ってた馬場さんの言葉が忘れられないですね。「俺は社長やって、こんなに嬉しいのは初めてだよ」って言ってましたから。

ターザン ボクもそれは聞いたよ！ それまでは「プロレス団体の社長にだけはなるもんじゃない」って口癖みたいに言ってたんだから!!

京平 「京平、俺はよかったよ。みんなにニコニコされてなあ。その前までは社長なんてやるモンじゃねえって思ってたけどなあ」って。ホントにそれまで大変なことも多かった





80年代末から90年代前半、全日本マットで大活躍した2大タッグチーム、ゴーディ&ウィリアムスの“殺人魚雷コンビ”とカンナム・エキスプレス(クロファット&ファーナス)。彼らの時代がまさに全日本の全盛期だった。

ウィリアムス移籍を進言したのも、カンナムを作ったのも、僕だったんですよォ!(ターザン)

からね。

ターザン　一番の危機はメガネスーパー事件ですよォ!

京平　あのときは、見えないとこで山本さんや市瀬君に応援してもらったよねえ。

ターザン　馬場さんにとってメガネスーパー事件が最大のターニングポイントというかピンチだったからね。そうなったとき、馬場さんに関わるのは今しかないって思ったんですよォ。ボクにとっても正念場、最大の山場だったんですよォォ!!

――全日本がピンチのいまこそ馬場さんに取り入るチャンスだと(笑)。

ターザン　いや、馬場さんと元子さんは社会的、世間的にできあがった人じゃない。ボクたちはそんな人たちとめったにお付き合いできないでしょ。そのお二人がピンチになったときに初めてボクたちは馬場さん夫妻と深く関われるビッグチャンスを得たんだよォォ!

京平　あのころ山本さんや市瀬君が夜中の3~4時まで、時間を忘れて「次はコレをやろう。何をやろうか?」って話し合ってくれたよね。

ターザン　ボクにとっても一番の賭けだったから必死ですよォ!

京平　俺も頑張ろうっていう気持ちが強かったんだけど、俺に対しては周りから「お前も(SWSに)行くんだろう?」っていう目が結構あったんだよねえ。山本さんと市瀬君もそう思ってたと思うんだけど(苦笑)。

――完全に疑われていたと(笑)。

ターザン　京平ちゃんと天龍さんは仲がいいから、みんな怒濤の如く言ってましたよォ!

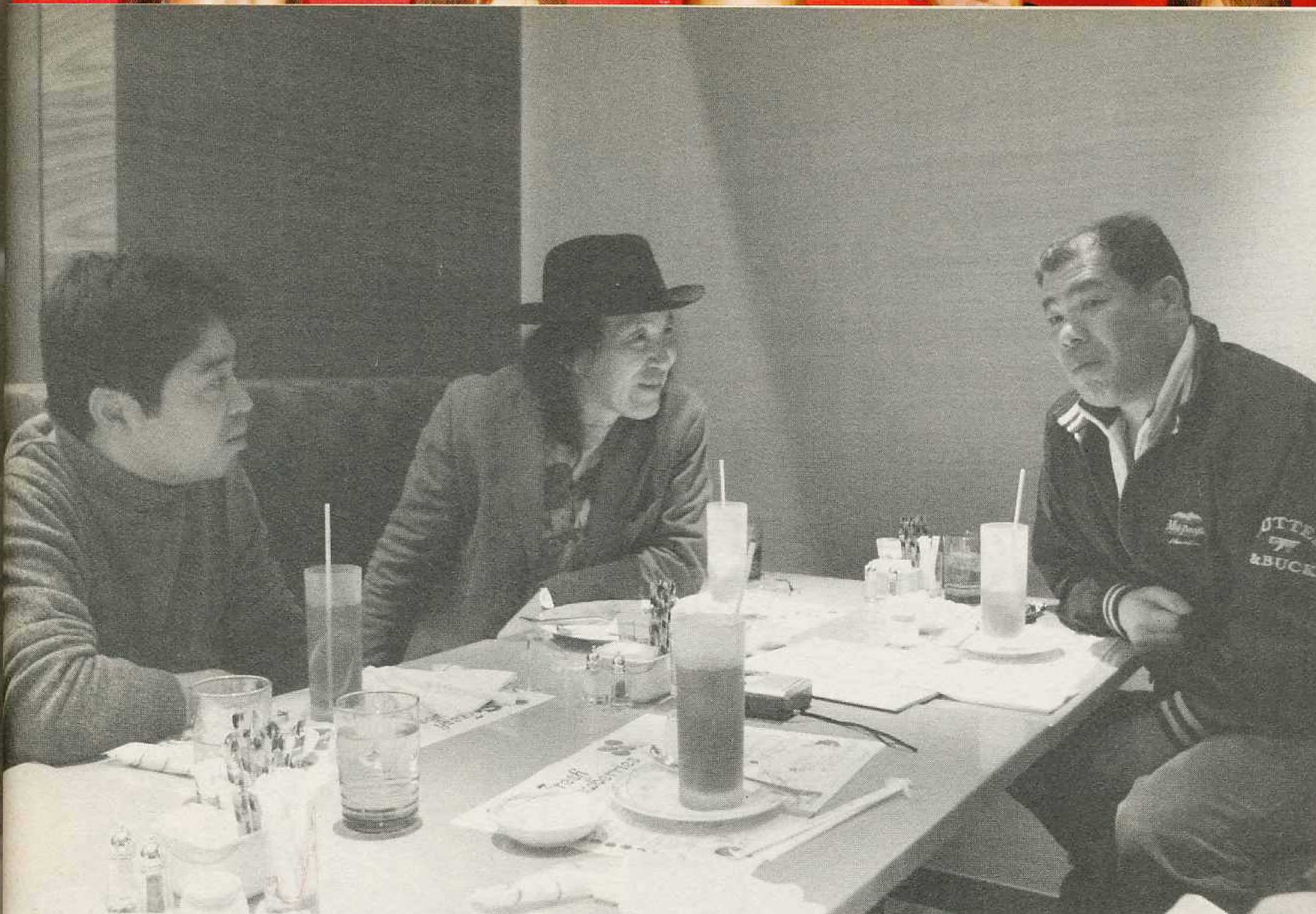
京平　下のヤツらも「なにカッコいいこと言ってんだよ。京平さんも行っちゃうくせに」みたいな感じでね。でも、これは自信を持って言えるけど、俺はリング屋さんもまとめてたし、俺が行ったら全日本プロレスが潰れちゃうなと思ったから。だから残っちゃったよね。

ターザン　京平ちゃんは最後の良心だよね。あのとき京平ちゃんがどちらに動くかによって、すべてが決まったんですよォ! 俺たちは、京平ちゃんが残ったとき全日本は生き残れると確信したんだから! メガネスーパーに戦力的な武器弾薬ではとうてい勝てないけども、そのほかの部分では対等に闘えるって思ったんですよォォ!!

京平　でも、みんな信じてくれないんだよね。(仲田)龍なんてヒドくてさ、「京平さん、ボクは行っても許しますから」って(笑)。あのころは、みんな考え方がバラバラだし、自分に自信を持たないとダメだなあって思いましたよね。

ターザン　ボクは自信がありましたよォ! 客観的な戦力分析とかハズして考えたら、たとえメガネスーパーが巨大な資金を持ってたとしても、馬場さんという存在が負けるわけないじゃないかって。もし馬場さんが負けるようだったら、この業界は終わると、そう思ってたから。最後は絶対にジャイアント馬場が勝つと思ってましたよォ! この理屈じゃない確信を持ったのは6月30日の後楽園大会。そのときの会場のムードが、初めてファンが団体をバックアップしようという濃密な応援だったんだよね。選手がファンを満足させなきゃいけなかったモノが、ファンが後押しするいいムードだったんだよ。あのとき初めて歴史が変わったなと確信したというか。それが次





SWSに行った人たちも結局、みんな馬場さんが好きだったんですよォ！（ターザン）

の武道館の三沢vsジャンボ戦につながっていくんだよね。

市瀬　結局、5月に天龍さんが抜けて、7月に谷津さんとカブキさんが抜けて激震が続いたんですけど、9月のSWS（プレ）旗揚げのころには全日本が持ち直しちゃったんですよね。

ターザン　SWSは横浜アリーナで旗揚げしたんだけど、ホント笑ったもんな！

市瀬　逆にそのころ全日本は完全に勢いに乗ってましたもんね。

京平　当時、武道館大会をやったときに、次の武道館大会を発表したら（先行発売の）チケットが売れに売れまくって、馬場さんが「次に何やるかわかりゃあしねえのに面白れえもんだなあ。こりゃウソつけねえなあ」って言ってましたよ。お客さんが馬場さんを信用してくれるから、変なカードは持ってこれないんだよね。

市瀬　92年10月の三沢vs川田のとき、8月の武道館で前売りを売ってたんですけど、そのときの行列っていったら凄かったですもんね。

京平　そのころだよね「俺は社長やってて良かった」って馬場さんが言ったのは。

ターザン　だからね、ボクは遅れてきたライターなんだけど、馬場さんと元子さんを独占したいっていうのがあったんだよ。そのチャンスはSWSが大量に選手を引き抜いたときに来たんだよ。そして馬場さんに「社長やっててよかった」っていういい思いをしてもらうことができて、そのことで一緒に関わることができたっていうのが最大の喜びだよねえ。

市瀬　竹内さんはその気はなかったのかもしれないですけど、『ゴング』が小佐野さんのつながりでSWSに行っちゃったじゃないですか。『東スポ』とか『日刊』の川添さんは「全日本崩壊の危機」とか打ってたし、菊池（孝）さんは悪い人じゃないんだけど、SWSの解説とかジャッジみたいなことしてましたからね。

——ありましたねぇ、なぜか菊池さんがジャッジ（笑）。

ターザン　あれは非常に都合が良かったよね。馬場さんを囲んでた人がみぃんなアッチに行ったからボクたちの独占ですよォ！

——「みんながSWSに走るので、私、ジャイアント馬場を独占させていただきます」って感じだったわけですね（笑）。

ターザン　そうそう（笑）。だからこのSWS騒動を総括して、いまとなってわかったことが一つあるんだよね。

——なんですか？

ターザン　あのとき、みんなSWSに行ったでしょ？　でも結局、全員馬場さんが好きだったんですよ、ホントは！　みんなで馬場さんの取り合いをしてたんだけど、最終的に『週プロ』というオバケ雑誌が馬場さんを取ってしまったから、みんな仕方なしに向こうに行っちゃったというか。ホントはメガネスーパーなんか本命じゃなくて、みんな馬場さんが大好きだったんですよォ！　ボクたちは馬場さんの奪い合いをしてただけなんですよォォ!!

京平　ホント、みんな馬場さんが好きですよ。この『オリガミ』に山本さんが来すぎて、他のみんなが来れなくなっちゃったんですよ（笑）。

——すべては山本さんのせいでしたか（笑）。

ターザン　あの時期だけボクが馬場さんを独占させてもらったんですよォォォ！

京平　でも最終的にみんな戻ってきてますよね。

ターザン　それが明日（2・5武道館『ジャイアント馬場7回忌追善興行』）ですよォ。

京平　明日もねぇ、ホントは三沢とか小橋も内心は出たいんですよ。

ターザン　そうなんだよね！　でも人それぞれの立場があったり行きがかり上のことがあったりして、それが壁になって出れないけれども、ホントは出たいですよォ。それを上手く調整する人がいなかったんだよね。あるいは出れるようなお膳立てとか状況とかを作ってあげればよかったんですよォ。

京平　だから、失礼な言い方になるかもしれないけど、やり方間違っちゃったかなっていうのはありますね。

ターザン　過程の中で、出なきゃいけないなっていうムードにしてあげれば、喜んで出れたんだけどねぇ。

京平　そうですね。でも馬場さんも彼らのことはわかってくれてると思うし、納得してくれてるんじゃないかなあ。

ターザン　猪木さんと馬場さんを比べると、そういった意味で馬場さんっていう人はホントにデカい存在だよねえ。だって最後は誰もが馬場さんが好きなんだもん！　やっぱり馬場さんは偉大ですよォォ！

——では、みなさん。馬場さんの思い出は尽きませんが、今日はこのへんでお開きにさせていただきましょう。

ターザン　もう終わりか!?　まだまだ話し足りませんよォ！　ガンツ、これは第2回やらなきゃダメだよォ！　もうオレたちは馬場さんに直接話を聞くことはできないんだから。これからは京平ちゃん頼りですよ。まだまだ埋蔵量がたっぷりあるんだから！　京平ちゃん、また話しよう！　馬場伝説を語り継ぐんですよォォ！

——では、また次の機会を楽しみにしています。今日はありがとうございました！

【05年2月4日／赤坂・キャピトル東急ホテル「コーヒーハウス オリガミ」にて収録】

日本一の藤波ウォッチャーが語る 2005年ドラゴン計画!!

復活5秒前ッ!?



「今年のMVPは間違いなくドラゴンです!」

ユリオカ超特Q

昨年までのドラゴンは社長なのに箝口令が敷かれたり、その社長の座を追われてみたりと、すっかり発言の場を失い全国のドラゴンウォッチャーを悲しませた。しかし2005年、我らがドラゴンが遂に無我で復活！　更に『ファイト』紙上での問題発言など、新年早々すでにノンストップ・ドラゴン状態に突入！　今回、日本一、いや宇宙一のドラゴン番・ユリオカ超特Qが、2005年版飛龍革命について熱く語りまくった。らっしゃい!!

構成／松澤チョロ　撮影／斎野もみじ
design by さおとめの事務所

――今日は日本一のドラゴン番のユリオカさんに、たっぷりとドラゴン話をうかがえればと思っております。

ユリQ　日本一というか、僕しかいませんからね（笑）。まあ、昨年の藤波さんは胆石の手術があって。その後5月ですか、社長を解任されてしまったわけですけど、正直、藤波さんが解任された時に、草間社長には、それこそカルロス・ゴーンじゃないけども、みんな期待したわけですよ。

――かなりの切れ者という触れ込みでしたからね。

ユリQ　変な言い方ですけど、藤波さんだから次の社長はもっとなんとかなるだろうと思ったらね、見てください！　いまの草間さんのバッシング振り。北斗には蹴られるわ、あの有望な新闘魂三銃士の柴田には「わかってない」って辞められちゃうわ。やっぱりね、みんななんだかんだ言ってドラゴン社長の方がどれだけ良かったか、楽しかったか、幸せだったかわかるでしょ、経営的な部分はともかく（笑）。その辺をみんな気づいてませんでしたよね。

――藤波さんは無意識のうちにガンガン話題も提供してくれてましたし、いい社長でしたよね（笑）。

ユリQ　やっぱり藤波さんにはドンドン全面に出てきてもらわないと。

――でも今年に入ってからは結構、表に出てきてじゃないですか。

ユリQ　そうなんですよ。今年はまずライガーと一緒にプロレス運輸のCMに出演っていうのがありましたけど、あれは明るいニュースですね。でも、やっぱり今年の動きとしては2年3ヶ月ぶりの無我復活ですよ。

――久々に無我興行が開催されましたよね。

ユリQ　僕はその日は朝からラジオの仕事がありまして、次の日の日曜日も仕事があったんですけども、その合間を縫って、1人でらくらくビジネスパックを予約しましてですね、札幌まで行ってきました。もちろん自腹です。

――仕事の絡みとかもなく？

ユリQ　まったく絡んでません！

――さすが、日本一のドラゴン番！（笑）。早速ですが感想を聞かせてもらえますか？

ユリQ　無我の大会ポスターの真ん中に藤波さんがデカく載ってるにもかかわらず、試合カードがまず組まれてないんですよ。

――公開練習をするという発表はありましたよね？

ユリQ　直前にありましたけど、僕は「公開練習をするらしい」っていう時点で札幌行きを決めましたからね。

――「らしい」だけで（笑）。

ユリQ　ところがですよ、行ってみたらですね、第3試合が終わった後の休憩で、いきなりテーマソングが流れて、なんとなく藤波が歩いてきたんですよ。

――なんとなく（笑）。

ユリQ　僕は1列目で見てたんですけどね、僕の反対側のリング下で縄跳びしてるんですよ。だからまったく見えないんですよ。で、その後、ようやくリングに上がったと思ったら、おなじみのプッシュアップボードを持って、ひねりを加えた腕立て。しかも、レスラーが腕立て伏せをしてるだけなのに、みんな凄い拍手してるんですよ。よく考えたらおかしな話なんですけど（笑）。

――ですよね（笑）。

ユリQ　で、その後はコシティですよ、昭和のファンにおなじみの。コシティもね、大と小がありましてね、まず小の方を回してね、その後、大を回すんですよ。で、トレーニングの間はずっと『ドラゴンスープレックス』の軽快なバージョンが薄く流れてるんですよ。だからマジックショーが行われてるみたいな感じで（笑）。

――アハハハハ！

ユリQ　なんか歩行者天国で外国人の大道芸を見てるようなリアクションで拍手してましたね（笑）。そんなことがありながらも、いよいよ竹村（豪氏）が上半身脱いでスパーリングですよ！　このスパーリングっていうのは、言ってみれば『猪木祭』の猪木vs藤波戦。あれは猪木さん的には引退試合だと思ってるでしょうし、その辺の永遠の気持ちのすれ違いはありますけども、あれ以来の実戦スパーリングですよね。僕はそれだけを見に自腹で行ってるわけですよ。

――それだけでも十分にお金を払う価値はある、と。

ユリQ　ええ。そしたらCTU軍団が乱入ですよ。藤波に「CTU入りの答えをくれ」ということで。僕はもしかしたらCTUの、邪道、外道、ライガーと3人掛けやるのかなって思ったんですよ。そしたら逆にラッキーだなと。竹村と通りいっぺんのスパーリングをやるよりも、邪道と藤波なんか超異次元対決ですよ！　誰もが望むことも忘れていたような夢のカードですよ。

――すっかり忘れてましたね（笑）。

ユリQ　藤波っていうのは意外とインディーの選手と一番絡んでない人ですからね。長州力のようにインディー批判こそしませんけど、実はもっともインディー嫌いなんじゃないかとさえ僕は踏んでましたから。

――それはあるかもしれませんね。

ユリQ　そしたらね、10秒経ったぐらいでね、棚橋と西村が藤波と邪道のスパーリングを止めたんですよ。「こんな男とスパーリングするな」って。そこに蝶野も出てきて、我々に聞こえないような耳打ちをしたら藤波の表情が固まって「今日は何も言えません」と。その「今日は何も言えません」っていうのはマスコミに向けてバックステージで言ったんですよ。だから我々からすると、単に10秒のスパーリングを見せられて、蝶野に何かを囁かれたら藤波は何にも言わずにトボトボ帰っちゃったと。それだけなんですよ。

――会場の雰囲気はどうでした？

ユリQ　みんな「え～っ？」ですよ。で、「次の日の月寒ドームにXを連れてくる」って蝶野が言ってたじゃないですか。しかも「ポリシーのある大物だ」って言ってたんで、「なるほど、そこで藤波だ」と。で、「なんだ、もう帰らなきゃいけないのに残念」と思ったら、翌日、普通に鈴木みのるがXとして出てきたじゃないですか。

――ちょっと期待しましたよね。

ユリQ　僕は翌日は見れなかったんでいいんですけど、結局、数秒間のスパーリングのためだけに札幌まで行ったみたいなもんですよ。だからね、「こんな興行見るのやめてやる！」って僕は飛び出しましたよ、夜の札幌に！

――ドラゴンばりに（笑）。

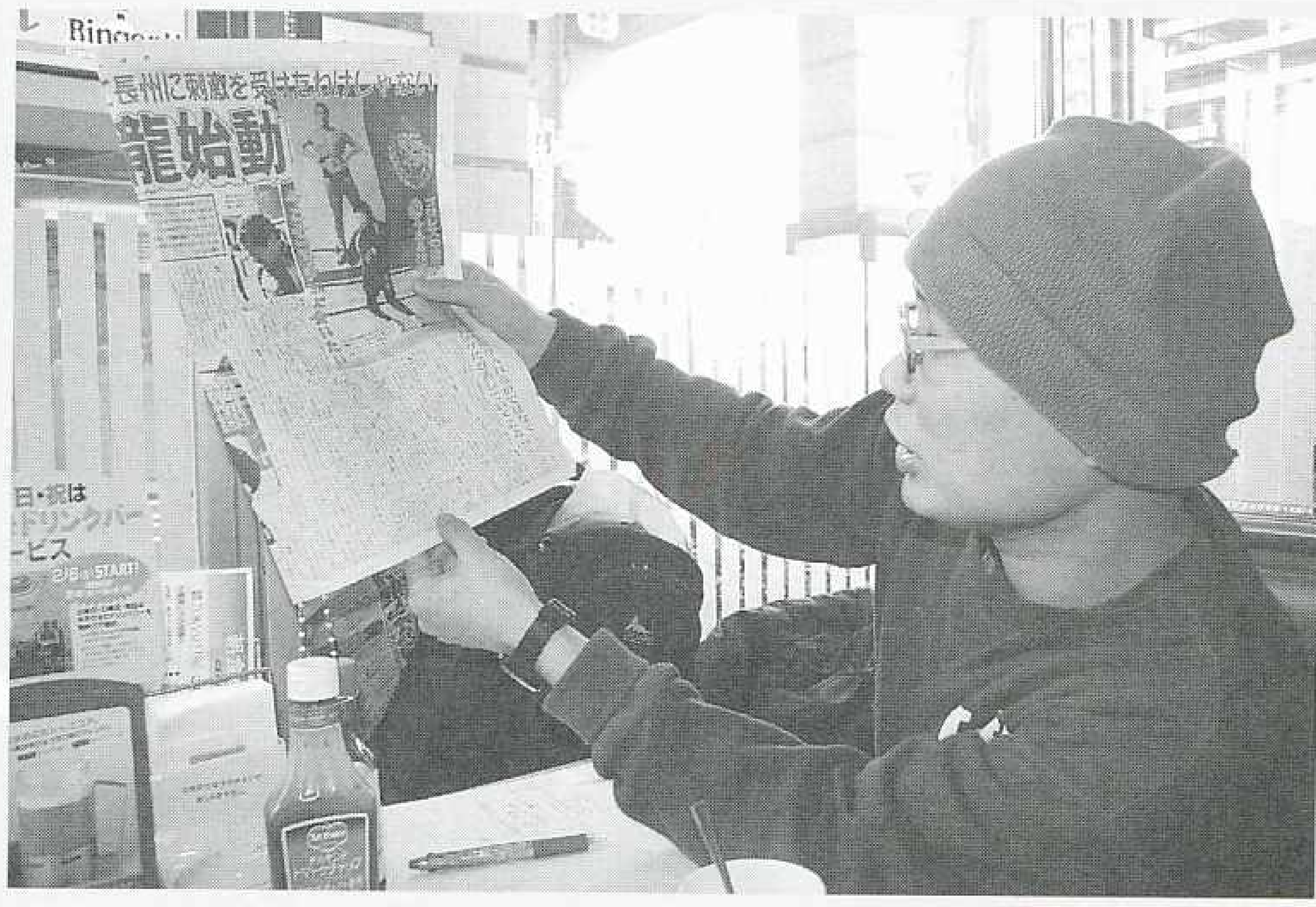
ユリQ　ホントそれぐらいの気持ちでしたからね。でも僕も後で気づいたんですよ。札幌っていうのは藤波が何かを起こそうとしても、必ず誰かに中断される場所なんだと。今回も組長の時と一緒ですから。裏切りの街なんですよ、札幌っていうのは。

――裏切りの街、札幌（笑）。

ユリQ　あと、今回の無我を結構誉める論調で各マスコミは書いてるじゃないですか。僕から言わせてもらうと、あれじゃあ、なんちゃって無我ですよ。

――なんちゃって無我!?

ユリQ　メインの西村vs鈴木みのるっていう試合はね、これは確かに素晴らしかったですよ。それは認めましょう。ただね、永田vsライガーなんて、永田も「やりづらかった」とか、ライガーも「ラウンド制は制限される」とかね。じゃあ無理に出ないでほしいですよ。要するに無我っていうのは、ある意味プロレス界のスイスなんですから。



大量の資料を用いてドラゴンへの熱い思いを語るユリQ。吉江ばりに増量してしまったドラゴンの体重を気にしていたが、2月23日の時点ではドラゴンはコンディションも上々。3・20両国大会出場への出場もあり得ると明言した。

藤波さんと西村の無我は根本的に違うってことがハッキリわかりました



——無我は永世中立国だと（笑）。

ユリQ　そう！　だからあの空間だけは因縁とか抗争とかを忘れて純粋に闘う場なんです。それと無我の何がいいって、汚い野次が飛ばないっていうのが無我ワールドなわけですよ。だけど、まずその前にね、吉江vs飯塚っていうのがあったんですよ。これもまた意味がよくわからないんですけどね。それも終わった後に中西が見てたら、「中西、明日の大会でお前をぶっ潰す！」みたいなマイクアピールで次の日の煽りみたいなことを始めて。そこも無我じゃないんですよ。

——スイスでやっちゃダメですよね。

ユリQ　非武装ですからね、その空間だけは。よくも悪くも新日本っていうのはスキャンダルの歴史で、猪木さんの流れの世界観でやってるわけですよ。ただ、無我の時ぐらいはそういうのは忘れて、基本に戻ってやろうじゃないかっていうのが無我じゃないですか。だから鈴木みのるなんかはいつもは毒舌吐いてるのに、あの時だけは最後に握手もして、クリーンファイトもして、ちゃんと空気が読めてるんですよ。

——みのるは無我を理解していたと。

ユリQ　そうなんです。要するにこれは簡単な話でね、僕らお笑い芸人だってね、たとえば深夜番組に出る時とかね、NHKに呼ばれた時とか、いろいろ使い分けるわけですよ。

——ネタの制限もあるでしょうし。

ユリQ　制限もありますし、その番組で自分が求められてるものによって、自分の出し方を変えるわけですよ。それがプロフェッショナルなわけですよ。ほのぼのモードでお年寄りがいっぱいいるところで下ネタなんか言っても誰も笑わないわけですから。それは変えるべきなんですよ。それが、ほとんどの選手がいつも通り闘ってるんですよ。何をやってるんだ、と。小川以上に芸がないですよ！

——『ハッスル』を批判している場合じゃないと。

ユリQ　高田総統やインリン様のようなアドリブが利かないんですから！　その中でも第1試合の中邑vs松田納。これはなかなかいいムードだったんですよ。竹村vs棚橋もね、まあ竹村はわかってますけど、他の人たちは無我とは何かを考えていない。西村の試合なんかは無我の試合かもしれないけど、藤波さんの無我と西村の無我っていうのは根本的に違うんですよ。今回、それがハッキリわかりましたね。

——具体的に言うと、どの辺が違うんですか？

ユリQ　西村っていうのはレスリングを頭で組み立てて「これをやろう」っていう定番の動きが多いんですよ。要するに倒立であったりね、ロープブレイクとか。ああいう動きっていうのは、正直ね、藤波さんの無我とは正反対なんです。藤波さんは「相手の動きを見て、瞬間瞬間、閃きで動け」って、よく言うんですよ。「こういう動きをしようじゃなくて、相手に対応して動く。それが自然なレスリングだ」って。だからね……（バックから本を取り出し）これはね、僕が年に2度は読み返す『無我』っていう本なんですけども。

——また付箋がいっぱい貼られてますね（笑）。

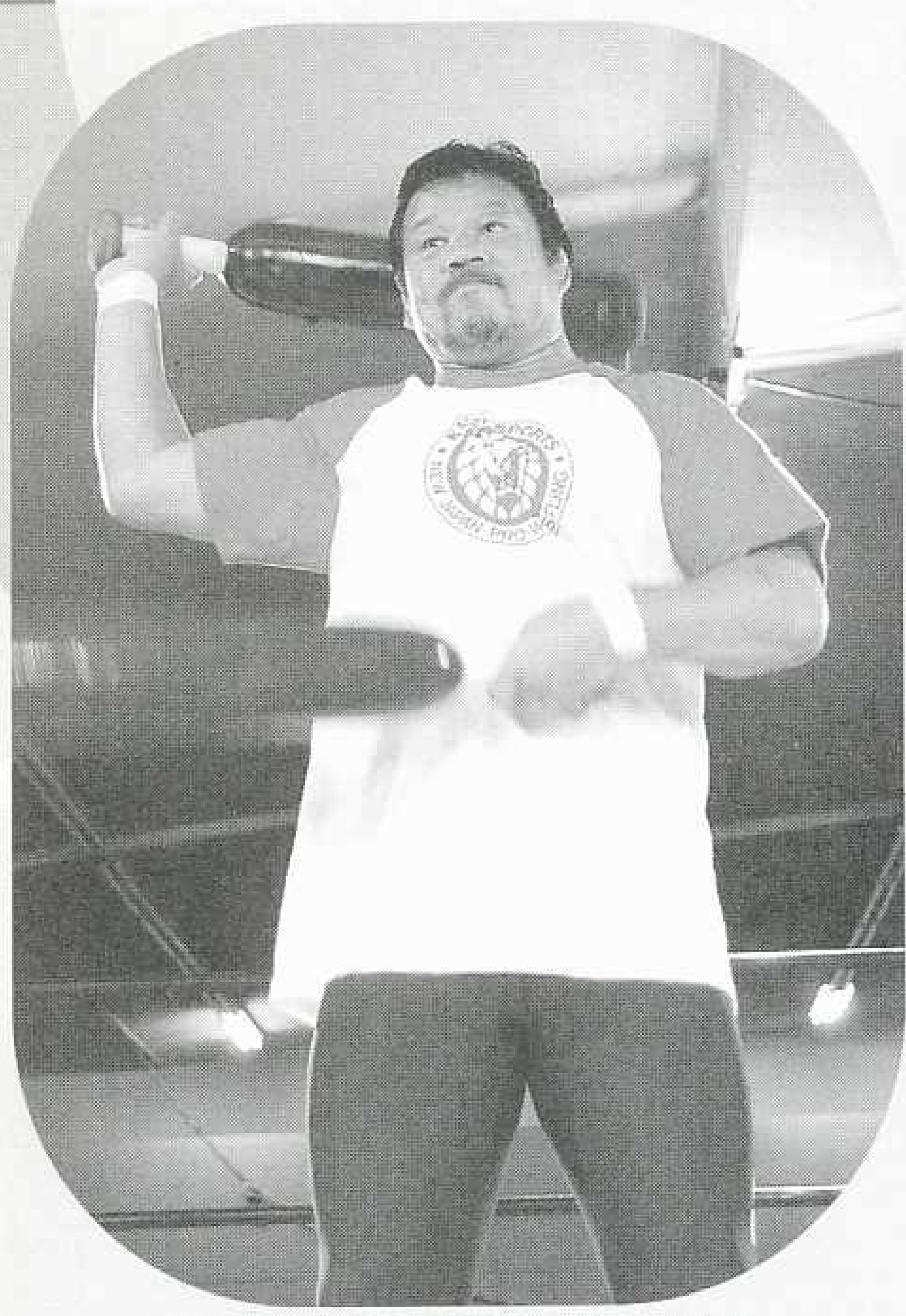
ユリQ　最近また読み返したんですけどね。この本はいまから6年前に出てるんですよ。無我の興行をよくやってた頃ですよ。この本に、西村っていうのは自分のことに関しては凄く語るんだけども、広い視野で大きなムーブメントを巻き起こすという、そういう戦略が不足してるように見える、と。論理的に自分の考えを説明しようとすればするほど独り善がりな部分が出てきてしまう、そういうことを書いてるんですよ。それにね、藤波さんの無我ワールドっていうのは、「無我やるから出てくれよ」「じゃあ空いてるから俺出ようか」っていうような選手は要らないんですよ！　だから3試合ぐらいでもいいんです。試合後の総括も西村は「無我ワールドは素晴らしい」とか言ってましたけど、ホントの無我を愛してるファンは満足してないですよ。

——ユリオカさんも、もちろん満足できなかったと？

ユリQ　全然ダメです。でもね、そこでつながってくるのが蝶野なんですよ。最近、蝶野と結びついて藤波さんがヒールになるんじゃないかって言われてますけど、この本で「平成10年8月4日、大阪ドームでの蝶野とのIWGPヘビー級選手権試合は無我のようだと評されたが、確かにそういう部分もあった」って藤波自身が書いてるんですよ。「意外かもしれないが、蝶野は私に近い考えを持ってるレスラーなのだと思う。メディアの使い方がうまいところや自分の存在感の出し方など、かなり異なる部分もあるが、何かを提案していこうという姿勢に共感できるものがある。ああいうレスラーを目指すべき」とか、藤波さんは最大級の評価をしてるんです。三銃士の中で武藤のことも橋本のことも書いてないんですけどね。そういう意味では意外と一貫してるんですよ。

——ちょっと意外ですね（笑）。

ユリQ　僕も忘れてましたし、あと本人も書いたこと忘れてる可能性はありますけどね（笑）。6年前の評価が計らずも今回の無我興行に現れましたね。要するに「西村、お前の無我を、この2年間、俺は見させてもらった」と。その上で「俺の無我とお前の無我は違うな」と。だからね、あの無我興行の後、西村は「私の師匠、藤波さんが向こう側に行ってしまうのは信じられません」って言ってますけどね、僕からすると、あの興行を見たからこそ、藤波







1月29日、札幌で開催された無我興行でドラゴンが公開練習を敢行。場外での縄跳び、プッシュアップ、そしてコシティを勇壮に振り回す。愛弟子・竹村豪氏とのスパーリングを開始しようとしたところ、かねてからドラゴンをCTUにスカウトしていたライガー、邪道、外道が乱入し「いつまで待たせるんだ？俺達とやれ!」と対戦を迫った。邪道を腕絡みから寝技に引き込んだところで西村、棚橋、更にBNJのメンバーも集合し一触即発の混乱状態に。蝶野がドラゴンのそばに歩み寄り、なにやら耳打ちするとドラゴンはそのまま引き上げてしまった。そりゃないよ!!

藤波さんは『ハッスル』にも出るはず。高田総統に言い負かされますけど



さんは「俺はもう西村と反対側のコーナーに立つべきだ」って思ったと見てますね。僕もああいう形の無我であれば、断固としてノーを掲げたいですね。

――西村さんは試合後に「次は1万人規模でやりたい」とも言ってましたよね。

ユリQ そこなんですよ！　西村があれを真面目に言ってたとしたら、あなたこそホントに現代文明に踊らされてますよ、と！　原点回帰、原点回帰って言いながらね。「500人の会場を20回やります」ってなんで言えないんだ、と。

――真の無我はそっちですか（笑）。

ユリQ 無我ってそういうことですから。1万人をいっぺんに動員するんじゃなくてね、500人の会場を20回やって、草の根運動のように素晴らしさを伝える、と。それが無我でしょ。みんな西村の無我論に対して、西村の専売特許だからしょうがないって思ってますけど、藤波さんが言わないですから、僕が代わりに言わせていただきますけどね、無我の精神を忘れてしまったのかと言いたい。得意のヨーロピアンジョークであればいいですけど、あれは間違ってるような気がしますね。

――ユリオカさんの読みでいくと、藤波さんは、このまま蝶野さんたちと結託する可能性が強いと？

ユリQ そうですね。っていうか、西村、棚橋っていうのはいくら藤波ラブを訴えても……藤波さんっていうのは恋する乙女と同じで、自分の方に好きだって寄ってくる人には興味がないんですよ。猪木さんにどんなに冷たくされても、ずっと追いかけてるでしょ。でも、猪木さんはずっと冷たいんですよ。この関係はずっと一貫してて変わらないんです。だから言ってみれば、キンキキッズみたいなわけですよ。愛されるよりも愛したい（笑）。

――ドラゴン＝キンキキッズ（笑）。

ユリQ 要するに自分を好きになってくれる人とは付き合いたくないんです。自分が好きにならないとダメなんですよ。僕も藤波さんが引退を表明した時に復帰して欲しいって素直に思って、寒い中、署名運動までしましたよ。いつか通じると思って。（急にドラゴン口調になり）でも、通じません！

――アハハハハ！

ユリQ 藤波さんには、ライガーとか蝶野とかみたいに「こっちに来い！」ってね、ちょっと上からモノを言った方がいいんですよ。ライガーなんか「いつになったら返事くれるんだ！」とか言ってますけど、普通ね、平社員が副会長に向って、そんなこと言えませんよ。でも藤波に限っては、それぐらい強く言った方が心に響くんですよ。前から藤波の魅力って、そういう受けの凄みですからね。

――技だけじゃなく、言葉に対しても受けの凄みを見せてくれるんですね（笑）。

ユリQ 藤波さんは攻撃的に荒々しくアプローチしてくれる人の方が好きなんですよ。となるとね、優しくされるよりは蝶野やライガーのアプローチの方に気持ちがなびくのが自然ですよ。気を惹きたいなら藤波にはひどいこと言った方がいいんです。その方が「許せん！」って立ち上がりますからね。

――確かに（笑）。

ユリQ それにね、藤波さんは新日本と選手契約してませんからフリーなんです。だから、いま言った蝶野軍団だけじゃなくて、今年は新日本以外のリングにも出ていくと思いますよ。だから『ハッスル』のリングにも出れますよ。

――ついにハッスルドラゴンの登場！

ユリQ 大体ね、小川世代よりも長州とか藤波世代の方が本気でハッスルと言ってた世代なんです！　いまの30代の人にはハッスルなんて古い言葉でしょ。でも、藤波、長州は本気で「ハッスルしてる」って言ってた世代なんですよ。もっと言えばね、藤波のジュニアヘビー王者時代はね、行ったこともないのに趣味に「ゴーゴー」って書かれてたんですよ！

――一昔前のアイドルと一緒ですね（笑）。

ユリQ ホントの趣味は城巡りですからね。ゴーゴーなんてものはなんだか知らないけど時代がそうさせたんですよ。でもね、いくら勝手に書かれたとはいえゴーゴーと言えば何するんですか？　ハッスルでしょ、やっぱり。

――そうですね（笑）。

ユリQ その時のテーマソングは、もちろん『マッチョドラゴン』です。コスチュームも『夕焼けニャンニャン』でとんねるずが着てたみたいな、あのピンクのブルゾンを久し振りに引っ張り出しますよ。それでダスティ・ローデスとかミル・マスカラスと『ハッスル』で闘うはずです。

――でも、ハッスル軍とモンスター軍、どっちがいいんでしょうね？

ユリQ 高田なんかね、もう藤波さんからすればね、まだまだ新弟子ですから！

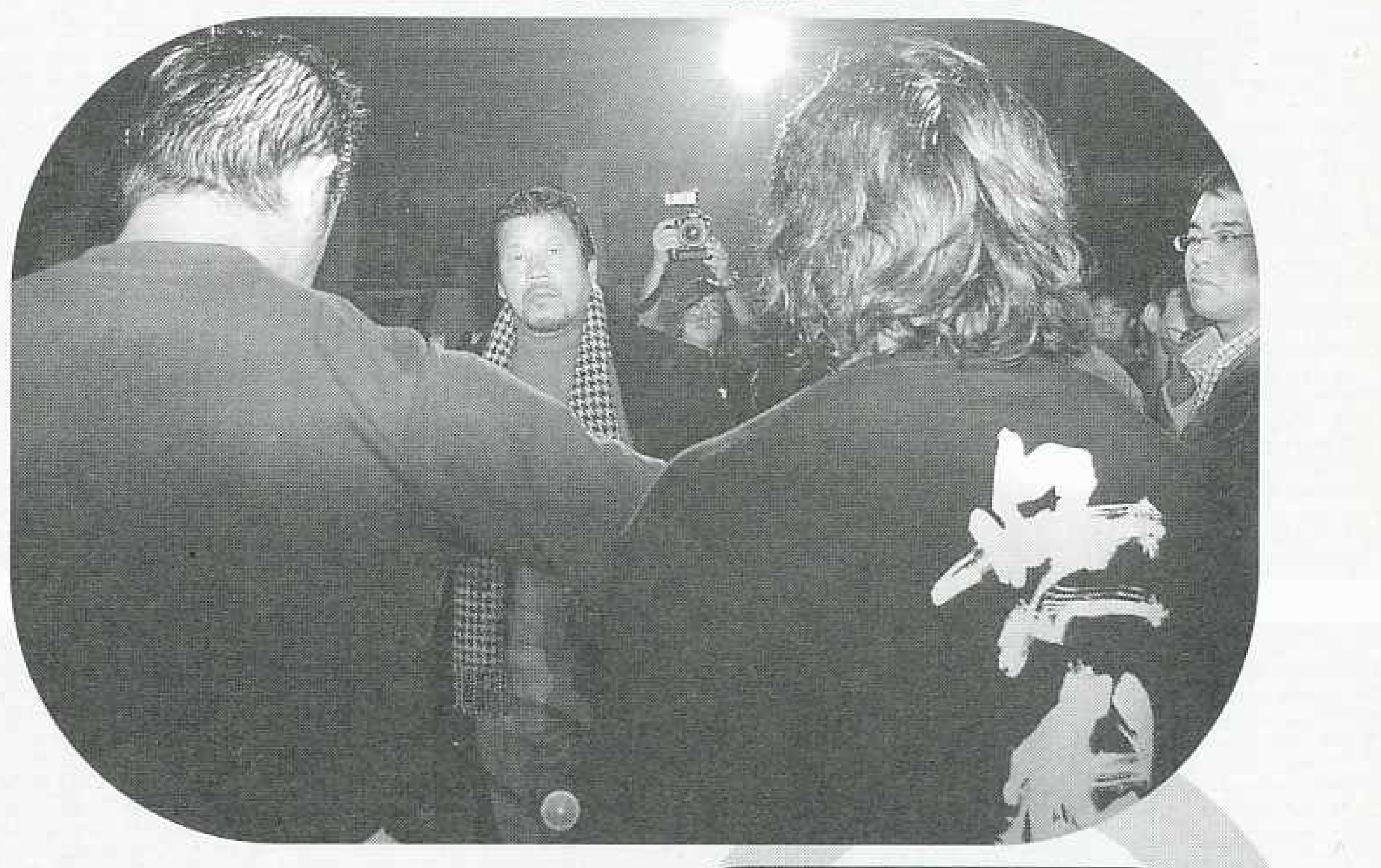
――総統と高田さんは別人なんですけどね（笑）。それに口では高田総統には到底敵わないんじゃないですか？

ユリQ もちろん言い負かされます。高田総統には、散々、藤波の意図を聞いた後に、「藤波君、キミの言ってることは一言もヒアリングできなかったよ」って言って欲しいですね。まあ、通訳として僕が付いてもいいですけどね。そうしないと初心者にはなかなかヒアリングできないでしょうし。

――一見さんには聞き取りづらいでしょうからね（笑）。

ユリQ それにね、『ハッスル』だけじゃなく、今年の藤波は『ベスト・オブ・スーパージュニア』にも出ます！　今年は100キロ切りますから。一時は油断して120キロあったって言ってましたけどね。吉江じゃないんだか





無我興行終了後の記念撮影はドラゴンとCTUが辞退。このことから翌日の月寒ドーム大会でBNJが用意したXは、てっきりドラゴンだと思いきや現れたのは鈴木みのる。蝶野が「藤波辰爾、カモン!!」と呼び込みと、リングに歩み寄るドラゴン。だが、ここに西村と竹村が登場しドラゴンを阻止。通路の途中で立ちすくむドラゴンとリング上の蝶野がにらみ合う。しかし、何をするでもなくドラゴンは踵を返して控室へと去っていったのだった。

ら、油断しすぎですよ、ホントに（笑）。

——120キロって言ったら立派なヘビー級ですからね（笑）。

ユリQ　「身体のラインが崩れてくると前向きな気持ちがなくなる」って言ってましたけど、OLじゃないんだから（笑）。太っちゃったら人前に出たくないって言ってたんですよ。

——相当、美意識が高いんでしょうね。

ユリQ　そうなんですよ。だって、藤波辰爾のジュニア時代の身体たるやね、いまの田村潔司ですよ。全身筋肉の塊でね、素晴らしい肉体だったわけですよ。大体、田村潔司はあの藤波の身体に憧れたんですからね。

——田村も「藤波さんと闘いたい」って前から言ってましたからね。

ユリQ　それも僕、諦めてませんよ、藤波vs田村っていう夢のカードは。そうそう、肝心なことを忘れてましたよ。今年『ファイト』でゴッチさんのところへ行く前に藤波インタビューが載ったんですよ。で、『紙プロ』さんはいろいろ藤波さんへ突っ込んでますけど、そのインタビューには触れてませんでしたよね。

——何か衝撃発言でもしてました？

ユリQ　とんでもない衝撃発言をしてるんです！　インタビュアーに「引退するとかいろいろありましたけど」って聞かれて「それは業務的な部分からそういう言葉が出ただけであって、あれは嘘だった」ってハッキリ言ってるんですよ！

——え、引退は嘘だったと⁉（笑）。

ユリQ　今年一番の発言ですよ、これ！　もうね、開き直ったドラゴンには怖いもんなんてないですよ。まあヒールでいくつもりなんだったらいいんじゃないですか？　ヒールが嘘をついて何が悪い、と。

——まさにダーク・ドラゴンですね。

ユリQ　この発言にはホントに衝撃を受けたんですけど、ただ、もうちょっと早く言ってくれとは思いましたね。こっちは署名活動までしてるわけですから（笑）。

——嘘だと知らずに（笑）。

ユリQ　まあ、薄々気づいてましたけどね（笑）。気づいてはいましたけど……まさか本人の口から「嘘だった」って、これはプロレス界の名言ですよ。

——名言というか迷言というか（笑）。

ユリQ　でも藤波さんっていうのはね、マスクマンに向って「お前は平田だろ！」って言っちゃうような人ですから。意外とね、プロレスの枠組みを平気で越える発言をする人なんですよね。

——そうですよね。あと、去年は世間的に健介ファミリーや浜口ファミリーが話題になりましたけど、やっぱりプロレス界のファミリーといえばドラゴンファミリーも負けてないですよね。

ユリQ　もちろんですよ。大体ね、いま北斗がね、倹約生活ですか？　料理上手とか言ってますけどね、料理上手ならかおり夫人ですから。『ちょっと、ごはん食べにこない』ですよ！

——ありましたねえ（笑）。

ユリQ　そんなこと言ってみんなで行ったら怒られるでしょうけど（笑）。一番最初にプロレスラーでファミリーを前面に出したのは藤波さんでしょ。地味にね、テレビ東京の番組で家族でお寿司食べに行ったりとかやってますけども、元祖プロレスファミリーとしてね、そういった部分でも今年は来ると思いますね。それにいま、女子プロゴルファーにスポット当たってるじゃないですか、宮里藍とか横峯さくらとか。そうなると次は藤波美有でしょ。

——プロゴルファーを目指している娘さんの活躍も期待できると。

ユリQ　横峯さくらのお父さんみたいに、ツアーには藤波さんがキャディーとして付いて行くんです。その時はしょうがないんでシリーズは休みます。

——所用欠場ですね（笑）。具体的にどんな復帰戦を想像してますか？

ユリQ　3月の両国大会あたりで復帰かなんて言われてますけど、正直、簡単ですよ。まず西村に「（ドラゴン口調で）お前は無我じゃない！」ってハッキリ言うべきですね。それを唯一言えるのは藤波さんですから。そしたら対立構造もハッキリしてくるだろうし。あとはライバルのチャボ・ゲレロなんか日本に呼べたら最高ですね。WWEは解雇されたみたいだし、カシンとかと絡んでね、チャボ・クラシックとドラゴン・クラッシック対決ですよ。



PROFILE

ゆりおか・ちょうとっきゅう■ドラゴンものまね第一人者のお笑い芸人。日テレ『エンタの神様』、NHK『爆笑オンエアバトル』など多数出演中。昨年は新日本公認・藤波辰爾引退撤回運動のリーダーとして大奮闘。ドラゴン専用のネタ帳を常に持ち歩く日本でただ一人の男でもある。金本や前田、竹内宏介氏など、ものまねレパートリーは幅広い

——それは見たい（笑）。

ユリQ　いまドラゴンを名乗る選手が多いですよね。ドラゴン・キッドだなんだって、いろんなドラゴンがいるわけじゃないですか。藤波はドラゴン・クラッシックですよ！　オリジナルドラゴンとしてね、今年は長州みたいに全方位で大暴れしますよ！　なんならドラゴンゲートとかも出ますよ（笑）。団体名自体が呼んでますからね。

——忙しくなりそうですね（笑）。

ユリQ　大好きなG1にも出ますし、藤波vsえべっさんとか、藤波vsKUDOとかも実現しますよ。なんだか知らないけど、真壁の因縁を藤波がまとめるみたいな（笑）。

——それはそれで見てみたいです（笑）。

ユリQ　いろんな異次元対決が見れるような気がしますね。あと、前田のプロレス界復帰っていうのも藤波さんに刺激を与えてますよ。やっぱり自分と同年代の選手が戻ってきて活躍するっていうのは単純に刺激になりますからね。もう、いいことだらけです！

——今年は期待できそうですね。

ユリQ　お膳立てはもう揃ってますね。あとは、草間社長へのこの1年間の思いっていうのをストレートにぶつけていただきたいですね。自分が前に散々言われたことを言ってやるわけですよ！「あの男ほどわかってない社長はいない！」って藤波さんが言ったらね、これはファンは乗りますよ。

——大歓声が巻き起こるでしょうね。

ユリQ　蝶野側に付けば、ダーク・ドラゴンとしてストレートな思いも出しやすくなりますからね。蝶野っていうのはもともと草間批判してましたし。

——ついにダーク・ドラゴンが見れる日がやってくると（笑）。

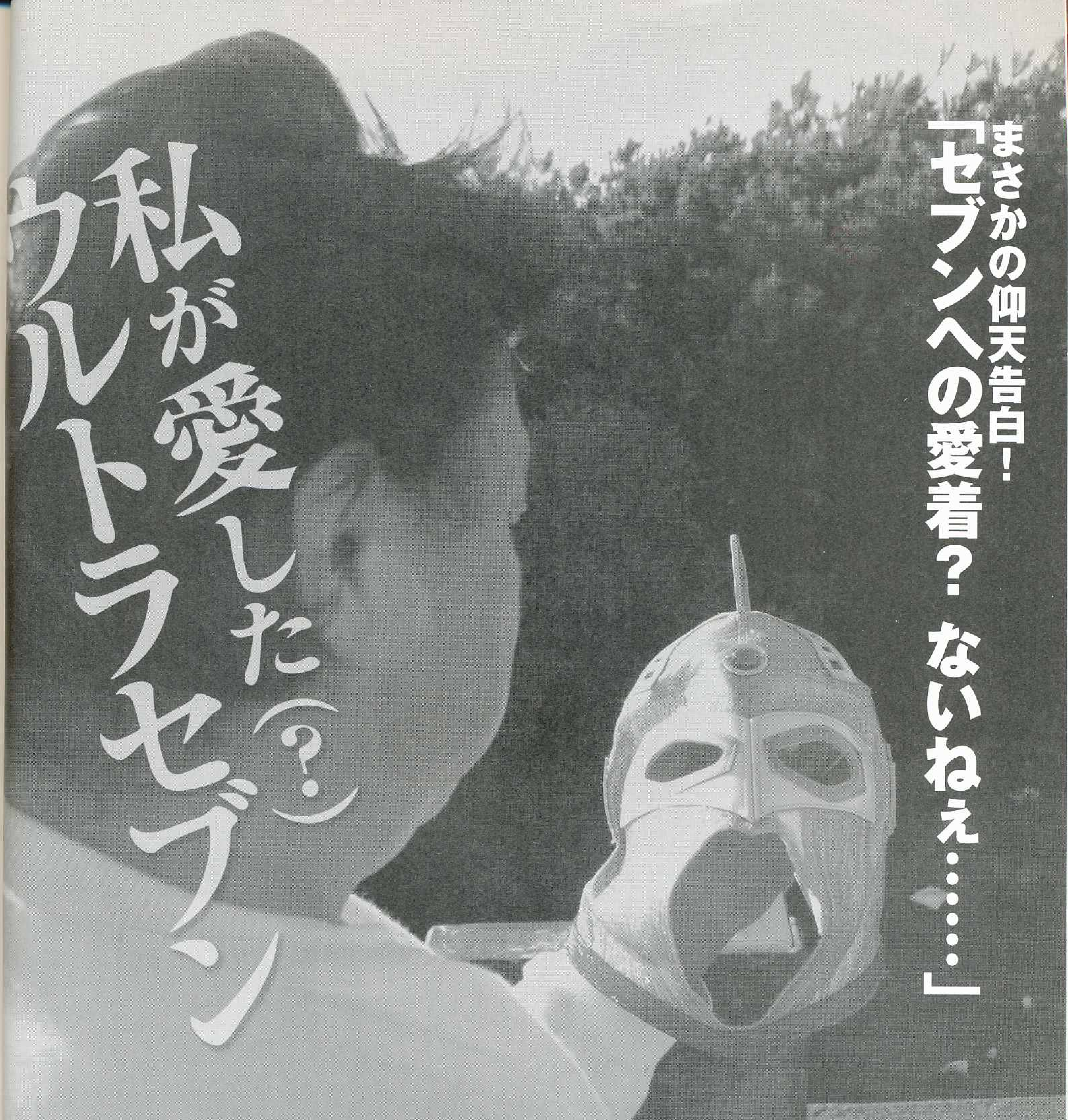
ユリQ　今年のマット界は藤波さんを中心に回りますよ。思ってるのは僕だけかもしれませんけど、ドラゴンはキーパーソンですよ！　たぶん、今年の年末の『紙プロ大賞』MVPは藤波さんが獲りますね。『東スポ大賞』は無理かもしれませんけど（笑）。

——かなり気の早い話ですが、ユリオカさんの話を聞いてると、十分あり得るような気がしてきました（笑）。今日はありがとうございました！

【2月12日／都内喫茶店にて収録】



ユリオカ超特Qが舞台『GET A LIFE!』に出演する。内容は赤羽で繰り広げるロックンロールシチュエーションコメディーだ。会場は新宿シアターモリエール。料金は3500円（当日300円up）。
詳しくは下記アドレスで
■HP http://www5a.biglobe.ne.jp/~Sparks/



まさかの仰天告白！
「セブンへの愛着？ ないねぇ……」

私が愛した（？）ウルトラセブン



IWA JAPANマニアック・レスラーシリーズ

高杉正彦

ウルトラセブンと聞いて、モロボシ・ダンやアンヌ隊員ではなく高杉正彦のことが頭に浮かんだアナタは立派なプロレスマニアだ！ 円谷プロ制作ウルトラシリーズの中でも、群を抜いて高い評価を受けているウルトラセブン。そのヒーローの化身として、いまもなお活躍する高杉正彦がセブンに対する愛情をたっぷり語る！ はずだったが……!?

聞き手／ジャン斎藤　designed by Tani-Yan（Two three）

三沢がタイガーマスクになったでしょ。そうなるとセブンはいらないよ！

——今日は高杉さんのプロレス人生をたっぷりと語って……。

高杉 （いきなり遮って）俺のプロレス人生？ 語ることなんてな〜んもないけどね。

——ありませんか（笑）。

高杉 ないねぇ。話をするのはいいけどさ。

——ありがとうございます（笑）。で、やっぱり高杉さんといえば、ウルトラセブンのイメージが強いですよね。

高杉 ああ、そう。

——現在主戦場とされているIWAにも、ウルトラセブンとして出てますし。

高杉 いや、あれはファンが喜んでくれるから（覆面を）被ってるの。「むかし見てました！」って人が多いから。

——高杉さんからすると、セブンに愛着はあまりないんですか？

高杉 あるか・ないかで言えば、ないね（あっさりと）。

——思い入れなし!!

高杉 うん。ないね。

——そ、そうだったんですか（笑）。あと高杉さんには〝極太親父〟こと剛竜馬さんと、二人三脚でやられていたイメージもあるんですよ。剛さんとはオリエンタル・プロレス（要請があれば全国どこでも馳せ参じる出前プロレスや、大会終了後にその大会のビデオを販売する、ほっかほかビデオ等のビックリ企画を実現）のときに喧嘩別れしちゃいましたけど。

高杉 ……剛ねぇ。いまは関係ないからね。

——剛さんにも思い入れなし（笑）。

高杉 そうだねぇ。剛が（引ったくりで）捕まったときにはビックリしたけどね。

——新宿駅でお婆さんの財布を奪って逃走したといわれる事件ですね。剛さんの事件を聞かれたときはどう思われました？

高杉 とうとうやったかと（苦笑）。

——ワハハハ！ 剛さんってそういう人なんですか？

高杉 みんなそう思ってるんじゃないの？ 冗談はともかく、剛は金にはいい加減な人間だったからね。

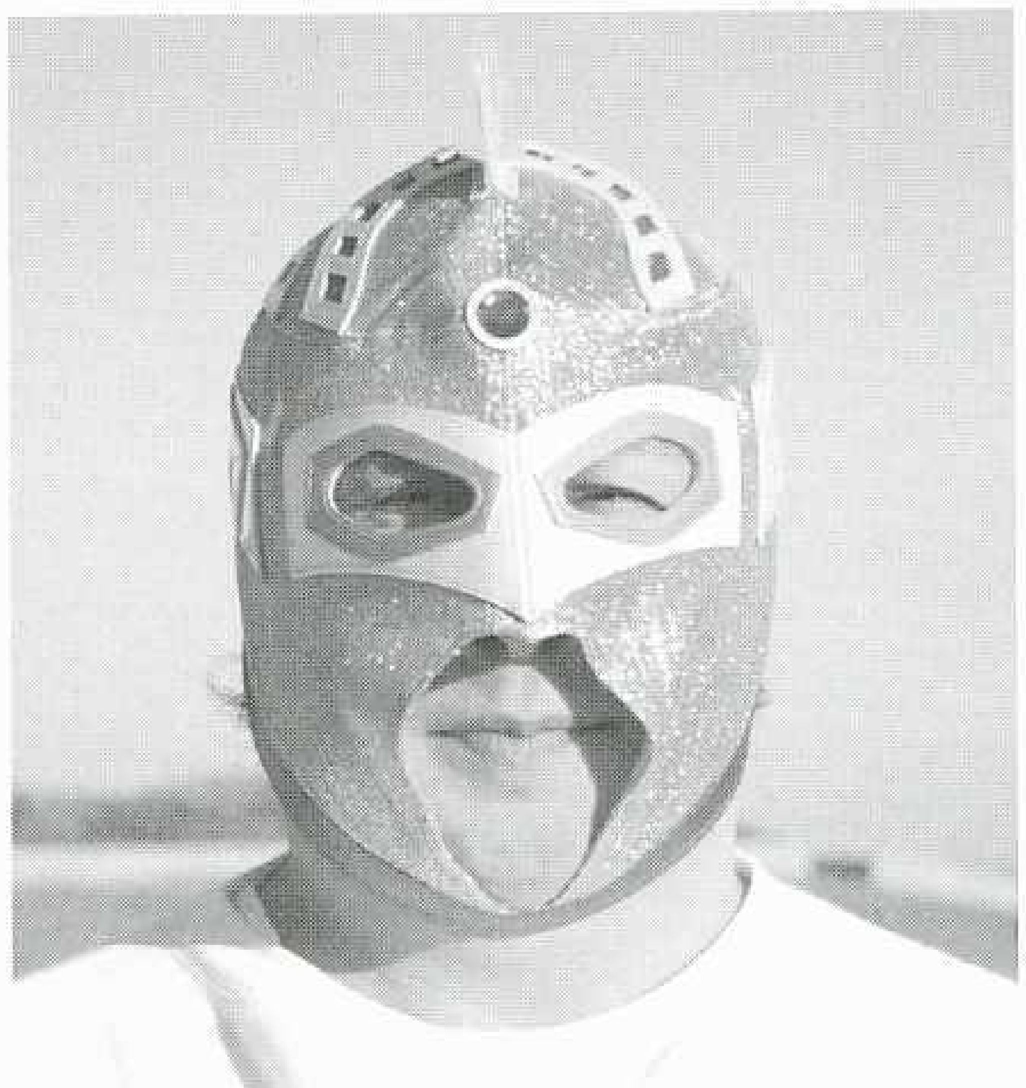
——そうなんですか（笑）。そんな剛さんやセブンのことはおいおい伺うとして、まずは高杉さんがプロレスラーになろうと思った動機から聞かせてください。

高杉 なろうとは思ってなかったよ。憧れではあったけど。あのころのプロレスラーはみんな大きくて大型時代。俺はそんなに大きくなかったからね。

——相撲取りから転身された人間以外でも、身体の大きい人がたくさんいましたよね。馬場さんや猪木さんしかり。

高杉 そういう大型時代でも、山本（小鉄）さんや星野（勘太郎）さんが頑張っていたからね。ああいう選手になりたいなとは思ってましたけどね。

——いわゆる〝いぶし銀〟というか、玄人受けする選手ですね。大学時代にアメフトをやられていたのは、プロレスラーになるためだったんですか？



Masahiko Takasugi

【たかすぎ・まさひこ】1955年6月17日 神奈川県平塚市出身。77年に国際プロレスに入門。81年、国際プロ崩壊後メキシコ遠征へ。帰国後はウルトラセブンに変身するが86年に解雇。剛竜馬、アポロ菅原らとパイオニア戦志を結成するが2年で休止。オリプロ、IWA湘南、湘南プロレスとマット界の裏街道を経て、現在はIWA JAPANでウルトラセブンとして活躍中。

高杉 そうですね。高校に入って身体から独学でトレーニングして身体は鍛えていて。それで大学に進学して、もうちょっと鍛えようと思ってね。日大のフットボール部と東海大学のレスリング部の選択があったんだけど、東海大は実家から近いからイヤだったんだよ。世田谷（の日本大学）に行って赤ジャージ着たら女にモテるって言われたし、それで日大に。

——レスラー志望でアメフトというより、ただ生活環境を変えたかっただけですか（笑）。

高杉 そうそう。あとボディビルのジムに通っていたんだよ。力道山七人衆と言われた金子（武雄）さんのボディビルジムが横浜にあったんだけど。そのジム出身のプロレスラーが何人かいましたね。藤原（喜明）さんとか米村（天心）さんとか。

——そのボディビルジムでプロレスの基本を教わったわけですか？

高杉 プロレスというよりは、格闘技の基本だね。いまのシューティング（＝修斗）みたいなことやるんだよ。マットを敷いて、そこで金子さんが「こういう風に極めるんだ」って具合に。力自慢のタクシーの運ちゃんも入ってワイワイやるわけ。

——タクシーの運転手も頑張ってましたか（笑）。

高杉 何千人も会員がいた大きなジムだから、いろんな人がいたんだよ。キックやボクシングの日本チャンピオンもいたしね。

——早すぎた総合格闘技ジムだったわけですね。

高杉 昔はそういう基本を練習してないとプロレスラーにはなれなかったから。いまとは違うから。

——そのジムが縁となって国際プロレスに入門されたんですか？

高杉 そうですね。その前に新日本プロレスの事務所へ頼みに行ったらさ、巡業中で話を聞いてくれる人がいなくて断られて。それを聞いた金子さんが「俺がなんとかするから、しっかり練習してろ」と。金子さんは吉原（功、国際プロレス社長）さんと知り合いだったから。それで国際に紹介してくれたんですよ。

——国際プロレスにはどういうイメージがあったんですか？

高杉 やっぱり玄人レスラーの集団というかね。

——アニマル浜口さんやマイティ井上さんとか、渋いレスラーが揃ってましたね。

高杉 自分が入団したときは、まだ12チャンネル（テレビ東京）でも放映してたし、新日本や全日本と張り合っていましたね。

——まだまだ団体自体に活気があったわけですね。

高杉 練習も厳しかったしね。俺と同じ時期にもうひとり新弟子が入ったんだけど、たった三日で逃げたよ。毎日足の運動３０００回や、ずっと受け身の練習でしょ。キツくて逃げますよ、あれ。練習が終わったら終わったで、炊事や洗濯とか付き人の仕事があるんだもん。

——リング外の厳しさがあった、と。高杉さんはどなたの付き人だったんですか？

高杉 グレート草津さん。草津さんは厳しいから。選手のあいだではあの人の付き人だけにはなるなって言われてたんだよ。

——そんなに草津さんは厳しかったんですか？

高杉 別にイジメるわけじゃないよ。草津さんは新聞読んで一般常識を身につけろとか言うわけ。それをみんな嫌がるんですよ。だいたいの先輩は試合をしてギャラもらって酒飲んでいれば良かったからさ。

——草津さんは奔放なレスラーというよりは、一般人に近かったわけですね。

高杉 他の先輩にしてもいい人ばかりでしたよ。国際の地方巡業はたいてい旅館に泊まるから、旅館

の大広間で宴会ばっかやってたし。まぁにぎやかではありましたよね。

——国際の経営が危なくなってきた当時には、どういう印象がありました？

高杉　新日本との対抗戦を境に客入りが悪くなりましたよね。

——その対抗戦で国際は新日本より下というイメージをつくられてしまったと？

高杉　そういうことですね。国際もちょっと経営が下がっていたから、なんとか逆転するために対抗戦をやったんだろうけど。まぁ向こうの口車に乗ったんじゃないですかね。

——当時の新日本には新間（寿）さんという、やり手のフロントがいましたからね。

高杉　そっから国際は試合数もどんどん減っていって、給料が出なくなったりしましたね。それでも選手は社長に付いていきましたよ。そこの絆は強い。選手たち自ら興行やチケットを売りにいったりしてましたから。

——泥沼の騒動になりそうな団体末期にも、強い信頼関係があったわけですね。

高杉　吉原さんもホントにプロレスが好きでやってたから。ビジネス抜きでプロレスをやっていきたい気持ちをみんなが尊敬してたんじゃないですか。

——国際の最終戦となった北海道の羅臼大会は、どういう気持ちで臨んだんですか？

高杉　あのシリーズ自体、客入ったんだよね。ジプシー・ジョーとかガイジンを何人か呼んだから。

——では、未練があった終幕だったと？

高杉　でも（終わるのは）会社の方針だからね。自分なんかは早く海外に行きたかったし。未練というのは、あんまりなかったですね。

——団体崩壊にショックなし？

高杉　うん。そうだね。

——精神的に強いですね、高杉さん（笑）。

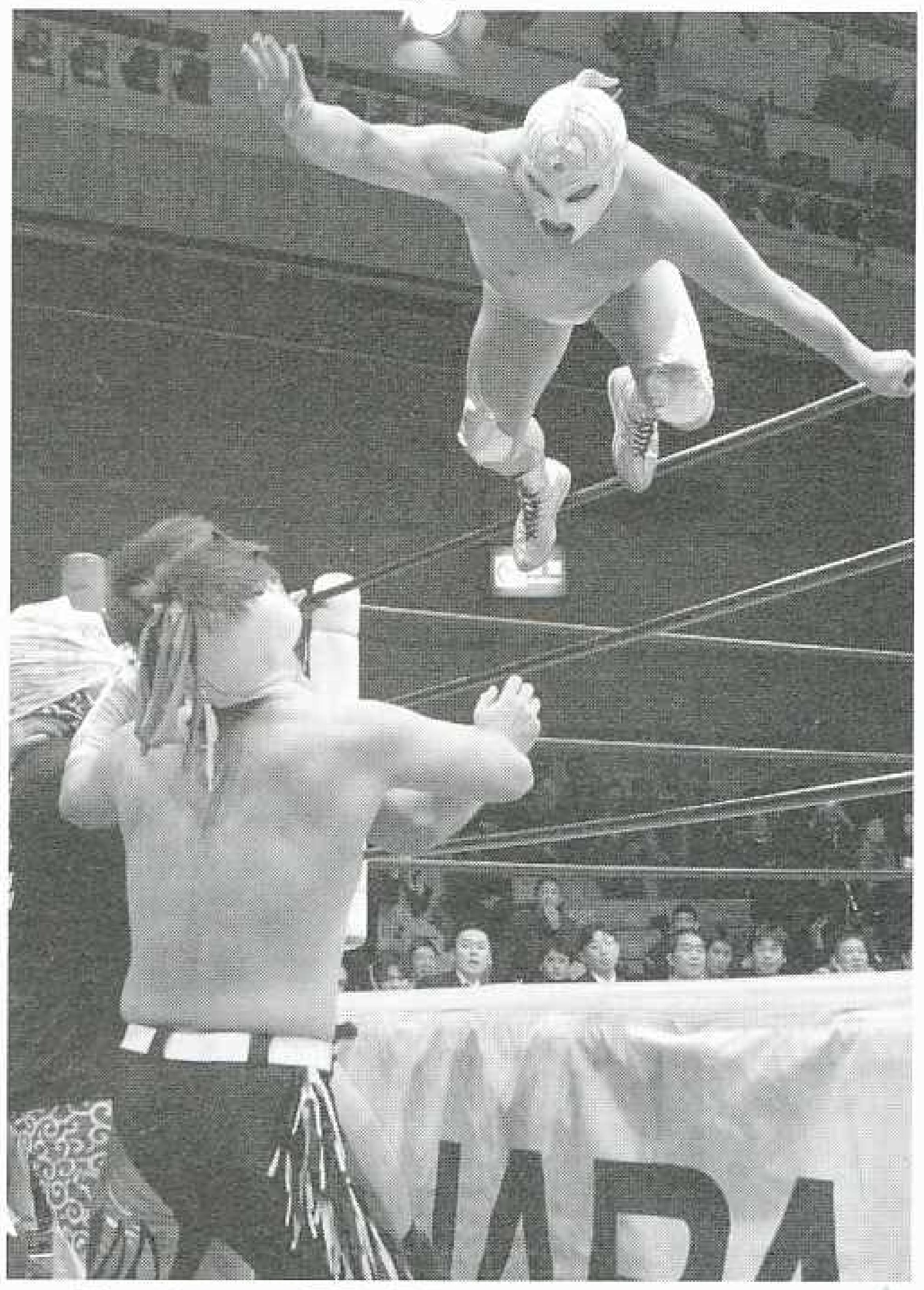
高杉　というか、早くメキシコに行きたかったんだよね。メキシコ行きの話は前からあったんだけど、団体が危ない状況だったから、なかなか行けなくて。団体がなくなれば自由じゃない？

——まるで団体崩壊を願っていたかのようですね（笑）。

高杉　そんなことはないよ（笑）。他の団体では、俺ぐらいの若い選手はみんな海外行ってたからね。海外に行って力を積むのがパターンだったじゃない。

——でも、将来的な不安はありませんでした？　帰るリングがないんですから。





モロボシ・ダンはM78星雲に帰還したが、タカスギ・マサヒコはIWA JAPANで奮闘中だ。オリジナルとは一味もふた味も違う、高杉のセブンに心を鷲掴みにされたマニアは数多い。

高杉　不安？　いや、ヨソのリングでやっていくという自信はありましたから。国際から新日本や全日本に移った選手も多かったし……まぁあんまり深くは悩まなかったね。まだ若かったし。

——で、メキシコ遠征を経て全日本プロレスに上がることになって、あのウルトラセブンに変身されるわけですが、あれって誰のアイデアだったんですか？

高杉　自分から馬場さんに売り込んだんですよ。

——馬場さんに命令されて、イヤイヤ高杉さんが変身したという話を聞いたことがありますけど。

高杉　いやいや、自分からセブンになった。マスクを被るのは自分のアイデア。でもけっこう重荷でしたね～。

——子どものスーパーヒーローですからね。

高杉　もともとセブンはタイガーマスクの対抗馬だったんですよ。佐山（聡）があんだけ人気が出ていたからね。ちょっとやってみようかってことで。メキシコにいるときに小林（邦昭）とか新日本の選手と一緒だったんだけど、何に変身すればいいかって彼らと話し合ったんだよ。セブンの他のアイデアとしては、ライオン丸があったね。

——ライオン丸！　ちょっと前に新日本の永田選手が変身してましたね（笑）。

高杉　で、そのころ新日本にメキシコからウルトラマンというマスクマンが来てて、地方巡業で大人気だったらしいんだよね。ヒロ斉藤が言うには、すごい人気でサイン攻めだったって。じゃあ、同じウルトラマンをやれば人気が出ると思ってセブンにしたんだよ。

——タイガーマスク、ウルトラマンの成功をヒントにウルトラセブンに変身。

高杉　そう。日本からセブンの本を取り寄せて、あのマスクを作ったんだよ。

——変身当時、セブンの手応えってありましたか？

高杉　最初は良かったけどさ。やっぱりシリーズでやっていくのは大変だったねぇ。

——全日本の方針なのか、ウルトラセブンってあまり目立ってなかったと思うんですよ。スーパーヒーローなのに。

高杉　ああ、それはありましたね。中堅クラスの扱いだったから。

——いまのヒートやエル・サムライが中堅扱いされるのはよくわかるんですけど、一般的に認知されている既存のキャラクターが中堅クラスって画期的ですよね（笑）。馬場さんから何かアドバイスはあったんですか？

高杉　頑張れよって。

——それだけですか（笑）。ウルトラセブンの権利を持っている円谷プロとお話はされたんですか？

高杉　松根さんという、全日本の役員を務めていた日本テレビの人が何度も円谷プロに足を運んだそうですね。話を付けるのが大変だったみたいで。

——テレビ局まで巻き込んだビッグプロジェクトだったわけですね。

高杉　そうだよ。それで後楽園ホールに円谷プロの人がセブンの試合を見に来て「今回はいいですよ」と。最終的な許可をもらってね。新日本に上がっていたウルトラマンは弱かったから、イメージの心配があったみたいなんだよね。

——あのウルトラマンは円谷プロの許可は取ってたんですかね？

高杉　あれは許可取ってないでしょ。問題があると思いますね。

——いまだったら大問題になりそ

うですよね。いまでも高杉さんがウルトラセブンを名乗ることに問題はないんですか?

高杉　と、思いますけどね。

――と、思う（笑）。

高杉　わからないね（苦笑）。当時の関係者はみんな死んじゃってるし。ダメなら脱ぐよ。まぁテレビに出てるわけじゃないから大丈夫でしょ。

――そういうもんですか（笑）。のちのパイオニア戦志時代にスーパーセブンとしてライガーさんとも試合をしたことがありますよね。そのときの高杉さんはやけに無気力ファイトだったそうですけど。

高杉　剛と藤波がやるから、俺も対抗戦になったんだろうけど。なんかね、あの試合に意味はないと思っていてね。

――だから無気力だった、と。どうしてスーパーセブンに名前を変えたんですか?

高杉　あれは佐山がスーパータイガーになったことがあったでしょ? じゃあ、俺もスーパーになってやろうかなって。

――そこでもタイガーマスクを意識されてたんですか（笑）。

高杉　そう。そんだけ。

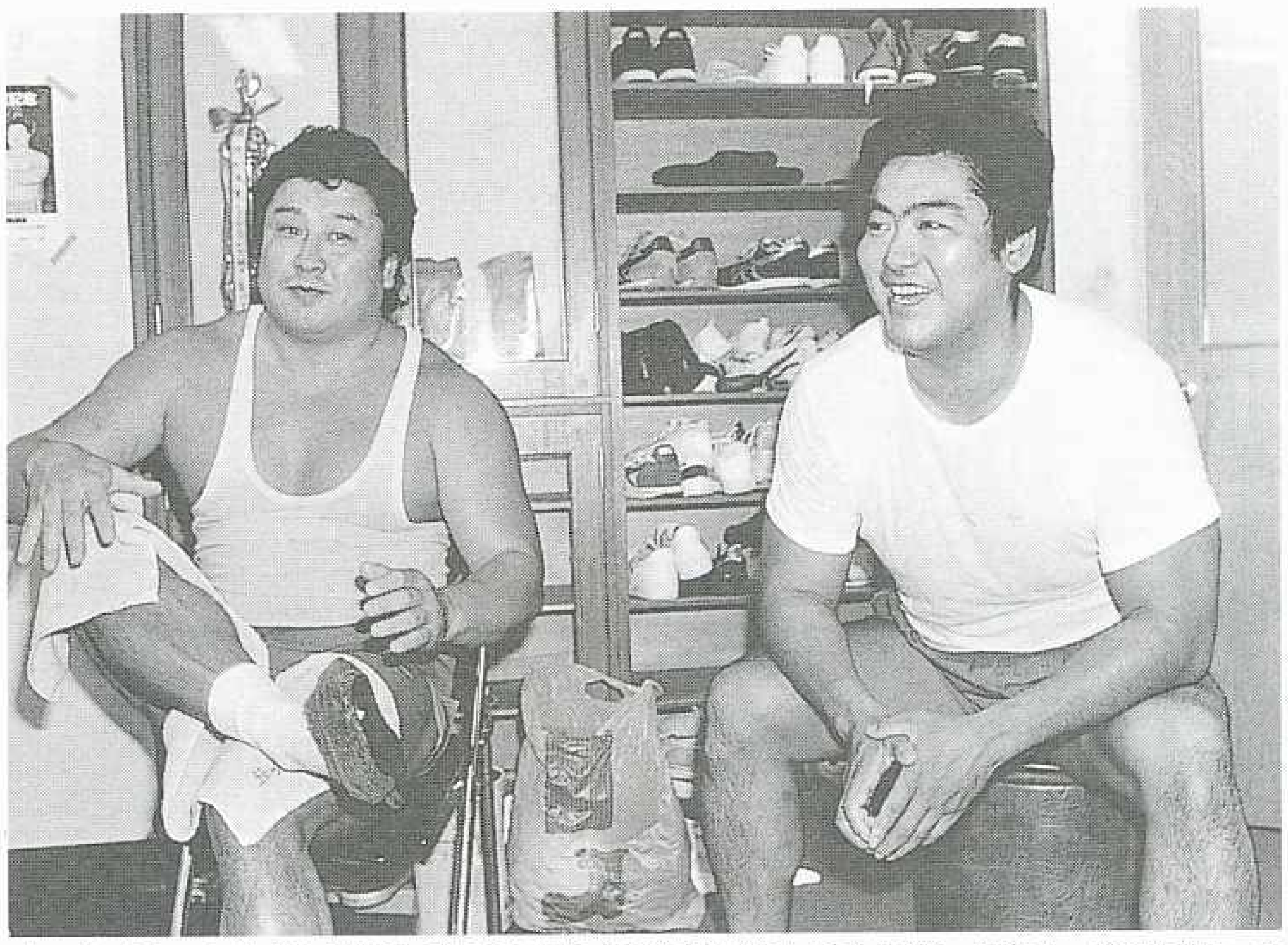
――しかし、テレビ局や円谷プロまで巻き込んだプロジェクトだったのにとてもヒーロー扱いをされている印象がなかったのは、不思議な話ですよね。

高杉　何だったろうねぇ。

――高杉さんが外様の人間だったから?

高杉　それはないですよ。だってセブンはメキシコからやってきたマスクマンなんだから（笑）。

――まぁそうなんですけど（笑）。



ゴタゴタもあったが"極太親父"剛竜馬とは長く苦楽をともにしてきた高杉。再びタッグ結成＆ほっかほかビデオ販売という、ドリームコースの実現はあるか!?

実際、全日本の印象というか居心地はどうでしたか?

高杉　メジャーだね、国際と比べると。お客さんも入るし、国際は地方で平均700〜1000人ぐらいだったけど、全日本は最低でも2000人は入ったから。大会場では5000人。やっぱり日本テレビで放映してたからだろうね。

――テレビの影響力は大きかったでしょうね。

高杉　自分が上がっていた頃の全日本が一番良い時期でしたよ。馬場さん元気だし、ジャンボ鶴田もいた。ガイジンだってシリーズごとにたくさん呼んでね。ドリーやテリーのファンクスにハーリー・レイス、スタン・ハンセン。ホントに豪華だったから。

――ジャイアント馬場という人間には、どういう印象がありますか?

高杉　馬場さん? 一言で言うと、頭の良い人ですよ。偉大な人だと自分は思いますけどね。

――グレート小鹿さんやミスター・ヒトさんは、馬場さん夫妻のことはあんまり良くは言わないんですけど。

高杉　俺は別に。俺はあんまり気にしないからね。深く考えないし。

――だから、セブンの扱いにしても不満はなかったと?

高杉　そうだね。もうちょっと良くてもいいんじゃないかなと思ったけど（笑）。

――ですよね（笑）。結局、セブンの"最終回"も脚光を浴びてませんでしたけど。

高杉　冬木（弘道）がメキシコ遠征したときに、そのまま一緒にメキシコに帰ったってことでオシマイ。記者の人に「メキシコに帰ります。さようなら〜!」というコメントだけしてね。

――いいんですか、そんな終わり方で（笑）。高杉さんとしても、そのころはセブンに拘る気持ちは……。

高杉　そのころは全然なかったな（キッパリ）。

――まるでなし! やっぱり会社がセブンをプッシュしようとする気配を感じなかったことも理由のひとつですか?

高杉　それもあったけど、三沢（光晴）がタイガーマスクになってメキシコから帰ってきたでしょ。

――ああ、セブンはタイガーマスクに対抗馬だったのに、なんと本命馬が来ちゃったと（笑）。

高杉　そうなると、セブンはいらないよ! ホンモノがいるんだもん（笑）。

――タイガーマスクが全日本に来ると聞いたときはどう思いました?

高杉　（扱いが）落とされるなって思ったよ。

――さらに待遇が悪くなる（笑）。そのあとは素顔で国際結盟軍として活躍されていましたが、86年に剛さんやアポロ菅原さんとともに全日本を解雇されるわけですよね。

高杉　あれは選手が多くなり過ぎてクビですよ。全日本に長州軍団が来て、あとからカルガリーハリケーンズの3人（スーパーストロングマシン、ヒロ斉藤、高野俊二）来たでしょ。つまり3人余ったわけ。それで剛と菅原と俺がクビになったんだよ。

――まさしくハリケーンの余波だったんですねぇ。解雇は前もって通達されていたんですか?

高杉　いや、いきなり。3月のシリーズ終わったら、馬場さんに呼ばれて。馬場さんは絶対に選手の首を切らない人だからさ、それまでは。記者の人が「そんなこと馬場さんがするわけがない!」ってビックリしてましたよ。まぁ全日本からすると、人数が多くて全試合タッグマッチばっかりになったりさ、いろいろ問題があったみたいなんだよね。それにあんだけ選手がいれば、経営だって大変ですよ。選手が40人近くいて、営業の人間とかを入れたら全部で70人ぐらい。それにガイジン選手にけっこうなお金を払っていたからね。

――全日本も経営的には余裕はあったわけじゃなさそうですもんね。解雇を通達されたときはどういう心境でした?

高杉　ま、しょうがないかって（あっさり）。

――ホント精神的にタフですよね、高杉さん（笑）。

高杉　不安はなかったですよ。自分は副業でジムをやっていたし、まだ若かったしね。だったら解雇でもいいやって。

――そのあと剛さんたちと、いまに繋がる多団体時代の先駆けとなるパイオニア戦志を立ち上げたわけですが、どういう経緯からスタ

剛は"ギャンブルバカ"だよ 新日本にオイチョカブを持ち込んだのは剛だから

ートしたんですか？

高杉　ちょうどその頃は第二次UWFがブームでね、あれで成功するんだからで俺らも！　ってかんじだな。

――第二次UWFが刺激になった、と。

高杉　そうそう。選手はいなかったけどね。俺と剛と菅原。旗揚げ戦には大仁田（厚）が来たか。新人選手を募集して、アパートを2室借りて、そこに住まわせたんだよ。

――旗揚げ戦は前代未聞のプログラムでしたよね。リング上で新人選手が延々スクワットをする模様と、観客参加の腕相撲大会。そして試合は2試合だけ‼

高杉　最初の試合がセミファイナルだよ（笑）。剛と大仁田のメインはダメだったねえ。

――パイオニアには、具体的なビジョンってあったんですか？

高杉　ビジョンというか、パイオニアは団体じゃなくて、剛と菅原と3人で協力してやるイベントだったから。月1は難しかったから、年間で何回をやっていこうってことぐらいかな。最終的にはシリーズもやりたかったけど。若い選手は仕事しながらやってましたからね。剛もたまに工事に行って。プロレス一本じゃ食えないから。地下鉄工事とか工事現場とかね、

――同時期の活動していた大仁田さんのFMWは、インディとしては大成功を収めましたけど、結局パイオニアは誕生から2年足らずで解散しちゃいましたよね。

高杉　うん。ちょうど（第二次）UWFがゴタゴタしていた時期で、『東スポ』の〝UWF解散！〟という大きな記事の下に、小さく〝パイオニアも解散〟って出たんですよ。

――解散繋がりで紙面を飾ってましたか（笑）。その後の活動計画は何かあったんですか？

高杉　ホントはパイオニア戦志自体が丸ごとSWSに入るはずだったんですよ。

――あ、そうだったんですか！

高杉　うん。俺や若い子も全員SWS。

――当時のSWSは部屋制度を導入してて、天龍さんの「レボリューション」、ジョージ高野さんの「パライストラ」、若松（将軍KYワカマツ、SWS立ち上げの中心人物）さんの「道場・激」の3つに分かれていましたけど、「パイオニア戦志」部屋の計画もあった、と。

高杉　でもね、SWSの選手会の猛反対にあって入れなかったんですよ。

――前代未聞の好待遇に惹かれてSWSには選手の入団が相次いだから、もう選手は余っていたんですかね？

高杉　違う、違う。あれだよ。剛を嫌がってる選手がSWSにいっぱいいたんですよ。

――剛さんの問題でしたか（笑）。

高杉　昔からの生き方に問題があったんでしょう。敵が多いわけですよ。高杉はいいけど、八木（剛の本名）はダメだって（笑）。

――剛さんを外して、高杉さんだけSWS入りしようとは思わなかったんですか？

高杉　いや、これは剛が若松さんを通じて持ってきた





潤沢な資金力で選手を従え業界を震撼させた、当時のメガネスーパー社長・田中八郎氏(週プロ表紙)。まさかパイオニア戦志をも捕獲していたとはビックリ。北尾＆アルティメット・ウォリアー＆パイオニア戦志という、新団体構想にはさらにビックリだ‼　その狙いが見えないだけに（北尾と剛は角刈り繋がり？）田中氏のタニマチぶりだけが際だっている。

北尾と剛と俺で新しい団体をつくる予定だったんだよ。

話だからね。それにSWSオーナーの田中八郎（メガネスーパー社長）さんが「選手会が納得するまで、私がポケットマネーで面倒見ますから」ってことだったから。まぁいいやと。

――田中さんがスポンサーになってたんですか。

高杉　そう。北尾（光司）もSWSで揉めて解雇になったけど、彼のことも田中さんは面倒見てて。それと一緒の扱い。

――それで藤原組の支援もしていたわけだから、さすが凄まじい財力ですね、田中さんは（笑）。

高杉　将来的には、北尾と剛と俺で新しい団体をつくる予定だったんだよ。

――北尾さんと新団体！　不思議な組み合わせで、どういうリングなのか想像が付かないです！

高杉　田中八郎さんがアメリカから、アルティメット・ウォリアーとか、アメリカの大物をたくさん呼んでくるってことでね。

――アルティメット・ウォリアーvs剛竜馬‼　異次元対決過ぎますよ（笑）。

高杉　そういう話はできていたんだよ。なんでダメになったんだろうなあ……（腕組みしながら）。

――まぁSWS自体が赤字も大赤字でしたからね。

高杉　お金をかけてたからね～、SWS。最初はどの会場でも演出の花火を打ち上げていたんだけど、それが毎大会300～400万の金がかかってたんだから。

――それは豪快な話ですね！

高杉　あの花火がなければ黒字だったらしいよ。横浜の道場だって家賃が500万とか1000万だったみたいだからね。お金を使いすぎだよ。

――道場の家賃で1000万！

高杉　そういう桁外れなお金の話を聞いてると、もうすこし上手くやればメガネスーパーがマット界を統一することも十分ありえましたよね。

高杉　できたと思いますよ。SWSと新日本の時代になったんじゃないかな。全日本からは選手がたくさん出て行ったけど、馬場さんに日本テレビが付いてなかったら、とっくに潰れてたんじゃないかな。

――あとターザン山本率いる『週刊プロレス』も全日本の後押しをしてましたよね。

高杉　異常にSWSを批判してましたよね、ターザン山本さんは。若松さんはSWSでプロレス雑誌を作るからバッシングなんか関係ないって言っていたけどね。

――まさしく夢の団体ですね（笑）。

高杉　ホントに最高のスポンサーですよ。俺たちも大島にあるSWSの寮や体育館に行って一週間ほど練習したけど、宿泊費とか費用は全部、田中さんが出してくれるんだから。

――田中さんのポケットマネーから出る高杉さんたちの給料も、けっこうな金額だったんですか？

高杉　良かったみたいだよ。

――みたいって、まるで他人事ですね（笑）。

高杉　いや、剛が田中さんからもらって俺や若い子に渡すんだけど。SWSでレフェリーやってた安達（ミスター・ヒト）さんから聞いたんだけど、けっこう莫大なお金だったみたいなんだよね。

――もうちょっと高杉さんがもら

いまのプロレス界は大変なんじゃないの？

ってもいいはずだったと？

高杉 どうなんだろうねぇ。ま、剛は田中さんが持ってるマンションに安い家賃で住んでいたりね、パイオニアの頃はちゃんと仕事はしてたんだけど、田中さんからガッポリもらっているうちにダメになっていったのはたしかだね。

——SWSの超破格な待遇で金銭感覚が狂ってしまったレスラーは多いですけど、剛さんもその一人だったんですか。

高杉 剛はお金にいい加減だったからね。それがオリエンタルプロレスのときに問題になったんですよ。俺らからすると、またかってかんじだけど、団体の金の行方がいい加減なんだよ。「これはどういうことですか？」って経理の人間が聞いても剛は返答できない。そんで割れたんだよ。

——オリプロの剛竜馬・追放劇は金銭絡みだった、と。

高杉 あとギャンブル魔でしたから、剛は。

——〝プロレスバカ〟じゃなくて〝ギャンブルバカ〟！

高杉 そう。あれこそが〝ギャンブルバカ〟。競馬とブラックジャックには目がなかったから。

——一世を風靡したショアポーズにしても、どことなく馬券を握りしめて絶叫してる姿に見えなくもないような（笑）。

高杉 あとね、新日本にオイチョカブを持ち込んだのは、アイツだから。山本小鉄さんや木戸修がアツクなってねえ〜、ハマって大変だったらしいよ。結局、最後に猪木さんが「もうやるな！」って怒って終わり。

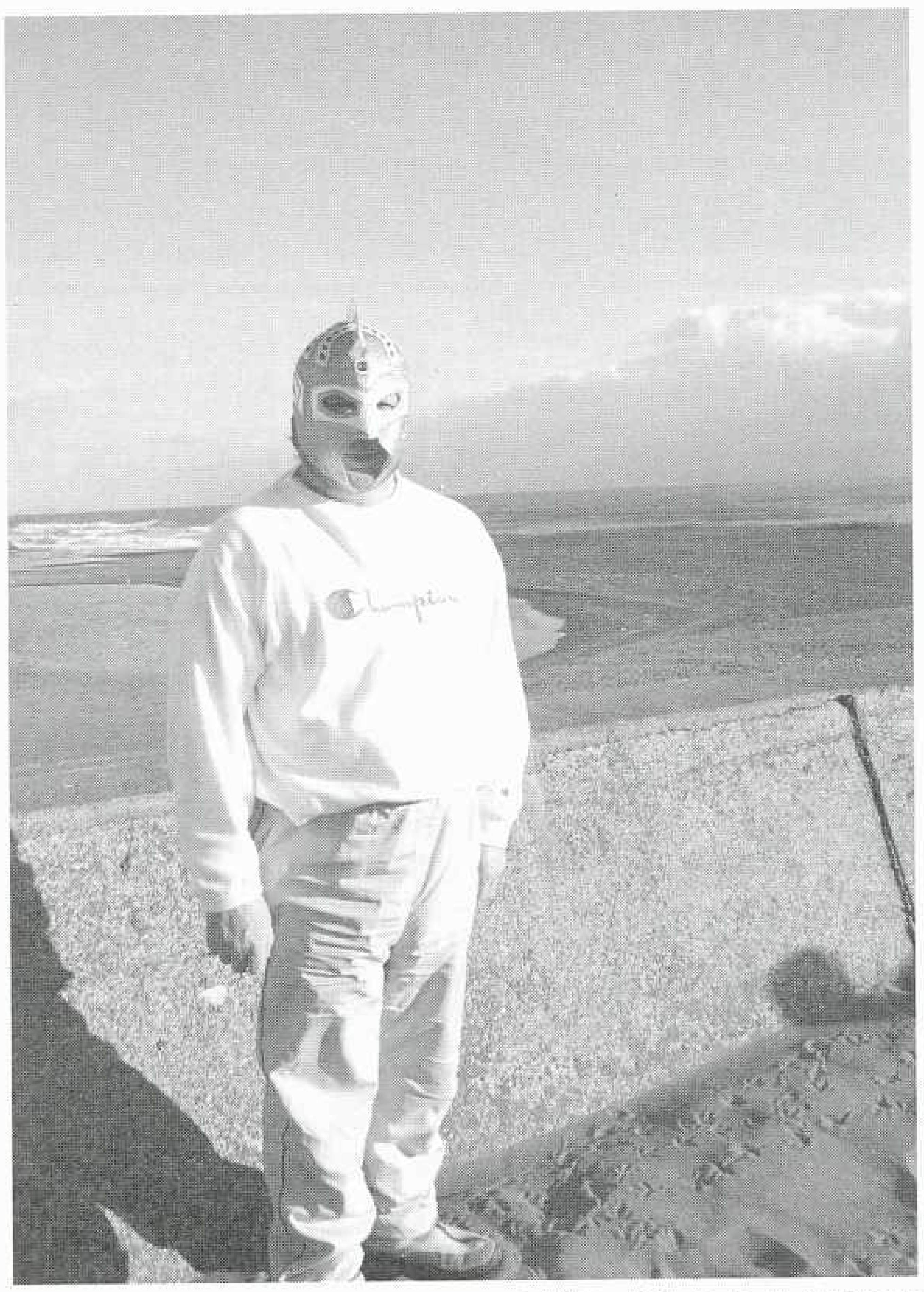
——人生そのものが博打みたいな猪木さんが怒るんだから、そうとうだったんでしょう（笑）。高杉さんも博打はやられていたんですか？

高杉 うん。全日本のときは、馬場さんに隠れてやってましたよ。

——御大には極秘に（笑）。

高杉 巡業バスの中でやるんだよ。

——え？ 巡業バスのなかで隠れてできるもんなんですか？



トレーナーにマスクを被るというアンバラスな格好にも関わらず、快く撮影に応じてくれた高杉セブン。「ファンが喜んでくれるから」と意気込むだけに、今後もウルトラセブンで奮闘してくれるだろう。頑張れセブン!!

高杉 いや、全日本には巡業バスが二台あって、中堅や若手はガイジン専用バスに一緒に乗るんだよ。初めて全日本の巡業バスに乗ったらさ、板と毛布が置いてあってね、「なんだろう？」って思ってたんだよ。で、バスが走り出したら小鹿さんが通路に板を置いてその上に毛布を敷いて博打場にしてね。そこでオイチョカブ。小鹿さんに「おい高杉、やらねえか？ そのかわり一口最低3000円だ」って誘われてさ。

——カブで一口3000円！ 当時だとかなりの金額ですよね。

高杉 うん。全日本は客も入っているけど、博打のレートもメジャーだなあってね（笑）。国際は一口最低500円だったから。ハーリー・レイスなんかは札束で100万持ってやるからね。

——レイスもやってましたか（笑）。

高杉 レイスは大負けしたときに大激怒して、その板にエルボーを落として真っ二つにしたときもあったよ。

——さすが本物のアウトローだったことはありますね。

高杉 ガイジンだとレイスぐらいだったね。ハンセンもやらないし。初来日のガイジンを騙してやったことあるけど（笑）。

——で、話は戻りますけど、剛さんが抜けたオリプロは高杉さんが代表になったわけですよね。

高杉 大変でしたよ、団体経営は。なかなか興行は打てないけど、レスラーというのは経験を積まないと成長しないでしょ？ 若い子をW☆INGに貸したりさ、団体というよりは選手を育てるほうに目が行ってたね。それで板倉（広）にしろ荒谷（望誉）にしろそこそこ育ったじゃないですか。剛のときは若い子を飼い殺しだったから。他の団体に出たいって言ってもダメの一点張り。

——それは剛さんの戦略的な考えもあったんですかね？

高杉 いや、自分の手から若い子が離れちゃうと思って、心細かったんでしょう。

——剛さんは、若い子と常に肌を寄せ合っていたかったんでしょうね。

高杉 俺は他の団体の巡業に行かせたりね、若い子に毎日試合をさせたかったけど。

——オリプロはどうして中断されたんですか？

高杉 会社の営業と方向性が合わなくて辞めたんですよ。それだけ。

——未練はなかったんですか？

高杉 別にないね。すぐにユニオンをつくって活動してましたし。

——そのあとIWA湘南、湘南プロレスもやられてましたよね。いまも小さい団体は数多くありますけど、経営ってなんとか成り立つもんなんですか？

高杉 （即座に）成り立たないでしょ。でも旗揚げ戦だけは儲かるもんだから。続けるうちにダメになっていくんだよ。まぁビジネスとしてやろうと思ったら、難しい世界だよね。

——今回、お話を聞いて思ったのは、高杉さんのプロレス人生にはすごく美味しい話というか、ビッグビジネスの機会にはなかなか恵まれなかったようですね。

高杉 なかったね（あっさりと）。俺、動かないからダメなんですよ。

——「俺が俺が」じゃなかった。

高杉 生活にも恵まれていたからね。ガツガツしなくても生きてこれたから。

——他のレスラーに嫉妬することもなく？

高杉 ないねえ。他人のことを深くは考えないし。これからもそうだよ。

——湘南でやっていたボディビルジムはお休みしているんですよね。

高杉 やってないですね。試合があるときだけ、そこでトレーニングするぐらい。

——普段は何をなさってるんですか？

高杉 ん？ 何もしてない。

——いいんですか、何もしてなくて（笑）。そういう立場からいまのプロレス界をご覧になった感想はありますか？

高杉 大変なんじゃないですか。上の人間はいいけどね。プロレスラーって、この仕事を辞めても次の保証がないんだからさ。

——ホントそうですよね。でもお話を聞いた限りでは、高杉さんの性格上、将来への不安はなさそうだから安心ですよ。

高杉 （即座に）さすがにあるよ!! もう年なんだから！

【05年1月某日／平塚にて収録】

て『東スポ』の〝UWF解散！

家賃が500万とか1000万だ

——もうちょっと高杉さんがもら

リング内・リング外の情報を読者にお届けする

RADICAL情報局

花粉に負けないビックリ興行てんこ盛り!!

佐伯繁DEEP代表が突如『紙プロ』編集部に来襲!「暑いよ!」と真冬に窓を全開にし、「サイズ小ちゃいな!」と宅配コーヒーに文句をつけ、「風水的によくないな、ここ!」と事務所ごと否定して去っていきました。で、何しに来たんですか、佐伯さん!? 情報ページ担当/斎野

Fight & Ticket 試合・大会情報

DEMOLITION版金網マッチ『D.O.G』が遂に旗揚げ!!

PRIDE、DEEP、パンクラス、修斗などメジャー団体に多くの選手を送り込んできたDEMOLITIONが、八角形の金網リング“オクタゴン”を使用したスペシャルイベント『D.O.G』を旗揚げする。注目カードはバトラーツ・井口vs廣野の再戦。前回は判定勝ちを収めた井口だが「今回は上手く金網を使ってキレイに勝つ」と必勝宣言。金網の中に移された井口vs慧舟會の闘いから目が離せない!

『D.O.G -DEMOLITION of Octagon Gear- 第1回大会』

■日時 3月12日(土)試合開始17:00(開場16:00) ■会場 東京・ディファ有明

■チケット SRS席 8000円、RS席 6000円、S席 5000円、A席 4000円

■決定カード 岡見勇信(和術慧舟會東京本部) vs ブライアン・フォスター(チーム・クエスト)
門馬秀貴(和術慧舟會A-3) vs チャット・ラベンダー(アメリカ)
漆谷康宏(和術慧舟會RJW) vs ロレンソ・コカ(ジャクソンズ・ファイトチーム)
飯田崇人(和術慧舟會A-3) vs 山崎剛(チームGRABAKA)
戸井田カツヤ(和術慧舟會トイカツ道場) vs 山本篤(KILLER BEE)
大沢ケンジ(和術慧舟會A-3) vs 志田幹(パンクラスP's LAB東京)
廣野剛康(和術慧舟會GODS) vs 井口摂(バトラーツB-CLUB)

■参戦予定選手 光岡映二(和術慧舟會RJW)、石田光洋(TEAM TOPS)

■問 GCMコミュニケーション 03-3538-5801 ■HP http://www.g-c-m.net/

負傷中のPB剛も来場! レッスルエイドプロジェクト下北沢大会

多国籍のハイレベルなレスリングを観戦できるレッスルエイド・プロジェクト。海外での活動に重点を置くため、国内での興行は残り数試合となる。世界のインディーのトップ選手が集う貴重な機会を見逃すな! また当日は重度のヘルニアで療養中の“プロレス馬鹿”剛竜馬も来場する。負傷からの復帰を祈って、みんなで馬鹿コールを送ろう! ショアッ!!

“車椅子ショア”を決める剛&ターザン



『WAP CHALLENGE』

■日時 3月14日(月) 試合開始18:30

■出場予定選手
“PPWスーパーヘビー級チャンピオン”ジョー・レジェンド、“CZWミドル級チャンピオン&BCWカナダTVチャンピオン”アレックス・シェリー、コンラッドケネディー三世、BENTEN、佐々木貴、サラ忍マン、松崎一彦 他

■チケット SRS席(最前列)6000円、RSフリー席4500円、
高校生以下全席自由席(当日のみ)1000円

■問 レッスル・エイド・プロジェクト 03-5456-7700 ■HP http://www.wrestle-aid.com

佐伯代表がまたも動いた!! 格闘技と音楽のコラボイベント REALRHYTHM旗揚げ!

格闘技と音楽をコラボさせた大阪発の新イベント『REALRHYTHM(リアルリズム)』が旗揚げを迎える。総合プロデューサーは佐伯繁DEEP代表とマインドブリーズレコードのMAB氏が務め、ゼネラルマネージャーにはクラブ『スパイラル』の末永孝司氏が就任。そしてスーパーバイザーには自身も「レッドゾーン」というコラボイベントを開催するライルーツ・コナンの池本誠知を起用。佐伯代表は「今までこういう大会には上の方の選手は出てなかったでしょ。リアルリズムではトップの選手を使っていくから」と鼻息荒く語った。果たしてこの試みは、現在の格闘技界にどのような渦を巻き起こすのか?

『REALRHYTHM』(リアルイズム)

■日時 3月6日(日) ■会場 大阪・Zepp Osaka

■チケット(当日は500円up)
VIP席(最前列)12000円、RS席 7000円、2階特別席 5000円、立ち見 4000円

■対戦予定カード
❼池本誠知(ライルーツコナン) vs 中村大介(U-FILE CAMP.com)
❻中尾受太郎(フリー) vs 佐々木恭介(U-FILE CAMP.com)
❺【エキシビジョンマッチ】三島☆ド根性ノ助(総合格闘技道場コブラ会) vs 辻結花(闇愚羅)
❹濱村健(CMA京都成蹊館) vs ビビ・ヒュース高橋(TEAM MUGEN)
❸栗原強(Team-ROKEN) vs 谷村光教(S-FACTORY岡村ジム)
❷寺田功(G-スクエア) vs 滝西基元(CMA京都成蹊館)
❶アンソニー・辰治・ネツラー(TEAM Boon!) vs キムミンス(TEAM TACKLE)

■問 DEEP事務局 052-339-0303/リアルリズム事務局 072-844-7077

■HP http://www.deep2001.com/

メインに滑川登場 4・17DEEP名古屋大会決定!

『DEEP HERO 1』 ■日時 4月17日(日)1部試合開始14:30/2部開始17:00(開場14:00)

■会場 愛知・Zepp Nagoya

■チケット料金(当日500円up)※1部&2部共通券
VIP席(最前列)15000円、SRS席 10000円、RS席 8000円、A席 6000円、B席 5000円

■決定対戦カード
◎滑川康仁(フリー) vs 秋山賢治(禅道会広島支部) ◎坪井淳浩(ALIVE) vs 杉内勇(Team-ROKEN)

■参戦選手 大原友則(格闘塾/元修斗第2代ウェルター級チャンピオン。プロボクシング最高位は日本ランク6位)、相馬克彦(志村道場)、木村仁要(CMA誠ジム)、梅村寛(ALIVE小牧)、木村直生(EVORUTION)、魚住敦志(EVORUTION)、土居龍晴(フリー)、深見智之(CMA京都京成蹊館)、濱村健(CMA京都成蹊館)、滝西基元(CMA京都成蹊館)、富岡義宏(クラブ・バーバリアン)、MIKU(クラブ・バーバリアン)、福住慎祐(名古屋ブラジリアン柔術)ほか

■問 DEEP事務局 052-339-0303 ■HP http://www.deep2001.com/

国内最強の55キロ決定トーナメント開催! AJキック、NJKF、MAキック、J-NETが大集結!!

『GO! GO! J-NET '05 ~MACH 55~』

■日時 3月2日(水)試合開始18:00
(開場16:45/フレッシュマンファイト試合開始17:30)

■会場 東京・後楽園ホール

■チケット(当日1000円up)
SRS席 9000円、RS席 7000円、S席 5000円、立見 3500(当日のみ発売)

■問 J-NETWORK 03-3419-0536

■HP http://www.kickboxing.co.jp/J-NETWORK/

●【MACH 55 1回戦Bブロック】藤原あらし(S.V.G./全日本バンタム級王者) vs 関健至(彰考舘/J-NETWORKバンタム級1位)
●【MACH 55 1回戦Bブロック】藤原国崇(拳之会/NJKFバンタム級王者) vs 寺戸伸近(BOOCH BEAT/全日本バンタム級3位)
●【MACH 55 1回戦Aブロック】牧裕三(アクティブJ/J-NETWORKバンタム級王者) vs 辻直樹(山木ジム/前MA日本フライ級王者)
●【MACH 55 1回戦Aブロック】高橋拓也(習志野ジム/MA日本バンタム級王者) vs 真二(OGUNI GYM/NJKFバンタム級4位)
●SHIN(アクティブJ/J-NETウェルター級王者) vs 我龍真吾(ファイティングマスター)
●大原清和(レグルス池袋/J-NETバンタム級4位) vs 松下ミツヤ(M-FACTORY/元MA日本バンタム級1位)
●黒田哲弘(サバーイ町田/J-NETフェザー級4位) vs 夜桜弘治(Team YOZAKURA/J-NETフェザー級9位)
●赤羽秀一(ウィラサクレックジム/J-NETフェザー級3位) vs 笠原 淳(S.K.V.アラビアジム/J-NETフェザー級6位)
●ファイヤー原田(レグルス池袋) vs 安川文健(AJジム) ※試合順未定。他1~2試合予定。

団体INDEX（50音順及びアルファベット順）

■猪木事務所
03-5468-5656
〒150-0001　東京都渋谷区東1-25-2 丸橋ビル4F
http://www.inokiism.com/

■大阪プロレス
06-6636-6672
〒556-0002　大阪府浪速区恵美須東3-4-36 フェスティバルゲート2F
http://www.osaka-prowres.com

■キングダム・エルガイツ
0423-31-2797
〒206-0025　東京都多摩区永山1-17-10
http://homepage3.nifty.com/z-zone-kingdom/

■新日本プロレス
03-5468-3111
〒150-0011　東京都目黒区青葉台4丁目4番5号 渋谷スリーサムビルヂング8F
http://www.njpw.co.jp/

■シュートボクシング(SB)協会
03-3843-1212
〒111-0033 東京都台東区花川戸2-2-8 ワコー花川戸ハイツ
http://www.shootboxing.org/

■掣圏道　042-548-1172
〒190-0012　東京都立川市曙町1-37-24　トータルエネルギー本社ビル1階
http://www.seiken-do.com/

■全日本プロレス
03-3288-0610
〒102-0073　東京都千代田区九段北1-5-10　九段有楽ビル6F　http://oudou.co.jp

■全日本女子プロレス
03-3493-6541
〒142-0062　東京都品川区小山4-4-9-2F
http://www.zenjo.com

■大日本プロレス
045-937-0811
〒224-0053　神奈川県横浜市都筑区池辺町4347
http://www.bjw.co.jp/

■髙田道場
03-5749-5030
〒142-0062　東京都品川区小山3丁目6-6 ワールドパレス武蔵小山1F&B1
http://www.takada-dojo.com/

■高山堂　03-5464-2806
〒150-0011　東京都渋谷区東2-17-12-404号
http://www.Takayama-do.com

■ドリームステージエンターテインメント(PRIDE)
03-5464-1531
〒107-0061　東京都港区北青山3-12-9　花茂ビル3F
http://www.so-net.ne.jp/pride/

■バトラーツ 0489-63-0005
〒343-0807　埼玉県越谷市赤山町6-13-43
http://www.battlarts.jp/

■パンクラス
03-5792-0815
〒106-0047　東京都港区南麻布4-2-25
http://www.pancrase.co.jp/

■プロレスリング・ノア
03-3527-5311
〒135-0063　東京都江東区有明1-3-25
http://www.noah.co.jp

■冬木軍プロモーション
045-241-6381
〒231-0048　神奈川県横浜市中区蓬莱町2-247 SSビル310

■みちのくプロレス
019-626-1333
〒020-0063　岩手県盛岡市材木町9-8
http://thegreatsasuke.com

■リキプロ
03-3754-6340
〒146-0085　東京都大田区久が原3-23-13 サシダハイツ久が原303

■レッスルエイドプロジェクト
03-5456-2345
〒150-0043　東京都渋谷区道玄坂2-20-12

■A to Z　03-3678-7777
〒132-0013　東京都江戸川区江戸川1-6-2
http://www.AtoZ.ne.jp

■DDT　03-5360-6653
〒106-0022　東京都新宿区新宿1-23-6 グローイン新宿御苑702
http://www.ddtpro.com

■DEEP事務局
052-339-0303
〒460-0071　愛知県名古屋市中区松原1-2-23 第3栄ビル2F
http://www.deep2001.com/

■DRAGON GATE
078-333-9797
〒650-0012 兵庫県中央区北最狭通7-1-4 サンクチュアリビル
HP:http://www.gaora.co.jp/dragongate/

■FEG(K-1事務局)
03-3796-2977
〒150-0001 東京都渋谷区神宮前2-18-22 S&T神宮前ビル3F
http://www.k-1.co.jp/

■GAEA JAPAN
03-5459-3101
〒150-0036　東京都渋谷区南平台6-7　MAISON南平台1F
http://www.gaea-inc.com

■GCM COMUNICATION
03-3538-5801
〒104-0061　東京都中央区銀座1-14-10 松楠ビル9F
http://www.g-c-m.net/

■IWAジャパン
03-3352-3366
〒160-0004　東京都新宿区新宿2-15-13　第2中江ビル402
http://www.iwajapan.jp/

■JDスター 03-5524-2339
〒107-0052　東京都港区銀座1-8-21　第21中央ビル9F
http://www.jdstar.co.jp

■JWP　03-5849-2341
〒121-0052　東京都足立区六木3-6-4
http://www.jwp-produce.com/

■KAIENTAI DOJO
043-214-6960
〒260-0001　千葉県千葉市中央区都町3-4-17
http://www.k-dojo.co.jp/

■LLPW　03-5228-4331
〒112-0014　東京都文京区関口1-24-6 朝日関口マンション1001号
http://www.llpw.co.jp/

■NEO　044-422-8344
〒211-0011　神奈川県川崎市中原区下沼部1892-102
http://www.neoladies.com/

■SMACK GIRL実行委員会
090-1773-5647(担当・勝井)
〒156-0041　東京都世田谷区大原1-63-9　恒心ビル801　株式会社プロテック内
http://www.smackgirl.com/
info@smack girl.com

■U-FILE CAMP
044-932-0282
〒214-0014　神奈川県川崎市多摩区登戸1568
http://www.u-filecamp.com/

■UFO　0467-82-2034
〒253-0053　神奈川県茅ヶ崎市東海岸北3-7-25-2F
株式会社エフ企画内

■U.K.R　044-833-7042
〒213-0027　神奈川県川崎市高津区野川2193—11
http://www.hiromitsu-kanehara.com/

■UNW　03-3362-3014
〒164-0003　東京都中野区東中野4-4-5-311

■U.W.F.スネークピットジャパン　03-3337-1889
〒166-0002　東京都杉並区高円寺北2-15-1-2F
http://www.uwf-snakepit.com

■WJプロレス
03-3751-4546
〒146-0085　東京都大田区久が原3-31-1　いずみハイツ
http://www.wj-pro.net/

■WMF　049-239-3520
〒350-0812　埼玉県川越市下小坂536-18
http://www.e-rain.co.jp/wmf

■WWS　0495-24-6900
〒367-0052 埼玉県本庄市銀座2-5-23 レインボー本庄106

■ZERO-ONE MAX
03-5730-3966
〒105-0014　東京都港区芝2-8-13-2F(株)ファースト オン ステージ
http://www.zero-one.to/top.html

■ZST　03-5321-9595
〒106-0023　東京都新宿区西新宿3-1-2 廣川ビル4F
http://www.zst.jp/

関西に火災警報!
暗黒プロレス666が大阪に初進出!

■日時　3月6日（日）試合開始18:30
■会場　大阪・アゼリア大正ホール　■チケット　二次災害席4000円（おまけつき）
■決定カード　怨霊 & ブラックバファロー & ボリショイ666 vs アジアン・クーガー&HERO! & baby M
■参戦予定選手　宮本"ヤンキー"裕向、キルキル、GOEMON、アジアン・コンドル、カブキキッド、MASAMUNE、藤田みねぴょん、ビッグ5ロウ、他
■HP　http://www.triplesix.jp/

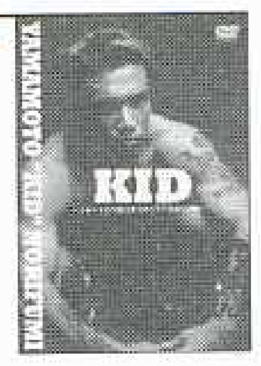
今度こそホントに引退か!?
3・26大仁田興行後楽園大会

■日時 3月26日　試合開始18:00（開場15:00）
■会場　東京・後楽園ホール
■チケット　特別入場券 10000円
■出場選手　大仁田厚 他
■問　ダイプロデュース 03-5496-4900
■HP　http://www.onita.co.jp/

DVD　最新情報

『KID』

3990円（税込）／45分／3月16日（水）発売



"神の子"山本KID徳郁のパーソナルDVDが登場! 道場での練習風景やプライベートシーンなど、試合以外のKIDが見れるファン垂涎の一本だ。フォトブック『KID』（扶桑社）も絶賛発売中!!

■問　03-5521-8044
■HP　http://www.ponycanyon.co.jp/

『PRIDE 男祭り2004-SADAME-』

5040円（税込）／168分+映像特典81分／3月25日（金）発売



史上最大の大晦日格闘技決戦『男祭り』。ミルコ vsランデルマンの再戦、シウバ vsハントの死闘、そしてヒョードル vs ノゲイラの60億分の1決定戦をDVDで再検証だ!!

■収録内容　❶美濃輪育久 vs ステファン・レコ　❷ジャイアント・シルバ vs チェ・ム・ベ　❸安生洋二 vs ハイアン・グレイシー　❹長南亮 vs アンデウソン・シウバ　❺瀧本誠 vs 戦闘竜　❻吉田秀彦 vs ルーロン・ガードナー　❼ミルコ・クロコップ vs ケビン・ランデルマン　❽近藤有己 vs ダン・ヘンダーソン　❾五味隆典 vs ジェンス・パルバー　❿ヴァンダレイ・シウバ vs マーク・ハント　⓫エメリヤーエンコ・ヒョードル vs アントニオ・ホドリゴ・ノゲイラ
■TEL　03-5469-4880（10:00〜18:00/土日、祝日は除く）　■HP http://www.mediafactory.co.jp/

And Others　その他情報

豪華ゲストが続々登場!
胡桃沢ひろこトークライブ



『紙プロRADICAL』NO.78に登場したイエローキャブの胡桃沢ひろこ。語学とプロレスの勉強（?）のため、来春から海外留学が決まった彼女のトークライブが開催される。ゲストは野田社長、プロレスLOVE系大物レスラー、そしてなぜか松澤チョロ。超マニアックな彼女のプロレス知識にビビってたじろげ!!

■日時　3月25日（金）開始19:30（開場18:30）
■料金　1800円（当日200円up）※飲食別　■出演　胡桃沢ひろこ
■ゲスト　野田社長（巨乳プロデューサー）、超大物レスラー他
■HP　http://www.loft-prj.co.jp/

日本最大規模のTシャツ展示即売会!
Tシャツ・ラブ・サミット第6弾開催決定!!

全国からインディーTシャツブランド80団体・が集結! そのTシャツの種類はなんと約2000種類! 紙プロ読者プレゼント（P158〜）でもお馴染みのハードコア・チョコレートも出店します。特設ステージでは、お笑いサバイバーシリーズ、バカTシャツサミットなど催し物も目白押し。しかも入場料はたったの100円! 春の新作はここで先取りだ!!

『Tシャツ・ラブ・サミット vol.6"フルカラー"』
■日　時　4月30日（土）11:30〜18:30／5月1日（日）11:00〜17:30
■会　場　科学技術館9・10号館（東京都千代田区北の丸公園2-1）
■入場料　100円!!　■HP　http://www.t-lovesummit.com

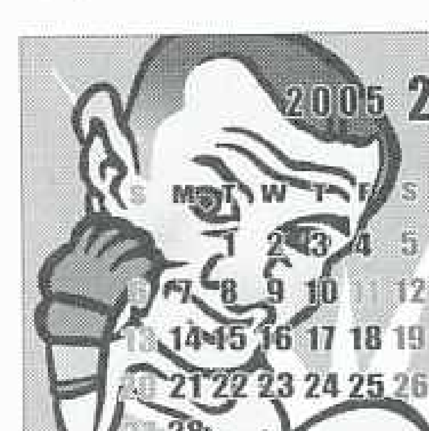
病床のサブゥーのために!　坂井澄江からの緊急メッセージ!!

単身渡米中の坂井澄江が、病床のサブゥーを励ますイベントを開催するため、広くサポーターを募集している。サブゥーは昨年夏、急な体調不良で緊急入院。現在は退院したものの、未だプロレス界復帰のメドは立っていない。単身渡米した坂井をいつも励ましアドバイスをしてくれたというサブゥー。「いま、4月にSABUさんのためのイベントを日本で実現するために動き始めています。試合はもちろん、いろんな形でSABUさんを元気づけることが出来るイベントにしたいと考えています。このイベントに様々な形で参加、御協力をしてくださる方を探しています。これに賛同して興味を持たれた方は下記アドレスまで御連絡ください。よろしくお願いします!!」（坂井澄江）

『WE LOVE SABU』
■日時　4月17日（日）
第1部　試合開始12:30（開場11:30）
第2部　試合開始18:30（開場17:30）
※1部と2部の間に参加団体、選手によるサイン界などのイベントを予定
■会場　東京・ディファ有明
■チケット
A席（最前列）5000円、B席 4000円
■問　WE LOVE SABU
070-5721-1805
■アドレス
we_love_sabu@yahoo.co.jp

紙プロHand　更新・最新情報

宇宙一面白い携帯サイト『紙のプロレスHand』では、3月からパンクラス・近藤有己選手のコラムがスタート!!　これを見れば"不動心"の素顔が分かる!?　また、ショッピングコーナーでは『ハッスル』グッズ、『紙プロ』バックナンバーがいつでも買えちゃうほか、『PRIDE』シリーズのチケット先行予約も実施予定!!　一般予約より早く、特典つきチケットを手に入れるチャンスだ。もちろんニュースは毎日更新、今すぐチェック!!　写真は中川画伯によるカレンダー待画。毎月1日更新!!



Docomo	i Menu	メニューリスト	スポーツ	格闘技／大相撲		紙プロHand
au/TU-KA	トップメニュー	カテゴリで探す	スポーツ	格闘技		紙プロHand
vodafone	メインメニュー	メニューリスト	スポーツ	格闘技		紙プロHand

元読者の担当による読者のための読者ページ

紙プロ元気大学

こんにちは。読者ページ担当、本業は電気部のささきぃです。……気の利いた書き出しが思いつかないので、とりあえず挨拶からスタートしてみました。書くことに詰まった時は歴史を振り返ってみましょう。なんと、私が担当して早くも35回目でした。来月で3周年ですよ。スタートしたころの文章を読んでみたら、我ながらずいぶん感じ悪かったです。常にケンカ腰、泰人上等（BY我龍真吾）って感じでした。何が気に入らなかったんだろう。気づくとは傷つくことだ。さて、今月もはじまりはじまり。



（東京都・仙波久幸）➡某メジャー写真週刊誌の敏腕記者、インリン様の魅力にビターン！　まんまとモンスター軍入り！の衝撃写真です。キャプテン・ハッスルはこれを見たら、ちょっと成敗したほうがいいと思います。年賀状が小さくて不満がっていたというウワサを耳にしたので、大きく掲載してみました。

内回 巡校

『紙プロ』83号　面白かった記事

【橋本真也×船木誠勝対談】
★6年前まで信仰していた船木のイメージがまた変わった。昔は神のように崇めていて、一語一句に感激していたけど、今改めて見ると、やっと大人になったな、「子供な大人」卒業だねっ、と言いたい。
（新潟県・斎藤貴樹・30歳・会社員）

⬇「神のように崇めていた」斎藤さんも「子供な大人」を卒業されたんでしょうか。時の流れは残酷だったり優しかったり。この他「船木と同年代の小娃、新日に入門せずにサラリーマンになってよかったと思ったから（兵庫県・阿部茂）」という、己の選んだ道こそが真実だと気づいた方、破壊王登場を喜んだ人、単にゲラゲラ笑った方たちから票を集めた対談が第1位！　以下、順不同でお送りします。

【ミルコ・クロコップインタビュー】
★今度こそ無事ヒョードルに挑戦してほしい。だけど勝って欲しいのはヒョードル！
（広島県・宮本鉄平・25歳・会社員）

⬇応援してるけど勝っては欲しくない、そんな複雑な男心。どっちも負けて欲しくないなぁ。

【ミスター・ヒトインタビュー】
★昔、ドラゴンマスター（サクラダ）のマネージャー（!?）をやっている時に、サクラダがヒクソン戦を表明していて、ヒトさんが「ヒクソンは弱いよ」って発言した時から大ファンです。
（東京都・森坂雄介・27歳・エンジニア）

⬇ミスター・サクラダはケンドー・ナガサキと言ったほうがわかりやすいでしょうか。ヒトさんとサクラダのタッグは、フロリダタッグ王座にも輝いています。以上、覚えての知識を披露してみました。……森坂さんは本当に私より年下ですか？

【ささきぃのSTAND・BY・ME】

★前回もそうですが『紙プロ』でこのような記事を読めることが嬉しいです。ささきぃさんには、ぜひ全日本キック中継の解説の座を布施鋼治さんから奪ってほしいです。
（埼玉県・矢島博司・39歳・会社員）

⬇ありがとう、ありがとう。でも、立ち技の放送席って、巨乳プラス派手なドレスとかじゃないと座っちゃダメなんじゃないのかなぁ。たぶん、郷野聡寛選手が一番嫌うような解説になると思います。

『紙プロ』83号　つまらなかった記事

【サスケ×水野晴郎】
★昔あったサスケっていうドリンクはまずかった。けど一部ではうけた。他にもプロレスファンが好みそうなドリンクがありましたね。メローイエロー、ミスタービブ、マウンテンデューetc。
（群馬県・小野塚充・37歳・自由業）

⬇あぁ、熱血飲料とか、アンバサいちごとかね。ドクターペッパーはなぜか美味いって言うヤツが友達の中にひとりは居て、うかつにマズイって言うと怒られたりするんですよね。……って、つまんない理由になってないですよ。まぁ、私もアンバサいちごって書きたかったから選んだんですけどね。

【ターザン山本！インタビュー】
★言うことが訳が分からず、意味不明なことがある。
（石川県・浅田浩伸・34歳・団体職員）

⬇ターザン山本！さんは、携帯サイト『紙のプロレスHand』で「ラブレター・フロム・葛飾」という連載をやってくださっています。インリン様に対し「君のオッパイにアイアンクローをやりたいなあ、ホント……」という、回春精神全開なハガキが届いた時には、さすがに掲載していいものかと悩みました。載せたけど。

【五味隆典インタビュー】
★試合の時に意味もなくセコンドに子供をつれてきたりするから、読む気にもならなかった。
（東京都・桑本薫平・12歳・小学生）

⬇命のやりとりをする闘いのリングに子供はいらない、と。厳しいなぁ、小学生。

紙プロ83号・読者が選ぶ 面白かった記事ベスト5

1位 橋本真也×船木誠勝対談
2位 ミルコ・クロコップインタビュー
3位 ミスター・ヒトインタビュー
4位 榊原DSE代表インタビュー
5位 堀辺師範が瀧本誠を語る

1位は昭和新日・合宿所物語の素晴らしさ（恐ろしさ）爆発！　橋本真也×船木誠勝対談。2位はミルコ・クロコップインタビュー、続いて昭和・全日の素晴らしさ（?）爆発のミスター・ヒトインタビュー。『紙プロ』なんだからカットするなという意見も届きましたが、いくらなんでも無理です。続いて笑顔のステキな榊原代表インタビュー、5位は瀧本誠の魅力を語りまくった堀辺師範トークを支持するおたよりが多数。以降はジェラルド・ゴルドーインタビュー、ベイダーインタビュー、紙プロ大賞2004と続きました。

『紙プロ』でやってほしい企画・インタビューして欲しい人

★曙太郎の『コレ、超カッコイ～』。
（群馬県・鈴木大・15歳・学生）

⬇読んだ瞬間、プッと吹き出してしまったんで掲載しますが、具体的にどんなことをやればいいでしょうか。横綱のセレクトするオシャレなインテリアとか、こだわりのグッズ紹介とか？

★小林由佳選手にインタビューしてほしい！
（埼玉県・新井祐太・17歳・高校2年生）

⬇女子大生空手家・小林由佳ちゃんですね。女子格闘技大会『ラブインパクト』で可憐な空手着姿を拝見しました。可愛らしすぎて、惚れそうでした。

その他のおたより

「格闘技をしない、させない、持ち込まない」という非格三原則が、今の新日本プロレスには必要だと思います。
（兵庫県・春乃・38歳・会社員）

⬇おあとがよろしいようで。よくないか。そうか。

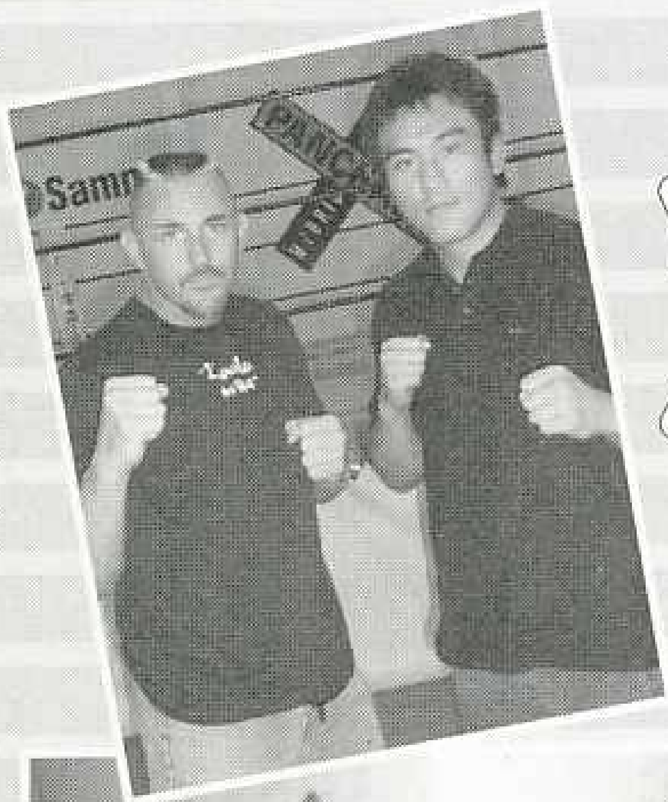


（埼玉県・稲葉聡）➡美濃輪育久選手、ステファン・レコに勝利！　日本の期待を背負う男は、喜びっぷりも人一倍。リアル・プロレスラーの次戦はいつだ。



（滋賀県・多久健一）➡はじめまして多久さん。ミルコ・クロコップ。途中でちょっとノゲイラが憑依したようにも見えますが、ミルコですね。また送ってきてください。

今月のタレコミ部!!





都内にお住まいのタダシ☆タナカ氏から、編集部の松澤チョロさんやパンクラス尾崎社長あてに、無差別テロのように送られてきた写真。シャノン"ザ・キャノン"リッチ（ミャンマー・ラウェイ1戦1敗）が、公約通り本当にパンクラスのロゴを自身の身体にイレズミしたという証拠写真です。……。近藤有己選手とのツーショットは、昨年6月の対戦前日に撮影した計量時の写真です。なぜか近藤Tシャツを着用しているリッチ。やる前から相手のTシャツを着るヤツが……ここにいましたね。



（東京都・ヤー）➲インリン様&アリシンZの高田アマゾネス軍です。インリン様の黒ビキニはセクシーでしたねぇ。やってほしい企画に、たくさん「インリン様グラビア」の声が届いていました。検討します。押忍!!



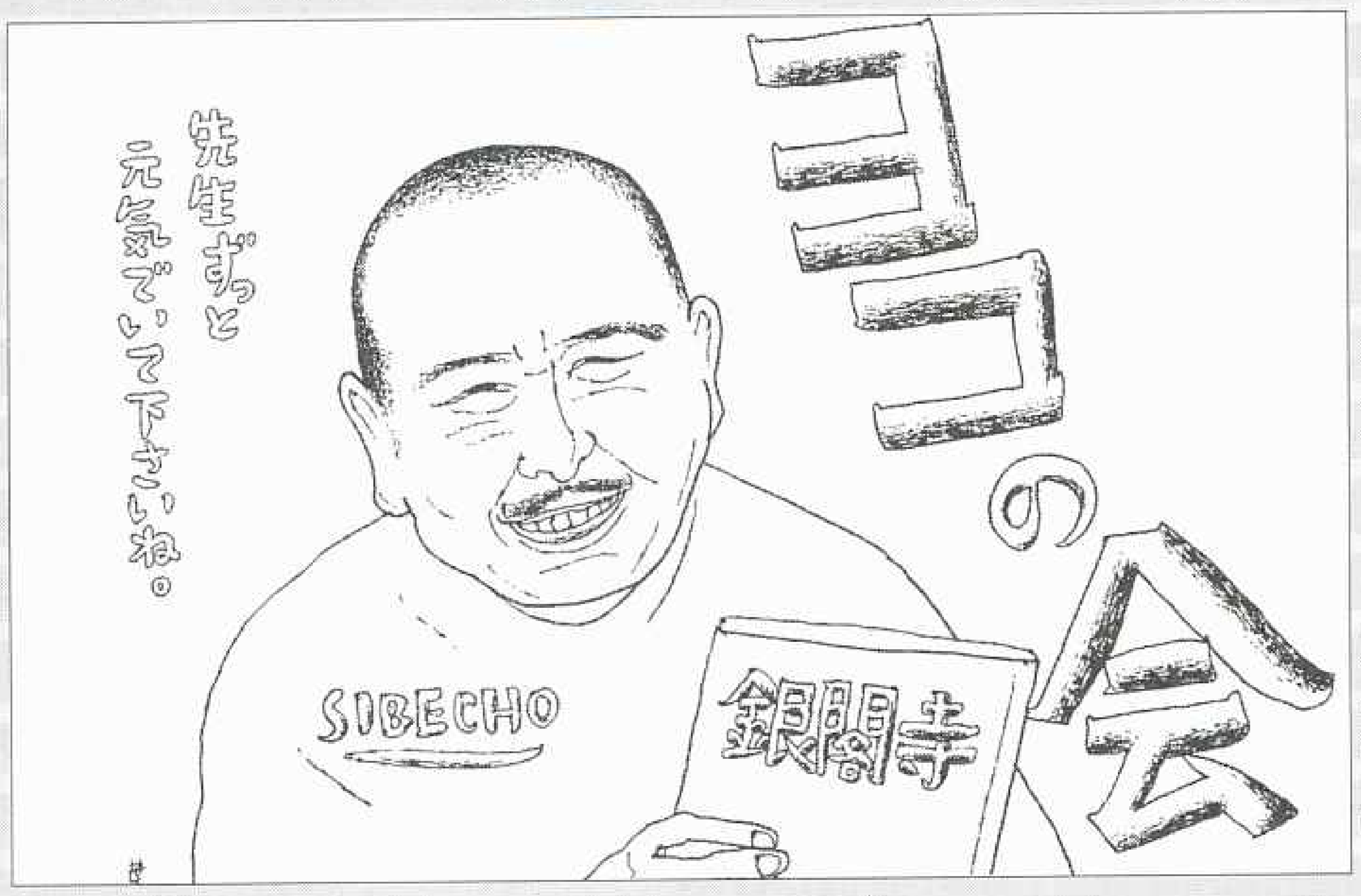
（北海道・アカツキ）➲毎月、たくさん投稿ありがとうございますアカツキさん。全部載せられなくてごめんなさい。選ぶの大変。シャワー室で泣いている前田日明の姿は、小説が一本書けそうにドラマチック。



（東京都・小技）「HPの宣伝していいですか？」➲ダメに決まっています。投稿&掲載でポイントをためてください。今、そういう決まりになりました。でも優しい私は見に行きました。マメに更新しているところがエライ。クリス・ジェリコのこの技は、ウォール・オブ・ジェリコであって、けして逆エビではないのです。



（東京都・ヤー）➲全日本キックの大月晴明選手です。これが載るのは、担当が立ち技ページをやっているがゆえのエコヒイキ。1・4、いらっしゃってたんですね。死にそうだったり泣きそうだったり惚けたツラだったりで試合を見ていた私のことは、ナイショにしておいてください。よろしくお願いします。



（神奈川県・葉チャン）➲おひさしぶりです、葉チャンさん。もう1枚のおにぎりなルーロン・ガードナーも良かったんですが、こっちを選んでしまいました。いやー映画って本当にいいもんですね。今後も投稿よろしくっす！



（神奈川県・岡田健生）「曙と会話中の谷川氏です。ちょっとブラックすぎますか？」➲確かにちょっと怖いけど、谷川さんはビッグハートだからノー問題！　大好き谷川さん！



（広島県・山田彩）➲なぁ〜にがやりたいんだ、コラ!!インタビュアー長州力。毎月おもしろいネタをありがとうございます、山田さん。インタビューされてるのが誰なのか不明ですが、高田モンスター軍のNJPWに似ているなぁと思ってそこにウケました。テレコがデカイ。

おハガキ・お便り・メール大募集!!

紙プロ読者ページ『紙プロ元気大学』では、みなさまのお便りをお待ちしています。雑誌『紙プロ』へのご意見、大会の感想、イラスト、ダジャレ、インタビューしてほしい選手のリクエストなど、どしどし送ってきてください。座談会ばやりの昨今、関係者の似顔絵などもこっそり募集します。ZSTガールに囲まれた某クマクマンボさんの笑顔は、描きがいがありそうだなぁと思いました。以上、すべてのお便り・イラストのあて先は

メールはradical@kamipro.com

〒151-0051　東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6　パレ・ジュノ2F
(株)ダブルクロス　紙のプロレスRADICAL編集部
「2・20、ドラゴンはどこに…。」係まで。

携帯サイト『紙のプロレスHand』からの投稿もできます!

本名NGの方はペンネームを記入するのを忘れないよーに！
プレゼントコーナーあてのハガキも、内容によってはこちらに載ってしまいます。
匿名希望の人はその旨明記のこと。旬のネタは掲載率が高いです。

RADICAL CALENDAR

3 MARCH

2 WED.
NOAH■茨城・水戸市民体育館（18:30）
DRAGON GATE■兵庫・神戸チキンジョージ（19:00）
ZERO-1 MAX■栃木・宇都宮市清原体育館（18:30）
DDT■東京・新木場1st Ring（19:30）

3 TUE.
ZERO 1-MAX■東京・新木場1st RING（19:30）

4 FRI.
新日本■東京・後楽園ホール（18:30）
JWP■東京・北沢タウンホール（18:30）

5 SAT.
新日本■埼玉・本川越ペペホールアトラス（18:00）
NOAH■東京・日本武道館（18:00）
みちプロ■高知・ウェルサンピア高知（18:30）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）

6 SUN.
新日本■静岡・アクトシティ浜松 展示イベントホール（15:00）
DRAGON GATE■北海道・札幌テイセンホール（15:00）
みちプロ■徳島・徳島市体育館（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（14:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（13:00）
666■大阪・アゼリア大正ホール（18:30）
SPWF■千葉・SPWF道場（14:00）
FUCK!■大阪・羽曳野J2K道場（12:00）
全女■東京・お台場スタジオドリームメーカー（17:00）
GAEA■東京・後楽園ホール（12:00）
AtoZ■東京・新木場1stRING（13:00）
M's Style■大阪・アゼリア大正ホール（14:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（17:00）
パンクラス■神奈川・横浜文化体育館（17:00）
REALRHYTHM■大阪・Zepp Osaka（14:00）

8 TUE.
DRAGON GATE■東京・後楽園ホール（18:30）

9 WED.
DDT■東京・新木場1st Ring（19:30）

11 FRI.
新日本■兵庫・豊岡市民体育館（18:30）
北都プロ■北海道・三石町福祉センター2階大集会室（18:30）
AtoZ■福島・ビックパレット福島（18:30）
修斗■東京・後楽園ホール（18:00）

12 SAT.
新日本■岐阜・飛騨高山ビックアリーナ サブアリーナ（18:30）
全日本■東京・新木場1st RING（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
北都プロ■北海道・標茶町福祉コンベンションホール（18:30）
STYLE-E■東京・西調布格闘技アリーナ（18:30）
GAEA■静岡・アクトシティ浜松（18:00）
AtoZ■山形・上山市体育文化センター（18:00）
D.O.G■東京・ディファ有明（17:00）
IKUSA■東京・お台場SDM（17:00）
G-SHOOTO■東京・Zepp TOKYO（18:00）

13 SUN.
新日本■愛知・愛知県体育館（17:00）
全日本■福島・楢葉町民体育館（18:00）
DRAGON GATE■愛知・名古屋国際会議場（15:00）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（13:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（15:00）
東海プロ■愛知・名古屋市総合体育館第3競技場（13:15）
全女■東京・北沢タウンホール（13:00）
GAEA■岡山・卸センターオレンジホール（15:00）
NEO■東京・北沢タウンホール（17:00）
AtoZ■千葉・飯岡町総合体育館（14:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（18:00）

14 MON.
全日本■秋田・秋田県立体育館（18:30）
WAP■東京・北沢タウンホール（18:30）
北都プロ■北海道・釧路十六番倉庫（18:30）
JWP&NEO合同興行■東京・大田区体育館（18:30）

15 TUE.
新日本■石川・石川県産業展示館3号館（18:30）
全日本■宮城・石巻市総合体育館（19:00）
ZERO-1 MAX■東京・後楽園ホール（18:45）
北都プロ■北海道・根室市総合文化会館多目的ホール（18:30）

16 WED.
全日本■新潟・ハイブ長岡（18:30）

18 FRI.
新日本■埼玉・熊谷市民体育館（18:30）
全日本■埼玉・富士見市立市民総合体育館（18:30）
ハッスル8■東京・両国国技館（19:00）
DRAGON GATE■長野・長野運動公園総合運動場総合体育館（18:30）
全日本キック■東京・後楽園ホール（18:30）

19 SAT.
新日本■山梨・甲府市総合市民会館（18:00）
ハッスルハウスvol.6■静岡・グランシップ静岡（18:00）
みちプロ■岩手・矢巾町民総合体育館（18:30）
DRAGON GATE■福井・福井市体育館（18:30）
大阪プロ■大阪・デルフィンアリーナ（18:00）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）

20 SUN.
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
みちプロ■宮城・白石市ホワイトキューブ（14:00）
DRAGON GATE■石川・金沢流通会館（17:00）
DDT■千葉・BlueField（14:00）
マッスル3■千葉・BlueField（18:00）
大阪プロ■兵庫・神戸サンボーホール（15:00）
GAEA■愛知・昭和スポーツセンター（13:30）
NEO■茨城・水戸市民体育館（18:00）
AtoZ■山形・酒田市営体育館（15:00）
JWP■東京・JWP道場（14:00）
チャレンジャーA■東京・新木場1st Ring（13:00）
格闘美■東京・新木場1st Ring（17:00）
アブダビコンバット日本予選■東京・中央区総合体育館（11:00）
新日本キック■東京・後楽園ホール（17:00）

21 MON.
新日本■兵庫・尼崎市記念公園総合体育館（16:00）
全日本■東京・後楽園ホール（12:00）
ZERO-1 MAX■群馬・桐生市民体育館（14:00）
みちプロ■秋田・十文字町総合文化センター（14:00）
DRAGON GATE■富山・イベントプラザ富山（17:00）
DDT■富山・金沢流通会館（18:00）
大阪プロ■島根・松江くにびきメッセ（16:00）
GAEA■大阪・大阪ドームスカイホール（15:00）
AtoZ■青森・弘前市河西体育センター（18:30）
PRIDE武士道-其の六-■神奈川・横浜アリーナ

22 TUE.
AtoZ■青森・むつ市民体育館（18:30）

23 WED.
ZERO-1 MAX■北海道・函館市民体育館（18:30）

24 THU.
ZERO-1 MAX■北海道・旭川地場産業振興センター（18:30）
AtoZ■青森・青森産業会館（18:30）

25 FRI.
ZERO 1-MAX■北海道・札幌テイセンホール（18:30）
長与千種興行■東京・ディファ有明（19:00）

26 SAT.
新日本■東京・両国国技館（18:00）
みちプロ■大分・国東町営体育館（18:00）
DRAGON GATE■静岡・アクトシティ浜松 展示イベントホール（18:30）
K-DOJO■千葉・BlueField（18:30）
大仁田興行■東京・後楽園ホール（18:00）
NEO■東京・板橋グリーンホール（18:30）
AtoZ■茨城・石岡市運動公園体育館サブアリーナ（18:30）
OYAJI BATTLE■東京・新木場1st RING（18:00）

27 SUN.
ZERO-1 MAX■東京・後楽園ホール（12:00）
みちプロ■宮崎・UMKスポーツスタジオ（17:00）
DRAGON GATE■東京・ディファ有明（16:00）
DDT■東京・新宿クラブハイツ（18:00）
NEO■東京・東京キネマ倶楽部（17:00）
修斗■愛知・名古屋市公会堂（15:00）
ANGEL'S■東京・伊原道場本部

28 MON.
みちプロ■宮崎・小林市民体育館（18:30）
DRAGON GATE■神奈川・相模原市立総合体育館（18:30）
大日本■東京・後楽園ホール（19:00）

29 TUE.
ZERO-1 MAX■千葉・塩浜市民体育館（18:00）
みちプロ■熊本・熊本興南会館（18:30）
DRAGON GATE■静岡・キラメッセぬまづ（18:30）


30 WED.
みちプロ■長崎・島原市復興アリーナ（18:30）
DDT■東京・新木場1st Ring（19:30）

31 THU.
ZERO-1 MAX■和歌山・田辺ハナヨアリーナ（18:30）
大日本■大阪・鶴見緑地公園花博記念公園水の館付属展示場（19:00）

“I編集長”特別寄稿

2・20PRIDE.29に見た
4つの“殺し”

井上義啓



「試合をやる前に、〝テメエが負けること考える馬鹿がいるか！〟それを、あの野郎。ガタガタと、くだらん質問しやがって！」

遠い日の、大阪府立体育会館控室。どういうわけか、アントニオ猪木の周りに記者連中の姿はなかった。

ムカッとした表情の猪木。後で知ったのだが、テレ朝のインタビュアーが、「猪木さん、今日の試合で負けたら、どうなるんですか？」とシャアシャアと聞いたというのだ。カーッとなった猪木が、バチーンとぶん殴ったというのだが、そうとは知らぬ私は、「どうも」と、猪木の前に腰を下ろした。

「オレと馬場が10何回も闘って、（オレが）一度も勝てなかったともぬかしやがった」

ハハーン、それでか。

「馬場との闘いに本当の勝負など一度もなかった。それを一番よく知っているのは編集長でしょう？」

今も昔も同じ。プロレスだけの中に、『PRIDE』だのK－1だのという格闘技が入り込んできた。それなのに、その異国の風景の中で、闘う男たちも、それを報じる記者たちも、同じチンプな言葉を繰り返す。

「アイツなんぞに負けるワケがない」「必ずぶちのめしてやる！」

それはそれで、ゴングが鳴るまでのパフォーマンス。プロモーターに言わせると、「必要なプロモーションですよ」となる。

だから、それをとがめたりはしない。だが、マスコミの活字が、格闘技なのにプロレスと寸分変わらないのはなぜだろう。「WHY？　WHAT YOU SAY？」

マーク・コールマンは言った。「ヒョードルに挑戦するのは、この私だ。ミルコが私に勝てるワケがない」

チェ・ム・べは言った。

「早い時間で試合を終わらせる。今回は打撃ではなく、グラウンドで仕留める」

活字は、どうしても誇張される。前後の補足部分はカットされて、キツイ芯だけが活字になるからだ。だから、こうした闘う男たちのコメントが、ていねいな言葉遣い抜きの、ぶっきらぼうな活字になるのは仕方がない。問題は、こうしたコメントを扱う記者の感覚だ。ふくらませてはならないのに、プロレスの記事と同じ感覚で活字にし、見出しをつけるのである。

ヴェウドゥムの無駄のない技巧、あの“殺し”ならヒョードルも危ない

「コールマンがミルコに勝てるかね。10年も前のコールマンなら、そうも言えるのだが……」

「チェなんとかというのも、大きな口、利いてまっせ。セルゲイって、そこそこのもんでっしゃろ」

このプロ格者とのやり取りの中に、重大な問題点が潜んでいる。一つは、プロレス的な感覚活字の横行だが、もう一つが、びっくりするほど選手の何たるかが報道されていないという事実だ。

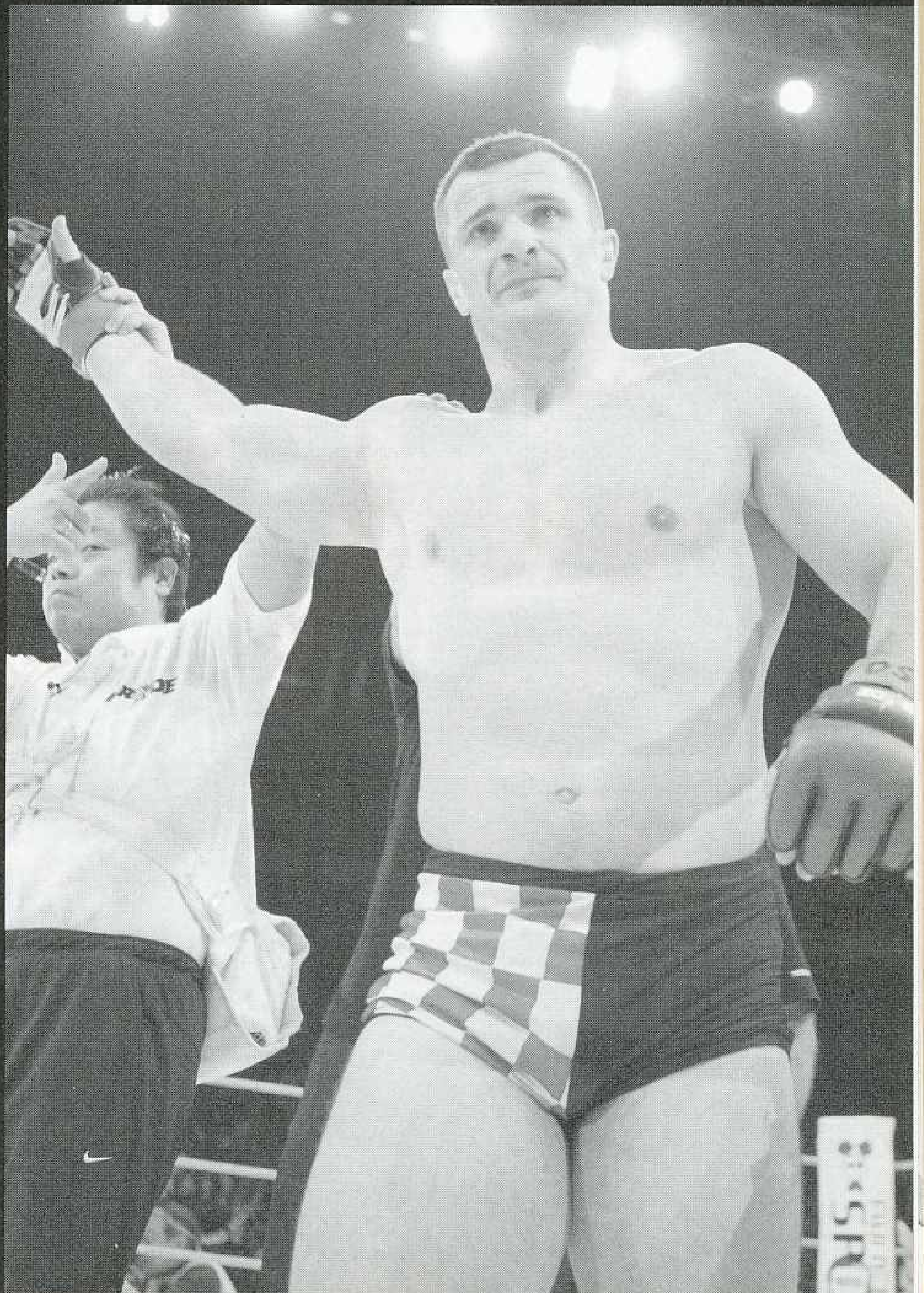
「ハリトーノフとイグナショフは今は大関だが、今年中に押しも押されもしない横綱になる」

何度、同じ念仏を活字にしたことだろう。前記のプロ格者は、私の活字の大半に目を通している。それなのに、大阪プロレスのえべっさんみたいに格闘技音痴だ。まして、平成のデルフィンにおいておや。DSEにも責任はあるが、そのとがの大半はマスコミにある。ファンの大半が、ハリトーノフが日の出の勢いにある大関だとの認識を持っていない。まして、初登場のファブリシオ・ヴェウドゥムに至っては小指の先ほどの知識、データも持ち合わせていなかった。

この私にしても、一体、どんな男なんだろう、とあれこれ聞いて回ったので、ブラジリアン柔術世界選手権で一昨年、昨年と2度続けて優勝したとの資料にありついた。　では、ノゲイラ兄が2度とも勝てなかったのかとの疑問は白紙のままだった。ニンジャ、ショーグンの兄弟にしても、ニンジャは出来上がっていて上積みはないが、若い弟のショーグンは化けるんじゃないか、と直感的に思ったに過ぎない。ハリトーノフの凄さに舌を巻いて、「次のトップはこいつだ！」と断言したのとは大違いであった。

ヴェウドゥムがヒクソンばりのスリーパーで白鯨エリクソンを仕留めたとき、その無駄のない巧技に舌を巻いた。ミルコがわざわざ自宅に招いて寝技の指導を乞うただけの凄腕だった。あんな男が、ノゲイラ兄弟の、すぐ横にいたのだ。何たるうかつ。何たる活字欠如。あの〝殺し〟ならヒョードルだって危ない。もっともグラウンドに入るまでに、ケリをつけてしまうだろうから、コールマンが6回もテイクダウンを狙ったものの、一度も成功しなかったと同じ過程を踏むシーンは見ておかねばならない。問題は、あの〝殺し〟がヒクソンと同じものであるのかどうか。ノゲイラ兄と同じ程度なら、ヒョードルの〝殺し〟には勝てない。

〝殺し〟。格闘技にこれほど重要なファクターはない。シュートボクセには〝殺し〟



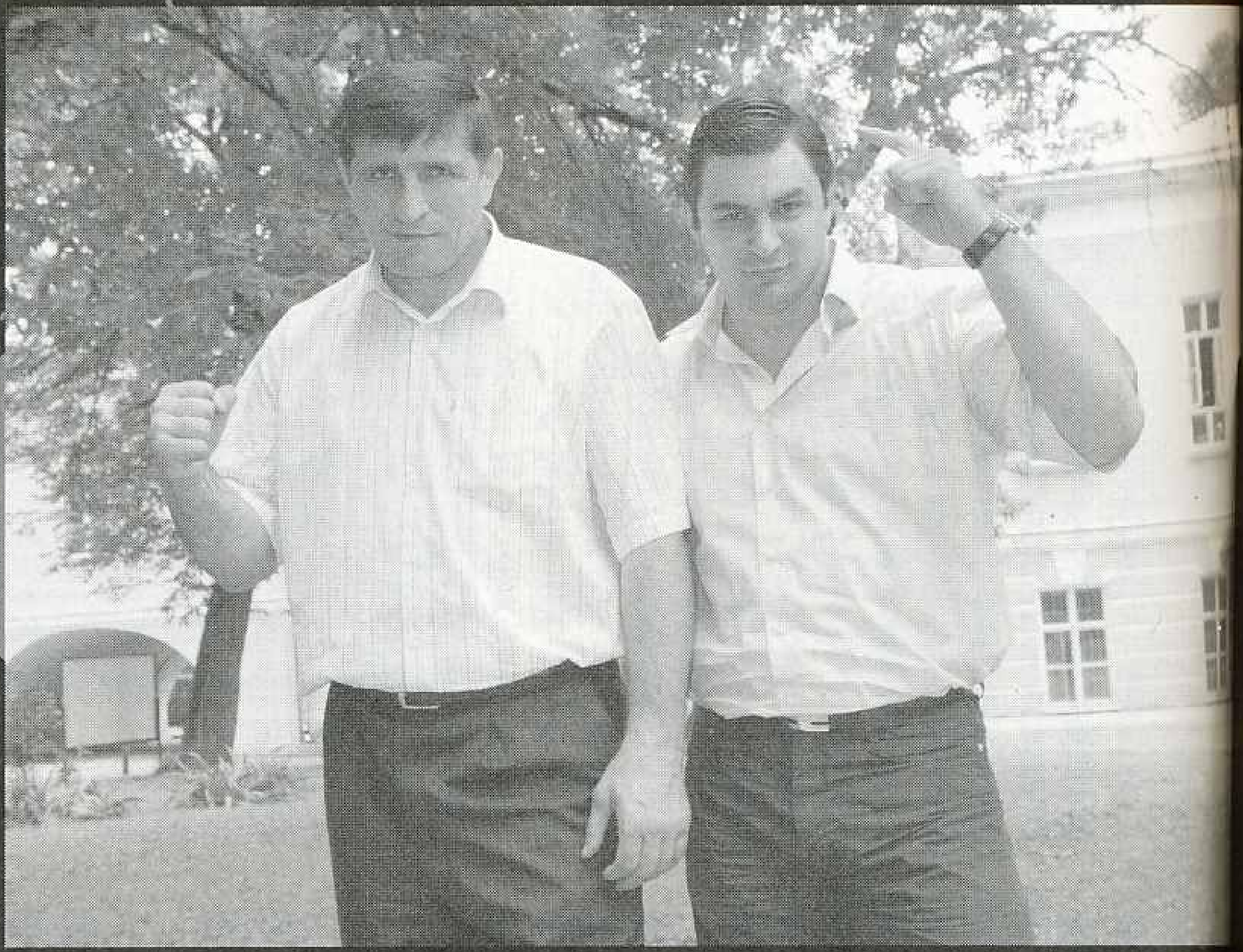
が充満している。だからこそ、ヴァンダレイ・シウバが誕生した。ショーグンにしても、ゲェーッと驚く、非情なサッカーボールキックを平然とぶち込む。金原弘光ほどのタフな男が1分40秒で決められた戦慄の残酷シーンは桜庭、吉田、瀧本を持っていってもどうかとの思いを強いものにした。

あの"出戻り男"ボブチャンチンにしても、息子じゃないのかと思ったほどの殺りようで、日本人選手がなぜ勝てないのかの答えが、あのボディーにあった。ボブチャンチンは終わったと思っていたが、こんな、とんでもない話にもなるのだ。あのロシアンフックが以前のような切れ味とスピードを増していたのだから。ボブチャンチンの"殺し"にも脱帽した。この調子なら、日本人選手の出る幕はない。UFCのチャック・リデル、ティト・オーティズ、ビクトー・ベウフォート、ケン・シャムロックが勝てるとはとても思われず、"殺し"の何たるかを今さらのように感覚した。

無論、"殺し"の最右翼にはヒョードルがいる。柔道出身のヒョードルに、あれだけの"殺し"を植え付けたのはヴォルク・ハン、イリューヒン・ミーシャなどの鬼集団のたまもので、そうでなかったら、ヒョードルはノゲイラ兄に軽くひねられていた。コマンドサンボでの"殺し"が、藤田、ランデルマンとの一戦で見事、生かされている。

しかし、ハリトーノフの"殺し"には遠く及ばない。昨年の6・25セーム・シュルト戦では、あそこで、よくレフェリーが止めたものだと感心させられた。止めていなければ、上になったハリトーノフがパンチを3発は顔面に叩き込んでいた。それも目を狙っての恐怖のパンチで、これまたミーシャ譲りの"殺し"だった。

そのハリトーノフが出てきたのだ。"殺し"の再現が見られなかったらおかしい。案の定で、チェ・ム・ベは3分23秒で地獄に送られた。スローな出足では、8・15でノゲイラに判定負けしたようにロクなことにはならないと考えていたかどうかは判然としない。私の見たところでは、ハリトーノフペースと寸分変わらなかった。しかし、殺人パンチの爆殺で、さしもの打たれ強いチェもどうすることもできなかった。それにしても非情な"殺し"で、8・15でも、思い切った手に出ていれば……と悔やまれてならない。本人は「1R10分、2R、3Rが5分の練習を積んでいたから、2ラウンド制と知ってペースを狂わされた」と苦笑いしていたが、もう少し、思い切った手に出るべきだったとの結論に変わりはない。



ロシアン・トップチームの秘密兵器にしてヴォルク・ハンの秘蔵っ子、スレン・バラチンスキー。サンボではヒョードルに2戦2勝しているこの男、『PRIDE』初登場が待たれる。

ミルコの圧勝は予想と寸分変わらない。やはりコールマンは歳を取った。6回もの突っ込みをことごとく切られた——と言えば、それだけの話となるが、10年前なら、必ず成功させていたと思うのだ。猪木の言う"紙一重"の空しさを痛感させられたが、自然にサッカーボールキックを連発できるショーグンの23歳とは天と地ほどの開きがあった。だから、私は「中邑は今、トップにのし上がらなかったとしたら、本当の意味での中邑の時代は来ない」と言い続けている。ハリトーノフといい、ロシアン・トップチームのスレン・バラチンスキーといい、ヴォルク・ハンの"殺し"を受け継いだ男たちには注目すべきである。まかり間違っても「ハリトーノフなんて、大したこと、おまへんやろ」などと言ってはならないのだ。

ヴォルク・ハンの"殺し"を受け継いだ男たちには注目すべきである

そのミルコ。いよいよ『I予言』ロードを歩む。UFCヘビー級王座狙いがそれ。6月の『UFCジャパン』にUFCヘビー級王者のフランク・ミアが故障癒えて間に合うとは思われないので、10月のロサンゼルス初進出だろうと見ている。同級暫定王者のアンドレイ・オルロフスキーでは、とてもじゃないがミルコの敵ではなく、ミルコが、二つのベルトのうちの一本を腰に巻く日は、すぐそこまで来ている。ヒョードルをPRIDEヘビー級の王座に固定しておき、身軽に動くミルコをUFC王者にしようとの二本柱構想。

今年のDSEは米マットで大暴れすると見ていたが、早くも動き始めた。ミドル級にしても（UFCのライト・ヘビー級含む）、UFCのトップクラスを総なめにするだろう。ミドル級の下にフライ級を設けるのも一つの手で、3階級制がいずれ日の目を見ることになろう。

最後に、ヴォルク・ハンのヒョードルへの"殺し"の言葉を。言うまでもなく、ヒョードルは育ててくれたロシアン・トップチームを離脱した。ハンの怒りは収まっておらず、「ロシア人はロシア人で始末する」と言っている。"殺し屋"はハリトーノフか、ヒョードルをサンボで2度破ったバラチンスキーか。いずれにせよ、今年のヘビー級はヒョードル、ミルコ、ハリトーノフだけでなく、ヴェウドゥム、バラチンスキーといった新しい顔が主役に躍り出ることになる。それをはっきり体験させた2・20『PRIDE・29』だった。

ささきぃの極私的立ち技格闘技連載

"STAND BY ME"（仮）

第6回

気まぐれ対談
『K-1MAX』に出てほしい選手って？

ちわっす！ ささきぃです。今月はスタート以来久々に、ゲストを迎えての対談形式でお送りします。出てくる選手の名前を覚えておけば1～2年後には、いっぱしの立ち技マニアが名乗れること間違いなし！ 詳しくなったら逆に私へ教えてください。注目選手がすぐチェックできる大会情報もついてます！ それでは橋本さん、よろしくお願いします!!

――今回は、橋本さんをゲストに、ゼロワンについてじっくり語り合いたいと思います！

橋本 不倫問題がねぇ……って、語ってもいいけど橋本違いだよ！

――小ネタで失礼しました（笑）。え～、不倫じゃなくてフリーライターの橋本さんをゲストに、K-1MAXについて語りたいと思います！ この本が出るころには『K-1MAX』の日本代表トーナメントはすでに終了してるんですけど、個人的に『MAX』っていうのは、キックとか総合とか、シュートボクシング（以下SB）だったりとかの他競技の選手が突然参戦してきて、業界をあっと言わせるっていう部分でも楽しみがあったんじゃないかと思うんですよ。

橋本 はいはい。中量級に光を当ててスターを発掘してきたっていう意味では、理想的な『武士道』だよね。武田（幸三）にしろKID（山本KID徳郁）にしろ、知る人ぞ知る存在だった強豪を全国区にしたわけだから。

――02年に最初にMAXがスタートした時、そのメンバーを見たときのビックリって言ったらなかったですよね。

橋本 あれはビックリしたねぇ。何が驚いたって、代々木第二で、TBSでの放送もあって、大会はメチャクチャ面白かったわけじゃん。そこに出てるのが『SRS-DX』でマニアック部門だったオレが担当してた選手たち。何しろ全員の携帯番号知ってるんだから（笑）。"ついにこういう時代が来たか"と。感慨深いなんてもんじゃないね。

――今風の小ぎれいな女の子たちがキャーキャー言ってるすみで、立ち技を追いかけてきた日陰者の記者たちが涙を流していたと（笑）。別枠で歴代参戦選手について触れてますけど、MAXの歴史を見てみると、今年もやっぱり誰か外の選手にひとりふたり参戦してほしかったなぁと、正直思っちゃうんですよね。

橋本 トーナメント8人で、初出場の選手がいないわけだから確かに寂しいねぇ。でも、それはやっぱり谷川さんが忙しいんだろうね。谷川さんは、チェ・ホンマンの練習を見ずに契約を結んじゃうくらいだからね（笑）。

――そうですね（笑）。なので、逆にこっちから出て欲しい選手の名前をあげていってしまってはどうかという企画なんですよ。

橋本 うんうん。見たい選手はこういう機会にドンドンあげてっちゃったほうがいいよ。本人が出たいかどうかは知らないけど。

――意志は無視して（笑）。早速ですけど、最初に佐藤嘉洋という名前はあげておきたいところですよね。キックや立ち技が好きで、ネットレベルの速報をチェックしている人だったら、参戦を噂された選手としてその名前は届いているんじゃないかと思うんですけども。

橋本 今回のメンツのMAXに佐藤選手が出て、公平なジャッジの下で実力を普通に出せば、10回中8回は佐藤選手が優勝すると思うよ。

――ほぅ！

橋本 ダントツの実力と言っても過言ではないね。結果が出せるということにおいては日本でも最高クラスの選手でしょう。

――その佐藤選手と、非常にいい試合をしたのが山本優弥選手ですね。いくらやられても立ち上がってくる山本優弥、っていうと、非常に陳腐な表現になっちゃうんですけど、佐藤嘉洋がとにかく圧倒的な強さを見せて、山本優弥がものすごく根性を見せて、

『K-1 WORLD MAX日本代表決定トーナメント』歴代出場選手

（※本戦出場選手のみ、☆印が優勝選手）

02年 ☆魔裟斗、小比類巻貴之、須藤元気、新田明臣、大野崇、村浜武洋、安廣一哉、後藤龍治

03年 ☆魔裟斗、武田幸三、須藤元気、村浜武洋、阿部裕幸、小次郎、安廣一哉、小比類巻貴之

04年 ☆小比類巻貴之、HAYATO、武田幸三、緒形健一、村浜武洋、安廣一哉、セルカン・イルマッツ、山本"KID"徳郁

05年 小比類巻貴之、安廣一哉、TOMO、小次郎、武田幸三、山本"KID"徳郁、村浜武洋、HAYATO

橋本宗洋（はしもとのりひろ）さん



（イラストは読者投稿・馬並初江さんの作品）

橋本宗洋（はしもと・のりひろ）。1972年生まれ、茨城県出身。『格闘技通信』でアルバイト後、99年からは『SRS-DX』へ。同誌休刊後はフリーとして本誌でも活躍中。『猪木ボンバイエ』で橋本友彦（DDT）と間違われ、プロフィールを聞かれた経験あり。アリスター・オーフレイムと対戦する大きなチャンスを逃している。写真が似顔絵なのは本人の希望。

文中に登場した選手たち



宍戸大樹（ししど・ひろき）

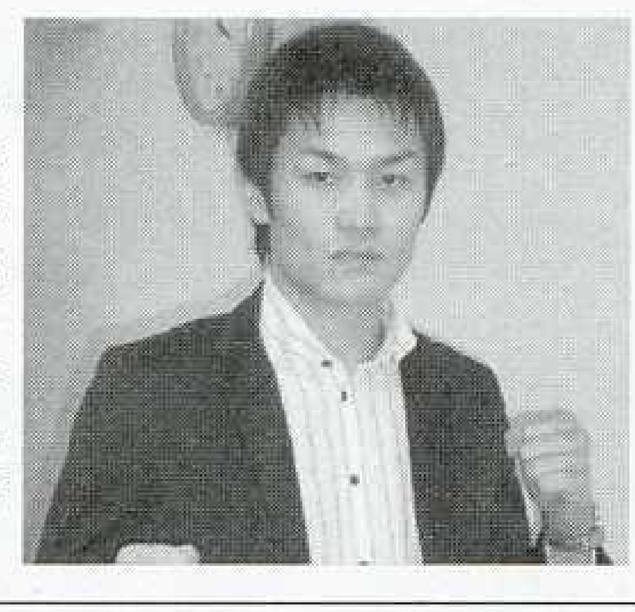
（写真右）174cm、福島県出身。77年3月16日生まれの27歳、B型。34戦28勝（13KO）6敗。シーザージム所属。昨年大ブレイクを果たしたSBの新エース。驚異のスタミナから繰り出すノンストップラッシュで、海外選手を相手に確かな結果を残している。チャバリータASARIのファンだった頃もあり。

菊地浩一（きくち・こういち）

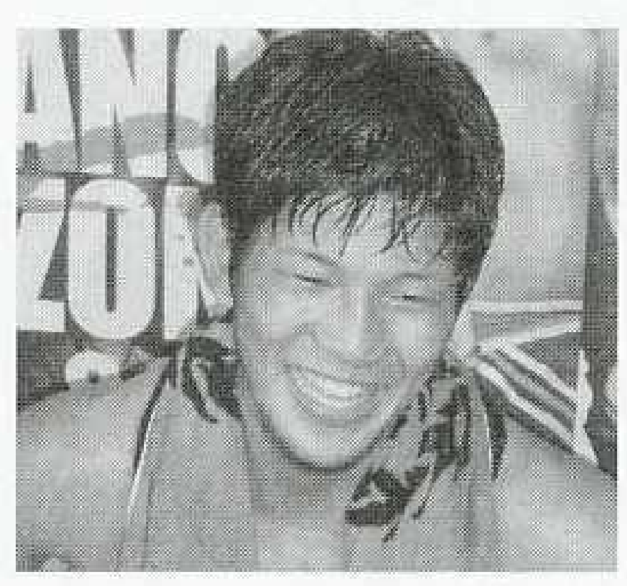
（写真左）175cm、大阪府出身。77年2月23日生まれの28歳、O型。12戦12勝（9KO）。寝屋川ジム所属。2004年R.I.S.E.DoAトーナメント優勝。福岡大会で、自ら宍戸との対戦を志願。3月6日後楽園大会に向け「これまで生きてきた中で最大のチャンス」と、宍戸食いを宣言している。

対談中では字数の関係上やむなくカットしたが、写真中央の緒形健一はSB福岡大会でトルコの草刈ことセルカン・イルマッツに判定勝ち。「去年のトーナメントで相手をボコボコにしてたイルマッツの実力を考えると、緒形もやっぱり相当強いんだなって思ったよ（橋本）」。

佐藤嘉洋（さとう・よしひろ）



185cm、愛知県出身。81年1月25日生まれの24歳、AB型。28戦25勝（13KO）3敗。2月6日全日本キック後楽園大会のメインで山本優弥と対戦、長身から繰り出されるヒザ、前蹴りで完封。50-39という超大差で圧倒的判定勝利を収める。が、翌日にはFAXと文面による全日本キック電撃退団&フリー宣言、業界をビビってたじろがせる。現在はフルキャストスポーツ所属。着メロは「ハッスル音頭」。



山本優弥（やまもと・ゆうや）

175cm、広島県出身。84年7月15日生まれの21歳、O型。18戦11勝（4KO）6敗1分。BOOCH BEAT所属。打たれて笑うのは挑発ではなく、打ち合いが楽しくて笑ってしまうらしい。2月6日は欠場となった清水貴彦の代役として急遽参戦を志願、いくら倒れても立ち上がる、誰もが抱きしめたくなるような奮闘ぶりをみせた。全日本キックには注目選手の「山本」が3人いるので、知ったかぶりをする時には要注意。私服もチャームポイント。

MAXの第1回は「ついにこういう時代が来たか」と。感慨深いなんてもんじゃなかったよ（橋本）

橋本　いい試合だったねぇ。試合後も「やられに来たワケじゃないです」って意地をみせて。そういう姿も良かったね。

——引かないし、試合も面白いし、谷川さんがすごく好きそうな選手じゃないかという気はしますよね。

橋本　若くて伸びしろもあるし、すごくいい選手ですよ。まさにK-1向き。

——続いて、SBの中で昨年大ブレイクを果たした宍戸大樹選手。

橋本　ここ最近で一番実績を残してる選手だね。S-CUPで準優勝して、チャンプアックっていう佐藤嘉洋や大野崇に勝ってるタイ人にKO勝ちして、オーレ・ローセンというヨーロッパの選手にもKO勝ちして。

——ノリにのってますよね。

まぁ、宍戸選手自身は「会長が出ろというなら、出ます」というスタンスで、そこが逆にSB勢の魅力ではありますけど。

橋本　SBは投げがある分、競技として少し違う部分はあるからね。自分の団体を盛り上げようっていう意識が強いし。だけど、旬の度合いからしたら、一番入れたい選手だね。それに今は、MAXに出れば有名にしてもらえるみたいな選手が結構多い気がするんで、そういう意味で、K-1に対抗意識のあるSBから、一番光ってる宍戸が出てくるのは面白いと思う。

——そんな中、SBは日本人同士の闘いを3月6日にやるわけですね。宍戸選手の対戦相手である菊地選手は、実績っていう意味で言えばここであげた選手には劣りますけど、いま連勝中なんですよね。

橋本　サウスポーから繰り出す左ストレートとローキックが、非常に強い選手でね。去年『R・I・S・E』っていう、まぁ、ヤングライオン杯みたいなトーナメントで優勝して。

——そのトーナメントで準優勝になったのが裕樹選手ですね。私は、裕樹選手を去年の「期待してますで賞」っていうのにあげたんですけど、イナカモンで若くて根性があって顔も可愛らしくて、毒舌でバカという、非常にいい選手ですね。

橋本　バカなの？

——コメントとか読む限り、ちょっとそんな気がします（笑）。3月12日の「IKUSA」で裕樹選手が勝てば、次に戦王の新田明臣へ挑戦できるチャンスがあるらしいんですよ。そこで勝つようなことがあれば、


2月6日全日本キック後楽園大会で激突した佐藤嘉洋と山本優弥。K-1参戦が噂される中、ヒジとヒザで圧倒的な強さを見せた佐藤、いくら倒れても立ち上がった山本。ガムシャラに出した山本のパンチも幾度か佐藤にヒット。会場は最高潮の盛り上がりを見せた

これは十分実力的にも出る資格があると思います。

橋本　業界的に言えば、IKUSAはK-1MAX参戦を積極的にサポートしてるんで、可能性は高いぞと。あと正道会館の軽量級の代表選手、大渡博之ね。背が高くて蹴りが抜群にうまい。グローブの練習してるし、早大卒で大手広告代理店勤務ってエリートキャラもTBSは好きそう（笑）。それから全日本キックの宝樹まもるには出てほしいなぁ。

——あぁ、宝樹は出て欲しいですね！

橋本　これは谷川さんも好きなファイターだと思うなぁ（笑）。勝った試合も、全部KOだからね。4勝3KOってなってるけど、この残り1勝は不戦勝だから（笑）。こじんまりとまとまった選手を出すんだったら、宝樹のほうが絶対面白いよ。

——ダークホースとして。

橋本　今『武士道』で五味隆典がブレイクしてるけど、あれを見てたら、大舞台に出たら誰がどんな化け方してもおかしくないんだなって思ったね。去年優勝したブアカーオ（ポー・ブラムック）だって、小林聡とやったムエマラソンの時はパンチを殺して組んでヒザ、っていうのだけやってた選手で、こんなのK-1に出てもどうしようもねぇぞって思ってたんだけど、きっちり対策を練ってあれだけブレイクしたからね。

——実力がある選手だったら、どんな化け方するか分からないぞ、と。宝樹が大スターになるかもしれないし。

橋本　それは分からないけど（笑）。あとは総合でもたくさんいるし。

——個人的には田中塾の田中健一さんに出て欲しいですけどね。

橋本　田中塾の誰かじゃなくて、本人？（笑）

——MAXは大っ嫌いらしいんで、それなら壊しに出てきてくれないかなと（笑）。なんか、北海道に行って熊打ちになるって言い出したらしいんで、その前にMAXに出てきて欲しいなぁって。

橋本　リアル熊殺し志願（笑）。

——ロシアで田村（彰敏）くんも勝ったみたいですし、まだまだ格闘技を続けてほしいんで。他にもたくさん出て欲しい選手はいっぱいいますけど、橋本さんは、この中で誰かひとりあえて上げるとしたら、宝樹まもるですか？

橋本　あえて宝樹まもるだよ（笑）。

——なら、私は田中先生にしておきます（笑）。MAXから立ち技に入った人間のひとりとして、今年、初参戦の選手がいないからって、日本の立ち技系にはもうスターがいないなんて思われるのは止めてほしいですね。

橋本　そりゃもちろん。谷川さん、今年のテーマは『再会』らしいですけど、まだまだ新しい出会いもありますよと（笑）。

【2月18日・ダブルクロスにて収録】

3·6 SHOOTBOXING

3月6日（日）18:00開始予定
東京・後楽園ホール

9.緒形健一 vs ルーク“HULK”カウディーロ
8.【シュートボクシング日本ウェルター級王座決定戦】
宍戸大樹 vs 菊地浩一
7.歌川暁文 vs 菊田光正
6.石川剛司 vs 森本達也
5.関本宏 vs NIIZUMAX!
4.薮英平 vs 金井健治
3.菱田慶文 vs 関戸一智
2.五味慎一朗 vs デビル荒川
1.大薮大志 vs 池田拓磨

問：シュートボクシング協会
03-3843-1212

3·12 IKUSA YGZ04

3月12日（土）17:30開始予定
東京・お台場スタジオドリームメーカー

7.【IKUSA-U70戦王JUDGEMENT GAME】
「博多の悪魔」裕樹 vs 「第三の銀狼」拳士
6.TURBO vs 中西一覚
5.前沢カピラ義徳 vs 駿太
【IKUSA SPECIAL GAME】
HAYATO vs 加藤督朗
4.BULL vs 杉内勇
3.森田晃允 vs タイガー石井
2.TOMONORI vs 今井教行
1.城戸康裕 vs 剣

問：IKUSA事務局
http://www.ikusa.net
（PC＆携帯から閲覧可）

3·18 ALL JAPAN KICKBOXING

3月18日（金）18:30本戦開始
東京・後楽園ホール

【決定対戦カード】
・山本元気 vs ジョナサン・ムヤ
・サトルヴァシコバ vs 藤牧孝仁
・山本真弘 vs チンチャイ・マイムアンコーン
・吉本光志 vs キム・パンスー
・石川直生 vs リアム・ラケッツ
・魂叶獅（たかし）vs チェ・ジンスン
・千葉友浩 vs 金統光
林亜欧引退セレモニーの他、数試合を予定。

問：全日本キック
03-3365-1171

裕樹（ゆうき）



170cm、福岡県出身。82年11月6日生まれの23歳、A型。22戦18勝（17KO）3敗1分。REAL DEAL所属。昨年1月に宍戸大樹と対戦し大善戦。倒せなかった宍戸に「だらしない」と非難の声が飛んだが、実は裕樹が強かったと昨年後半に判明。日付を間違えてIKUSA会見に欠席、対戦相手へ「僕のローが効いて歩けないと思うので、車椅子に乗って帰ってね。僕は東京ガールとお台場の観覧車に乗る予定です」とメッセージ。山口元気が「イナカモンだ…」と苦笑していた。



宝樹まもる（たからぎ・まもる）

171cm、東京都出身。67年2月28日生まれ、この号の発売日に38歳。8戦4勝（3KO）4敗。勇心館所属。文中でも語られているが、勝つときもKO（もしくは不戦敗）、負けるときもKOという、一瞬たりとも目の離せないファイター。元自衛隊員で本業はボディーガードという点も見逃せない。

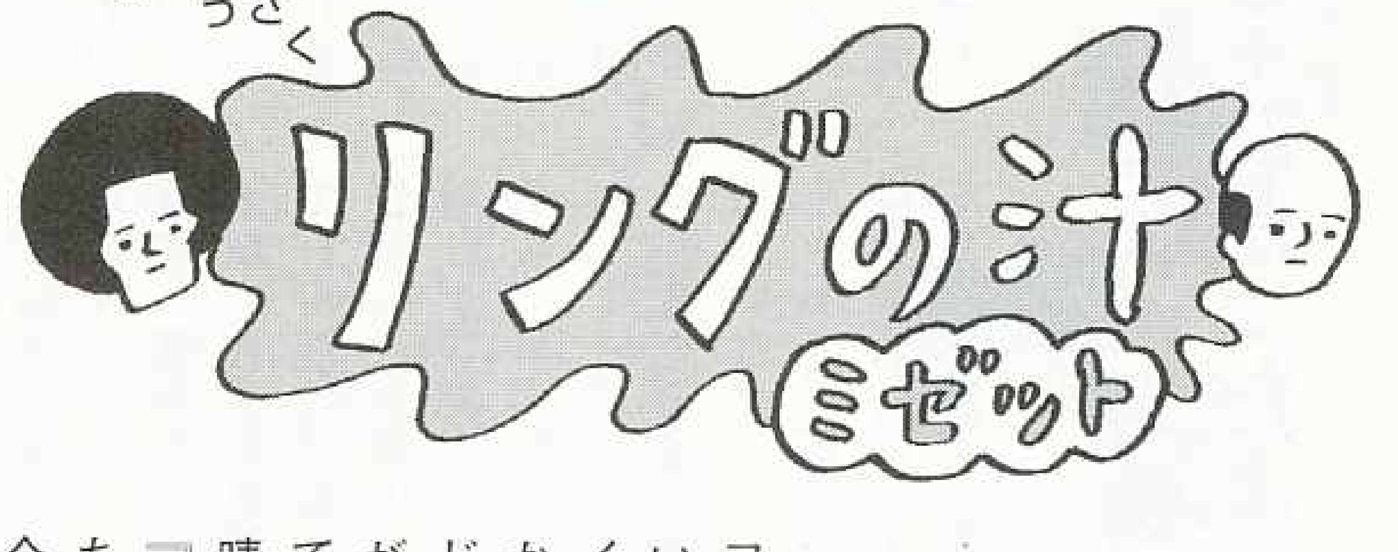
大渡博之（おおわたり・ひろゆき）

180cm、東京都出身。76年12月21日生まれの28歳。正道会館の軽量級で3回優勝を果たし、極真世界大会の代表にも選ばれている。「本人には勘弁してくださいって言われるかもしれないけど、オレはすごく出て欲しい選手です（橋本）」。

桃次郎フィギュアや
一番星ラジコン発売中だってよ！

花くまゆうさく

リングの汁





ウワサでは、こんどのアブダビコンバット一回戦で、私の2大グラップリング・アイドルのジアン・マチャドとマルセーロ・ガルシアが激突するようですね。もうビックリのヨダレダラダラ超ビッグカード。王子、ありがとう！ やっぱりアンタは最高の王子だ。もうこの一試合だけで今大会はお腹いっぱいですが、欲を言えば、今年こそゼヒ足関十段を予選関係なしに本選へ出場させてほしいですね。過去の日本代表には「なんでこのヒトが予選なしで本選出場なの？」って選手が何人もいたんだから、お願いします！

その十段が、2月12日DEEP後楽園ホール大会で、いよいよ前田吉朗と対戦ってことで、PPVでじっくり見ようと思ってたら、今回のDEEPはPPVなしってことに気付いて、慌てて後楽園へ当日券を求め行ってきました。注目の対決は、身を乗り出して見てしまうほどのコーフンです。結果は引き分けでしたが、オレ的ジャッジでは十段の勝ち。その後のTAISHO vs三島☆ド根性之助は、やはり三島の圧力にTAISHOが完敗したけど、階級上でバカ強の三島相手に、真っ向勝負してあそこまでやれて凄いなあ。

そんで問題のメインは長南亮vsホアン・ジュカォン・カルネイロ。2ラウンドまで圧倒され、このまま長南の判定負けだなぁの空気が漂う3ラウンド、急にレフェリーがある意思を感じるようなレフェリングをしだした。異常に早いブレイクや、組まれて長南がテイクダウンされそうなときに、すかさずブレイク。こうしてスタンドで闘えるチャンスが増えた長南がKO勝ち。チャンスに見事応えてKOしてしまう長南の強さは素晴らしいが、なんか後味悪い。『PRIDE男祭り』で長南の勝ちに感じた、あの素晴らしさとは全然違う。ハイアンがあんなレフェリングされたらどうなっちゃうのかなぁとか思いつつトボトボ家に帰る。このモヤモヤをフッ飛ばすのは「ハリvsチェ」の異次元カードしかないと、『PRIDE・29』を待ちわびる2月16日の作文でした。

Hanakuma Yusaku
『パッチギ』よかったねえ。泣いちゃった。

仮顔マンガ



中川画伯の絵日記
犬とTVの日々

http://chu-kichi.jp/

第6回



風邪が治らなくてシンドいです。
みんながね、半ページしかないのに
「絵をたくさん載せろ！」って言うんよ。
コレが限界です。ごーめんね。

1月30日 パフォーマンスユニット『雅』のCDデビュー記念イベントに行ってきたよ。『雅』はやっぱりステキー「前髪れんれん」は歌詞が切なくてキュンとしちゃう。寒いのに薄着で踊ってらして可哀想だったよ。

1月30日 デストロイヤーのサイン会に行ったよ！ 大きいねぇ。優しいねぇ。姿勢が良かったよ。夢心地。調子に乗ってマスクかぶったりしてたら『サムライTV』に写っちゃったらしいよ…もっぱらの噂。

1月30日 GAORAで『みちのくプロレス』見たよ。遮那王にメロメロ。



2月2日 Jスポーツで『シュートボクシング福岡大会』を見たよ。SBのエースは宍戸大樹だぜ！ 強い＆格好良いわ。

2月3日 節分だね。豆まいたよ、一応ね。



2月3日 GAORAの『全日本キック』で「小林聡×大月晴明」観戦。素晴らしかったわ。両選手の殺気にワクワクしたわ。

2月4日 『RAW』観戦。何か物足りなかったわ。



2月10日 ミスター・パーフェクト三回忌。あっ！ちゅう間の二年間。自分の心にはポッカリ、穴が空いたまま…。



2月10日 『ゆり好乃』のライブを観たよ。『ゆり好乃』ちゅうのはね、黒田百合&森谷好乃ちゅう格好良い人達のユニットなんよ。素敵な音楽を真近で聴いてドキドキワクワク。翌日、風邪が治ったよ。

2月13日 フジテレビで『大相撲トーナメント』見たよ。白鵬優勝おめでとう。ゲスト、みのもんた憎たらしかったわ。知ったかぶりするな！



2月13日 フジテレビ『EZ！TV』ケンゾー夫妻の特集。ケンゾーは質感悪かったわ。ヒロコ夫人は「太陽の塔」に似てるわ。



何を書いて良いのか解らず暴走気味。ブレーキの壊れた自転車です。御指導御鞭撻願います。紙のプロレス「中川画伯絵日記係」まで。抽選で1名様にイラスト・プレゼント。

マニアックな視点で女子格闘技を考察する！

チョロの女子バーネット

今回の女子バーネットは反響少なめにつき、いつもより1P少なめでお届けします！（涙）。しかしながら、前号で予告し『紙プロHand』でスタートさせた、しなし（&佐伯代表）コラムは、おかげさまで大好評。中にはペンネーム・わかめさんの様に「しなし性格悪すぎですね。想像以上」といった辛口の意見もありましたが面白ければノー問題。「アイム・しなし！」というわけで、しなしの新ニックネームは'金髪鬼'吉田豪の提案により'ちびくろサンボ姫'に決定しました！ どーですか、お客さん!?

第5回

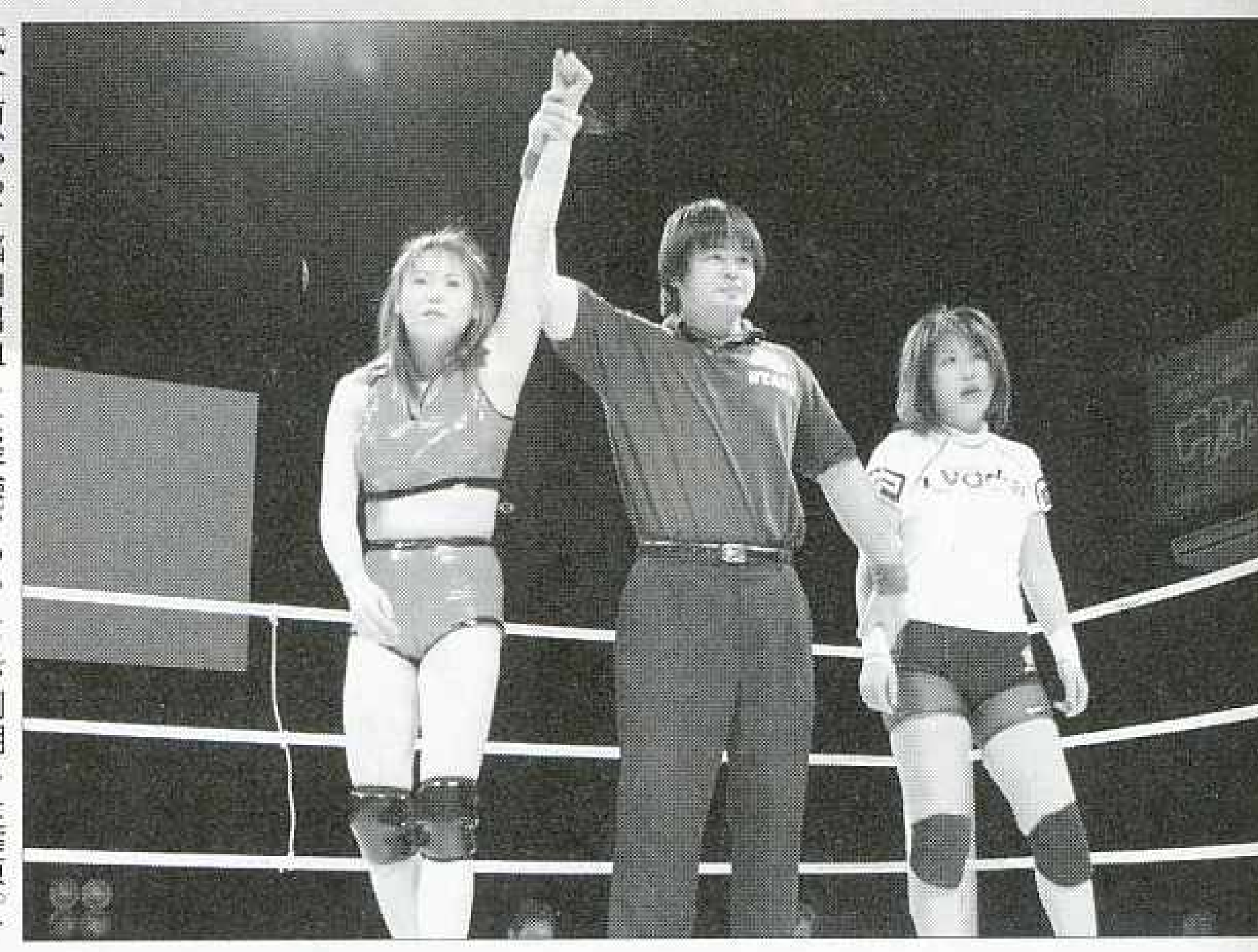
AV嬢vsキャバ嬢が実現 勝者は〝DV〟篠原!?

え～、今回は女子格闘家の職業について考えてみようと思う。

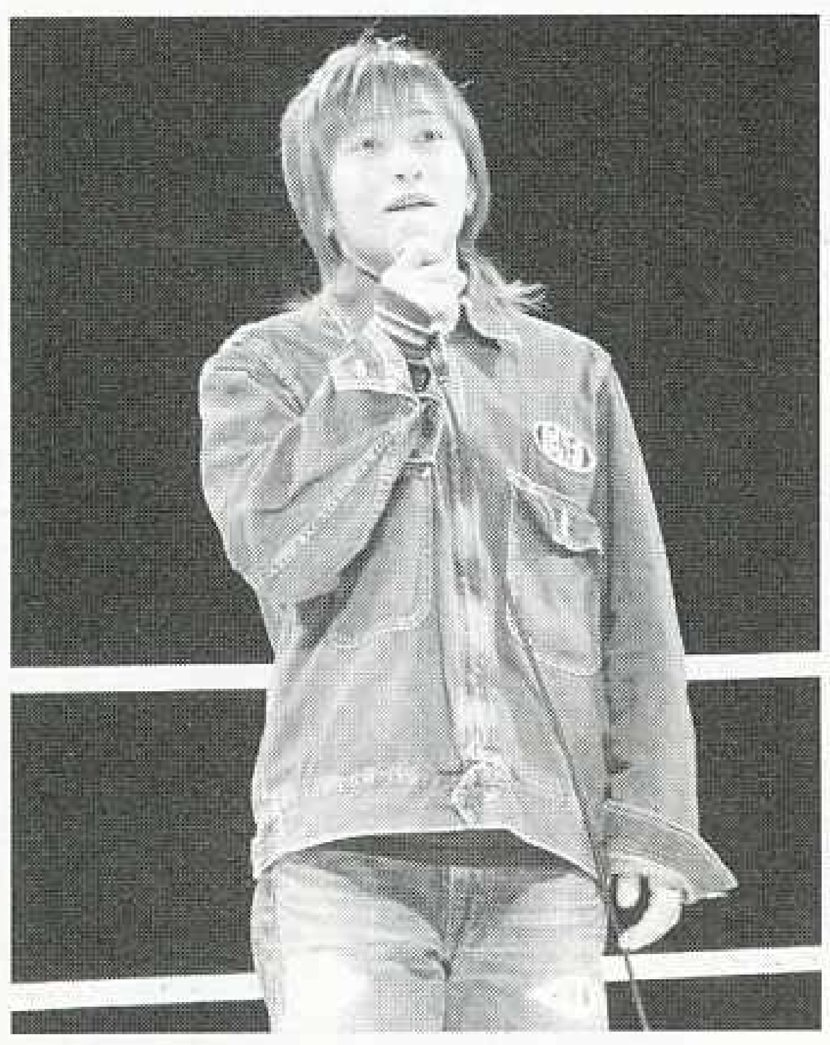
なぜ、唐突にそんなことを思いついたかというと、2月11日、G・SHOOTO plusのアマチュアマッチで組まれた篠原光vs黒田エミ戦が元キャバクラ嬢vs元AV嬢対決として一部で注目を集めたから。まあ、一部といっても、それは『東スポ』で、紙面には「敗者ヌードマッチ」と大きな見出しが付けられていた。ご存知の人も多いと思うが篠原のキャッチフレーズといえば〝力道山を刺した男の娘〟というのが一番有名だろう。

その他にも篠原は様々なキャッチフレーズを持っている。女子格初参戦当初には〝喧嘩女王〟といったキャッチフレーズが付けられていた。実際、話を聞いてみると、血筋なのか、とても誌面には載せられないような武勇伝をいくつも持っている本物の喧嘩女王なのだ。あとは知る人ぞ知る〝太陽●●の女〟というのもある。一応、伏せ字にしてみたが、現役のプロレスラーだ（not太陽の天才児）。現在はもう別れているとのことだが、彼との夜の武勇伝（？）も抜群なのだ（スマン。これも書けないや）。というわけで前置きが長くなってしまったが、今回クローズアップされたキャッチフレーズは〝キャバクラ嬢〟。そのダイナマイトボディで夜の六本木ではリング上以上に活躍していた篠原。そして、その対戦相手は〝元AV嬢〟黒田エミ。女子格が本格始動し5年足らず。様々な経歴、職歴を持つ選手がリングへ登場してきたが、表だってAV経験をカミングアウトしたのは黒田がはじめて（内緒で出演は何人かいるが）。もっとも黒田はチョコボール向井と一緒にハプニングバーでの逮捕騒動の当事者でもあり、再出発の舞台として女子格闘技を選び、マジメに練習をしアマチュア修斗へも出場している頑張り屋さん。

で、実際の試合は、もちろん修斗系の大会だけに、試合前に「敗者ヌードマッチ」などとコールされるわけもなく、〝元キャバ嬢〟が判定で〝元AV嬢〟から勝利を奪った。もともと、この企画は篠原が話題作りのためにブチ上げたもので、黒田は寝耳に水だったという。修斗系の大会だからか、そのことに関するブーイングは起こらなかったが、『東スポ』を見て、ちょっぴり期待していた人も中にはいたはず。実は僕もその一人だったのだが、そこは篠原、さすが元キャバ嬢！ メイン終了後の全選手記念撮影時に超ミニスカ姿で現れた篠原は勝ったにもかかわらず、ロープをまたぐ際にステイシーばりのパンチラを披露。そのサービス精神と、期待をもたせるチラリズムは、やはり元キャバ嬢ならでは。そんな篠原が実は〝DV（ドメスティック・ヴァイオレンス）女〟だったという衝撃事実を入手!? しかも、その相手が、あの折原昌夫だって!? 詳細は次号で！



試合前、かつて脳内出血した経験があることが判明した篠原。そのため急遽グラップリングマッチに変更となった篠原vs黒田戦。試合は判定で篠原が勝利をものにしたものの、今後、篠原は総合ルールでの試合はG-SHOOTO以外のリングでも、ほぼ不可能に



2・11G-SHOOTO plus新木場大会の休憩明けに登場したフジメグこと藤井恵。総合デビュー以来3連勝中のフジメグは3・12G-SHOOTO JAPAN Zepp大会で、辻ちゃんから一本勝ちを収めているブラジルの強豪アンナ・ミッシェル・ダンテスと激突！

SMACK GIRL情報3連発！

【スマックガール2005年度上半期興行スケジュール】

4月29日　スマックガールF北沢大会

■大会名称：SMACKGIRL-F 2005
～今年もやるぞ！　スマックF祭り～
■開催日時：2005年4月29日（金/祝）
第1部　開場⇒13:30　開始⇒14:00（予定）
第2部　開場⇒17:30　開始⇒18:00（予定）
■開催場所：北沢タウンホール（東京都世田谷区）
■大会概要：
■第1部：GRAPPLER'S holiday 2005
□SGG1Dayトーナメント2005　-48kg級&-58kg級　他
■第2部：The Next Cinderella Tournament 2005
□The Next Cinderella Tournament 2005
-48kg級&-59kg級1回戦

4月30日　スマックガール沼津大会

■大会名称：SMACKGIRL2005　近藤有希引退興行（仮）
■開催日時：2005年4月30日（土）開始時間未定
■開催場所：キラメッセ沼津（静岡県沼津市）
■大会概要：
□近藤有希引退試合　近藤有希（PUREBRED京都）vsX
□スマックガール初代ミドル級王座決定トーナメント
1回戦　Aブロック2試合　他

6月28日　スマックガール後楽園大会

■大会名称：SMACKGIRL2005　後楽園ホール大会（仮）
■開催日時：2005年6月28日（火）開始時間未定
■開催場所：後楽園ホール（東京都文京区）
■大会概要：
□スマックガール初代ミドル級王座決定トーナメント
1回戦　Bブロック2試合　他

7月10日　スマックガールF大森大会

■大会名称：SMACKGIRL-F　2005
The Next Cinderella Tournament 2005 2nd stage（仮）
■開催日時：2005年7月10日（日）開始時間未定
■開催場所：ゴールドジムサウス東京ANNEX
■大会概要：
□The Next Cinderella Tournament 2005
-48kg級&-59kg級　準決勝他

8月中旬　スマックガール　都内会場を予定

■大会概要：
□スマックガール初代ミドル&ライト級王座タイトルマッチ
□The Next Cinderella Tournament 2005
-48kg級&-59kg級　決勝戦

【The Next Cinderella Tournament 2005　開催概要】

□スマックガール／SGS公式ルール3勝以下の選手による新人王座トーナメント。
□本年度は、-48kg　-59kgの2階級にて実施。
□両階級とも8名参加を予定。
■開催スケジュール
開幕戦⇒2005年4月29日　北沢タウンホール
準決勝⇒2005年7月10日　大森・ゴールドジムサウス東京ANNEX
決勝戦⇒2005年8月中旬　都内会場を予定
■参加予定選手
-48kg級⇒永易加代（パレストラ東京）金子和美（フリー）関友紀子（SOD女子格闘技道場）渡邉浩財子（SOD女子格闘技道場）他、調整中
-59kg級⇒赤野仁美（ガールファイトAACC）森藤美樹（TEAM TOPS）せり（SOD女子格闘技道場）バッカス羽鳥（BBdoll）他、調整中

【スマックガール実行委員会主催アマチュア大会開催】

■大会名称：SG−F12
■開催日時：2005年3月21日（月／祝）11:00／計量12:00／試合開始予定
■開催場所：SOD女子格闘技道場
住所：東京都豊島区要町1−1−11　要町KTビル5F
交通：地下鉄有楽町線要町A4出口から徒歩0分
■試合形式：
□SGS−Fルール・ワンマッチ（防具着用。スタンドの打撃有。顔面へのパンチは無し）
□SGG−Fルール・ワンマッチ（グラップリングルール）
■募集階級：
−47kg級・−52kg級・−60kg級・−70kg級・無差別級
■出場資格：16歳以上の感染症の無い健康な女性。※プロ・アマ問わず
■参加費：2000円 ※要スポーツ保険
※同一または複数のルールでの、2試合・3試合の出場も歓迎。
■応募方法：
スマックガールHP（http://www.smackgirl.com/）より要項・申込用紙をDLしていただくか、担当：勝井までTEL・メール等にてお問合せの上、書類をご請求下さい。
■応募締切：2005年3月10日（木）必着
■主催：スマックガール実行委員会　SG−F運営部
■協力：JTC実行委員会・SOD女子格闘技道場
■お問合せ：スマックガール実行委員会・担当・勝井
TEL：090-1773-5647　FAX：03-5378-1860
Mail：smackgirl2002@hotmail.com

G-SHOOTO JAPAN 02

3月12日（土）Zepp TOKYO
pm5:00開場 pm6:00開始

【決定カード（試合順未定）】

★クラスB　フライ級　5分2R
藤井 恵（AACC）vsアンナ・ミッシェル・ダンテス（ブラジル）
★クラスC＋　フライ級　5分2R
ジェット・イズミ（パレストラ吉祥寺）vsMIKU（クラブ・バーバリアン）
★クラスC＋　バンタム級　5分2R
永易加代（パレストラ東京）vs関 友紀子（SOD女子格闘技道場）
★クラスC＋　フライ級　5分2R　高橋ちひろ（パレストラ東京）vs渡邉浩財子（SOD女子格闘技道場）

【参戦決定選手】

薮下めぐみ（SOD女子格闘技道場）、テビ・サイ（HAVTETENSION）、木村由佳（PUREBRED大宮）
※全7試合予定

【チケット情報】

SRS席（最前列）￥10000、RS席（アリーナ）￥5000、S席（2F）￥4000、A席（1F）￥3500、B席（1F）￥2000
※当日券/各￥500アップ
チケットぴあ、ローソンチケット、イープラスにて絶賛発売中！

【お問い合わせ】 G-SHOOTO事務局
TEL.03-3422-7379　http://www.g-shooto.com/

【G-SHOOTO JAPAN 開催予定】

5月中旬　G-SHOOTO スペシャル近日大発表!!
7月12日（日）G-SHOOTO Plas 02　東京・北沢タウンホール
8月13日（土）Zepp　Nagoya
愛知万博ささしまサテライト会場　他　後日発表

ザ・検証 REBORN

せき詩郎が帰ってきたぜぇぇ～！ ボクがみのるヘアになった後から、連絡が取れなくなっていた、せき詩郎さんが何ヶ月か振りに帰ってきました。その間、全国を彷徨い歩き、超パワーUPした、せき詩郎さんが今年のマット界を大予想！ （担当・チョロ）

【今月の検証 せき詩郎】2005年マット界大予想50

①鈴木みのるの髪型を見た子供が……!?
②鈴木みのるの髪型を見た途端、老人が……!?
③黒く塗りつぶしすぎた蝶野が……!?
④黒く塗らなくて良い所まで塗ってしまった蝶野が……!?
⑤蝶野が連れてきた新メンバーは予想を裏切ることなく……!?
⑥ノートンが力を入れすぎたばかりに……!?
⑦そんなつもりなどなかったノートンだが、如何せん力の加減をわかっていなくて……!?
⑧長州がまさかの革命を……!?
⑨引いて開けるドアを、天龍が力任せに押して……!?
⑩「すいません～！」と呼んでいるが店員に気づいてもらえない西村が……!?
⑪永田があの日あの時あの場所で敬礼してしまったばかりに……!?
⑫真壁が良かれと思ってやったことだったが……!?
⑬北斗の手だと思って握った健介だったが……!?
⑭「雨だったら中止」という連絡が一人だけ来なかった田上が、雨の中ずっと……!?
⑮ドラゴンが満足そうな顔で……!?
⑯ドラゴンが断念を……!?
⑰船木プロデュースというところまでは決まっていたのだが……!?
⑱戦闘竜がかっこいいデザインの帽子を買ったは良いが……!?
⑲戦闘竜が少し大きめの服を敢えて……!?
⑳目撃者の証言を総合すると、どう考えても長井満也で……!?
㉑結果的に恋のキューピットになったランペイジ・ジャクソンが……!?
㉒「いたって普通の生徒だった」と同級生に証言されたダン・ヘンダーソンだったが……!?
㉓まだ問題の途中だというのにミルコが……!?
㉔「ヨーイ、ドン！ と言ったらスタート」という意地悪に引っ掛ったノゲイラは、もうすでに全力疾走で……!?
㉕ヒョードル弟がカレーを食べてる時、パーカーの袖に!?
㉖物凄い怪談話をひっさげてミスター高橋が……!?
㉗好戦的な原住民だったが、鈴木みのるの髪型を見た途端に……!?
㉘アタック25のルールを把握したかに見えたヒョードルだったが……!?
㉙結果的に山手線の乗客全員を助けることになったランペイジ・ジャクソンが……!?
㉚デスノートを拾ったのがよりによって安田で……!?
㉛「ゴメン、ずっと圏外だった」とシウバは言うが……!?
㉜ちょっぴりエッチな怪談話をひっさげてミスター高橋が……!?
㉝長州の革命が意外にも女子中高生の間で……!?
㉞「これじゃあ、文字通り『門番』だな」とグッドリッジが笑顔で……!?
㉟ロシアンジョークを披露したボブチャンチンだったが……!?
㊱「それは恋も同じことさ」とステファン・レコがまたキザに……!?
㊲仮装大賞に興味を示し始めたロシアントップチームが……!?
㊳「騙されたと思って使ってみろって」とニヤニヤしながらマーク・ハントが……!?
㊴「携帯を家に忘れてきてさ」とシウバは言うが……!?
㊵昇りのエスカレーターなのに天龍が無理矢理……!?
㊶ジャイアント・シルバの温情で、受験生は無事遅刻することなく……!?
㊷福男争奪レースに興味を示し始めたロシアントップチームが……!?
㊸「そのこころは……愛、だけにね」とステファン・レコがまたキザに……!?
㊹「海水浴は登山に変更」という連絡が一人だけ来なかった田上が、浮き輪を持って海パン姿で……!?
㊺ケビン・ランデルマンの打球がドーム天井のスピーカーを直撃して……!?
㊻ヒップホップ風なファッションでまとめてきたつもりの戦闘竜だったが……!?
㊼銀の時計を売って櫛を買った健介と、髪を売って時計の鎖を買った北斗が……!?
㊽健介と北斗がベッドの中から反戦メッセージを……!?
㊾低反撥枕の柔らかさ加減に驚いたハリトーノフが……!?
㊿「確かに薦めたのは俺だけど、実際に使ったのはお前だからな」とニヤニヤしながらマーク・ハントが……!?

2005年マット界を揺るがす合体技大予想

俺ごと貼れ
橋本の「俺ごと貼れ！」の掛け声と共に、いいとも青年隊が橋本ごとポスターを貼る技。

俺ごとハーレー
橋本の「俺ごとハーレー！」の掛け声と共に、小川がハーレーで突っ込む危険な技。

俺より軽部
橋本の「俺より軽部！」の掛け声と共に、小川が軽部アナを優先して助ける技。

俺から刈れ
橋本の「俺から刈れ！」の掛け声と共に、その意志を尊重し橋本をまず最初に刈る技。

俺はカレー
橋本の「俺はカレー！」の掛け声と共に、小川が「じゃあ、俺も同じで」と注文する技。

俺ごとお疲れ
橋本の「俺ごとお疲れ！」の掛け声と共に、小川が撤収を始める技。

俺、後藤、カレー
橋本の「俺、後藤、カレー！」のヒントから、連想する言葉を小川が答える技。

俺、後藤。彼は？
後藤が自己紹介した後、初対面の人を紹介してもらう技。

俺、後藤。これ
後藤が自己紹介した後、何かを手渡す技。

俺と後藤と大吾郎
清酒『大五郎』のCMより。

俺と後藤とビデオテープ
スティーブン・ソダーバーグ初監督作品。

俺が後藤で、後藤が俺で!?
大林宣彦監督が故郷・尾道でオールロケを敢行して完成させた作品。

俺が刈られるから、その間にお前は逃げて！
橋本の「俺が刈られるから、その間にお前は逃げて！」の掛け声と共に、小川が逃げる技。

オーレーオレオレ、あんた誰、俺
堺すすむがなんでかフラメンコをやる前のギャグ

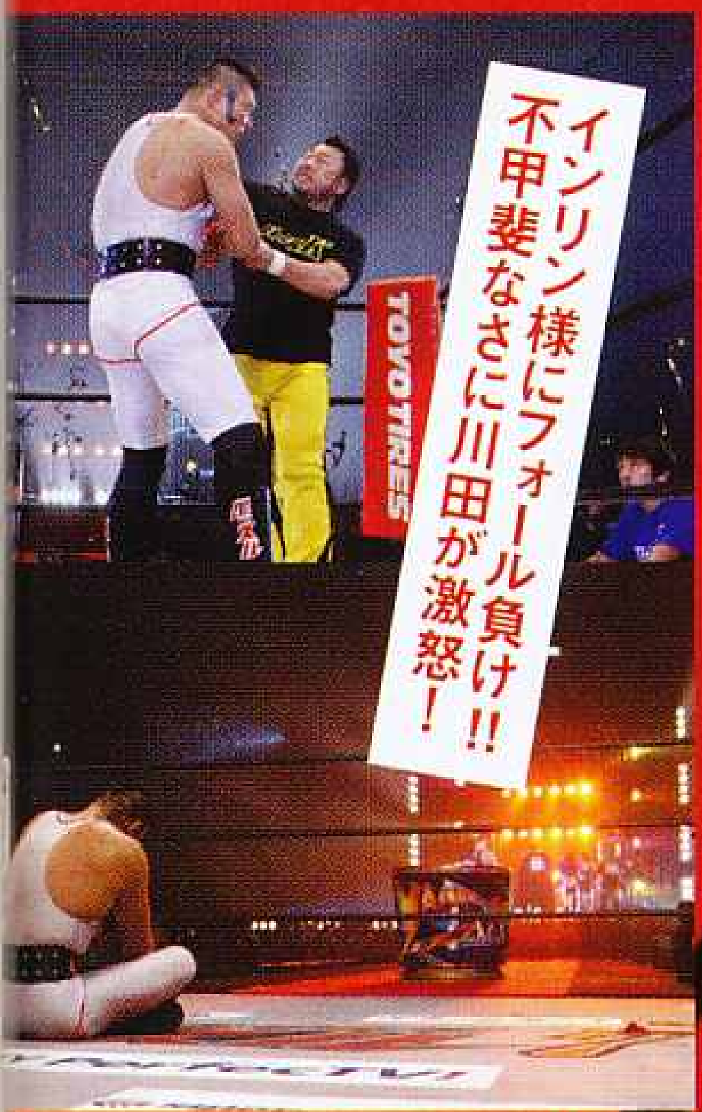


超革命企画！『観客ジャッジシステム』とは何か？



3・18『ハッスル8』
髙田総統全面プロデュース
“モンスター国技館”

どん底まで落ちた小川直也——!!



インリン様にフォール負け!!
不甲斐なさに川田が激怒！

聞き手／堀江ガンツ
構成／ジャン斉藤
撮影／平工幸雄
designed by matsu (TwoThree)



起死回生の"暴走王スタイル"で見参？

「革命的にしょっぱいチキン」(by髙田総統) の返上なるか!?

3・18『ハッスル8』川田利明戦で

復活!?





「『ハッスル』のコンセプトがわかってない川田は力づくでわからせてやる!」

―キャプテン!! 2・11『ハッスル7』名古屋大会のインリン様との絡みは、ホントに……羨ましい限りの試合でしたねぇ。

小川 な、なんだよ、いきなり! 羨ましいって言うけどさ……俺、負けたんだよ……。

―いやいや、インリン様のM字固めを喰らった小川さんは、恍惚の表情だったというじゃないですか(笑)。

小川 ん、んなことねーよ!! M字固めとやらでフォールされてるときなんて、卑怯にも試合に乱入してきたモンスター軍の連中にやられて、意識がボーッとしてたからな～んも覚えてない。

―それは実に残念ですねぇ。

小川 インリンのあのコスチュームは鮮明に覚えてるけどさ。うんうん(しみじみと)。

―ガハハハ! インリン様はホントにプロ意識溢れる凄いコスチュームでした。そのうえあんなにカカトの高いハイヒールを履いて、縦横無尽にリング上を動き回って色香を撒き散らしたわけですから、ホント、まさに悩殺モンスターですよ。

小川 まぁ、女にフォールされるなんて情けない話ですよ、まったく。『ハッスル7』の総括としては、キャプテンの俺がインリンに負けたことは大、大、大問題!!

―反省、大と。

小川 だけど、『ファイティング・オペラ』という観点から言えば、あの日は『ファイティング・オペラ』の世界観を受け入れてもらった手応えがあるから、まったく問題なし!

―ほう! 『ファイティング・オペラ』の理想にまた一歩近づきましたか。

小川 うん。だからって、「負けたことは問題なし!」というのは言い過ぎかもしれないけどな。

―インリン様はいくらモンスター軍のNo.2とはいえ女性ですし、今回がプロレスデビュー戦でしたからね。

小川 でもインリン・オブ・ジョイトイが高田のヤローに〝ビターン〟されてインリン様とやらになってるんだろ? 世界中の地下プロレスみたいなところで実戦特訓もやってるかもしれないし、侮れねーよ……って、俺、侮るもなにも……実際に負けたんだよなぁ。

―反省、さらに大と。

小川 でもさ、従来のプロレス観からすると、インリンが俺をフォールした時点で……いや、インリンがリングに上がった時点で大ブーイングが起こってるはずだろ?

―プロレスマスコミや保守的なファンからは「プロレスを舐めるな!」ということでバッシングされてもおかしくない状況ではありましたね。

小川 それをあの日のファンは受け入れてくれたんだから、ある意味、大成功ですよ。ファンからすると、〝ホントにどうなるんだろう?〟っていう期待と不安が入り交じってたと思うよ。だってよくよく考えると、メインの試合は、こっち(ハッスル軍)にもデビュー戦がいたからね。

―中村カントクもついにデビューしちゃいましたね。そんな試合がメインイベントで、あの広い愛知県体育館がほぼ埋まっていたのは革命的であり、驚きです(笑)。

小川 でも正直にバラすとさ、前回より(観客数は)ほんの少し減ってるんだよな～。それでもお客さんの熱気は前回よりさらにパワーアップしてた! やっぱり名古屋は『ハッスル』のホームタウンだな。

―凄くノリがいいし、『ハッスル』の楽しみ方を知っている。「M字開脚」ボードや「C」「K」ボードを掲げてるファンがたくさんいましたね。

小川 後楽園ホールの観客とはちょっとノリが違うだろ? 後楽園ホールは〝プロレスの聖地〟というより〝ヤジりの聖地〟だから(笑)。名古屋は地上波で流してるから、ホントに能動的に楽しんでくれる空間になったという実感はあったね。

―ボクは『ハッスル7』を2階の記者席で観たんですけど、観客の反応がダイレクトに感じることができる場所だったんです。感想としては、ナンバーシリーズ史上、最高の雰囲気だったと思いますね。

小川 ファンの『ハッスル』に対する学習能力があったからこその成功だとも思うよ。細かい予備知識がなくても、見ていくうちに『ハッスル』はこういう世界なんだってわかってくれた人もいる。『ハッスル』の世界観を理解したうえで楽しもうとするファンが多かったんだと思うよ。ようやく7000人クラスの会場であの雰囲気を作れたんだから、次は1万人クラスの会場で『ハッスル』の世界観を共有するのが目標! だから3・18の『ハッスル8』両国大会は大勝負も大勝負だよ!!

―で、ハッスル音頭じゃないですけど、2月シリーズは両国に向けて〝追い風〟になった。でもキャプテン個人には〝逆風〟が吹いているとは感じないですか?

小川 そう? 吹いてたとしても〝逆風〟は気にならない! 慣れてるからさ(笑)。

―でもマジメな話、後楽園ホールで高田総統やインリン様に喋り負けてマニアからブーイングをもらったりもした。自分自身の求心力が弱まってるんじゃないかという危機感はありませんか?

小川 全然気にしてないね。求心力や人気なんて気にしていたら自分を見失うだけだよ。だって、清原は〝野球人・清原〟として、誰に文句を言われても「ワイはワ

イヤ！」という姿勢を崩さないところに人気を生む要因があるわけだろ。昔のプロレスラーたちにも、〝自分〟というものがあったと思うんだよ。前田日明、長州力、髙田延彦。みんな〝俺は俺だ！〟って気構えがあったと思う。そういう意味でいうと、いまはファンにコントロールされている選手がヨシとされていることには、俺からするとふざけんな！って感じだから。そこは俺も猪木イズムだからね、ある意味。

──髙田総統はキャプテンに対して「プロレスをおろそかにしている」とも言ってましたけど。

小川 俺は全然変わってないし、おそろかになんかしてないよ。まぁ、どう思われていようが、前向きな意味で「俺は俺だ！」っていう気持ちはあるからさ。周りの声に惑わされると、新しい発想や行動は生まれてこないしね。誰かがエンターテインメントとは「重いテーマを軽く見せるものだ」って言っていたけど、インリンにムチで叩かれて負けてブザマな格好をさらして、ようやく一般世間に届くんだよ。自分で言うのもなんだけどな。

──たしかに小川さんクラスの選手がインリン様にM字固めでフォールされたことは、革命だと思うんですよね。

小川 俺が旗を振らないで誰が振るんだって感じだから。俺がやったから許されたんだろうという部分もあるだろうし。

──まぁ、確かにあまたのレスラーがやったら、限りなくインディーチックなものになってましたよね。でも、よくよく振り返ってみると、キャプテンって『ハッスル』のリングではいつも散々な目に遭ってますよね。失礼な言い方ですけど、カッコいい場面がひとつもない！（笑）。

小川 ……ホントないね～。でも、俺が思うに、「ハッスル軍とは、『宇宙戦艦ヤマト』の如し」だから。

──は？『宇宙戦艦ヤマト』ですか？

小川 そう。『ハッスル』にはヤマトのエッセンスが詰まってるんだよ。総統のヤローの格好もヤマトの敵のデスラー総統に似てるだろ。ヤマトは敵に比べたら、カッコ悪い戦艦なんだよ。

──風格と味はありますけどね。

小川 片やデスラーの艦隊は最新技術を駆使してヤマトを攻撃してくるんだけど、こっちは波動砲一発のみ！　そこがハッスル軍の原点だから。

──ヤマトのようにカッコ悪くても、耐えて耐えて耐え抜いて、強烈な一発で仕留める！と。

小川 うん。これは負け惜しみなんかじゃないよ。ただ、従来のプロレスで重んじられてた旧態依然とした〝勝負論〟というものは、『ハッスル』が目指している世界にはそぐわないものだから。じゃあ、どういうやり方があるかといえば、その理想をひと言で現したのが『ファイティング・オペラ』。簡単に言ってしまえば、それぞれの個性を確立させて、それが絡み合ってロング・スタンスのストーリーをつくること。『ハッスル』はまだ始まって1年だけど、髙田のヤローはあそこまでキャラ立ちして、悔しいけど俺やハッスル軍はボロクソに言われてる。でも、それは耐えていくしかないし、例え試合に勝ったところで髙田のヤローに勝ったことにはならない。こっちも強烈な個性を打ち立てて、それで髙田のヤローを凌駕できてこそ、初めて勝ったことになるんだよ。

──「個性とは、生き方が背中に貼り付いたもの」「キャラクターとはつくられるだけではなく、じつは人格そのもの」と、うちのハッスル大統領（山口日昇・本誌鬼畜編集長）は昔から言ってますけど、それを含めての勝負になっていくわけですね。

小川 決して試合の勝ち負けだけじゃない。ほら、今度の『ハッスル8』では、〝観客ジャッジシステム〟が採用されるだろ。

──試合の勝敗のみではなく芸術度やハッスル度を観客がジャッジして、対抗戦の決着を付ける。これってじつは革命的な企画ですよね。

小川 どういうやり方になるかは知らないけど、試合の勝ち負けが最大の意味をなさないんだからね（笑）。こんな企画なんて、1年前のプロレス界なら受け入れてくれなかったと思うよ。いまは能動的に楽し



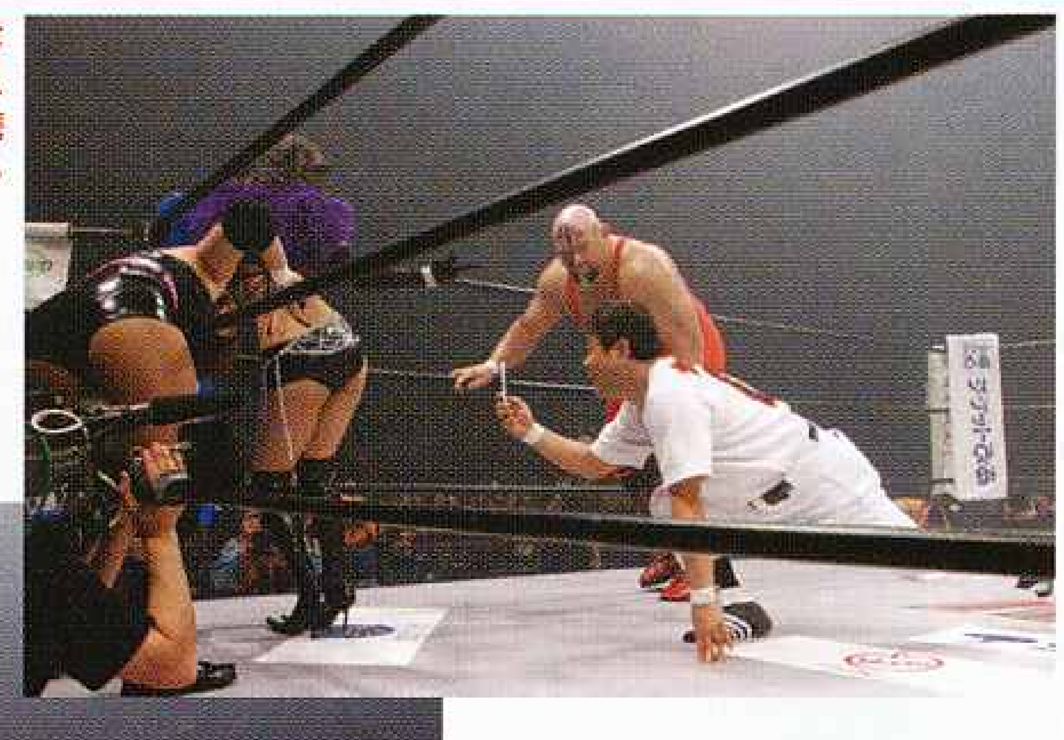
3・18『ハッスル8』に髙田総統を引っ張り出すべく、モンスター軍No.2インリン様退治に余裕しゃくしゃくで臨んだキャプテン。しかしまさかの敗北！　試合後、リング上でうなだれるキャプテン……両国国技館で復活はなるか？

2・11『ハッスル7』名古屋　“魔性のM”インリン様のチキン調教レビュー



インリン様を汚い手で抱え上げた小川は、お尻ペンペンしようとするが、そこはアリシンZがカット。このあとモンスター軍が雪崩れ込み、小川を痛めつけ魅惑のM字固めへ――!!

とてもプロレスデビュー戦とは思えない受け身を披露した中村カントクは、インリン様のムチに対抗すべく（?）携帯カメラでジワリと迫る。ズバリ言ってバカである。





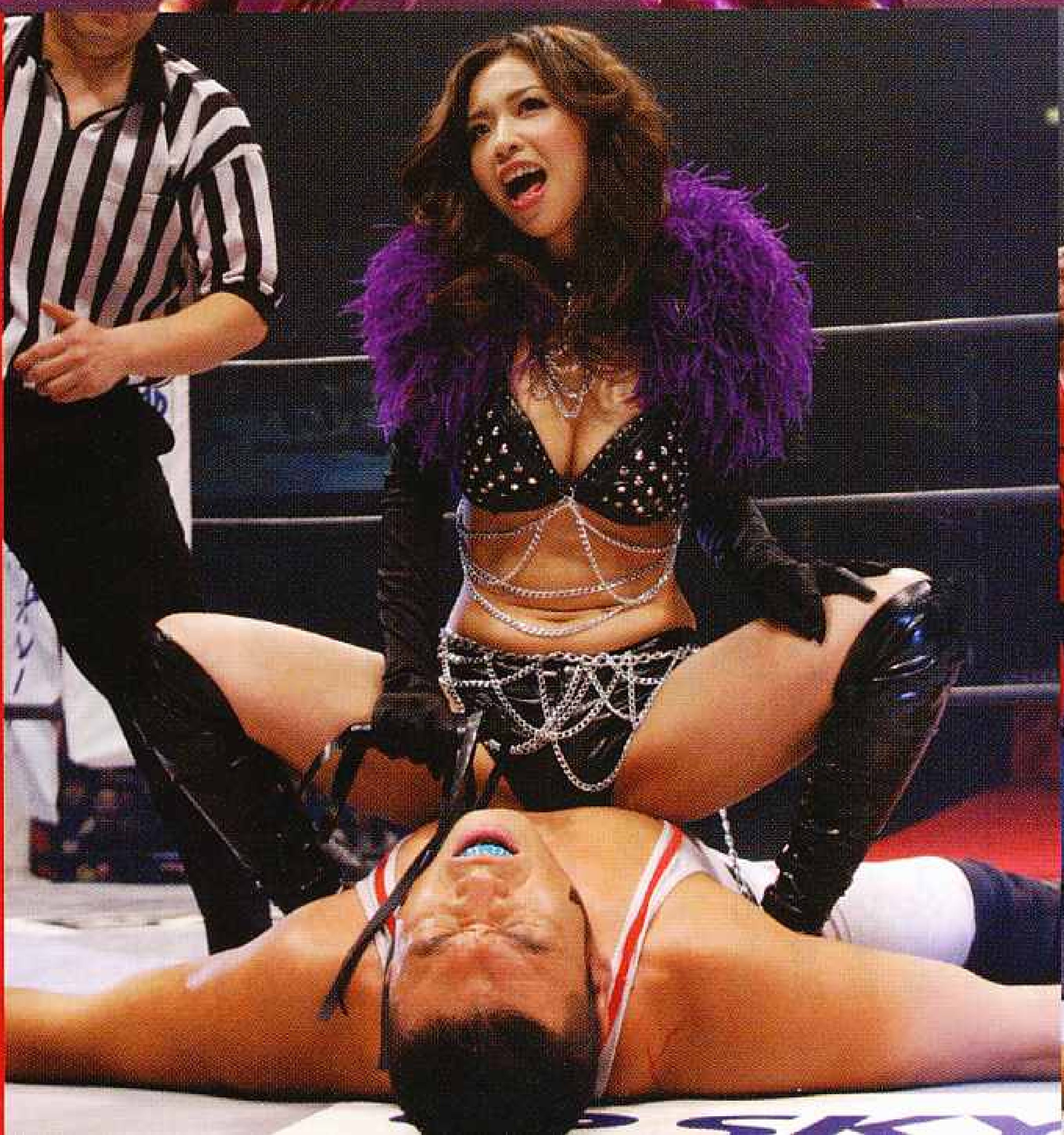
「ムチはインリン様の身体の一部という主張を笹原GMが……認めたため!!（『PRIDE』風）」インリン様はムチを振るって大暴れ！　しかもピンヒールを履いて！　カッチョイイ！

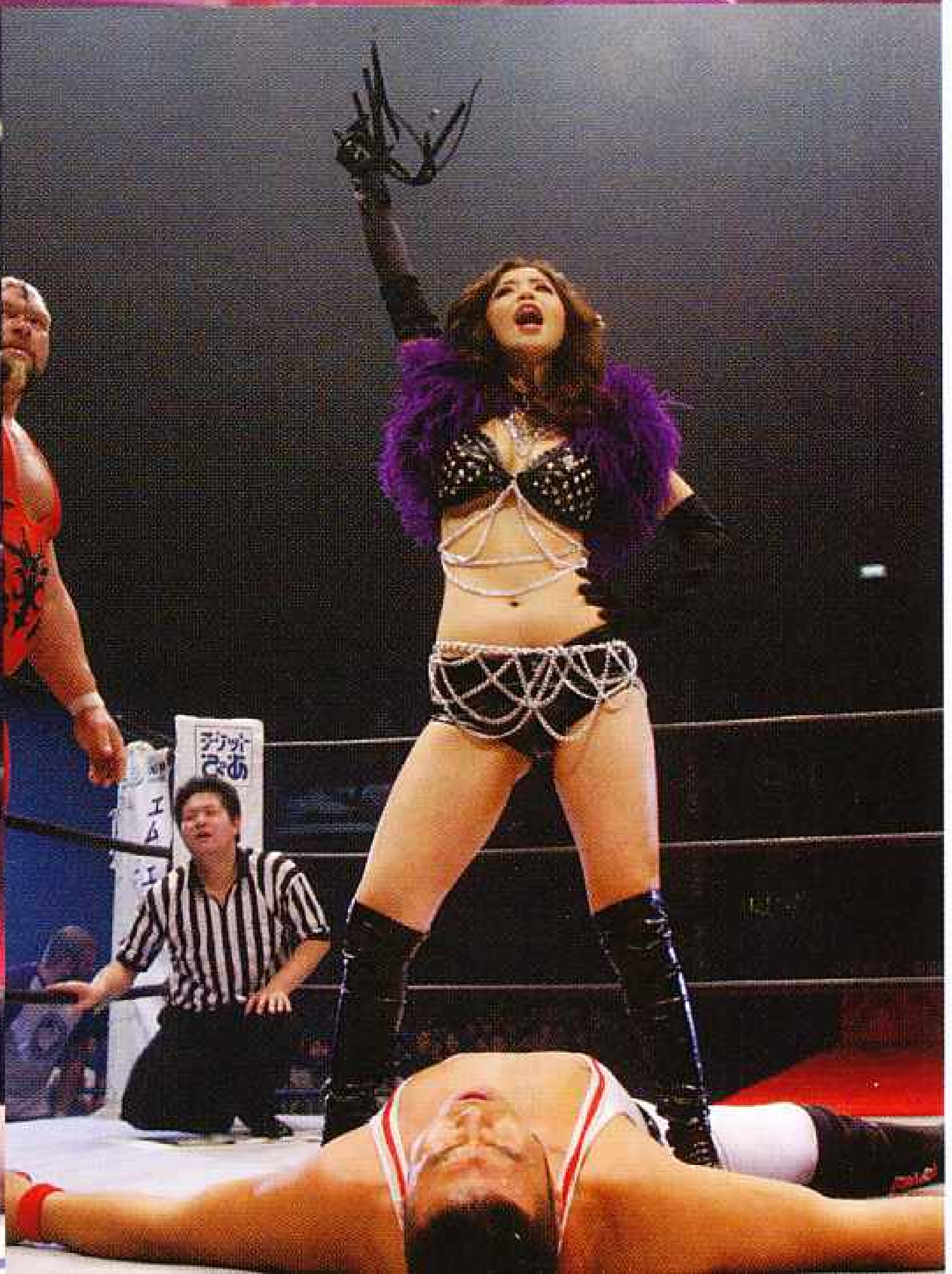


見てみぃ、このコスチューム!!　インリン様は髙田総統の「ビターンッッッ!!」を受け、さらに露出度UP!　なぜかインリン様だけ「バスト86、ウエスト59、ヒップ86」とコールされていた。

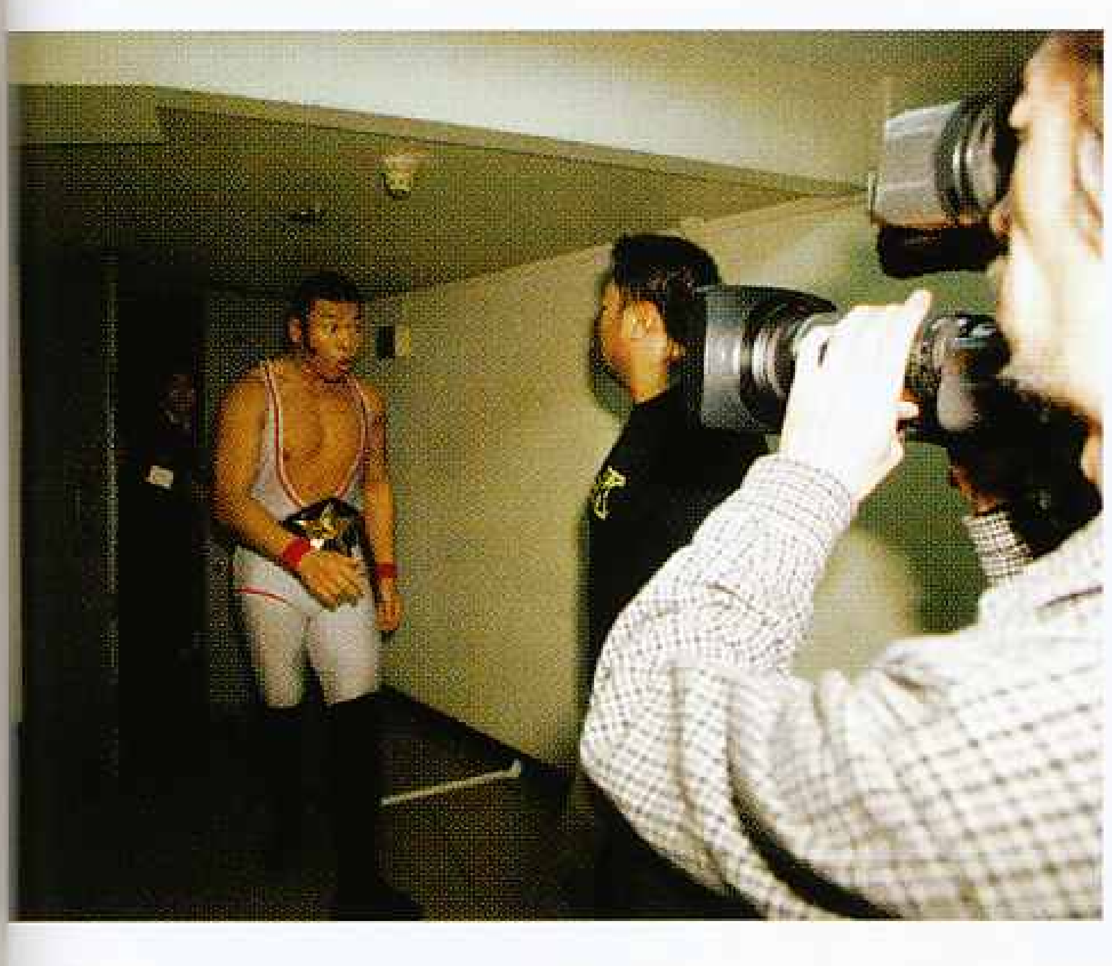


『ファイティング・オペラ』という観点から言えばあの世界観を受け入れてもらった手応えはある





「インリンさま〜!!」の声、鳴りやまず! 名古屋の観客を大熱狂させたインリン様!! 試合中の表情、ムーブ、アピール、すべてにおいて素晴らしく、今宵もM字ビターンで観客を大洗脳した。







「負けたけど、ハッスルだけはやらせてください!!」ハッスルポーズを決めたキャプテンを黙って見守っていたハッスルKが襲撃！　まさかの行為に大激怒した小川は、バックステージで川田と大乱闘に！　久しぶりに怒りのギョロ目だ!!

んでくれるファンが育ってきている。1年前に蒔いた『ファイティング・オペラ』という種が、いまやっと芽を出しかけているってところかな。うん。

——でも、名古屋では、ハッスル軍の内部は急変してます。インリン様に負けたキャプテンに愛想を尽かしたのか怒りが沸点に達したのか、大会終了後にハッスルKが小川さんに殴りかかったり、控え室前で乱闘騒ぎを起こして。

小川　川田のヤローはなんなんだろうな！　俺に文句がある奴は、実力行使をしてでもお行儀よく襟を正してもらうから。とくにKなんかは、常々〝ハッスル軍のキャプテンは俺だ！〟って思ってるらしいしさ。でも、〝キャプテン〟というのは俺の名前の一部だからな!!　譲るわけにはいかない。

——昨年の『ハッスル・ハウス　クリスマスSP』でハッスルKは「CMの仕事を回せ！」とキャプテンに言ってましたけど、今度はキャプテンという名前はさすがに狙ってなくても、リーダーの座は狙ってくるでしょうね。

小川　引きこもりが引きこもらなくなったら、欲が出てきたんでしょ。つまり、〝リーダーの座〟を懸けて争う試合になるでしょう。でも、Kにはまだ、〝キャプテン・ハッスル〟として俺がインリンと闘った意味はわからないだろうな。『ファイティング・オペラ』という世界にドップリ浸かる意味合いということがね。Kにあるのは、プロレス・マニアと呼ばれる人たちの支持を失いたくないということだけだと思うよ。だから、ドップリ浸かった後に、目の前にどんな風景が広がるのか想像できなくて怖い部分もあると思うんだよ。だから試合後、一緒にハッスルポーズしなかったんだろうし。『ハッスル』のコンセプトをいまだにわかってないヤツには、腕づくでわからせる……鉄拳制裁するだけですよ。

——それは〝暴走王〟スタイルの封印を解くということですか？

小川　封印を解くというか、『ハッスル』というひとつの舞台の中にはいろいろと打ち出しがあるわけだけど、でも、『ファイティング・オペラ』という枠組みをつくろうとしたときに、俺の昔のスタイルというのはさ、それとな〜んか違和感があった。俺個人の個性はともかく、イベント全体を考えたときにね。

——キャプテンは、新しいものをつくろうとしたからこそ、『ハッスル』のポスターのイメージ通りに変身したわけですよね。

小川　たとえば、今回インリンと試合したことだって、これまで日本のプロレスが振り切れることができなかった領域に針を振ろうという狙いがあったわけじゃない。『ハッスル』の制作サイドには。

——その針を振ったことによって、いまだ〝ストロング・スタイル〟や、旧態依然とした〝勝負論〟に呪縛されている日本のプロレスの幅はグンと広がりましたね。

小川　幅は広がった。根っこはモンスター軍との身体と心を張った馬鹿のやり合いなんだよね（笑）。いかに真剣に馬鹿をやるか。でも、いまの俺は、情けなくもインリンにフォールされてしまって、一方では坂田が反逆したり、ハッスル軍の内部が馬鹿をやる暇もなくゴタゴタしている。だからこそ、ピリッと引き締めないといけないとは思う。

——もはやハッスル軍には馬鹿をやってる暇はない（笑）。インリン戦をやったあとに〝暴走王スタイル〟で戦うことは、それはそれで意義があることだと思うんですよね。『ハッスル』はこのままコメディ路線しかやらないと思っていたので。

小川　いやいや、コメディ路線でもいいんだよ。そっから外れたときにこそ、インパクトが生まれるわけだからさ。だから、いまなら〝暴走王〟もありかな、と。でも、俺が暴走王になるってことはスタイルじゃないから。師匠（猪木）の言う〝怒り〟をぶつければいいんだから（意味ありげに）。

——こ、怖い……。そういえば、いずれ『ハッスル』には〝喜怒哀楽〟のすべてを表現したいという目標もありましたよね。

小川　川田は怒ってるんだろ？　俺がやってることが面白くなくて。だからさ、キャプテンに文句がある奴は注意させていただきますよ。た〜〜〜っぷりと！　〝暴走王スタイル〟云々は別にしてもね。

——いわゆる〝怒〟が見れる試合になる、と。某老舗団体が聞いたら大騒ぎしそうなキーワードですけど（笑）。

小川　ハッキリ言うけどさ、某老舗団体が「怒り」や「ストロング・スタイル」にこだわっても、あの連中にはできないよ！

——で、できませんか！

小川　師匠がなぜ「怒りが必要」と常々言っているのかはよくわかるんだけどね。でも、某老舗団体は何も背負ったことが





小川と川田のシングルマッチは、『ハッスル』前夜の03年12月14日ZERO-ONEのリングで実現（結果は両者ノックアウト）。その壮絶な内容は、"伝説の橋本3連戦"を押しのけて小川のベストバウトという声もある。どん底から這い上がりたい小川だけに、前回を越える死闘なることは必至だ。



ない人ばっかでしょ。背負ってる自分をつくったり、周りにつくってもらったりしてるだけでさ。こっちはそんな生ぬるい生き方してきてないから。背負ってるものをぶつけて、そして譲れないからこそ、「怒り」は生まれるんだよ。俺は『ハッスル』確立、『ファイティング・オペラ』確立という命題を背負ってるから。だからこそ、マニアの支持を得ることしか考えないで、まだまだカッコつけてる川田に怒りをぶつけるんだよ。川田にブザマな姿を晒させて、そうなったときにこそ見えてくる、『ハッスル』の未来に気づかせてやるよ。

――新日本以外にも、上井プロレスでは前田日明の協力のもとに〝怖いプロレス〟を構築したうえで、ハッスルの真逆に位置するプロレスを目指すそうです。

小川　だから、これは某老舗団体にも言えることだけど、〝怖いプロレス〟や〝ストロング・スタイル〟にこだわりたいなら、近々開催される『PRIDEミドル級GP』とやらに出ればいいんじゃないの？　そうすればテーマは鮮明に浮かび上がってくるけど、意味もなく、理由もなく〝怖いプロレス〟と言ったってさ……どうなの？　って感じかなぁ。

――要は、〝怒り〟にも動機が必要ってことですよね。

小川　『ハッスル』の真逆をいくという意味すらわからない。真逆もなにも『ファイティング・オペラ』は何でもできるんだから。

――「モンスター・ロワイヤル」だって開催できるわけですからね（笑）。

小川　あれは年間最高企画賞だろ！

――ダハハハ！　かたや元ネタは年間最低企画賞受賞確実ですよ！

小川　あの素晴らしい企画を持ち込んだヤドカリは、敵ながら褒めたくなったよ（笑）。高田のヤローには散々怒られて降格させられてたけど。

――総統プロデュースの『ハッスル8』でも、モンスター軍はいろいろ仕掛けを考えてるみたいですね。

小川　モンスター軍の考えることなんか大したことねーよ！………って言っててもさ、いっつもやり込められてる俺が言っても説得力ないな～。

――まったくありません！（笑）。でも、男の子は強い者に憧れる、カッコいいものに憧れる生き物ですから、ここでカッコいい小川直也を期待したいですね。

小川　やることをやるしかないから。俺がやりたいことは『ファイティング・オペラ』!!　それを理解しないヤツは、例え川田であろうと制裁を加える。俺はキャプテンなんだから、それらしく振る舞うだけ。『ハッスル8』、まったく問題なし!!

【2月某日／都内某所にて収録】

逆風？　吹いていたとしても気にならない。慣れてるし。前向きな意味で「俺は俺だ!」という気持ちはありますよ



こぶつけてくれ!!



構成／ジャン斉藤
撮影／森鷹博
試合写真／平工幸雄
designed by matsu（TwoThree）

――川田さん！　今日は3・18『ハッスル8』両国大会で対戦する小川さんのことについて聞かせてください。

川田　両国のこと？　……まぁ、先日の会見で言ったとおりだよ。

――同大会をプロデュースする髙田総統に、アン・ジョー司令長官を通して小川戦の許可を取った会見のことですね。そのとき川田さんは「プロレスは気持ちで闘うもんだってことを小川とお客さんに見せつけるだけだよ」っておっしゃってましたけど。

川田　**なぜ『ハッスル7』で俺が殴ったのかを、小川はまったくわかってないから。**小川は「リングで決着を付ける」とか新聞で言ってるんでしょ？　……小川はまったくわかってないね。**それなら俺が身体を張ってわからせるしかないから。**

――川田さんからすると、小川組vsインリン様組での小川さんの闘いぶりがかなり不満だったわけですか？

川田　うん。そうだね。不満が残るというか……ちょっと**小川は情けないよね。形はどうあれ、女性相手にああいうみっともないフォール負けをして。**

――"ファイティング・オペラ"にどっぷり浸かった、開拓者的な姿として捉えることはできなかったわけですか？

川田　たしかに『ハッスル』のリングに関しては、プロとしてリングに上がる以上、そのイベント性を重視して理解しないといけないと思ってるよ。俺もそうしてるつもりだし。

――川田さんも他のリングでは開けない引き出しを、『ハッスル』でバンバン使ってますよね。

川田　お客さんが楽しんでくれるんなら問題はないんだよ。ヨソのリングだと絶対に



“本来の小川直也”を俺に ふ

3・18『ハッスル8』小川戦への秘めた決意、そして迫り来る“魔性のM”インリン様に口を開いた!!

川田利明

ハッスルK

“俺だけのハッスル”宣言以降、いままで深く閉ざしてきた意外な一面を次々に公開し、“ファイティング・オペラ”に欠かせない重要人物となっている“ハッスルK”川田利明。“ハッスル軍・頂上対決”となる小川戦は、この“ハッスルK”が小川直也の“怪物性”を掘り起こすことができるか否か、というテーマも付随している。『ハッスル』シリーズ史上初となる、ハッスル軍vsモンスター軍の対抗戦以外のメインイベント。どんな結末が待ち受けているのか——?

無理なことでも、それを可能にするのは『ハッスル』のリングだと思うしね。ただ、本来の……凄い小川直也をリング上で出してもらいたい気持ちは俺の中にあるんだよ。**いまは小川直也が本来の小川直也でない状態でいるから。**

——〝プロレスラー小川直也物語〟として見た場合、小川さんがここまでどん底に落ちたことはないと思います。

川田 あのね、**小川はやればできるんだから**。うん。

——それは以前、シングルマッチで死闘を展開した川田さんが肌を持って感じてるわけですか?

川田 そうだね。小川って昔から周りにいろんなことを言われながらも、やるときはやってきたでしょ。

——瞬間最大風速の威力は本当に凄まじいですね。

川田 やればできるんだよ。でも……**いまはプロレスをおろそかにしてリングに集中してないというか、外に目が向いてるところがあるから。**

——小川さんからすると、外に向かって『ハッスル』をどんどんアピールしていきたい気持ちがあるみたいですけど。

川田 それはわかってるって。小川が『ハッスル』を広めたい気持ちはよくわかるよ。だからこそ、その力を内にも向けて、リングを仕切れる選手になってほしいよね。

——〝外〟ばかりじゃなくて〝内〟も固めてほしいと。

川田 だって、**リングでハッスルしてないレスラーがリングの外でハッスルしてもしょうがないからね。** いまの小川はリングの上をおろそかにして先走ってるかんじがする。髙田総統が「しょっぱい」「プロレスがわかっていない」とか小

川に言ってるけど、**総統の言ってることも一理あるからね。**総統は言ってるでしょ。試合終わったあとのマイク……恒例の（フッと笑いながら）。

——恒例の髙田総統劇場で（笑）。

川田　アレにしたって、小川は髙田総統に対抗できてないんだから。

——毎回毎回、髙田総統に言われっ放しですよね、小川さん。

川田　ハッスル軍の〝キャプテン〟を名乗ってるんだから、そこもちゃんと仕切ってくれないと。そしてあらためて力を外に向けたほうがいいんじゃないかなって。……その点は石狩（太一）も一緒だ（ニヤリ）。

——石狩さんは「ハッスルI・Tシャツ」が新発売されて、かなり浮かれているみたいですね（笑）。

川田　石狩と小川じゃ考えていることのレベルは違うけどね。で、小川直也という存在の影響力はホント凄いんだから。『ハッスル』のリングをきっちり仕切ってくれれば問題ないんだよね。俺は『ハッスル』的なイベント性というものは否定していないけど、それはあくまでもリングでハッスルできた人間がやるべきだと思うよ。

——両国で復活を懸ける小川さんは、かつてのコスチュームである黒いグローブとレガースの〝暴走王スタイル〟で出場するんじゃないかって言われてます。

川田　それがわからないんだよ。俺はいままでも言ってきたように、格好とかスタイルなんか関係ないと思ってるから。俺としては、『ハッスル』のリングでも、他のリングと同じことやってるつもりなんだよね。コスチュームは違うけど、リングでやってることは何も変わらない。俺はどんなリングであれ変わりなく、真っ正面から真剣にやってるんだよ。そこにプロレスにスタイルがどうとかは関係ないと思ってる。

——川田さんから言わせれば、気持ちで闘うことが一番大事ということなんですよね。

川田　気持ちの良い闘いをお客さんに表現してあげたい。**小川が持っている本来の力を両国で出してくれれば、もしくは俺がそれを引き出せたら、俺はそれで問題ないかなって。**

——その〝表現者〟という意味では、インリン様はかなり手強いと思うんですけど。川田さんはどう思われますか？

リングでハッスルしてないレスラーが外でハッスルしてもしょうがない


プロレスは顔でも勝負する！　その表情から凄みが伝わってくる、『ハッスル7』坂田亘とのシングルマッチ。ハッスル軍を離脱し、モンスター軍入りを企てる坂田と硬質なファイトを展開した。坂田を一蹴した川田は試合後、「坂田、ハッスルすればできるじゃねえかよ。オマエも〝俺だけのハッスル〟、やるか？」とマイク。坂田は無言でバックステージへ消えた。

川田　なんて言ったらいいのかな。**（インリン様は）よくあそこまでやれるなとは思うけど**（フッと笑いながら）。……どうなんだろう？　なんて言ったらいいの……？

——まぁかつてないキャラクターだからコメントには困りますよね（笑）。モンスター軍のNo.2で存在感はピカイチとはいえ、女性で素人ですし。

川田　……そうだなぁ。よくあんなタレントがいたなあと思うけど。まさか小川とリングで闘うとは思わなかったしね。

——それでですね、あの、ちょっと、非常に答えづらいとは思うんですが、川田さんもインリン様と闘うことは、将来的にあり得るんでしょうか？

川田　俺が？（ギロリ）。

——先ほどお客さんが喜ぶのであれば、ということをおっしゃっていたので（笑）。

川田　俺が（インリン様と）闘うの？

——は、はい。

川田　いまの俺的には（インリン様戦を）望んでないけど（苦笑）。望んでないというか、何というか。

——でも、お客さんが喜ぶのであればという考えだと……。

川田　……お客さんが喜ぶのであれば？

——いや、メチャクチャ期待してると思いますよ！　非常に馬鹿馬鹿しい話で恐縮ですけど、ユリオカ超特Qという芸人さんなんかは、M字開脚のインリン様と、K字開脚（屈伸開脚＝試合前・恒例の足の運動）の川田さんのKM砲が見たい！　というトンデモ願望をブチあげていたりしますし。

川田　まぁ、そんな馬鹿馬鹿しいことであっても、より多くの人が見たいのであれば、それはね。

——いや、たくさんいますよ！　もう小川

ハッスル軍で唯一気を吐く師弟コンビ!　今月のハッスルK&石狩劇場


小川戦を実現させるために川田がモンスター軍記者会見をジャック。付き人・石狩も同行したが、熱く語る川田を尻目にアクビを連発したあげく、突然ストレッチ運動開始!!　もちろん川田からデンジャラス張り手を頂戴したのであった。


「ハッスルK」Tシャツのパクリ商品、「ハッスルI」Tシャツが新発売されて、小波に乗る石狩太一。『ハッスル7』でモンスターCとシングルマッチも組まれたが、試合前、呑気にサインの練習に精を出し、グッズ収益の節税対策を練る銭ゲバぶりを発揮。案の定、敗北!　Tシャツは￥3990で発売中!

2・8&9『ハッスル・ハウス』は全日本のシリーズとちょうどバッティングしたため川田&石狩は2人揃ってお休み。オープニングの観戦マナー映像にだけ登場した。『ハッスル7』を含めてどれも違う映像内容で、石狩がとにかく非常識さをバクハツさせました。





石狩に鉄拳指導を喰らわせた川田は、わざわざカメラ目線で荒井注イズム溢れるキメゼリフ。『ハッスル』以前の川田には考えられないシーンだ。進化するハッスルKと、堕落し続ける石狩には目が離せない!



「負けてもハッスルだけはやらせてください!!」——インリン様に屈辱の大敗を喫したキャプテンに従わず、ハッスルポーズをジッと見守る"ハッスルK"。坂田の離軍、橋本や長州の不在も暗い影を落とす。崩壊寸前のハッスル軍を象徴する光景だ——!!　ハッスル軍の立て直しは、3・18『ハッスル8』、すべては小川直也の奮起に懸かっている。

小川はわかってないね。俺が身体を張るしかない

さん以上に試合展開が見えないですから。

川田　まぁ、何ていうのかな。**他から見たら馬鹿馬鹿しいことだとは思うんだけどね。じゃあ、俺はその馬鹿馬鹿しいことを真剣にやってやろうと。それが理想としているのが『ハッスル』のリングだと思ってるからね。**

——川田さんと石狩さんの、2月『ハッスル』シリーズの大会オープニングの映像も好評でした。後楽園2連戦は全日本と日程が被って欠場されましたけど、あの馬鹿馬鹿しい映像だけでも存在感があるというか。

川田　ああ、そう（笑）。一見馬鹿馬鹿しく見えることを真剣に取り組むことによって、いいものができあがれば嬉しいよね。そういうものが『ハッスル』にはたくさん埋まっているし。**それを誰が引き出すのか、誰が掘り起こすかってことになるんだけど。**

——ブレイク（?）している石狩さんの非常識さを引き出したように。

川田　いや、石狩の場合は俺のプロデュースということもあるけど、引き出すも何もあれが地だから（笑）。

——失礼しました（笑）。それで川田さんも認める小川さんの力。それを引き出せる自信はもちろんあるわけですよね?

川田　**それが俺の仕事かな。いまの『ハッスル』でそれができるのは、俺しかいないと思ってるよ。**

——この一戦はハッスル軍の〝キャプテン〟の座を争うこともテーマになってるみたいですけど。

川田　争うというか……いまは〝キャプテン〟という名前はあっても、**小川がハッスル軍を仲間意識や上に立つという意識でまとめている雰囲気は全然ないからね。**ただ、小川一人で先走ってるだけで。

——川田さんは今回の試合で、〝キャプテン〟の座ばかりか小川さんの出演CMまで奪い取ろうとしてるんじゃないかって言われてますけど。

川田　**俺が?**

——いや、12・24『ハッスル・ハウス　クリスマスSP』で、川田さんが小川さんに「俺にもCMを回せ!」ってやけに絡んでいたんで（笑）。

川田　（フッと笑いながら）横取りというか……俺も『ハッスル』が世間的に広まるためなら、喜んでそういう役目を引き受けるよ。

——石狩さんもちゃっかり付いてきそうですね（笑）。

川田　困ったもんだな……あのヤロウは（笑）。ま、俺はリングの中はいままでどおり。試合を見てくださいよ。

——わかりました!　『ハッスル8』は期待しています!

【05年2月21日／都内某所にて収録】

[全日本シリーズ情報]

『HOLD OUT TOUR 2005』

3月12日（土）	18:30東京・新木場1st RING
13日（日）	18:00福島・楢葉町民体育館
14日（月）	18:30秋田県立体育館
15日（火）	19:00岩手・石巻市総合体育館
16日（水）	18:30山形・ハイブ長岡
18日（金）	18:30埼玉・富士見市立市民総合体育館
20日（日）	12:00東京・後楽園ホール

(問)全日本プロレスTEL.03-3288-0610

髙田総統

2月『ハッスル』シリーズもハッスル軍にマイクで完勝!!

2・8&9『ハッスル・ハウス』&2・11『ハッスル7』でも、髙田総統のマイクは冴えに冴えた！　とどまることを知らない言葉の鉄槌――〝ファイティング・オペラ座の怪人〟の声を聞け！読まないと、ミ～がM字ビターンをやりマスヨ～!!（アン・ジョー風）

2・9『ハッスル・ハウス～私をインリン様とお呼び！～』編

【メイン・インリンで、〝ハッスルなでしこ〟Hikaruがアリシン Zをフォール。リング上で歓喜するハッスル軍だが突如、インリン様の声が響き渡る！】

インリン様　これで勝ったと思わないでよ！

【紫のコスチュームに身を包んだインリン様がムチを片手に花道をゆっくりと闊歩して現れる。従順なアリシンZが招き入れリングに登場】

インリン様　今日はアシリンZ組が負けたけど、あさっての『ハッスル7』では私の力を見せてあげるわ！

【そこへ今度は小川の声がホールを覆う】

小川　ほぉ～、その力、見せてもらおうじゃねえか！

【会場大歓声&拍手&大オガワコール！　キャプテン、リングイン】

小川　インリンだかよぉ、リンリンランランだか知らねえけどよぉ。オイ、いくら女だからって容赦しねえぞ？　本当にいいんだな？

インリン様　（ムチで小川を指して）**私がアナタに本物のエンタティナーとは何か教えてあげるわ。**

【歓声&拍手！】

インリン様　それにしても、**アナタのその品のないボディはなんなの！　細い腕、張りのないボディ、センスのない角刈り！**

【会場爆笑！】

インリン様　**まったくセクシーじゃないわぁ！　セクシーさには哲学と思想が必要なのよォ。そう、アナタのボディには哲学と思想がないのよ！**

【声援を送るインリン信者】

小川　なにぃ～!?　オイ、よく聞けよ！　**このモミアゲにはな、思想と哲学がギッシリと詰まってんだよ！**



『ハッスル』の“メインイベント”と化している髙田総統の大演説。2・8&9『ハッスル・ハウス』では連日に渡ってバルコニーを占拠。最近のお気に入りのフレーズは「やりたまえ!!」の模様。みんなも学校や職場で偉そうに言いたまえ!!

【観客からは「えぇ～!?」と疑問の声があがる】

小川　（観客に向かって）〝えぇ～!?〟じゃねえんだよ！（再びインリン様に）ゴタゴタゴタと御託並べやがって、その口、猿ぐつわでもハメてやろうか、コラ！

インリン様　（無視して）本当にセクシーな男っていうのはね、**フンドシ姿で魅せられる男のことを言うのよ！**

【会場大爆笑！　インリン様いわく、『男祭り』でフンドシ姿で勇ましい太鼓を披露した、あのお方はセクシーだってこと！】

小川　はぁ～、フンドシ姿ぁ？　お前、アタマ、イカれてんじゃねーか？　髙田を出せ、髙田を！

髙田総統　相変わらずよく鳴くチキンだな！

【『威風堂々』のテーマが鳴り響き、髙田総統がバルコニーに登場！　観客大歓声！】

総統　……今日は、じっくり長目に喋ってやろうか？

【会場大歓声！】

総統　なぜならば、だ。メインディッシュは待たせられるとなお美味しくなるからな。今日、ここにいる諸君！　君たちは、非常に熱心な私の信者であることを認めざるをえないんだ。なぜならば、（サッカーの）日本対北朝鮮、この一大イベントが同時刻にあるにも関らず、君たち諸君はもう一つの一大イベントであるこの〝インリン・ナイト〟に、すなわち、この私のもとに集まったことが証明しているじゃないか？　諸君のことを、**世間の人は、おそらく、変わり者と言うだろう。**

【会場大ブーイング&爆笑】

総統　**ま、そのことに関して、私には知ったことじゃないがな。**

【会場爆笑！】

総統　ただ、今日のところは、私から下々の諸君に米粒ほどの小さな感謝の気持ちを送っておこう。（リング上のコーナーにもたれ掛かる小川を発見し）おぉ？　そこにいるのは、チキン君じゃないのか？　そんな隅でなにをやってんのだ？　オイ、角刈り！

【会場爆笑！】

総統　よく聞け！『PRIDE』効果のにわか人気もいまではすっかりメッキが剥げ上がってしまったチキン君。まぁいい、その前に一つだけ挨拶しておこう（と、突然フレンドリーに）**チキン君、おつかれさんっ！**

【会場爆笑！】

小川　じゃかましいコラ！

総統　**君は試合もしょっぱいが、挨拶もしょっぱいんだ？　どうだ？　最近はJミートの（小川が出演しているCM）はハッスルしてんのか？**

【会場爆笑！】

総統　ま、君の実力なんてそんなモノだ。これからは、セコセコとバラエティ番組にでも出て、せいぜい小銭を稼ぐがいい！　フハハハハ！

小川　うるせんだ、おまえは～！

総統　ま、話を元に戻そう。（と絶妙の間で、話をあっさりはぐらかす）

小川　ウダウダウダと長え……長いんだ、おまえコノヤロー！

【コノヤロー！　コノヤロー！　コノヤロー!!　髙田総統の口撃またしても完封されてしまったキャプテンは、中村カントクらハッスル軍とともにバックステージに姿を消した】

2・11『ハッスル7』編

【インリン様がM字固めで小川をフォール！　インリン様のテーマ曲が流れる中、突如、総統の声が会場にこだまする！】

総統　チキン君、これで君のプロレス人生も終わりのようだな……。

閃光話術





『ハッスル8』両国国技館は髙田総統がプロデュースすることが決定。どんな罠や策略、仰天企画を張り巡らせるのか？ "モンスター国技館"での閃光話術も期待大だ。

【「威風堂々」が鳴り響く中、スモークに包まれて髙田総統がステージに登場。出迎えたインリン様以下、モンスター軍を従え、花道で葉巻をくゆらす。観客ブーイング！】

総統　（会場を見渡し）せっかくの3連休にもかかわらず、何の予定もない、他にやることもない、暇な暇な名古屋のプロレスファンの諸君！　ごきげんいかがかな？　シミったれた名古屋の諸君にも挨拶はしておこう。我こそが髙田モンスター軍総統、髙田だ!!

【会場ブーイング】

総統　（インリンに屈辱の3カウントを奪われ呆然とする小川に向かい）そろそろ、そのにわか人気も下火になってきたチキン君。プロレスをおろそかにしてきたツケがとうとうまわってきたようだな。しかも、女性であるインリンに完敗とはな！　たしか君は、日本のプロレス界に革命を起こすと大ボラを吹き続けてきた。**今日の君は、本当に革命的にしょっぱいよ！**

【そこに「"泣き虫"以下だ～！」とヤジが飛ぶが……】

総統　**それは違う！（すぐさま一喝）。**

【会場爆笑！】

総統　（観客に向かって）まだ続きがあるからよく聞け！　今日は長いぞ！（偉そうに）。

【待ってましたとばかりに観客は大歓声！】

総統　応援してんのか、ブーイングかハッキリしろ！

【会場大ブーイング】

総統　続きを聞きたまえ！　**プロレスラーというのは、ただ強いだけではだめだ。**心理戦に強くなければならない！　すなわちサイコロジーだ！　そしてもちろん、プロレスラーは君のようにしょっぱいだけでもダメなんだ。しょっぱい奴に心理戦などとうてい無理だ！　ましてサイコロジーなど理解できるはずがない！　君はまだ、本当にプロレスに大切なものが何かわかっていないようだな。**君は私をリングに上げると、日頃ほざいているが、一体、私はいつになったら、君と闘うことができるのだ？**

【「おぉ～！」と観客から驚きの声が上がる】

総統　いつになったら、私をその気にさせてくれるのだ？　チキン君。

【「出てこいや～！」と期待の声を上げる観客】

総統　焦るな！（と一喝）。「出てこいやー」は違うぞ！

【会場大爆笑！】

総統　いまいいとこだ。黙って聞け。まあいい。これ以上、この中途ハンパな観衆の前で、40手前のチキン君に説教をしても無意味だ。この辺にしておこう。

【観客からヤジが飛ぶ】

総統　（その方向を指さし）オイ、そこの者、間が悪いんだ！

【会場爆笑！】

総統　インリン！　今日はよくやった。さすがはモンスター軍No.2だ！　ほめてつかわそう。

【観客から「インリンNo.1～！」と声が上がるが……】

総統　それは言い過ぎだ！（とクールに対応）。

【アドリブに対して受け身の巧さを披露する総統に対して、観客大歓声＆拍手】

総統　インリン、例の"M字ビターン"で、この名古屋のスケベ極まりない諸君をたっぷりと洗脳してやりたまえ！

インリン様　かしこまりました、総統。（リングに向かって、アン・ジョーと島田を従え花道を歩きながら）暇でもてない名古屋のプロレスファンの諸君～。私のM字ビターンが見たい～の？　そんなに洗脳されたい～いの？（色っぽい声色でリングに向かって歩を進める）

アン・ジョー　（観客に向かって）一度、ミーと一緒に"M字ビターン"の練習をシマ～ス！　いいデスカ～？　スリー、ツー、ワン、モンスター!!（とM字開脚）。

【アン・ジョーのM字開脚に当然リアクションは薄い】

ヤドカリ　声が小さい！　お前らやる気あるのか？

アン・ジョー　**このままじゃ、ミーのM字ビターンで終わりマスヨ！**

【会場大爆笑！】

ヤドカリ　総統、そろそろやってよろしいでしょうか？（鼻の穴をふくらませて）

総統　このスケベ名古屋人めが！　**オイ、その台は優れモンだな！（と、四方に回転するM字台を指差す）やりたまえ！**

インリン様　（リング隅で茫然自失の小川を無視し、M字台に上るインリン）それじゃ、いくわよ！　スリー、ツー、ワン！

インリン様＆観客　モンスターァ～!!

【M字ポーズを決めるインリン様に観客歓喜！】

総統　……一言、言っておく。**みんな、今日は何を見に来たんだ？　バッドラック!!**

★

相も変わらず絶口調の髙田総統！　インリン様に屈辱のフォール負けを喫し、散々にけなされどん底までに叩き落とされたキャプテンは、3・18『ハッスル8』川田戦で一矢報いる死闘を見せつけることができるのかーー？　逆襲の"暴走王"でハッスル、ハッスル！

これもひとつの"SADAME"――!?　2・8『ハウス』でアン・ジョー＆ヤドカリ、地獄へ堕ちる!



腕を折られようが降格されようがドゥ・ザ・ハッスル！　連日に渡ってバカ騒ぎを繰り広げたアン・ジョー＆ヤドカリのバカコンビ。今年の『東スポプロレス大賞タッグ部門』の候補にノミネートされることは200％ない。これもひとつの"SADAME"だ。



某老舗団体が全世界の失笑を買った珍企画を彷彿させる、東京ドーム級の企画モンスターロワイヤル。島田参謀長が自信満々でプロデュースしたが、某老舗団体の珍企画並に退屈な"なんちゃって格闘技"に観客は唖然。このブザマな光景に怒りが頂点を達した髙田総統は、島田参謀長を参謀長から二等兵への降格を命じた。島田二等兵はあのシルバさんにもバカにされる始末だ。



「自分の責任で、モンスター軍がクリスマスSPを全敗してしまったわけで、防波堤としての役割をできなかったわけで。その場でほんとうに死んで、その日から総統の前に正直な気持ちで面と向かえない日々がずっと続きまして。また髙田総統という男と向かい合えるようになるためには、やはり自分も責任を取ろうかなと」どこかで聞いたようなセリフを目に涙をためながら訴えたアン・ジョー。制裁としてインリン様の必殺「M十字固め」で腕を折られた!!　「これも一つのSADAMEか……」と総統!



ハッスル **RIKISHI**

元・大関 **KONISHIKI**

友人同士ががっぷり四つで語らう!!

3·18『ハッスル8』両国国技館

“土俵入り”待ったなし!対談

3·18『ハッスル8』で両国国技館に“土俵入り”するハッスルRIKISHIに強力な援軍! 友人であり元・大関のKONISHIKIが2·9『ハッスル・ハウス』激励に訪れ、翌日の昼下がり、“大相撲の聖地”で旧交を温めた!!

聞き手／スポーツ紙等、複数　構成／ジャン斉藤

designed by matsu (TwoThree)

——今日は友人同士の〝がっぷり四つ〟な取り組みということで、3・18『ハッスル8』で両国国技館に〝土俵入り〟されるRIKISHIさんと、ご友人のKONISHIKIさんの対談が実現する運びとなりました!

KONISHIKI　(RIKISHIに向かって)日本に来たときは、よく会ってるんだよね。

RIKISHI　イエス。KONISHIKIサンにはお世話になってます(笑)。

——いつごろからお知り合いになったんですか?

RIKISHI　知り合ったのは、2001年にハワイでWWEの興行があったときかな。

KONISHIKI　そうそう。そのときに知り合って、同じサモア民族として凄く仲良くさせてもらってる。彼の弟(ジャマール)も違う会社(全日本プロレス)に来てるでしょ?

——ちょうどいまも巡業中ですね。

KONISHIKI　彼ともよく会ってるんだよ。一緒にゴハンを食べに行ったり。

RIKISHI　前に俺とKONISHIKIサンでリベラ(ステーキハウス)に行って、ステーキを20枚近く一気に食べたことあるよ。

——料理する方も待ったなし! の世界ですね(笑)。

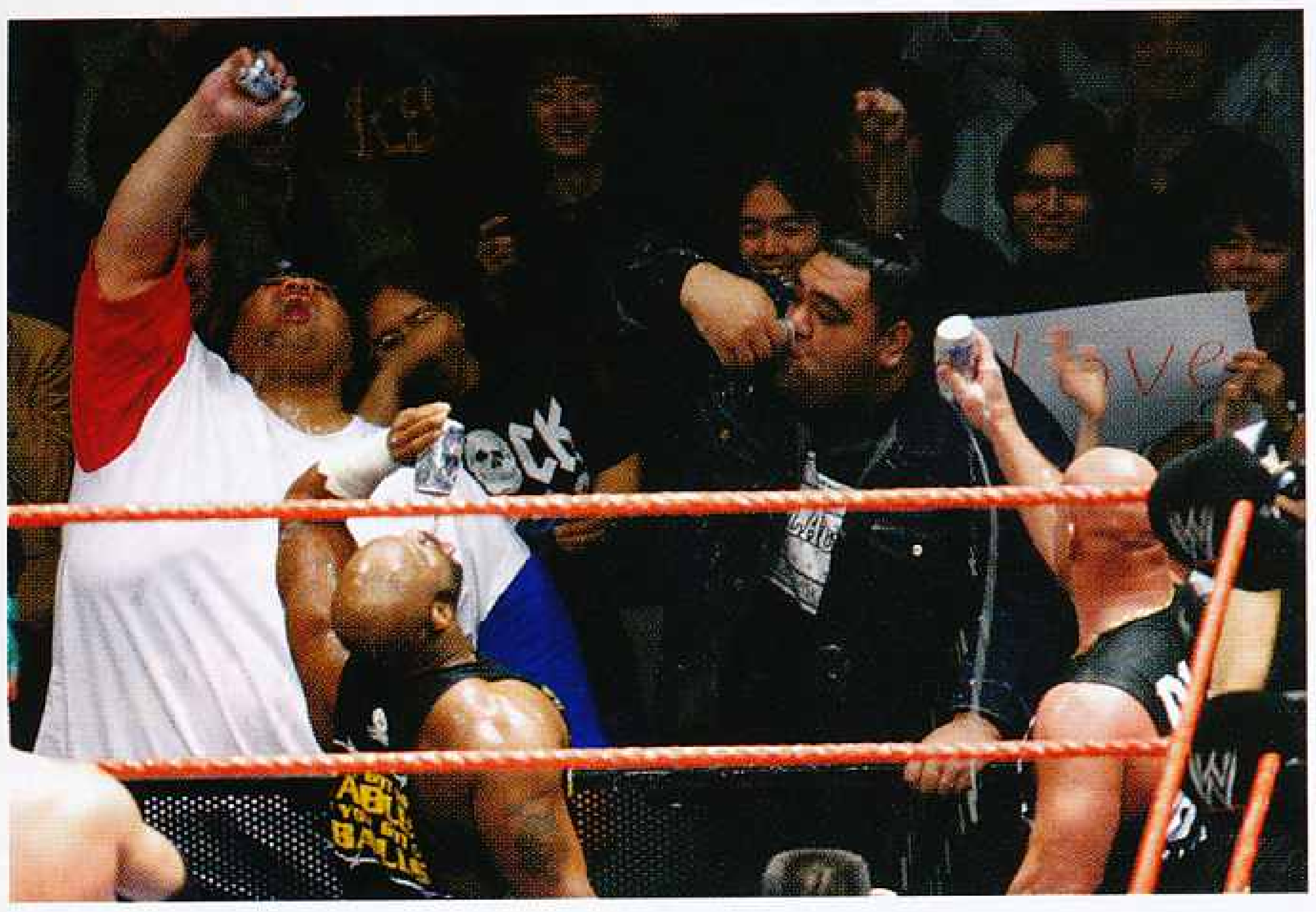
KONISHIKI　さっきは両国国技館の前を一緒に歩いたけど、とっても不思議な感覚。アメリカだったら有り得ないか

らね。RIKISHIは人気者だから外なんか歩けないんだよ。
——RIKISHIさんは、WWEのスーパースターだったわけですからね。
KONISHIKI　それにファンに囲まれると、RIKISHIはサービスしちゃうから。また大変な騒ぎになる（笑）。サイン会の大行列ができても、彼はイヤな顔をせずに2時間半もサービスするからね。ファンをホント大事にしているんだよ。
RIKISHI　とくに子どものファンは大切にしていないと。だって、これからのプロレスを支えてくれるのは子どもたち。もしかしたら、その子どもがプロレスラーになって、リングを盛り上げてくれるかもしれないからね。
KONISHIKI　だから彼はチャリティーやボランティアに力を入れているんだよ。
——そういったことを含めて、出会ったときから意気投合されたわけですか？
KONISHIKI　そうだね。RIKISHIとボクは年も近いし。それにサモアという民族はもともと結びつきが強いんだ。
RIKISHI　サモアはみんな〝家族〟みたいなもんだからね！
KONISHIKI　だからサモア人がいろんなスポーツで活躍していると、やっぱり気になるし応援したくなるんだよ。
——RIKISHIさんは『ハッスル8』で〝大相撲の殿堂〟に〝土俵入り〟されるわけですが、いまの心境は？



RIKISHI　ホントに名誉なことだ！　日本人全員に納得してもらえるとは思わないけど、俺は相撲に尊敬の念を持って、〝RIKISHI〟というキャラクターをやっている。その俺がスモウ・パレス（国技館）で行われるイベントに出場できることは大変光栄なことだよ。何よりKONISHIKIサンが何度も活躍された会場だしね。
KONISHIKI　ボクの〝庭〟ですよ、両国国技館。
RIKISHI　だから格好の悪いことはできない。いっそう身が引き締まる思いだな。この尻は……残念ながら、引き締まらないけど（笑）。
KONISHIKI　緊張すると思うよ、RIKISHIは。例えるならば、ボクが85年のときにニューヨークのMSGで相撲を取ったときと同じ感覚だと思う。
——と言いますと？
KONISHIKI　ボクの少年時代、ニューヨークのプロレスといえばMSGだった。いわばMSGは子どもたちの憧れの場所なんだよね。だからMSGの土俵に上がったときは興奮したね〜。
RIKISHI　なにしろKONISHIKIサンは相撲の代表として、そしてサモアの代表として、あのMSGに出たわけだからね。
KONISHIKI　大会開始前、アメリカ国歌が流れたら自然と胸に手を当ててね。もう感無量（しみじみと）。周りを見たら、ニューヨークなのにお客は日本人だらけだったけど。
RIKISHI　じゃあ、胸に手を当てていたのは一人だけだったのか（笑）。
KONISHIKI　そうなんだよ！　ボク一人（笑）。
——それほどMSGに思い入れを持っているぐらいだから、KONISHIKIさんは昔からWWEをご覧になっているんですよね？
KONISHIKI　もちろん。ウチのお母さん、プロレス大好きだったから。TVでプロレスが始まると、家事のことを放り出して見てたぐらい（笑）。
——お母さんの影響もあったんですね（笑）。
KONISHIKI　お母さん、ザ・ロックやRIKISHIとかサモア民族のレスラーを自分の息子のように応援したんだよ。
RIKISHI　プロレスを見ると言うよりは、サモア民族を応援したかったんだろうね。
——スポーツには、国家や民族同士の模擬戦争的な要素も含まれてますからね。
KONISHIKI　そのお母さんの夢がね、ハワイでWWEを生で観ることだった。4年前にその夢が実現して。そのあとだよ、お母さん亡くなったの。
RIKISHI　それは運命的だ……。そのときにKONISHIKIサンと知り合ったわけだし。
KONISHIKI　ボクもお母さんと同じで、サモアのレスラーの活躍は、自分のことのように嬉しくなる。
RIKISHI　それはKONISHIKIサンの活躍にも言えることだよ。ガイジンが異国の国技であそこまでの地位に登り詰めるのは大変なこと。サモアの血筋だからこその偉業だと思う。
KONISHIKI　他のスポーツで頑張っているサモア人は多いからね。マーク・ハントやレイ・セフォー、マイティ・モー。みんな同じ血だもん。彼らが頑張っていると、ボクの血も燃える（笑）。
RIKISHI　俺も！（笑）。やっぱりサモア民族はメチャクチャ燃える血を持っているからね。

サモアのレスラーの活躍は、自分のことのように嬉しくなる(KONISHIKI)




2・9『ハッスル・ハウス』に来場したKONISHIKIは、快勝したRIKISHIをねぎらう。昨年の2・7WWEでは武蔵丸親方とリングサイドで観戦。ストーンコールド、ダッドリーズ、ステイシー、リタらと乾〜杯！　豪快な飲みっぷりだ！

俺も！　サモア人はメチャクチャ燃える血を持っているからね(RIKISHI)





KONISHIKI　サモア人は喧嘩も強いから。何もしないでも喧嘩を覚えちゃうもん。

――生まれついての戦闘民族的なところがあるわけですね。

KONISHIKI　というか、家族を守るという意識がそうさせるんだよ。何をやっても〝家族のため〟という目的意識があるから、どこでも頑張れるし強くなれる。それはアメリカに住んでも日本にいても、サモアの風習や考え方、行動はまったく変わらない。遠く離れていても親父が一番怖いしね。

RIKISHI　だから他は何も怖くない（笑）。

KONISHIKI　そのサモアの血が流れているRIKISHIは、絶対に日本でもスーパースターになれるよ。ボブ・サップに負けないぐらいのタレント性があるし。

RIKISHI　活躍できるように頑張りたいな。そのためには前向きにいろいろトライするつもりだよ。

KONISHIKI　絶対にスターになれる。RIKISHIは一流の舞台でやってきて、一流のパフォーマンスができる。いきなり人気者になったわけじゃないんだから。

――WWEに14年間も在籍して、いろんなキャラクターを経ていまの〝RIKISHI〟を確立したわけですからね。

KONISHIKI　日本のみんなも彼から学ぶことといっぱいあると思うよ。RIKISHIはプロレスラーの神様、先生みたいなもんだから。

RIKISHI　それもこれもサモアの血のおかげ！　サモア出身のレスラーはみんな優秀だから。ジミー・スヌーカ、ザ・ロック、ヨコヅナ、キング・ハク……。他にもいっぱいいる。

KONISHIKI　ヨコヅナ（グレート・コキーナ）が日本に来たときもかならず会ってたよ。

――ヨコヅナは亡くなってしまいましたが、KONISHIKIさんを意識した相撲キャラでWWE（当時WWF）のトップに立ったレスラーでしたね。

KONISHIKI　ボクを意識も何も、ヨコヅナが初めてあの格好でWWEに出たときの衣装、浴衣から帯までボクのものだったしね。

――衣装もKONISHIKIさん譲りでしたか（笑）。

KONISHIKI　コキーナが日本に来たときに「今度からそういうキャラクターになる」って聞いて、「じゃあ、俺の衣装を持っていきなさい」と。

RIKISHI　同じサモア民族として、KONISHIKIサンはそういう面でもフォローしているんだ。

KONISHIKI　RIKISHIはヨコヅナを目指していたんでしょ？

RIKISHI　ヨコヅナは目標だった。彼は俺の従兄弟だったし、負けられないと思っていた。相撲を取って負けたこともあったし（笑）。ヨコズナは重かったからな～。

――体重が200キロ近くあったわけですからね。

KONISHIKI　ヨコズナと六本木で飲んだら彼が酔い潰れちゃって、連れて帰るのが大変だったぐらいだから（笑）。

RIKISHI　そりゃ大変だ！（笑）。

KONISHIKI　でもいいエピソード。やっぱりサモア民族が来日すると嬉しいし、会いたくなるし、応援したくなる。昨日（2・9『ハウス』）も観戦したけど、RIKISHIもやっぱり一流の選手だった。凄くよく身体が動くし、お客さんを

RIKISHI × KONISHIKI

沸かせる能力は天才的だなって。
――RIKISHIさんの試合を見てると、ホントに幸せな気分になりますからね。
RIKISHI　センキュー（笑）。
KONISHIKI　最後のダンスも楽しい！　みんな、この身体でよく踊るなって思うでしょ？
――はい（笑）。
KONISHIKI　ボクも相撲を辞めてから、CMでダンスを踊ったらみんな驚いていた。でも、サモア人からすると当たり前の動き。
RIKISHI　サモア人にとって、音楽やダンスは生活に密着しているものだからね。
KONISHIKI　リズム感があるから、RIKISHIは試合の運び方も素晴らしい。最初はゆっくりとしたペースで進めて、だんだんエスカレートしていく。さすが一流のプロレスラーってかんじがする。『ハッスル』は、RIKISHIからいろんなこと勉強できると思うね。
RIKISHI　これからも『ハッスル』に力を尽くしていくよ。『ハッスル』というイベントには、日本のプロレスを変えるパワーがある。他の団体のやり方はむかしのままだけど、時代は絶えず変化している。『ハッスル』は時代に対応していると思うんだよ。
KONISHIKI　ボクもいまの日本には、『ハッスル』のように楽しいプロレスが必要なんじゃないかなって思うよ。観客を笑わせたり、怒らせたり、興奮させたり……。エンターテイメントに必要なものが全部あったよ。
RIKISHI　いまの子どもたちはWWEとか、エンターテイメントのプロレスを見て喜んでいる。ハワイであれ日本であれ、未来を担っている子どもたち。俺は子どもたちが喜ぶエンターテイメントのプロレスをやりたかったから、いくつかの日本の団体からオファーを受けたけど、『ハッスル』に出るのがベストだと思ったんだ。
KONISHIKI　彼はずっと日本のプロレスを研究してたんだよ。日本のプロレスをよく調べて、自分に合ったプロレスを探していたんだ。
RIKISHI　それに『ハッスル』は自分のいまのキャラを大事にしてくれる。
――そのRIKISHIさんからすると、エンターテイメントのプロレスに一番必要なものは何になりますか？
RIKISHI　まずレスラーがこのビジネスに尊敬の念を持つことだ。それからサイコロジーも大切になる。
――どうしたら会場を沸かせることができるか、観客の心理を読むってことですよね。
RIKISHI　たとえば、昨日の試合でタイタスがジャイアント・シルバをイスで殴っただろ？（同席しているハッスル・タイタスに向かって）。
タイタス　はい。合計3回、シルバをイスで殴りましたけど……。
RIKISHI　あのときシルバは、そのイス攻撃を手で防ぐというミスをしてしまった！　とくに最後のイス攻撃は強烈だったんだから、頭で受けないと逆に手をケガしてしまう。頭で受けて勢いよく倒れればお客だって興奮するのに……シルバはヨロヨロとリングに落ちただけ。シルバはファンの心理をわかってない!!
――まぁまぁ。シルバさんのミスは、身体が大きいことに免じて目をつぶってください（笑）。
RIKISHI　WHAT？　どんなフォローだよ（笑）。
KONISHIKI　まぁ、そういうゼネ

RIKISHIは一流の舞台でやってきたから一流のパフォーマンスができる
（KONISHIKI）



『ハッスル』のリングでもすっかり定着したRIKISHIのダンス。会場を幸福感で包み込む。脇を固めるNEWキャラ"ハッスル・バカップル"についてはP154を参照!



だから格好の悪いことはできない
(RIKISHI)

ボクの“庭”ですよ、両国国技館
(KONISHIKI)

RIKISHI × KONISHIKI

ラル・マネージャー的な視点でRIKISHIはリングを見てるってことだよ。
RIKISHI エンターティナーとは、自分だけ目立とうとしてもいけない。全体的なことを考えて動くのがプロというもんなんだ。
——では、試合はしてないですが、高田総統という存在にはどういう印象がありますか? 総統はエンターティナーとして高い評価を受けてますけど。
RIKISHI 大きな声では言えないが……敵ながらグッドだな(笑)。
KONISHIKI うん。凄いキャラクターだよね、彼は。
——KONISHIKIさんも認めますか(笑)。高田総統はどの辺が凄いですか?
KONISHIKI 喋りも凄いけど、あそこまでやる勇気というか、プロフェッショナルな精神が凄いね。
——いまは見慣れましたけど、あの格好に初めは違和感がありましたからね(笑)。
KONISHIKI いや、あの格好が一番大切なんだよ!
——あの格好が大事!
KONISHIKI だって彼を見たら誰だってアッと驚くでしょ。キャラクターがハッキリしているし、どういう存在なのかわかる。喋り方も、自分のキャラクターをよく研究して、観客に見られている自分を想像しながら、それに合わせて面白いことを喋る。素晴らしいよ!
RIKISHI 俺は日本語がわからないからタカダ・ソートーが何を言ってるのかわからないけど、彼にはいつも声援やブーイングが絶えないもんな。
KONISHIKI あとブルーの衣装を着た日本人のマイクも面白かったけどね。
RIKISHI ブルーの衣装? サカ

タ（坂田亘）？

KONISHIKI　サカタ。あの人の言うことも面白かった。あの人、いい男でしょ。それを自分でもわかっていて、女のお客さんに「俺に惚れるなよ！」とか言ってね。よく考えてやってるよ。

―坂田さんは「小池栄子はどうするんだ？」って野次が飛んだら「アレはアレだ！」とも切り返していましたね（笑）。

RIKISHI　つまり、自分のキャラクターをうまくファンに伝えることが大切なわけだよ。

KONISHIKI　だからマイクにしても趣向を懲らさないとね。いつも同じこと叫んでる選手、多いでしょ？

―大抵のレスラーは「潰してやる！」「ぶっ殺してやる!!」とかしか叫んでないですね。

KONISHIKI　アン・ジョーみたいにね、クールに馬鹿馬鹿しいこと言ったほうが面白いよ。

―アン・ジョーを見習えと（笑）。

KONISHIKI　アン・ジョーは面白いよね。格好は地味だけど目立つし、すごくアピール能力がある。

―アン・ジョーは「このままじゃミーのM字ビターンで終わりますよ！」とか、観客のリアクションに合わせてうまく対応もしてますよね。



KONISHIKI　ああいうキャラクターがたくさんいないと、エンターテインメントのプロレスはできない。そのためにはTVや映画の俳優さんと同じくらい勉強しないとね。簡単に言っちゃって失礼かもしれないけど、これからのプロレスラーは俳優さんのような勉強をする必要があると思うよ。プロレスラーって社会的には、身体が大きくて筋肉モリモリで頭は弱いと思われがちだけど、全然そうじゃないから。頭が良くないとできない職業だとボクは思う。

RIKISHI　だからサイコロジーがとにかく重要になってくる。（タイタスに向かって）タイタスもそう思うだろ？

タイタス　はい。『ハッスル』は、そういう経験が積める場だと思うんです。それで何かミスをしたら、RIKISHIのようにちゃんと指導してくれる先輩たちもいるから心強いですし。

KONISHIKI　ボクも現役時代、若い子にいろいろ教えたけど、それは自分のためになるにし、後輩が育って大きな力を持てば、イベント自体も大きくなる。

RIKISHI　とはいっても、いまのヤングボーイたちは、先輩のアドバイスにまったく耳を傾けないからな。自分のやり方を強引に押し通そうとする。

KONISHIKI　みんなね、頭でっかちになるから。なかなか先輩のアドバイスを聞かないんだよね〜。

RIKISHI　でも、タイタスは違う。彼と会ったのは今回で2度目なんだけど、彼は積極的にアドバイスを願い出てきた。タイタスのような選手は珍しいよ。

タイタス　きょ、恐縮です!!

RIKISHI　俺はヤングボーイ時代、ジミー・スヌーカとかサモア人レスラーの付き人をしていろいろなことを勉強した。そうしてやっとプロフェッショナルな地位を築いてきたから、先輩たちから教わったことを周りや下の選手たちに伝えたいと思うんだよ。他の日本人の選手にもぜひ協力したいしね。



【はっする・りきし】
1967年10月11日アメリカ・カリフォルニア出身。サモアンズ、ザ・ロックやピーター・メイビアらを親戚に持つ、世界最大のプロレス・ファミリーの一員。

【こにしき】
1963年12月31日ハワイ州オアフ島出身。1982年に高見山（現・東関親方）にスカウトされ角界入り。四股名は小錦。最高位は大関。現在はタレントとして活躍中。

【はっする・たいたす】
"超人"ハルク・ホーガンの愛弟子。『ハッスル』にはマスクマンMr.USAとして来日。昨年の12・24『ハッスル・ハウス クリスマスSP』で素顔になる。愛称は"ハッスルT"。

―そういうプロの目から見て、K-1の曙選手がWWEに進出するという話がありますけど、曙選手はWWEで通用すると思いますか？

RIKISHI　う〜ん。俺はアケボノのことはそんなによくは知らないけど、WWEで活躍するためには高い能力が必要とされる。WWEに入団する場合は、キャンプでどれだけバンプが取れるか、スタミナがあるのかをまずテストするんだ。そこで評価されたら契約を結べて、ビンスがキャラクターを考えてくれる。ビンスは天才だからね。アケボノをスーパースターに見せることはできるよ。

KONISHIKI　ホントに天才だからね、ビンスは。みんなWWEのやり方をマネしてるでしょ？『PRIDE』やK-1のライティング、音響なんかもそう。

RIKISHI　WWEの躍進で、レスリング自体がビッグビジネスになっている。それを支えているのは、ビジネスへのリスペクトであり、豊富なキャラクターなんだよね。

KONISHIKI　怖いアンダーテイカーがいたり、ビッグ・ショーのように大きい怪物がいたり。

RIKISHI　『ハッスル』もそれぞれの個性を確立してきているから、もっともっとみんなが楽しめるエンターテイメントを真剣に造りあげていくつもりだよ。

―では、『ハッスル8』での"土俵入り"を楽しみにしています！

RIKISHI　OK！　最近はインリンサマのお尻がセクシーとか騒がれているけど……俺のケツが一番セクシーだってことをわからせてやるよ。マチガイナイ（日本語で）。

―ぜひインリン様にスティンク・フェイスを見舞ってやってください（笑）。

KONISHIKI　ボクも応援しているよ！（RIKISHIとガッチリ握手）。

【2月10日／両国・KONISHIKI事務所にて収録】



超革命企画！　プロレスの根底を覆す

観客ジャッジシステムとは何か？

「観客ジャッジシステム」

　この聞き慣れない単語から、あなたは何を想像するだろうか？　〝勝負に勝って試合に負けた〟という言い回しに代表されるように、プロレスには勝敗以外の部分にも大きな価値観があり、プロレスラーは単純に単純に強ければいいという存在ではない上に要求されるモノは非常に多岐に渡る。常に高いハードルを越えなければならない職業なのだ。

　髙田総統が〝キャプテン・ハッスル〟小川直也を「しょっぱい」と評する時、観客も思わず納得してしまう。小川はプロレスラーとして、そのハードルを越えていないと、髙田総統は指摘しているわけだ。

　たしかに、髙田総統の絶妙なマイクの途中に、「テメエ、この野郎！」「ふざけんな！」「おぼえとけよ！」としか言い返せない小川の語彙の少なさに、観客の多くはもどかしさを感じている。また試合中に繰り出されるハッスル投げ、ジャンピングニーといった技の見栄えは見る者の心に少なからずフラストレーションを残してしまう。だから目の肥えたファンが多い後楽園ホールなどでは、小川の技に「え～っ⁉」というリアクションが発生する。髙田総統は、こうした現象に「しょっぱい！」とジャッジを下す。

　自ら全知全能と称するだけあって髙田総統は観客の思いを言葉にすることにかけては誰よりも優れている。スピード、切れ、タイミング、どれをとっても天下一品だ。しかし、今度の両国大会で、ジャッジを下すのは髙田総統ではない。会場にいる観客、そしてPPV放送の視聴者がジャッジを下すことになるのだ。一体、何についてのジャッジを下すことになるのか、そしてどんな方法で？　髙田総統が某野鳥の会にコンタクトを取ったという噂もあり、謎は深まるばかり。髙田総統プロデュースの大会なだけにモンスター軍とハッスル軍の対抗戦に関するジャッジになるはずだが……。

　対抗戦以外で大きな目玉となるのは、もちろん小川vs川田利明！　インリン様に敗れてドン底まで落ちた小川直也の運命の糸は、観客が握っている。ハッスル軍のキャプテンにふさわしいのは小川か？　それとも川田なのか？　この2人の闘いが単なる再戦になるとは到底考えにくい。髙田総統の思惑、観客のジャッジ、川田のプライド、そして小川の意地が複雑に絡み合った試合となる。試合はもちろん、その前後も要注目だ！

　しかし、この革命的とも言える企画を髙田総統が発案した〝狙い〟は何なのか？　日本のプロレス界を根こそぎブチ壊すことが髙田総統の目的であるならば、小川にとって致命的なジャッジを観客に下させるつもりなのか？

　ここで小川は勝敗はもちろん、それ以外の部分でも結果を出さなければ、もう二度と立ち上がることは出来ないかもしれない。これ以上、過酷な試合はないと断言できる



3·8『ハッスル8』は“大会場プロレス”の概念を変える!

インリン様が両国にM字ビターン! 髙田アマゾネス軍コンテスト開催へ!!



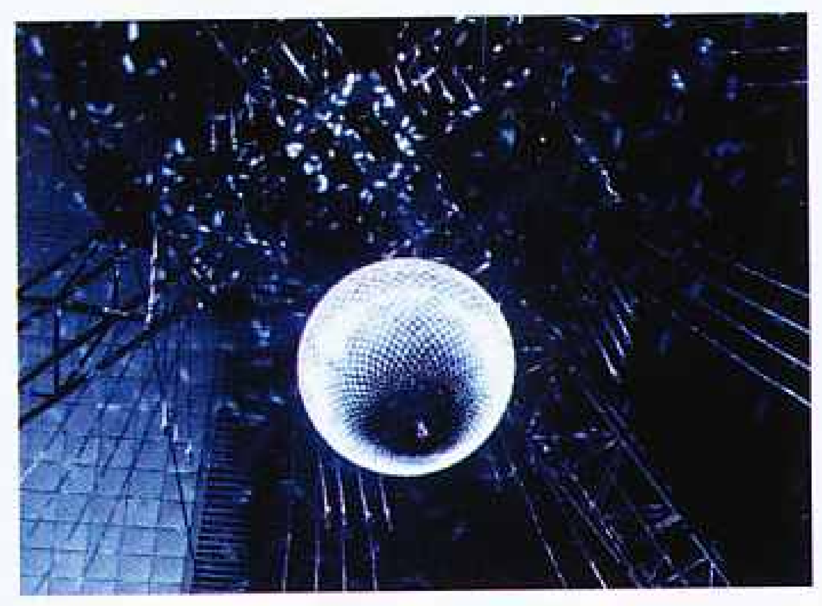
両国の“両”という字は、じつはインリン様のM字開脚を表す漢字であることは、熱心なインリン様信者には周知の事実だ。疑ってるそこのアナタ、ジッと“両”の字を見つめてほしい。形といい雰囲気といい、まさにM字開脚を見事に表現してないだろうか? 以上のことから、インリン様が両国国技館『ハッスル8』に光臨されるのは当然なんだよ。そのうえ髙田アマゾネス軍の増強を計るため、ビキニコンテストの開催を計画中との噂。ますますパワーアップルするアマゾネス軍、そしてインリン様の“勝負服”にも注目! スリー、ツー、ワン!! モンスタ〜ァ!!

インリン様、今度の標的は川田か!? ヤドカリvs臼杵のバトルに新展開!

笹原GMが一部スポーツ紙上で、インリン様が次なるターゲットをM字オンしていることを電撃告白した! その標的とは川田利明! 川田とインリン様……おそらく『ハッスル』という接点がなかったら、1万回ほど輪廻転生しても出会うことは有り得ないと思うほど、両者のカラーにはズレがある。とりあえずインリン様が川田の無精ヒゲをけなすことはマチガイナイ。そして川田の返しは……。男vs女のバトルでもうひとつ。ハッスル会見でリングに反映されないバトルを繰り広げているのは、ヤドカリと臼杵PR。「化粧のノリが悪い」「メス女!」などヤドカリに散々な罵られていたPRだが、先日の会見で「触んないでよ、コノ二等兵!」とヤドカリを突き飛ばした! PR初の反撃に「おぉ〜〜!!」とどよめくマスコミ陣。どんな記者会見だよ。

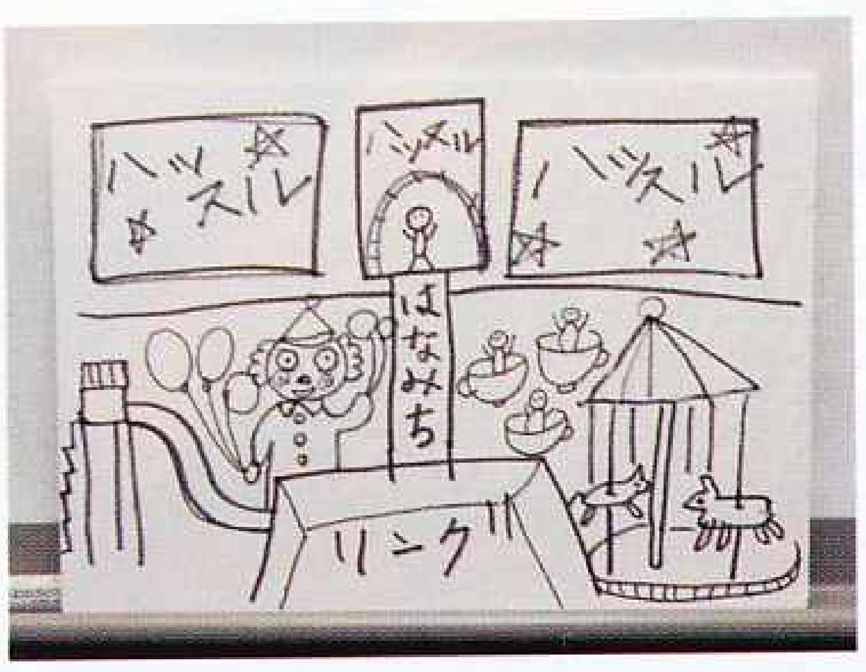
両国プロレスイベントの常識を覆す“モンスター国技館”の豪華舞台装置!!

『ハッスル』シリーズの魅力のひとつである、派手で豪華な舞台ステージ。いままで両国国技館のプロレスイベントで大がかりなセットアップは施されたことはないが、初進出となる『ハッスル8』では従来のナンバーシリーズ同様、『ハッスル』テイスト溢れる舞台ステージが髙田総統のプロデュースによりセットされる。そのうえモンスター職人が七日七晩寝ずにつくった新入場ゲートが設置される予定なので、『ハッスル』都内&両国初進出に相応しい、きらびやかな空間が期待できることだろう。ドゥ・ザ・ハッスル!



「ふざけてると殺しますよ!!」笹原GMが激怒した“幻のハッスル・アミューズメントパーク”とは何か?

見てみぃ、このバカ・イラスト!! 中村カントクが両国の企画をGMにプレゼン。ヘタクソなイラストを自信満々に見せつけ「題して、『ハッスル・アミューズメントパーク〜私を遊園地へ連れてって〜』!」と意気込むが、アン・ジョーは文字が「ハシスル」になっているとズバリ指摘(もはやそういう問題でもないんだが)。GMも「ふざけてると殺しますよ!!」とキラーぶりを披露。ビデオレターで「観客ジャッジシステム」をプレゼンした総統を支持!



ハッスル軍にニューフェイス? モンスター軍にもNEWキャラ登場!?

新たなるハッスル仮面が登場!? と聞けば、誰もが思い出すハッスル仮面きん・ぎんの悪夢!! ファンや関係者の背筋を凍り付かせたドしょっぱさは、あのジュードー・オーと並び称されるほどの伝説になっているが、今回は質ばかりか、量(?)の面でもビビってたじろぐほどのプラン! と胸を張るのは中村カントクだ。もちろん、NEWキャラの輩出に関しては、ハッスル軍の一歩先を行くモンスター軍も負けていない。闘った相手をかならず脱水症状に陥れるモンスターをヤドカリが捜索中との噂だ。



『ハウス』初の地方大会!! 両国・追撃戦! 『ハッスル・ハウスvol.6』in静岡

【日時】3月19日(土)18:00〜

【会場】グランシップ静岡

【チケット】
ハッスルVIP席¥10,000
2階スタンドS席¥7,000
3階スタンドA席¥5,000
4階スタンドB席¥4,000
5階スタンドB席¥4,000

【登場予定選手】
両国大会概要を参照

【問い合わせ】
ダイサン東京 TEL.03-5476-9889

“大相撲の殿堂”が“モンスター国技館”に変貌——!! 3·18『ハッスル8』〜両国国技館〜

【日時】3月18日(金)19:00〜

【チケット】ハッスルVIP席〈アリーナ席〉¥20,000(特典:専用入場ゲート・ハッスルグッズ付き)/RSS〈アリーナ席〉¥10,000/S〈マス席〉¥7,000/A〈2階席〉¥4,000
(小学生以下は全券種半額。DSEにて受付)

【ハッスル軍登場予定選手】“キャプテン・ハッスル”小川直也/“ハッスルK”川田利明/“ハッスルあちち”大谷晋二郎/“ボクだけのハッスル”石狩太一/ハッスルRIKISHI/“ハッスルなでしこ”Hikaru/“ハッスルコング”ケビン・ランデルマン/中村カントク/ハッスル仮面 etc

【モンスター軍登場予定選手】髙田総統/インリン様/アン・ジョー司令長官/島田二等兵/モンスター℃/モンスターJ/NJPW/タナカ☆ゲロ/白使/ジャイアント・シルバ/ダン・ボビッシュ/アリシンZ/鬼蜘蛛/スペル・ウイルス

【予定内容】
- 小川直也vs川田利明
- 髙田総統の大演説
- インリン様の光臨
- 観客ジャッジシステム
- ハッスル軍vsモンスター軍・対抗戦
- 髙田アマゾネス軍コンテスト
- ハッスル・ハードコア3WAY
- その他ビビってたじろぐ企画を髙田総統がプロデュース

【問い合わせ】
ドリームステージエンターテインメント
03-5464-1531
ハッスルオフィシャルサイト
http://www.hustlehustle.com/

いまこそ“プロレスとは何か?”を考えろ!!　さぁやりたまえ!（総統風）

激動の2005年プロレス界・大展望座談会

どちらが勝ってもプロレスが危ない!?



“馬場vs猪木”に続く究極の対立概念はこれだ!

髙田総統vs前田総帥 プロレス革命大戦争

前田日明の表舞台復帰で風雲急を告げるマット界!!　2005年、脱水症状失神寸前の日本のプロレスはどこに向かおうとしているのか?　前田復帰、WWE来日、『ハッスル』2月シリーズを通して考える!　ハッスル、ハッスル!!

WWEに〝モノの見方〟を変えるパワーがあった 能動的に楽しませる空間ができている（山口）

［座談会出席者］
山口日昇 本誌ハッスル鬼畜編集長
堀江ガンツ 本誌現場監督
坂井ノブ 本誌パンフ職人
ジャン斉藤 本誌麻雀打ち

ジャン 今日は揺れに揺れ動いているマット界について、久しぶりに会長（山口日昇のアダ名）に語り尽くしていただきたいと思いまして座談会を企画しました！
山口 （わざとらしいまでに緊張した面持ちで）……い、いやぁ、緊張するなぁ。俺はモーレッツに胸がドキドキしてますよォォォ!!
ガンツ どうしたんですか、いきなり炎上して（笑）。まさかターザンみたいに恋でもしてるんですか？
山口 はぁ？ 失礼な奴だなぁ。俺をあんなデガラシの親父と一緒にしないでくれよ！
ガンツ デガラシの親父！ 会長の発言のほうがよっぽど失礼ですよ（笑）。
山口 （無視して）俺、誌面に出るのが久しぶりだなぁ。最近の読者は、俺のことなんて知らないんだろうなぁ。
ノブ 会長はつい先日も3週間ほど失踪して、各方面に迷惑をかけまくりましたからねぇ。お詫びの意味でも自己紹介ぐらいしたほうがいいんじゃないですか？（冷たく）。
山口 オマエに指図されたくないよ、この薄汚いメガネデブ！ （気を取り直して）え〜、大変お見苦しいところをお見せしました。え〜、全国3千万人の『紙プロ』読者の皆様、私がこの『紙のプロレスRADICAL』編集長……なのかな？ 別名・ハッスル大統領の山口日昇です！ 3サイズは測ったことありません！ 好きな食べ物は月並みですけどラーメンです！ 好きな団体は『PRIDE』と『ハッスル』です……ダーッハハハ！
ジャン な、何がおかしいんですか？
山口 （再び無視して）ところで、この座談会は何ページ取るの？
ノブ というか、やめましょうよ、座談会。
山口 ………。せっかく来てやったのに、キミたちは私に喧嘩をお売りになってます？
ノブ いやいや、最近は『ゴング』でも座談会が流行だし、もう座談会という方法論はあっちにあげちゃいましょうよ。
山口 あ、そういう意味ね。
ジャン なんせ『ゴング』は〝メジャーな『紙プロ』〟を目指してハッスルしているらしいですからね。
ノブ まるでうちがメジャーじゃないみたいですねぇ。お互いの販売データを全部開示しましょうか（笑）。
山口 〝メジャーな『紙プロ』〟っていう表現も、なんだか笑える話だよなぁ。
ガンツ （インフルエンザのため付けていたマスクを取り）ゴホゴホッ！ ターザン（山本！）が主導権を握っている時点で、いまはなき『SRS・DX』的だなぁと薄々思っていたんですけど……。
山口 オマエ、インフルエンザうつすなよ。
ガンツ ゴホゴホッ！ 座談会の本文構成をターザン曰く、K君がやってるらしくて、やっぱり『SRS・DX』だったわけですよ（笑）。
山口 座談会すら外注かよ、『ゴング』は。さすが〝メジャーな『紙プロ』〟を目指すだけあるね（笑）。で、ウチは誰が構成するの？ 司会は誰？
ジャン ボク……なのかな？
山口 やる前に決めておけよ！ やっぱり『ゴング』以下だな、こっちは（笑）。
ジャン （淡々と）さ、前説はこれぐらいにして強引に本題に入りますけど、マット界的には、会長の誌面復帰よりも前田日明のマット界復帰で大騒ぎしてるわけです。まず、それをテーマに。
山口 帰ってきたねえ〜、前田日明!! どうして『紙プロ』には帰ってこないのかなぁ。
ガンツ 「歳を取って憎しみが倍増してる」そうですからね、いまの日明兄さんは（笑）。業界的には、なぜか会長が前田日明に謝罪すれば帰ってくるそうですよ。会長、決断のときですよ!!
山口 はぁ？ なんか俺が謝らないといけないことした？ あることないこと言い触らしてね、逆にこっちに謝ってもらいたいぐらいですよ（笑）。
ノブ まず前田日明を語る前にそれぞれの立場をハッキリさせときたいんですけど、ガンツ先生は日本一のリングス・キチ●イ。さいちんは、前田日明を引っ張り出した上井さんと昔からの知り合いということだよね。
ジャン 上井さんは麻雀好きで、ボクが麻雀打ちだったときに縁があったというか。
ノブ で、会長は前田日明のなになるんですかね？
山口 俺は、前田日明の古くからの友人……なのか？ （笑）。単純な質問なんだけど、前田日明は上井さんのところで何をするの？
ジャン とりあえず旗揚げ戦を査定するだけみたいです。〝顔面を腫らすようなプロレス〟じゃなきゃダメらしくて。
山口 査定⁉ 髙田総統と一緒じゃないか、それ（笑）。
ジャン それから総合格闘技に出ても勝てるプロレスラーを育成したいそうですね。それで前田が用意したヒョードルやノゲイラ級の選手と闘うそうですよ。
山口 その選手は上井さんのリングで育てるってこと？
ジャン 将来的にはそうなんでしょうけど、上井プロレスは現時点で道場がある団体じゃなくて、ひとつのプロモーションですからね。前田日明がやりたいことと、上井プロレスの方向性は分けて考えたほうがいいとは思うんですけど。
ガンツ 前田は会見に出ただけでこの騒ぎだからね（笑）。
ジャン ホント、上井プロレスへの興味は尽きないですよ。だって、旗揚げ日時や会場すら決まっていないのにカードを発表するなんて、これはもう上井さんだから許される力技ですよ（笑）。
山口 ガハハハ。でも、前田日明が言っている〝顔面を腫らすようなプロレス〟にしても、その凄みを観客に伝えるのは大変な作業だと思うんだよ。
ジャン つまり、いまの時代に〝格闘プロレス〟が成り立つのか？ ってことですよね。
山口 上井さんの好きなプロレスの領域という部分には共感できるんですよ。肉体と精神がギリギリのところでせめぎ合う喧嘩上等のプロレス。そこに前田日明の哲学をスポイトですくって、落とし込みたい気持ちもよくわかる。で、それをひとつの運動体として、マット界全体に投げかけようとしている上井さんの心意気は、非常によく理解できますね。
ガンツ そのニーズも強くありますからね。総合には行かないけどエンタメも嫌という、プロレスファンの生き残りが一番求めているのは格闘スタイルのプロレスですから。い

まは真剣勝負の総合格闘技があって存在しないからこそ、イメージとして〝プロレスは格闘技であってほしい〟という願望があるんだとは思うんですよね。

山口 でもね、それは俺が思うに、〝格闘スタイルのプロレスへのニーズ〟ということじゃないんだよね。〝闘い〟そのものへのニーズなんだよ。男の子ならもちろん、女の子にもあると思うんだけど、人間には〝闘い〟に対する飽くなきニーズがある。それは食欲や性欲へのニーズと肩を並べるくらいの大きなものだと思うんだ。

ジャン 食欲や性欲にまで肩を並べますか！

山口 でも実際、それに近いでしょ。だからこそ『PRIDE』やK—1がプロレスを凌駕したんだろうし。そういった〝闘い〟に対するニーズを、いまの時代に「プロレス」という領域でどうやって満たすのか。それが問題でしょ。俺は個人的にいまでも、ナイフのエッジを歩くようなギリギリ感のもとに、右側に落ちたら格闘技、あるいは喧嘩。左側に落ちたら上質なエンターテイメントという綱渡り感のあるプロレスが一番好きなんだよ。わかりやすくいうと、昔の新日本プロレス対UWFのような、肉体と精神のせめぎ合い。それはいまでも変わらないんだ。ただし、そういったいわゆる格闘プロレスを、『PRIDE』が確立されたいまの時代に、どういう方法論で投げかけていくのかっていうことだと思うんだよね。選手をリングに放り込んで、何かが起これば儲けものという感覚で、意味なく、理念なく、理由もなく格闘プロレスをやっても届かないと思うよ。

ガンツ 常識的に考えれば、『PRIDE』が下火になったときに、ようやく浮かび上がるスタイルなんですよね。いまはプロレスでいくら緊張感のある闘いを提供しても、どうしてもそれを上回ってしまう比較対象があるわけで。プロレスの範疇で極限まで魅せたとして、どうしようもない内容と言われた藤田vsボブ・サップのMMAの方がすごいと思われてしまうわけですよ、いまの価値観の上においては。

山口 浮かび上がるということにしても、それはあくまでも昔ながらのプロレスファンの願望であってね。要はプロレスのフォルム自体が変わらない中では、この情報化社会の中で格闘プロレスが再浮上するのは非常に至難の業だと思いますよ、マジな話。

ガンツ 上井さんが成功するには、ズバリ言っちゃうと、プロレスルールの真剣勝負をやるしかないでしょうね。〝I編集長〟（井上義啓氏）がウチで毎号毎号、口を酸っぱくして大胆に提言しているように（笑）。そのプロレスの中でのギリギリの勝負論や技術論やらエンターテインメント性までを盛り込んだ究極の試合は、KOKルールになる直前の田村vsヤマヨシ（山本宜久）だったと思うんですよ。あの試合はUWFが練りに練ってやってきたスタイルの集大成と呼べる素晴らしい闘いだったんですけど、もうその当時から『PRIDE』人気は高くて、その〝格闘プロレスの最高峰〟に注目するファンは後楽園ホールクラスでしかなかったんですよ。あの時点で、しかも極限的な格闘プロレスを見せて、後楽園ホールが限界なんですよ。

山口 これから新しくファンになる人たちが格闘プロレスを見て、「これこそが格闘技！ これが格闘プロレスの魅力だ!!」と認識する確率も低いだろうしね。それならヴァンダレイ・シウバvsクイントン・〝ランペイジ〟・ジャクソンの試合のほうがわかりやすいわけでしょ。「せーの！」でド突き合ってるわけじゃないから、むしろ顔面を腫らしている暇もない闘いなわけだから（笑）。

ジャン ただ、上井さんや前田日明を取り囲むマスコミが〝格闘技に対するプロレスの逆襲〟的な報道をしているから、いらぬ憶測や誤解を生んでいるところもあるんですよね。

ガンツ 〝前田日明〟という名前だけを引っ張ってきて、ニッチもサッチも行かないプロレス界のカンフル剤として注射している風潮にはホントに腹が立ちますね。いままでリングスのことも評価してこなければ、UWFの応援なんかしてこなかったマスコミに何がわかるのか？ってことで。ゴホゴホッ！

山口 『週刊ゴング』なんかその最たるもんでしょ（笑）。まぁ、媒体の方向も変化していくのは当たり前といえば当たり前だから、それについてはクサす必要はないと思うけど、ホントにいいと思ってやってるのかはイマイチよくわからないね。ターザンに乗せられてるだけっていう気もするし。

ガンツ しかも前田の評価の仕方というのが、新日本vsUWFの提携時代だったり、ヒョードルやノゲイラを発掘したとか、リングスのネットワークがどーのとかレベルが本当に低いんですよ。だって、ノゲイラやヒョードルは前田が見つけてきたわけじゃないのは、リングスをよく知る人間だったら誰でもわかることじゃないですか!!

山口 ガハハハハ！ いいじゃねーかよ、前田が連れてきたってことにしといても。リングスは前田日明の団体だったんだから（笑）。

ガンツ 前田に選手を見る目があるとは思えないですよ。だってKOK以降前田が直に見つけてきたのは、ヒカルド・アローナとラバザノフ（・アフメッド）だけですからね。あとは写真1枚とプロフィールだけで、呼んでみたら凄かっただけ。そういう原石を呼べるリングスという〝場〟がノゲイラやヒョードルを生んだんです。リングスをよく知りもしなければ、前田に真っ当な思い入れを持っていなかったマスコミが過剰な幻想を抱いている振りをするのは本当にイヤですね。だから前田日明、上井さん、マスコミ、ファン、全部が全部、同じ方向を向いてないんですよ。旧UWFやリングスのように、ファンやレ

2005.2.5

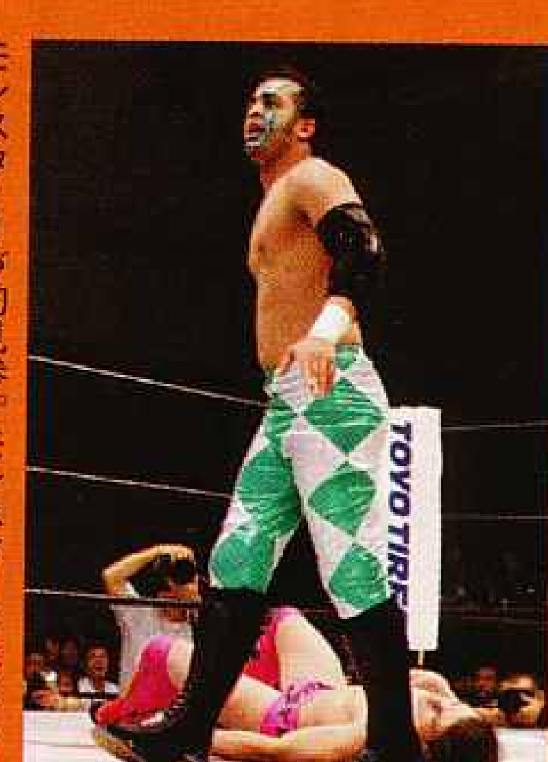
『ハッスル・ハウスvol.4』

後楽園ホール

モンスター軍、怒りの人事異動

DIGEST

クリスマスSP全敗の罪で、アン・ジョーは「これもひとつのSADAME」（総統）とばかりにインリン様の腕M字固めで腕を折られる。ヤドカリはモンスター・ロワイヤルの大失敗で二等兵に降格！



モンスターJが初見参。モンスターCよろしく攻撃するたびに「J！」コールを浴びて人気者になったのはいいけれど、6人タッグで出番がなくても異様に高まるJ人気。「Jを出してくれ！」というファンの願望は叶わぬままにモンスター軍は敗北!!

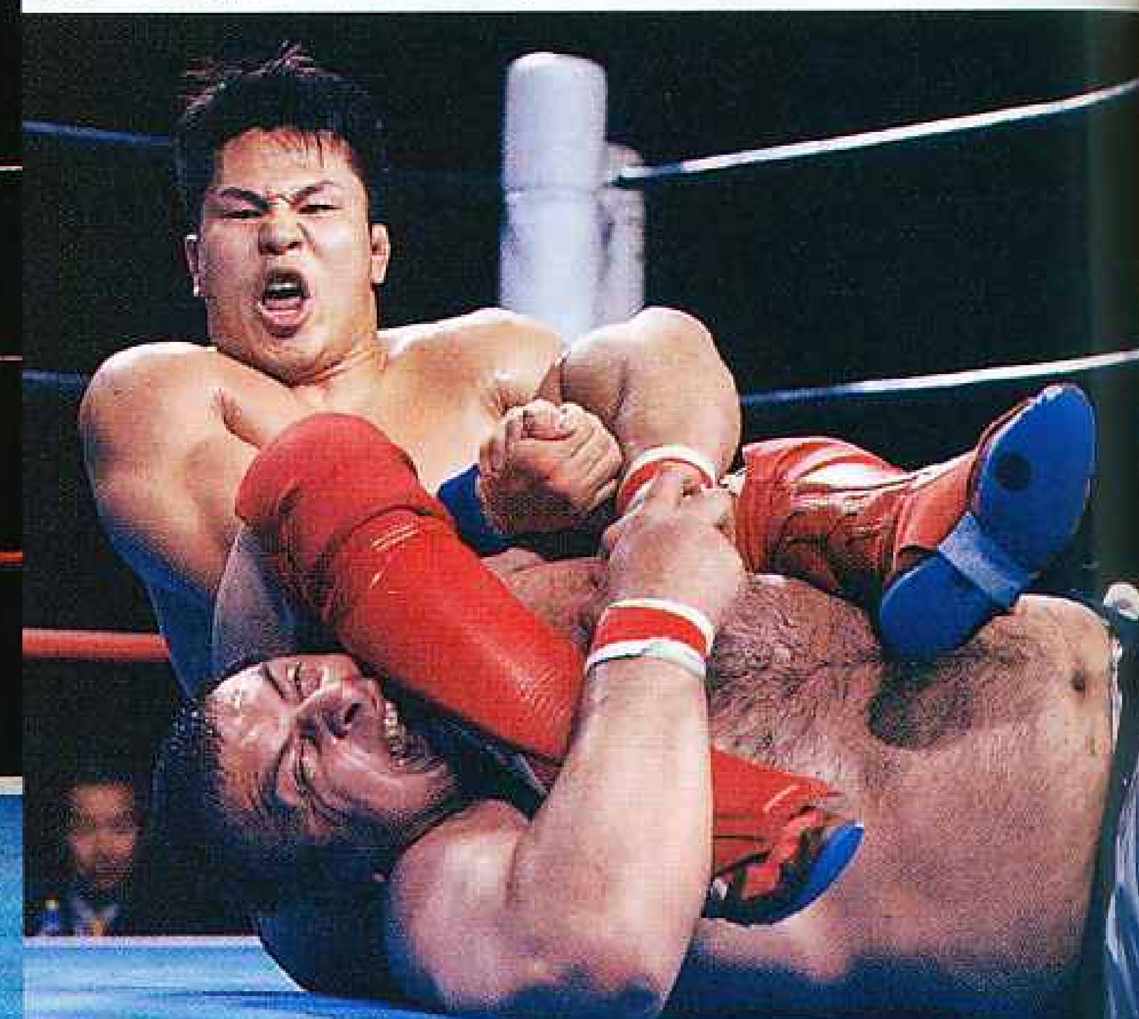


某老舗団体ばりに退屈な内容だったモンスター・ロワイヤルに高田総統が大激怒！ ビジョンから「ストップ！ ドント・ムーブ」と試合を中断させ「わかりにくい！ いますぐオーバーザトップロープ形式のバトルロイヤルをやりたまえ!!」と一喝！



坂田亘の“モンスター軍入り査定試合・その1”。相手は藤井軍鶏侍。“当たれば百発百中”（←当たり前）と豪語する藤井のダイビングエルボーは、今日もやっぱり不発弾。ジャーマンも投げたつもりの自爆男を強烈な延髄キックで坂田は一蹴！





リングスルールでUWFの集大成ともいえるスタイルを構築。末期にはKOKルールを導入。ノゲイラ、ヒョードルら“最強”の称号が相応しい強豪を輩出したリングス。あらゆる側面から高い評価を受けている。前田が協力する“上井プロレス”でこの夢の続きは見られるのか?

前田日明がやりたいことが何なのかハッキリすることが大切（山口）

スラーがガッチリとスクラムを組んでいる美しさがまったく見えてこないじゃないですか。

山口　前田日明がやりたいことがプロレスなのか格闘技なのかハッキリすることが大切になってくるよね。前田日明がやりたいことが明確になれば、マスコミだってやりやすくなる。上井さんのやりたいことは、精神と精神の闘い、思想と思想の闘い、それを〝喧嘩格闘プロレス〟というものに昇華させたいわけでしょ。俺もそういうプロレスはいまだに大好きだから、趣味趣向としては気持ちはわかるんだよ。

ガンツ　それって、いわゆるバトラーツや旧UWFのスタイルじゃないですか？　それがなぜ実行できたかといえば、そこに青春を駆け抜ける青臭いパワーや若気の至り的な情熱があったからなんですよ。もう明日をも考えない一瞬の美しさがあったからこそ、バトラーツや旧UWFは輝いて。だからこそ、長続きはしなかったわけですよ。

山口　言ってみれば、駆けめぐる青春なんだよな、旧UWFもバトラーツも（笑）。前田日明も言ってたけど、UWFという運動体は、まずはプロレスの原点回帰を目指していたわけでしょ。ガス灯時代の粉飾をなくしたプロレスに戻すというコンセプト。関節技と投げと蹴りだけで成り立たせた格闘スタイルのプロレス。前田が目指すその先には、総合格闘技を確立して、〝真剣勝負〟〝スポーツ〟として見られたいという欲求があった。前田の中ではそれがいずれプロレスと切り離されてもよかったんだよ。でも宮戸優光は、プロレスとは切り離さなかった。そこがリングスとUインターの違いになっていった。宮戸優光はいまでも頑として切り離さないけど、髙田延彦は、自分が『PRIDE』に出ることなどによってプロレスと総合格闘技をいい意味で切り離していったじゃない。だけど、切り離してもよかったはずの前田日明がいまになって格闘技を媒介に、プロレスと接点を持とうとしてる。これ、ハッキリ言うけど、前田日明や上井さんは時間軸的な腸捻転を起こしてると思うよ。

ガンツ　状況をよく見てないっていう感じは受けますよね。UWFというのは「プロレスラーは強くなければいけない!!」ということをクソマジメに実践しちゃった人たちなんですよね。そういう部分では上井さんの言ってることも同じなんですけど。

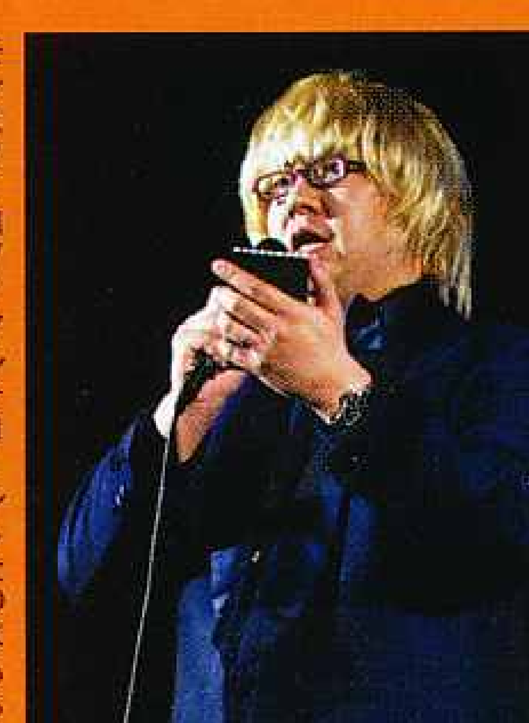
山口　「プロレスラーは強くなければならない」というのは賛成ですよ。でも、その強さを「プロレス」という領域の中でどうやって示していけるのかだよ、いまの時代性の中で……おい、ノブ！　寝てる場合じゃないぞ！

ノブ　（軽いイビキを止めて）お、起きてますよ!!

山口　WWE好きのノブからしてUWFという運動体はどうだったの？

ノブ　ボクはいまも昔もUWFに熱狂したことは一度もないですから（キッパリ）。

山口　いまも昔もそっけないね、オ



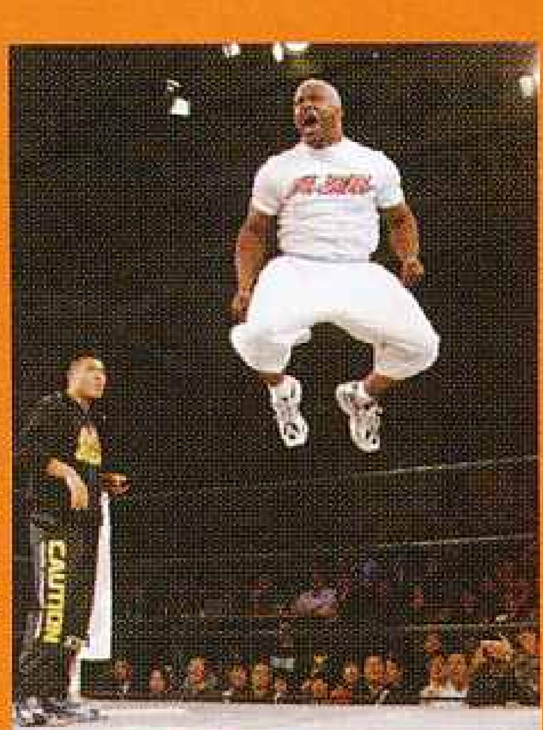
モンスターロワイヤルをコールしたのはもちろん、モンスター軍専属リングアナのタナカ☆ゲロ！　大袈裟な前口上と選手より目立とうとするアスホールな精神は健在だった。なおモンスター軍『ハッスル7』祝勝会は、ゲロが経営する大阪のモンスタースナックで行われたとのウワサ。



〝ハッスルK〟に敗れて引きこもりになってしまったモンスターCが、怒りのビターンを注入されてモンスターC（ドシー）に大変身！（マスクに◯マークが付いた）。攻撃するたびに「ドシー！」と観客からコールを浴びて、ヘッドロックで締め上げたときも「ドシ～～！」とリズム良く。



大谷が髙田総統と初遭遇！「いつも面白いこと言いやがって!!」と絶妙なマイクで挑戦状を叩きつけると、総統は「大仁田君は国会に帰りたまえ！」とハイレベル（?）な切り返し。第2Rが俄然楽しみになった。また、大谷は〝ハッスルあちち〟を襲名！



メイン終了後、モンスター軍から追放されていたランデルマンが電撃乱入！　モンスターたちをちぎっては投げの大暴れ。〝ハッスル・コング〟としてハッスル軍入りすることに。「ソウトウ、チョームカツク!!　ヤル！」とカタコトの日本語で、モンスター軍・打倒をアピール。



いま最も“怖いプロレス”を実践しているリングは、『PRIDE』において他ならない。いまの時代性からいえば“格闘プロレス”はそれと常に比較にされてしまうが、上井プロレスは起死回生の一撃が放てるのか——!?

いまは顔面を腫らしている暇もない闘いがある（山口）

マエは（笑）。

ノブ　それが最近のファンの意見なんじゃないかなぁ。いまさら格闘プロレスって言われても……困っちゃいますよ。

ガンツ　「UWFがいらない」というより、UWFスタイルを見たいなら『U－STYLE』を見ればいいわけなんだよね。あのリングでは田村潔司の名人芸が堪能できる。

それになぜ昔は〝格闘プロレス〟というスタイルに選手やファンが有り余る情熱を注ぎ込められたかといえば、当時は総合格闘技が存在しなかったからですよ。

山口　だからマスコミもファンもその見果てぬ夢に熱狂できたんだよね。

ガンツ　でも、UWF以降、シュートの舞台が次々と生まれてしまった。そうなると必然的に興味はシュートの舞台に移りますよね。で、Uインターなんて格闘技の練習しかしてなかったから、若手は真剣勝負をやりたくなるわけですよ。

山口　田村潔司もプロレスの練習はしたことない。練習はすべて格闘技だよね。田村はなに考えてるかわからないからどう考えていたか知らないけど（笑）、そういう練習をしていれば、それは選手としては腕試しをしたくなるよ。だから、その格闘スタイルのプロレスから、総合格闘技が派生したという一面もあるでしょ。また、一方で地球の裏側のブラジルにはバーリ・トゥードという格闘技があった。プロレスから派生した格闘技と、プロレス文化とは関係のないところから派生した格闘技が激しくぶつかった。それを華やかな舞台に昇華させたものが『PRIDE』だよね。その面白さは、かつてのプロレスファンのニーズをも十二分に満たしてるわけでしょ。上井さんが前田日明を担ぎ出してやろうとしていることがプロレスの範疇であるならば、たぶん俺らぐらいの年代がノスタルジックな気分で見るぐらいでしょ。

ガンツ　ターゲットがかつて新日対UWFに熱狂して、そのうえいまでも『PRIDE』やK－1よりプロレスが大好き!!　という非常に限定された人数なんですよ。

山口　ある意味、30代以上の人に向けてのライフスタイル提唱プロレスみたいな感じだね。「ガキ向けじゃない、骨のあるプロレスをしよう」みたいな。（笑）。

ジャン　そう考えると、かつてのプロレスの価値観を守りたいマスコミが前田日明を祭り上げたい気持ちはよくわかりますね。

山口　でも、当の前田日明がどこまで本気なのかってことでしょ。俺はまったく前田日明が真剣に考えてるとは思えない。精力的に取り組んでるのは上井さんだけじゃないのかなぁ。

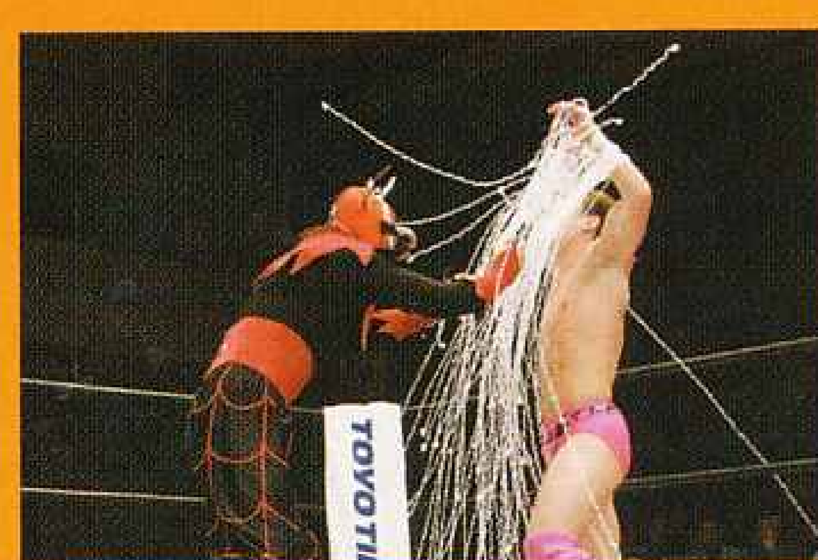
ガンツ　前田日明に本当にやってほしかったことは、それこそ小さいながらも道場を構えて、その辺のゴロツキを集めて格闘技を徹底的に叩き込んで、そして興行を打つなり、もしくはどこかのリングに送り込むことなんですよ。藤原敏男さんみたいになってほしかった。



“ハッスルあちち”に襲名した大谷晋二郎がコスチュームもハッスルモデルに!!　ヒロミ・ゴーの『ゴールドフィンガー』がイントロの入場テーマで、赤いファー付きのロングガウン、ロングタイツ、腕にもヒラヒラと観る者が言葉を失うハデなスタイル!



「J!」「ドシー!」人気者になったモンスターJがモンスターCとドリームタッグ（?）を結成!!　バツグンのコンビネーションで「J!」「ドシー!」のかけ声を誘ったが、敵の金ちゃんも「俺はキンと呼んで!」とその輪に加わった。みんなも叫ぼう♪



マニアの注目を浴びたのがNEWモンスターの鬼蜘蛛。某アメコミヒーローをモチーフにしたかのようなコスチューム。ロープに降ると、そのままロープに絡み付く蜘蛛の習性を意味もなく披露する。スパイダーネットからのローリング・蜘蛛レイドルが必殺技だ。

2005.2.9
『ハッスル・ハウスvol.5』
後楽園ホール

私をインリン様とお呼び! DIGEST

“インリン・ナイト”はインリン様がプロデュース!　「第一ハッスル」の試合名称も「第一インリン」に。大会開始前はバルコニーに姿を現し「モンスター軍が勝ったら…見せちゃおうかな」



山口　ゴロツキっていい響きだね（笑）。素手ゴロ道場でも開いてもらいたい。

ガンツ　で、顧問みたいな立場で、直系の弟子じゃない選手たちの試合を査定するというのは、前田日明ファンの望んでいる姿じゃないですね。

山口　俺もそう思う。俺が知っている前田日明のステージはそこじゃないね。

ガンツ　たとえば、柴田（勝頼）と数人の若手だけで、それこそ昔のバトラーツみたいに極限のバチバチプロレスを後楽園ホールでやるなら話は違いますよ。柴田や若手に徹底的に前田イズムを叩き込む前田日明。それを裏からサポートする上井さん。その関係は美しいじゃないですか。でも、このままいけば、長州vs柴田とか前田イズムとは無縁の世界に入ってしまうことになる。

山口　そこを上井さんの熱意が前田を動かしたところは確実にあるでしょ。ガンツが不満なのは今回の前田日明の行動に、立ち寄りがたいほどの強い信念と理念が見えないってことだろ？

ガンツ　ホントそうなんですよね。かつての前田は「武士は喰わねど高楊枝」的なところがあって、メガネスーパーからものすごい金額で天龍との対戦をオファーされましたけど、それがプロレスだったら闘えないと断ったんですよ。UWFの理想を守るために。それこそ当時の天龍といえば一番バリバリだった時期で、いまで言う〝怖いプロレス〞の体現者だったわけですよ。その天龍戦を蹴った前田が他人のプロレス団体の顧問みたいなかたちで、直接の弟子じゃない人たちの試合を査定することには、大きな違和感を感じますよね。

山口　前田日明が進むべき道は、『PRIDE』か『ハッスル』だと思うけどなぁ。

ガンツ　また唐突に『ハッスル』の名前が出ましたね！（笑）。

山口　いや、唐突じゃないよ。なぜUWFがあれだけのムーブメントになったかといえば、いまガンツが言ったように、理想や理念を真摯に突き詰めていた姿が支持されたわけじゃない。

ガンツ　いわゆるイデオロギー闘争ですよね。

山口　それをマット界全体に投げかけたから、運動体として光ったわけでしょ。で、UWFとはまったく進むべき方向は違うけど、『ハッスル』は『ハッスル』でイデオロギー闘争を投げかけてる。オーちゃんがインリン様にフォールされるんだから、カミングアウト云々の次元の話じゃなく、まさに破壊して創造していってると思うんだよね。いまの日本のプロレス界の旧態依然とした現状から脱出しようと、思い切り針を振ろうとしてるわけ。「激しさ」という観点で格闘技やUWFと比較されると、『ハッスル』は見た目で緩く見えちゃうけど、そもそも「激しさ」という観点で格闘技やUWFと競おうともしてない。ファンの〝モノの見方〞を変えようとする運動なわけで、それはシンドい運動ですよ。でも、うまく転がれば日本のプロレスの価値観の根底を変えられる運動体になれる。で、俺が言いたいのはなにかっていうと、前田が戻ってくるのであれば、かつてのように全身全霊を賭けてイデオロギー闘争の中に加わってこなきゃダメってこと。プロレスに関わるんだったら、プロレスの根っこの部分に触れることをしなきゃ前田日明の特性も活きない。いまの時代性の中では、プロレスの根っこを考えるなら、趣味趣向はともかく、『ハッスル』やWWEは避けて通れないはずだからね。逆に、〝顔面を腫らすようなプロレス〞や、格闘技というものを媒介にするんだったら、ガンツが言ったように道場を開いたり、前田軍団を結成して『PRIDE』に乗り込んで行った方がよっぽどファンはワクワクする。だからズバリ言えば、前田日明のいまの立場は不透明すぎるってこと。

ジャン　そこでやはり気になってくるのは、いまだに前田日明は、プロレスに協力するということに関して、微妙に言葉を濁していることなんですよ。プロレスに戻ることに対して、何か葛藤があるのかなって感じちゃうんですけど。

山口　それはあるでしょ。整合性がなくなっちゃうからね、自分が言ってきたことに対して。というより、自分が言ってきたことが周囲から整合性がないって思われることが嫌なんでしょう。でもさ、整合性を持たせるなら、むしろ『ハッスル』とかに関わったほうが整合性は出るよ。「じつはこれがプロレスだったんですよ」っていうことだから。「でも、格闘技は違う。格闘技は格闘技で『PRIDE』に出る選手を育てる」って言えば、自然に整合性は出てくるよ。前田日明が〝怖くて強いプロレス〞を本気で復興させると言えば、大勢のファンはついてくると思うよ。でも、それは従来のプロレスのフォルムでは実現できえない。何度も言うようだけど、それはプロレスなのか格闘技なのかハッキリさせなきゃダメですよ、いまの時代の中では。リスクを背負ってるのは上井さんだけで、前田日明は何もしてないのが現状なんだから、そこをハッキリしないことには真の意味でファンはついていかないよ。

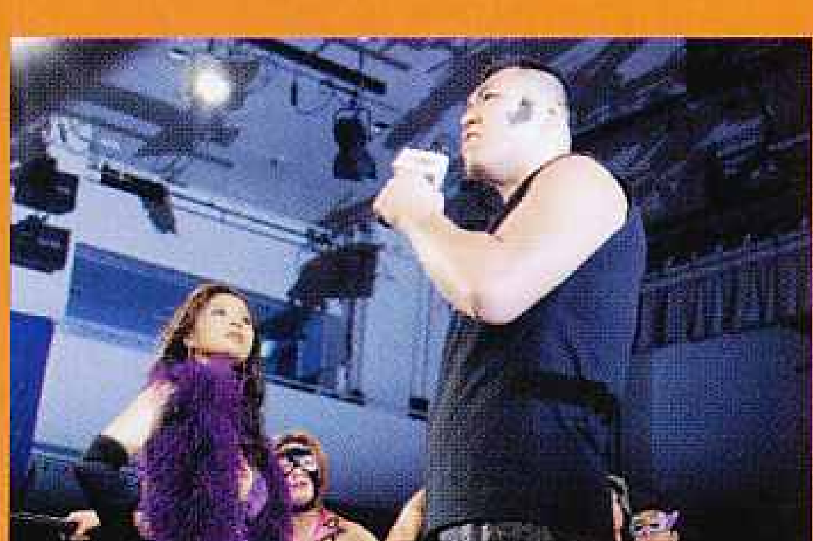
ノブ　ハッキリするということは、要はいまのプロレスを壊さないといけないということなんですよね。プロレスがプロレスとして提示できない風潮があるからこそ、いまのプロレスを壊さないといけない。その方法のひとつが徹底したエンターテイメント化だとは思うんですけど。

山口　ズバリ言えば、『ハッスル』なんかは、もはや〝プロレスとして見せよう〞なんて思っちゃいけないんだよ（笑）。

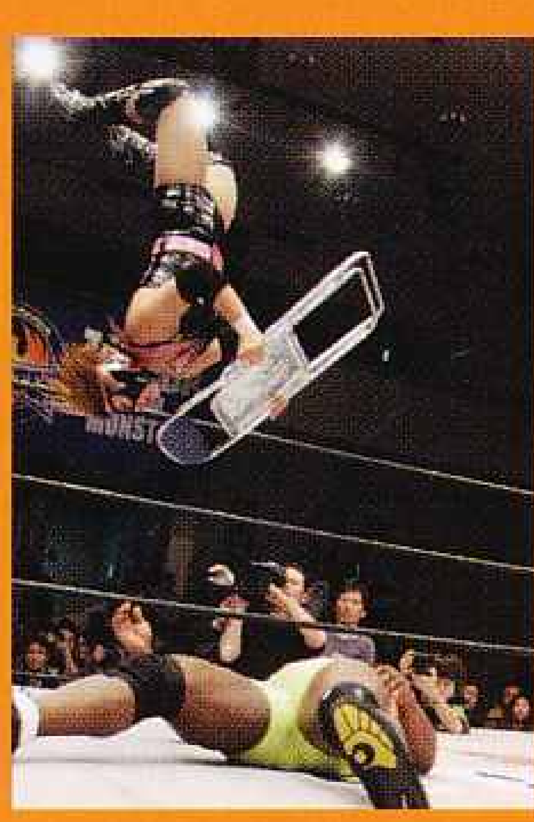
ジャン　でも、どうしても観る方としては、プロレスとして見る視点にならないですか？

ノブ　いや、それが『ハッスル7』の名古屋では、驚くべきお客さんの反応があったんだよね。

山口　名古屋では、いわゆる後楽



全試合終了後、インリン様とキャプテンがにらみ合う。『ハッスル7』前哨戦となったこの舌戦には髙田総統も加わり、モンスター軍が完全勝利！　名古屋でリベンジを誓うキャプテンだったが……。最後はインリン様がM字ビターンで観客を洗脳！



ハッスル軍入りした〝ハッスル・コング〞ランデルマンが「怖くなんかないんだよ～♪　ドンキーコングは友だちさ！」というホンワカとしたテーマ曲で入場。試合はランデルマンが攻撃を受けに受けるハードな内容！　立派なプロレスラーぶりを見せつけた。



坂田亘の更正に、3年ハッスル組のサスケ先生が立ち上がったが、セコンドの軍鶏侍の暴走で反則負け。試合後、坂田は 観客のひとりを指さし「そこのオンナ。俺は強いだろ？　ホレんなよ。（「小池栄子はどうなるんだ」の声に）アレは、アレなんだよ！」。



RIKISHI恒例のダンスのパートナーを客席から募集。ディズニーランド帰りでペアルックを着こんだ痛いカップルがその座を射止めたが、どういうわけか二日目の募集の際にも姿を現し、当たり前のように選ばれる。馬鹿馬鹿しさに観客は「バカップル！」コール！

園ホールみたいに足を引っ張るようなヤジはほとんどなかった。会場がデカイということもあるけど、名古屋には深夜ながらも『ハッスル』がTV中継されてるから、その世界観が浸透してる。たとえばインリン様がムチでキャプテンを打ったり、ムチでキャメル・クラッチ風に首を絞めたりしたけど、あれを後楽園でやっていたら野次で試合が壊れてたかもしれない。後楽園ホールのお客さんは逆に保守的で、プロレスの「見巧者」が多く集まってるから、新しいムーブメントは生まれにくいのかもしれないよね。

ガンツ　『ハッスル』のやろうとしてることは、いまのプロレスで投げかけられるパワーには限界があるから、そこから大幅に逸脱してでも新たなファン層を新規開拓するしかないってことですよね。

山口　うん。前田復帰にしても従来の年寄りのファンは喜ぶと思うけど……。

ガンツ　年寄りのファン（笑）。

山口　そういった年寄りのファンもクスッと笑えるスポットを残しつつ、『ハッスル』はファンの新規開拓をしていけるソフトにしていけばいいと思う。それを本気でやらないからプロレス界は極小の古代遺産みたいになっちゃうんだから。でも、だからこそ3・18両国は、『ハッスル』にとって大きな勝負だよね。いかにして大会場プロレスのあり方をいい意味で壊すことができるのか？　いかにして従来のプロレスとして違う視点で見られることができるか？　8日後の3・26に新日本の両国大会があるし、ポジティブな意味でお互い盛り上がればいいと思うけど。

ジャン　でも、あんまり興行戦争という機運はないですよね。上井プロレスの登場で、カラーが被っている新日本が落ちている部分もあるんだとは思うんですけど。

山口　まぁ、『ハッスル』であろうと上井プロレスであろうと新日本であろうと、これからはプロレスの本質と向き合わなければ生きていけないですよ。で、プロレスの本質ということを考えたときに、2・4&5に来日したWWEはかなり参考になったと思うんだよね。

ノブ　それでもアメリカと比較するとまだまだなんですよね。WWEの脚本家が言ってたらしいんだけど、日本のファンは盛り上がるポイントでは盛り上がるけど、それ以外だと途端にシーンとするからやりにくいらしい。そこは『ハッスル』も同じじゃないですか？

ガンツ　日本は試合が始まると、ホントにシーンとするからね（笑）。

ノブ　紋切り型な言い方になるけど、それは国民性の違いだよね。

山口　でも、それがあそこまで盛り上がるわけだから、WWEに〝モノの見方〟を変えるパワーがあったということでしょ。日本のファンは〝間〟が苦手でしょ。試合の中での〝間〟であったり、イベントの進行に〝間〟が空くと我慢できない。でも、今回のWWEはTV中継に合わせた作りになってたから、たとえば、『PRIDE』やK—1のイベントだったら、あり得ない〝間〟がイベントの中にあったでしょ。それでもいいんだから、やっぱり〝モノの見方〟を変えたんだと思うよね。

ノブ　平気で5分くらいほったらかす。リングアナのリリアン・ガルシアが出てくるまで2分近く空いたりしますからね。普通だったら放送事故かと思うぐらいの〝間〟があったりするわけ。その〝間〟はアメリカの会場だったら何の問題もないんだよ。何でもないときでも客が騒いだり、スタッフと客席が掛け合いをしたり、会場の〝間〟を持たせることにアメリカの客は慣れてるから。

山口　それは試合の中身でも言えるんだよ。リック・フレアーの試合なんて〝間〟しかないでしょ（笑）。

ノブ　リック・フレアーvs〝HBK〟ショーン・マイケルズなんか素晴らしい〝間〟のプロレスでしたね。10分そこそこなんだけど、2人ともなんにもやってないんだよ。なんにもやってないんだけど、すごい沸く！

山口　それでも能動的に楽しませる空間ができてる。そこで日本のプロレスを見て思うのは、ハードヒットをやっているのに報われない事実をどうして直視しないのか？ってことだよ。

ノブ　顔面を腫らすようなプロレスじゃなくても、プロレスは成立すると思うんですよ。それはリック・フレアーのバンプひとつに現れてるじゃないですか？　デッドリードライブを喰らいに、わざわざトップロープ上がることに、みんながリスペクトを込めた拍手する世界。あの動きでプロレスとは何か？　ということが、よくわかりますからね。

山口　まさに格闘技者をリスペクトするのとは違った視点でプロレスラーをリスペクトしてる。たぶん小川直也も、日本のプロレスをその世界に持っていきたいんだと思うよ。いまだレベルは全然追っついてないけどね。その世界を目指すからには、過剰に針を振らなきゃいけない。格闘技なのか、プロレスなのか、どっちつかずのことやってるんじゃいけない。そして、意味もなく理由もなくハードヒットをやってもリスペクトはされないってことだよ。

ジャン　ハードヒットがダメなんじゃなくて、やる意味づけがあればいいわけですよね。

山口　なぜこの人たちは闘わなきゃいけないんだろう？　なんでこの人たちは殴り合ってるんだろう？ということを明確に伝えることができればね。格闘技は〝勝負〟なんだから、勝つために殴り合わなきゃならないのは誰にでもわかる。殴り合う理由が明確にわかってるにも関わらず「つまらない」と言われることが多々あるのに、理由なくバチバチとプロレスやっても、いまはむしろ引かれると思うけどな（笑）。だから、プロレスだからこそ激しくやらなければいけないという理由だけで激しくするんだったら、それはノーだね。勝手なプロレスに対する定義づけをされて、それを見せられ



2005.2.11『ハッスル7』

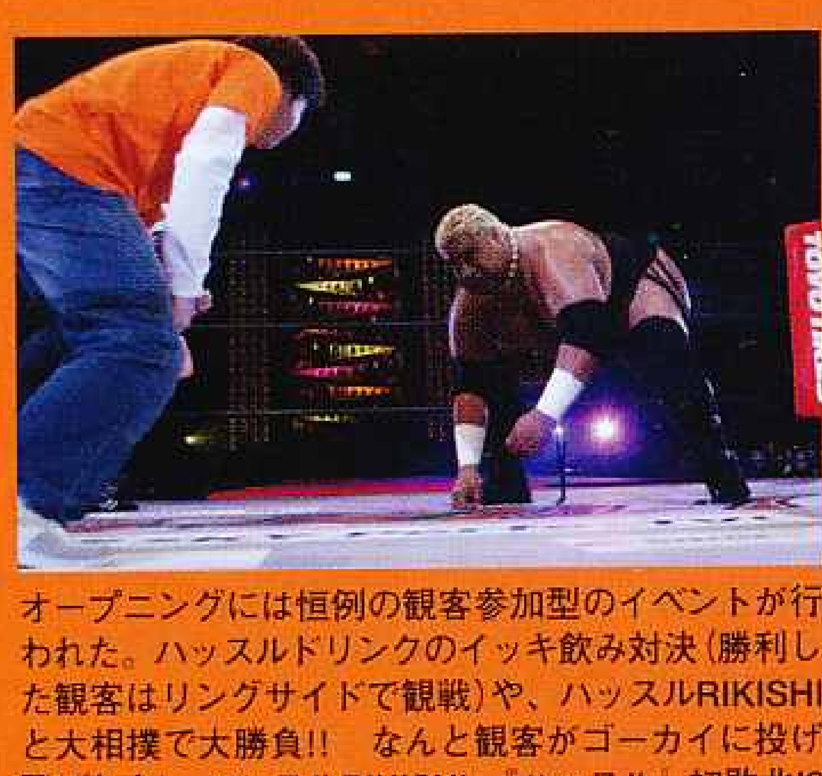
愛知県体育館

柔道銀メダリストvsエロ・テロリストDIGEST

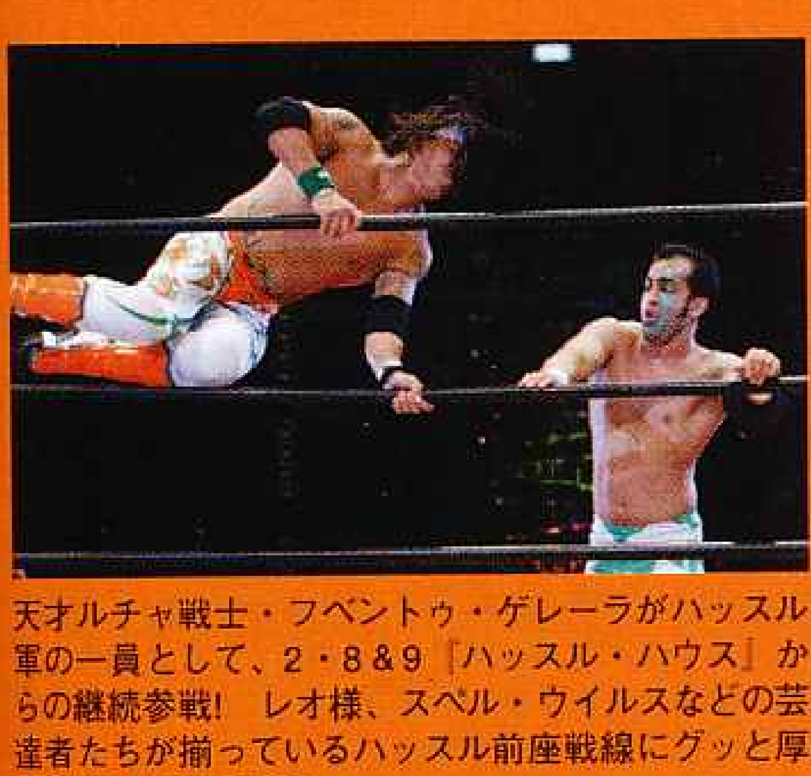
2回目の開催となる愛知県体育館のナンバーシリーズ。前回はジェット・シンの“狂気”が会場を震撼させたが、今回はインリン様の“妖艶”に会場中が夢中になった。



「『ハッスル』だけ見ていればいいんだよ。エーオラ！　アイ・アム・GM!!」生まれ故郷に黒い錦を飾った笹原GM。某老舗団体TOP選手のキャラをパクってるのは明らかだが「完全に私のオリジナルです」とキッパリ否定。



オープニングには恒例の観客参加型のイベントが行われた。ハッスルドリンクのイッキ飲み対決（勝利した観客はリングサイドで観戦）や、ハッスルRIKISHIと大相撲で大勝負!!　なんと観客がゴーカイに投げ飛ばした！　ハッスルRIKISHI、『ハッスル』初敗北!?



天オルチャ戦士・フベントゥ・ゲレーラがハッスル軍の一員として、2・8&9『ハッスル・ハウス』からの継続参戦！　レオ様、スペル・ウイルスなどの芸達者たちが揃っているハッスル前座戦線にグッと厚みが増す存在である。

るほうはたまったもんじゃない。

ガンツ それは昔の新日本も経験してることなんですよね。第二次UWFの人気が出たときに、UWFに追いつかなきゃいけない、より過激なことやらなきゃいけないってことでバチバチやってたんですよ。でも、客足は全然伸びなくて、結局、平成・新日本が巨大になったのはUWFなんか完全無視して、WCWから帰ってきた武藤敬司が大活躍してからなんですよ。武藤が新日本ファンのプロレスの見方をガラっと変えちゃった。ちっとも過激じゃない武藤敬司のセンス、ハイレベルなプロレスが風景を一変させちゃったわけですよ。だから格闘技を意識するより、プロレス的なダイナミズムが必要なんですよね。

山口 じつは90年代の新日本は『ハッスル』してたんだ（笑）。

ジャン 健介がパワーウォリアーになってコスプレしてたし（笑）。

ノブ 90年代の新日本が好きだった人は、『ハッスル』に馴染めるんじゃないかぁ。

山口 俺はいまだに90年代の新日本は大嫌いだけどね（笑）。全体的に中途半端だったから。

ノブ 言われてみると、そんな面白いと思ったことはないんだけど、華やかなリングでしたよね。引田天功のイリュージョンでドラゴンが入場してたんだし。

ジャン そこに猪木さんの格闘技路線が混入されて、ハッキリとした方向性が定まらないまま現在に至るわけですが。専門誌的には、その猪木さんと前田日明との対立構造を売りにしたいらしんですよ。



ズバ抜けた人間力を持ち、身体を全面に張ったものこそプロレスの象徴に相応しい。前田日明というイデオロギーと、髙田総統というイデオロギー。たとえぶつかり合わなくても、その対立構造はたいへん刺激的である。



面白いのは前田が髙田延彦、もしくは髙田の古くからの友人である髙田総統の向こうを張る図式（ガンツ）

ガンツ （あきれたように）猪木vs前田の対立概念なんて誰も興奮しないって。前田と猪木の関係は、頑固親父と不良息子の関係がそのまま大きくなったようなもんで、そんな関係、一生続くんだからさ。一生続く親子ゲンカを大袈裟に語りすぎ（笑）。

ジャン リングに上がって2人が絡めばそれはそれで面白いんでしょうけど、もはや猪木さんって目の敵する存在じゃないですよね。現実的にできることといえば、新日本のカードに口出すことと永久電機への投資ぐらいで。

ガンツ 対立概念として見たいのは、前田が唯一気にしているというか、ジェラシー抱いている髙田延彦しかいないわけじゃない？

山口 時代性からいえば、猪木対前田というより、前田対髙田だろうね。それは俺もそう思う。猪木さんと前田が争ったところで変革は起こらないよな、2人とも言ってることは同じなんだから（笑）。

ガンツ そういう意味で面白いのは、前田が髙田延彦、もしくは髙田の古くからの友人である髙田総統の向こうを張る図式ですよ。

山口 前田日明が『ハッスル』を「老人ホームの学芸会」と言ったけど、老人ホームの学芸会じゃない前田流の極上のエンターテインメントを見せるか、『PRIDE』に前田軍団を率いて乗り込むか、どちらかですよ。

ガンツ とにかく前田対髙田の図式ですよ。そういう対立構造になったら面白いと思うけど、一にも二にも、前田が自分の言葉で、いまの時代性の中で何をやりたいかってことを言わないと。対立構造にはならないですけど。

山口 そうじゃないと、ただの口喧嘩のレベルになるからね。いつものように相手の悪口を言っただけで終わっちゃたら、一部のファンはそれで喜ぶかもしれないけど、それこそ前田の株を下げるだけだと思うし、俺らが前田日明に望んでいるハードルはそんなに低いものじゃないです。

チョロ （唐突に入ってきて）ヒャヒャ！ 会長、聞いてましたよ。前田日明の悪口ですか？（笑）。

山口 いきなり出てくるなよ、オマエは。

チョロ ウヒャヒャ！ プロレスに関わる動機が見えない前田と長州が接点を持ちそうなのは合点がいきますね。

山口 は？ どういうことだよ。

チョロ 「なぁ～にがやりたいんだ、コラ!!」

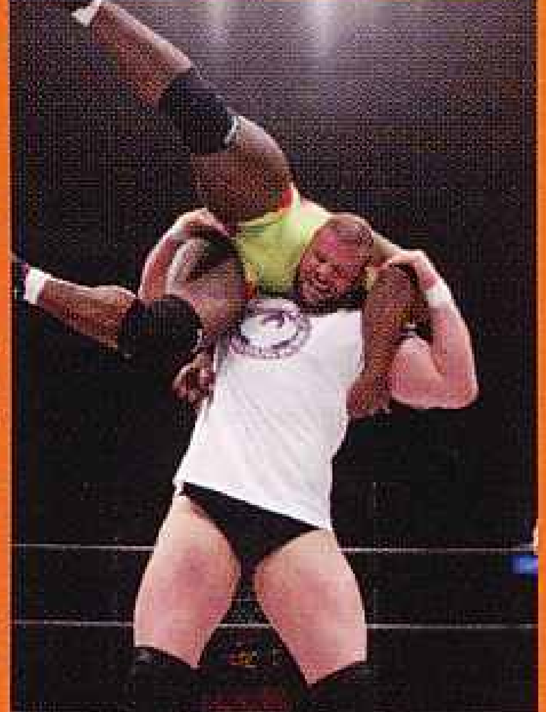
山口 …………。

チョロ あれ、面白くないですか？ じゃあ、上井プロレスはフリーランサーの集まりだけに、老人ホームならぬ浪人ホーム！ ウヒャヒャ！

山口 オマエはいいな、いつまでもドリフにおけるスワ・シンジみたいな役割で。誰かさ、こいつクビにしといて！

【2月某日／編集部にて収録】

“ストロング・スタイルの化身”NJPWに改造ビターン！ ナゴヤジョーパワフルウォリアーに生まれ変わった！（NJPWの略称は変わらず）。名古屋は織田信長を生んだ土地だけに「天下を取り損ねた男になるなよ」と総統。「できんのか!? ダッ！」と魔魂ビンタを炸裂させた！





「なぁにが！ なぁにが！ なぁにが！ なぁ～にがやりたいんだ……何コラ、タココラ!!」という新たなに編集された長州の煽り映像に会場は大爆発！ 田中の白いギターを奪って黒田の脳天に一撃！ 長州と白いギターというロマンチックな組み合わせにカンゲキ！



「バカップルはどうした～!?」という野次も飛んだ、ハッスルRIKISHI恒例のダンス。さすがのバカップルも名古屋は遠かった？ 今大会も選ばれた観客と、そしてRIKISHIがリングサイドのケイ・グラント兄貴を指名！ ノリノリで踊ってくれたケイさんでした。



ハッスル軍提供試合のハッスル・ハードコアは、長州力&金村キンタロー&石井智宏vs高岩竜一&田中将斗&黒田哲広。子どもたちを引き連れて、ブリクラダンスを踊る金ちゃん。試合では2階席からダイブ!! 強烈!

強くあれ、NJPW!!

RADICAL PRESENT



HUSTLE

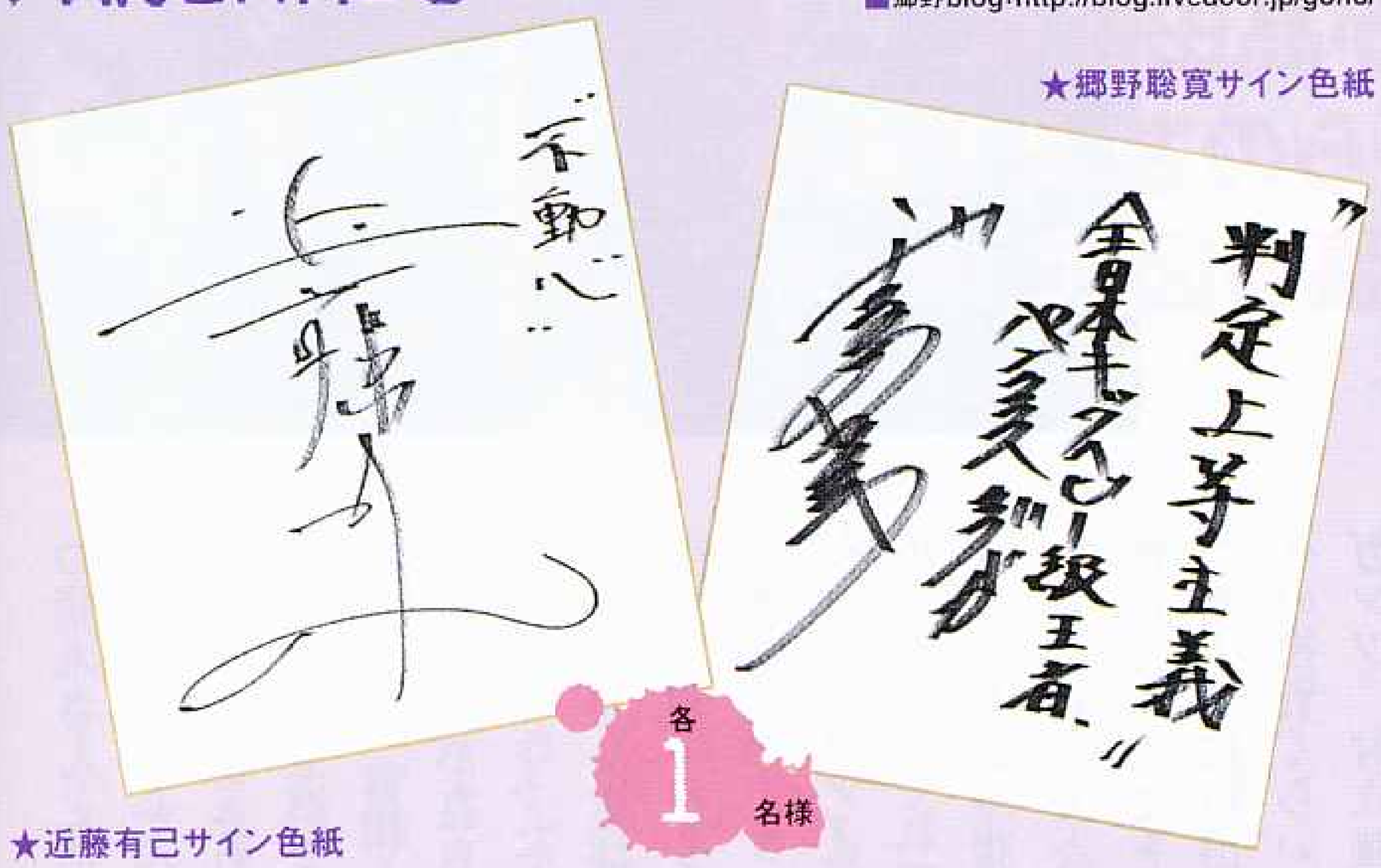
『ハッスル8』目前! 衝撃のプロレスデビューを飾ったインリン様Tシャツで会場を練り歩け! M字ビターン!!【DSE提供】
■HP:http://www.hustlehustle.com/

★インリン様デビューTシャツ
¥3990(税込)/S~XL/ブラック

★New Jarsey Powerful WarriorTシャツ
¥3990(税込)/S~XL/ホワイト×パープル

PANCRASE

いま、パンクラスでもっとも勢いのある二人のサイン色紙をプレゼント! 両者の再戦はあるのか?【近藤&郷野提供】 ■HP:http://www.pancrase.co.jp/
■郷野blog:http://blog.livedoor.jp/gono/



★郷野聡寛サイン色紙

★近藤有己サイン色紙



★ハッスルI Tシャツ
¥3990(税込)/XS~XL/ブルー

★ハッスルなでしこHikaruTシャツ
¥3990(税込)/XS~XL/レッド



★高田モンスター軍マフラータオル
¥2100(税込)

WAP

プロレス馬鹿Tシャツがショアッと登場! プレゼントはLサイズ。重度のヘルニアを患いながらも3月14日のWAP下北沢大会来場を宣言した"PB"剛。このTシャツを着てマット界復帰をバックアップしよう!!(大会の詳細はP116からの情報ページで)【WAP提供】



★GOGO Tシャツ ¥3000(税込)/M~XL
■TEL:レッスルエイド・プロジェクト事務局 03-5456-7700
■HP:http://www.wrestle-aid.com

LEGLOCK

IWGP&三冠ヘビー級王者・小島フィギュアが発売中! コジマニアなら両方揃えて当たり前だバカヤロー!!【レッグロック提供】



★ムタZIPパーカー
¥6300(税込)/M~XL

★小島聡フィギュア ¥2100(税込)
01.仮面ver. 02.コスケver.
■TEL:レッグロック 03-3234-0969
■HP:http://leglock.nifty.com/

DESTROYER



★ザ・デストロイヤー スーペニアマスク ¥3990
"白覆面の魔王"ザ・デストロイヤーの直筆サイン入りマスクをプレゼント! 現在、アマチュア・レスリングを通じて日米の親善に尽力しているデストロイヤー。その活動の模様は下記のアドレスで。
【デストロイヤー公式サイト】■HP:http://www.thedestroyer.com/
【N.P.O.Figure Four Culb】■HP:http://www.ffc-online.org
【プロ格本舗バトルロイヤル】■HP:http://www.battleroyal.jp

SHINJUKU FIGHTER



★BADBOY ステッカー

★ブルース・リーポスター

★アントン総帥 サイン(レプリカ)

3月12日オンエアの『出没! アド街ック天国』(テレビ東京)に多くの格闘家が集う名所として新宿ファイターが登場! 要チェキ!!
【格闘技ショップ 新宿ファイター提供】
■TEL:03-3354-1903
■HP:http://www13.ocn.ne.jp/~fighter/

SHINASHI



★SS SAMBO Tシャツ
¥3990(税込)/XS~XL/ピンク

★しなしさとこ写真集
¥3500(税込)

人気急上昇中の毒舌サンボ姫しなしさとこのセクシー写真集を、サイン&ニューポストカード付きでプレゼント! 絶賛発売中のART JUNKIE製しなし公認Tシャツの問い合わせはGROUND COBRAまで。【DEEP&ART JUNKIE提供】
■TEL:GROUND COBRA 092-711-1021(10:00~20:30)
■HP:http://artjunkie.jp ■しなし公式HP http://shinashi-satoko.com/

HARDCORE



★オール怪獣大進撃
¥3675(税込)/チビ、S~L/ブラックorグリーン

ハードコアチョコレートも参加する『Tシャツ・ラブ・サミット』が開催決定! インディブランドが80団体以上、並ぶTシャツは2000種類という、日本最大規模の展示即売会だ。開催日は4月30日&5月1日の2DAYS。入場料はなんと100円! P116からの情報ページor下記HPをいますぐチェック!!【ハードコアチョコレート提供】
【Tシャツ・ラブ・サミット公式サイト】
■HP:http://www.t-lovesummit.com
【ハードコアチョコレート】
■住所 東京都世田谷区北沢2-12-2 ミナナミコーポ206
■TEL:03-5481-3561 ■HP:http://hardcore.hp.infoseek.co.jp/

HAKUMEIKAN



セットで 3名様

★璞名館タオル

★璞名館Tシャツ

中嶋くんの師匠・武内惣が代表師範を務める璞名館のTシャツ&タオルをゲット！　前田日明とも親交のある武内師範とは一体何者か？　注目のインタビューはP57から【日本空手道 璞名館提供】
■HP:http://www.go-web.jp/hakumei/

CD

3名様



★『爆走! マグナム・スピード・ダンス』
¥2250（税込）

人気シリーズ『刑事魂』の海外版が登場！　凄腕刑事や敏腕スパイが大活躍した海外ドラマ&映画のテーマ曲をage感タップリにチューンナップ!!　【ユニバーサル ミュージック提供】
■HP:http://www.universalmusicworld.jp/

GAME

PS2用の忍者アクションゲーム『紅忍 血河の舞』が3月3日、遂に発売！　主人公のセクシーくの一"紅"が、豊満ボディで荒くれの武士どもを油断させ、しまいにゃ忍の技で残酷にブッ殺す！　愚息昇天間違いなしのセクシー&バイオレンスゲームの決定版だ！
【ビベンディ ユニバーサル ゲームズ提供】





1名様

★『紅忍 血河の舞（れっどにんじゃ けっかのまい）』
¥7140（税込）3月3日発売
©2005 Vivendi Universal Games,Inc.
■HP:http://www.redninja.jp

BOOKS

3名様



★『プロレス、K1、PRIDE、「禁忌（タブー）」の読み方』
格闘技探偵団十亀井誠・著　¥1470（税込）

謎のライター集団"格闘技探偵団"（notバトラーツ）が迷走気味に解き明かす、プロレス&格闘技業界のアンタッチャブルなタブーの世界！
【日本文芸社提供】
■HP:http://www.nihonbungeisha.co.jp/

3名様



★『新アメリカンプロレス大事典』
アメプロ事典編纂委員会・編　¥1680（税込）

『アメプロ大事典』の第2弾が登場！　WWEのスーパースターたちのプロフィールはもちろん、名言、事件、人間関係も完全網羅!!
【廣済堂提供】
■HP:http://www.kosaido.co.jp/

3名様



★『プロレスラー 荒ぶる言霊』
服部心護・著　¥1300（税込）

44人のレスラー及び関係者の名言or迷言を集めたお得な一冊。全143ページ中、マサ斎藤がブッチ切りで30ページを独占。やっぱりマサが好き！【九天社提供】
■HP:http://www.9-ten.co.jp/

3名様



★『ジャイアント馬場 王道ミュージアム』
¥2300（税込）

馬場さんが亡くなって早くも7年。元子夫人の回顧とともに、馬場さんの愛用品、秘蔵プライベート写真の数々をドドンと大公開！
【エンターブレイン提供】
■HP:http://www.enterbrain.co.jp/

5名様



★『音楽と意図』
ターザン山本！・著　¥1575（税込）

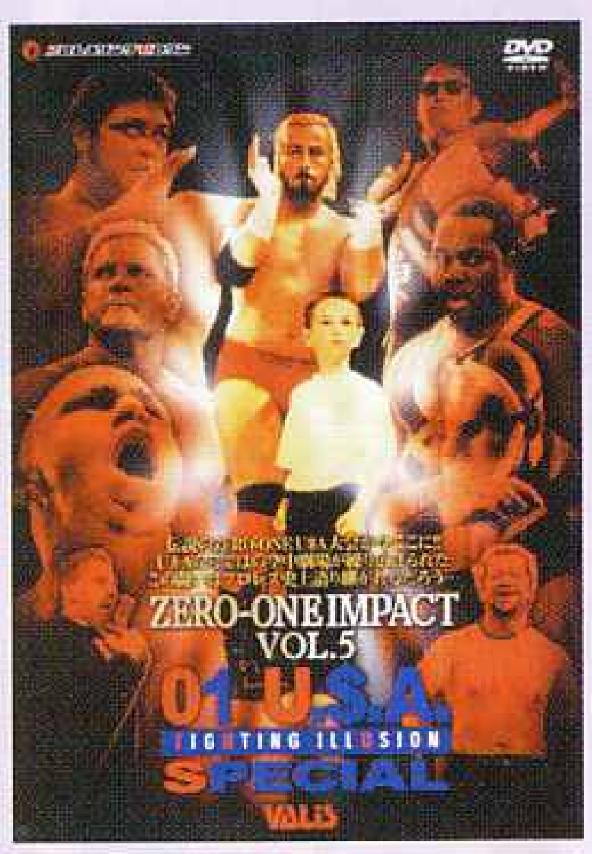
ターザンがヒット曲を斬りまくる『サイゾー』の人気連載『音楽独談』が遂に単行本化！「プロレスセンスを身に付けたら、どんな業界でも通用するんですよォ！」（ターザン）【インフォバーン提供】
■HP:http://www.ultracyzo.com/

VALIS

"謎のモンゴル人レスラー"ハシフ・カーンが登場するゼロワン、キチ●イデスマッチ連発の大日本、特選シングルマッチを集めた新日本のDVDをそれぞれ3名様に!!【ヴァリス提供】■TEL:ヴァリス　03-5342-2681



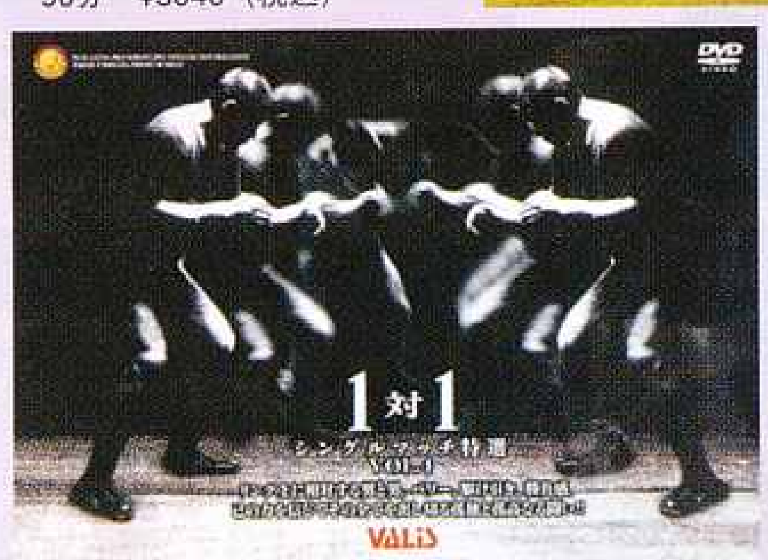
★『大日本プロレス 地獄の死闘vol.5』
90分　¥5250（税込）



★『ZERO-ONE IMPACT vol.5』
100分　¥3990（税込）



★『新日本プロレス 1vs1 シングルマッチ特選 vol.3』
90分　¥5040（税込）



各3名様

★『新日本プロレス 1vs1 シングルマッチ特選 vol.4』
90分　¥5040（税込）

J-ROCK



1名様

★『吉田秀彦 闘いの軌跡 TAKE OFF vol.2』
97分　¥5040（税込）

吉田秀彦の激闘を収録したDVDをゲッツ！　ヴァンダレイ・シウバ戦、ホイス戦、ハント戦、ガードナー戦の他、、Gacktならずとも気になる吉田の独占プライベート映像も同時収録!!
【ジェイロック提供】
■TEL:ジェイロック　03-3414-9000
■HP:http://www.hidehiko.jp

応募要項

応募券

①郵便番号・住所・電話番号
②氏名 ③年齢・職業
④希望商品
⑤面白かった記事&その理由
⑥つまらなかった記事&その理由
⑦前田日明プロレス界復帰に望むこと
⑧一番好きなレスラーとその理由

【宛　先】
〒151-0051
東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6
パレ・ジュノ2F　（株）ダブルクロス
『紙プロRADICAL』編集部
「猪木流催眠術」係まで

※締切は2005年3月25日（金）当日消印有効

QUEST

"936連勝"ルー・テーズ、"忍者"初見良昭、"琉球王家秘伝武術継承者"上原清吉……幻想溢れるラインナップに、見る前からお腹いっぱい！【クエスト提供】
■TEL:03-3360-3810　■HP:http://www.queststation.com/

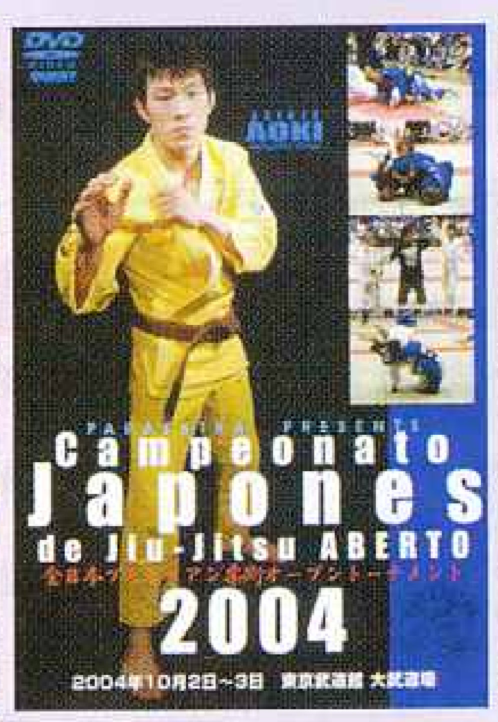
各1名様



★『上原清吉 琉球王家秘伝武術 本部御殿手』
45分　¥5880（税込）



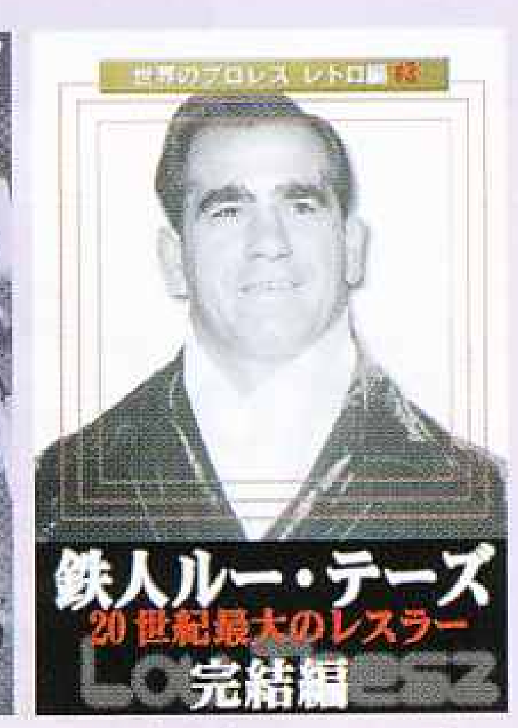
★『武神館14 大光明祭2004 -武道の源-』
204分　¥5880（税込）



★『ブラジリアン柔術 全日本オープン2004』
220分　¥5880（税込）



★『BLACK BELT GP』
120分　¥5880（税込）



★『鉄人ルー・テーズ 完結編』
100分　¥5880（税込）

『紙プロ』通販方法

★通販はすべて代引きです。お支払いは、現金、デビットカード、クレジットカードの中から選べます。
★全国どこでも送料一律500円です。（何枚でも可。離島・山岳部の方はお問い合せ下さい）
★代引き手数料は315円です。（代引き金額によって異なります）

『紙プロHand』でご注文の場合

詳しくは『紙プロHand』の通販コーナーをご覧下さい。ご注文後、確認メールを送りますので注意してご覧下さい。

電話でご注文の場合

平日15:00〜22:00
(株)ダブルクロス 03-5368-1797

メールでご注文の場合

郵便番号、住所、氏名、電話番号(携帯)、商品名、サイズ、枚数、年齢を書いたメールを
kapra@kamipro.com
までお送り下さい。申し込みメール確認後、佐川急便にて発送いたします(確認メールはいきませんのでご了承下さい)。

ハッスル&紙のプロレス コラボグッズ

第1弾 髙田総統グッズ





「ビビったか? たじろいだか?」Tシャツ
[S・M・L・XL ブラック／ホワイト] ¥3990（税込）



「BITAAAAN!」Tシャツ
[S・M・L・XL ホワイト] ¥3990（税込）



「BITAAAN!」メッシュキャップ
[ブラック／パープル] ¥3150（税込）



「髙田総統」フェイスタオル
¥2100（税込）



「ビビったか? たじろいだか?」ナップザック
[ブループリント／オレンジプリント] ¥2100（税込）

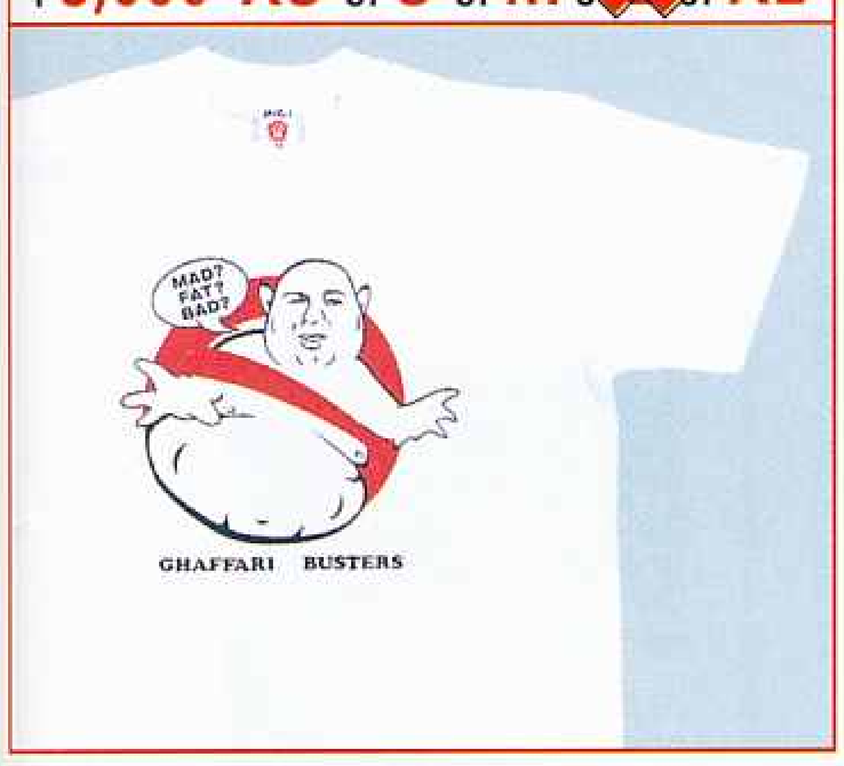
第2弾 笹原GM「SHUT UP!」Tシャツ

（ラグラン七分そで）



[S・M・L・XL ホワイト×レッド] ¥4200（税込）

ガファリ・バスターズTシャツ〈ホワイト〉
¥3,000 XS or S or M or SOLD OUT or XL



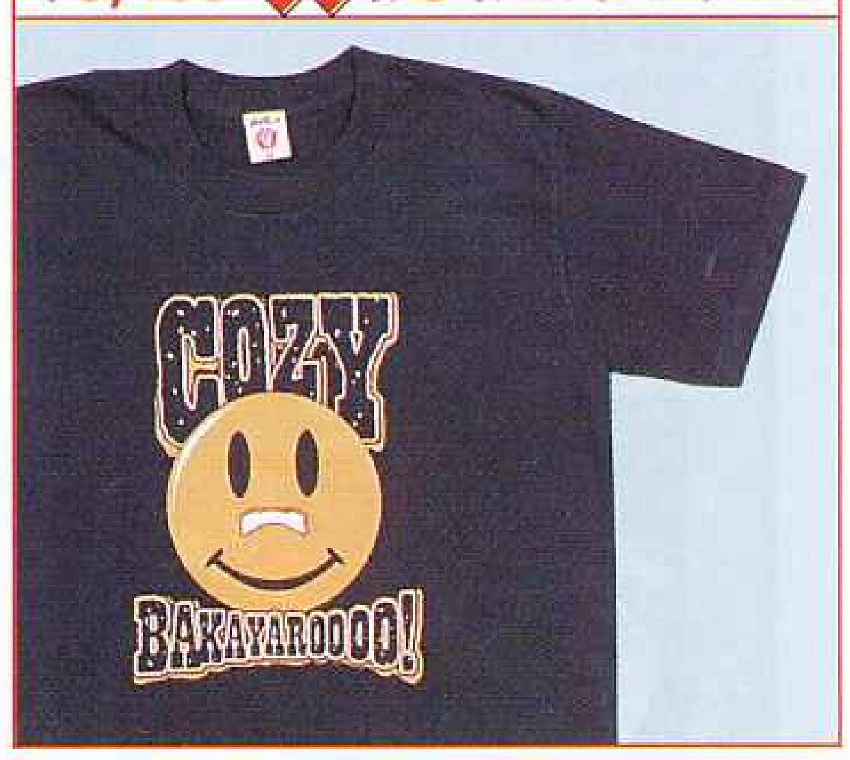
マット・ガファリTシャツ〈キナリ〉
¥3,500 S or M or L or SOLD OUT



『カズ・H』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL



『COZY BAKA』Tシャツ〈ブラック〉
¥3,465 SOLD OUT or S or M or L or XL



ニットキャップ〈ネイビー&ブラック〉
¥1,500



トートバック〈ブラック〉
¥1,500



田村潔司WHO ARE U Tシャツ〈ホワイト〉
¥3,800 S or M or SOLD OUT or SOLD OUT



赤いキャップの頑固者Tシャツ〈レッド〉
¥3,800 S or M or L or XL



紙のプロレス RADICAL
No.84
2005年3月25日発行
No.85は3月28日(月)発売予定!
※地域によっては多少発売日が遅れます。

STAFF

編集兼発行人
山口日昇
編集スタッフ
堀江ガンツ
ジャン斉藤
斉野もみじ
上杉秀人（新人）
八木賢太郎
（ハッスル8に備えて非番）

終身名誉バイザー
吉田豪
助っ人
ジャイ子
電気部
さささぃ
松澤チョロ
パンフ職人
スモーノブ

アートディレクター
出田さん(TwoThree)
デザイン
ヒサくん
マツくん
タニやん
ブンちゃん
ノグッチー
しらき（以上TwoThree）
トメさん
はなえちゃん
黄川田洋志（以上さおとめの事務所）

カメラマン
森鷹博
戸成嘉則
松本崇
丸山剛史
吉場正和
福島勝儀
菊池茂夫
黒田史夫
試合写真
平工幸雄
乾晋也

お勘定&衣料部
林“ヘックション”一枝
体調
プリン体・入江(TwoThree)
印刷
図書印刷株式会社
印刷人
大杉すぎすぎ昌也
前田昌一

ハッスル グッズも好評発売中!!

高田モンスター軍



島田参謀長ヤドカリTシャツ
[S･M･L･XL　ブラック]
¥3990(税込)



アン･ジョー司令長官Tシャツ
[S･M･L･XL　ブラック]
¥3990(税込)



New Jersey Powerful Warrior Tシャツ
[S･M･L･XL　ホワイト×パープル]
¥3990(税込)



インリン様デビューTシャツ
[S･M･L･XL　ブラック]
¥3990(税込)



モンスター軍
ストラップ&キーホルダー
各¥1050(税込)



モンスター軍
マフラータオル
¥2100(税込)



高田モンスター軍Tシャツ
[S･M･L･XL　ホワイト／ブラック] ¥3990(税込)



ビターンTシャツ
[S･M･L･XL　ホワイト／ブラック] ¥3990(税込)

ハッスル軍



ハッスルパーカー
[M･L･XL　ブラック] ¥7350(税込)



ハッスルプロレスラーパーカー
[M･L･XL　アッシュグレー] ¥7350(税込)



ハッスルなでしこHikaru Tシャツ
[XS･S･M･L･XL　レッド]
¥3990(税込)



ハッスルI Tシャツ
[XS･S･M･L･XL　ブルー]
¥3990(税込)



ハッスルK Tシャツ
[S･M･L･XL　ブラック]
¥3990(税込)



ハッスルメッシュキャップ
[ブラック／レッド／イエロー／ピンク／ブルー／グリーン]
¥3150(税込)



残りわずか!

ハッスルロゴTシャツ
[XS･S･M･L･XL　ホワイト／ブラック／イエロー／レッド／ピンク／ブルー／グリーン／オレンジ]
¥3990(税込)



ハッスルフェイスタオル
[ブラック／イエロー]
¥2100(税込)



ハッスル
ストラップ／キーホルダー
各¥1050(税込)



ハッスルリストバンド
[ホワイト／イエロー／グリーン／ピンク／ブラック／オレンジ]
¥1050(税込)



ハッスルホログラムステッカー
¥1050(税込)

通販完売商品は直販店にある!?
【『紙プロ』ウェア常備ショップ】
★チャンピオン(TEL.03-3221-6237)　★W.F.GENE.(TEL.03-3316-5003)　★リングソウルZ神戸(TEL.078-393-3514)★宮城・スクワット(TEL.022-227-0891)
★大阪・少年ジェッター(TEL.06-6541-3551)　★福岡天神ビブレGROUND COBRA(TEL.092-711-1021)★浜松市・Buddy(TEL.053-450-7888)

紙のプロレス RADICAL WANIMAGAZINE MOOK 264 2005 NO.84
“大会場プロレス”を変える! 3・18ハッスル両国発進!!
平成17年3月25日発行 編集発行人／山口日昇
発売元：(株)ワニマガジン社 〒160-8580 東京都新宿区内藤町1番地 電話／03-3357-2911
発行元：(株)ダブルクロス 〒151-0051 東京都渋谷区千駄ヶ谷5-16-6 パレ・ジュン2F 電話／03-5368-1795
ワニマガジン社 定価：本体838円+税

9784898297445
ISBN4-89829-744-7
C9476 ¥838E
1929476008381
雑誌 69860―64

印刷：図書印刷株式会社